

千歳市

キウス5遺跡(9)

—道央圏連絡道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

キウス5遺跡(9)

—道央圏連絡道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



平成18年度 擦文文化期竪穴住居跡調査状況（北東から）



基本層序 25-45区 (北から)



UH-4 カマド土層断面 (北西から)



UH-4 カマド球胴甕出土状況 (北西から)



UH-4 把手付土器出土状況 (北東から)



UH-8 床面遺物出土状況（東から）



UH-8 壺・坏出土状況（東から）



UH-8 鉢出土状況（南東から）



UH-8 高坏出土状況（南東から）



Ⅶ群土器



Ⅴ群土器

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成15・16・18～21（2003・2004・2006～2009）年度に実施した、千歳市キウス5遺跡台地部の埋蔵文化財発掘調査報告書（『千歳市 キウス5遺跡（9）』北理調報284）である。その対象は、キウス5遺跡台地部第Ⅰ黒色土層（縄文時代晩期～弥生文化期）の遺構・遺物についてのものである。

なお、台地南側の低位部は平成15・18（2003・2006）年度に調査し、平成19（2008）年度に『千歳市 キウス5遺跡（8）』（北理調報251）を刊行している。

2. 当該事業によるキウス5遺跡の調査報告書としては2冊目であるが、当センターでは平成7（1995）年度～平成11（1999）年度に、日本道路公団札幌建設局（当時）による北海道横断自動車道（千歳夕張間）建設工事に伴い、本遺跡を発掘調査し報告書を7冊刊行している。当報告書名は、同じ遺跡の発掘調査報告書の連番である「（9）」を付し、当センターにおけるキウス5遺跡の9冊目の調査報告書とする。
3. 本書で報告する遺構は基本的に第Ⅰ黒色土層のものであるが、縄文時代晩期後半の土器集中が第Ⅰ黒色土層と、樽前c降下軽石・スコリア層下位の第Ⅱ黒色土層で確認されたので、縄文時代晩期後半の遺構・遺物も本書で報告する。
4. 本書の執筆は付篇1・2・3を除き、三浦正人・愛場和人・末光正卓・広田良成が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光・広田が行った。
5. 写真撮影は、平成15・16・18年度は菊池慈人、平成19～21年度は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は菊池が行った。
6. 土層中の火山灰の対比は、第1調査部第1調査課 花岡正光が行った。
7. 自然科学的分析の内容と依頼先機関は、次のとおりである。

黒曜石製遺物原産地同定：京都大学原子炉実験所

放射線炭素年代：(株)加速器分析研究所

炭化材樹種同定：(株)パリオ・サーヴェイ

8. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた。（順不同・敬称略）
北海道教育庁生涯学習推進局 文化・スポーツ課 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター
恵庭市郷土資料館 厚真町教育委員会 苫小牧市博物館
千歳市教育委員会：大谷敏三（当時）・田村俊之（当時）・高橋 理・豊田宏良・松田淳子
恵庭市教育委員会：松谷純一（当時）・上屋真一・森 秀之・長町章弘
厚真町教育委員会：乾 哲也・奈良智法・小野哲也（当時 現 標津町教育委員会）
平取町教育委員会：森岡健治
札幌市埋蔵文化財センター：仙庭伸久
北海道北方博物館交流協会：野村 崇

記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。
樽前c 降下軽石・スコリア層より上位の第I 黒色土層のものは「U」、下位のV層・VI層の遺構は「L」とし、次に記す遺構種別ごとのアルファベット記号を組み合わせた。
H：住居跡 P：土坑 SP：小土坑（柱穴状ピット） F：焼土
PS：土器集中 S：礫集中 N：粘土集中
2. 遺構図の縮尺は40分の1、遺物出土状況図は20分の1、地形測量図は任意の縮尺で、各図にスケールと方位記号（座標北）を付した。なお、遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・（ドット）と数値」は、その地点の標高（m）を表す。
3. 調査区の南北基線の方向角は、 $11^{\circ} 19' 40''$ で、座標北から東へずれる。
4. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。
復原土器：4分の1 拓本土器：3分の1 土製品：2分の1
剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1 石製品：2分の1
鉄製品：2分の1
6. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。一部破壊されているものは現存する計測値を（丸括弧）で示した。
住居跡・土坑：確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深（m）
焼土：分布範囲の長径×短径/最大厚（m）
遺物集中：分布範囲の長径×短径（m）
7. 遺構図の出土遺物分布については、下記の記号を使用した。
黒塗記号：覆土出土 白抜き記号：床面直上・床面出土
●：土器 ○：土器
▲：剥片石器 △：フレイク
■：礫石器 □：礫
層位区分なし
×：土製品 ☆：金属製品

目 次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

I 章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	2
3. 調査の経緯	3
(1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事	
(2) 遺跡範囲確認調査の実施	
(3) 平成13年度以降のキウス地区の発掘調査	
(4) キウス5遺跡の各年度調査の経緯	
4. 調査結果の概要	9

II 章 遺跡の立地と環境

1. 位置と立地	13
2. 地形と地質	17
3. 近現代の環境変化	19
4. キウス遺跡群	22

III 章 調査の概要

1. 発掘区の設定	35
(1) 調査グリッドの設定	
(2) 年度ごとの調査区	
2. 基本層序	38
(1) 基本層序	
(2) 土層断面図	
3. 調査の方法	42
4. 整理の方法	44
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類	48

IV章 遺構と出土遺物	
1. 概要	49
2. 住居跡	49
UH-1 UH-2・3掘り上げ土 UH-2 UH-3 UH-4	
UH-5 UH-4・5周辺遺物出土状況 UH-7 UH-8 UH-9 UH-10 UH-11	
3. 土坑	109
UP-16 UP-17 UP-18	
4. 柱穴状ピット	113
USP-40~42	
5. 焼土	113
UF-1 UF-2 UF-3 UF-4 UF-5 UF-6	
6. 土器集中	117
(1) III層の土器集中 (UPS)	
UPS-1 UPS-2 UPS-3 UPS-4 UPS-5 UPS-6 UPS-7	
(2) V層の土器集中 (LPS)	
LPS-1 LPS-2 LPS-3 LPS-4 LPS-5	
7. 礫集中	125
US-1	
8. 粘土集中	125
UN-1	
9. 炭窯跡	125
炭窯跡3	
10. 遺構出土の遺物	127
(1) VII群復原土器	
(2) VII群破片土器・土製品	
(3) V群復原土器	
(4) 石器等	
11. 遺構出土の微細遺物	147

V章 包含層出土の遺物 (III層)	
1. 概要	197
2. 土器・土製品	243
(1) VII群復原土器	
(2) VII群破片土器・土製品	
(3) VI群復原土器	
(4) V群復原土器	
(5) V群破片土器・土製品	
3. 石器等	271
(1) 剥片石器	
(2) 礫石器	
(3) 石製品	

4. 鉄製品	274
(1) 遺構出土の鉄製品	
(2) 包含層出土の鉄製品	

VI章 成果と問題点

1. 遺構について.....	313
2. 遺物について.....	315
(1) 土器	
(2) 石器等	
3. 分析の目的と結果の評価	317
(1) 黒曜石製遺物原産地分析 (付篇1)	
(2) 放射性炭素年代測定結果 (AMS) (付篇2)	
(3) 炭化材樹種同定 (付篇3)	
4. 擦文文化期竪穴住居跡UH-10覆土中の火山灰の対比	321
5. キウス5 遺跡グリッド基線について	322

付篇 自然科学的手法による分析結果

1. 黒曜石製遺物原産地分析 (京都大学原子が実験所)	331
2. 放射性炭素年代測定結果 (AMS測定) (加速器分析研究所)	344
3. 炭化材樹種同定 (パリノ・サーヴェイ株式会社)	362

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図 I - 1	道央圏連絡道路建設計画図	4	図 IV - 32	UH - 7 カマド・炭化材出土状況	89
図 I - 2	Ⅷ層上面地形測量図及び遺構位置図	10	図 IV - 33	UH - 7 遺物出土位置図・遺物出土状況図	90
図 II - 1	遺跡の位置 (1)	14	図 IV - 34	UH - 7 出土遺物接合図	91
図 II - 2	遺跡の位置 (2)	15	図 IV - 35	UH - 8 掘り上げ土確認状況	92
図 II - 3	遺跡周辺の地質	16	図 IV - 36	UH - 8	94
図 II - 4	遺跡周辺の地形	18	図 IV - 37	UH - 8 遺物出土位置図	95
図 II - 5	石狩低地東縁断層帯	20	図 IV - 38	UH - 8 遺物出土位置図・遺物出土状況図	96
図 II - 6	キウス遺跡群	23	図 IV - 39	UH - 8 出土遺物接合図	97
図 II - 7	キウス 1 遺跡 (キウス A・B・C 遺跡 平地住居址)	28	図 IV - 40	UH - 9 掘り上げ土確認状況	98
図 III - 1	調査区設定図	36	図 IV - 41	UH - 9	100
図 III - 2	土層断面図	39	図 IV - 42	UH - 9 炭化材出土状況図・遺物出土状況図	101
図 IV - 1	台地部Ⅲ層上面地形測量図及び遺構位置図 (南北10~35・東西20~65ライン)	50	図 IV - 43	UH - 10 掘り上げ土確認状況	102
図 IV - 2	UH - 1	51	図 IV - 44	UH - 10	104
図 IV - 3	UH - 1 付属遺構・炭化材出土状況	52	図 IV - 45	UH - 11 掘り上げ土確認状況	105
図 IV - 4	UH - 1 遺物出土位置図	53	図 IV - 46	UH - 11	106
図 IV - 5	UH - 2・3 掘り上げ土	55	図 IV - 47	UH - 11 炭化材出土状況	108
図 IV - 6	UH - 2	56	図 IV - 48	UP - 16・UP - 17	110
図 IV - 7	UH - 2・3 掘り上げ土・UH - 2 土層断面図	58	図 IV - 49	UP - 18・USP - 40~42	111
図 IV - 8	UH - 2 付属遺構	59	図 IV - 50	UF - 1・2・3・4・5・6	112
図 IV - 9	UH - 2 炭化材出土状況	60	図 IV - 51	台地部Ⅲ層上面地形測量図及び土器集中位置図 (南北10~35・東西20~65ライン)	115
図 IV - 10	UH - 2 遺物出土位置図	62	図 IV - 52	UPS - 1・2・3	116
図 IV - 11	UH - 2 出土遺物接合図	63	図 IV - 53	UPS - 4・5・6	118
図 IV - 12	UH - 3	64	図 IV - 54	UPS - 7・LPS - 1	120
図 IV - 13	UH - 3 遺物出土位置図・状況図	66	図 IV - 55	LPS - 2・3	121
図 IV - 14	UH - 3 出土遺物接合図	67	図 IV - 56	LPS - 4・5	122
図 IV - 15	UH - 4 掘り上げ土確認状況	68	図 IV - 57	US - 1・UN - 1	124
図 IV - 16	UH - 4	70	図 IV - 58	炭窯跡 3	126
図 IV - 17	UH - 4 付属遺構	72	図 IV - 59	UH - 2・3 出土Ⅶ群復原土器	127
図 IV - 18	UH - 4 カマド土層断面図及び 炭化材出土状況	73	図 IV - 60	UH - 4 出土Ⅶ群復原土器	128
図 IV - 19	UH - 4 遺物出土位置図	74	図 IV - 61	UH - 5・7 出土Ⅶ群復原土器	129
図 IV - 20	UH - 4 出土遺物接合図・出土状況図	75	図 IV - 62	UH - 8・9・10 出土Ⅶ群復原土器	130
図 IV - 21	UH - 4 遺物出土位置図 (表)	76	図 IV - 63	UP - 16 出土・複数遺構接合Ⅶ群土器	131
図 IV - 22	UH - 4 出土遺物接合図	77	図 IV - 64	UPS - 1・2・4・5 出土Ⅶ群復原土器	132
図 IV - 23	UH - 5 掘り上げ土確認状況	78	図 IV - 65	UPS - 6・7 出土Ⅶ群復原土器	133
図 IV - 24	UH - 5 掘り上げ土土層断面図	80	図 IV - 66	UN - 1 出土Ⅶ群復原土器	134
図 IV - 25	UH - 5	81	図 IV - 67	UH - 1・2・3 出土Ⅶ群破片土器	136
図 IV - 26	UH - 5 炭化材出土状況	82	図 IV - 68	UH - 4・5・7 出土Ⅶ群破片土器	137
図 IV - 27	UH - 5 遺物出土位置図	83	図 IV - 69	UH - 8・10、UP - 16、UPS - 5 UN - 1 出土Ⅶ群破片土器	
図 IV - 28	UH - 5 出土遺物接合図	84		UH - 2・8 出土土製品	138
図 IV - 29	UH - 4・UH - 5 出土遺物接合図	85	図 IV - 70	UPS - 3、LPS - 1・2 出土 Ⅶ群復原土器	140
図 IV - 30	UH - 7 掘り上げ土	86	図 IV - 71	LPS - 2・3 出土Ⅶ群復原土器	141
図 IV - 31	UH - 7	88	図 IV - 72	LPS - 3 出土Ⅶ群復原土器 (1)	142

図IV-73	L P S - 3出土V群復原土器(2)	143
図IV-74	L P S - 4出土V群復原土器	144
図IV-75	L P S - 5・L F - 15出土V群復原土器	145
図IV-76	UH出土の石器	146
図V-1	土器総点数出土分布図	201
図V-2	V~VII群土器総点数出土分布図	202
図V-3	V群土器総点数出土分布図	203
図V-4	VI群土器総点数出土分布図	204
図V-5	V群土器総点数出土分布図	205
図V-6	V群土器(良好)出土分布図	206
図V-7	V群土器(剝離)出土分布図	207
図V-8	V群土器(磨耗)出土分布図	208
図V-9	V群土器(小破片)出土分布図	209
図V-10	V群土器(まとまり)出土分布図	210
図V-11	V群土器(良好)出土分布図	211
図V-12	V群土器(剝離)出土分布図	212
図V-13	V群土器(磨耗)出土分布図	213
図V-14	V群土器(小破片)出土分布図	214
図V-15	V群紡錘車出土分布図	215
図V-16	V群土器製品出土分布図	216
図V-17	III層土器出土分布図	217
図V-18	V1層土器出土分布図	218
図V-19	V層土器出土分布図	219
図V-20	V2層土器出土分布図	220
図V-21	VI層土器出土分布図	221
図V-22	H層(掘り上げ土)土器出土分布図	222
図V-23	F層・FIII・FV・FVI層(風倒木痕) 土器出土分布図	223
図V-24	I層(攪乱層)・その他(IV層) 土器出土分布図	224
図V-25	石器等総点数出土分布図	225
図V-26	石鎌出土分布図	226
図V-27	石槍・ナイフ出土分布図	227
図V-28	両面調整石器出土分布図	228
図V-29	石錐出土分布図	229
図V-30	つまみ付きナイフ出土分布図	230
図V-31	スクレイパー出土分布図	231
図V-32	U・Rフレイク出土分布図	232

図V-33	石核出土分布図	233
図V-34	棒状原石・石製品出土分布図	234
図V-35	フレイク出土分布図	235
図V-36	磨製石斧出土分布図	236
図V-37	たつき石出土分布図	237
図V-38	すり石出土分布図	238
図V-39	砥石出土分布図	239
図V-40	台石・石皿出土分布図	240
図V-41	使用・加工痕のある礫出土分布図	241
図V-42	礫出土分布図	242
図V-43	包含層出土VII群復原土器(1)	244
図V-44	包含層出土VII群復原土器(2)	245
図V-45	包含層出土VII群復原土器(3)	246
図V-46	包含層出土VII群破片土器(1)	248
図V-47	包含層出土VII群破片土器(2)	249
図V-48	包含層出土VII群破片土器(3)	250
図V-49	包含層出土VII群破片土器(4)・紡錘車	251
図V-50	包含層出土VI群・V群復原土器(1)	252
図V-51	包含層出土V群復原土器(2)	254
図V-52	包含層出土V群復原土器(3)	255
図V-53	包含層出土V群復原土器(4)	256
図V-54	包含層出土V群復原土器(5)	257
図V-55	包含層出土V群復原土器(6)	258
図V-56	包含層出土V群復原土器(7)・V群土器製品	259
図V-57	包含層出土V群破片土器(1)	260
図V-58	包含層出土V群破片土器(2)	262
図V-59	包含層出土V群破片土器(3)	263
図V-60	包含層出土V群破片土器(4)	264
図V-61	包含層出土V群破片土器(5)	265
図V-62	包含層出土V群破片土器(6)	266
図V-63	包含層出土V群破片土器(7)	267
図V-64	包含層出土V群破片土器(8)	268
図V-65	包含層出土石器等(1)	270
図V-66	包含層出土石器等(2)	272
図V-67	UH-7・包含層出土鉄製品	274
図VI-1	キウス5・キウス9遺跡遺構分布図 (I黒層(III層))	314
図VI-2	キウス5遺跡グリッド基線図	326

表 目 次

表 I - 1	確認遺構一覧	11	表 IV - 31	UH - 4 出土復原土器観察表 (9)	164
表 I - 2	出土遺物点数一覧	12	表 IV - 32	UH - 5 出土復原土器観察表 (1)	164
表 II - 1	キウス遺跡群	29~33	表 IV - 33	UH - 5 出土復原土器観察表 (2)	165
表 III - 1	測量基準点一覧	37	表 IV - 34	UH - 5 出土復原土器観察表 (3)	165
表 III - 2	台地部基本層序一覧	40	表 IV - 35	UH - 5 出土復原土器観察表 (4)	166
表 III - 3	斜面~低位部層序一覧	41	表 IV - 36	UH - 5 出土復原土器観察表 (5)	166
表 III - 4	部分的に存在する層位	41	表 IV - 37	UH - 7 出土復原土器観察表 (1)	166
表 III - 5	土器・土製品時期等分類基準	45	表 IV - 38	UH - 7 出土復原土器観察表 (2)	167
表 III - 6	土器部位分類基準	45	表 IV - 39	UH - 7 出土復原土器観察表 (3)	167
表 III - 7	土器残存状態分類基準	45	表 IV - 40	UH - 7 出土復原土器観察表 (4)	168
表 III - 8	石器等器種分類基準	46	表 IV - 41	UH - 7 出土復原土器観察表 (5)	168
表 III - 9	石器等残存状態分類基準	46	表 IV - 42	UH - 8 出土復原土器観察表 (1)	169
表 III - 10	岩石分類体系表	47	表 IV - 43	UH - 8 出土復原土器観察表 (2)	169
表 III - 11	岩石 (石材) の略号	48	表 IV - 44	UH - 8 出土復原土器観察表 (3)	170
表 IV - 1	住居跡一覧	148	表 IV - 45	UH - 8 出土復原土器観察表 (4)	170
表 IV - 2	住居跡付属遺構一覧	149・150	表 IV - 46	UH - 8 出土復原土器観察表 (5)	171
表 IV - 3	土坑一覧	151	表 IV - 47	UH - 8 出土復原土器観察表 (6)	171
表 IV - 4	柱穴状ピット一覧	151	表 IV - 48	UH - 9 出土復原土器観察表	172
表 IV - 5	焼土一覧	151	表 IV - 49	UH - 10 出土復原土器観察表	172
表 IV - 6	土器集中 (UPS) 一覧	151	表 IV - 50	UP - 16 出土復原土器観察表 (1)	173
表 IV - 7	土器集中 (LPS) 一覧	152	表 IV - 51	UP - 16 出土復原土器観察表 (2)	173
表 IV - 8	確集中一覧	152	表 IV - 52	UH - 2・3 出土復原土器観察表	174
表 IV - 9	粘土集中一覧	152	表 IV - 53	UH - 4・UP - 16 出土復原土器観察表 (1)	174
表 IV - 10	炭窯跡一覧	152	表 IV - 54	UH - 4・UP - 16 出土復原土器観察表 (2)	175
表 IV - 11	住居跡出土土器点数表	153	表 IV - 55	UPS - 1 出土復原土器観察表 (1)	175
表 IV - 12	土坑・粘土集中・炭窯跡出土土器点数表	154	表 IV - 56	UPS - 1 出土復原土器観察表 (2)	176
表 IV - 13	土器集中 (UPS) 出土土器点数表	155	表 IV - 57	UPS - 2 出土復原土器観察表	176
表 IV - 14	土器集中 (LPS) 出土土器点数表	156	表 IV - 58	UPS - 4 出土復原土器観察表	177
表 IV - 15	住居跡出土土器等点数表	157	表 IV - 59	UPS - 5 出土復原土器観察表	177
表 IV - 16	土坑・土器集中・確集中・粘土集中・炭窯跡出土土器等点数表	158	表 IV - 60	UPS - 6 出土復原土器観察表 (1)	178
表 IV - 17	UH - 2 出土復原土器観察表	159	表 IV - 61	UPS - 6 出土復原土器観察表 (2)	178
表 IV - 18	UH - 3 出土復原土器観察表 (1)	159	表 IV - 62	UPS - 6 出土復原土器観察表 (3)	179
表 IV - 19	UH - 3 出土復原土器観察表 (2)	159	表 IV - 63	UPS - 6 出土復原土器観察表 (4)	179
表 IV - 20	UH - 3 出土復原土器観察表 (3)	160	表 IV - 64	UPS - 7 出土復原土器観察表 (1)	179
表 IV - 21	UH - 3 出土復原土器観察表 (4)	160	表 IV - 65	UPS - 7 出土復原土器観察表 (2)	180
表 IV - 22	UH - 3 出土復原土器観察表 (5)	160	表 IV - 66	UN - 1 出土復原土器観察表 (1)	180
表 IV - 23	UH - 4 出土復原土器観察表 (1)	161	表 IV - 67	UN - 1 出土復原土器観察表 (2)	181
表 IV - 24	UH - 4 出土復原土器観察表 (2)	161	表 IV - 68	UN - 1 出土復原土器観察表 (3)	181
表 IV - 25	UH - 4 出土復原土器観察表 (3)	161	表 IV - 69	UN - 1 出土復原土器観察表 (4)	182
表 IV - 26	UH - 4 出土復原土器観察表 (4)	162	表 IV - 70	UN - 1 出土復原土器観察表 (5)	182
表 IV - 27	UH - 4 出土復原土器観察表 (5)	162	表 IV - 71	遺構出土 VII 群破片土器観察表	183~185
表 IV - 28	UH - 4 出土復原土器観察表 (6)	162	表 IV - 72	遺構出土 VII 群土製品観察表	185
表 IV - 29	UH - 4 出土復原土器観察表 (7)	163	表 IV - 73	UPS - 3 出土復原土器観察表 (1)	186
表 IV - 30	UH - 4 出土復原土器観察表 (8)	163	表 IV - 74	UPS - 3 出土復原土器観察表 (2)	186
			表 IV - 75	LPS - 1 出土復原土器観察表 (1)	187

表IV-76	L P S - 1 出土復原土器観察表 (2) …187	表V-33	30-40区出土VII群復原土器観察表(2) …288
表IV-77	L P S - 2 出土復原土器観察表 ……188	表V-34	包含層出土VII群破片土器観察表 …289~291
表IV-78	L P S - 3 出土復原土器観察表 (1) …188	表V-35	32-09区出土VII群復原土器観察表 ……292
表IV-79	L P S - 3 出土復原土器観察表 (2) …189	表V-36	20-67区出土V群復原土器観察表 ……292
表IV-80	L P S - 3 出土復原土器観察表 (3) …189	表V-37	36-67区出土V群復原土器観察表 ……293
表IV-81	L P S - 3 出土復原土器観察表 (4) …189	表V-38	18-65区出土V群復原土器観察表(1) …293
表IV-82	L P S - 3 出土復原土器観察表 (5) …190	表V-39	18-65区出土V群復原土器観察表(2) …294
表IV-83	L P S - 3 出土復原土器観察表 (6) …190	表V-40	32-63区出土V群復原土器観察表 ……294
表IV-84	L P S - 3 出土復原土器観察表 (7) …191	表V-41	34-65区出土V群復原土器観察表 ……295
表IV-85	L P S - 4 出土復原土器観察表 (1) …191	表V-42	19-68区出土V群復原土器観察表 ……295
表IV-86	L P S - 4 出土復原土器観察表 (2) …192	表V-43	18-66区出土V群復原土器観察表(1) …295
表IV-87	L P S - 5 出土復原土器観察表 (1) …192	表V-44	18-65区出土V群復原土器観察表(3) …296
表IV-88	L P S - 5 出土復原土器観察表 (2) …193	表V-45	35-60区出土V群復原土器観察表 ……296
表IV-89	L F - 15 出土復原土器観察表 ……193	表V-46	18-67区出土V群復原土器観察表 ……296
表IV-90	遺構出土掲載石器等観察表 ……194	表V-47	28-65区出土V群復原土器観察表 ……297
表IV-91	Ⅲ層遺構フローテーション選別物一覧 …195	表V-48	19-66区出土V群復原土器観察表 ……298
表V-1	包含層出土(V~VII群)土器点数表 ……198	表V-49	19-69区出土V群復原土器観察表 ……298
表V-2	包含層(Ⅲ層)出土石器等重点表 ……200	表V-50	31-62区出土V群復原土器観察表 ……298
表V-3	30-42区出土VII群復原土器観察表 ……275	表V-51	18-66区出土V群復原土器観察表(2) …299
表V-4	33-27区出土VII群復原土器観察表(1) …275	表V-52	26-67区出土V群復原土器観察表 ……299
表V-5	30-38区出土VII群復原土器観察表 ……276	表V-53	18-66区出土V群復原土器観察表(3) …300
表V-6	33-27区出土VII群復原土器観察表(2) …276	表V-54	16-65区出土V群復原土器観察表 ……300
表V-7	23-60区出土VII群復原土器観察表 ……277	表V-55	18-66区出土V群復原土器観察表(4) …301
表V-8	33-40区出土VII群復原土器観察表 ……277	表V-56	17-64区出土V群復原土器観察表 ……301
表V-9	18-64区出土VII群復原土器観察表 ……278	表V-57	19-64区出土V群復原土器観察表 ……302
表V-10	33-38区出土VII群復原土器観察表(1) …278	表V-58	34-64区出土V群復原土器観察表 ……302
表V-11	32-40区出土VII群復原土器観察表 ……279	表V-59	34-35区出土V群復原土器観察表 ……303
表V-12	34-34区出土VII群復原土器観察表(1) …279	表V-60	30-66区出土V群復原土器観察表 ……303
表V-13	31-40区出土VII群復原土器観察表 ……280	表V-61	19-65区出土V群復原土器観察表 ……304
表V-14	31-42区出土VII群復原土器観察表 ……280	表V-62	29-68区出土V群復原土器観察表 ……304
表V-15	34-34区出土VII群復原土器観察表(2) …280	表V-63	30-68区出土V群復原土器観察表 ……305
表V-16	34-34区出土VII群復原土器観察表(3) …281	表V-64	29-67区出土V群復原土器観察表 ……305
表V-17	30-41区出土VII群復原土器観察表 ……281	表V-65	19-68区出土V群復原土器観察表 ……306
表V-18	32-29区出土VII群復原土器観察表 ……281	表V-66	25-62区出土V群復原土器観察表 ……306
表V-19	32-41区出土VII群復原土器観察表 ……282	表V-67	包含層出土V群破片土器観察表 …307~311
表V-20	28-38区出土VII群復原土器観察表 ……282	表V-68	包含層出土土製品観察表 ……311
表V-21	34-34区出土VII群復原土器観察表(4) …283	表V-69	包含層(Ⅲ層)出土掲載石器等観察表 …312
表V-22	34-38区出土VII群復原土器観察表(1) …283	表V-70	遺構出土鉄製品一覧 ……312
表V-23	32-39区出土VII群復原土器観察表(1) …283	表V-71	包含層出土鉄製品一覧 ……312
表V-24	22-60区出土VII群復原土器観察表 ……284	表VI-1	平成15(2003)年度 低位部出土黒曜石原産地分析試料一覧 …317
表V-25	32-34区出土VII群復原土器観察表 ……284	表VI-2	キウス9遺跡 放射性炭素年代測定試料(北理調報252) …319
表V-26	31-40区出土VII群復原土器観察表(2) …285	表VI-3	キウス9遺跡 炭化材樹種同定結果(北理調報252) …320
表V-27	30-40区出土VII群復原土器観察表(1) …285	表VI-4	キウス5遺跡調査区設定基準坑一覧 (日本測地系) ……327
表V-28	32-39区出土VII群復原土器観察表(2) …286		
表V-29	33-38区出土VII群復原土器観察表(2) …286		
表V-30	31-41区出土VII群復原土器観察表 ……287		
表V-31	30-40区出土VII群復原土器観察表(2) …287		
表V-32	34-38区出土VII群復原土器観察表(2) …288		

写真図版目次

カラー図版 1

平成18年度 檜文文化期竪穴住居跡調査状況(北東から)

カラー図版 2

基本層序 25-45区 (北から)

UH-4 カマド土層断面 (北西から)

UH-4 カマド球駒甕出土状況 (北西から)

UH-4 把手付土器出土状況 (北東から)

カラー図版 3

UH-8 床面遺物出土状況 (東から)

UH-8 甕・坏出土状況 (東から)

UH-8 鉢出土状況 (南東から)

UH-8 高坏出土状況 (南東から)

カラー図版 4

VII群土器

V群土器

モノクロ図版

図版 1 平成18年度 III層上面調査状況 (北東から)

平成18年度

檜文文化期竪穴住居跡調査状況 (北東から)

図版 2 平成19年度 III層上面検出状況 (東から)

平成21年度 西側III層調査状況 (西から)

図版 3

UH-1 炭化材確認状況 1 (北から)

UH-1 炭化材確認状況 2 (南から)

UH-1 カマド確認状況 (北から)

図版 4 UH-1 カマド焼土 土層断面 (北西から)

UH-1 H P-1 土層断面 (南から)

UH-1 H P-2 土層断面 (東から)

UH-1 H P-1 完掘状況 (北東から)

UH-1 完掘状況 (北から)

図版 5 UH-2・3 掘り上げ土確認状況(北東から)

UH-2 炭化材確認状況 (南東から)

図版 6 UH-2 土層断面 (南東から)

UH-2 カマド確認状況 (南東から)

UH-2 炭化材確認状況 (南から)

UH-2 カマド土層断面 (北東から)

UH-2 H P-2 土層断面 (南から)

UH-2 S P-5・6 土層断面(北東から)

図版 7 UH-3 土層断面 (北から)

UH-3 土器出土状況 (南西から)

UH-3 完掘状況 (北東から)

UH-3 H F-1 土層断面 (北東から)

図版 8 UH-4 確認状況 (北東から)

UH-4 炭化材確認状況 (北西から)

図版 9 UH-4 土層断面 (南西から)

UH-4 B-Tm 確認状況 (西から)

UH-4 把手付土器出土状況 (北東から)

UH-4 遺物出土状況 (北西から)

図版 10 UH-4 カマド土層断面 (北西から)

UH-4 カマド煙道部完掘状況 (西から)

UH-4 カマド球駒甕出土状況 (北西から)

UH-4 H P-1 土層断面 (西から)

UH-4 H P-2 完掘状況 (東から)

UH-4 H P-4 土層断面 (西から)

UH-4 P S-1 確認状況 (北から)

図版 11 UH-5 確認状況 (北から)

UH-5 土層断面 (南から)

UH-5 炭化材確認状況 (北西から)

UH-5 H F-1 土層断面 (南西から)

図版 12 UH-5 遺物出土状況 1 (北から)

UH-5 遺物出土状況 2 (北から)

UH-5 遺物出土状況 3 (東から)

図版 13 UH-7 遺物出土状況 (南西から)

UH-7 土層断面 (東から)

UH-7 カマド土層断面 1 (西から)

UH-7 カマド土層断面 2 (北西から)

図版 14 UH-7 カマド遺物出土状況 (西から)

UH-7 北側部分掘り上げ土層断面(南西から)

UH-7 H P-1 土層断面 (西から)

UH-7 完掘状況 (西から)

図版 15 UH-8 確認状況 (西から)

UH-8 土層断面 (東から)

UH-8 覆土甌出土状況 (北から)

UH-8 H F-1・2 土層断面 (南から)

図版 16 UH-8 床面遺物出土状況 (東から)

UH-8 甕・紡錘車出土状況 (南西から)

UH-8 鉢出土状況 (南東から)

UH-8 高坏出土状況 (南東から)

図版 17 UH-8 炭化材確認状況 (東から)

UH-8 H P-1 土層断面 (東から)

UH-8 掘り上げ土確認状況 (北から)

UH-8 南西側部分掘り上げ土層断面(南東から)

図版 18 UH-9 掘り上げ土確認状況 (南西から)

UH-9 土層断面 (北東から)

UH-9 H F-1 確認状況 (北から)

UH-9 掘り上げ土下位 粘土確認状況(北から)

図版 19 UH-9 炭化材確認状況 (北西から)

UH-9 甕出土状況 (南から)

UH-9 粘土集土層断面 (北東から)

UH-9 H P-2 土層断面 (南西から)

図版20 UH-10 掘り上げ土確認状況（南東から）
UH-10 土層断面1（北から）
UH-10 土層断面2（北東から）
UH-10 遺物出土状況（東から）
図版21 UH-11 掘り上げ土確認状況（北から）
UH-11 完掘状況（北から）
図版22 UH-11 調査状況（北から）
UH-11 土層断面（東から）
UH-11 HF-1 土層断面（東から）
UH-11 炭化材確認状況（東から）
図版23 UP-16 確認状況（北から）
UP-16 完掘状況（北から）
UP-18 土層断面（南西から）
UP-18 完掘状況（北西から）
UF-1 確認状況（南東から）
UF-2 土層断面（南東から）
図版24 UF-4 土層断面（南西から）
UF-5 確認状況（西から）
UF-6 確認状況（北西から）
UPS-1 確認状況（北東から）
UPS-2 確認状況（南西から）
UPS-3 確認状況（東から）
図版25 UPS-4 確認状況（南西から）
UPS-5 確認状況（南から）
UPS-6 確認状況（北から）
UPS-7 確認状況（東から）
LPS-1 確認状況（南から）
LPS-2 確認状況（南から）
図版26 LPS-3 確認状況（南西から）
LPS-5 確認状況（北から）
LPS-4 上部確認状況（北東から）
LPS-4 下部確認状況（北東から）
US-1 確認状況（北から）
UN-1 確認状況（西から）
図版27 炭窯跡3完掘状況（東から）
鉄製品出土状況（東から）
紡錘車出土状況（南東から）
耳栓出土状況（東から）
図版28 UH-2 出土VII群復原土器（図IV-59-1）
UH-3 出土VII群復原土器（図IV-59-2）
UH-3 出土VII群復原土器（図IV-59-3）
UH-3 出土VII群復原土器（図IV-59-4）
UH-3 出土VII群復原土器（図IV-59-5）
UH-3 出土VII群復原土器（図IV-59-6）
図版29 UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-7）
UH-4 出土VII群復原土器
（図IV-60-8 口縁部・胴部～底部）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-9）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-10）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-11）

図版30 UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-12）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-13）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-14）
UH-4 出土VII群復原土器（図IV-60-15）
UH-5 出土VII群復原土器（図IV-61-16）
UH-5 出土VII群復原土器（図IV-61-18）
UH-5 出土VII群復原土器（図IV-61-19）
図版31 UH-5 出土VII群復原土器（図IV-61-17）
UH-5 出土VII群復原土器（図IV-61-20）
UH-7 出土VII群復原土器（図IV-61-21）
UH-7 出土VII群復原土器（図IV-61-22）
UH-7 出土VII群復原土器（図IV-61-23）
UH-7 出土VII群復原土器（図IV-61-24）
UH-7 出土VII群復原土器（図IV-61-25）
図版32 UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-26）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-27）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-28）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-29）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-30）
図版33 UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-31）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-32）
UH-8 出土VII群復原土器（図IV-62-33）
UP-16 出土VII群復原土器（図IV-63-34）
UP-16 出土VII群復原土器（図IV-63-36）
図版34 UP-16 出土VII群復原土器（図IV-63-35）
UH-4・UP-16 出土VII群復原土器（図IV-63-37）
UH-4・UP-16 出土VII群復原土器（図IV-63-38）
UP-1 出土VII群復原土器（図IV-64-39）
UP-1 出土VII群復原土器（図IV-64-40）
図版35 UP-2 出土VII群復原土器（図IV-64-41）
UP-6 出土VII群復原土器（図IV-65-44）
UP-6 出土VII群復原土器（図IV-65-45）
UP-6 出土VII群復原土器（図IV-65-46）
図版36 UP-6 出土VII群復原土器（図IV-64-42）
UP-5 出土VII群復原土器（図IV-65-43）
UP-6 出土VII群復原土器（図IV-65-47）
UP-7 出土VII群復原土器（図IV-65-48）
UP-7 出土VII群復原土器（図IV-64-49）
図版37 UN-1 出土VII群復原土器（図IV-66-50）
UN-1 出土VII群復原土器（図IV-66-51）
UN-1 出土VII群復原土器（図IV-66-52）
UN-1 出土VII群復原土器（図IV-66-53）
UN-1 出土VII群復原土器（図IV-66-54）
図版38 遺構出土VII群破片土器（図IV-67-1～69-39）
図版39 遺構出土VII群土製品（図IV-67-40～43）
図版40 UP-3 出土V群復原土器（図IV-70-1）
UP-3 出土V群復原土器（図IV-70-2）
LPS-1 出土V群復原土器（図IV-70-3）
LPS-2 出土V群復原土器（図IV-70-4）
LPS-2 出土V群復原土器（図IV-71-5）

図版41 L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-71-6)
L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-71-7)
L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-71-8)
L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-72-9)
L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-72-10)

図版42 L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-72-11)
L P S - 4 出土V群復原土器(図IV-74-14)
L P S - 3 出土V群復原土器(図IV-73-12)
L P S - 5 出土V群復原土器(図IV-75-15)
L F - 15 出土V群復原土器(図IV-75-17)

図版43 L P S - 4 出土V群復原土器(図IV-74-13)
L P S - 5 出土V群復原土器(図IV-74-16)
U H 出土の石器(図IV-76-1~9)

図版44 包含層出土VII群復原土器(図V-43-1)
包含層出土VII群復原土器(図V-43-2)
包含層出土VII群復原土器(図V-43-3)
包含層出土VII群復原土器(図V-43-4)

図版45 包含層出土VII群復原土器(図V-43-5)
包含層出土VII群復原土器(図V-43-6)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-7)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-8)

図版46 包含層出土VII群復原土器(図V-44-9)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-10)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-11)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-12)
包含層出土VII群復原土器(図V-44-13)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-14)

図版47 包含層出土VII群復原土器(図V-44-15)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-16)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-17)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-18)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-19)

図版48 包含層出土VII群復原土器(図V-45-20)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-21)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-22)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-23)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-24)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-25)

図版49 包含層出土VII群復原土器(図V-45-26)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-27)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-28)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-29)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-30)
包含層出土VII群復原土器(図V-45-31)

図版50 包含層出土VII群破片土器(図V-46-1~47-20)

図版51 包含層出土VII群破片土器(図V-47-21~49-41)
包含層出土VII群土製品(図V-49-42~43)

図版52 包含層出土VI群復原土器(図V-50-1)
包含層出土V群復原土器(図V-50-2)
包含層出土V群復原土器(図V-50-3)
包含層出土V群復原土器(図V-51-8)

図版53 包含層出土V群復原土器(図V-50-4)
包含層出土V群復原土器(図V-50-5)
包含層出土V群復原土器(図V-50-6)
包含層出土V群復原土器(図V-50-7)
包含層出土V群復原土器(図V-51-9)
包含層出土V群復原土器(図V-51-10)

図版54 包含層出土V群復原土器(図V-51-11)
包含層出土V群復原土器(図V-51-12)
包含層出土V群復原土器(図V-51-13)
包含層出土V群復原土器(図V-51-14)
包含層出土V群復原土器(図V-51-15)
包含層出土V群復原土器(図V-51-16)

図版55 包含層出土V群復原土器(図V-51-17)
包含層出土V群復原土器(図V-51-18)
包含層出土V群復原土器(図V-52-19)
包含層出土V群復原土器(図V-52-20)
包含層出土V群復原土器(図V-52-21)
包含層出土V群復原土器(図V-52-22)

図版56 包含層出土V群復原土器(図V-52-23)
包含層出土V群復原土器(図V-52-24)
包含層出土V群復原土器(図V-52-25)
包含層出土V群復原土器(図V-53-26)
包含層出土V群復原土器(図V-53-27)
包含層出土V群復原土器(図V-54-28)

図版57 包含層出土V群復原土器(図V-54-29)
包含層出土V群復原土器(図V-54-30)
包含層出土V群復原土器(図V-55-31)
包含層出土V群復原土器(図V-56-32)

図版58 包含層出土V群土製品(図V-56-33~35)
包含層出土V群破片土器(図V-57-1~58-12)
包含層出土V群破片土器(図V-58-13~60-35)

図版59 包含層出土V群破片土器(図V-60-36~63-61)

図版60 包含層出土V群破片土器(図V-64-62~77)

図版61 包含層出土の石器(図V-65-1~66-42)

図版62 U H - 7・包含層出土鉄製品(図V-67-1~5)

I 章 緒 言

1. 調査要項

事業名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成21年度まで）
道央圏連絡道路新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成22年度整理作業）
道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成23年度整理作業）

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

遺跡名：キウス5遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-093）

平成15年度

所在地：千歳市中央1287-7, -12, -13, -14, 1286-6,

調査面積：5,000㎡（うち低位部 4,200㎡）

調査期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日（現地調査6月24日～10月30日）

平成16年度

所在地：千歳市中央1286, 1287, 1319

調査面積：1,056㎡

調査期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日（現地調査9月6日～10月30日）

平成18年度

所在地：千歳市中央1287-7

調査面積：3,200㎡（うち低位部 1,280㎡）

調査期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日（現地調査5月24日～10月18日）

平成19年度

所在地：千歳市中央1287-7ほか

調査面積：6,100㎡

調査期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日（現地調査5月7日～10月30日）

平成20年度

所在地：千歳市中央1319-8ほか

調査面積：721㎡

調査期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（現地調査9月1日～10月16日）

平成21年度

所在地：千歳市中央1319

調査面積：3,068㎡

調査期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日（現地調査5月7日～8月21日）

2. 調査体制

平成15年度

第1調査部長	畑 宏明	第2調査部長	西田 茂
第2調査部第4調査課長	三浦 正人 (発掘担当者)		
主 査	皆川 洋一	主 任	菊池 慈人
主 任	末光 正卓	主 任	広田 良成

平成16年度

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第4調査課長	三浦 正人		
発掘担当者 主 査	皆川 洋一	主 任	菊池 慈人

平成18年度

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者 第1調査部第3調査課長	三浦 正人		
同 主 査	菊池 慈人		
同 主 任	愛場 和人	主 任	袖岡 淳子
同 主 任	末光 正卓	主 任	広田 良成

平成19年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者 第1調査部第3調査課長	三浦 正人		
同 主 任	愛場 和人	主 任	末光 正卓
同 主 任	広田 良成		
主 査	鎌田 望		

平成20年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者 第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
同 主 任	愛場 和人		

平成21年度

第1調査部長	越田賢一郎	第2調査部長	西田 茂
発掘担当者 第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
同 主 査	越田 雅司		
同 主 任	愛場 和人	主 任	広田 良成

平成22年度 (整理作業)

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
主 査	越田 雅司	主 任	末光 正卓
主 任	広田 良成		

平成23年度 (整理作業)

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	三浦 正人
第1調査部第2調査課長	鈴木 信	主 査	末光 正卓

3. 調査の経緯

(1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事 (図 I-1)

この調査の原因である道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環である。道央圏連絡道路は道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である(図 I-1)。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・中樹林道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの7区間に分けられている。

昭和55年度に事業化された当別町～小樽市)23.8kmが平成15年度までに部分供用された。平成16年3月26日には石狩川を渡河する美原大橋を含む美原バイパス3.9kmが、平成23年3月5日には美原ランプ～巖谷ランプ間5.7kmの美原道路が供用され、小樽市銭函～江別市江別太間42kmが繋がった。「新千歳空港関連」事業は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間で、平成元年度に事業化された。このうち新千歳空港から千歳市街地(寿ランプ)への2.5kmが平成15年度までに部分供用されている。さらに後述するように、平成22年12月18日中央ランプ～寿ランプ間6.7kmが供用され、新千歳空港IC～中央ランプ(横断自動車道千歳東IC)間9.2kmが開通した。

平成2(1990)年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を經由して北海道教育委員会(以下、道教委)あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた道教委は平成3年6月、路線内の遺跡所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓(のちのオルイカ1遺跡)・キウス5遺跡と未登載の仮称祝梅砂丘遺跡(柏台1遺跡)・仮称キウス7～10遺跡の12か所、対象面積299,000㎡、全計画路線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月道教委から札幌開発建設部へ回答された。

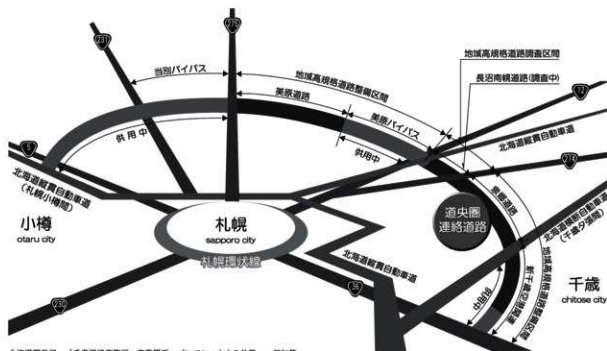
平成7(1995)年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から道教委に提出された。ここで事業名が一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8年4月1日から平成12年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護について、現状保存は困難なため範囲確認調査(試掘)を希望する旨協議された。

平成19年11月をもって終結した当事業用地内における範囲確認調査(試掘)の結果、発掘調査が必要と判断された遺跡は、空港にほど近い柏台1遺跡、寿～祝梅地区の梅川4遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡・梅川2遺跡・祝梅川上田遺跡・アンカリトー9遺跡・アンカリトー7遺跡、中央地区のオルイカ1遺跡・オルイカ2遺跡・チブニー1遺跡・チブニー2遺跡・キウス9遺跡・キウス5遺跡の計14遺跡である。

発掘調査を終えたこの地区では、同年12月18日、キウス5遺跡が位置する「中央ランプ」と梅川4遺跡南側の「寿ランプ」間6.7kmが暫定二車線で供用され、新千歳空港IC～中央ランプ(横断自動車道千歳東IC)間9.2kmが開通した。

(2) 遺跡範囲確認調査の実施

道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工用地内での最初の範囲確認調査は、平成7年11月と平成8年5月に、千歳市柏台地区の仮称祝梅砂丘遺跡とした包蔵地で道教委により実施された。その結果、



北海道開発局「千歳道路事務所 事業概要」パンフレットより抜粋、一部加筆

図 I - 1 道央圏連絡道路建設計画図

地表下約4mにある恵庭a降下軽石層(E n-a)直下の風成堆積物中から、旧石器時代の遺物である黒曜石製剥片石器類が検出された。柏台1遺跡として登載されたこの遺跡は、平成9(1997)・平成10(1998)年に北海道埋蔵文化財センターが6,300㎡の発掘調査を実施、E n-a直下に広がる疎林樹木痕とE n-a下位の火山灰質シルト層から約32,000点の旧石器時代遺物を検出した(北埋調報138)。その後、用地買収の遅延などにより、用地内の埋蔵文化財関係調査は途絶えていたが、平成12年から再び範囲確認調査が開始された。

以下、キウス地区に関わるものを列記する。

○平成13年(2001)9月

キウス川を挟んだ対岸のキウス9遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス10)において、南半部実施。

○平成14(2002)年7~8月・10月

キウス5遺跡で実施。旧河川部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲が確定した。西側に試掘未了部分あり。

○平成16(2004)年10月

キウス9遺跡(平成3年所在確認調査:仮称キウス10)北半部(キウス川左岸部未了)実施。擦文期の竅穴と思われるくぼみや擦文土器・縄文土器・石器を確認。16,500㎡については調査が必要と判断。800㎡判断保留。

○平成17(2005)年5月

キウス9遺跡北半部のうち未了であった7,700㎡実施。同上の結果を得、保留800㎡も含めて25,000㎡で発掘調査が必要と判断。

○平成19(2007)年10月

キウス5遺跡の西側部分、現国道337号に接続する試掘未了区約2,000㎡で実施。散漫な遺物包含層ではあるが、確定区域からの連続性で約1,200㎡が要発掘調査となった。14年度からの保留部分が解消され、キウス5遺跡の試掘も完了した。

(3) 平成13年度以降のキウス地区の発掘調査

以上の範囲確認調査から発掘調査が必要と判断された事業用地内は、平成13年度から北海道埋蔵文化財センターが、札幌開発建設部札幌新道建設事務所(平成16年度から千歳道路事務所)の工事計画に則って発掘調査を実施した。キウス地区に関する調査は以下のとおりである。

◇平成15(2003)年度

キウス5遺跡 5,000㎡(低地4,200㎡・台地800㎡)

発掘担当者:三浦正人

縄文時代中期後半の住居跡と遺物・旧河道部で縄文時代と近世の木製品・低位部に近世の畑跡。

報告書:旧河道部と低位部:北埋調報251集

台地部第Ⅰ黒色土層:当報告

台地部第Ⅱ黒色土層:平成24年度報告予定

調査年報16参照

◇平成16 (2004) 年度

キウス5遺跡 1,056㎡

発掘担当者：皆川洋一・菊池慈人

主に縄文時代晩期・擦文文化期の遺物。

報告書：台地部第Ⅰ黒色土層：当報告

台地部第Ⅱ黒色土層：平成24年度報告予定

調査年報17参照

◇平成17 (2005) 年度

キウス9遺跡 17,000㎡→17,044㎡に変更

発掘担当者：三浦正人・皆川洋一・菊池慈人・新家水奈・愛場和人・阿部明義・広田良成

石刃鏃70点・縄文時代早期・前期・晩期の遺構・遺物、擦文文化期前期の竪穴住居跡と鍛冶遺構(集落)・アイヌ文化期の平地住居跡など

報告書：北埋調報252集

◇平成18 (2006) 年度

キウス9遺跡 7,956㎡

発掘担当者：三浦正人・菊池慈人・愛場和人・袖岡淳子・末光正卓・広田良成

石刃鏃21点・縄文時代晩期および擦文文化期前期の遺物など

報告書：北埋調報252集

キウス5遺跡 3,200㎡(低地1,280㎡・台地1,920㎡)

発掘担当者：三浦正人・菊池慈人・愛場和人・袖岡淳子・末光正卓・広田良成

旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列)遺物・擦文文化期前期の住居跡・低位部に近世の畑跡と建物跡・旧河道部で近世の木製品など。

報告書：旧河道部と低位部：北埋調報251集

台地部第Ⅰ黒色土層：当報告

台地部第Ⅱ黒色土層と旧石器：平成24年度報告予定

調査年報19参照

◇平成19 (2007) 年度

キウス5遺跡 6,100㎡

発掘担当者：三浦正人・愛場和人・末光正卓・広田良成

旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列・杭穴)と遺物、同晩期の遺物、擦文文化期前期の住居跡。

報告書：第Ⅰ黒色土層：当報告

第Ⅱ黒色土層と旧石器：平成24年度報告予定

調査年報20参照

◇平成20 (2008) 年度

キウス5遺跡 721㎡

発掘担当者：三浦正人・愛場和人

擦文文化期の住居跡と遺物。

報告書：第Ⅰ黒色土層：当報告

第Ⅱ黒色土層：平成24年度報告予定

調査年報21参照

◇平成21(2009)年度

キウス5遺跡 3,068㎡

発掘担当者：三浦正人・越田雅司・愛場和人・広田良成

旧石器時代のブロック・縄文時代中期後半の遺構（住居跡・土坑・焼土列・杭六列）と遺物、同晩期の遺物、擦文文化期の住居跡。当事業区間の発掘調査終了。

報告書：第Ⅰ 黒色土層：当報告

第Ⅱ 黒色土層と旧石器：平成24年度報告予定

調査年報22参照

(4) キウス5遺跡の各年度調査の経緯

キウス5遺跡は千歳市中央地区の北部に位置し、馬追丘陵から西流する河川キウス川の右岸に広がる。当遺跡の考古学的調査の略歴は、以下のとおりである。

遺跡の所在は昭和40年代にはすでに確認されていたようで、千歳市教育委員会による踏査が幾度か行われていた。北海道横断自動車道建設計画により当遺跡周辺が路線計画用地内に取り込まれることとなり、道教委により昭和63年に所在確認調査が、平成5年には範囲確認調査が実施された。平成6年から10年の5年間にわたり北海道横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査として、日本道路公団（当時）から委託を受けた当センターと千歳市教育委員会が、計55,885㎡を調査。東西1,000m以上に及ぶ広範囲の台地・低地から旧石器時代・縄文時代早期～晩期の各期の住居跡や土坑墓、縄文時代後・晩期の木製品、擦文文化期とアイヌ文化期の墓などを調査した。

当センター分の報告は平成7年から11年にかけて

『千歳市 キウス5遺跡・キウス7遺跡(2)・ケネフチ8遺跡』北埋調報92集

『千歳市 キウス5遺跡(2) B地区』北埋調報104集

『千歳市 キウス5遺跡(3)』北埋調報115集

『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116集

『千歳市 キウス5遺跡(5) A-2地区』北埋調報125集

『千歳市 キウス5遺跡(6) B地区・C地区』北埋調報126集

『千歳市 キウス5遺跡(7)・キウス7遺跡(6)』北埋調報136集

として7冊を刊行。千歳市教育委員会による調査成果は『キウス5遺跡における考古学的調査』（千歳市文化財調査報告XXV）として平成10年に刊行された。

当国道建設工事の計画では、キウス川橋脚工事や、現国道と道東自動車道（千歳東IC）に接続すべく“キウスランプ（中央ランプ）”の工事が順次行われるようになっていた。工事に伴う当遺跡の範囲確認調査は、前述したとおり道教委によって平成14（2002）年7～8月と10月に実施され、旧河道部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲がほぼ確定した。さらに現国道との接続部分に残っていた試掘未了部分約2,000㎡も、平成19（2007）年10月に確認調査を実施。散漫な遺物包含層ではあるが、確定区域からの連続性で約1,200㎡が要発掘調査となった。平成14年度からの保留部分が解消され、キウス5遺跡の試掘も完了した。

平成15（2003）年度の計画として、札幌開発建設部は道教委に対し、平成16年度以降に予定しているキウス川右岸橋台工事と河川直線化および護岸工事に合わせて、キウス5遺跡のキウス川寄り低位部約5,500㎡の調査を平成15年度内に終了させて欲しいとの要望を出した。道教委は、低位部約5,500

㎡を単年度で発掘するのは困難として、札幌開発建設部に再検討を打診。工事計画や予算規模を勘案し札幌開発建設部と道教委は、当該年度は低位部4,200㎡と台地部800㎡の計5,000㎡の調査で合意した。これを受けた当センターは、低位部調査の計画と準備に時間を要することから、平成15年はオリカ1遺跡1,600㎡とチブニー2遺跡2,000㎡を5月から先行調査することとし、この間を鋼矢板打設・ウェルポイント設置・高電圧工事・表土除去・ベルトコンベア設置などの準備期間に当てた。

両遺跡の調査終了と同時に6月下旬から約4ヶ月の調査を開始。当事業によるキウス5遺跡の発掘調査が始まった。低位部は北東部が台地側の低い張り出し、東西中央軸から南部にかけてはキウス川旧河道、そこに洪水堆積層が広がる様相であった。洪水堆積平坦面の南西側では近世の畑跡を確認、旧河道とそれ以前の河川堆積層からは、縄文時代各期の遺物や縄文時代と近世の木製品を検出した。台地部では縄文時代中期後半の堅穴群の存在を確認した。

平成16(2004)年度当初は、キウス5遺跡の調査は予定されていなかった。しかし、チブニー2遺跡の市道部分の調査1,300㎡が次年度に繰り延べになったため、この代替としてキウス5遺跡を相当分調査できないかとの打診が、札幌開発建設部および道教委からあった。検討の結果、キウス5遺跡の前年度調査区に接する南斜面部1,056㎡を調査することに決定し、9・10月に調査を実施、縄文時代晩期・擦文文化期の遺物を検出した。

平成17(2005)年度、対岸でキウス9遺跡の調査を進めている間、15年度に調査を終えた低位部地区でキウス川右岸橋台工事が着工し11月にほぼ完成した。

平成18(2006)年度のキウス地区の計画として札幌開発建設部は道教委に対し、キウス9遺跡の残り7,956㎡とキウス5遺跡の低位部の残り約1,300㎡(精査1,280㎡)、およびキウス5遺跡台地部の残りを可能な限り調査して欲しい旨の要望を出した。道教委は、低位部1,280㎡と台地部1,920㎡の計3,200㎡を年度内調査とするのが妥当として、札幌開発建設部に検討を打診、了承された。これを受けた当センターは、低位部調査の準備に時間を要することから、平成18年はキウス9遺跡を5月上旬から先行調査し、この間を低位部の鋼矢板打設・ウェルポイント設置・高電圧工事・表土除去・ベルトコンベア設置などの準備期間に当てた。低位部は15年度の調査結果と面積が小さいため準備期間を短縮することができ、5月下旬から9月下旬の約四ヶ月の期間で発掘調査を終了できた。近世の畑跡の続きや、旧石器時代、縄文時代各期～擦文文化期の遺物や縄文時代と近世の木製品の検出があった。台地部は5月下旬から10月に南西側の台地縁から平坦部にかけてを調査、擦文文化期前期の住居群や縄文時代中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列)遺物、旧石器時代の細石刃石器群のブロックなどを検出した。

中央～キウス地区の調査もオリカ2遺跡とキウス5遺跡を残すのみとなった平成19(2007)年度は、オリカ2遺跡4,200㎡と併行して、台地中央部6,100㎡を対象に5～10月、調査を実施した。前年度のまとめるとは別の擦文文化期の住居群や平成15年度調査区から続く縄文中期後半の遺構(住居跡・土坑・焼土列・杭穴列)と遺物のほか、縄文時代晩期の遺物、旧石器ブロック2か所などを検出した。

平成20(2008)年度は、調査担当遺跡が祝梅地区の三遺跡、中央～キウス地区のオリカ2遺跡とキウス5遺跡の二遺跡と多彩となり、工事工程や調査人員配置の観点、オオタカへの配慮から、キウス5遺跡調査は9月中旬～10月中旬の調査とした。現国道や千歳東ICと連結する台地西側の緩斜面部のうち、先行する工事用道路分として721㎡、幅約5.5mの東西に細長い範囲を調査した。主に擦文文化期の住居群と遺物の検出があった。

当該事業に伴う発掘調査もキウス5遺跡を残すのみとなった平成21(2009)年度は、前年度調査区

に北接する東西に長い2,098㎡(A地区)と、台地北側の970㎡(B地区)が調査対象である。B地区は横断自動車道(道東道)建設に伴い平成8年度に調査した部分(『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116集)と接し、平成15・19年度の調査区に北接する。道央圏連絡道路が横断自動車道の下をくぐる南側手前部分にあたり、東日本高速道路株式会社の土地である。5～8月の調査期間は、オオタカの棲息に最も配慮が必要な期間ではあったが、工期が迫っていたこともあり、オオタカの状態をモニタリングしていた札幌開発建設部の指示に従いながら慎重に発掘調査を進行した。B地区は高速道路への人やシカなどの侵入防止柵の撤去と仮柵設置、表土除去などの準備作業が必要であったため、調査開始は5月下旬となった。A地区では前年度に続く擦文文化期の住居群と遺物を検出、平成19年度に着手していた細石刃石器群のブロックも調査した。B地区では平成8・15・19年度に続く縄文時代中期後半の堅穴群(住居跡・土坑)や数条の焼土列・弧状の杭穴列と遺物などを検出した。当事業におけるキウス5遺跡の調査面積合計は、19,145㎡。これをもって「道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事」に伴う用地内の埋蔵文化財発掘調査は完了した。

(三浦 正人)

4. 調査結果の概要(図I-2 表II-1・2)

道央圏連絡道路(一般国道337号)千歳市新千歳空港関連工事に伴う本遺跡の調査は、平成15(2003)・16(2004)・18(2006)・19(2007)・20(2008)・21(2009)年度に実施した。このうち、低位部の調査成果は『千歳市 キウス5遺跡(8)』(2008 北埋調報251)を参照されたい。

台地部分の調査の報告は、本書はIV層(Ta-c)より上位のⅢ層、擦文時代～縄文時代晩期後半(同じ土器型式で一部、V層出土のものも含む)で、次報告書(平成24年度刊行予定『千歳市 キウス5遺跡(10)』)ではそれより下位のV～Ⅶ層、主に縄文時代中期と旧石器時代についてである。

低位部を含むこれまでの調査で確認された遺構、出土遺物について表I-1・2にまとめた。

本書で報告する台地部の遺構は、堅穴住居跡9軒ですべて擦文文化期、土坑は3基で2基が擦文文化期で1基は近世頃のものである。擦文文化期の住居跡に関連すると推測する柱穴状ピット3基、焼土3か所もある。土器集中はⅢ層から7か所、うち6か所が擦文文化期で1か所は縄文時代晩期である。また、後者と同時期の土器集中をV層で5か所確認したので、これも本書に掲載する。粘土集中と呼称した遺構が1か所あり、擦文文化期と判断する。他、近現代の炭窯跡1か所である。

出土遺物は、土器・石器等・旧石器・鉄製品・木製品で総数は23万点を超える。本書で報告するⅢ層の遺物は約5万8千点で、接合したV層出土の遺物も含んでいる。土器は擦文文化期前期・続縄文文化期・縄文時代晩期後半。石器等の時期は分割礫等が擦文文化期、その他は縄文時代晩期と判断する。鉄製品は擦文文化期である。

図I-2は、低位部の縄文時代晩期～アイヌ文化期の遺構と、本書で報告する遺構について示した。縄文時代晩期は調査区の東側、低位部に土坑、台地部には土器集中がみられる。擦文文化期前期は集落が営まれ、中央付近とその北東側の二つの地点に分けられそうである。低位部の溝状遺構は同文化期後半である。近世(アイヌ文化期)は低位部に畑跡と建物跡が確認されており、また、近現代の炭窯跡は3か所を数える。

(末光 正卓)

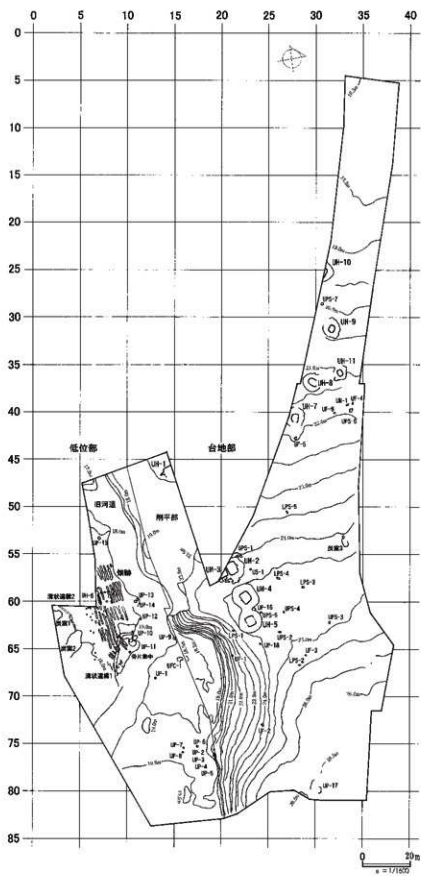


図 I - 2 VII層上面地形測量図及び遺構位置図

II章 遺跡の位置と環境

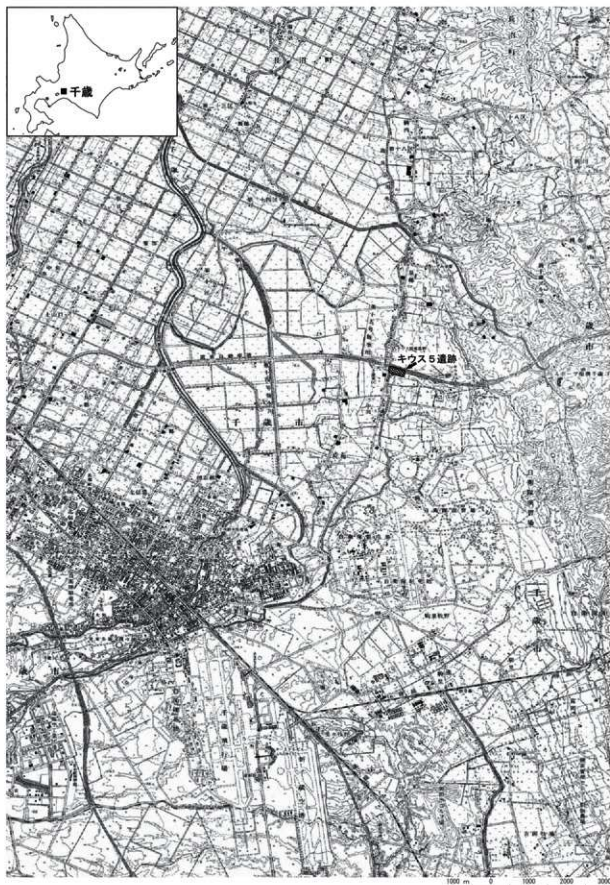
1. 位置と立地 (図II-1・2)

遺跡は千歳市の市街地から北東約8km、中央地区に位置する。キウス遺跡群は、石狩低地帯東辺の馬追丘陵から西流するキウス川の兩岸の丘陵平坦部と下端部周辺に広がる東西約2km・南北約1.5kmにわたる、後期旧石器～アイヌ文化期の全時代を網羅する大遺跡群で、国指定史跡キウス周堤墓群も含んでいる。丘陵平坦部にある遺跡のうち、下端部近くの右岸に位置する遺跡をキウス5遺跡、対岸をキウス9遺跡と称している。この遺跡群は北海道横断自動車道建設などに伴い、すでに平成5(1993)～10(1998)年に当センターと千歳市教育委員会埋蔵文化財センターによって、キウス4・5・7遺跡の一部が計123,570㎡調査されている。

キウス5遺跡の立地する馬追丘陵は、北から栗山町・長沼町・由仁町・千歳市・安平町(旧追分町と旧早来町)と、南北延長約30kmにおよんで隆起している標高150m前後の連なりで、273mの馬追山を最高地点とする。キウス遺跡群の東方は標高約100mのコムカラ峠で、峠の西北西下にキウス川の源流がある。キウス川～コムカラ峠のルートは、丘陵を横断して石狩低地帯と夕張方面や道東部を結ぶ道のひとつとして早くから開けていたようである。

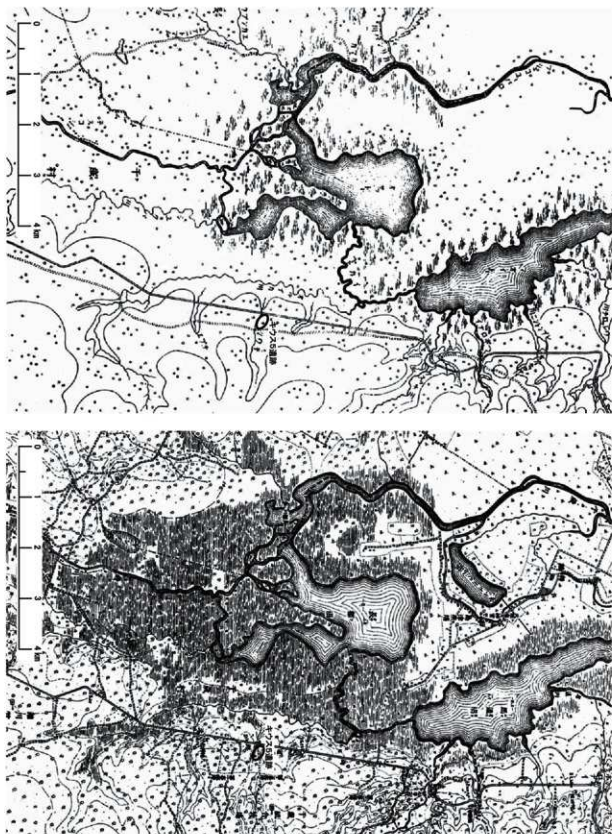
一方、丘陵西側に広がる石狩低地帯は、支笏火山が形成した火砕岩台地によって千歳市南部を分水界とし、日本海側と太平洋側に分かたれている。このうち当遺跡が面する日本海側の南東部は、分水界近くまで低平で、遺跡付近から望める千歳市祝梅・根志越・中央・泉郷地区や恵庭市漁太地区、長沼町は、古くはトンメ沼・長都沼(ヲサツトウ)や馬追沼(マライトウ)・ボンユーバリ沼・菱沼(イコクシ沼)・チカップセット沼・鶴沼などの沼があり、周辺には低湿地帯が広がっていた。蛇行の著しい千歳川・祝梅川・剣瀧川(ケヌフチ川)・漁川・夕張川やそれらの小支流と馬追丘陵からの小河川も流入し、多雨や融雪期には広範囲で冠水する湛水地帯であった。キウス川もこの低湿地帯の東縁を集水して沼に向かうオルイカ川に流れ込む一小流である。往時は遺跡やコムカラ峠から西を眺めれば、低地帯手前には水を湛えた沼が広がり、遠くに樽前山・恵庭岳・漁岳・空沼岳・札幌岳・無意根山・手稲山など標高1000～1500m級の山々が連なる眺めであった。

地名「キウス」の初出は、安政四(1857)年の調査記録である松浦武四郎『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』『第十六巻由宇発利日誌巻の二』にケ子ブチ(ケヌフチ)・ウリウカ(オルイカ)の次に「キユウシ 小川、巾三間計。過て谷地を五丁計行てまた木原少し過(後略)」とあり、『東西蝦夷山川地理取調図 五』の中にも「キユウシ」と記されている。ただ、この報告の手控えの一部である『石狩・テシホ・クスリ外十二所川々取調帳』の図には同じ位置に「キニウシ」とある。判読本では「キユウシ」としているが、ニとユの誤読と思われる。武四郎が最初の聞き取りの時は、「キニウシ」と聞き書きしたものとみられる。そうすると後の『北海道蝦夷語地名解』(永田方正 1891)による「Kiusi・キウス=鬼茅大キ處・川ノ名」とあるものや、『ちとせ地名散歩』(長見義三 1976)の「ki-us-i カヤ・の群生する・所」の説明がわかりやすい。いくつかのアイヌ語辞典や地名研究・植物誌では、「ki」はカヤを表わしていることがわかる。また「キネ」は本来は草のこととされているが、カヤ・アシ・ガマのようなゴザ編みや家を建てるときに使うような茎の長い植物のことを指しているともみることができる。「キウスーキウス」はもともと「キネウシ」(「キニウシ」)と呼称されていたの



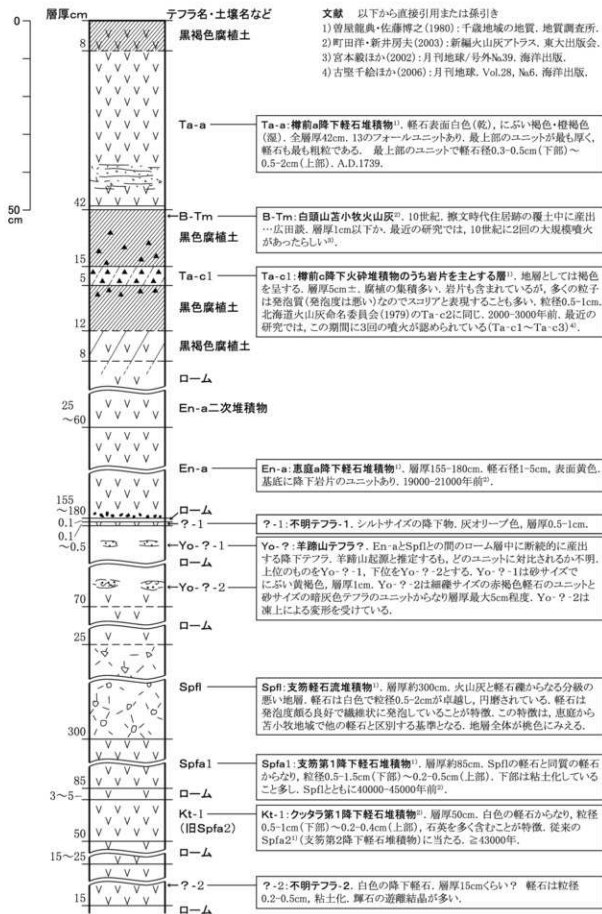
国土地理院の数値地図3000(地図画像)『千歳』(平成11年発行)・『京米』(平成11年発行)・『豊原』(平成13年発行)・『透分』(平成14年発行)を10万分の1に縮小して使用。一部加筆

図II-1 遺跡の位置(1)



この図は、〈上〉陸地測量部、明治29年製図の概製五万分の一地形図、札幌第七號『長部（おきつ）』
 〈下〉同、明治42年部分修正図、43年改訂の概製五万分の一地形図、札幌第七號『池（いざり）』に
 加筆し、約75,000分の1に縮小複製したものである。

図II-2 遺跡の位置（2）



図Ⅱ-3 遺跡周辺の地質

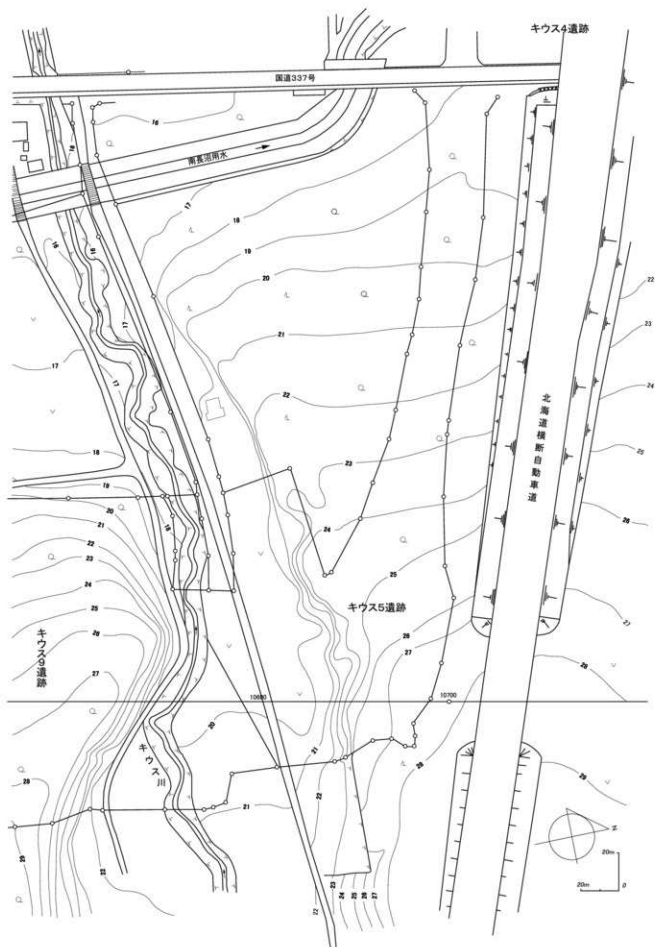
であろう。湿原の中を流れゆく小河川のイメージと重なる地名とも言えよう。地図にも明治29(1896)年陸地測量部製版の「北海道假製五万分一図」「長都」では「キウシ」と川の名が、明治35年陸地測量部改版の『漁』では「キウス」と地区名として示されている。

2. 地形と地質(図Ⅱ-3~5)

遺跡周辺では数層のテフラ(火山灰)が基盤の礫岩・砂岩・頁岩層を覆っている。まず起源不明の白色降下軽石が約15cmあり、20cmほどのロームを挟んでその上に約50cmの厚さで43,000年ほど前のクッタ第1降下軽石堆積物(Kt-1 従来の支笏第2降下軽石堆積物Spfa2にあたる)がある。薄いローム層を挟んで、その上に約40,000年前の支笏第1降下軽石堆積物Spfa1が1m弱堆積し、これらを火山灰と軽石礫からなる軽石流堆積物Spf1が約3m厚で覆っている。この上の1m厚のローム(Spf1の風成二次堆積物)の中間ほどに、羊蹄山起源とみられる降下テフラが2枚点在する。このロームを起源不明のテフラとロームの薄層が覆い、さらに上を厚さ1.5~2mと厚く覆うのが約20,000年前の恵庭岳起源の降下軽石En-a(En-P)である。さらに直上にEn-aの二次堆積とこの風化ローム層であるEn-Lが20~50cm堆積している。この上は厚さ5~10cmの暗褐色粘質腐植土(漸移層)、5~15cmの黒色粘質腐植土(第Ⅱ黒色土層)とあり、これをおよそ2,000~3,000年前の樽前山起源の降下火砕堆積物(岩片主体)Ta-e1が約10cm厚で覆っている。最近の研究(古堅千絵ほか 2006「樽前山における9000年間のマグマ系の変化」『月刊地球28-6』)では、この期間に3回の噴火が認められるという(Ta-e1~Ta-e3)。この上に10~15cmの黒色粘質腐植土(第Ⅰ黒色土層)が発達する。この腐植土層中には10世紀前葉の白頭山起源のB-Tmの薄層がくぼみなどに点在する。最近の研究(宮本毅ほか 2002「白頭山10世紀噴火の噴火推移」『月刊地球号外No.39 活動的火山』)によれば、10世紀に2回の大規模噴火があったらしい。第Ⅰ黒色土層を厚さ30~50cmで覆うのが1739年降下のTa-a(樽前a降下軽石堆積物)で13枚のフォールユニットで成っている。この上位は約10cmある現表土の黒褐色腐植土である。また、1667年降下のTa-b(樽前b降下軽石堆積物)はキウス地区では確認されていないが、これで区分される第0黒色土層(第Ⅰ黒色土層の上部)に対応する層として低位部では第Ⅰ黒色土層の上部が茶褐色気味になる部分もある。

なお、テフラについては第1調査部第1調査課 花岡正光の観察・分析による(Ⅵ章4節参照)。テフラ全般の文献は『千歳地域の地質』(曾屋龍典・佐藤博之 1980 地質調査所)と、『新編火山灰アトラス』(町田洋・新井房夫 2003 東大出版会)である。

地形学的に言えば、遺跡群周辺には丘陵・谷底平野・古砂丘・扇状地・沖積平野が発達している。丘陵地内には狭長な谷底平野があり、谷底部には段丘が発達しており、キウス5遺跡はこの谷底平野部と段丘面に位置する。この東西に長い段丘面は、支笏カルデラ起源の軽石流堆積物(Spf1)に覆われた丘陵地が、湧水・流水による浸食下刻作用により谷地形が広がるのと相対的に、ほぼ水平な台地状の広がりをもたらしたものである。標高は23~45mで、100mにつき2mほどの割合で低下する東高西低の緩斜面である。遺跡の低位部は現標高18~20mほどで、谷底平野を走るキウス川の旧河道とその蛇行浸食や洪水による河川堆積層として広がる。扇状地は馬追丘陵西端に小規模に認められ、眼前の石狩低地帯は沖積平野である。古砂丘はSpf1の風成二次堆積物から成り、遺跡群の南西方面に砂丘列として存在する。後期旧石器時代以降の遺跡が立地し、後期旧石器でも古いものは丸子山遺跡のように砂丘下でも確認される。



図II-4 遺跡周辺の地形

丘陵地には数本のリニアメント（地質構造を反映した線状地形）が認められる。泉郷から南南東に延び遺跡群付近を通るリニアメントが泉郷断層である。最近の研究では、馬追丘陵の隆起構造の形成は、東上がりの隠れた低角逆断層（ブラインドスラスト）群の活動が本質的な影響を与えているという。東から西へ押し上げる作用が主要で、地表面に現れた既知の活断層群は付随的な状況と判断されている。道東自動車道建設工事のためのボーリング調査では、「馬追丘陵からその前面の低地では十数年前ごろの地層の変位（たわみ上がり）が七十%にも達している」ことがわかり、「地震があると馬追丘陵が隆起するという現象は」「前面（西側）の低地を相対的に低下させることになる」という（岡孝雄「石狩低地東縁断層帯」「地震と津波」北海道新聞2006.8.8 図II-5）。馬追丘陵にみられる既知の活断層群は石狩低地東縁断層帯と呼ばれ、泉郷断層をはじめ岩見沢断層・粟沢断層・長沼傾動帯・馬追断層・検淵断層などで構成される延長60kmを超える活断層帯である。この断層帯は、地表面にずれが現れた西側上がりの逆断層で、道立地質研究所が1998～1999年に行ったボーリング調査によれば、最新活動期は約3,000年前、活動間隔は2,000～3,000年程度と推定されている（前掲）。

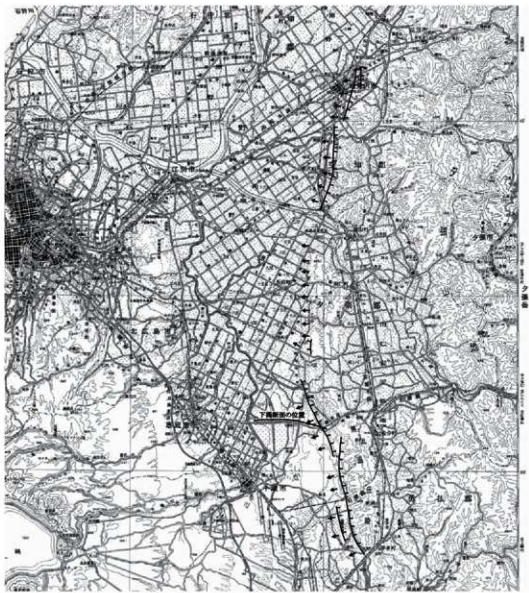
3. 近現代の環境変化

発掘調査前のキウス川縁地は、国道から1kmほど奥までは人家もあり開墾されて畑地として利用されていた部分もあったが、耕作放棄され荒地となっている部分も多かった。長見義三によれば、昭和30年頃、キウス川の奥には開墾入植の痕があり、家や庭・沢縁のカタクリの群落や背後のクリ林がみられた。川の源流部の協和峠（コムカラ峠）の斜面にはスキー場があったという（長見義三 前掲書）。また川の岸辺や台地端には、調査でも発見された炭窯が造られていた。周囲の木を炭焼きし、川の流れを利用して運び出していたものと思われる。キウス川沿いの道路は、右岸（キウス5遺跡側）を上流・コムカラ峠まで向かう（途中から左岸側）道と、キウス5遺跡中央部でこの道と分かれ低地から台地に登る道とがある。

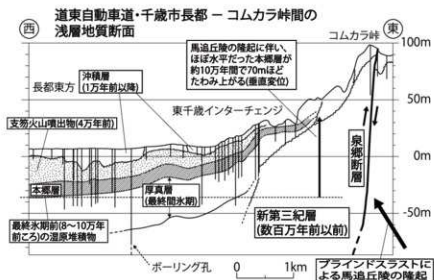
周辺の樹木は落葉広葉樹が主体で、未開墾部や川縁では林となっていた。コナラ・ヤチダモ・オニグルミ・クリ・ヤマグワ・コクワ・ホオノキ・タラノキ・ヤマブドウ・ヤナギなどがみられた。また千歳森林組合による植林で、マツやイチイ主体の人工林も広く分布する。

調査中、掘削排土には頻りにエゾシカやキタキツネの足痕がマークされ、糞も確認できた。表層のくぼみ等にはアオダイショウ・シマヘビが生息していることがあり、林辺ではエゾリスやノネズミも目視された。キウス川の支流でキウス7遺跡に分け入る沢はエゾサンショウウオの生息地であったという。上空には常にノスリ・トンビやおオタカが飛翔回旋していた。キウス川では現在魚影等は確認できないが、低地帯の長都沼には、ワカサギ・フナ・コイ・エビなどが生息していた。また水鳥も多く、キジ・ガン・カモ・ハクチョウ・ツルなどが飛来生息していた。長都沼と連結する千歳川水系はサケの上る川で、ウグイなどの魚も大量に生息している。

千歳市の「中央」という地名は、昭和初期にも使用されていたようであるが、市域の中央であるという意味の「中の里」という原案（1984『千歳市農業協同組合史』）と、長都沼の東岸地帯の中央の意味（長見義三 前掲書）から、昭和26（1951）年に大字廃止字名改正で確定されたと考えられる。それ以前は、キウス・チブニー・オルイカという三字により中央地区が構成されていた。前掲『農協史』や『千歳市史』（1969）によれば、中央地区の開拓は現在の国道337号線の前身である、明治22（1880）年着工、23年竣工の千歳由仁道路（由仁街道）の開削に始まるという。この道路は幅2間・延長5里33町16間におよび、岩見沢千歳間道路の一部として敷設された。当初の開墾は、明治26年に



国土地理院の数値地図2500000(地図画像)『札幌』(平成17年発行)を40万分の1に縮小し、【同巻『石狩低地東線断面帯』】『地質と地景』北海道新聞 2006.8.8】の断面帯等を加筆



【同巻『石狩低地東線断面帯』】『地質と地景』北海道新聞 2006.8.8】をトレース

図Ⅱ-5 石狩低地東線断面帯

広島県からの移住者が、現在の北広島市の開拓を行った団体を頼り、キウスに入植した。同28年には稲作実験も成功し、戸数が増え始めたという(2009 『新千歳市史 通史編上巻』)。当時のキウス・チブニー・オレイカの各河川流域は、熊笹と大木の密林であったといい、現在でも当時を彷彿とさせる情景が中央八幡神社周辺に残っている。神社は明治30(1897)年に八幡宮乎留伊賀神社として建立された。また、明治33年には現中央保育所(旧中央小中学校)の前身である私設木白簡易教育所が浄土真宗の説教所として設けられ、明治35年には公式に認められ、大正4(1915)年に木白尋常小学校となった。大正5年頃にはオレイカ川や長都沼周辺が開墾され、漁場が設けられたという。

昭和6(1931)年、コムカラ峠から追分道路沿いの緩斜面の民有地312町歩が開放され12戸が入植した。『郷土史ケヌフ物語』(1992)によれば、中央地区を南北に縦貫する農業水利の南長沼用水は、明治45年に長沼村議会で建議書が議決され、大正11年南長沼土功組合が発足、同14年に着工し、千歳川開越頭首工からの幹線水路33,000mが竣工したのは昭和2(1927)年であった。また同書によると、由仁街道は昭和11年、石狩東部における北海道第七師団と東北第八師団の対抗大演習の際、砂利敷きの道路に改修されたという。

ちなみに現在の国指定史跡キウス周堤墓群は、明治期の由仁道路開鑿時に周堤2基が南北に貫通掘削されている。大正10年度の河野常吉の調査(1924・1974復刻 『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』)をもとに、集中した5基が昭和5年6月22日道庁告示第844号で、史蹟名勝天然記念物(大正8年法律第44号 現在の「文化財保護法」の前身)「史蹟キウスのチャシ」となった。昭和25年には南長沼用水の改修工事の際、200mほど南に離れた1基から耕作中に石柱が見つかり墓坑が検出されたという。昭和39・40年には千歳市教育委員会名で大場利夫(北海道大学)と石川徹(中央小中学校長)を中心に2基の部分調査が行われ、墓坑等が検出されている(1967 『千歳遺跡』)。さらに昭和40年には由仁道路の拡幅による道路側溝で切断された墓坑が周堤から発見され、石川が調査を手がけている(1969 『北海道考古学第5号』)。そして昭和43年には離れた2基を加えた7基が、北海道指定史跡「千歳キウス環状土籬群」に指定し直された。さらに昭和54年10月23日をもって国指定史跡となった。

前述した遺跡眼前の低湿地帯は、現在は、治水と土地改良等を目的とした昭和26~44年(1951~1969)の国営灌漑排水事業やその後の圃場整備事業・土地改良事業によって、沼や低地の干拓・埋め立て、河川や水路の整備・直線化が行われ、地下および表層の水位が低下し、水田や畑地として利用されている。

昭和の末期、日本道路公団が北海道横断自動車道計画に着手。平成になるとこの周辺にも用地買収や森林伐採の手が入り、前述した発掘調査や建設工事が本格化し、平成11年(1999年)10月道東自動車道の一部として開通、千歳東インターチェンジやキウスパーキングエリアが設置された。さらに当事業の一連の調査と工事により、平成22年12月18日にはキウス5遺跡の位置の中央ランプと新千歳空港インターチェンジ間9.2kmが、道央圏連絡道路の一部として開通、供用され道東自動車道ともアクセスするようになった。

以上のように、近代に入ってから現在まで、遺跡とその周辺を取り巻く環境や実相は、開墾・耕作・工事などで常々変化を余儀なくされている。

(三浦 正人)

4. キウス遺跡群 (図Ⅱ-6・7 表Ⅱ-1)

本事業用地内や千歳市域の遺跡については、これまで当センターが刊行した発掘調査報告書『キウス7遺跡(3)』(1996 北埋調報105)・『キウス4遺跡(5)』(2000 北埋調報144)・『キウス4遺跡(6)』(2000 北埋調報148)・『オルイカ2遺跡』(2003 北埋調報189)・『チブニー2遺跡(2)』(2004 北埋調報207)・『アンカリト7遺跡・アンカリト9遺跡』(2010 北埋調報268)等に記載しており、そちらを参照されたい。

ここでは「キウス遺跡群」について述べる。

中央地区は古くから遺跡が存在することが知られ、大場利夫・石川徹らにより調査が行われてきた(千歳市教育委員会 1967) 経緯がある。「キウス周堤墓群」は現在もその構造を良好に留め、昭和54(1979)年に国の史跡に指定されている。

また、北海道横断自動車道建設工事に伴い発掘調査が行われ、千歳東インターチェンジ～キウスパークキングエリア付近までの東西約180mの範囲に西からキウス4・5・7遺跡がある。

キウス遺跡群について表Ⅱ-1にまとめ、図Ⅱ-6に遺跡の位置と河川を示した。基図は横断自動車道建設に伴う調査着手前、当センターで依頼し作成した「1:10,000地形図」を「1:12,000」に縮小したものを使用した。遺跡の名称・範囲・北海道教育委員会登録番号等は次に記す文献・情報を整理した。

- ・『埋蔵文化財包蔵地一覧表(付 指定文化財) 全道編』(北海道教育委員会 1977)
- ・『千歳市における埋蔵文化財調査(上)』(千歳市教育委員会 1979)
- ・『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』(文化庁文化財保護部 1979)
- ・『埋蔵文化財包蔵地調査カード』(北海道教育委員会)(平成7(1995)年他)
- ・インターネットによる埋蔵文化財包蔵地(遺跡)情報

「北の遺跡案内」http://www2.wagamachi-guide.com/hokkai_bunka/

キウス遺跡群は長沼沼やその周囲の湿地、この中を北流するオルイカ川(現在の第十五号排水川)の流域に立地する。旧オルイカ川周辺は湿地と低位の河岸段丘で、この段丘は東方向へ高くなり馬追丘陵の裾部へ続く。この段丘には、西流し旧オルイカ川に注ぐ河川(モウシ川(チャシ川)・キウス川)と旧河川と考える谷地形(ここでは「無名沢」と呼称する)がみられる(図Ⅱ-6)。なお、表Ⅱ-1は河川ごとに遺跡をまとめ、上流部に位置するものから記載した。

キウス周堤墓群は大正13(1926)年河野常吉により「キウスのチャシ」と報告され、先住民族(アイヌ民族)のものと理解された(河野 1926)。太平洋戦争後でも「チャシ」としてのいくつかの論考がみられる。1950年頃、南長沼用水の工事で石柱が発見され、河野広道が墳墓を発掘し遺跡の性格が判明した(千歳市教育委員会 1967)(キウス7号周堤墓)。

本格的な発掘調査は1964・1965年に行われた大場・石川によるもので、環状土籬の発掘では火山灰層にも着目し盛土の層位を記録し、内部の墓壙を調査、出土した土器(キウスⅠ・Ⅱ・Ⅲ式)を関東地方の土器型式(安行式)に対比させ、縄文時代後期末～晩期前半頃の年代の大規模な盛土とその内部に複数の墓を有する遺跡であることが報告された。両年のうち1965年の調査は「キウス環状土籬第2号(第2号周堤墓)が道路改修工事で埋没のおそれがあるので緊急発掘をする。」(前掲書)との目的で行われている。これらの調査を踏まえ、昭和43(1968)年12月18日付けで「千歳キウス環状土



図II-6 キウス遺跡群

籬群」として、北海道指定史跡となった。(現在 国指定史跡) 改修された道路とは千歳と由仁を結ぶ「由仁道路」(明治年間開通)、現在の国道337号であり、第2号・第4号周堤墓を分断している。なお、『千歳遺跡』では環状土籬群・キウス平地住居址・キウス遺物包含地を「キウス遺跡」としてまとめている。キウス遺跡群は、以上のように周堤墓の調査を中心とした学史的背景がある。

キウス遺跡群の各遺跡について、旧オリカ川に注ぐ河川ごと、上流に位置するものから述べる。丸括弧内の数字は北海道教育委員会登録番号である。

「チャシ川(モウシ川)流域」

中流域の左岸に「国指定史跡 キウス周堤墓群」があり、河川近くにあるものは、北からキウス11号周堤墓(86)・キウス4号周堤墓(79)・キウス1号周堤墓(76)・キウス3号周堤墓(78)で、これに平行する位置に、北からキウス5号周堤墓(80)・キウス12号周堤墓(87)・キウス2号周堤墓(77)がある。対岸には単独でキウス6号周堤墓(81)がある。いずれも縄文時代後期で、先に述べたように1号と2号は発掘調査が行われ、昭和53(1978)年には、史跡指定をひかえて、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターにより測量調査がなされた。下流の右岸には中央目黒遺跡(95)があり、縄文時代後期・晩期の遺跡で、人面土器等の遺物が出土しているという。さらに下流の兩岸はキウス1遺跡(89)で、縄文時代後期・晩期のマウンド状の遺構や平地住居跡が調査された(千歳市教育委員会 1967)。

「無名沢」

上～中流部にあたるゆるやかな谷地形をはきんで、南側にキウス5遺跡(93)、北側に縄文時代後期のキウス3遺跡(91)がある。この沢は南長沼用水付近で北西方向に向きを変え、右岸に縄文時代後期のキウス7号周堤墓(82)、左岸にはキウス4遺跡(92)がある。キウス4遺跡はこの沢と南側を流れるキウス川の間の低位の段丘に立地し、北海道横断自動車道本線と千歳東インターチェンジの場所にあたる。平成5(1993)年の詳細な試掘調査を皮切りに、当センターが平成10(1998)年まで発掘調査した。無名沢近くの北側部分(主に本線部分)では縄文時代後期の周堤墓・盛土遺構・道跡を確認し、あらたに周堤墓も発見し、所在が不明確であった大場・石川の報告(1967)にあるキウス8号・9号・10号環状土籬がキウス4遺跡内に位置し、盛土遺構であることを明らかにした。また、出土土器から縄文時代後期後半の土器編年が示された(阿部 2000)。また、北西側部分では縄文時代早期・前期の住居群を調査した。キウス2遺跡との境界付近は別事業で千歳市教育委員会が調査した。ここより下流の左岸にはキウス2遺跡(90)があり、航空写真判読から周堤墓が複数存在することが推測されている。

「キウス川」

上流部は左岸にキウス7遺跡(265)、右岸にキウス5遺跡(93)がある。キウス7遺跡の東側の谷をはきんでキウス8遺跡(275)、南側の緩斜面にキウス6遺跡(242)がある。前者は縄文時代中期・晩期の遺跡で、後者は同晩期の遺跡である。キウス7遺跡は北海道横断自動車道本線とキウスパーキングエリアあたり、平成5(1993)年から平成11(1999)年まで当センターが発掘調査し、縄文時代後期・晩期を主とする遺構・遺物を確認した。キウス5遺跡はキウス川の右岸と低位部(旧河道)の広範囲の旧石器時代～アイヌ文化期の多時期にわたる遺跡で、北海道横断自動車道建設に伴い平成6(1994)年から平成9(1997)年まで、当センターと千歳市教育委員会 埋蔵文化財センターが調

査し、平成15(2003)年から平成21(2009)年まで道央圏連絡道路建設(本事業)に伴い、当センターが発掘調査した。台地部では旧石器ブロック、縄文時代中期の集落跡、晩期の墓等の土坑群、擦文文化前期の集落跡を、低部位では近世アイヌ文化期の畑跡や建物跡を確認し、二十万点を超える遺物が出土した。特に低部位のアイヌ文化期の畑跡は道央部では新発見の事例である(三浦 2008)。中流部の対岸にはキウス9遺跡(279)があり、本事業に伴い当センターが調査し、石刃礫70点や縄文時代早期・前期・後期・晩期の遺構・遺物、擦文文化前期の集落跡・鍛冶遺構、アイヌ文化期の平地住居跡を確認した。直線に河川改良された下流部の右岸には縄文時代後期のキウス川遺跡(94)とキウス4遺跡(92)がある。キウス4遺跡の南側部分では、縄文時代後期の南側盛土遺構や多数の建物・柱穴群を調査した(「千歳市キウス4遺跡R地区出土の木製品について」『テエタ12号』2004)。本河川により形成された低湿度もあり、水場遺構・杭列を確認し木製品が出土した。低湿度の存在からキウス川遺跡は左岸に立地していたと考える。

キウス遺跡群は縄文時代後期後半の遺跡が多く、特にキウス周堤墓群やキウス4遺跡にみられる周堤墓や大規模な盛土遺構、これに伴う大量の遺物が特徴であるが、キウス5遺跡では周堤墓の時期である縄文時代後期末葉の遺構・遺物がほとんどみられないことは、遺跡群を考える上で重要な事項と考える。

キウス遺跡群のうち、名称や番号、種別が変更された遺跡があるが、これまで報告書等にこの経緯についての記述はなされていない。前記した五つの文献・情報の内容を整理し、名称や番号等の基本的情報が共通認識されるよう以下にまとめた。

なお、以下の本文中の数字は、**【ゴシック体太字】**は現在の北海道教育委員会登録番号、**[ゴシック体斜字太字]**は旧番号、**〈明朝体斜字太字〉**はこれよりも古い旧番号を示し、**各番号は表Ⅱ-1で対照**できるようにした。

大場・石川による調査報告『千歳遺跡』(千歳市教育委員会 1967)では、「キウス遺物包含地」の調査では「A、B、Cの三区域を設定(中略)A区域は2.5×3m、B区域は2.5×3m、C区域は4×4mに区分(中略)調査総面積は31㎡である。」との記述(65・66頁)があり、図23(47頁)にこれらの区域と平地住居跡の位置関係が示されている(再トレース・縮小して本書 図Ⅱ-7に掲載)。

河川は西流するチャシ川で、これに面する斜面(等高線40~280の値は、川面付近を0とした比高差考えられ、この台地の川面からの高さは280cmすなわち2.8mである)に位置する「キウス遺物包含地」に約30㎡の調査区を設定し、これを便宜的にA・B・Cに区域分けした。また、「キウス平地住居跡」の位置は、図上で計測するとA・B・C区域の交点から概ね東へ約26mである。

10年後の1977年刊行の『埋蔵文化財包蔵地一覧表(付 指定文化財) 全道編』(北海道教育委員会 1977)では、キウスA遺跡 [11]・B遺跡 [10]・C遺跡 [12] が記載された。A・B遺跡の種別は遺物包含地で、平地住居跡の「集落跡」は記載がなく、C遺跡は「墳墓」で「昭和43年12月18日付で北海道の指定史跡」との記述がある。同様に「墳墓」で史跡に指定されているものはキウスD遺跡 [13]・キウスE遺跡 [14]、キウスF遺跡 [15]、キウスG遺跡 [16]、キウスH遺跡 [17]・キウスI遺跡 [18]・キウスJ遺跡 [19] の合計八か所で、これらは周堤墓(環状土籬)である。

2年後の『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』（文化庁文化財保護部 1979）でも、上記のキウスA～J遺跡が「道番号」として前掲書と同じ番号【10～19】で、A・B遺跡の種別は散布地で集落跡はみられず、C～J遺跡は墳墓の記号で示されている（周堤墓（環状土籬）：八か所）。また、この道番号【10～19】に対して「旧番号」【29～38】の記載もある。

一方、同年の『千歳市における埋蔵文化財調査（上）』（千歳市教育委員会 1979）では、キウスA・B・C遺跡名称はみられず、「89. キウス1遺跡」で、種別は住居址・遺物包含地、備考に大場・石川が発掘調査との記載がある。また、「76.～88. キウス1～13号環状土籬」の遺跡名が記載され、丸括弧でくくった「旧称」として（キウスD・E・F・G・H・I・J遺跡）が列記されている。種別はすべて「環状土籬」で、測量調査等による新発見のものも加え、単独の遺跡としての周堤墓は十三か所となる。

16年後の「埋蔵文化財包蔵地調査カード」（北海道教育委員会 平成7（1995）年2月1日付）で、キウス1遺跡・キウスA～J遺跡・キウス1～13号周堤墓・キウス1～13号環状土籬の名称を調べると、

「キウス1遺跡」	【89】	：「旧称 キウスA・B・C」
「キウス1号周堤墓」	【76】	：「旧称 キウスG」
「キウス2号周堤墓」	【77】	：「旧称 キウスI」
「キウス3号周堤墓」	【78】	：「旧称 キウスF」
「キウス4号周堤墓」	【79】	：「旧称 キウスE」
「キウス5号周堤墓」	【80】	：「旧称 キウスH」
「キウス6号周堤墓」	【81】	：「旧称 キウスD」
「キウス7号周堤墓」	【82】	：「旧称 キウスJ」【19】
「キウス11号周堤墓」	【86】	：旧称記載無し
「キウス12号周堤墓」	【87】	：旧称記載無し
「キウス13号周堤墓」	【88】	：旧称無し

- * 「キウス13号周堤墓」は試掘調査で周堤墓でなく大規模な攪乱であることが確認され「オルイカ1遺跡」に名称変更された。（平成14・15（2002・2003）年 当センター調査 北埋調報188・206）。
- * 遺跡番号は1979年の千歳市教育委員会の番号【新番号】と同じになり、1977年の北海道教育委員会・1979年文化庁文化財保護部の番号【旧番号】の記載は「キウス7号周堤墓」（キウスJ遺跡）にのみ記載がある。昭和53（1978）年頃のカードは、
 掲載番号：【19】→【82】 遺跡名：キウスJ→キウス7に手書きで訂正され、新カードでは名称を「キウス7号周堤墓」の名称で作成されている（平成7年2月1日付）。
- * 「環状土籬」と「キウス（アルファベット）遺跡」の名称はなくなり、「キウス（算用数字）周堤墓」・「キウス（算用数字）遺跡」となり、前者は周堤墓遺跡の名称に、後者は包蔵地（包含地）等の一般的な遺跡に整理され、周堤墓は十二か所である。

以上のことから、

①：キウスA・B・Cの名称は大場・石川の調査時の「キウス遺物包含地」の区域分け名称（約31㎡）

である。これら地区名とキウス遺跡名称は、次の二つの解釈となる。

- ⑦：これら区域名をそれぞれ独立させた遺跡として**キウスA・B・C遺跡**としそれぞれ番号を付した。
- ⑧：「キウス遺物包含地」(A・B・C区域)を**キウスA遺跡**、「キウス平地住居址」を**キウスB遺跡**、現在のキウス11号周堤墓を**キウスC遺跡**としたと両者の可能性が考えられる。

- ②：北海道教育委員会は、キウスC遺跡の遺跡種別を「墳墓」(＝「環状土籬」)、キウスA・B遺跡は遺物包含地と記載した。

①の⑦であるなら、キウスC遺跡は環状土籬であり、「キウス遺物包含地」のC地区と混同した可能性は低く⑧である可能性が高いが、⑦であるならば、キウスB遺跡の遺跡種別は「集落跡」と記載されるべきであるが、「遺物包含地」とあり断定できない。

また、「第(算用数字)号環状土籬」で呼称されていた遺跡名称を、「**キウスC～J遺跡**」とし、文化庁の『全国遺跡地図』では、〈旧番号〉：(29～38)と「道番号」：[10～19]が掲載されている。この地図におけるC遺跡の位置は現在のキウス11号周堤墓で、A遺跡は『千歳遺跡』の「キウス遺物包含地」、B遺跡は同書「キウス平地住居址」と概ね一致する。なお、「道番号」に対する旧番号が付された時期、そして、これが変更された経緯は不明である。

- ③：千歳市教育委員会は、遺跡名称は「**キウス(算用数字)号環状土籬**」とし「キウスD～J遺跡」を旧称とした。番号は76.～88.である。また、キウスA・B遺跡の名称はなく、番号89.「**キウス1遺跡**」(住居跡・遺物包含地)で、『千歳遺跡』の「キウス平地住居址」と「キウス遺物包含地 A・B・C区域」がこれに相当する。また、「キウス11号環状土籬」の項目に「**キウスC遺跡**」は旧称としての記載もない。

- ④：平成7(1995)年2月、北海道教育委員会は「埋蔵文化財包蔵地調査カード」を整理し、遺跡名称を「**キウス(算用数字)号周堤墓**」とし、現在の遺跡番号【76～82・86・87】を付し、これは千歳市教育委員会の番号(数字.)と一致する。「環状土籬」・「キウスC～J遺跡」の名称を「キウス(算用数字)号周堤墓」と「キウス(算用数字)遺跡」とし、周堤墓は遺跡登録番号と遺跡名称・旧称が一致した。しかし、キウス11号周堤墓とした**キウスC遺跡**は、同調査カードの**キウス1遺跡【89】**に「旧称：A・B・C遺跡」との記述があり、かつてキウスC遺跡を墳墓遺跡(環状土籬)としたが、これを再整理しキウス1遺跡に統合したことの説明はない。

- ⑤：キウス1遺跡は、大場・石川による調査時に区域分けされたA・B・C区域、すなわち、「**キウス遺物包含地**」と「**キウス平地住居址**」を統合した遺跡で、種別は集落址・包蔵地(包含地)である。

* 千歳市教育委員会

キウス(アルファベット)遺跡名は旧称として扱い、A・B・Cは用いていない。

キウス1遺跡＝キウス遺物包含地(A・B・C区域)と「キウス平地住居址」

キウス11号環状土籬＝キウス11号周堤墓

*北海道教育委員会

キウスA遺跡=キウス遺物包含地(A・B・C区域)、あるいは、キウス遺物包含地のA区域

キウスB遺跡=キウス遺物包含地B区域、あるいは、キウス平地住居址

キウスC遺跡=キウス遺物包含地C区域、あるいは、キウス11号環状土籬=キウス11号周堤墓

後者の解釈であるが、④で旧称：C遺跡をキウス1遺跡に統合している記載があることから、混同した時期があると推測する。

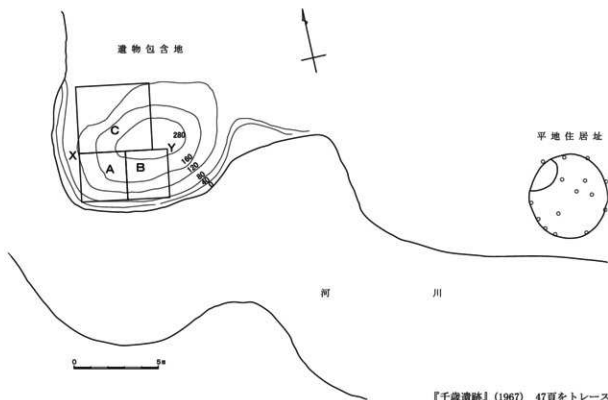
⑥：キウス8・9・10号周堤墓は、昭和62（1987）年の北海道教育委員会による所在確認調査で、キウス4遺跡内に位置することが明らかとなり、「登録抹消に係る内容変更手続きは昭和63年1月に行われ」（藤原 2000）、平成10（1998）年に登録抹消された。実質これはキウス4遺跡に統合されたとみなせる。その後、発掘調査で盛土遺構であることが確認された（北理調報144）。

これらの掲載番号【83・84・85】は欠番となり、現在、単独の遺跡としての周堤墓は「キウス1～12号周堤墓」【76～82・86・87】の九か所である。

なお、キウス遺跡群に関する文献は、巻末の「引用参考文献」で文献名の前に「*」を付した。

（末光 正卓）

第23図 キウス平地住居址と遺物包含地の位置図



図II-7 キウス1遺跡（キウスA・B・C遺跡 平地住居址）

表II-1-1 キウス遺跡群（千歳市 A-03）(1)

遺跡番号(国・道・市町村)	遺跡名	旧名称等	河川・谷	主な報告書・文献	調査年	調査者	調査時期	遺跡の概要	備考
【065】	—	キウス11号遺跡 現(土庫)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 周堤墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【070】	【14】	キウス4号 現(土庫) (キウスC?)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【075】	【16】	キウス1号 現(土庫) (キウスG)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【075】	【18】	キウス3号 現(土庫) (キウスF)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【080】	【17】	キウス5号 現(土庫) (キウスH)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【087】	—	キウス12号 現(土庫)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【077】	【18】	キウス2号 現(土庫) (キウスI)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
【081】	【19】	キウス6号 現(土庫) (キウスD)	キウス川 (モウシ川)	『千歳遺跡』 1967	昭和53 (1978)年	大塚利夫 石川 敏	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)
				『千歳遺跡』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周堤墓 土庫墓	昭和53年キウス周堤墓群 遺跡調査(発見?) 土庫調査(発見?) (土庫番号不明)

表Ⅱ-1 キウス遺跡群（千歳市 A-03）（2）

遺跡番号（国・道・市町村）	遺跡名	田名・地番等	河川・谷	主な報告書・文献	調査年	調査者	遺跡の概要		備考
							主な時代	主要遺構	
【085】	—	—	キウス川 (キウス川) 下流部	『千歳市における 埋蔵文化財調査(上)』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期・晩期	土器 石器 ・石斧・石鏃 ・土器・土製品 人形土器・土製品 目付器等	1964年 A・B・Cの区域に分け て発掘調査 合計面積1.6d
【086】	【11】 【10】 【12】	キウス遺跡 キウス平地居住址 キウス遺跡付帯地 (A・B・C区画指定)	キウス川 (キウス川) 下流部	『千歳遺跡』 1967 『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』 1979	昭和59・60 (1984・1985)年	大塚幸夫 石川 敬	縄文時代 後期	マウンドの遺構 中地居住跡	『千歳遺跡』図23を本報告書 図2-1にて再掲載 図録番号 キウスA:11-80 キウスB:10-20 キウスC:12-5(1-4遺構を除く) を102に統合
【087】	—	—	キウス川 (キウス川) 上流部	『千歳市における 埋蔵文化財調査(上)』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周濠遺構 竪穴	1960(昭和35)年 沼田沼田水工事に伴って 埋蔵(集積)土器 河野広遺跡調査 「キウスのナカキ」 遺跡と併記するためにより 図録25を統合
【088】	【19】	キウス1号周濠遺構 周濠土層 (キウス1)	無名沢? 中流部	『千歳市における 埋蔵文化財調査(上)』 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	周濠遺構 土層(立石) 底土遺構 (土層付録) 中地居住跡	埋蔵自動車遺跡的に伴う 「詳細土器調査」の調査
【089】	—	—	キウス川 下流部	『キウス4遺跡における 考古学調査』 千歳市文化財調査報告書 X.X.Ⅷ 1997	平成5 (1993)年	東北道 埋蔵文化財 センター	縄文時代 中期・後期 ・晩期	土器 石器 銅種木製品 カワランジュガイ	埋蔵自動車遺跡的に伴う 「詳細土器調査」の調査
【090】	—	—	キウス川 下流部	『千歳市 キウス4遺跡(2)』 北沢潤一郎1997 『千歳市 キウス4遺跡(3)』 北沢潤一郎1998 『千歳市 キウス4遺跡(3)』 北沢潤一郎1999	平成5 (1993)年 平成8 (1996)年 平成9 (1997)年	東北道 埋蔵文化財 センター 東北道 埋蔵文化財 センター	縄文時代 後期	土器 石器 土製品(石) 土器・石器 (土層・中地) 中地居住跡 埋穴居住跡 土瓦	埋蔵自動車遺跡的に伴う調査 「詳細土器調査」の本報告 書中中央部埋蔵自動車遺構工事

表II-1 キウス道跡群（千歳市 A-03）(5)

登録番号（国・道） [区] / [] 田 <	道跡名	田名帖等	河川・谷	主な報告書・文献	調査年	調査者	道跡の概要		備考		
							主な時代	主な道跡			
【083】	キウス8 道跡	—	無名次 上ノ字道 キウス川 上ノ字道部	『千歳市 キウス8 道跡(5)』 北洋調査284、2010 2006・2007・ 2008・2009年	平成15・16・18・ 19・20・21 (2006・2007・ 2008・2009年)	株式会社 理道文化財 センター	縄文時代後期 縄文文化期	野穴住居跡 土坑	主な道跡 土器、石器 土器、石器 原始土器、片鉄 刀子	本報告書 (縄文時代後期-縄文文化期報告) 道跡調査報告書(本事業) に伴う調査	
【275】	キウス8 道跡	—	キウス川支流 上成道	インターネットによる 増進文化財発掘(道跡)情報 「北の道跡案内」	—	—	縄文時代 中期・後期	土器、土器 礫石器、礫	—	—	—
【242】	キウス6 道跡	—	キウス川支流 中成道	インターネットによる 増進文化財発掘(道跡)情報 「北の道跡案内」	—	—	縄文時代 後期	土器	—	—	—
【279】	キウス5 道跡	—	キウス川 内ノ支流	『千歳市 キウス9 道跡』 北洋調査252、2008	昭和47・18 (2005・2006)年	東北函館 理道文化財 センター	縄文時代 前期・中期・後期 縄文文化期 アイヌ文化期	甲種住居跡 埋没住居跡 野穴住居跡 貯蔵遺構	土器、石器 石刀、石鏃 石丸、石斧 石石刀、石石 鉄製品、土口	道の調査報告書(本事業) に伴う調査	—
【084】	キウス川道跡	—	キウス川 下成道	「千歳市における 増進文化財調査(上)」 1979	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	土器	—	—	—
【83】	1968 (平成10年) 野跡住居	—	キウス8 号 副(土器)	「千歳道跡」 1967	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	盛土遺構?	—	キウス8 道跡内に位置する と推測されている	—
【84】	1968 (平成10年) 野跡住居	—	キウス9 号 副(土器)	「千歳市における 増進文化財調査(上)」 1979	昭和53・40 (1984・1985)年	大沼町 石川 敏	縄文時代 後期	盛土遺構	—	北洋調査144 (藤原 2000)	キウス8 道跡の発掘調査により と判明
【85】	1968 (平成10年) 野跡住居	—	キウス10号 副(土器)	「千歳道跡」 1967	昭和53 (1978)年	千歳市 教育委員会	縄文時代 後期	盛土遺構	—	北洋調査144 (藤原 2000)	キウス8 道跡の発掘調査により と判明

Ⅲ章 調査の概要

1. 発掘区の設定 (図Ⅲ-1 表Ⅲ-1)

(1) 調査グリッドの設定

グリッド設定は札幌開発建設部作成の「一般国道337号千歳市新千歳空港関連用地測量(中央工区)用地平面図」(平成12年2月調査)を基本図とし、工事用地内の調査範囲を網羅し設定した。

はじめに、工事用地内のセンターラインを示す中心杭「10600」と「10700」を基点とし、前者から後者へと直線で結び「第1基軸線」(南北方向のライン)とした。次に「10600」で第1基軸線と直交する線を「第2基軸線」(東西方向のライン)とした。 「10600」と「10700」を結ぶ第1基軸線は、直線距離が100.0m、方向角 $11^{\circ} 19' 40''$ である。

南北方向の第1基軸線を「75ライン」とし、これと平行する線を4mごとに設定した。75ラインから西側へ74、73…と値が小さくなり、東側へ75、76…と大きくなる(数字(B))。

これと直交する東西方向の第2基軸線を「10ライン」とし、同様に4mごとに平行する線を設けた。これも算用数字(数字(A))で表記し、南側から北側へと値が大きくなる。

以上の手順で、調査区全体に4m四方のグリッドラインを割り付けた。ラインの交点は「数字(A)-数字(B)」で表し、グリッドの呼称はこれら交点のうち南西側の交点とした。

基点「10600」は平成15(2003)年度低位部調査区内の「10-75」、「10700」は平成21(2009)年度台地部調査区内「35-75」である。

なお、調査は複数年度にまたがり、年度ごとに基準点測量・水準測量を行った。その概略を表Ⅲ-3にまとめた。また、平成13(2001)年に測量法の改正に伴い、準拠楕円体の変更され、緯度・経度や平面直角座標の値が変わった。調査着手時は日本測地系で測量を行ったが、最終的には世界測地系でまとめた。

(2) 年度ごとの調査区

年度ごとの調査区は、次のとおりである。

平成15(2003)年度：低位部；南北60ライン付近より東側部分

台地部；同75ラインより東側部分

平成16(2004)年度：東西16～24ラインと南北65～75ラインの範囲

平成18(2006)年度：低位部；南北60ライン付近より西側部分

台地部；南北65ラインと東西24ラインの南西側部分

平成19(2007)年度：南北37～75ライン、東西24～36ラインの範囲

平成20(2008)年度：南北4～37ライン、東西28～35ラインの範囲、調査区西部の南側部分

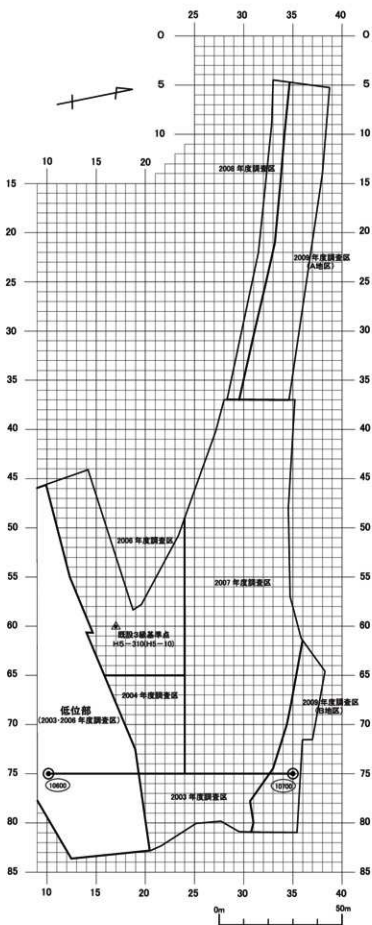
平成21(2009)年度：A地区；南北4～37ライン、東西29～39ラインの範囲

調査区西側の東側部分

B地区；南北61～81ライン、東西30～39ラインの範囲

調査区北西側、北海道横断自動車道と接する部分

なお、平成21年度の「A」・「B」の地区分けは、調査区が離れているため便宜的に呼称したもので、



図Ⅲ-1 調査区設定図

表Ⅲ-1 測量基準点一覧

事業年度 / 号点・基準点等	名称等	種類等	世界測地系		標高 (m)	日本測地系		調査区 グリッド机	備考	
			平面直角座標 (X,Y)座標系	X (m)		Y (m)	平面直角座標 (X,Y)座標系			X (m)
調査区 グリッド設定 の基準点	10000	建設道路 センターライン	地理座標	北緯	東経	17.810	北緯	東経	10-75	2000年度測量 調査区グリッド机
				42°52' 45.696"	141°43' 04.694"		42°52' 36.687"	141°43' 18.204"		
	10100	建設道路 センターライン	地理座標	北緯	東経	17-75	北緯	東経	2000年度測量 調査区グリッド机	
42°52' 48.787"	141°43' 05.502"	42°52' 39.896"	141°43' 18.882"							
グリッド設定基準 10000→10700 (世界測地系)			緯線		100m	方向角		11°1'40"		
国土地理院 設置 与点	第4号 01504	2級基準点 (4)	地理座標	北緯	東経	17.810	北緯	東経	17-60	(点の記) 千歳市中央 中央橋より北方へ約100m
							42°52' 42.018"	141°43' 4.908"		
	H5-310	3級基準点 (H5-10)	地理座標	北緯	東経	25.168 (点の記)	北緯	東経	2000年度測量 調査区グリッド机	(点の記) 千歳市中央1287-1
							42°52' 37.9543"	141°43' 15.8531"		
							16.627	-昭和44年度平均成果 (旧標高)		
平成15 (2003 年度)	日本測地系で実施 上記の与点に加え、開発局設置の仮B M (3級基準点505)も利用し、T S測量により下記の二つの3級基準点を新設。これらから グリッド机を打設 水準測量 (4級) は一等水準点第7322号の副標高を採用し、「H5-30」の決定標高はH=25.156									
	3級基準点 (1) H15-1	2003年度設置	-124,286.570	-43,425.760	27.855	-124,550.031	-43,119.191	2003年度調査区 29-0机机点		
平成16 (2004 年度)	日本測地系で実施 1級基準点「H15-10」(H5-310)と前年度設置の「H15-2」を点検し、これらからグリッド机を打設 水準測量 (4級) は「H5-10」(H5-310.1) (H=25.156) を与点とした。これらからグリッド机を打設 成果を世界測地系に変換									
	3級基準点 (2) H15-2	2003年度設置	-124,355.257	-43,541.692	19.256	-124,618.719	-43,238.002	2004年度調査区 7-15机机点	新設基準点 無し	
平成18 (2006 年度)	世界測地系で実施 既知の3級基準点「H3-10」(H3-310)、「H15-2」等をG P S測量で点検 さらに下記の二つの基準点を新設し、これらからグリッド机を打設 水準測量 (4級) は「B M 1」(H=19.298.7)、「B M 2」(H=26.356.7) を与点とした									
	3級基準点 H18-01	2006年度設置	-124,308.674	-43,530.322	24.968			2007年度調査区 18-56机机点	ケウス川沿岸の ケウス遺跡も 同時に実施 【H18-01】・【H18-04】	
	3級基準点 H18-02	2006年度設置	-124,336.064	-43,487.459	22.848			2003年度調査区 14-68机机点		
平成19 (2007 年度)	世界測地系で実施 既知の3級基準点「H15-1」・「H18-01」をG P S測量で点検し、北海道開発局設置の「H15-301」(H15年7月調査)の3級基 準点を加え、下記の二つの基準点を新設し、これらからグリッド机を打設 水準測量 (4級) は平成19年北海道開発局設置のB M「H19-1」(H=25.025)と「H18-1」(H=26.257) 2006年度のB M (2.7) を与点とした									
	3級基準点 H19-01	平成19年度設置	-124,247.622	-43,497.887	24.968			2007年度調査区 34-01机机点		
	3級基準点 H19-02	平成19年度設置	-124,336.064	-43,487.459	22.848			2009年度調査区 32-35机机点		
平成20 (2008 年度)	世界測地系で実施 G P S測量を行い、電子基準点【長沼】・【厚沢】・【千歳】から下記の3級基準点を新設し、これらからグリッド机を打設 水準測量 (4級) は、整合性を高めるためB M「H18-1」(H=26.257)を点検し、既設3級基準点【H19-2】(H=19.816) と検出し、整合を確認した。 また、新設の3級基準点上に仮B Mを設けた									
	3級基準点 H20-T 1	2008年度設置	-124,288.316	-43,534.385	24.626			調査区外 西向き方向		
	3級基準点 H20-T 2	2008年度設置	-124,305.151	-43,661.809	19.532			調査区外 北側 35-198より北へ約5 m		
	3級基準点 H20-T 3	2008年度設置	-124,199.706	-43,742.372	18.331			調査区外 東側 4-35机より東へ約20m		
	第7322号		一等水準点	2000年度水準点平均成果→		16.4934				千歳市中中央6番地の2 号
第7322号		一等水準点	2000年度水準点平均成果→		16.4934			千歳市中中央6番地の2 号		
平成21 (2009 年度)	世界測地系で実施 G P S測量を行い、電子基準点【長沼】・【厚沢】・【千歳】から下記の3級基準点を新設し、これらからグリッド机を打設 水準測量 (4級) は、整合性を高めるためB M「H18-1」(H=26.257)を点検し、既設3級基準点【H19-2】(H=19.816) と検出し、整合を確認した。 また、新設の3級基準点上に仮B Mを設けた									
	3級基準点 H21-T 1	2009年度設置	-124,284.940	-43,420.697	26.828			B地区		
	3級基準点 H21-T 2	2009年度設置	-124,283.259	-43,514.028	25.627			B地区		
	3級基準点 H21-T 3	2009年度設置	-124,287.367	-43,594.562	21.227			A地区		
3級基準点 H21-T 4	2009年度設置	-124,335.161	-43,661.808	19.509			A地区			

本報告では原則として用いない。また、B地区の北側の調査区境界は、平成8（1996）年度横断自動車道建設に伴い調査された（横断道「C地区」北埋調報116）と接する部分である（VI章4節参照）。

2. 基本層序（図Ⅲ-2 表Ⅲ-2・3・4 カラー図版2）

基本層序はこれまでの横断自動車道建設工事での区分を従い、各層の観察は『土壌調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会1984）・『標準土色帖』（小山・竹原1967）を参考に必要な項目を設け行った。内容は基本層序柱状図（図Ⅲ-2）と表（表Ⅲ-2・3・4）にまとめた。

（1）基本層序

「I層：現地表土」

耕作土や盛土、攪乱層で、T a - a、T a - c、E n - a等の下位層の構成物を含む。76ラインより南西側、低位部に接する台地斜面部は、Ⅶ層上面まで耕作されI層が厚く堆積していた。

「II層：樽前a降下軽石層（T a - a）」

1739年に噴火した樽前山の火山噴出物から構成され、粒径や構成物の違いから、大きく三つのフォルユニットに分け（A～C群）、さらに十単位（U1～10）に細分した。上位部分は削平や耕作を受けている部分も多い。

「III層：第I黒色土層」

約2,000年前～西暦1739年に形成された黒色土層で、縄文時代晩期・続縄文時代・弥生文化期の遺物包含層である。一部、IV層T a - c軽石を含有し、弥生文化期の竈穴住居跡の覆土中や風倒木痕内で「白頭山小牧火山灰（B-Tm）」の薄層が認められた（VI章4節参照）。

「IV層：樽前c降下軽石層（T a - c）」

約2,000年前（縄文時代晩期後半頃）に降下した樽前山の火山噴出物から構成される層である。上位のIV1層はにぶい黄褐色を呈し、下位のIV2層は黒褐色である。これは降下物に起因するものでなく、IV2層は降下軽石・スコリアが下位のV層と混じることで生じた層と考えるのが妥当である。なお、IV層は面的に連続してみられず、存在しない部分ではIII層とV層を明確に分けられず、この場合、近くのIV層との相対的な上下位置から判断した。なおIV層と表記されているものはIV1層である。

「V層：第II黒色土層」

縄文時代晩期以前の遺物包含層である。上位のT a - c軽石が混入する部分がV1層で、これらの混入がみられない下位部分はV2層とした。V層と表記されているものはV2層である。また、平成16（2004）年度の調査で、V層を細分し「V-1層」・「V-1b層」・「V-2層」・「V-3層」・「V-④層」があるが、これらは斜面堆積のV層にまとめる。

「VI層：漸移層」

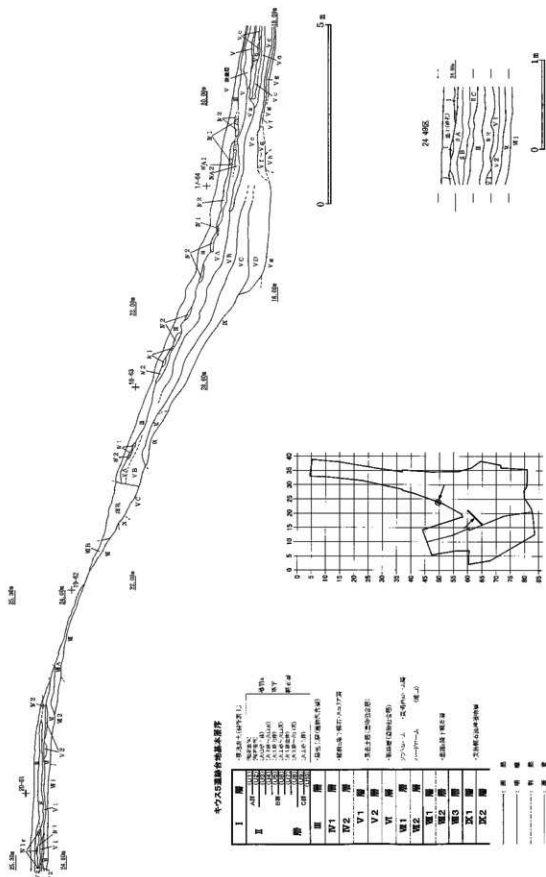
上位の黒色土と下位のⅦ層の間にあり、色調等の漸移的な変化がみられる。

「VII層：黄褐色ローム層」

いわゆる「恵庭のローム層」である。堅密度と2mm以上の礫（恵庭a降下軽石 E n - a）の混入割合から二つ分けた。上位のⅦ1層は堅密度が「堅」で、E n - a軽石の混入が相対的に少なく、下位のⅦ2層は堅密度が「すこぶる堅」で、E n - a軽石の混入が多い。

「VIII層：恵庭a降下軽石層（E n - a）」

恵庭岳が噴出した降下軽石層で、層厚3.5mを超える。明瞭なフォルユニットは認められないが、



図III-2 土層断面図

表III-2 台地部基本層序一覽

層名	名称	層厚 (m)	層序	野外土質	砂・シルト・粘土 (ツブシ) (色)	結核性	変質帯	層相	層 (厚さ? m以上) 土層別 厚さ (m)	形状	層位の 程度	備考	
I層	埋没状土層	平均: 24	褐色	砂壤土	褐色 (DY22/1) 地	弱	軟	Ts-a 軽石, Ts-a 軽石等クラムに散入	(主) 砂 平均: 30 厚: 厚 (主) 砂 平均: 10 厚: 厚	厚 厚	埋没	埋内赤土・埋没層 二層間までの発達している	
	U1	平均: 8	褐色	火山砂含む 細砂の火山砂	褐色								
	A層	平均: 7	褐色	火山砂主体	褐色								
	U2	平均: 2.4	褐色	火山砂主体	褐色								
	U3	平均: 0.5	褐色	火山砂主体	褐色								
	U4	平均: 2.5	褐色	火山砂主体	褐色	(灰白色) 軽石(片)	しょう						
	U5	平均: 1.5	褐色	火山砂主体	褐色	(赤土) 軽石(片) 軽石(塊) 軽石(片)	しょう しょう						
II層	崩下軽石層	平均: 1.5	褐色	砂土	褐色	なし		Ts-a 軽石	(少) 砂 最大: 10 厚: 厚	厚	埋没	埋没	
	U6	平均: 1.5	褐色	火山砂主体	褐色								
	U7	平均: 7	褐色	軽石(片) 火山砂主体	褐色								
	U8	平均: 7	褐色	火山砂主体	褐色								
	U9	平均: 9	褐色	火山砂主体	褐色								
	U10	平均: 9	褐色	火山砂主体	褐色								
	U11	平均: 17	褐色	埋土～ シルト質埋土	褐色	埋没 (DY22/1) 地	中	Ts-a 軽石・X333コア層	最大: 2 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
III層	黒色土層	平均: 17	暗褐色	埋土～ シルト質埋土	暗褐色 (DY22/1) 地	中	Ts-a 軽石・X333コア層	最大: 2 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層		
	IV1層	埋没状土層下 スクリア層	平均: 5	暗褐色	砂土～砂壤土	暗褐色 (DY24/2) 地	弱	軟～堅 軽石・X333コア層	最大: 60 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層の埋没土層 IV1層のうちに埋没しているものも、 「IV1」層と混同	
	IV2層	スクリア層	平均: 8	粘灰	砂土～砂壤土	暗褐色 (DY25/2) 地	弱	軟～堅 軽石・X333コア層	最大: 60 厚: 厚	厚	埋没		
	V1層	黒色土層	平均: 5	暗褐色	埋土～砂壤土	暗褐色 (DY22/1) 地	弱～中	堅	最大: 1 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	V1層	黒色土層	平均: 3	暗褐色	埋土～砂壤土	暗褐色 (DY22/1) 地	弱～中	軟～堅	最大: 3 厚: 厚	厚	埋没		
	V1層	黒色土層	平均: 3	暗褐色	埋土～砂壤土	暗褐色 (DY22/1) 地	弱～中	軟～堅	最大: 3 厚: 厚	厚	埋没		
	V1層	黒色土層	平均: 3	暗褐色	埋土～砂壤土	暗褐色 (DY22/1) 地	弱～中	軟～堅	最大: 3 厚: 厚	厚	埋没		
IV層	真砂色 ローム層	平均: 10	粘灰	埋土～埋没土	明褐色 (DY26/4) 地	弱	堅	埋没土層	最大: 100 厚: 厚	厚	埋没		
	埋没土層	平均: 130	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 100 厚: 厚	厚	埋没	1・2は、 構成する層の厚さに応じて分類	
	埋没土層	平均: 130	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 60 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	埋没土層	平均: 8	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 10 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	埋没土層	平均: 8	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 25 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	埋没土層	平均: 100	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 25 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	埋没土層	平均: 100	粘灰	埋没した 有色土層	明褐色 (DY27/6) 地	なし	すこぶる しょう	埋没土層	最大: 10 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
V層	埋没土層	300以上	埋没状土層	埋没土層	埋没 (DY28/4) 地	中～弱	軟～堅	埋没土層	最大: 60 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	
	埋没土層	埋没状土層	埋没土層	埋没土層	埋没 (DY28/4) 地	中～弱	軟～堅	埋没土層	最大: 60 厚: 厚	厚	埋没	埋没土層	

2mm以上の礫の粒径と混入割合（構成物の量）から、大まかに三つに分けた。Ⅷ1層・Ⅷ2層はほとんどが軽石で、他にこれから遊離した鉱物もみられ、長径2mm未満のものは粒度区分上の「砂」である。Ⅷ1層はⅧ2層に比べて粗粒で、Ⅷ3層は砂が多い。

「IX層：支笏軽石流堆積物層（S p f l）」

いわゆる「支笏軽石の堆積物層」で層厚は4mを超える。色調等から二層に分けた。ともに支笏軽石を含有するが、上位のIX1層にやや多く、この部分は明褐色を呈し、下位のIX2層はにがい橙色である。IX1層中には、羊蹄山起源と推測される軽石やスコリアを含む薄層が部分的に認められる。

「X層：破碎礫が集中する層」

IX2層中の低位部近くで部分的に認められる層で、破碎した支笏軽石を主体とする。

(2) 土層断面図

年度ごとに土層断面図を作成したが、平成18（2006）年度の調査で台地平坦部と、斜面部から低位部へ連続する土層断面を記録した。

（台地部）：24-49区調査区南側壁

ⅡA層が削平されているが、これより下位は整然とした層序がみられる。

（台地部～斜面部の肩）：(21-61杭)～20-61杭～19-62杭付近までの範囲

Ⅲ層～Ⅷ1層がみられるが、斜面の肩にいづくにつれ上位の層から順になくなり、地山のⅧ2層・Ⅷ層が露出する。また、Ⅷ層を主体とする二次堆積層（ⅧA層）も認められる。

（斜面部）：19-62杭付近～17-64杭付近までの範囲

斜面上位から下位へ層が厚くなり、斜面部の肩の土層が下位へ堆積した斜面堆積である。断続的にみられるⅣ層より上位をⅢ層と判断し、Ⅳ層も斜面を移動していると考えられる。斜面部のⅤ層は含有物を手がかりにⅤA層・ⅤB層・ⅤC層・ⅤD層の四つに分層し、ⅤA層は支笏軽石の含有量によりⅤA1層とⅤA2層に分けた。ⅤB層は支笏軽石を全く含まず、ⅤC層は支笏軽石を含む。これより下位、地下水の影響で生じた鉄盤層がみられる層をⅤD層とした。

（低地部）：17-64杭付近～(16-65)杭付近までの範囲

17-64杭付近から各層は水平に堆積する。Ⅲ層はE n - a 軽石を含み、Ⅴ層もT a - c ・ E n - a ・ 支笏軽石を含有するので二次堆積と判断される。下位部分には水成の砂礫層や粘土層がみられ、野外土性や色調、含有物のあり方等により、Ⅴa層～Ⅴh層に分層した。このうちⅤe層は斜面から連続する黒色土層で、E n - a 軽石をわずかに含むので二次堆積層と考えるが、腐植生成作用によりその場で生じた可能性もある。これ以外は礫・砂・粘土の互層である。

3. 調査の方法

各年度共通する基本的な方法は、はじめに建設機械によりⅠ層～Ⅱ層下位までを除去し（表土・火山灰除去）、次に人力で残りのⅡ層を除去、包含層が残存する部分と削平されている部分を確認した。下位の包含層（削平されていない部分はⅢ層第Ⅰ黒色土層）上面を精査し、必要に応じ地山（Ⅷ層）まで先行してトレンチ調査・25%調査等を行い、土量や遺構・遺物のあり方の情報を集約・検討し全体の調査計画をたてた。Ⅲ層の遺構・包含層を調査し完了後、Ⅳ層を人力で掘り下げ、Ⅴ層（第Ⅱ黒色土層）上面を検出し、遺構調査・包含層調査を行ってⅦ層上面で調査完了とした。

遺構調査の手順は平面で確認した後、トレンチ・半截等で土層断面を観察し、壁・床面あるいは底面、覆土あるいは埋土の状況を確認し、遺構であるか判断をした。次に土層断面を記録し全体を掘り上げ完掘した。住居跡は付属遺構の調査を行なった。遺物は出土状況や出土位置を記録したが、多数出土した場合は、土器の小破片やフレイク等は層ごとにまとめて取り上げた。

包含層調査は、層ごとに掘り下げ、出土遺物はグリッド・層ごとに取り上げた。掘り下げた面では、土色や遺物の出土状況を確認し、遺構の可能性があるものは先行トレンチ調査等を行った。また、土器の大きな破片がまとまっている状況や破片が集中しているものは、土器集中として出土状況を記録した。石（礫）も出土状況から配置・集中のあり方が人為的なものは記録した。

旧石器ブロックは原則出土位置を記録したが、フレイク・チップ等の微細な遺物は小グリッドを設定して取り上げたものや、土壌水洗選別で検出したものもある。旧石器の中には、V層中位～VI層や遺構の覆土から出土したものもあり、これらは出土位置を記録し、周囲のVII層（黄褐色ローム層）まで掘り下げて、遺構・遺物の有無を確認した。

地形測量図は調査の進行状況に合わせ、III層上面・V層上面・VII層上面（最終面）を作成した。

本遺跡台地部の主たる時期は、旧石器時代・縄文時代中期後半・同晩期後半・擦文文化期前期であり、他に縄文時代早期後半・同後期前半・続縄文時代後半の遺物もある。

年度ごとの概要を追記する。

・平成15（2003）年度

表土除去後、平坦部はIII・IV層までとVII層上面まで削平されていた部分があり、斜面部は中腹から下部分はすべてVII層上面まで削平されていた。削平されていない部分は包含層調査を行った。V層上面でくぼみが数か所みられ、これらは縄文時代中期の竪穴住居跡であり、並行して調査した。VII層上面まで削平されていた部分では、遺構は黒色土のまとまりで認識された。

・平成16（2004）年度

表土除去後、斜面部のV層の堆積が厚いことが予想され、先行トレンチを設け調査し、台地の肩部はVII層上面まで削平されている部分があった。縄文時代中期の遺構を調査し、斜面での包含層調査では土層の堆積に伴い遺物が二次的に移動しているのを確認した。

・平成18（2006）年度

表土除去後、II層T a - a 軽石が厚く堆積するくぼみが複数みられ、低位部へ接する南西側の調査区は削平され包含層は残存していなかった。また、砂利道として利用されていた部分（南北50～58ライン・東西方向12～14ラインの間付近）はVIII～IX層まで削平されており、台地部の南端部は露頭で、VII層より下位の層位を観察した。また図III-2（本章II節）に示す台地部から低位部への層位を記録した。

II層が堆積するくぼみは擦文文化期の竪穴住居跡で、周囲の掘り上げ土も調査した。III層の遺構・包含層調査完了後、V層では竪穴住居跡や焼土列（縄文時代中期）を調査した。台地南端部の露頭近くで旧石器ブロックを確認しこの崖下に堆積する崩落土からも旧石器が採集できた。

・平成19（2007）年度

表土除去後のIII層上面の状況は、西側でII層が堆積する擦文文化期の住居跡のくぼみや同期の土器集中がみられ調査した。北東側の包含層では多数のV群土器が出土し、ゆるやかにくぼみ数か所みられた。また、部分的に先行トレンチを数条設定して土層を確認したところ、1か所（28-63区付近）から旧石器が多数出土した。III層の遺構・包含層調査を完了後、IV層を除去しV層上面を精査した。北東側部分ではくぼみは明瞭になり数も多くなり、その周囲に掘り上げ土層も認められた。このくぼ

みはV2層が落ち込み、そこにIV層とV1層が堆積し、縄文時代中期の竪穴住居跡が密集・重複する状況であった。これらと焼土列や杭穴列も調査し、並行して包含層調査と旧石器ブロックの調査を行った。

・平成20（2008）年度

表土除去後、II層が堆積する擦文文化期の住居跡のくぼみを確認し調査した。III層の遺構・包含層調査完了後、IV層を除去しV層を調査したが遺構・遺物ともに少なかった。

・平成21（2009）年度

調査区は前年度調査区の北西側のA地区と横断自動車道と接する北東側のB地区である。

表土除去後、A地区ではII層が堆積するくぼみを呈する擦文文化期の住居跡を調査した。B地区ではゆるやかなくぼみがみられ、縄文時代晩期の土器が多く出土した。IV層除去後、A地区では縄文時代の遺物は少なく、平成19（2007）年度の続きの旧石器ブロックを調査した。B地区では、V層上面で縄文時代中期の住居跡が明瞭なくぼみが多数みられ、平成15（2003）・平成19（2007）年度の続く遺構、平成8（1996）年度横断自動車道に伴う調査（横断道C地区）から続くH-7・10（北埋調報116）、焼土列・杭穴列を調査した。

4. 整理の方法

（1）一次整理の方法

現場での遺物の取り上げは「遺跡名（略号：キ5） 出土地点（遺構名・グリッド） 出土層位 遺物種別（土器・剥片石器・礫石器・旧石器・その他に大別） 取り上げ番号（出土位置記録のもの） 取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に遺物を収納した。袋ごと「取り上げ台帳」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」「乾燥」し、設定した基準（本章5節）に従い「分類」した。次に出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。

接合作業を行う土器や旧石器・礫石器・礫（片）は、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名（キ5） 出土地点 出土層位 遺物番号」で、土器の「小破片」等小さいものは注記していない。

（2）二次整理の方法

・土器

土器の接合作業は、残存状態が「良好」・「剝離」のもの（表III-7）を中心に行った。遺構出土土器の接合は遺構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。

接合した破片は復元可能なものを復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、複数の部位のもの、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

・石器等

石器等は縄文時代のもの旧石器に分けた。後者は次報告書で述べる。礫石器の接合を行い、磨製石斧等で接合したものもみられた。これらと残存状態が「完形」・「準完形」

表Ⅲ-5 土器・土製品時期等分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名		
土器	縄文時代	早期	Ⅰ群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群		
				b類	東瀨路式系土器群		
		前期	Ⅱ群	a類	縄文尖底土器群		
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群		
		中期	Ⅲ群	a類	円筒土器上層式・サイベ沢Ⅷ式 萩Ⅰ式・萩Ⅱ式に相当する土器群		
				b類	萩Ⅲ式（天神山式）・柏木川式・北瀨式 に相当する土器群		
		後期	Ⅳ群	a類	余市式・タブコブ式・入江式 に相当する土器群		
				b類	ウサクマイC式・手桶式・ホッケマ式 に相当する土器群		
				c類	堂林式・三ッ谷式・御殿山式 に相当する土器群		
		晩期	Ⅴ群	a類	大洞B式・大洞B'式 それに伴う土器群		
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群		
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群		
		続縄文時代			Ⅵ群	続縄文式土器	
		推文時代			Ⅶ群	推文土器	
時期不明・判断不可能なもの			不明	剥離や磨耗、小破片が多い（報告書では「未分類」と表記した）			
土製品等	土製品	各時代・時期	既知の土製品 名称のあるもの 通称のもの 仮称のもの 紡錘車 耳栓				
	再生土製品	各時代・時期	土器破片を二次的に加工したと考えるもの *各属性で分類した後「備考」に追記する				
その他	その他	各時代・時期	土で製作されたもの 土から生じたもの等 その名称・通称				

表Ⅲ-6 土器部位分類基準

部位・名称	内容	
口縁部	口縁部が残存するもの	あるいは残存しないが、その他の属性から口縁部に近い部位と判断できるもの
底部	底部が残存するもの	あるいは残存しないが、その他の属性から底部に近い部位と判断できるもの
胴部	口縁部・底部・不明・その他以外のもの	
その他	剥落した貼付部分等	
不明	部位を特定できないもの（小破片に多い）	
複数部位（まともり）	複数の部位を有する破片 器の形状を保つ個体土器等 例：口縁～底部まで残存する破片・個体土器	

表Ⅲ-7 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	器の形状を保つ個体土器 破片の表面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り時期判断等に有効な情報が多い
剥離	破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落している状態のもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り時期判断等にやや有効な情報を有する ・胎土の観察に通ずる
磨耗	破片が磨耗している状態のもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考える上で有意な情報を有する
小破片	大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に通ずらず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある。 ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表Ⅲ－8 石器等器種分類基準

石器群	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器群	石刃鏃		黒曜石 頁岩 等
	石鏃		
	石槍・ナイフ		
	石鏃		
	つまみ付きナイフ	「石鏃」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	定型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U = utilized R = retouched	
	両面調整石器		
	石核		
	フレイク・チップ		
礫石器群	磨製石斧		泥岩 片岩 等
	磨製石斧原石		
	磨製石斧転用品		
	研磨石材		
	たたき石		
	すり石	「扁平打製石器」を含む	
	北海道式石冠		
	石鏃		
	砥石		
	台石・石皿		
石製品	名称・通称	玉・大珠 等	各種
礫	棒状原石		黒曜石
	加工・使用痕のある礫		
	礫	自然礫であるが、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	各種

表Ⅲ－9 石器等残存状態分類基準

石器群	分類	内容
剥片石器群・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50%程度のもの
	片	残存する部分が50%程度未満のもの
礫石器群	完形	大きな割れ口が無いもの 割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口を有し、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のもの
	半形	割れ口を有し、完形の状態を想定でき、残存する部分が50%程度のもの
	片	割れ口を有し、完形の状態を想定し難く、残存する部分が50%程度未満のもの
礫	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

表Ⅲ-10 岩石分類体系表

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 多孔質	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	浮岩 (軽石)	岩澤 (スコリア)		
	斑状組織 微晶 石基	黒曜岩 (石)	*		*
半深成岩	斑状組織 微晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	*
深成岩	等粒状組織 完結晶	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	橄欖岩・蛇紋岩
二酸化ケイ素 (ケイ酸 SiO ₂)		66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
有色造岩鉱物 (色指数)		10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
主体的な有色造岩鉱物		黒雲母	輝石		カンラン石 (蛇紋石)
			角閃石	カンラン石	
主体的な無色造岩鉱物		石英 斜長石	斜長石		*
堆積岩					
火山砕屑岩 : 火山噴出物から構成される					
	火山角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む			
	凝灰角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む			
	火山凝灰岩	: 2~32mmの火山噴出物 (火山塵) から主体的に構成される			
	凝灰岩 (溶結凝灰岩)	: 2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される			
砕屑岩 : 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され「層理」がみられる					
	礫岩	: 粒度区分上の礫を50%以上含む			
	角礫岩	: 含有する礫が角ばっている (垂角~角礫状) のもの			
	砂岩	: 粒度区分上の砂を50%以上含む			
	泥岩	: 砂の粒度により「粗粒」・「細粒」に、硬さにより「硬質」・「軟質」等に分けられる			
	泥岩	: 粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される			
		: 粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる			
	頁岩	: 泥岩で固結が強く、貝殻状の割れ口を呈するもの			
		: 頁岩で透明な石英質 (ケイ酸 SiO ₂) 部分を含むもの			
		: 堆積岩と変成岩の中間的なもの			
	球質頁岩				
	粘板岩・千枚岩				
有機岩					
	チャート	: 潜晶質石英 (SiO ₂)			
		: 有機質 (生物遺体)			
		: 無機質			
変成岩 : 変成鉱物から構成される 結晶質					
接触 (熱) 変成岩 : 熱による変成作用を受けたもの					
	ホルンフェルス	: 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの			
広域変成岩 : 熱・圧力による変成作用を受けたもの					
	片岩	: 再結晶化により「片理」がみられるもの			
	片麻岩	: 再結晶化が進行し、「班状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの			
* 石英質 (ケイ酸 SiO ₂) の岩石・鉱物の便宜的な分類体系					
堆積岩					
	チャート				
	フリント	: チャートのうち、明瞭な貝殻状断口を呈するもの 火打ち石			
	珪質頁岩				
変成岩					
	珪岩 (珪石)	: 珪質の岩石が熱・圧力による変成作用を受け、極微粒の石英集合体となったもの			
鉱物					
	水晶	: 無色透明の石英 結晶質			
	碧玉	: 隠微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑~緑褐色			
	玉髓	: 隠微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐~灰色			
	メノウ	: 隠微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉髓の一種			

表Ⅲ-11 岩石（石材）の略号

大項目	小項目	岩石名	英語名	略号
火成岩	火山噴出物	軽石（浮岩）	Pumice	Pum
		岩滓（スコリア）	Scoria	Sco
	溶岩	溶岩	Lava	Lav
	火山岩	黒曜石「岩」	Obsidian	Obs
		流紋岩	Rhyolite	Rhy
		安山岩	Andesite	And
		玄武岩	Basalt	Bas
	深成岩	花崗岩	Granite	Gra
		閃緑岩	Diorite	Dio
斑禰岩		Gabbro	Gab	
堆積岩	火山砕屑岩	火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	Ltu
		凝灰岩	Tuff	Tuf
	砕屑岩	礫岩	Conglomerate	Con
		砂岩	Sandstone	San
		泥岩 （緑色泥岩）	Mudstone (Green Mudstone)	Mud (Gr. Mud)
		頁岩	Shale	Sha
		チャート	Chert	Che
		粘板岩	Slate	Sla
超塩基性岩	蛇紋岩	Serpentinite	Ser	
	橄欖岩	Peridotite	Per	
変成岩	片岩	Schist	Sch	
	片麻岩	Gneiss	Gns	
	ホルンフェルス	Hornfels	Hor	

（表Ⅲ-9）のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮し、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

これらの作業と並行して遺物の集計作業も行い、その結果を出土点数表・出土分布図にまとめた。

5. 遺物の分類

石器は、表Ⅲ-5「土器・土製品時期等分類基準」・表Ⅲ-6「土器部位分類基準」・表Ⅲ-7「土器残存状態分類基準」に示す三つの基準、石器等は表Ⅲ-8「石器等器種分類基準」・表Ⅲ-9「石器等残存状態分類基準」・表Ⅲ-10「岩石分類体系表」に示す三つの基準で分類した。石材は一次整理では表Ⅲ-11「岩石（石材）の略号」に示す内容で表記したが、本報告書では岩石名で記述している。（末光 正卓）

IV章 遺構と出土遺物

1. 概要 (図IV-1・51 表I-1)

台地部のⅢ層で確認した遺構は、竪穴住居跡10軒(UH-1~5・7~11)・土坑3基(UP-16~18)・柱穴状ピット3か所(USP-40~42)・焼土6か所(UF-1~6)、土器集中7か所(UPS-1~7)・礫集中1か所(US-1)・粘土集中1か所(UN-1)である。これらは、縄文時代晩期のUPS-3以外はすべて擦文文化期以降である。このUPS-3と同時期の土器集中(LPS-1~5 *6は縄文時代中期)が下位のV層からも出土しており、これらLPS-1~5についても本書で報告する(図IV-51)。

台地部の地形はキウス川右岸の河岸段丘上の平坦部からこれにかけての斜面部で、すべての遺構は平坦部に位置する。擦文文化期の遺構は調査区の中央付近(南北方向65ライン)から西側で確認され、東側では認められなかった。一方、縄文時代晩期の遺構は、包含層出土の遺物も含め、中央付近(南北方向50ライン)から東側部分にみられる。

遺構の時期は、竪穴住居跡はすべて擦文文化期、土坑はUP-16・18も同時期、UP-17が近世以降で、柱穴状ピットは位置から擦文文化期の竪穴住居跡に関わるものと推測する。焼土は擦文文化期か縄文時代晩期、土器集中はUPS-1・2・4~7は擦文文化期、UPS-3とLPSは縄文時代晩期である。その他、昭和初期と考える炭窯跡(炭窯跡3)を1か所確認した。

なお、番号がないもの(UH-6・UP-1~15・USP-1~20)は低位部のⅢ層の遺構で、報告済みである(北埋調報251)。なお、本章の放射性炭素年代の値は暦年較正年代2標準偏差の値である。

(広田 良成)

2. 住居跡 (図IV-2~47 表IV-1・2・11・15 図版3~22)

UH-1 (図IV-2~4 図版3・4)

位置 13・14-46、14-45区

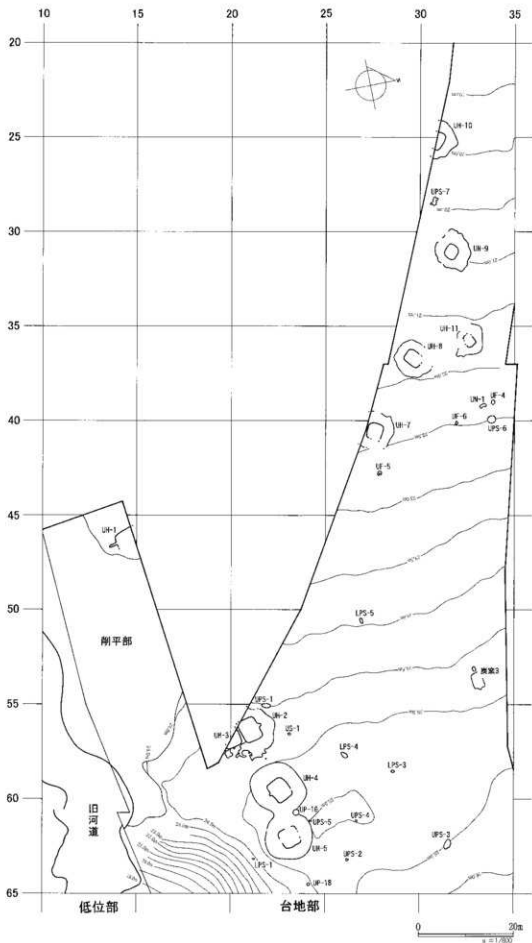
規模 (4.50)×(4.48)／(4.48)×(4.46)／(0.23)m (カマド含まず)

平面形態 方形?

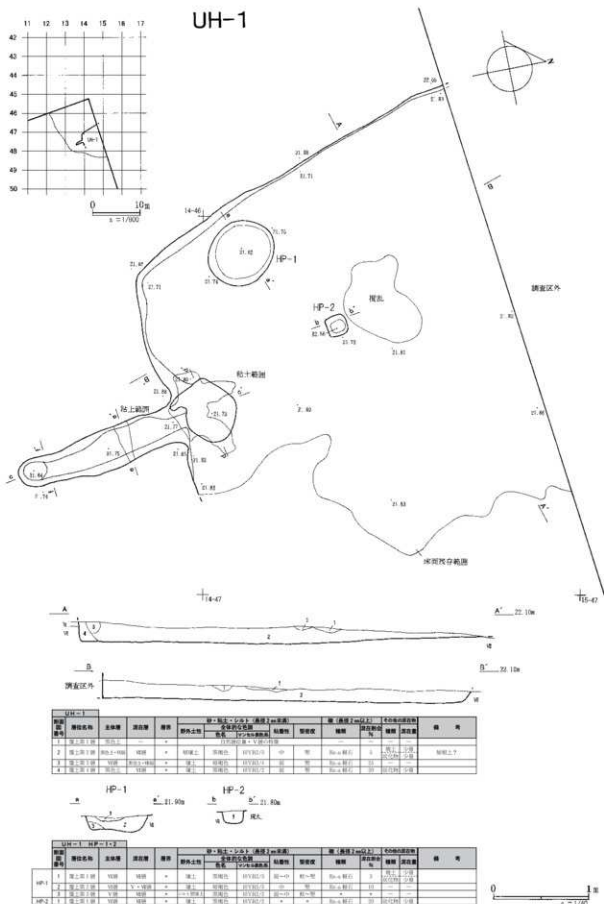
確認 建設機械によるI・II層除去作業後、VI層下位~VII層上面で大きな黒色土の広がりを確認した。周辺を精査したところ、黒色土中に焼土・炭化材を確認したので、遺構と想定し、黒色土の長軸を通るように十字のベルトを設定し掘り下げたところ、焼土と多量の炭化材、カマド、床面を確認したので、竪穴住居跡であると判明した。これの周囲の調査区はVI~VII層まで削平されていた。

調査 焼土のまとまりと炭化材を残し、床面まで掘り下げた。南東側は床面の下位まで削平され、北側は約1/2が調査区外に広がると推測する。床面を精査し中央及び東側部分でピット2基と南側壁でカマドと煙道を確認した。カマドの燃焼部と煙道部はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 全体的に削平され上位部分は残存しない。覆土は自然堆積で四つの層に分けた。色調は黒



図IV-1 台地部Ⅲ層上面地形測量図及び遺構位置図
(南北10~35・東西20~65ライン)



図IV-2 UH-1

色・暗褐色・黒褐色を呈し、Ⅲ・Ⅴ層の黒色土を主体としⅥ・Ⅶ層が混ざるものが多い。覆土第1層は黒色土層、覆土第2層は焼土粒・炭化物・炭化材を含む層で、本遺構の主体的な覆土である。覆土第3・第4層は壁際の三角堆積である。

床 面 残存する部分は概して平坦である。

付属遺構 カマド1か所、ビット1基を確認した。

・カマド

南壁中央部分で黄褐色粘土により構築される。焚口付近は残存状況が悪く、粘土が部分的に残る程度である。カマドの範囲内から大型の土器や礫等は出土しておらず、構築材は粘土のみと推測する。

カマド煙出口 規模 (0.31)×(0.31)/0.26×0.21/0.06m **平面形態** 楕円形

カマド煙道 規模 (1.54)×(0.46)/1.50×0.32/0.09m **平面形態** 溝状

煙道及び煙出口は上部が削平され、底面付近が残存する。煙道～煙出口の長軸は、長さ約1.9m、幅約50cmで、平面は細長い溝状である。また、煙道中央付近に粘土が残存する部分(11層)が認められ、天井部は粘土で構築されたと考える。煙道の底面は焚口から煙口へとゆるやかに傾斜し、煙口部分はさらに低い。覆土はⅢ・Ⅴ層の黒色土主体でⅥ・Ⅶ層が混ざる土層が多く、焼土粒・炭化物を含むものもみられる。

カマド焼土 規模 0.70×0.70/0.16m **平面形態** 不整形

焼土上部及び周辺の焚口付近では、カマド構築材と考える黄褐色粘土が4～5cm程度の厚さで堆積していた。焼土は不整形でみられたが、楕円を基調とする形状と推測する。焼土の厚さは最大約16cmを測る。

・柱穴

HP-2 規模 0.23×0.23/0.15×0.10/0.13m **平面形態** 隅丸方形

中央付近で確認した。小型で掘り込みが浅く、底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

・ビット

HP-1 規模 0.75×0.66/0.62×0.55/0.19m **平面形態** 円形

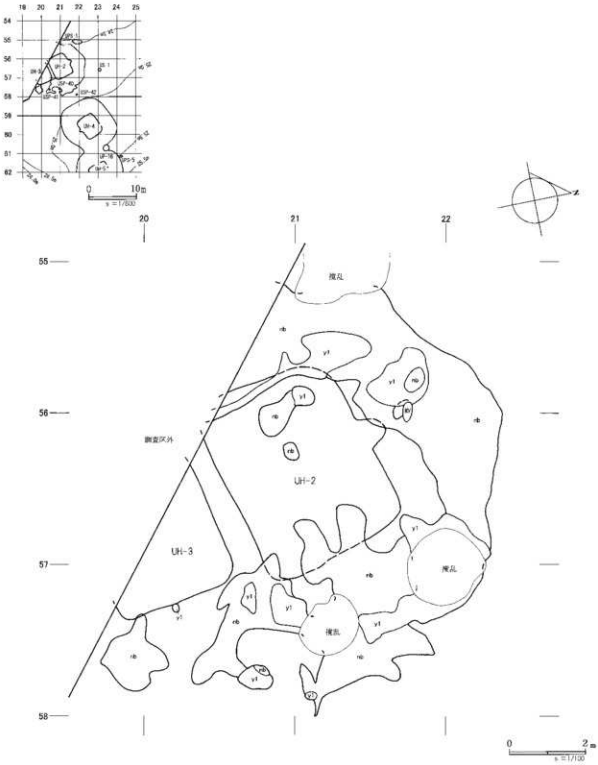
西壁近くで1基確認した。底面は凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。

炭化材 堅穴北西側を中心に床面よりやや高い位置で確認し、炭化材に伴う焼土も認められた。材の長軸方向が壁に直交するものが多いが、平行するものもあった。多くが柱等の構造材で、焼失住居と判断する。遺存状況が良好なものは、放射性炭素年代測定・樹種同定を行った(付篇2・3節参照)。

遺物出土状況 床面直上・床面出土の遺物すべてと覆土出土で大きさ2cm程度以上のものは出土位置を計測し、これら以外はまとめて取り上げた。遺物は北側に多くみられ、遺構の残存状態の影響を受けている。

時期 住居構造と出土土器から擦文文化期前期と考える。放射性炭素年代測定で最も高確率の値は、床面直上出土の炭化材の660-820A.D.である(付篇2参照)。

(広田)



No.	発見時期	発見場所	深さ(m)	形状	埋土の土質・土層・土質			埋土層(埋土層)		備考
					埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	
1	535	+	+	+	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層
2	535	+	+	+	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層
3	535	+	+	+	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層
4	535	+	+	+	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層
5	535	+	+	+	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層	埋土層

図IV-5 UH-2・3掘り上げ土

UH-2・3 掘り上げ土 (図IV-5 図版5)

位置 19～22-55～57区

確認 建設機械による表土除去時、円形のくぼみに堆積するⅡ層とその周囲にⅢ層でない土層がみられ、縄文文化期の遺構であると予想した。

調査 人力でⅡ層を除去、精査したところ二次堆積層であると判断した。色調からb・y・g・y・n b層と分層し、その平面分布図と地形測量図を作成した。Ⅱ層が堆積するくぼみは、縄文文化期の住居跡(UH-2・3)と判明したので、これらの構築に伴う掘り上げ土と考える。しかし、両住居跡が近接していること、機械による表土除去時に両住居間の包含層をV層中まで掘り下げてしまったこと等から、それぞれの住居跡に伴うものを厳密に分けられない。

掘り上げ土 b層はⅢ・V層の黒色土で、y層は黄色の色調、g y層は灰褐色を呈し、UH-2のカマドの煙出口の土と判明した。n b層は、b層すなわち黒色色調を呈さない土層をすべて示す。

遺物出土状況 遺物は包含層出土のものに準じ、グリッドと層位名を掘り上げ土(略号: H層)とし取り上げた。

時期 層位的にはⅡ層より古く、UH-2・3に伴うので縄文文化期前期と考える。

(末光 正卓)

UH-2 (図IV-5～11 図版5・6)

位置 20・21-55～57区

規模 5.22×4.02/4.75×3.70/0.74m (カマド含まず)

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面で円形を呈するⅡ層の堆積が認められた。精査したところ、二次堆積層(掘り上げ土)と明瞭なくぼみを確認した。これの中央を通るよう十字状に土層観察用のベルトを設定し、両側に設けたトレンチを掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが認められ、規模から住居跡と考えた。

調査 各トレンチを掘り広げるように、床面及び壁を確認しながら調査した。覆土中で多数の炭化材や焼土が認められ、これらは材の形状を留め、残存状態が良好なものを残し掘り進めた。炭化材の出土状況を記録後、分析試料を採取し掘り下げ、完掘した。北西側にカマド、中央付近の床面で広範囲な焼土(R1層)を確認した。炭化材が多数みられ焼失住居と判断する。南西側の角は調査区外である。また、カマド焼土はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)

覆土 B・BY・YB・Y・GY・R層に大別し、それぞれを細分した。B層は上位に自然堆積したⅢ～V層の黒色土層主体で、白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)が部分的に認められた。BY層は中央付近や南西側部分で局所的に認められる。YB層は中位付近に比較的厚くみられ、Y層は床面直上に堆積する。GY層はカマド煙出口の土で、R層は焼土である。

床面 概して平坦であるが、南西側部分がやや低い。

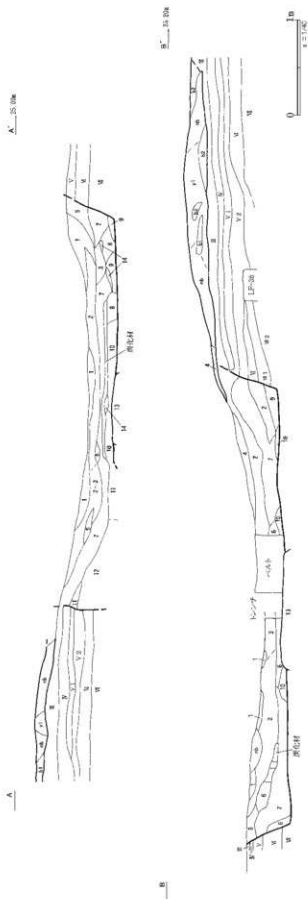
付属遺構

完掘後に確認調査を行い、カマドはトレンチを設け断ち割った。柱穴は住居跡内に1か所、住居外に2か所確認した。

・カマド

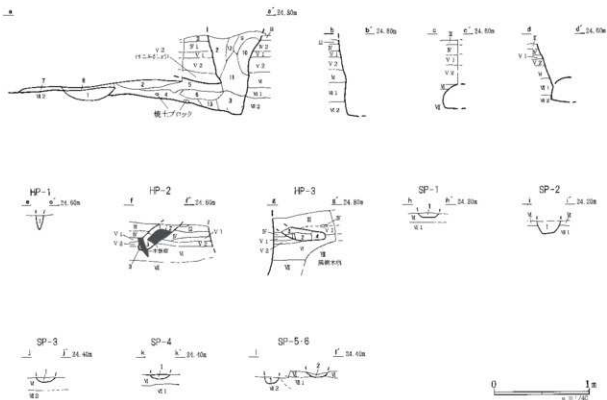
カマド煙出口 規模 0.57×(0.22)/0.18×(0.16)/0.87m 平面形態 楕円形

掘り上げ土の調査でみられた灰褐色土(GY層)は煙出口に堆積する土層で、断面形状は上部が大



土質	層番号	土質記号	土質名	土質の物理的性質		土質の化学的性質		土質の力学性質		土質の透水性	土質の圧縮性	土質の崩壊性	土質の凍結性	土質のその他
				含水率 (%)	液性指数	塑性指数	有機質 (%)	圧縮係数	せん断力 (kg/cm ²)					
砂	1	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	2	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	3	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	4	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	5	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	6	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	7	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	8	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	9	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	10	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	11	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	12	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	13	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	14	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	15	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	16	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	17	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	18	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	19	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	20	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	21	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	22	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	23	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	24	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	25	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	26	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	27	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	28	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	29	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	30	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	31	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	32	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	33	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	34	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	35	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	36	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	37	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	38	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	39	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	40	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	41	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	42	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	43	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	44	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	45	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	46	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	47	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	48	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	49	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
砂	50	100-000	砂	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

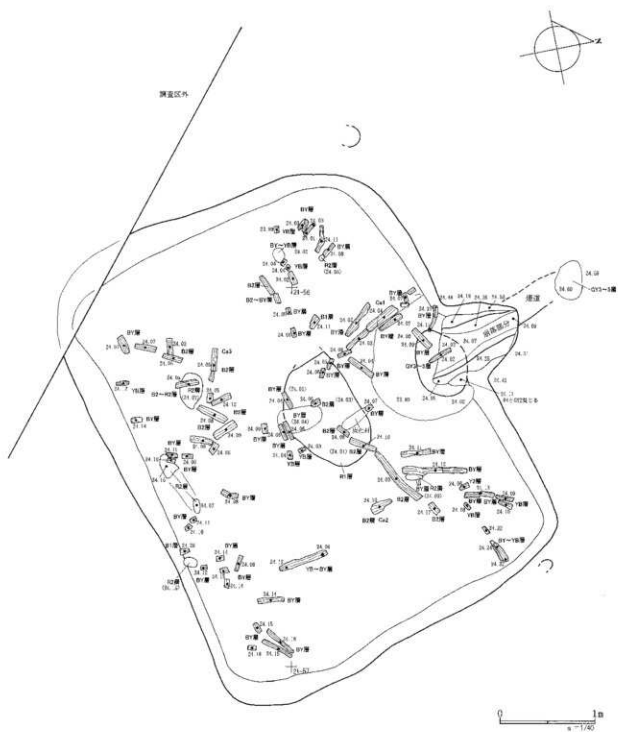
図IV-7 UH-2・3掘り上げ土・UH-2土層断面図



調査年度	調査地区	調査種別	調査種	調査	調査内容(1/2) 遺構・遺物				調査種別	調査結果(1/2)		備考																																																																																												
					遺構	遺物	調査内容(2/2) 遺構・遺物	調査結果(2/2)		調査結果	調査結果																																																																																													
1	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8	1000.9	1000.10	1000.11	1000.12	1000.13	1000.14	1000.15	1000.16	1000.17	1000.18	1000.19	1000.20	1000.21	1000.22	1000.23	1000.24	1000.25	1000.26	1000.27	1000.28	1000.29	1000.30	1000.31	1000.32	1000.33	1000.34	1000.35	1000.36	1000.37	1000.38	1000.39	1000.40	1000.41	1000.42	1000.43	1000.44	1000.45	1000.46	1000.47	1000.48	1000.49	1000.50	1000.51	1000.52	1000.53	1000.54	1000.55	1000.56	1000.57	1000.58	1000.59	1000.60	1000.61	1000.62	1000.63	1000.64	1000.65	1000.66	1000.67	1000.68	1000.69	1000.70	1000.71	1000.72	1000.73	1000.74	1000.75	1000.76	1000.77	1000.78	1000.79	1000.80	1000.81	1000.82	1000.83	1000.84	1000.85	1000.86	1000.87	1000.88	1000.89	1000.90	1000.91	1000.92	1000.93	1000.94	1000.95	1000.96	1000.97	1000.98	1000.99	1000.100

調査年度	調査地区	調査種別	調査種	調査	調査内容(1/2) 遺構・遺物				調査種別	調査結果(1/2)		備考
					遺構	遺物	調査内容(2/2) 遺構・遺物	調査結果(2/2)		調査結果	調査結果	
HP-1	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
HP-2	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
HP-3	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-1	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-2	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-3	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-4	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-5	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8
SP-6	1000	*	*	1000-1000	1000.1	1000.2	1000.3	1000.4	1000.5	1000.6	1000.7	1000.8

図IV-8 UH-2 付属遺構



图IV-9 UH-2炭化材出土状况

きく開くが、これは上位部分の崩落も考慮すると、本来の形状より広いと考える。底面は柱穴の先端部様の円形を呈する低い部分が認められ、覆土は黒色土主体の層（b層）と灰褐色（GY層）に大きく分けられる。

カマド煙道 規模 $? \times 0.33 / 1.19 \times (0.28) / (0.27)$ m 平面形態 溝状

煙出口へと傾斜する。覆土は黒色土主体のb層と、黒色土と黄褐色土が混じったby・yb層に大別した。また、V2層で堅密度が「すこぶるしょう」の部分があり、煙道は自然層位をトンネル状に掘り構築され、この部分に生じた空洞部分の影響によると推測する。なお、構築粘土の灰褐色土（GY層）は、色調と粘質性からIX1層起源であると推測する。

カマド焼土 規模 $0.75 \times 0.56 / 0.23$ m 平面形態 楕円形

煙道の天井部分の構築粘土と推測する灰褐色土GY層が堆積し、その下位で焼土（R3層）を確認した。

・炉跡（焼土） HF-1 規模 $(1.18) \times 0.80 / 0.06$ m 平面形態 楕円形

中央付近に位置し、VIII層が被熱する。

・主柱穴

HP-2 規模 $0.21 \times 0.08 / 0.50$ m 平面形態 円形

HP-3 規模 $0.11 \times 0.05 / 0.46$ m 平面形態 円形

住居外の北西と北東部分の二か所で確認した。調査方法は、住居跡の角の包含層を残して周囲を掘り下げた後、土層断面を観察しながら少しずつ断ち割り、自然層位でない部分をさがした。

・柱穴

HP-1 規模 $0.08 / 0.15$ m 平面形態 円形

住居内で1か所確認した。カマドの延長線上にあたる住居跡の短軸上に位置し、断面形態は先端部が尖る。

・外部柱穴

SP-1~6

住居外で確認した柱穴で、住居本体あるいは、これに関連する構造物のものと推測する。住居跡の北~西側部分で確認した。断面はいずれも先端部が幅広であり、底面が直線的（SP-2・5）なものと同線的なもの（SP-1・3・4・6）がある。

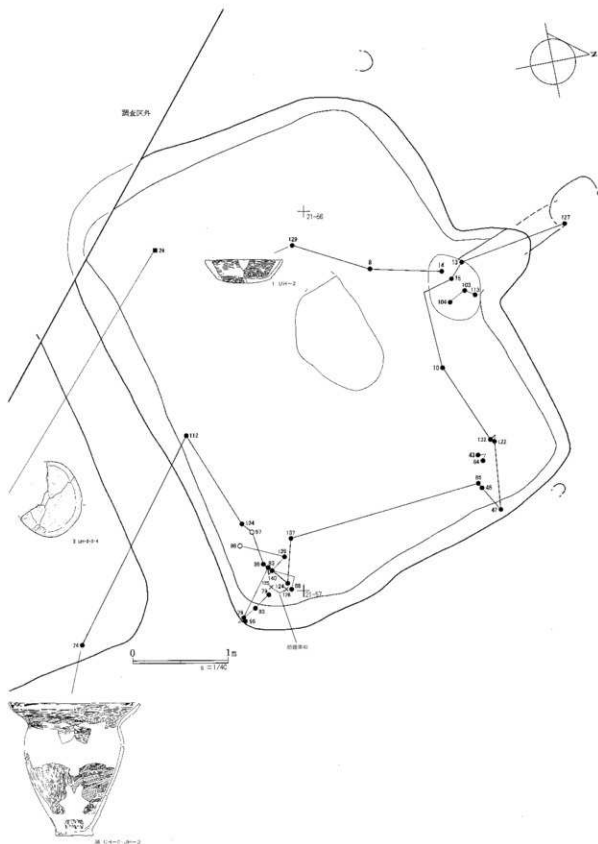
炭化材 明確な規則性は認められなかったが、多数みられた。長い材が住居跡の中央から放射状に位置しているようにもみえる。炭化材に伴う焼土層はR2層でB1層~YB層中であるが、YB層の上下層界に位置するものが多い。CA-1~3は放射性炭素年代測定・樹種同定を行った（付篇2・3節参照）。

重複 UH-3と近接し上層構造は同時に存在したと考え難い。放射性炭素年代測定結果からUH-3より新しいと判断する（VI章3節参照）。また、縄文時代中期後半の焼土LF-43を切る。

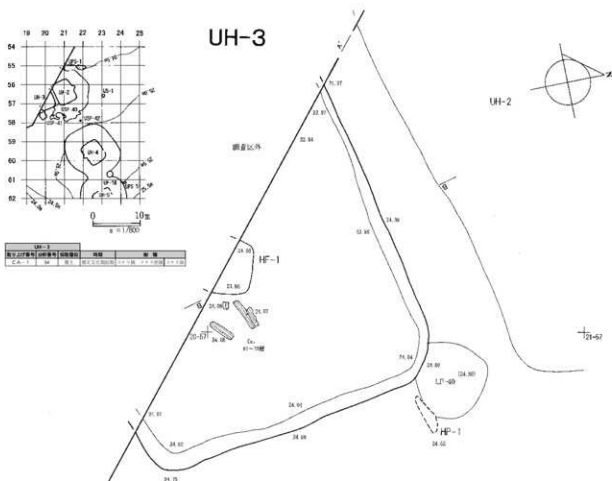
遺物出土状況 遺物はフレイク以外すべて出土地点を計測して取り上げた。概ね全体からの出土が認められるが、南東側の角とカマド付近に多い。

時期 層位的にII層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から縄文文化期前期と考える。放射性炭素年代測定で最も高確率の値は、覆土出土の炭化材の660-830A.D.である（付篇2参照）。

（未光）

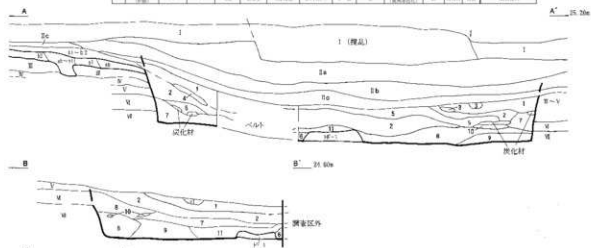


図IV-11 UH-2 出土遺物接合図



UH-3			
比例尺	1:1000	比例尺	1:1000
比例尺	1:1000	比例尺	1:1000

剖面号	剖面名称	走向	倾向	倾向方位角	岩层 (由上至下)				层 序 (由上至下)				层 号	
					岩性	厚度(m)	层号	岩性	厚度(m)	层号	岩性	厚度(m)		层号
1	1-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
2	2-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
3	3-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
4	4-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
5	5-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
6	6-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
7	7-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
8	8-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
9	9-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
10	10-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
11	11-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
12	12-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
13	13-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
14	14-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
15	15-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	



剖面号	剖面名称	走向	倾向	倾向方位角	岩层 (由上至下)				层 序 (由上至下)				层 号	
					岩性	厚度(m)	层号	岩性	厚度(m)	层号	岩性	厚度(m)		层号
1	1-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
2	2-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	
3	3-1	+	+	30°	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	砂岩	0.5	1	

图IV-12 UH-3

UH-3 (図IV-5・12~14 図版7)

位置 19・20-56・57区

規模 (3.25)×3.30/(3.08)×3.10/0.70m

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面で円形を呈するⅡ層の堆積が認められ、精査したところ、二次堆積層(掘り上げ土)と明瞭なくぼみを確認した。これのおよそ半分は調査区外である。UH-2のベルトを延長しこれと調査区壁に沿ってトレンチを設け掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、規模から住居跡であると判断した。

調査 トレンチを広げるように床面・壁を確認しながら掘り進め、土層断面を記録後、これを掘り下げて完掘した。調査区境界は住居跡の中央付近と考えられ、炉跡(焼土)や炭化材(CA-1)が認められた。また、炉跡はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 B・BY・YB・Y・G・R層に大別し、前三者は細分した。B層は上位部分の主体的で層で、B_r層は焼土が混じる。BY層は上位部分、YB層は下位部分に堆積する。Y層は床面直上に部分的に存在し、G層は上位のB層中にみられる白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)である。R層は炉跡(焼土)HF-1直上の層である。

床面 南西側がやや高く、それ以外は概して平坦である。

付属遺構

完掘後に住居跡内外を調査した。

・炉跡(焼土)

HF-1 規模 0.60×(0.39)/0.12m 平面形態 隅丸長方形

住居跡の中央付近で約1/2が調査区外に位置する。

・主柱穴

HP-1 規模 0.43×0.11/?m 平面形態 楕円形

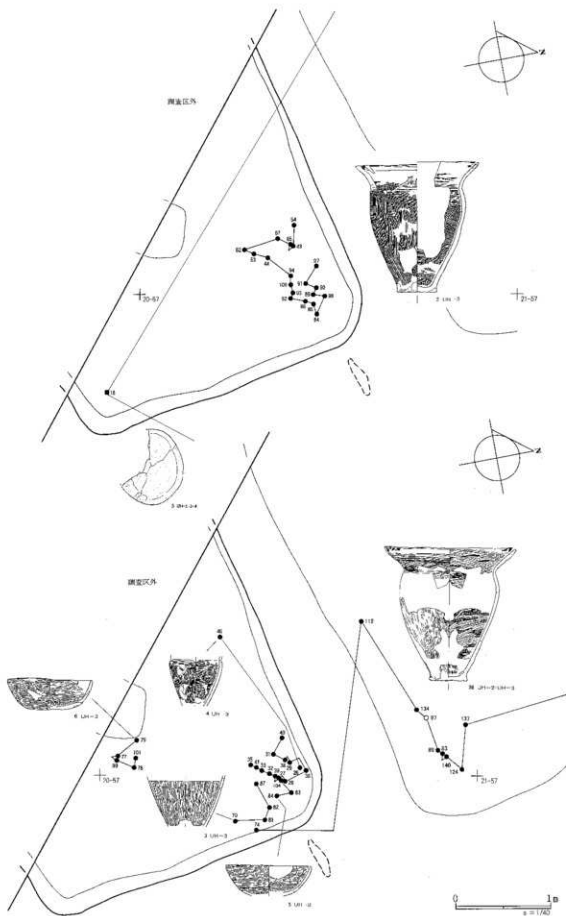
住居跡の北東側角で確認した。調査方法はUH-2と同じで、降雨による崩壊のため断面図を記録できなかった。

重複 UH-2と近接し上層構造は同時に存在したと考え難い。放射性炭素年代測定結果からUH-2より古いと判断する(Ⅵ章3節参照)。また、縄文時代中期後半の焼土LF-40を切る。

遺物出土状況 遺物はフレイク以外すべて出土地点を計測して取り上げた。遺物番号80~97は大きめの土器破片がまとまる土器集中で、紡錘車も出土した。

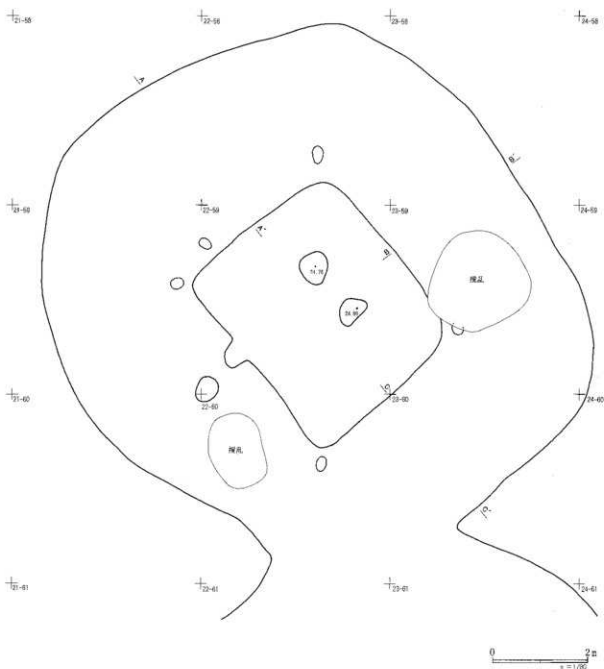
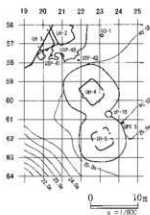
時期 層位的にⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から擦文文化期前期と考える。放射性炭素年代測定結果で最も高確率の値は、炉跡の炭化材の650-780A.D.である(付篇2参照)。

(末光)



図IV-14 UH-3出土遺物接合図

UH-4



図IV-15 UH-4 掘り上げ土確認状況

UH-4 (図IV-15~22・29 カラー図版2 図版8~10)

位置 21~23-58~60区、22-58区 掘り上げ土 21~23-58~60、24-59区

規模 4.65×3.97/4.40×3.83/0.66m (カマド含まず)

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面で方形を呈するⅡ層の堆積を確認し、精査したところ、くぼみとこの周囲に黒褐色土がみられた。くぼみの中央を通るよう十字状にトレンチを設定し、掘り進めたところ、平坦な床面と壁の立ち上がりが認められ、住居跡と判断した。周囲の黒褐色土はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 住居跡の北東側隅と掘り上げ土の一部が攪乱されている。焼土と炭化材を多量に含む覆土を確認し、これらを残し床面まで掘り下げた。南側壁でカマド、床面中央のやや北側で炉跡(焼土)、床面北東側でピット2基を確認した。また、床面の土が暗褐色土混じりであったので、設定したトレンチをさらに掘り下げたところ、Ⅷ層を確認し掘り方が埋められ床が構築されたことが判明した。炉跡(焼土)HF-1・カマドの土壌はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 覆土は自然堆積で七つの層、床面構築土は二つに分けた。覆土上位は黒色土層(覆土第1層)で、中~下位に白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)が断続的に薄くみられた。覆土下位は黒~黒褐色を呈し黒色土にⅥ・Ⅶ層が混じる層(覆土第2~7層)で、壁際で厚く中央部で薄く堆積する。覆土第2・5・7層は炭化物を含み、部分的に焼土もみられる。床面構築土(覆土第8・9層)は黒色を呈しⅥ・Ⅶ層が混ざる層で、En-a軽石を多く含む。覆土第9層は第8層が被熱したものである。遺物の取り上げ層位は、上位の覆土第1層を「覆土1」、下位の覆土第2・3・5~7層を「覆土2」、竪穴中央付近の薄い堆積土層を「覆土3」とした。

掘り上げ土 平面は円形を呈し、竪穴の周囲約3.0~3.6mの範囲に広がる。最大層厚は10cm程度で、土層断面図では西側部分を八つの層、北側及び東側をそれぞれ四層に分けた。竪穴住居構築時に伴う人為的な二次堆積層で、地点により土層の色調等が異なる。

形態 平面は隅丸長方形で、東西にやや長い形状である。深さは約60cm、凹凸がある掘り方が埋められ床面が構築され概ね平坦である。壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構 カマド1か所・炉跡(焼土)1か所・柱穴5か所・ピット2基を確認した。

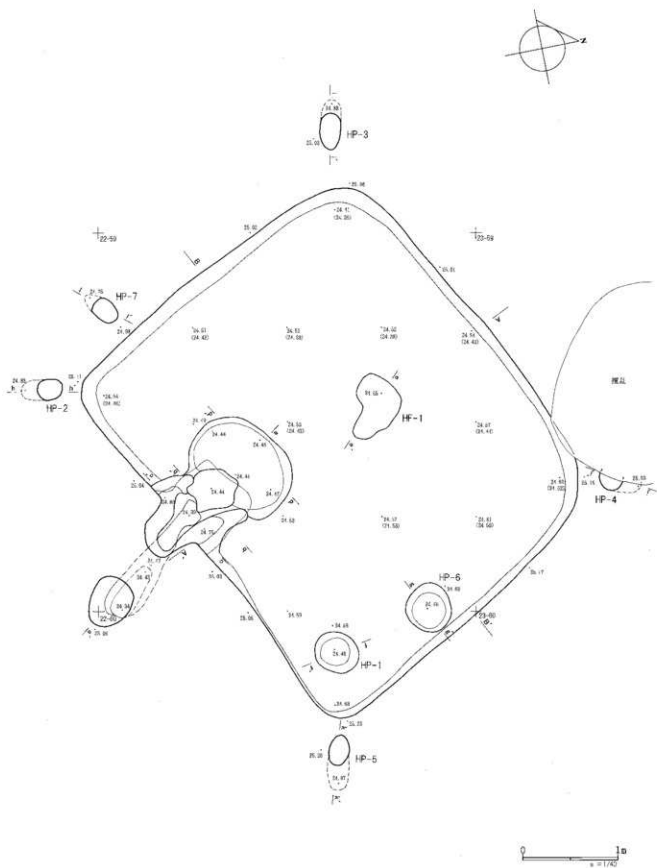
・カマド

北壁中央のやや西側に構築されていた。粘土の遺存状態は、焚口周辺は良くなく煙道と煙出口は良好である。

カマド煙出口 規模 0.56×0.44/0.62×0.25/0.68m **平面形態** 楕円形

カマド煙道 規模 1.54×0.40/1.46×0.24/0.22m **平面形態** 溝状

煙道~煙出口の長軸は長さ約1.7mで、焚口側(住居の壁から約50cmの範囲)は上から、これより奥の煙出口側は横からトンネル状に掘削して構築されており、前者は「オープン型」、後者は「トンネル型」である。煙道底面は概ね平坦であるが、カマド焼土に接する部分と煙出口部分は一段低い。煙出口の開口部は煙道端とはややずれがあり、断面は下位へとすぼまる形状である。煙道の覆土は、オープン部は白色粘土層が主体(11・13・14・16・22層)で、黒色・暗褐色土層が少量(23・26層)堆積し、天井部分は粘土で構築されたと考え。また、粘土中からⅦ群土器がまとまって出土した。トンネル部は黒褐色土ないし暗褐色土が主体で、粘土がほとんど混ざらない層(32~36・42層)である。煙出口部分は白色粘土が主体で、黒色土やⅥ・Ⅶ層が混ざる層(37~41層)である。いずれも焼土粒・炭化物はほとんど含まない。



图IV-16 UH-4

カマド焼土 規模 0.54×0.44/0.13m 平面形態 不整形

焼土上部及び周辺の焚口付近には、カマド構築材と考える粘土が最大層厚10cm程度堆積していた。カマドは両袖部分を残り、これらを芯として粘土を貼り付け構築されている。焼土は不整形で、被熱層の厚みは最大約13cmである。また、焚口に接して浅いビット（カマドビット）がある。

カマドビット 規模 1.18×0.82/1.04×(0.76)/0.10m 平面形態 楕円形

焚口前にある浅い皿状のビットで、カマド構造の一部と推測する。

・**炉跡（焼土）HF-1** 規模 0.72×0.49/0.06m 平面形態 不整形

床面中央やや北側にあり、色調は暗褐色で層厚は薄い。

・**主柱穴**

HP-2 規模 0.28×0.24/0.45×0.24/0.44m 平面形態 楕円形

HP-3 規模 0.39×0.22/0.54×0.22/0.52m 平面形態 楕円形

HP-4 規模 0.24×(0.17)/0.46×(0.17)/0.44m 平面形態 楕円形

HP-5 規模 0.34×0.21/0.59×0.24/0.53m 平面形態 楕円形

HP-7 規模 0.29×0.22/0.42×0.22/0.42m 平面形態 不整な楕円形

住居内にはみられず、四隅の外側で4か所（HP-2～5）、南西隅外側のやや北側で1か所（HP-7）確認した。北東隅のもの（HP-4）は約1/2が攪乱されており、形状は平面がほぼ楕円形、断面は下部が細く、底面は曲線状である特徴が共通する。深さは約40～50cmを測り、全て住居中央方向に大きく傾いており、水平との角度は約23～43°である。

・**ビット**

HP-1 規模 0.49×0.44/0.32×0.30/0.18m 平面形態 円形

HP-6 規模 0.54×0.49/0.40×0.35/0.12m 平面形態 円形

南東隅で2基確認した。ともに平面は概ね円形で直径は約50cmである。HP-1の覆土は白色粘土のみで意図的に埋めた可能性がある。底面は曲線的で壁もなだらかに立ち上がる。HP-6は底面が平坦で壁の立ち上がりは急角度で、覆土は黒色土とVI・VII層が混ざった層が主であるが、壁際に白色粘土層がみられた。

粘土集中 カマド以外の部分の床面で、白色粘土の集中を数か所確認した。南東隅のものは最大規模で約1.5×1.0mを測り、下にHP-1がある。これ以外は小規模で薄い。

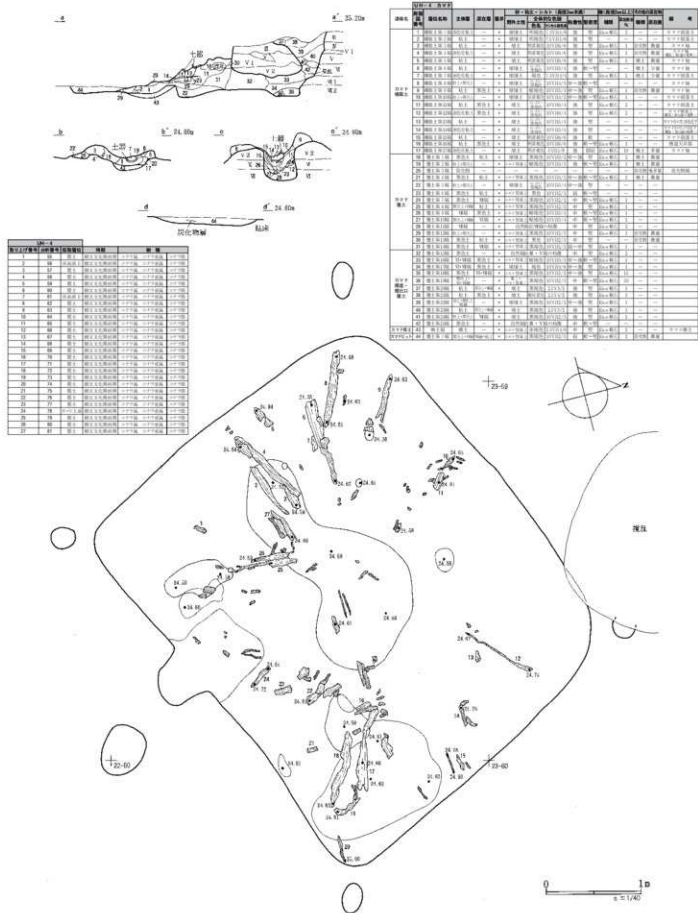
炭化材 全体にみられたが北東側は少なく、遺存状況は不良である。少量みられる大型ものは住居中央方向に放射状に位置するものが多く、層位は覆土下位で床面より若干高い位置である。これらは柱等の構築材と考え、遺存状況が良いものは放射性炭素年代測定と樹種同定を行った（付篇2・3参照）。

遺物出土状況 遺物は床面直上と床面出土のものすべてと、覆土出土で約2cm以上のものは出土位置を計測し、これら以外はまとめて取り上げた。遺物はほぼ全体から多数出土し、南東隅付近に多く中央付近は少ない。

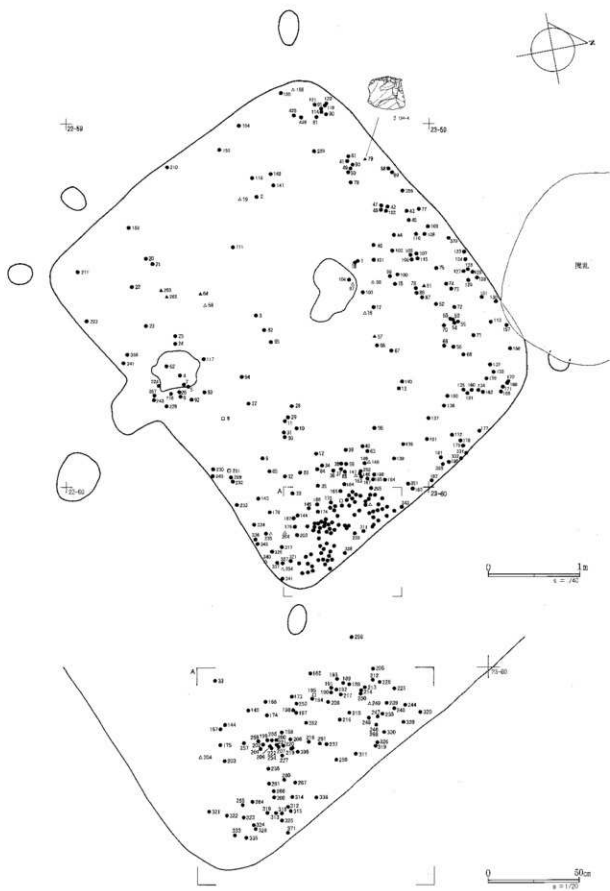
PS-1 カマド煙出口付近の掘り上げ土上面でVII群土器の集中をみられ、本遺構に伴う土器集中（PS-1）とし調査した。約2×1mの範囲でVII群土器が2,783点出土した。

時期 層位的にはII層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から縄文文化期前期と判断する。放射性炭素年代測定結果で最も高確率の値は、カマド焼土の600～675 A.D.である（付篇2参照）。

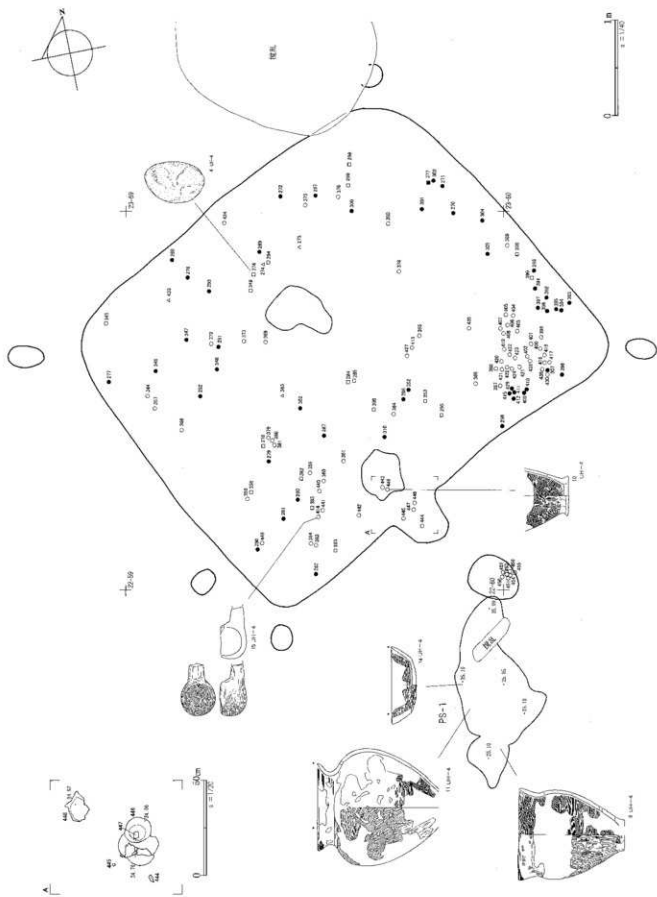
（広田）



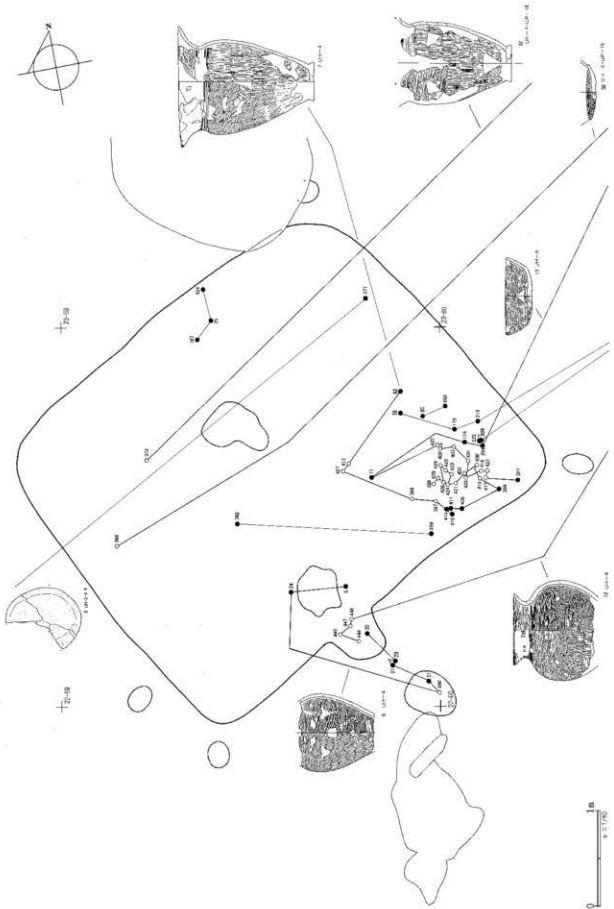
図IV-18 UH-4カマド土層断面図及び炭化材出土状況



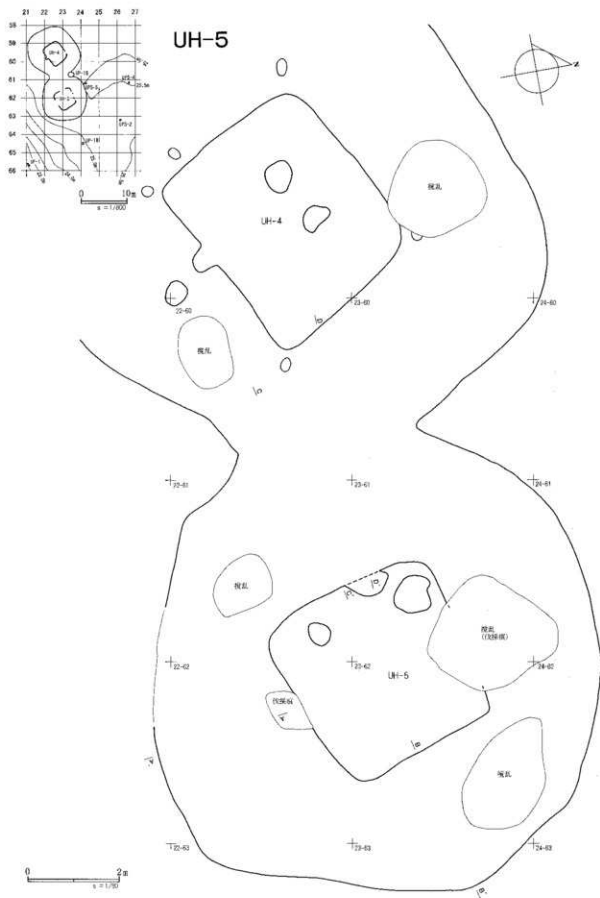
図IV-19 UH-4 遺物出土位置図



図IV-20 UH-4 出土遺物検合図・出土状況図



図W-22 UH-4出土遺物接合図



図IV-23 UH-5掘り上げ土確認状況

UH-5 (図IV-23~29 図版11・12)

位置 22・23-61・62区 掘り上げ土 21-61・62、22・23-60~63、24-61・62区

規模 4.08×(3.98)/3.77×(3.77)/0.62m

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面で方形を呈するⅡ層の堆積を確認した。精査したところ、方形のくぼみと周囲に黒褐色土が広がる状況を確認した。このくぼみの中央を通る十字状のトレンチを設定し掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 北側及び南側壁と掘り上げ土の一部が伐採痕や木根跡により壊されている。ベルトに沿いにトレンチを設け掘り下げたところ、焼土や炭化材を含む層がみられ、これらを残し床面まで掘り下げた。中央付近の南側で炉跡(焼土)1か所を確認した。また、床面の土は暗褐色土混じりであり、トレンチ部分を掘り下げたところⅦ層を確認し、掘り方が埋められ床が構築されたことが判明した。炉跡(焼土)HF-1はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 自然堆積で十二の層に分けた。上位は黒色土層(覆土第1層)が最大層厚は約30cmで堆積し、この下位に白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)が断続的に薄くみられる。覆土下位は黒~黒褐色を呈し、黒色土にⅥ・Ⅶ層が混じる層(覆土第3~12層)が壁際で厚く、中央部では薄く堆積する。覆土第5・8・9・12層は炭化物、覆土第11層は焼土・炭化物を含む。覆土第13層は黒色土にⅥ・Ⅶ層が混ざりEn-a軽石を多く含む床面構築土である。遺物の取り上げ層位は覆土第1・2層を「覆土1」、覆土第3~12層を「覆土2」とした。

掘り上げ土 平面は円形で、住居の周囲3.0~3.6mの範囲に広がる。最大層厚は約10cmで、土層断面図では南側を二つの層、東側と西側をそれぞれ四つの層に分けた。住居構築に伴う二次堆積層で、地点により土層の色調等が異なる。

形態 平面は隅丸方形を呈し深さは約60cmで、床面は掘り方が埋められ概ね平坦である。掘り方の底面は凹凸があり層厚は約5cmと浅い。南東隅では平面が不整の長方形を呈し落ち込み状に低い部分がある。壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構 炉跡(焼土)を1か所確認した。

・炉跡(焼土)HF-1 規模 0.89×0.76/0.08m 平面形態 楕円形

中央やや南側に位置し色調は赤褐色を呈する。

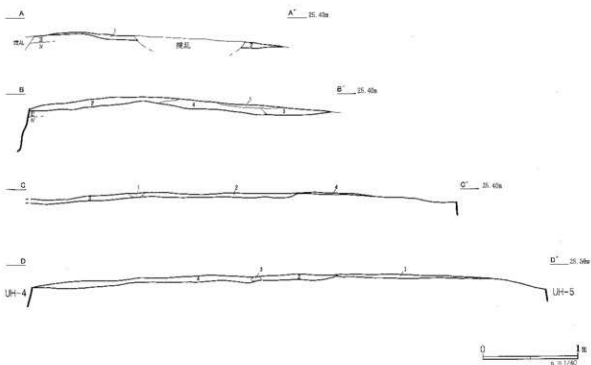
粘土集中 床面の南西隅付近で小規模な粘土集中を確認した。

炭化材 壁付近に多くみられたが、遺存状況は不良で大型のものは少ない。層位は覆土下位で床面より若干高い位置である。遺存状況が比較的良好いものは放射性炭素年代測定と樹種同定を行った(付篇2・3参照)。

遺物出土状況 床面直上と床面出土の遺物はすべて覆土出土で約2cm以上のものは、出土位置を計測し、これら以外はまとめて取り上げた。遺物は主に住居の四隅から出土したが、北側に多い。

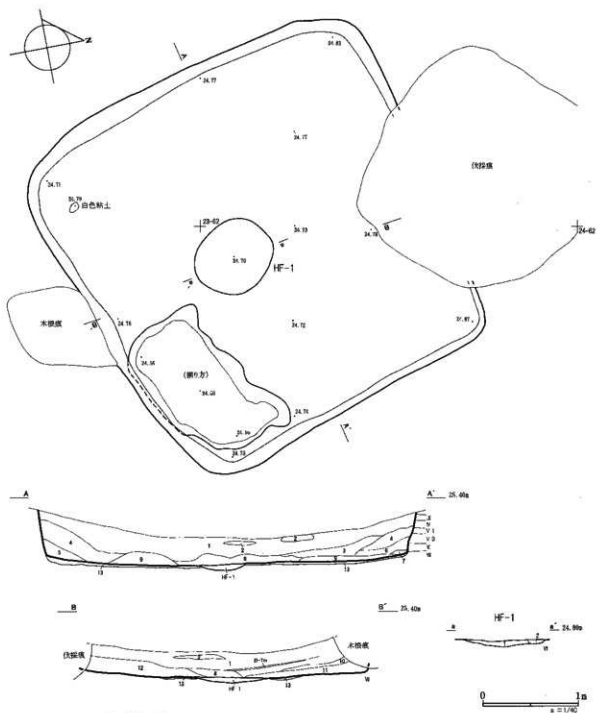
時期 層位的にはⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から縄文文化期前期である。放射性炭素年代測定で最も高確率の値は、炉跡(焼土)の650-780A.D.である(付篇2参照)。

(広田)



UH-5 掘り上げ土										
掘り上げ 層別	掘り上げ 層名	全厚 [m]	掘り上げ 深さ [m]	掘り上げ 位置	砂・粘土・シルト・液状土[m ³ 当り]			液・液状土[m ³ 当り]		その他 掘り上げ 土
					掘り上げ 土量 [m ³]	含水率 [%]	液状土 [m ³]	液状土 [m ³]	液状土 [%]	
1	掘り上げ土層(1)	0.5	0.5	掘り上げ	204.1	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	掘り上げ土層(2)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
UH-5 掘り上げ土										
掘り上げ 層別	掘り上げ 層名	全厚 [m]	掘り上げ 深さ [m]	掘り上げ 位置	砂・粘土・シルト・液状土[m ³ 当り]			液・液状土[m ³ 当り]		その他 掘り上げ 土
					掘り上げ 土量 [m ³]	含水率 [%]	液状土 [m ³]	液状土 [m ³]	液状土 [%]	
1	掘り上げ土層(1)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	掘り上げ土層(2)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	掘り上げ土層(3)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	掘り上げ土層(4)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
UH-5 掘り上げ土										
掘り上げ 層別	掘り上げ 層名	全厚 [m]	掘り上げ 深さ [m]	掘り上げ 位置	砂・粘土・シルト・液状土[m ³ 当り]			液・液状土[m ³ 当り]		その他 掘り上げ 土
					掘り上げ 土量 [m ³]	含水率 [%]	液状土 [m ³]	液状土 [m ³]	液状土 [%]	
1	掘り上げ土層(1)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	掘り上げ土層(2)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	掘り上げ土層(3)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	掘り上げ土層(4)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
UH-5 掘り上げ土										
掘り上げ 層別	掘り上げ 層名	全厚 [m]	掘り上げ 深さ [m]	掘り上げ 位置	砂・粘土・シルト・液状土[m ³ 当り]			液・液状土[m ³ 当り]		その他 掘り上げ 土
					掘り上げ 土量 [m ³]	含水率 [%]	液状土 [m ³]	液状土 [m ³]	液状土 [%]	
1	掘り上げ土層(1)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	掘り上げ土層(2)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	掘り上げ土層(3)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	掘り上げ土層(4)	0.5	0.5	掘り上げ	207.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0

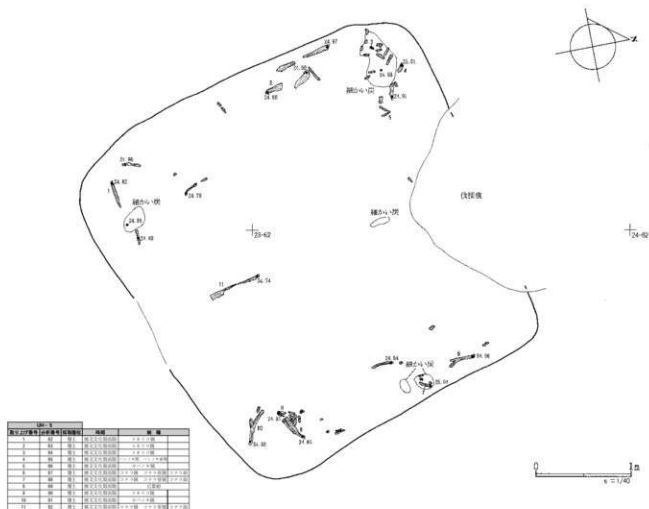
図IV-24 UH-5掘り上げ土層断面図



遺構番号		遺構の位置・形状・規模・構造									
遺構番号	遺構名称	形状	深さ	長さ	位置		規模	構造	用途	年代	備考
					北緯	東経					
1	堀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—

遺構番号		遺構の位置・形状・規模・構造									
遺構番号	遺構名称	形状	深さ	長さ	位置		規模	構造	用途	年代	備考
					北緯	東経					
HF-1	堀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	堀	溝	—	—	—	—	—	—	—	—	—

図IV-25 UH-5



図IV-26 UH-5炭化材出土状況

UH-4・5周辺遺物出土状況 (図IV-29)

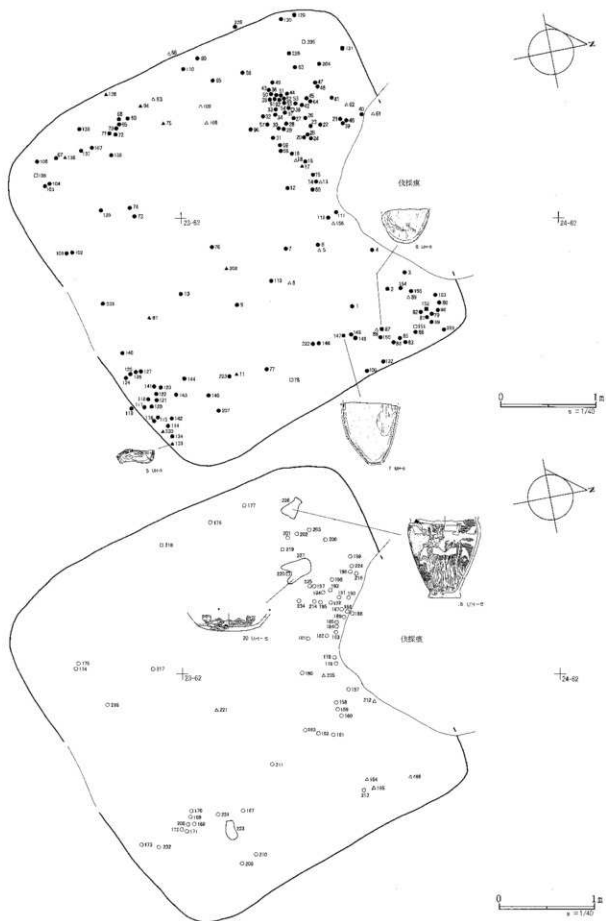
位置 21~24-57~63区

確認・調査 UH-4・5の調査と並行して周辺の包含層調査も行ったが、両住居跡の間に堆積する掘り上げ土層の上面からⅦ群土器が多数出土した。両竪穴住居跡出土の遺物と接合する可能性が高く、この接合情報から両住居跡の新旧関係等がわかると考え、Ⅶ群土器で大きさ約2cm以上のものについて出土位置を計測した。

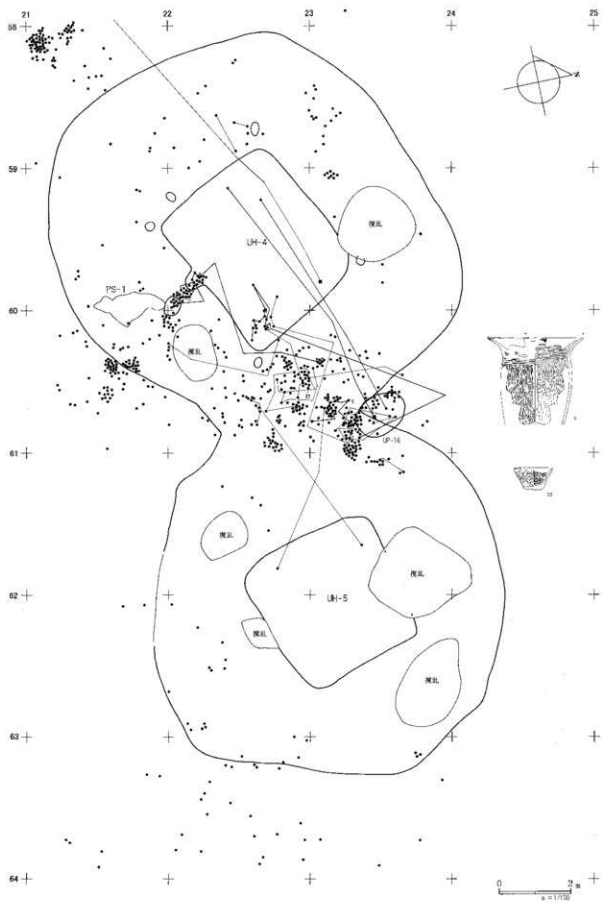
遺物出土状況 多く分布する地点は、①；両住居間の掘り上げ土層上面、②；UP-16周辺 (図IV-48)、③；UH-4のカマド煙出口付近、④；21-58区の4か所認められた。特に①・②のものはUH-4・UH-5・UP-16出土のものと同接合し復原できた。また、UH-4とUP-16は接合した破片が多く、両遺構は関連性が強いと推測する。

時期 土器の時期や分布、接合関係から縄文文化前期でUH-4・UH-5・UP-16と概ね同時期と考えるが、UH-4・5は近接し上層構造を想定すると同時に存在したと考え難い。土器の接合関係から新旧関係を判断する情報は得られなかったが、放射性炭素年代測定の結果からUH-4が古いと判断する (VI章3節)。

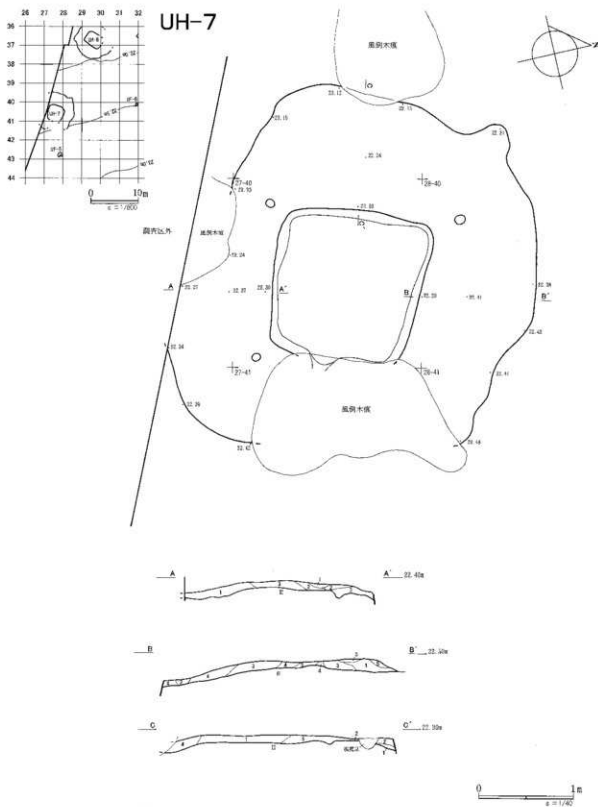
(広田)



図IV-27 UH-5 遺物出土位置図



図IV-29 UH-4・UH-5出土遺物接合図



層位 番号	層位名称	土質層	用途	厚さ	層・施設・土台・基礎の位置			層・施設・土台・基礎の形状			備 考
					層位 番号	施設 名称	土台 形状	層位 番号	施設 名称	土台 形状	
1	層位1 (F1)	砂	+	0.1							
2	層位2 (F2)	砂	+	0.1							
3	層位3 (F3)	砂	+	0.1							
4	層位4 (F4)	砂	+	0.1							
5	層位5 (F5)	砂	+	0.1							

図IV-30 UH-7掘り上げ土

UH-7 (図IV-30~34 図版13・14)

位置 27・28-40区 掘り上げ土 27・28-39、26~28-40・41区

規模 (3.28)×3.27/(3.03)×3.02/0.49m (カマド含まず)

平面形態 隅丸方形

確認 調査着手前の現地表面でくぼみとしてみられた。建設機械による表土除去後、Ⅲ層上面で方形のくぼみと周囲の褐色土がみられた。このくぼみの中心を通るように十字状に土層観察用のベルトを設定し、ベルトに沿ってトレンチ調査を行ったところ、Ⅶ層で焼土(HF-1)を確認し、平坦な面と壁の立ち上がりを認め堅穴住居跡と判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 南東壁際にカマドを確認したが、風倒木痕により攪乱され煙道は残存していなかった。床面はⅦ層に黒褐色土が混じる層で、先行トレンチを掘り下げたところⅧ層を確認し、埋土で床面が構築されたことが判明した。完掘後、付属遺構を調査しⅢ層上面で3か所の柱穴を確認した。また、炉跡(焼土)HF-1と覆土中の焼土(HF-3)はフローテーションにより微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 十二の層に分けた。上位の覆土第1~6・8層は自然堆積で、覆土第2層は中央部にみられる暗褐色シルト質土である。覆土第6層は白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)で、覆土第7・9層は掘り上げ土が流入した層、その下位の壁際には覆土第10・11層が堆積する。

掘り上げ土 堅穴周囲約2mの範囲に広がり、層厚は概ね10cmである。

形態 平面は、カマドがある東壁側が若干すぼまる台形を呈し小型である。埋土により構築された床面は平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。

付属遺構 カマド1か所・炉跡1か所(HF-1)・柱穴3か所(HP-1~3)を確認した。

・カマド

カマド焼土 規模 0.68×0.54/0.09m 平面形態 楕円形

カマドは南壁のほぼ中央に位置し、煙道はカマド焼土の位置する東壁でトンネル式の一部を確認できた。カマド構築材の粘土は、カマド焼土の上に堆積するものと左袖にあたる部分の2か所のまとまりがみられ、被熱により赤色化する部分がある。カマドの左袖の粘土の下から斜めに倒れた状態で確が出土し、袖石と考える。

・炉跡(焼土)HF-1 規模 0.77×0.60/0.10m 平面形態 楕円形

住居中央やや北西側に位置し、層厚約10cmである。

・支柱穴

HP-1 規模 0.24×0.20/0.32×0.35/0.35m 平面形態 楕円形

HP-2 規模 0.26×0.18/0.50×0.18/0.50m 平面形態 楕円形

HP-3 規模 0.19×0.18/0.06m 平面形態 円形

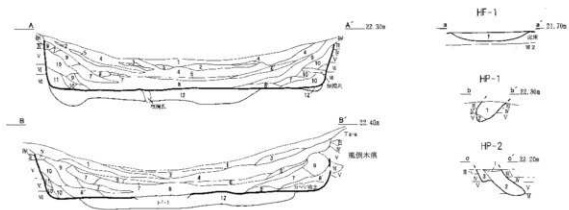
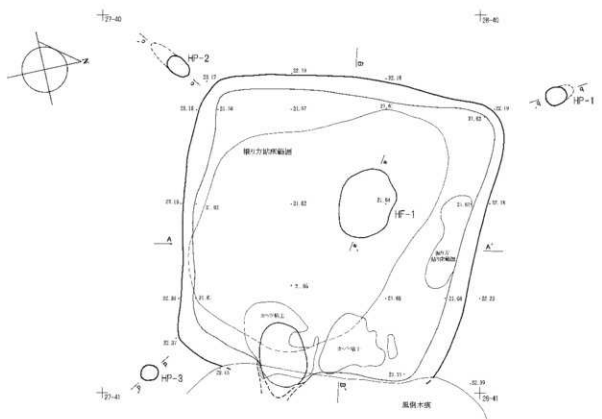
風倒木痕のある北東角以外の3か所で確認した。HP-1・2は住居跡中央に向かい、水平から約46°を測る。HP-3は浅い皿状で、これら覆土は掘り上げ土が混じる。

炭化材 炉跡(焼土)HF-1周辺とカマド粘土内で少量みられたものについて、放射性年代測定と炭化材樹種同定を行った(付篇2・3参照)。

遺物出土状況 遺物は約2cm以上のものはすべて出土位置を記録し、これ以外はまとめて取り上げた。Ⅶ群土器や刀子・棒状鉄製品(図V-67 表V-70)が出土した。カマド粘土の中からチャートや泥岩の小礫(4cm未満)が出土したが、カマド構築材に関連するものと推測する。

時期 層的にはⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から縄文文化期前期である。また、放射性炭素年代測定で最も高確率の値は、カマド焼土の570-660A.D.である(付篇2参照)。

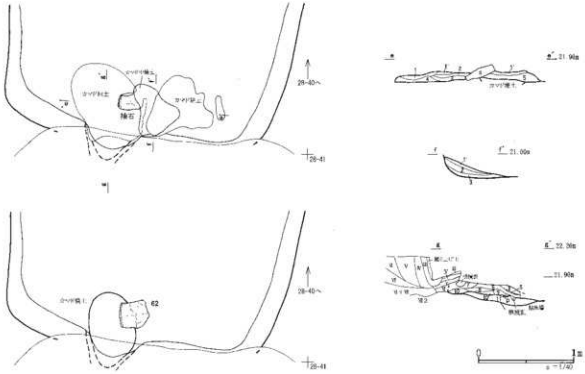
(愛場和人)



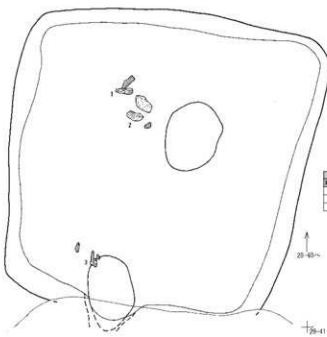
資料-7		貯水池(水深)と(堤脚)との関係									
断面	断面名称	水深	堤脚	備考	貯水池(水深)				堤脚		備考
					貯水池(水深)	堤脚	貯水池(水深)	堤脚	貯水池(水深)	堤脚	
1	断面1-1	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
2	断面2-2	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
3	断面3-3	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
4	断面4-4	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
5	断面5-5	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
6	断面6-6	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
7	断面7-7	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
8	断面8-8	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
9	断面9-9	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
10	断面10-10	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
11	断面11-11	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
12	断面12-12	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	

資料-7		貯水池(水深)と(堤脚)との関係									
断面	断面名称	水深	堤脚	備考	貯水池(水深)				堤脚		備考
					貯水池(水深)	堤脚	貯水池(水深)	堤脚	貯水池(水深)	堤脚	
1	断面1-1	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
2	断面2-2	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
3	断面3-3	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
4	断面4-4	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
5	断面5-5	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
6	断面6-6	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
7	断面7-7	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
8	断面8-8	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
9	断面9-9	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
10	断面10-10	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
11	断面11-11	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	
12	断面12-12	21.15	21.15	*	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	21.15	

図IV-31 UH-7

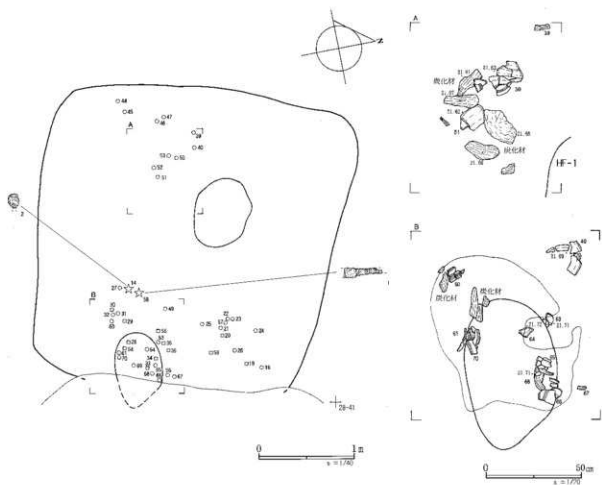
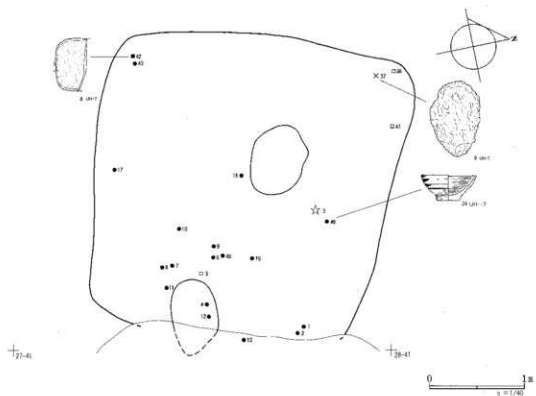


調査年度	調査名称	調査種別	調査時期	調査内容	調査の目的		調査方法	調査結果	調査の意義	調査の成果	調査の経過
					調査の目的	調査の目的					
1	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
2	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
3	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
4	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
5	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
6	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
7	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
8	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
9	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
10	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査

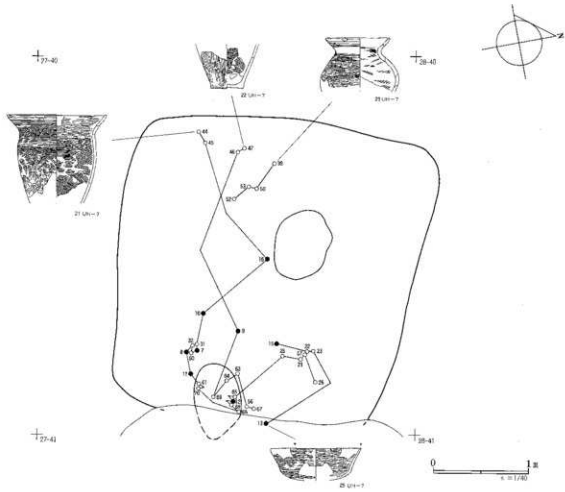


調査年度	調査名称	調査種別	調査時期	調査内容	調査結果	調査の意義	調査の成果
1	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査
2	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査
3	UH-7 遺跡	発掘	—	+	調査	調査	調査

図IV-32 UH-7カマド・炭化材出土状況



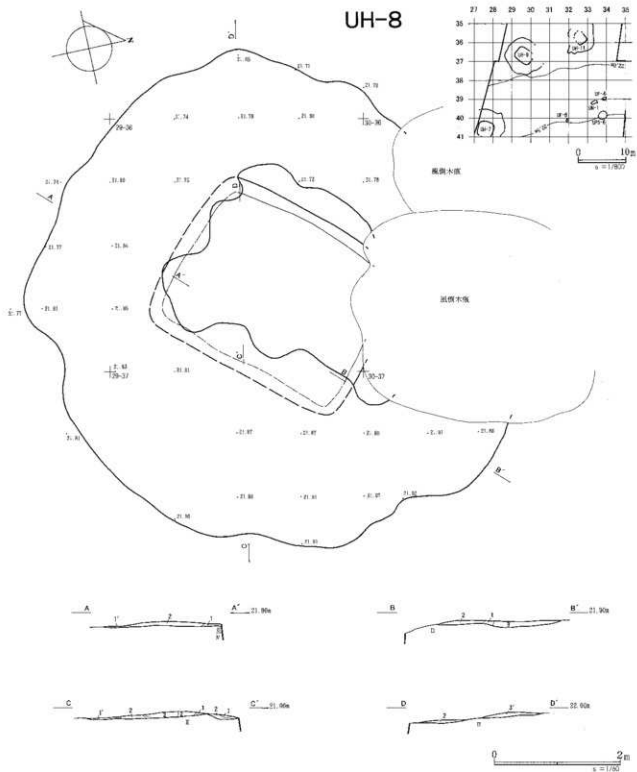
図IV-33 UH-7 遺物出土位置図・遺物出土状況図



遺物	出土地点	品名	数量	単位	検出	検出	検出
1	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
2	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
3	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
4	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
5	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
6	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
7	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
8	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
9	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
10	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
11	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
12	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
13	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
14	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
15	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
16	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
17	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
18	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
19	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
20	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
21	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
22	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
23	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
24	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
25	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
26	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
27	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
28	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
29	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
30	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
31	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
32	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
33	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
34	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
35	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
36	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
37	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
38	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
39	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
40	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
41	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
42	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
43	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
44	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
45	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
46	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
47	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
48	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
49	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
50	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	

遺物	出土地点	品名	数量	単位	検出	検出	検出
49	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
50	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
51	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
52	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
53	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
54	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
55	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
56	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
57	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
58	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
59	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
60	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
61	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
62	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
63	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
64	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
65	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
66	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
67	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
68	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
69	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	
70	1.00	土器	破片	1	破片	1.11	

図IV-34 UH-7出土遺物接合図



掘削 層別	掘削名称	主要層	掘削層	掘削	掘削・掘削・掘削・掘削 (m)表				掘削・掘削 (m)表				備 考		
					掘削土質	掘削	掘削	掘削	掘削	掘削	掘削	掘削			
1	掘削土質表層 (1)	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1	掘削1
2	掘削土質表層 (2)	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2	掘削2
3	掘削土質表層 (3)	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3	掘削3
4	掘削土質表層 (4)	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4	掘削4
5	掘削土質表層 (5)	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5	掘削5
6	掘削土質表層 (6)	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6	掘削6

図IV-35 UH-8掘り上げ土確認状況

UH-8 (図IV-35~39 カラー図版3 図版15~17)

位置 29-36・37区 掘り上げ土 28-36・37、29・30-35~37区

規模 (3.50)×2.76/(3.18)×2.46/0.55m

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面にくぼみがみられた。Ⅲ層上面を精査したところ、方形のくぼみとその周囲に褐色土を確認した。方形の軸上(BB')と風倒木を避けこれに直交するライン(AA')に十字状の土層観察用のベルトを設定し、これ沿いのトレンチを掘り下げたところ、Ⅶ層中で焼土と平坦面、壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 トレンチを広げるように掘り下げ、土層断面を記録し完掘した。住居の中央～西側の床面直上で土器を複数個体確認し、炭化材は床直上面から少量出土した。付属遺構の調査は、床面から10cm程度住居跡を掘り下げ調査したが、住居跡内部や周辺の掘り上げ土、Ⅲ層上面でも認められなかった。また、炉跡(焼土)HF-1はフローテーション(水洗浮遊選別)により微細遺物を回収した(本章11節参照)。

本遺構は、平成19(2007)年度に確認し平成20(2008)年度に調査した。

覆土 七つの層に分けた。覆土第1・2は自然堆積層で、Ⅶ層起源の覆土第3層をはさんで覆土第2'層があり、この覆土第2～2'層は遺物が多く出土した。覆土第4～7層は崩落土で、本遺構ではB-Tmは認められなかった。

掘り上げ土 周囲約2mの範囲に広がり、最大層厚10cmを測る。

形態 平面は隅丸長方形を呈し小型である。床面は概ね平坦、壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構 炉跡2か所(HF-1・2)・ピット1基(HP-1)を確認した。

・炉跡(焼土)

HF-1 規模 0.50×0.34/0.12m 平面形態 楕円形

HF-2 規模 0.59×0.44/0.12m 平面形態 楕円形

住居の中央付近にHF-1、その西側にHF-2が位置し、いずれも層厚は約12cmである。

・ピット

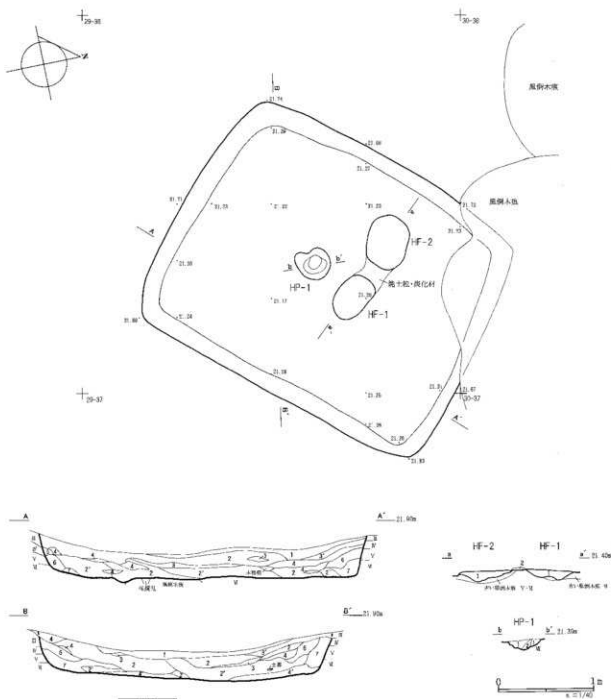
HP-1 規模 0.39×0.35/0.16×0.12/0.11m 平面形態 不整形

中央付近にあり、平面は不整形で底面には凹凸がある皿状を呈する。

遺物出土状況 遺物は大きさ2cm以上のものはすべて出土位置を記録し、これ以外はまとめて取り上げた。覆土上部では甗、床面直上からは甕・坏・高坏・小型土器がその場でつぶれた状況で出土した。

時期 層位的にはⅡ層より古く、住居構造や出土遺物から擦文文化期前期と判断する。

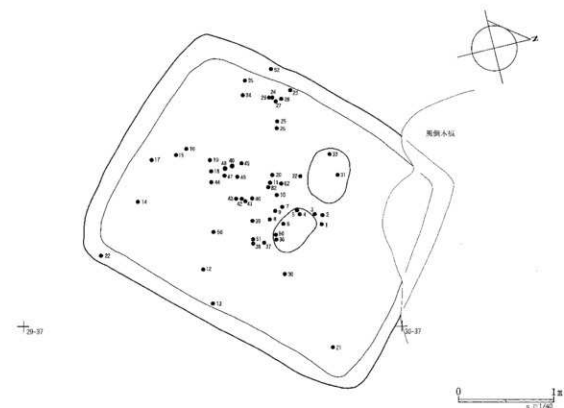
(愛場)



剖面 A-A'										
剖面 编号	层位名称	岩性	厚度	层位厚度 (m) 平均			层位厚度 (m) 最大			层位 编号
				层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	
1	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	1
2	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	2
3	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	3
4	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	4
5	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	5
6	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	6
7	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	7
8	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	8
9	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	9

剖面 B-B'										
剖面 编号	层位名称	岩性	厚度	层位厚度 (m) 平均			层位厚度 (m) 最大			层位 编号
				层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	层位 厚度	
1	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	1
2	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	2
3	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	3
4	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	4
5	第三系 (组)	砂岩	+	+	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	5

图 IV-36 UH-8

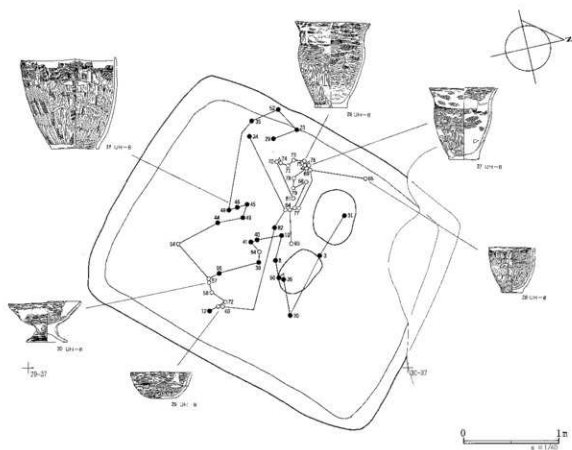


遺物	位置	種類	数量	単位	備考	備考	備考
1	1.1.1.1	銅貨	1	枚
2	1.1.1.2	銅貨	1	枚
3	1.1.1.3	銅貨	1	枚
4	1.1.1.4	銅貨	1	枚
5	1.1.1.5	銅貨	1	枚
6	1.1.1.6	銅貨	1	枚
7	1.1.1.7	銅貨	1	枚
8	1.1.1.8	銅貨	1	枚
9	1.1.1.9	銅貨	1	枚
10	1.1.1.10	銅貨	1	枚
11	1.1.1.11	銅貨	1	枚
12	1.1.1.12	銅貨	1	枚
13	1.1.1.13	銅貨	1	枚
14	1.1.1.14	銅貨	1	枚
15	1.1.1.15	銅貨	1	枚
16	1.1.1.16	銅貨	1	枚
17	1.1.1.17	銅貨	1	枚
18	1.1.1.18	銅貨	1	枚
19	1.1.1.19	銅貨	1	枚
20	1.1.1.20	銅貨	1	枚
21	1.1.1.21	銅貨	1	枚
22	1.1.1.22	銅貨	1	枚
23	1.1.1.23	銅貨	1	枚
24	1.1.1.24	銅貨	1	枚
25	1.1.1.25	銅貨	1	枚
26	1.1.1.26	銅貨	1	枚
27	1.1.1.27	銅貨	1	枚
28	1.1.1.28	銅貨	1	枚
29	1.1.1.29	銅貨	1	枚
30	1.1.1.30	銅貨	1	枚
31	1.1.1.31	銅貨	1	枚
32	1.1.1.32	銅貨	1	枚
33	1.1.1.33	銅貨	1	枚
34	1.1.1.34	銅貨	1	枚
35	1.1.1.35	銅貨	1	枚
36	1.1.1.36	銅貨	1	枚
37	1.1.1.37	銅貨	1	枚
38	1.1.1.38	銅貨	1	枚
39	1.1.1.39	銅貨	1	枚
40	1.1.1.40	銅貨	1	枚
41	1.1.1.41	銅貨	1	枚
42	1.1.1.42	銅貨	1	枚
43	1.1.1.43	銅貨	1	枚
44	1.1.1.44	銅貨	1	枚
45	1.1.1.45	銅貨	1	枚
46	1.1.1.46	銅貨	1	枚
47	1.1.1.47	銅貨	1	枚
48	1.1.1.48	銅貨	1	枚

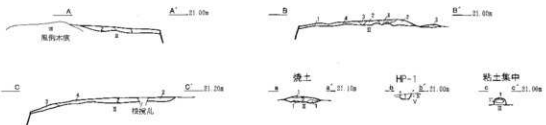
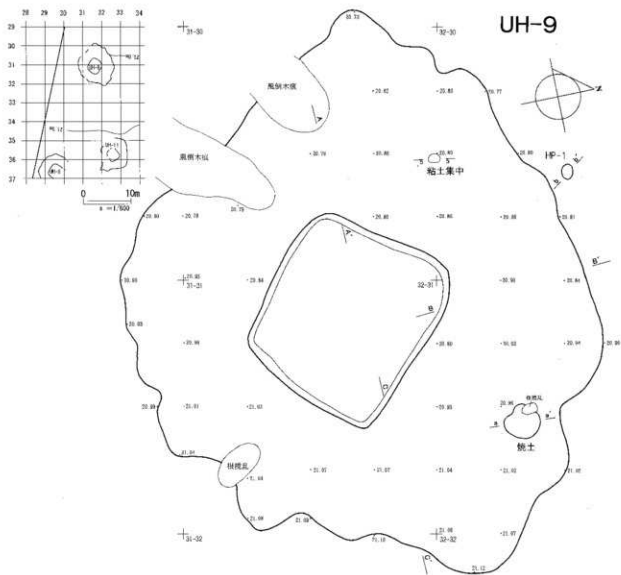
遺物	位置	種類	数量	単位	備考	備考	備考
49	1.1.1.49	銅貨	1	枚
50	1.1.1.50	銅貨	1	枚
51	1.1.1.51	銅貨	1	枚
52	1.1.1.52	銅貨	1	枚
53	1.1.1.53	銅貨	1	枚
54	1.1.1.54	銅貨	1	枚
55	1.1.1.55	銅貨	1	枚
56	1.1.1.56	銅貨	1	枚
57	1.1.1.57	銅貨	1	枚
58	1.1.1.58	銅貨	1	枚
59	1.1.1.59	銅貨	1	枚
60	1.1.1.60	銅貨	1	枚
61	1.1.1.61	銅貨	1	枚
62	1.1.1.62	銅貨	1	枚
63	1.1.1.63	銅貨	1	枚
64	1.1.1.64	銅貨	1	枚
65	1.1.1.65	銅貨	1	枚
66	1.1.1.66	銅貨	1	枚
67	1.1.1.67	銅貨	1	枚
68	1.1.1.68	銅貨	1	枚
69	1.1.1.69	銅貨	1	枚
70	1.1.1.70	銅貨	1	枚
71	1.1.1.71	銅貨	1	枚
72	1.1.1.72	銅貨	1	枚
73	1.1.1.73	銅貨	1	枚
74	1.1.1.74	銅貨	1	枚

遺物	位置	種類	数量	単位	備考	備考	備考
75	1.1.1.75	銅貨	1	枚
76	1.1.1.76	銅貨	1	枚
77	1.1.1.77	銅貨	1	枚
78	1.1.1.78	銅貨	1	枚
79	1.1.1.79	銅貨	1	枚
80	1.1.1.80	銅貨	1	枚
81	1.1.1.81	銅貨	1	枚
82	1.1.1.82	銅貨	1	枚
83	1.1.1.83	銅貨	1	枚
84	1.1.1.84	銅貨	1	枚

図IV-37 UH-8遺物出土位置図



図IV-39 UH-8出土遺物接合図



埋蔵品		埋蔵品調査結果										
調査番号	調査品名	出土層	調査層	遺跡	埋蔵品				埋蔵品		埋蔵品	
					種類	材質	形状	寸法	状態	位置	高さ	深さ
1	焼土	30-31	30-31	+	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土
2	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
3	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
4	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土

埋蔵品		埋蔵品調査結果										
調査番号	調査品名	出土層	調査層	遺跡	埋蔵品				埋蔵品		埋蔵品	
					種類	材質	形状	寸法	状態	位置	高さ	深さ
1	焼土	30-31	30-31	+	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土
2	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
3	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
4	粘土	30-31	30-31	+	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土

図IV-40 UH-9掘り上げ土確認状況

UH-9 (図IV-40~42 図版18・19)

位置 31・32-30・31区 掘り上げ土 30・31-30・31、31-29、32-32区

規模 2.96×2.64/2.76×2.44/0.59m

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去中、Ⅲ層上面にくぼみがみられた。Ⅲ層上面を精査したところ円形のくぼみとその周囲に褐色土が認められた。くぼみ中央を通るよう十字状に土層観察用ベルトを設定し、これ沿いにトレンチを設け掘り下げたところ、Ⅶ層で焼土と平坦な面、壁の立ち上がりが見られ、住居跡と判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 床面は黒色土とⅦ層が混じる層で、このトレンチをさらに掘り下げたところ、Ⅶ層面を確認し、埋土により床面が構築されていることが判明した。掘り上げ土の調査では焼土と粘土塊を確認し、付属遺構の調査は、住居内の床面をⅦ層まで掘り下げ行ったが認められず、住居外のⅢ層上面でHP-1・2を確認した。炉跡(焼土)HF-1と床面の土、掘り上げ土中の焼土はフローテーション(水洗浮遊選別)により微細遺物を回収した(本章11節参照)。

本遺構は平成20・21(2008・2009)の両年度に調査した。2008年度は掘り上げ土の南側一部とHP-2を、これ以外のすべては2009年度に調査した。

覆土 十九の層に分けた。覆土第1~9・11層は自然堆積や掘り上げ土が流入した層で、覆土第10層にはふい黄褐色を呈しB-Tmであろう。壁際には崩落土と考える黒褐色土(覆土第16層)の三角堆積がみられ、覆土第17~19層は埋め戻された床面構築土である。

掘り上げ土 掘り上げ土は住居跡の周囲約2~3mの範囲に広がり、下位部分で焼土と粘土集中を確認した。

形態 平面は隅丸の正方形で規模は小型である。埋土による床面は概ね平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。

付属遺構 炉跡(焼土)1か所(HF-1)・小土坑1か所(HP-1)・柱穴1か所(HP-2)がある。

- ・炉跡(焼土)

HF-1 規模 0.49×0.38/0.06m 平面形態 不整な楕円形

住居外の北東側、掘り上げ土層の直下であり、断面はレンズ状を呈する。

- ・小土坑

HP-1 規模 0.17×0.13/0.06m 平面形態 不整形

住居外の北側部分、掘り上げ土の範囲外にあり、底面は平坦で、覆土にはふい黄褐色の粘土のみであった。

- ・柱穴 HP-2 規模 (0.15)×0.13/0.30m 平面形態 不整な円形

住居外の南側に位置し、断面は先端部が尖る形態で、覆土は黒褐色土である。

- ・粘土集中 規模 直径0.20/0.04m 平面形態 楕円形

住居外に位置する黄褐色粘土のまとまりで、カマド(煙出口)である可能性を考え、トレンチにより調査したが認められなかった。

炭化材 床面直上で住居跡の全体にみられ、北西壁側では焼土も確認したので、焼失住居と考える。

遺物出土状況 住居跡の西角の床面直上から甕が1個体、横倒しの状態で出土した。

時期 層位的にはⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から捺文文化期前期である。

(愛場)

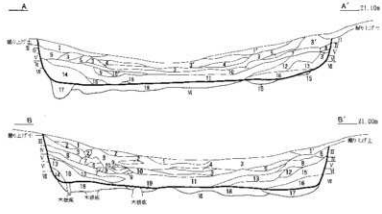
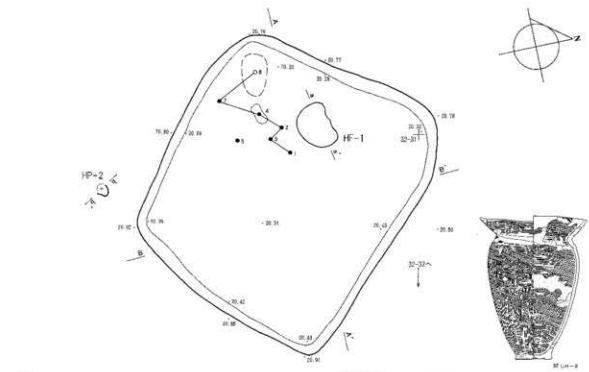
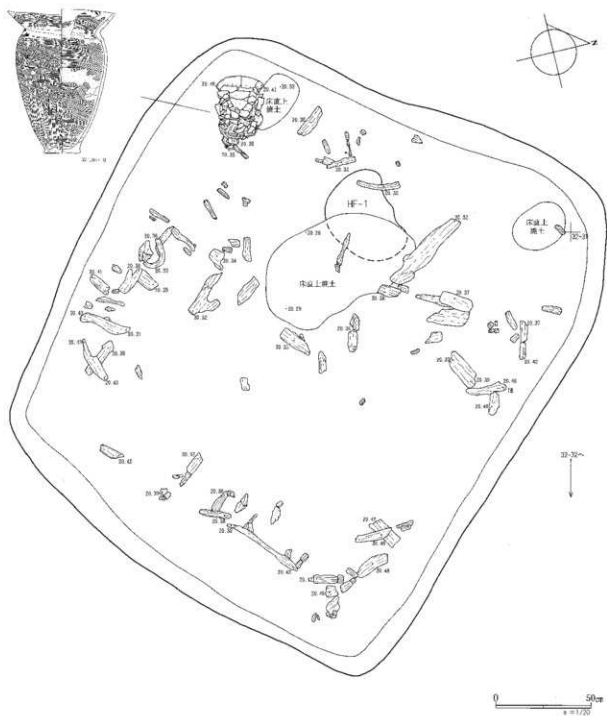


表 14-1									
层号	层名	层底标高	层顶标高	层厚	层底标高	层顶标高	层厚	层底标高	层顶标高
1	1.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
2	2.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
3	3.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
4	4.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
5	5.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
6	6.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
7	7.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
8	8.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
9	9.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00
10	10.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00



表 14-2										
层号	层名	层底标高	层顶标高	层厚	第一组(1-10层) 厚度 7m(层)			第二组(11-15层) 厚度 5m(层)		
					层底标高	层顶标高	层厚	层底标高	层顶标高	层厚
1	1.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
2	2.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
3	3.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
4	4.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
5	5.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
6	6.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
7	7.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
8	8.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
9	9.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
10	10.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
11	11.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
12	12.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
13	13.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
14	14.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
15	15.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	

表 14-3 HP-2 剖面图										
层号	层名	层底标高	层顶标高	层厚	第一组(1-10层) 厚度 7m(层)			第二组(11-15层) 厚度 5m(层)		
					层底标高	层顶标高	层厚	层底标高	层顶标高	层厚
HP-1	1.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
HP-2	2.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	
HP-3	3.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	0.00	20.00	20.00	



図IV-42 UH-9 炭化材出土状況図・遺物出土状況図

UH-10 (図IV-43・44 図版20)

位置 30・31-24・25区 掘り上げ土 30・31-25・26、31-24区

規模 (3.75)×(1.76)／(3.08)×(1.54)／0.56m

平面形態 隅丸方形？

確認 建設機械による表土除去中、調査区南側境界のⅢ層上面でくぼみを確認した。精査したところ、くぼみとこの周囲に褐色土が認められ、これらの約1/2以上は調査区外へ続いていた。当初は計画道路の法面下までが調査範囲とされていたが、遺構である可能性を考慮し、この部分は用地境界まで調査した。この境界に沿ってトレンチを設け、これと直交しくぼみの中央を通る土層観察ベルトを設定した。掘り下げたところ、Ⅶ層で焼土(HF-1)と平坦な面、壁の立ち上がりを確認し、住居跡であると判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 住居北西側の壁際では焼土粒や10cm程度の粘土塊、炭化材が混じる層がみられ、掘り進めると落ち込みであると判明した。炉跡と考える焼土はその上位に位置し、この部分は埋め戻しにより床面が構築されたと判断した。完掘後、柱穴等を調査したが認められなかった。HF-1周辺の土壌はフローテーション(水洗浮遊選別)により微細遺物を回収した(本章11節参照)。

覆土 十一の層に分けた。壁際には崩落土の三角堆積がみられる。中位に薄くみられる覆土第4層は、他の住居跡(UH)でもみられ、野外観察で白頭山苦小牧火山灰層(B-Tm)と考えていたもので、本遺構から試料を採取し検鏡した結果、この火山灰であるとの確認が得られた(Ⅵ章4節参照)。

掘り上げ土 住居の周囲2～3mに広がり、最大層厚は約14cmである。

形態 平面は正方形と推測され、床面は平坦で壁の立ち上がりは他の住居跡に比してゆるやかである。

付属遺構 炉跡と考える焼土を1か所(HF-1)確認した。

・炉跡(焼土)

HF-1 規模 (0.27)×(0.15)／0.07m 平面形態 円形？

北西側の壁近くで調査区外に続く。埋め戻しの床面構築土が被熱する。

遺物出土状況 西側部分から出土した。

時期 層位的にはⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や出土遺物から擦文文化期前期である。

(愛場)

UH-11 (図IV-45~47 図版21・22)

位置 32-35・36区 掘り上げ土 31~33-35・36、32・33-34区

規模 (2.70)×(2.14)／2.43×(1.81)／0.54m

平面形態 隅丸方形

確認 建設機械による表土除去時にⅢ層上面でくぼみがみられた。精査したところ、くぼみとその周囲に褐色が認められた。くぼみの中央に十字状に土層観察用ベルトを設定し、これ沿いにトレンチを設け掘り進めたところ、Ⅶ層で焼土や平坦な面、壁の立ち上がりが認められたので、住居跡と判断した。周囲の土層はこれに伴う掘り上げ土と考えた。

調査 西側と南側は風倒木痕により攪乱されていた。炉跡(焼土)HF-1上面やその周辺で炭化材が少量みられた。完掘後、柱穴等を調査したが確認できなかった。また、HF-1はフローテーション(水洗浮遊選別)により微細遺物を回収した(本章11節参照)。

本遺構は平成19(2007)年度に確認し、平成21(2009)年度に調査した。

覆土 十七の層に分けた。覆土第1~9層は自然堆積層および掘り上げ土が流入した層で、覆土第7層は中央付近の覆土中位にみられB-Tmである。覆土第10~15層は崩落土と考える。

掘り上げ土 住居の周囲2~3mの範囲に広がり、層厚は約5cmである。

形態 平面は隅丸長方形を呈し、最も小型の住居跡である。床面は概ね平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構 炉跡を1か所(HF-1)確認した。

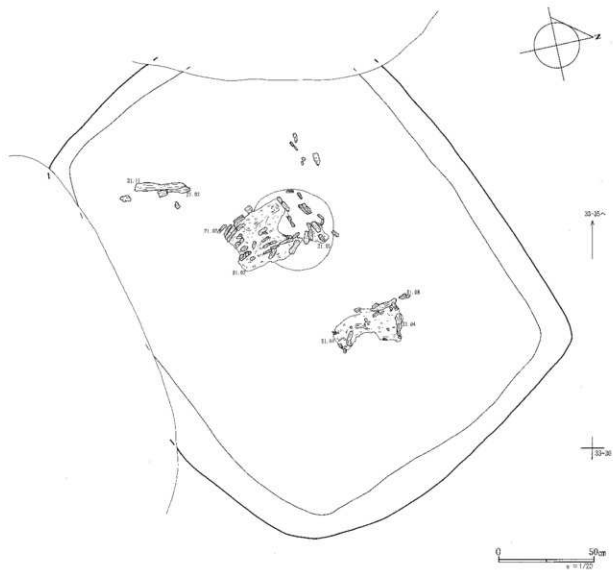
・炉跡(焼土)

HF-1 規模 0.46×0.42／0.06m 平面形態 円形

住居のほぼ中央に位置し、層厚は約6cmである。

遺物出土状況 黒曜石のフレイクと礫が1点ずつ出土した。

時期 層位的にはⅡ層・B-Tmより古く、住居構造や周辺の出土遺物から擦文文化前期である。(愛場)



图IV-47 UH-11炭化材出土状况

3. 土坑 (図IV-48・49 表IV-3・12・16 図版23)

UP-16 (図IV-48 図版23)

位置 23-60区

規模 $1.50 \times 1.13 / 0.94 \times 0.60 / 0.14\text{m}$

平面形態 不整な楕円形

確認・調査 UH-4・5の掘り上げ土の調査時、これに接し楕円形を呈する黒色土の堆積とⅦ群土器がみられた。遺構であると予想し半分を掘り下げたところ、多量のⅦ群土器と底面を確認し土坑と判断した。比較的大きな遺物のみ出土地点を計測し取り上げた。土器は出土点数が多く、掲載図には接合した土器のみを図示した。風倒木痕中に構築され、近くで小規模な白色粘土のまとまりを確認したが、本遺構との関係は不明である。

覆土 一つの層で、黒色土主体でEn-a軽石が少量混じる。

底面 概ね平坦である。

壁 曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土及び周辺からⅦ群土器が多数出土し、特に、北側部分に多い。

時期 出土土器から擦文文化前期と考える。

(広田)

UP-17 (図IV-48)

位置 30-79・80区

規模 $2.40 \times 0.94 / 2.20 \times 0.80 / 0.36\text{m}$

平面形態 長方形

確認・調査 包含層調査中、IV層上面でII層の堆積が認められた。当初、攪乱と考えスコップで掘り下げた。覆土はすべてII層のみであったが、遺構の可能性もあり記録した。

覆土 W層と呼称し、II層(Ta-a)の二次堆積でのみで、断面図は作成していない。

底面 概して平坦でV1層中である。

壁 西側部分では直立気味で、東側部分は緩やかである。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 覆土がII層のみで、層的にはこれが降下し二次堆積した時期、即ち1739年以降と判断する。

(末光)

UP-18 (図IV-49 図版23)

位置 24-64区

規模 $0.67 \times 0.55 / 0.43 \times 0.28 / 0.27\text{m}$

平面形態 不整な円形

確認・調査 III層調査中、円形の白色粘土のまとまりを確認し、中央を通るようトレンチを設け調査したところ、覆土が粘土である土坑と判明した。西側にUH-5、南側にUF-1が位置する。

覆土 四つの層に分け、いずれも黒色土と白色粘土が主体で、Ta-cが混ざるものが多い。

底面 中央付近が最も低く、底面はV2層上位である。

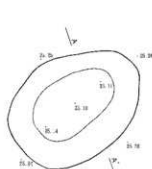
壁 比較的ゆるやかに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

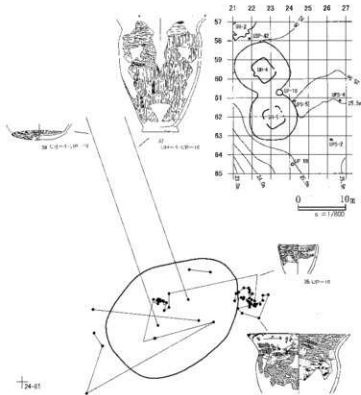
時期 層的にはIV層より新しく、周辺出土の土器から擦文文化期の可能性が高い。

(広田)

UP-16

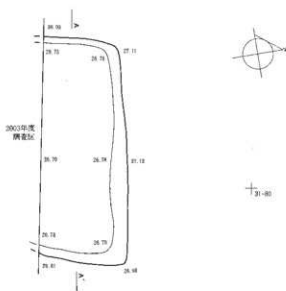
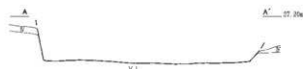
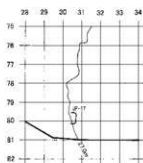


白色粘土



図号	遺構名称	遺構種類	遺構形状	遺構位置	遺構の規模・構造・築造時期	遺構の用途	遺構の年代	遺構の保存状況	備考
1	土壇(1層)	土壇	—	—	約10m×10m、高さ約1m、築造時期不明	土壇	約1000年	—	—

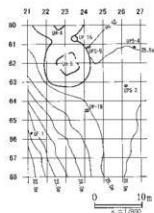
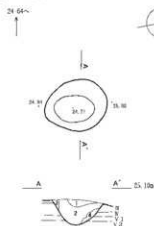
UP-17



図号	遺構名称	遺構種類	遺構形状	遺構位置	遺構の規模・構造・築造時期	遺構の用途	遺構の年代	遺構の保存状況	備考
1	溝	溝	—	—	約10m×10m、深さ約1m、築造時期不明	溝	約1000年	—	土壇、土壇跡

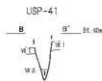
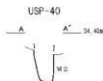
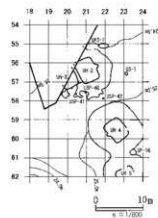


UP-18



UP-18		遺構名		遺構の位置		遺構の形状		遺構の規模		遺構の年代		遺構の用途	
遺構名	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模	遺構の年代	遺構の用途	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模	遺構の年代	遺構の用途	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模
1	遺構1 (円形)	円形	直径24.04m	縄文時代	貯蔵庫	21-22	61-62	24.04m	24.31m	縄文時代	貯蔵庫	21-22	61-62
2	遺構2 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	21-22	63-64	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	21-22	63-64
3	遺構3 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	23-24	63-64	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	23-24	63-64
4	遺構4 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	24-25	63-64	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	24-25	63-64

USP-40~42



USP-40		遺構名		遺構の位置		遺構の形状		遺構の規模		遺構の年代		遺構の用途	
遺構名	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模	遺構の年代	遺構の用途	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模	遺構の年代	遺構の用途	遺構の位置	遺構の形状	遺構の規模
1	遺構1 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	21-22	54-55	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	21-22	54-55
2	遺構2 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	23-24	54-55	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	23-24	54-55
3	遺構3 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	24-25	54-55	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	24-25	54-55
4	遺構4 (溝)	溝	幅1.5m	縄文時代	排水溝	25-26	54-55	1.5m	1.5m	縄文時代	排水溝	25-26	54-55

図IV-49 UP-18・USP-40~42

4. 柱穴状ピット (図IV-49 表IV-4)

USP-40~42

- ・ USP-40 位置 20・21-57区 規模 0.20/0.10/0.34m 平面形態 円形
- ・ USP-41 位置 20-57区 規模 0.17/ * /0.41m 平面形態 円形
- ・ USP-42 位置 21-57区 規模 0.18/ * /0.32m 平面形態 円形

確認・調査 包含層調査完了後、Ⅶ層上面で直径20cm程度の円形を呈する黒色土の堆積が2か所みられた。木根等と予想し進めたところ、明瞭な壁・坑底を確認し柱穴と判断した (USP-40・41)。周囲を精査し、みられたものすべてを半截し土層断面から遺構か否かを判断したところ、USP-42を確認した。

覆土 USP-40は掘り下げたため土層断面図を作成できなかった。USP-41は先端部付近のみ記録した。両者の覆土は黒色土主体で、USP-42は黄褐色土主体である。

坑底面 USP-41・42は先端部が尖る形態で、USP-40は平坦である。

遺物出土状況 いずれも遺物は出土しなかった。

時期 遺物の出土がなく明確な時期は判断できないが、付近に位置するUH-2に関連すると考え、擦文文化期前期と推測する。

(未光)

5. 焼土 (図IV-50 表IV-5 図版23・24)

UF-1 (図IV-50 図版23)

位置 21-65区

規模 0.23×0.23/0.05m 0.35×0.32/0.03m 平面形態 不整形

被熱層 Ⅲ層 色調 明褐色

確認・調査 Ⅲ層の包含層調査中、赤色土のまとまりが近接して2か所みられた。平面図を作成し、長軸方向から南東側部分をⅤ層上面まで掘り下げ土層断面を確認し、焼土と判断した。

断面 中央が厚く両端部へと曲線的に収束する形状である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 層的的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。(広田)

UF-2 (図IV-50 図版23)

位置 24-72・73区

規模 0.84×0.36/0.08m 平面形態 不整な楕円形

被熱層 Ⅲ層 色調 暗赤褐色 (5YR4/6) ~ 極暗赤褐色 (5YR2/3)

確認・調査 Ⅲ層の包含層調査中、赤色土のまとまりがみられた。平面を記録し、長軸方向から南東側部分をⅤ層上面まで掘り下げ土層断面を確認し、焼土と判断した。二つの層に分けられ、上位の焼土第1層は東側に部分的にみられる。

断面 中央が厚く両端部へと曲線的に収束する形状である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 層的的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。

(広田)

UF-3 (図VI-50)

位置 28・29-65区

規模 0.42×0.38/0.05m 平面形態 楕円形

被熱層 III層 色調 暗赤褐色 (5YR3/4)

確認・調査 III層の包含層調査中、赤色土のまとまりがみられ、中央にトレンチを設け掘り下げ、断面を確認し焼土と判断した。

断面 中央が厚く両端部が曲線的に収束する形態を呈する。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 層位的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。 (末光)

UF-4 (図VI-50 図版24)

位置 33-38・39区

規模 0.95×0.69/0.16m 平面形態 不整形

被熱層 III層 色調 暗赤褐色 (5YR3/6~3/4)

確認・調査 III層上面で確認し、抜根により攪乱されていた。炭化材がみられ、これの一部は生木であった。自然要因による焼土と推測するが、遺構の可能性もあるので記録した。

断面 炭化材の層の上下に焼土がみられる。それぞれの焼土は中央が厚く両端部は曲線的である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 層位的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。 (愛場)

UF-5 (図VI-50 図版24)

位置 27-42区

規模 0.91×0.85/0.08m 平面形態 不整形

被熱層 III層 色調 暗褐色 (7.5YR3/4)~明赤褐色 (5YR5/8)

確認・調査 III層上面で確認し、風倒木痕により攪乱されていた。色調から二つの層に分けられ、炭化材も確認した。

断面 上位部分は攪乱され、本来の形状を把握できない。

時期 層位的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。 (愛場)

UF-6 (図VI-50 図版24)

位置 31・32-40区

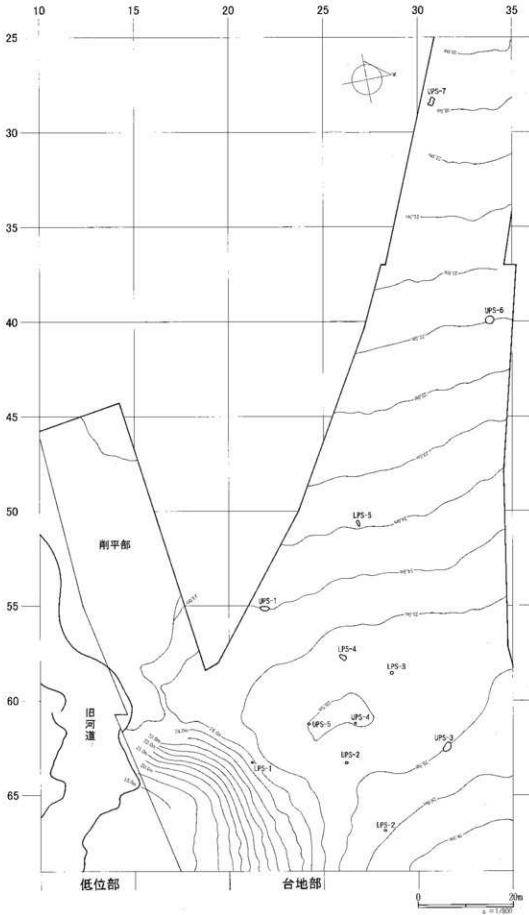
規模 0.56×0.42/0.07m 平面形態 不整形

被熱層 III層 色調 にぶい明赤褐色 (5YR4/4)

確認・調査 III層上面で確認し、西側は抜根により攪乱されていた。焼土上面には約1~2cmの炭化材がみられた。

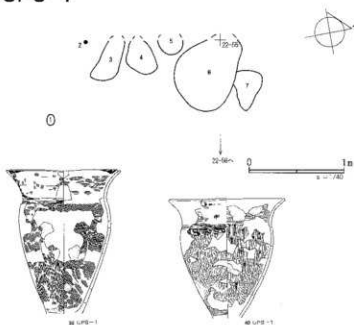
断面 層界の上下は平行で、一部厚い部分がみられる。

時期 層位的に縄文時代晩期後半か擦文文化期と推測する。 (愛場)



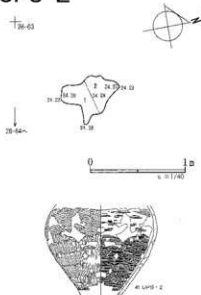
図IV-51 台地部Ⅲ層上面地形測量図及び土器集中位置図
(南北10~35・東西20~65ライン)

UPS-1



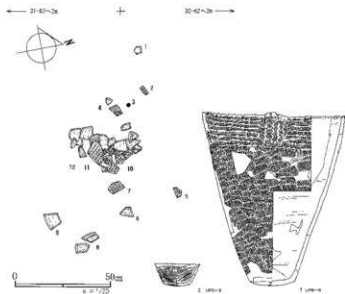
室号	1	2	3	4	5	6	7
面积 (m ²)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
容积 (m ³)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
层数	1	1	1	1	1	1	1
用途	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住
结构	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖
高度 (m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
层数	1	1	1	1	1	1	1
用途	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住
结构	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖
高度 (m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
层数	1	1	1	1	1	1	1
用途	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住
结构	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖
高度 (m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00

UPS-2



室号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
面积 (m ²)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
容积 (m ³)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
层数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用途	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住
结构	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖
高度 (m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00

UPS-3



室号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
面积 (m ²)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
容积 (m ³)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
层数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用途	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住	居住
结构	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖	砖
高度 (m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00

6. 土器集中

(1) III層の土器集中 (UPS) (図IV-51~54 表IV-6・13・16 図版24・25)

UPS-1 (図IV-52 図版24)

位置 21・22-55区

規模 (2.28)×0.88m

確認・調査 包含層調査中、III層で土器のまとまりを確認した。UH-2付近で掘り上げ土(H層)がみられない場所である。出土状況を記録し取り上げた。西側に隣接するグリッドにも若干広がっていたと推測するが、この部分はすでにV層上面まで掘り下げてしまい、正確な範囲は不明である。このグリッドライン沿いにトレンチを入れ土層断面を観察したが、掘り込み等はみられなかった。

遺物出土状況 土器はVII群で、残存状態が良好な口縁部・胴部の破片が多いが、剥離・小破片もみられた。甕を2個体復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(末光)

UPS-2 (図IV-52 図版24)

位置 26-63区

規模 0.62×0.51m

確認・調査 包含層調査中、III層中で小破片が無作為にまとまる状況がみられ、範囲を記録し取り上げた。範囲の中心にトレンチを設け掘り下げ断面を観察したが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてVII群で胴部の破片で、球胴甕1個体を復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(末光)

UPS-3 (図IV-52 図版24)

位置 31-62区

規模 0.87×0.82m **集中部分** 0.38×0.27m

確認・調査 包含層調査中、III層で破片がまとまっている状況を確認した。これを記録し取り上げ、範囲の中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてV群c類土器で胴部の破片が多いが、口縁部や底部の破片もあり、深鉢1個体・鉢1個体を復原した。

時期 出土遺物から縄文時代晩期後葉で、層的にはIV層T a-cよりも新しい。

(末光)

UPS-4 (図IV-53 図版25)

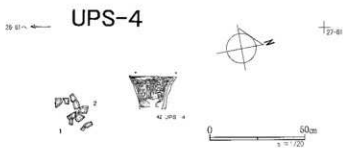
位置 26-61区

規模 0.22×0.16m

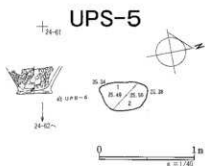
確認・調査 包含層調査中III層で確認した。出土状況を記録し範囲の中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてVII群で口縁部や胴部の破片があり、小型の甕1個体を復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(末光)

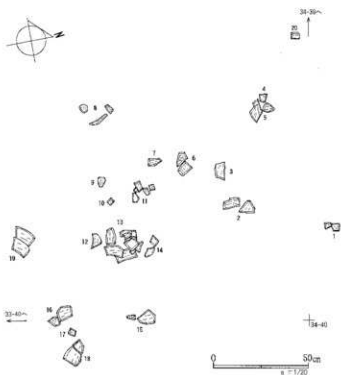
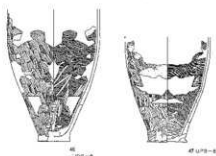
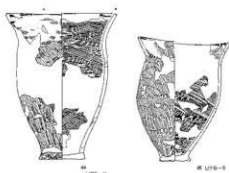
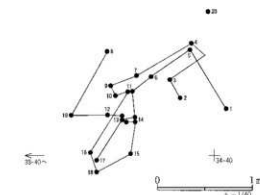


層位	土層	厚さ	形状	用途	高さ (cm)	電線	備考
1	上層	400	円形	貯水	34.34	—	
2	下層	400	円形	貯水	35.05	—	



層位	土層	厚さ	形状	用途	高さ (cm)	電線	備考
1	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
2	下層	400	円形	貯水	35.05	—	

UPS-6



層位	土層	厚さ	形状	用途	高さ (cm)	電線	備考
1	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
2	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
3	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
4	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
5	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
6	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
7	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
8	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
9	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
10	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
11	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
12	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
13	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
14	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
15	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
16	下層	400	円形	貯水	35.05	—	
17	上層	400	円形	貯水	35.05	—	
18	下層	400	円形	貯水	35.05	—	

UPS-5 (図IV-53 図版25)

位置 24-61区

規模 0.51×0.30m

確認・調査 包含層調査中Ⅲ層中で認められた。小破片の無作為なまとまりで、範囲を記録して取り上げた。範囲の中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてⅦ群で甕1個体の底部を復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(末光)

UPS-6 (図IV-53 図版25)

位置 33-39・40区、34-39区

規模 1.72×1.44m 集中部分 0.35×0.19m

確認・調査 包含層調査中Ⅲ層で認められ、比較的大きな破片が多かった。範囲の中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてⅦ群で胴部破片が多く、甕4個体を復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(末光)

UPS-7 (図IV-54 図版25)

位置 30-28区

規模 1.92×1.08m 集中部分 1.29×0.63m

確認・調査 Ⅲ層包含層調査中、小破片のまとまりが認められた。この範囲の中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 すべてⅦ群で甕2個体を復原した。

時期 出土遺物から縄文文化期前期と判断する。(愛場)

(2) V層の土器集中(LPS) (図IV-51・54~56 表IV-7・14・16 図版25・26)

LPS-1 (図IV-54 図版25)

位置 21-63区

規模 上位部分 (0.39)×(0.33)m 下位部分 (0.25)×(0.25)m

確認・調査 V層包含層調査中、台地平坦部と斜面部の境界付近で土器のまとまりがみられた。出土状況を記録し遺物を取り上げたが、その下位でもまとまりが認められこれも記録した。土器の出土した範囲の中央にトレンチを設け、土層断面を観察したが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 比較的大きめの破片が多く、すべてV群c類で深鉢と浅鉢1個体ずつ復原できた。

時期 出土遺物から縄文時代晩期後半で、層位的にはIV層T a-cより古い。(末光)

LPS-2 (図IV-55 図版25)

位置 28-66区

規模 0.42×0.26m 集中部分 0.30×0.20m

確認・調査 V層包含層調査中、土器のまとまりが認められ記録し取り上げた。その後、中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 口縁部、底部、胴部がみられ小破片は少ない。深鉢1個体を復原できた。

時期 出土遺物から縄文時代晩期後半で、層位的にはIV層T a-cより古い。(末光)

UPS-7

130-28

131-26

層位	土層	土質	厚層	層底	層高	備註
1	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
2	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
3	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
4	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	



130-29

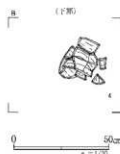
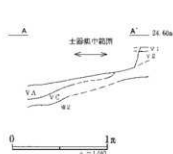
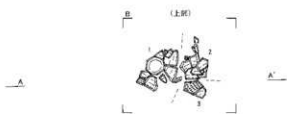
131-29



LPS-1

131-43

22-43~



層位	土層	土質	厚層	層底	層高	備註
1	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
2	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
3	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	
4	上層	砂土	0.00	0.00	0.00	砂土層
			0.00	0.00	0.00	

圖IV-54 UPS-7 · LPS-1

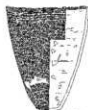
LPS-2

↑
29-66~↑
78-470 50cm
n = 1/200

遺物 番号	出土 層位	所在 層位	種類 番号	形状 番号	数量	単位	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)
1	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.75		
2	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		20.01
				1002	1		21.75		
3	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.75		20.01
				1002	1		23.75		

LPS-3

← 26-52~3a + 29-55~1a →

↑
A

(上部)



L

1

J

0 50cm
n = 1/200

遺物 番号	出土 層位	所在 層位	種類 番号	形状 番号	数量	単位	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)
1	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		1.00
				1002	1		23.00		
				1003	1		21.13		
				1004	1		20.12		
2	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		1.00
				1002	1		23.00		
				1003	1		21.13		
				1004	1		20.12		
3	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		1.00
				1002	1		21.13		
4	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		1.00
				1002	1		21.13		
5	上層	中層	1000	1001	1	V 1層	23.00		1.00
				1002	1		21.13		

↑
A

(下部)



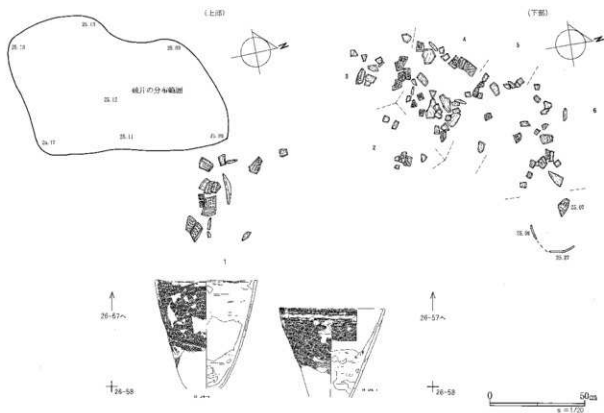
L

2

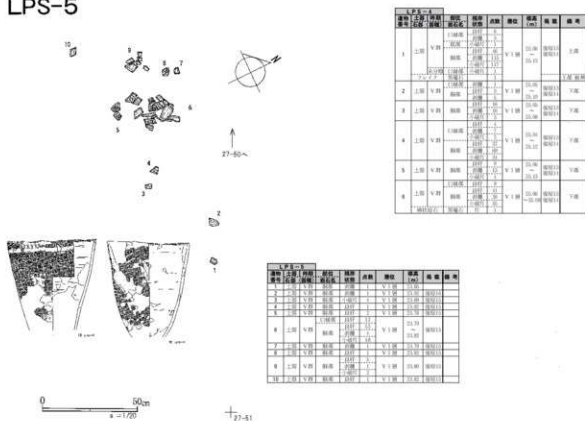
3

図IV-55 LPS-2・3

LPS-4



LPS-5



L P S - 3 (図IV-55 図版26)

位 置 28-58区

規 模 上位部分 0.58×0.54m 下位部分 0.47×0.34m

確認・調査 V層包含層調査中、土器のまとまりが認められ実測し取り上げたが、さらに下位でもまとまりを確認した。これも記録し取り上げた後、中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 上位部分では剥離・小破片が多い。深鉢5個体、鉢1個体、浅鉢1個体を復原できた。

時 期 出土遺物から縄文時代晩期後半で、層位的にはIV層T a - cより古い。(末光)

L P S - 4 (図IV-56 図版26)

位 置 25・26-57区

規 模 上位部分 1.56×0.99m 下位部分 1.48×0.80m

確認・調査 V層包含層調査中、土器のまとまりが認められた。比較的大きな破片がみられる部分と、剥離・小破片が集中する部分が認められた。これを実測し取り上げたところ、さらに下位にもやや散在的であるが土器破片を確認しこれも記録した。その後、トレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 上位部分では剥離・小破片が多い。深鉢2個体を復原できた。

時 期 出土遺物から縄文時代晩期後半で、層位的にはIV層T a - cよりも古い。(末光)

L P S - 5 (図IV-56 図版26)

位 置 26-50区

規 模 1.36×0.50m 集中部分 0.36×0.21m

確認・調査 V層包含層調査中、土器のまとまりが認められ、記録して取り上げた。中心を通るトレンチを設け掘り下げたが、掘り込み等は認められなかった。

遺物出土状況 胴部の破片が多く出土した。深鉢2個体を復原できた。

時 期 出土遺物から縄文時代晩期後半で、層位的にはIV層T a - cより古い。(末光)

US-1

72-56



0

UN-1

73-39

→ 34-39



UN-1		第一層(2.10-2.11) (層厚1.0m未満)					第二層(2.11-2.12) (層厚0.5m未満)			第三層(2.12-2.13) (層厚0.5m未満)		
深部	層位名称	土质	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	
1	粘土層1層	粘土上・粘土	*	粘土	*	灰褐色	300g/0.5	砂	粘一帯	*	*	*

72-57



24 UN-1



22 UN-1



22 UN-1



24 UN-1



24 UN-1

図IV-57 US-1・UN-1

7. 礫集中

US-1 (図IV-57 表IV-8・16 図版26)

位置 23-56区

規模 0.73×0.50 m

平面形態 不整な楕円形

確認・調査 III層調査中に小礫の集中を確認し範囲等を記録した。

遺物出土状況 集中範囲内からIII群土器1点・フレイク1点・礫244点が出土した。礫は粒径1 cm程度の円礫・亜円礫状でチャートや堆積岩である。

時期 層位的にはIV層T a-cより新しく、擦文文化期と推測する。(広田)

8. 粘土集中

UN-1 (図IV-57 表IV-9・12・16 図版26)

位置 33-39区

規模 1.27×0.74/0.05m

調査 III層調査中、粘着性が高い灰黄色の粘土のまとまりを確認した。周囲にはVII群土器が多くみられ、これに関連するものと判断した。土層断面では灰黄色粘質土とIII層主体の層を確認した。

遺物出土状況 VII群土器が出土し甕3個体・球胴甕2個体を復原できた。また、すり石に分類したものは分割礫で、周囲のグリッドIII層出土のものと同接した。他に長径1~2 cm程度の小礫がある。

性格 肉眼での観察では粘土はIX層起源と考えられ、擦文文化期の住居のカマドの構築材に類似し、これらに関連すると推測する。

時期 出土遺物や粘土の類似性から擦文文化期前期と考える。(愛場)

9. 炭窯跡

炭窯跡3 (図IV-58 表IV-10・12・16 図版27)

位置 32-52・53・54区, 33-53・54区

規模 3.70×(2.34)/3.60×(2.28)/(0.30)m

平面形態 長方形

確認・調査 表土除去後、III層上面で炭・焼土と長方形を呈する暗褐色土の広がりが見られ、長軸方向にトレンチを設け調査したところ、炭窯跡であると判明した。北側の一部が伐採痕により破壊されている。

覆土 上位は炭化物・焼土が、底面付近は焼土・粘土が主体である。

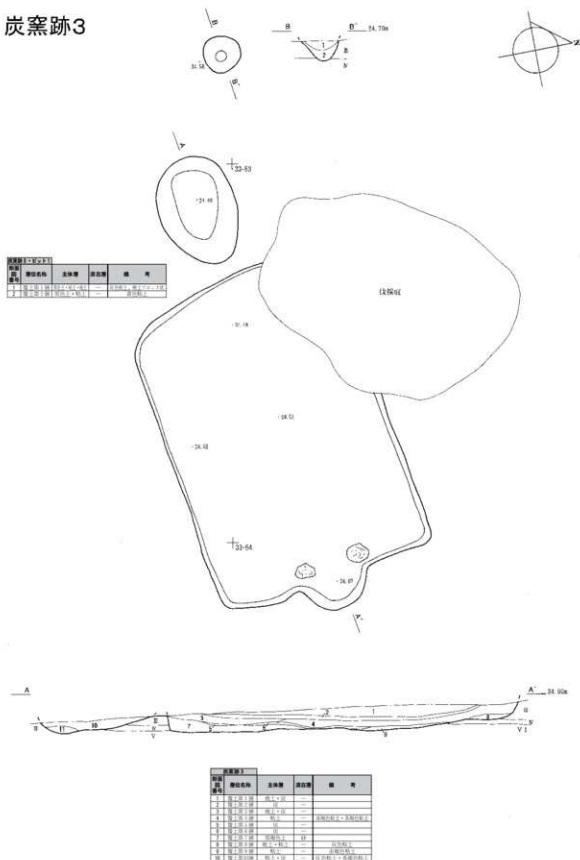
底面・壁 底面は概ね平坦でIV~V1層中である。壁の立ち上がりは急角度である。

遺物出土状況 底面東壁付近から大型の礫が2点出土し構造に関わるものと判断する。

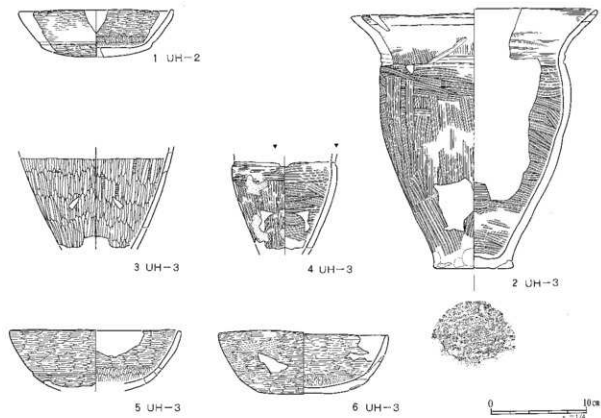
付属施設 西側にビット状の落ち込みが2基あり、西壁のものは炭窯の構造の一部で、その西側の落ち込みの覆土は粘土で、炭窯に関連すると考える。

時期 同様な炭窯跡は低位部で2か所(炭窯跡1・2)確認しており、と同じ昭和20~30年代と考える。(広田)

炭窯跡3



図IV-58 炭窯跡3



図IV-59 UH-2・3出土VII群復原土器

10. 遺構出土の遺物

(1) VII群復原土器 (図IV-59~66 表IV-17~70 図版28~37)

遺構出土のVII群土器は、包含層出土のものを含め約3,116点が接合し53個体復原した。

UH-2

1は内黒の坏でミガキ調整である。

UH-3

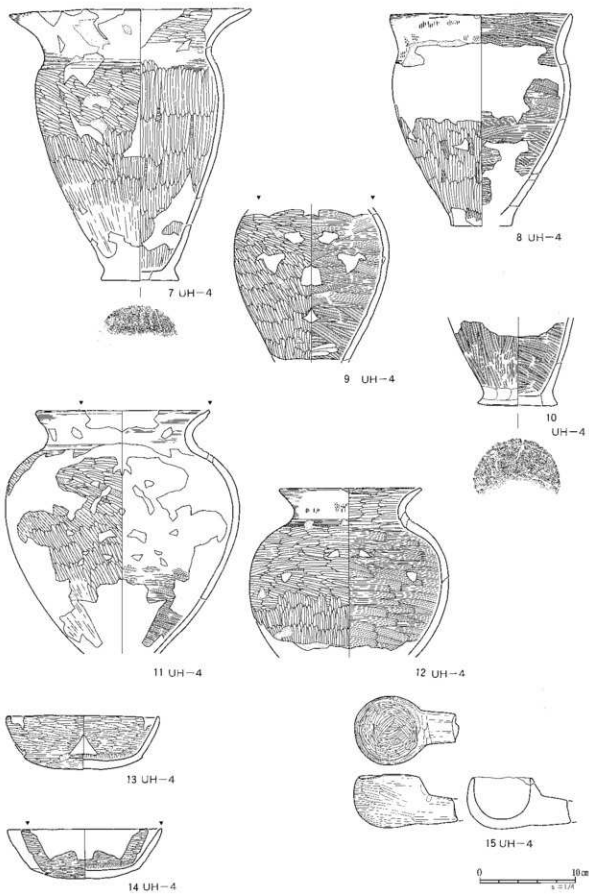
2~4は甕、5・6は坏である。

2は直線的に外反する口縁部から頸部へとすぼまり、胴部上位がゆるやかに膨らみ底部へ至る器形を呈する。頸部には浅い沈線文が施される。3は甕の胴部中位でタテミガキがみられる。4は頸部から胴部下位まで残存し、頸部はナデによる沈線文、胴部はタテミガキである。5・6はともに内黒で、5は底部近くに段を有するが、6にはみられない。

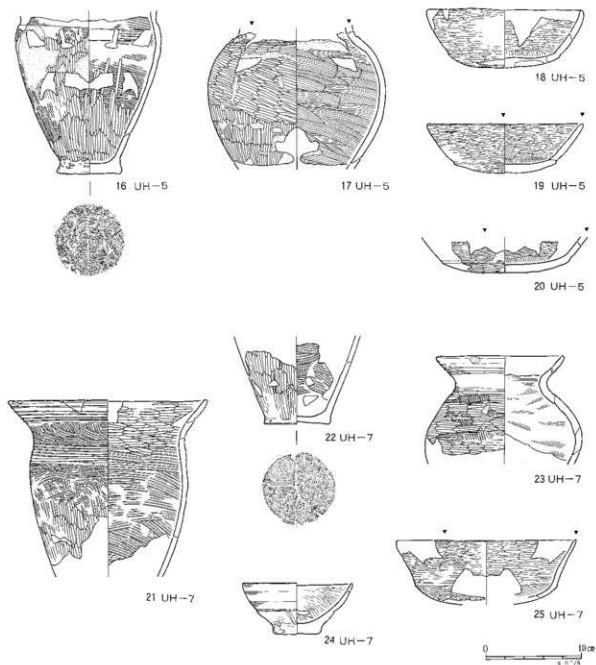
UH-4

7~10は甕、11・12は球胴甕、13・14は坏、15は把手付土器である。

7は強く外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部上位がゆるやかに膨らみ底部へとすぼまる器形で口縁部はヨコナデ、頸部は沈線文、胴部はタテハケとミガキが観察される。8は口縁部~頸部と胴部中位~底部が残存するものを推定復原したものである。わずかに外反する直立気味の口縁部から頸部へわずかにすぼみ、胴部上位から曲線的に底部へ至る器形である。9は胴部上位~下位で、ミガキ調整である。10は調整工具のアタリが認められる。11は強く曲線的に外反する口縁部で、胴部上位が顕著に膨らみ、底部へと収束する器形である。口縁部はヨコナデ、胴部はミガキである。12は外反す



图IV-60 UH-4 出土VII群復原土器



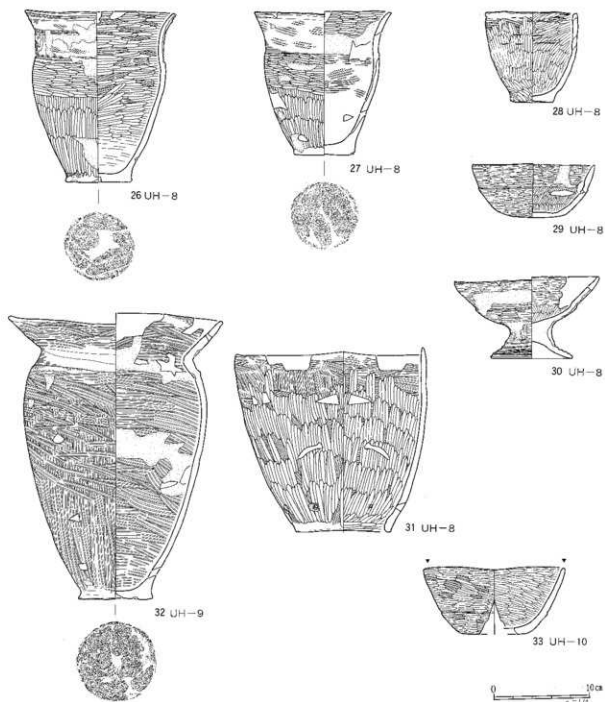
図IV-61 UH-5・7出土Ⅶ群復原土器

る口縁部から曲線的な胴部で、底部へはゆるやかにすぼまる。胴部上位はヨコミガキで、下位はタテミガキがみられる。13・14ともに内黒で、底部近くには段を有する。15は把手付土器と称したもので、把手部が破損するが、器の形状を保って出土した。全体的にミガキ調整である。

UH-5

16は甕、17は球胴甕、18～20は内黒の坏である。

16は胴部上位から曲線的に底部へ至る器形を呈し、外面は大きく剥離する。17は曲線的な器形で、上位はヨコミガキ、下位はタテミガキである。18はやや器高があり、口縁部はわずかに内湾する。19は直線的に開口する口縁部で、20は胴部付近が残存するものである。

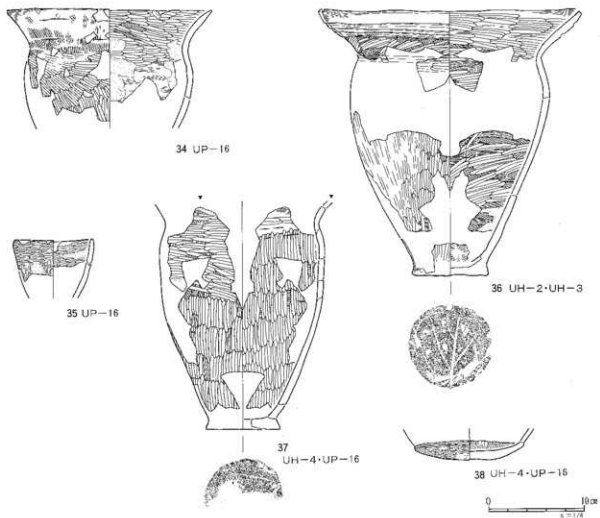


図IV-62 UH-8・9・10出土VII群復原土器

UH-7

21・22は甕、23は球胴甕、24は鉢、25は坏である。

21は外反する口縁部から胴部の膨らみが顕著でない器形で、口唇部直下の器面にはナデによる多段の、頸部には複数の横走る沈線文が観察される。22は直線的に底部へすぼまる器形で、タテミガキがみられる。23は強く外反する口縁部から曲線的に張り出す胴部で、他に出土している球胴甕に比して、口縁部の径が長い。口唇部直下の器面と頸部には、ナデによる多段沈線文が施される。24は鉢で、横方向に規則的なナデ調整がみられる。25は内黒で、器高が高いものである。



図IV-63 UP-16出土・複数遺構接合Ⅶ群土器

UH-8

26・27は甕、28は鉢、29は坏、30は高坏、31は甕である。

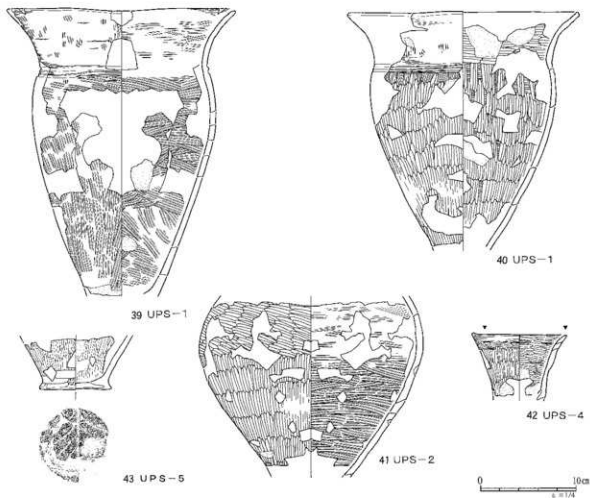
26・27はわずかに外反する口縁部で、胴部の膨らみも弱く、他に出土している甕に比べて、直線的な器形を呈する。ともに口縁部と頸部にはナデによる沈線文が施される。26は直立する口縁部から胴部中位で底部へとすぼまる器形で、ミガキ調整が施される。29は内黒で、胴部上位付近に段を有する。30は高坏で坏部分・台部分ともにミガキ調整と推測する、多段沈線文がみられる。31は甕で、直立気味の口縁部から底部へとゆるやかにすぼまる器形で、上位はヨコナデ・ヨコハケ・タテハケがみられ、中位から下位はタテミガキである。焼成前に穿たれた孔が一对みられる。

UH-9

32は甕で、外反する直線的な口縁部から、頸部にすぼまり、胴部上位が曲線的に膨らみ、底部へとすぼまる器形である。口縁部はヨコナデ、頸部には多段沈線文、胴部にはタテハケ・ヨコナデが観察される。

UH-10

33は内黒の坏で、ヨコミガキ調整である。



図IV-64 UPS-1・2・4・5出土Ⅶ群復原土器

UP-16

34は甕、35は鉢である。

34は大きく外反する口縁部から頸部ですぼまり、曲線的に胴部上位が張り出す。口縁部・頸部はタテハケ、胴部はミガキがみられる。34は曲線的に開く口縁部から底部へとすぼまる器形で、上位はヨコミガキ、下位はタテミガキが観察される。

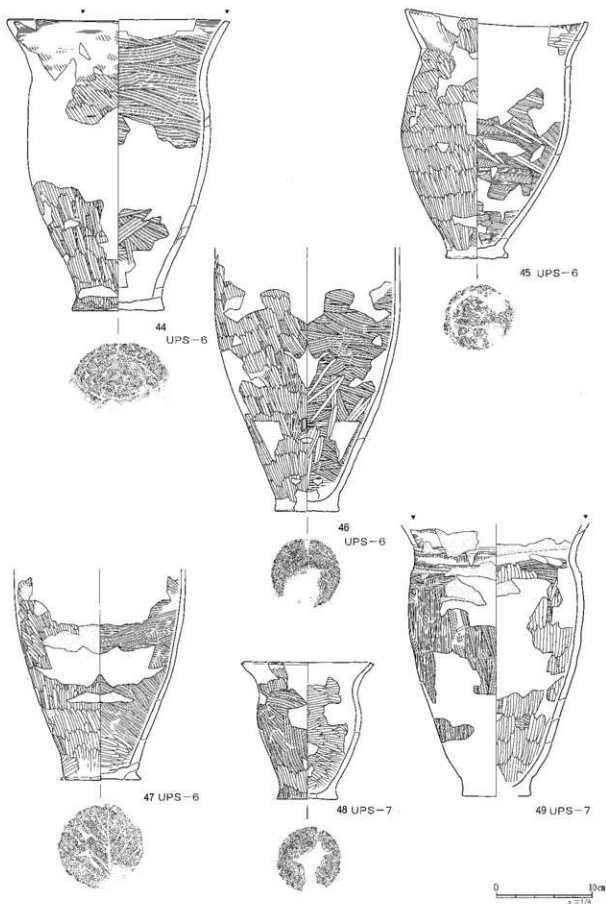
複数の遺構から出土し接合・復原したもの

36・37は甕、38は坏である。

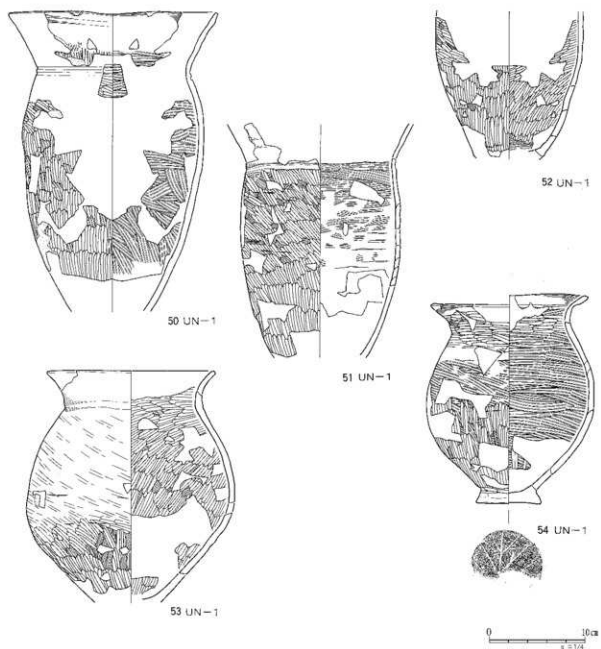
36は近接する住居跡UH-2・3出土のものが接合したもので、口縁部～胴部上位と胴部中位～下位の部分を推定復原した。口縁部は直線的で大きく外反し、口縁部と頸部には沈線文が施される。胴部中・下位はタテミガキがみられ、底外面には明瞭な葉脈痕が観察される。

37・38は近接する住居跡UH-4と土坑UP-16出土のものが接合した。37は外反する口縁部からすぼまり、胴部上位がゆるやかに膨らみ、同中位から底部へとすぼまる器形を呈する。頸部～胴部上位はヨコミガキ、下位はタテミガキである。

38は沈線文が施された胴部から底部の内黒の坏である。



図IV-65 UPS-6・7出土Ⅶ群復原土器



図IV-66 UN-1出土VII群復原土器

UPS-1

39・40は甕で、ともに大きく曲線的に外反する口縁部から頸部へすぼまり、胴部上位が曲線的に膨らみ、底部へとすぼまる器形である。39は口唇部〜口縁部にかけて磨耗が著しく、頸部にはナデによる沈線文が施される。40は口縁部から頸部にかけて、ナデによる段状沈線文がみられる。

UPS-2

41は球胴甕で、胴部上位から下位の曲線的に膨らむ器形を呈し、上位はヨコミガキ、下位はタテミガキである。

UPS-4

42は鉢で、ゆるやかに外反する口縁部から底部へとすぼまる器形で、口縁部はヨコミガキ、胴部はタテミガキである。

UPS-5

43は甕の底部で、タテミガキ調整がみられ、底外面には葉脈痕が観察される。

UPS-6

44・45・46・47はすべて甕である。44はわずかに外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部中位付近でゆるやかに膨らみ底部へといたる器形で、口縁部はハケメとナデ、胴部はハケメとミガキ調整である。45は直線的に外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部が曲線的に膨らむ器形で、口縁部から底部までタテミガキがみられる。46は直立気味の胴部上位から底部へとゆるやかにすぼまる器形で、外面はタテミガキである。47は直立気味の胴部上位から底部へとすぼまる器形を呈し、外面はタテミガキ、底外面には葉脈痕が明瞭にみられる。

UPS-7

48・49は甕である。48は小型で外反する口縁部から頸部で胴部中位へと曲線的につながる器形で、外面は縦方向の調整が目立つ。49は外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部から底部へとゆるやかな曲線を呈する。

ともに、頸部から胴部までタテハケが観察される。

UN-1

50～52は甕、53・54は球胴甕である。

50は直線的に開口する口縁部から頸部ですぼまり、胴部がゆるやかに膨らむ器形を呈する。口縁部と頸部にはナデによる沈線文が施される。51も50と同様な器形を呈し、頸部のナデによる沈線文は幅広である。52は直立気味の胴部から底部へとすぼまる器形で、上位は横方向、下位は縦方向の調整である。53は外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部中位が大きく膨らむ器形で、頸部にはナデによる沈線文がみられる。54は強く外反する口縁部から頸部へとすぼまり、胴部上位が膨らむ器形である。上位は横方向、下位は縦方向の調整で、底外面は葉脈痕が観察される。

以上1～54は推定文化期前期と判断する。

(2) VII群破片土器・土製品 (図IV-67～69 表IV-71・72 図版38・39)

UH-1

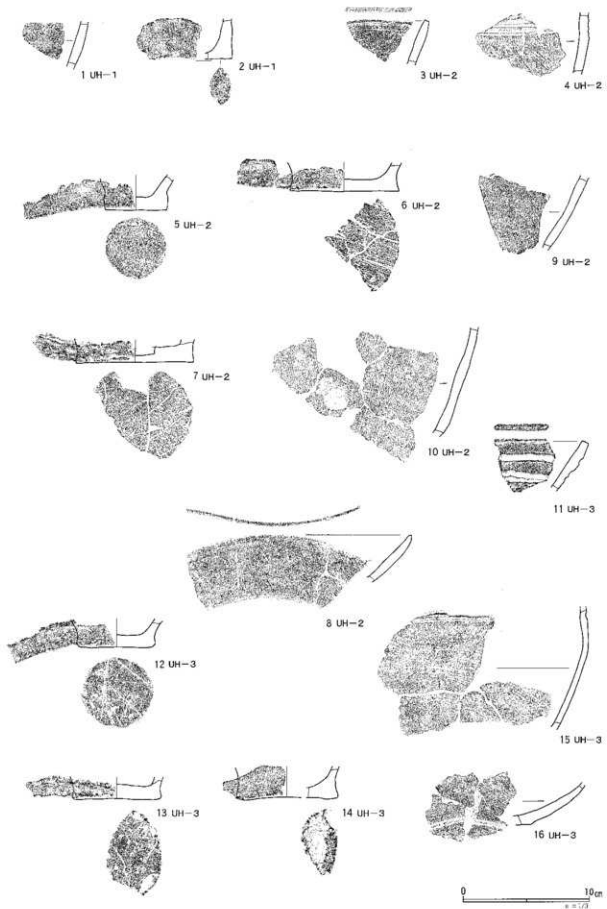
1は甕の胴部、2は底部である。

UH-2

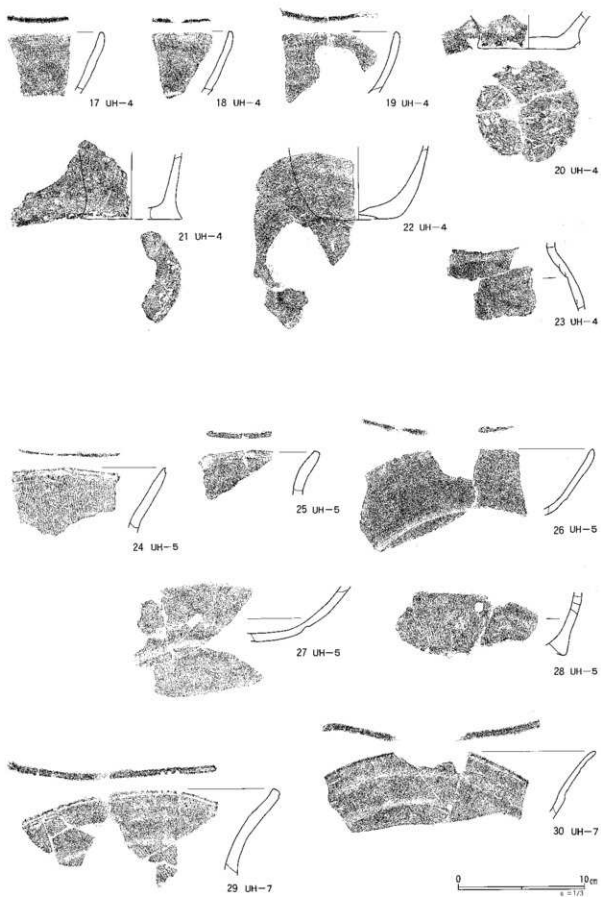
3は甕で口唇部にはナデによる粘土の筋がみられる。4は頸部で、ナデによる沈線文がみられる。5・6・7は甕の底部で、底外面には葉脈痕が観察される。8は環の口縁で内黒である。9・10は甕の胴部でタテハケがみられる。

UH-3

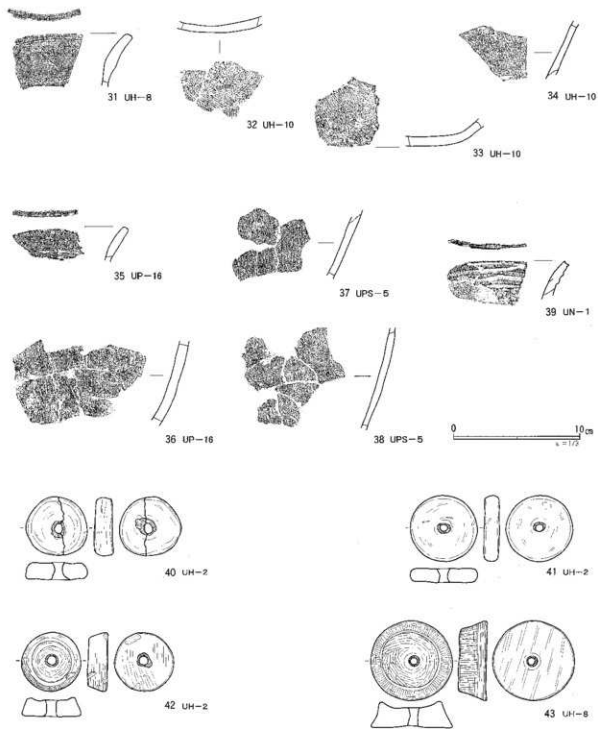
12・13・14は甕の底部で、前二者は底外面には葉脈痕がみられ、後者は剥離する。15は甕で、頸部にナデによる沈線文が施される。16は環でミガキによる段がある。



图IV-67 UH-1·2·3出土Ⅶ群破片土器



図IV-68 UH-4・5・7出土Ⅶ群破片土器



図IV-69 UH-8・10、UP-16、UPS-5
UN-1出土VII群破片土器 UH-2・8出土土製品

UH-4

17・18は同一個体の甕の口縁部で、19は内黒の環である。20は底外面に不整な凹みがみられる。21は直立気味の胴部へとつながり、22は胴部へと大きく広がる器形である。23は球胴甕で、内面は輪積みの痕跡がみられる。

UH-5

24・25は口縁部で、前者はタテハケ、後者はヨコナデがみられる。26・27は内黒の帯で、ミガキによる段・沈線文が観察される。28は焼成前に穿たれ、整形された孔が1か所あり、甗と判断する。

UH-7

29は口唇部から外面にかけて刻みがみられる部分がある。30は甗の口縁部で全体的に磨耗している。

UH-8

31は甗の口縁部で、横方向に細い沈線文状の調整痕がみられる。

UH-10

32・33は帯の底部で、外面にはハケメが観察される。34は甗の胴部で沈線文とミガキがみられる。

UP-16

35は甗の口縁部で横方向の調整がみられる。36は甗の胴部で7点が接合したものである。外面は器面の荒れが著しい。

UPS-5

37・38は甗の胴部でヨコハケ・タテミガキが観察される。

UN-1

39は口縁部で外面は沈線文が複数施される。

土製品

40～42はUH-2、43はUH-8出土の紡錘車である。

40は二点が接合したものである。41は薄手で、42・43は側面観が台形で上辺が凹み形状を呈する。

以上1～40は據文文化期前期と判断する。

(3) V群復原土器 (図IV-70～75 表IV-73～89 図版40～43)

遺構出土のV群土器は、包含層出土のものを含め約1,192点が接合し17個体復原した。なお、破片で掲載するものはない。

UPS-3

1は口縁部から底部へと概ね直線的にすぼまる器形を呈する深鉢である。口縁部には横方向の沈線文と、突起下では垂下する蛇行沈線文が施される。地文はLRである。2は鉢で、無文地に工字文風の沈線文と刺突文が施され、底外面はLR縄文、沈線文、刺突文、指頭による圧痕が観察される。

LPS-1

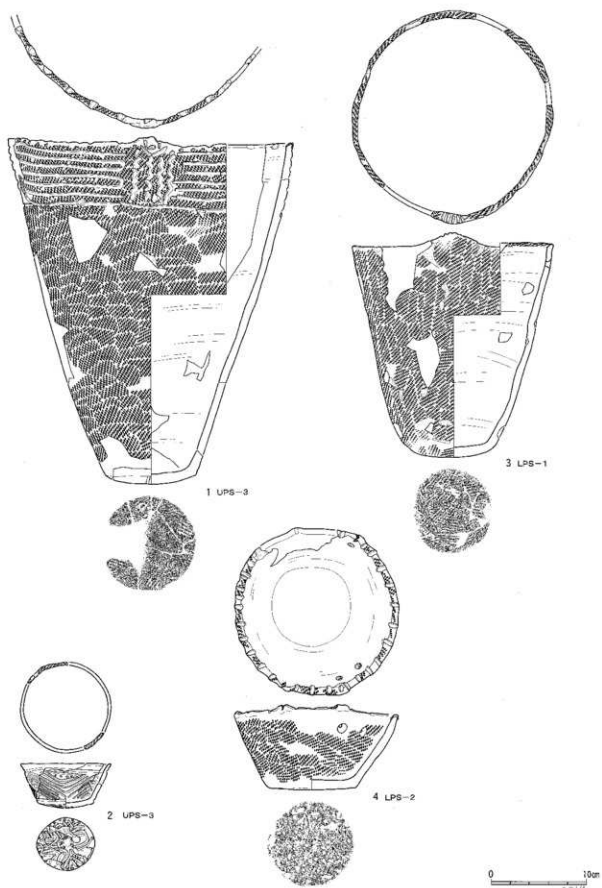
3は口縁部から底部へと概ね直線的にすぼまる器形の深鉢である。突起は1か所で、口唇部から内面にかけて刻みが施される。地文はRL縄文で、底外面には磨滅により不明瞭になった条と刺突文がみられる。4は口縁部から底部へと概ね直線的にすぼまる器形の鉢である。口唇部は刻みとLR縄文が施され、地文も同じである。補修孔が1対観察される。

LPS-2

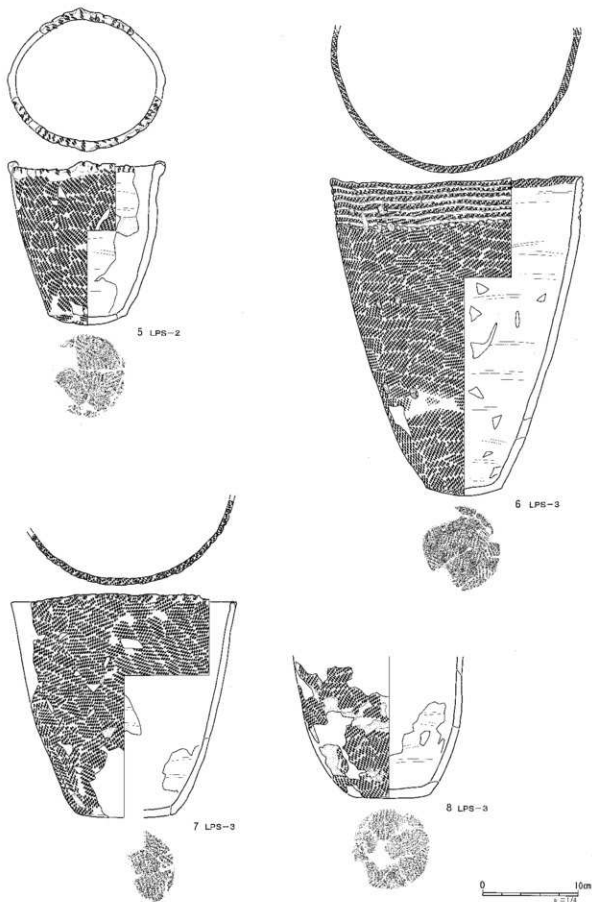
5は小型の深鉢で、口縁部から概ね直線的に底部に至る器形で、突起部分は肥厚する。口唇部から内外面にかけてRL撚紐刻みが施され、地文はRLで底外面にもみられる。

LPS-3

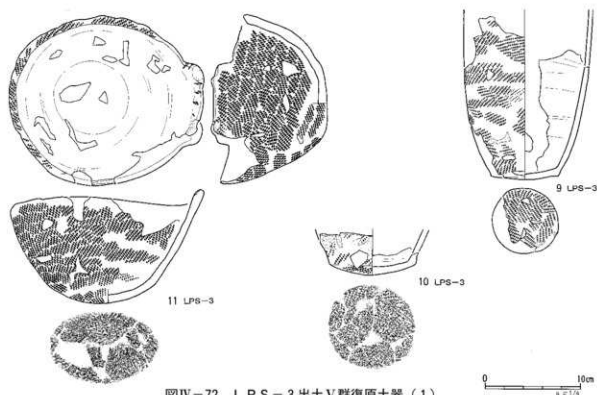
6は直立気味の口縁部で胴部上位付近から底部へとすぼまる深鉢である。口唇部、地文、底外面はLRで、口縁部には横環する沈線文が複数施され、補修孔が口縁部、胴部上位、胴部中位に1対ずつ



圖IV-70 UPS-3、LPS-1・2出土V群復原土器



図IV-71 LPS-2・3出土V群復原土器



図IV-72 LPS-3 出土V群復原土器(1)

みられる。口縁部にあるもの一つは穿孔途中の状態である。7は口縁部から直線的に底部へ至る器形の深鉢で、口唇部から外面にかけてLR原体による刻みが施される。胴部上位～中位は条が横走する。8は直立気味の胴部中位で、同下位から底部へとすぼまる器形の深鉢である。LR縄文が施され、底外面は磨滅しているが縄文が観察される。9は直立気味の胴部で、その中位からゆるやかに底部へと至る器形の深鉢である。地文はLRで、胴部上位と中位は横走する部分も認められる。10は底部でLR縄文が施される。11は鉢で、大きな突起が1か所ある。突起部分はLR撚紐刻みと指頭圧痕がみられ、口唇部、胴部、底外面には縄文が施される。12は上面観が五角形を呈する浅鉢で、外面は底面までLR縄文である。図の右側の突起(突起部A 表IV-84参照)が装飾的で、Rの円形圧痕文、刺突文が施され、その両側の突起部Bにも円形の撚紐圧痕がみられる。

LPS-4

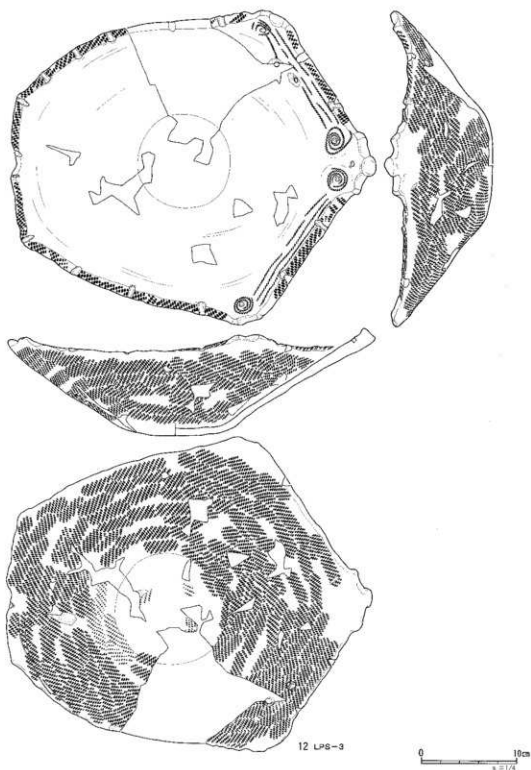
13は口縁部から底部へと概ね直線的にすぼまる器形の深鉢で、口唇部と外面にRL縄文が施される。14は外反する口縁部から底部へと直線的にすぼまる器形の深鉢で、口唇部は刻み、口縁部は半截竹管状工具による刺突文、平行沈線文、無文帯がみられる。胴部は縦走気味のRL縄文である。

LPS-5

15は直立気味の口縁部から直線的に底部へ至る器形の深鉢で、口唇部にはRL縄文と刻みがみられる。口縁部は、半截竹管状工具による刺突文、ナデによる幅広い沈線文(無文帯)が施され、地文はRL斜行縄文で、胴部には縦位施文の部分もみられる。16は直立気味の口縁部から胴部へと至り、同下位で底部へとすぼまる器形の深鉢である。口唇部はRL撚紐刻み、胴部にはRL縄文が施される。口縁部、胴部中位、同下位には補修孔がある。

LF-15

17は大きく外反する口縁部で、胴部中位から底部へすぼまる器形の浅鉢である。口唇部は刻みと



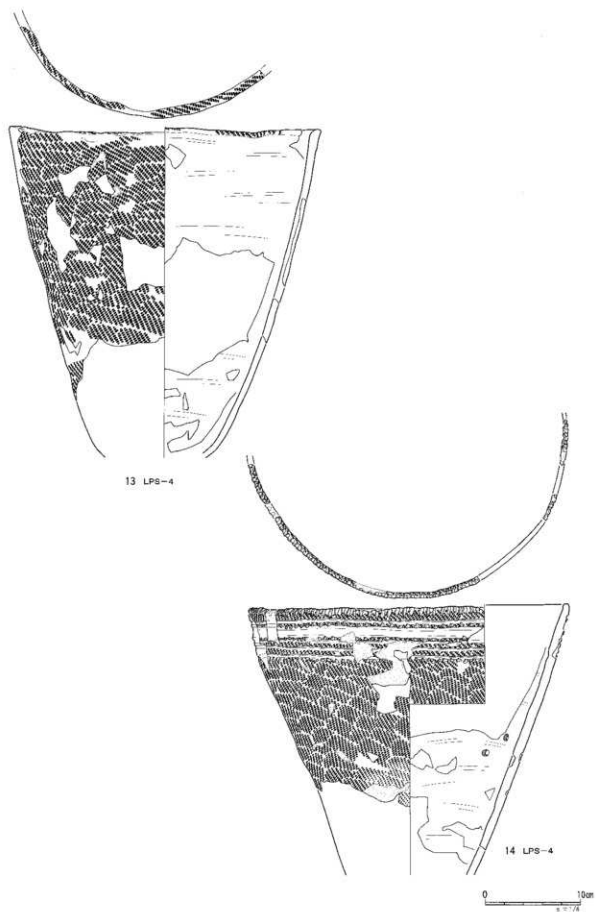
図IV-73 LPS-3出土V群復原土器(2)

L R縄文がみられ、外面には曲線的な沈線文とこれに比して直線的なものが観察される。

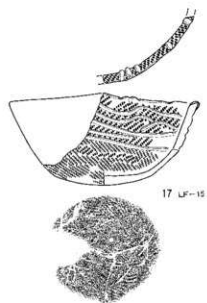
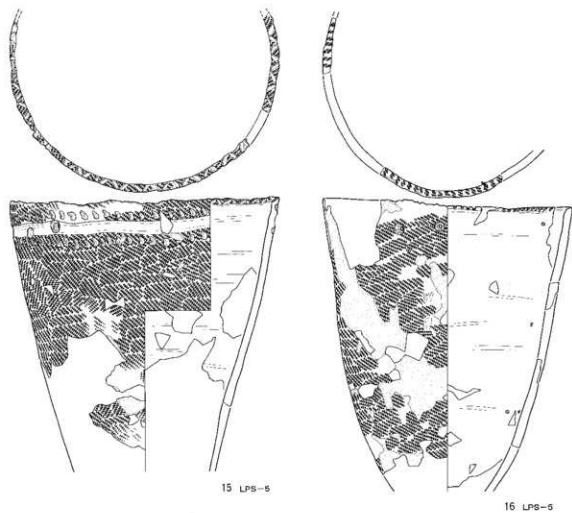
なお、LF-15の遺構についての記載は、次報告書で掲載する。

以上1～17はV群c類に相当、縄文時代晩期後葉と判断する。

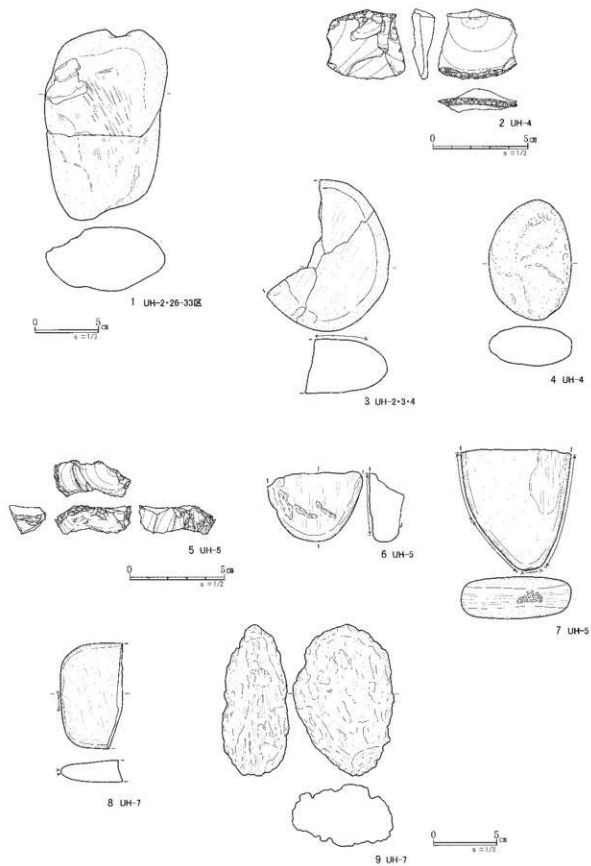
(末光 正卓)



圖IV-74 LPS-4出土V群復原土器



図IV-75 LPS-5・LF-15出土V群復原土器



図IV-76 UH出土の石器

(4) 石器等(図IV-76 表IV-90 図版43)

UH-2

1は砥石で、上部分はUH-2、下部分は26-63区から出土し接合した。平滑なすり面がある。

UH-4

2は頁岩製のスクレイパーで下端部に刃部を有する。3はすり石で、UH-2のBY層出土、UH-3のB2層出土、UH-4床面直上出土の破片が接合したもので、分割礫と考える。4は被熱したチャートの円礫である。

UH-5

5は黒曜石製の石核である。6・7はすり石に分類したもので分割礫と考える。6の下端部にたたき痕がみられる。

UH-7

8はすり石に分類したが、分割礫と考える。9は石製品で、軽石が全体に研磨される。

剥片石器は縄文時代のものが住居跡に混入したもので、分割礫は住居跡に伴うと考える。

(愛場 和人)

11. 遺構出土の微細遺物(表IV-91)

Ⅲ層で確認した竪穴住居跡のカマドや炉跡の焼土、床面出土の土器に堆積していた土壌、掘り上げ土層中で確認された焼土や粘土について、土壌を取り上げ、フローテーション法により微細遺物の回収を行った。植物遺体について選別し、「科」までの同定を行った。

土壌採取地点はすべて縄文文化期前期の住居跡と掘り上げ土層で、合計27か所である。内訳はUH-1・2・4のカマド(焼土・煙道・覆土など)9か所、UH-3~5・7~11の炉跡(焼土上面・焼土など)14か所、UH-9床面出土土器に堆積した土壌が1か所、UH-4・9の焼土2か所、UH-9の掘り上げ土中の粘土1か所である。採取土壌の乾燥状態での総重量は約121.8kg、総体積は187ℓである。

回収した微細遺物は自然遺物と人工遺物に分けた。自然遺物は炭化種子や炭化材等、人工遺物は土器・フレイク・焼成粘土塊がある。

炭化種子の種類は、栽培植物はイネ科、野生植物は、草本類ではアカザ属・カヤツリグサ科、木本類ではマタビ属・キハダ属・ブドウ科・クルミ属等があり、他、冬芽・不明な種子や堅果も確認した。

栽培植物であるイネ科は計112粒検出された。UH-4及びUH-5のHF-1(炉跡)上面と、UH-8のHF-1(炉跡)からもみつかった。

野生植物であるアカザ属・マタビ属・キハダ属・ブドウ科・クルミ属は主に食用、カヤツリグサ科は食用に適さず、焚き付け等に用いられたと推測する。

人工遺物は、土器123点(41.8g)、黒曜石製フレイク1点(0.03g)、焼成粘土塊441点(169.86g)があり、これらは遺構出土の遺物点数には数えていない。また、焼成粘土塊はUH-4のみで確認したが、これはカマドの構築に用いる粘土の微細片と考える。

また、回収した炭化材(総重量:約170g)の一部は、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

(広田 良成)

表IV-1 住居跡一覧

遺跡名	図	図版	グリッド		平面形態	原 価 (m)						主要出土遺物			備 考
			縦	横		長さ	短径	長さ		短径	最大深	床面	付属遺構	覆土	
								カマド含む	カマド含む						
UH-1	IV-2~4	3・4	*	10・11・6区 14・15区	方形?	長さ	(4.50)	(4.48)	(4.48)	(4.46)	(0.23)	カマド 柱穴 ピット	Ⅱ群・Ⅲ群土器	Ⅱ群・Ⅲ群土器	上層南平 約1/2? 調査区外 覆土下位: 焼土・灰化材
						短径	(6.01)	(4.48)	(4.48)	(4.46)	(0.23)				
UH-2	IV-5~11	5・6		20~22区 55~57区	隅丸方形	長さ	5.22	4.02	4.75	3.70	0.74	カマド 伊藤(焼土) 支柱穴 柱穴 外部柱穴	Ⅱ群土器 フレイク 礎	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群・Ⅴ群・Ⅵ群土器 初繰車 U・Rフレイク フレイク 石斧 石矛 石打石 砥石	一部調査区外 覆土中: 焼土・灰化材
						短径	5.40	5.22	4.96	4.75	0.87				
UH-3	IV-8・12~14	7		19・20区 56~57区	隅丸方形	長さ	(3.25)	3.30	(3.08)	3.10	0.70	伊藤(焼土) 支柱穴 土器集中	Ⅱ群土器	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群・Ⅴ群・Ⅵ群土器 初繰車 U・Rフレイク フレイク	約2/3調査区外
						短径	4.65	3.97	4.40	3.83	0.66				
UH-4	IV-15~22 27・29	7・8 8~10		21~23区 58~60区 21~59区	隅丸方形	長さ	5.22	3.37	4.89	3.83	0.66	カマド 伊藤(焼土) 外部柱穴 ピット 土器集中	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器 フレイク 礎	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器 初繰車 U・Rフレイク 石斧 石矛 石打石 砥石	床面構築上あり(最大深8cm) 覆土下位: 焼土・灰化材
						短径	4.08	(3.98)	3.77	(3.77)	0.62				
UH-5	IV-23~29	11~12		21~61・62区 60~63区 24~61・62区	隅丸方形	長さ	4.08	(3.98)	3.77	(3.77)	0.62	伊藤(焼土) 支柱穴 土器集中	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器 フレイク 礎	Ⅱ群・Ⅲ群土器 石鏡 フレイク U・Rフレイク 石鏡 石斧 石矛 砥石	一部床構築上見える 床面構築上あり 覆土下位: 焼土・灰化材
						短径	(3.28)	3.27	(3.03)	3.02	0.49				
UH-7	IV-30~34	13~14		27・28~38区 35~28区 40~41区	隅丸方形	長さ	(3.47)	3.27	(3.26)	3.02	0.49	カマド 伊藤(焼土) 外部柱穴	Ⅱ群・Ⅲ群土器 礎	Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器 初繰車 石製品	一部焼師木履に見える 床面構築上あり(最大深11cm) 覆土下位: 灰化材
						短径	(3.50)	2.76	(3.18)	2.46	0.55				
UH-8	IV-35~39	7・8 15~17		28~30・37区 35~37区	隅丸方形	長さ	2.86	2.64	2.76	2.44	0.59	伊藤(焼土) 土器集中 外部柱穴 土器集中	Ⅱ群土器 初繰車	Ⅱ群土器	一部焼師木履に見える 床面構築上あり(最大深8cm) 覆土下位: 焼土・灰化材
						短径	(3.75)	(1.76)	(3.08)	(1.54)	0.56				
UH-9	IV-40~42	18・19		31~32区 31~28・32~32区 30~31区	隅丸方形	長さ	30・31区	30・31区	30・31区	30・31区	0.54	伊藤(焼土)	Ⅱ群土器	Ⅱ群土器	約2/3調査区外 覆土上あり(最大深11cm) 覆土下位: 灰化材
						短径	25・25区 21~24区	25・25区 21~24区	25・25区 21~24区	25・25区 21~24区	0.54				
UH-10	IV-43~44	20		31~33区 32~33~34区	隅丸方形	長さ	(3.70)	(2.14)	2.43	(1.81)	0.54	伊藤(焼土)	Ⅱ群土器	Ⅱ群土器	一部焼師木履に見える 床面構築上あり(最大深11cm) 覆土下位: 灰化材
						短径	(3.70)	(2.14)	2.43	(1.81)	0.54				

表IV-2 住居跡付風遺構一覧(1)

遺構名	行風遺構名	類別	図	平面形態	規模 (m)				特 徴	主な出土遺物	備 考	
					棟間	長さ	幅	高さ				
UH-1	カマド	煙出口	IV-2・3	箱形	0.31	0.31	0.26	0.21	煙道部よりやや深い	—	—	
		煙道		1.54	0.60	1.50	0.32	煙道幅狭い	—	—		
	カマド焼土	—	—	—	—	—	—	—	カマド焼土層にピットあり			
	HP-2	柱穴	IV-3	間接方形	0.23	0.23	0.15	0.10	0.13	—	—	
	HP-1	ピット	IV-2	4	箱形	0.75	0.66	0.62	0.55	0.19	—	—
	カマド	煙道	IV-6・8	6	箱形	0.57	0.52	0.18	0.16	0.87	—	—
UH-2	カマド焼土	煙道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		煙道	?	0.33	1.19	0.28	0.27	煙出し口への傾斜角張子	—	—		
	HP-1	伊勢(焼土)	IV-6	*	箱形	0.75	0.56	—	0.33	R 2層:明透色(2.5YR5/8)	—	—
	HP-2	主柱穴	IV-6・8	6	円形	0.21	—	0.08	0.50	R 1層:明透色(7.5YR5/6)	—	—
	HP-3	—	IV-6・8	*	円形	0.11	—	0.05	0.46	増表面との角度内角45°	—	—
	HP-1	柱穴	IV-6・8	*	円形	0.08	—	—	0.15	増表面との角度内角31°	—	—
UH-3	カマド	煙出口	IV-10	箱形	0.24	—	0.10	0.05	—	—	—	
		煙道		0.25	—	0.12	0.13	—	—	—	—	
	カマド焼土	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	HP-1	外部柱穴	IV-6・8	*	円形	0.20	—	0.12	0.05	—	—	
	HP-4	—	IV-6・8	*	円形	0.20	—	0.10	0.04	—	—	
	HP-5	—	IV-6・8	6	円形	0.15	—	0.09	0.07	—	—	
UH-4	カマド	煙道	IV-10・11	11は遺構確認位置の延長、柱穴でないと同断	0.23	—	0.13	0.06	—	—	—	
UH-4	カマド	煙出口	IV-10	箱形	0.60	0.80	—	0.12	0.12	明透色(2.5YR5/8)	—	—
		煙道		0.43	—	0.11	—	?	—	—	—	—
	カマド焼土	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	HP-1	主柱穴	IV-12	*	円形	0.30	—	0.11	—	—	—	
UH-4	カマド	煙道	IV-10・11	箱形	0.56	0.44	0.62	0.25	0.08	底面に箱形を示す低い部分あり	—	—
		煙道		1.54	0.40	1.46	0.24	0.22	—	—	—	
	カマド焼土	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	HP-1	ピット	IV-16・17	*	不整形	1.18	0.82	1.04	0.70	0.10	—	—
UH-4	カマド	煙道	IV-10・11	11は遺構確認位置の延長、柱穴でないと同断	0.72	0.49	—	0.06	—	—	—	

表IV-2 住居跡付属遺構一覧(2)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図面	平面形状	規模 (m)				特 徴	主な出土遺物	備 考
						長さ	幅	高さ	厚さ			
UH-4	HP-2		IV-16-17	10	相行形	0.28	0.24	0.45	0.24	0.44 (好行層)	Ⅷ群土器	方形の住居跡の角部以外に位置する
	HP-3		IV-16-17	*	相行形	0.39	0.22	0.54	0.22	0.53 (好行層)	Ⅷ群土器	
	HP-4	主柱穴	IV-16-17	10	相行形	0.24	0.17	0.46	0.17	0.44 (好行層)	—	
	HP-5		IV-16-17	*	相行形	0.34	0.31	0.59	0.24	0.53 (好行層)	Ⅷ群土器 石楕	
	HP-7		IV-16-17	*	不規則相行形	0.29	0.22	0.42	0.22	0.42 (好行層)	—	
UH-4	HP-1		IV-16-17	10	円形	0.49	0.44	0.32	0.30	0.18	—	—
	HP-6	ピット	IV-16-17	*	円形	0.54	0.49	0.40	0.35	0.12	Ⅷ群土器	—
UH-5	PS-1	土器集中	IV-20	10		2.02			0.96		Ⅷ群土器 石楕、相行形土器 ブレイク、土楕	カマド煙出し口近く
UH-5	HF-1	伊藤(礎土)	IV-24	11	相行形	0.80	0.76			0.86	—	—
	カマド	煙出口			*	*	*	*	*	*	—	カマド扉面木炭痕、 カマド粘土から
		煙道	IV-30-31	13-14		*	*	*	*	*	—	Ⅷ群土器・礫出土 カマド中に粘土あり
UH-7	HF-1	伊藤(礎土)	IV-30	*	相行形	0.68	0.54		0.59	0.59	—	—
	HP-1		IV-30	14	相行形	0.24	0.20	0.32	0.35	0.10	—	—
	HP-2	主柱穴	IV-30	*	相行形	0.26	0.18	0.50	0.18	0.18	—	—
UH-8	HP-3		IV-30	*	円形	0.19	0.18	*	*	0.06	—	—
	HF-1	伊藤(礎土)	IV-35	15	相行形	0.50	0.34			0.12	—	—
	HF-2	伊藤(礎土)	IV-35	15	相行形	0.39	0.44		0.12	0.12	—	—
UH-8	HP-1	ピット	IV-35	17	不規則	0.39	0.35	0.16	0.12	0.11	—	—
	HF-1	伊藤(礎土)	IV-40	18	相行形	0.49	0.38			0.06	—	—
	HP-2	柱穴	IV-40	19	不規則円形	0.15	0.13	*	*	0.30	—	—
UH-9	HP-1	小土坑	IV-39	19	相行形	0.17	0.13	*	*	0.06	—	—
	粘土集中	IV-40	*	相行形	0.20				0.04	—	—	
UH-10	HF-1	伊藤(礎土)	IV-43	*	円形?	0.27	0.13			0.17	—	—
UH-11	HF-1	伊藤(礎土)	IV-46	22	円形	0.66	0.42			0.06	—	—

表IV-3 土坑一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					主な出土遺物	備考
					確認面		底面		最大深		
					長径	短径	長径	短径			
UP-16	IV-48	23	23-60区	不整な楕円形	1.50	1.13	0.94	0.60	0.14	Ⅴ群土器 じ・Rフレイク	UH-4・5の間に位置する。
UP-17	IV-48	*	30-79・80区	長方形	2.40	0.94	2.20	0.80	0.36	—	土層断面図無し
UP-18	IV-49	23	24-64区	不整な円形	0.67	0.55	0.43	0.28	0.27	—	覆土が粘土主体

表IV-4 柱穴状ピット一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				主な出土遺物	備考	
					確認面		底面				最大深
					長径	短径	長径	短径			
USP-40	IV-49	*	20・21-57区	円形			0.20	0.10	0.34	—	土層断面図無し
USP-41	IV-49	*	20-57区	円形	0.17		*		0.41	—	
USP-42	IV-49	*	21-57区	円形	0.18		*		0.32	—	

表IV-5 焼土一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面形態	規模 (m)			主な出土遺物	備考
						長径	短径	最大厚		
UF-1	IV-50	23	21-65区	Ⅲ層	不整形	0.23	0.23	0.05	—	二か所のまとまり
						0.35	0.32	0.03		
UF-2	IV-50	23	24-72・73区	Ⅲ層	不整な楕円形	0.84	0.36	0.08	—	
UF-3	IV-50	*	28・29-65区	Ⅲ層	楕円形	0.42	0.38	0.05	—	
UF-4	IV-50	23	33-38・39区	Ⅲ層	不整形	0.95	0.69	0.16	—	
UF-5	IV-50	23	27-42区	Ⅲ層	不整形	0.91	0.85	0.08	—	一部根拠なし
UF-6	IV-50	23	31・32-40区	Ⅲ層	不整形	0.56	0.42	0.07	—	一部根拠なし

表IV-6 土器集中 (UPS) 一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	範囲	規模 (m)		主な出土遺物	備考
						長径	短径		
UPS-1	IV-52	24	21・22-55区	Ⅲ層	土器分布範囲	(3.28)	0.88	Ⅴ群土器	UH-2近くに位置する Ⅴ群土器の集中
UPS-2	IV-52	24	26-63区	Ⅲ層	土器分布範囲	0.62	0.51	Ⅴ群土器	小破片
UPS-3	IV-52	24	31-62区	Ⅲ層	土器分布範囲 集中部	0.87	0.82	Ⅴ群土器	
						0.38	0.27		
UPS-4	IV-53	25	26-61区	Ⅲ層	土器分布範囲	0.22	0.16	Ⅴ群土器	
UPS-5	IV-53	25	24-61区	Ⅲ層	土器分布範囲	0.51	0.30	Ⅴ群土器	
UPS-6	IV-53	25	33-39・40区 34-39区	Ⅲ層	土器分布範囲 集中部	1.72	1.44	Ⅴ群土器	
						0.35	0.19		
UPS-7	IV-54	25	30-28区	Ⅲ層	土器分布範囲 集中部	1.92	1.08	Ⅴ群土器	
						1.29	0.63		

表IV-7 土器集中 (LPS) 一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	範囲	規模 (m)		主な出土遺物	備 考
						長径	短径		
LPS-1	IV-54	25	21-63区	V1層	上位部	(0.29)	(0.33)	V群土器	斜面付近に位置する V群土器の集中
					下部部	(0.25)	(0.25)		
LPS-2	IV-55	25	28-66区	V1層	土器分布範囲	0.42	0.26	V群土器	
					集中部	0.30	0.20		
LPS-3	IV-55	26	28-58区	V1層	上位部	0.58	0.54	V群土器	調査時点で 3個体以上確認
					下部部	0.47	0.34		
LPS-4	IV-56	26	25・26-37区	V1層	上位部	1.56	0.99	V群土器	
					下部部	1.48	0.80		
LPS-5	IV-56	26	26-50区	V1層	土器分布範囲	1.36	0.50	V群土器	
					集中部	0.36	0.21		

表IV-8 礫集中一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規 模 (m)				主な出土遺物	備 考	
						確認面		底面				最大深
						長径	短径	長径	短径			
US-1	IV-57	26	23-36区	Ⅲ層	不整な 楕円形	0.73	0.50			礫・フレイク	小礫の集中	

表IV-9 粘土集中一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規 模 (m)				主な出土遺物	備 考	
						確認面		底面				最大深
						長径	短径	長径	短径			
UN-1	IV-57	26	33-39区	Ⅲ層	不整な 楕円形	1.27	0.74		0.06	V群・Ⅱ群土器 すり石 礫	周囲から Ⅱ群土器が多数出土	

表IV-10 炭素跡一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規 模 (m)				主な出土遺物	備 考	
					確認面		底面				最大深
					長径	短径	長径	短径			
炭素跡3	IV-58	27	32-52 32・33-53・54区	長方形	3.70	(2.34)	3.60	(2.28)	(0.30)	Ⅱ群土器 石礫 礫	付属の土坑あり

表IV-12 土坑・粘土集中・炭窯跡出土土器点数表

時期	遺物種別 / 部位	遺物名 / 層位 / 残存状態	UP-16			UN-1		炭窯跡3		合計	
			覆土	田層	小計	粘土上面	小計	覆土	小計		
III 群	まとも (複数部位)	良好			0					0	小計
		剝離								0	
		磨耗								0	
		小破片								1	
	口縁部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片		1						1	
	底部	良好								0	小計
		剝離			1		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片								0	
	胴部	良好	2	1				1		4	小計
		剝離			4		0		1	0	
		磨耗								0	
小破片		1							1		
不明その他	良好								0	小計	
	剝離			0		0			0		
	磨耗						2	2	2		
	小破片								0		
小計		3	2	5	0		3		8		
V 群	まとも (複数部位)	良好			0					0	小計
		剝離								0	
		磨耗			1		0		0	0	
		小破片	1							1	
	口縁部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片								0	
	底部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片								0	
	胴部	良好	3							3	小計
		剝離			3		1		0	0	
		磨耗								0	
小破片									1		
不明その他	良好								0	小計	
	剝離			0		0		0	0		
	磨耗							0	0		
	小破片								0		
小計		4	0	4	1		0		5		
VII 群	まとも (複数部位)	良好	14			1				14	小計
		剝離	5	1						6	
		磨耗			28		1		0	0	
		小破片	8							8	
	口縁部	良好								0	小計
		剝離			2	1	4		0	1	
		磨耗								0	
		小破片	2			3				5	
	底部	良好	85	21		35				141	小計
		剝離	263	60	1,200	1			0	324	
		磨耗		1						1	
		小破片	708	62		18				788	
	胴部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
小破片									0		
不明その他	良好								0	小計	
	剝離			0		0		0	0		
	磨耗								0		
	小破片								0		
小計		1,085	145	1,230	59		0		1,289		
不明	まとも (複数部位)	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片								0	
	口縁部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片								0	
	底部	良好								0	小計
		剝離			0		0		0	0	
		磨耗								0	
		小破片				1				1	
	胴部	良好								0	小計
		剝離			8		3		0	0	
		磨耗								0	
小破片		3	5		2				10		
不明その他	良好								0	小計	
	剝離			0		0		0	0		
	磨耗								0		
	小破片								0		
小計		3	5	8	3		0		11		
土製品					0				0		
合計			1,247		63		3		1,313		

表IV-13 土器集中(UPS)出土土器点数表

遺物種別 / 層位 時期 部位	UPS-1		UPS-2		UPS-3		UPS-4		UPS-5		UPS-6		UPS-7		合計	
	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計	Ⅲ層	小計		
Ⅲ群	まとも(複数部位)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	口縁部	良好														0
		剝離	0	0		3				0		0			0	0
		小破片				3										3
	底部	良好														0
		剝離	0	0		0		0		0		0			0	0
		小破片														0
	胴部	良好														0
		剝離	0	0		0		0		0		0			0	0
		小破片														0
	不明その他	良好														0
		剝離	0	0		0		0		0		0			0	0
		小破片														0
	小計	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	Ⅴ群	まとも(複数部位)	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
口縁部		良好														0
		剝離	0	0		15		0		0		0			0	0
		小破片														15
底部		良好			4											4
		剝離	0	0		5		0		0		0			0	0
		小破片			1											1
胴部		良好		1	66											67
		剝離	0	1	1	76		0		0		0			1	0
		小破片			9											9
不明その他		良好														0
		剝離	0	0		0		0		0		0			0	0
		小破片														0
小計		0	1	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	
Ⅶ群		まとも(複数部位)	0	0	0	0	3	0	3	0	6	0	22	0	55	
	口縁部	良好	21									3		6	0	
		剝離	3	30	0	0	5		3		6		3	29	0	
		小破片	6				2					4		12	0	
	底部	良好							6		6		15		27	
		剝離	2	2	0	0				7		2		23	4	
		小破片										6		7	0	
	胴部	良好	151	173		1	31	48	30	1	54	192	176	679	596	
		剝離	120	40	458	0	3	220	1	54	176	367	5	1,029		
		小破片	312	240			2	159	5		311			5	0	
	不明その他	良好													0	
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小破片													0	
	小計	615	458	0	8	230	66	731	0	731	0	2,108	0	2,108		
	不明	まとも(複数部位)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
口縁部		良好													0	
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小破片													0	
底部		良好													0	
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小破片													0	
胴部		良好			1	0	1	1							1	
		剝離	0	0											0	
		小破片			1										1	
不明その他		良好													0	
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小破片													0	
小計		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
土製品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	615	459	100	8	231	66	731	0	731	0	2,210	0	2,210			

表IV-14 土器集中(LPS)出土土器点数表

遺物種別 / 時期	遺種名 / 層位 / 残存状態	LPS-1		LPS-2		LPS-3		LPS-4		LPS-5		合計	
		V層	小計	V.1層	小計	V.1層	小計	V.1層	小計	V.1層	小計		
III群	まとも(複数部位)	0		0		0		0		0		0	
	口縁部	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	底部	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	胴部	良好		1					1				2
		剝離	0		3		0		1	4		0	1
		磨耗 小破片			2				2				4
	不明その他	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	小計	0		3		0		4		0		7	
	V群	まとも(複数部位)	0		0		0		0		0		0
口縁部		良好	20		6		58		19		14		117
		剝離		21		6		1	62		39		17
		磨耗 小破片						3		9			0
底部		良好	7		4		38						13
		剝離		7		4		5					49
		磨耗 小破片						45		1			5
胴部		良好	66		34		349		167		70		686
		剝離	8	117	1	56	196	927	321	925	8	103	534
		磨耗 小破片			21		382		437		25		0
不明その他		良好											908
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
小計		145		66		1,034		965		117		2,327	
VII群		まとも(複数部位)	0		0		0		0		0		0
	口縁部	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	底部	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	胴部	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	不明その他	良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
	小計	0		0		0		0		0		0	
	不明	まとも(複数部位)	0		0		0		0		0		0
口縁部		良好											0
		剝離	0		0		0		1		0		0
		磨耗 小破片							1				1
底部		良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
胴部		良好	2										2
		剝離		2		2		1		4		0	0
		磨耗 小破片											7
不明その他		良好											0
		剝離	0		0		0		0		0		0
		磨耗 小破片											0
小計		2		2		1		5		0		10	
土製品		0		0		0		0		0		0	
合計	147		71		1,035		974		117		2,344		

表IV-15 住居跡出土石器等点数表

種別	遺物名	U14-1		U14-2		U14-3		U14-4		U14-5		U14-7		U14-10		U14-11		合計
		付属 遺構	出土 層上	小計	付属 遺構	出土 層上	小計	付属 遺構	出土 層上	小計	付属 遺構	出土 層上	小計	付属 遺構	出土 層上	小計	付属 遺構	
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃 （先鋒型）			0		0		1		1								2
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
	石鏃 （先鋒型）			0		0		0		0								0
副土器類	ツボみかけ 石鏃			0		0		1		1								2
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
	ツボみかけ 石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	スラレバー 石鏃			0		0		1		1								2
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
	スラレバー 石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
副土器類	石鏃			0		0		1		1								2
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0		0		0		0								0
	石鏃			0														

表IV-16 土坑・土器集中・礫集中・粘土集中・炭窯跡出土石器等点数表

遺構名		UP-16			LPS-2		LPS-3		LPS-4		US-1		UN-1		炭窯跡3		合計	
遺物種別 / 群	層位 / 器種	覆土	III層	小計	V1層	小計	V1層	小計	V1層	小計	III層	小計	粘土上面	小計	覆土	小計		
剥片石器群	旧石器			0		0		0		0		0		0		0	0	
	石鏃	完形														1		1
		準完形			0		0		0		0						1	0
		半形																0
	石槍・ナイフ	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	両面調整石器	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	石鏃	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	つまみ付きナイフ	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	スクレイパー	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	U・Rフレイク	完形			0		0		0		0				0		0	0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
半形																	0	
石核			9		9		1		1		1		1		1		13	
フレイク																	0	
棒状版石			0		0		0		0		1		1		0		0	
剥片石器群合計		9	0	9	1	1	1	1	2	2	1	1	0	0	1	1	15	
礫石器群	磨製石斧	完形															0	
		準完形			0		0		0		0						0	
		半形																0
	たたき石	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
	すり石	完形																0
		準完形			0		0		0		0			2		0		2
		半形												2			2	0
	砥石	完形																0
		準完形			0		0		0		0							0
		半形																0
	台石・石皿	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
		半形																0
礫石器群合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	
礫	加工・使用のある礫			0		0		0		0		0		0		0	0	
	完形										244		7		2		253	
	片	1	1	0		0		0		0	244	244	1	8	16	18	18	
礫合計		1	0	1	0	0	0	0	0	0	244	244	8	8	18	18	271	
石製品	玉	完形															0	
		準完形			0		0		0		0						0	
		半形																0
	石製品	完形																0
		準完形			0		0		0		0				0		0	0
石製品合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		10	0	10	1	1	1	1	2	2	245	245	10	10	19	19	288	

表IV-17 UH-2 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-59	1	28	UH-2	BY層	8	3	5.35	17.6	12.4	245	口縁~底部	坏	Ⅴ群 内景	
接合破片総点数			13	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-2・BY層・14(2)・(1)・Y2層・129(2)、21-56・Ⅲ・(5)							
胎土(混和材)		繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	少~中量	備考	垂円鐘状のチャートほか			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	口唇部	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	一部剝離	(20%)	口縁部							
	ヨコミガキ		にふい褐色(7.5YR6/4)	黒色化	一部磨耗	(20%)	ヨコミガキ → ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—				
	ヨコミガキ ミガキによる 洗線文		にふい褐色(7.5YR6/4)	黒色化	—	胴部~底部 (30%)	ヨコミガキ タテミガキ	(黒褐色)	黒色化	—				
面	ミガキ	にふい褐色(7.5YR6/4)	—	一部磨耗	底面 (30%)	放射状のミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部磨耗	面				

表IV-18 UH-3 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-59	2	28	UH-3	BY層	91	11	27.5	26.0	8.4	1,370	口縁~底部	甕	Ⅴ群	
接合破片総点数			51	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-3 ・BY層・94(1)・95(3)・96(1)・98(2)・99(1)・99(1)・99(3)・99(3)・99(4)・99(1)・100(3) ・Y10層・62(1)・Y10層・63(2)・44(2)・44(1)							
胎土(混和材)		繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	垂円鐘~円鐘状 チャート			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	口唇部	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	北網文状の調整紐		褐色(7.5YR7/6) にふい褐色(7.5YR6/5)	黒色化 炭化物付着	一部磨耗	(50%)	ヨコナデ ヨコハケ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	一部磨耗				
	タテハケ → ヨコナデ		にふい褐色(7.5YR7/5) 褐色(5YR6/6)	—	粘土の つなぎ目 一部磨耗	(50%)	ヨコハケ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—				
	洗線文 ヨコハケ ヨコナデ		にふい褐色(7.5YR7/5) 褐色(5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	—	頸部 (70%)	ヨコハケ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—				
	ヨコハケ タテハケ		褐色(5YR7/6) 褐色(5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (60%)	ヨコハケ	褐色 (7.5YR7/6) にふい褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—				
	タテハケ 洗線文状の 調整紐 (洗線部分)		にふい褐色(7.5YR7/2)	黒色化	—	胴部下半 ~底部 (50%)	ヨコハケ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—				
	面	黄顔筋? (非調整部分)	にふい黄褐色(10YR7/3)	—	1/4剝離	底面 (95%)	ナデ (非調整部分)	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化	—	面			

表IV-19 UH-3 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-59	3	28	UH-3	BY層	81	2	(11.0)	—	—	350	胴部中位 ~下位	甕	Ⅴ群	
接合破片総点数			11	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-3・BY層・82(2)・87(1)・BY1層・70(1) 20-57・H・(4)、21-57・H・(1)							
胎土(混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	垂円鐘状チャート			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	胴部中位 ~下位	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテミガキ		灰黄褐色(10YR6/2)	黒色化 炭化物付着 (5YR7/6)	割れ口 磨耗	(50~40%)	ヨコハケ → タテミガキ?	褐色 (5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	磨耗	面			

表IV-20 UH-3 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-59	4	28	UH-3	B1層	38	5	(10.0)	—	—	240	頸部～ 胴部下位	甕 (小型)	Ⅴ群	
接合破片 総点数			35		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-3 ・B1層・27(2)・28(1)・29(2)・31(2)・32(1)・33(2)・35(3)・36(2)・39(2)・40(1)・41(1)・B2層(1)						
胎土 (混和材)		織機	無		粒径	細～中		種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	中～多量		備考
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内	
	ナデによる沈線文		浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—		頸部 (80%)	ヨコハケ	灰白色 (10YR8/2)	—	一部剥離			
	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離		胴部上半 (60%)	ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
面	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離		胴部下半 ～底部 (70%)	ヨコハケ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離		面	

表IV-21 UH-3 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
							器高	口径	底径						
IV-59	5	28	UH-3	BY層	83	2	19.5	19.5	—	450	口縁～底部	環	Ⅴ群 内黒		
接合破片 総点数			24		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-3・BY層・84(2)・104(1)・ 20-57・H・(4)・21-57・B・(15)							
胎土 (混和材)		織機	無		粒径	粗粒		種類	岩石主体		量	中～多量		備考	歪円蹄状チャート 最大粒径7mm
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内		
	ヨコミガキ		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	—		口唇部 (80%)								
	ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕		褐色 (5YR6/8)	黒色化	—		口縁部 (80%)	ヨコミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	—				
面	ヨコミガキ 段状の沈線文		褐色 (5YR6/8)	黒色化	一部剥離		胴部～底部 (70%)	ヨコミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	—		面		
	ミガキ		褐色 (5YR6/8)	黒色化	一部剥離		底面 (30%)	放射状の ミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	—				

表IV-22 UH-3 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
							器高	口径	底径						
IV-59	6	28	UH-3	BY1層	78	21	6.75	18.0	9.4	420	口縁～底部	環	Ⅴ群 内黒		
接合破片 総点数			38		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-3 ・BY層・101(9)・BY1層・77(1)・79(4)・R1層・99(3)							
胎土 (混和材)		織機	無		粒径	中～細粒		種類	岩石主体		量	中～少量		備考	円蹄～歪蹄状 尾岩
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内		
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	内黒		口唇部 (60%)								
	ヨコミガキ 筋状の調整痕 段		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—		口縁部 (60%)	ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3) ～ (黒褐色)	—	内黒				
面	ミガキ		褐色(7.5YR6/4)	炭化物付着	—		胴部～底部 (90%)	ミガキ	(黒褐色)	—	内黒		面		
	ミガキ		褐色(7.5YR6/4)	炭化物付着	丸底		底面 (100%)	ミガキ	(黒褐色)	—	内黒 指頭痕				

表IV-23 UH-4 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
							器高	口径	底径						
IV-60	7	29	UH-4	床面	413	27	30.9	27.4	(8.8)	1,520	口縁~底部	甕	V群		
接合破片総点数					109		接合・同一個体破片 UH-4・4(6面・3862)・4001・4021・4121・4161・14003・床面・3871・3882・4192・4211・42210・42365・42412・428(4)・覆土3・38811・40811・41114・41810・覆土1・6311・覆土2・1								
胎土 (混和材)					繊維	無	粒径	中~細粒	種類	岩石鉱物 ともにあり	量	中量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	内			
	ヨコナデ		灰褐色 (7.5YR5/2)	黒色化	—	口 唇 部 (40%)									
	ヨコナデ		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口 縁 部 (80%)	ヨコナデ → ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—					
	ヨコナデ 洗擦文		褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—	頸 部 (70%)	ヨコハケ ヨコミガキ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—					
	タテハケ → ヨコミガキ		にぶい褐色 (8YR6/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (90%)	ヨコハケ → タテミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3) にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—					
	タテミガキ ヨコナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4~7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離 磨耗	胴部下半 底部 (100~40%)	ヨコハケ → タテミガキ	灰白色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	—					
面	ナデ (筋状の痕跡)		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	底 面 (40%)	非調整?	褐色 (7.5YR7/6)	—	—	面				

表IV-24 UH-4 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
							器高	口径	底径						
IV-60	8	29	UH-4 P S-1	日厨	—	90	(16.7)	20.6	7.0	770	口縁~胴部 ~底部	甕	V群 想定図上復原		
接合破片総点数					92		接合・同一個体破片 UH-4・覆土・(1)・H(1)								
胎土 (混和材)					繊維	無	粒径	中粒	種類	岩石主体	量	少~中量	備考 歪円~歪角薄状の岩片		
外	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	内			
	ヨコミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3~8/4)	—	—	口 唇 部 (40%)									
	ヨコナデ → タテハケ		浅黄褐色 (10YR8/4) ~にぶい褐色 (7.5YR5/3)	—	—	口 縁 部 (40%)	ヨコハケ → ヨコミガキ	褐色 ~にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—					
	ナデによる 洗擦文 ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/4) ~にぶい褐色 (7.5YR5/3)	—	一部剥離	頸 部 (15%)	ヨコハケ	明黄褐色 (10YR7/6)	—	—					
	タテナデ → タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3) ~褐色 (7.5YR6/4)	黒色化	—	胴部中位 ~底部 (100~80%)	ヨコナデ ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/3) ~褐色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離					
	面	?		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	底 面 (1%)	—	—	—	—				面

表IV-25 UH-4 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
							器高	口径	底径						
IV-60	9	29	UH-4 P S-1	日厨	—	33	(17.0)	—	—	650	胴部上位 ~下位	甕	V群		
接合破片総点数					51		UH-4 埋土・給土層・4505、覆土1・611・3411、 22・33・日厨・2011・2111・重・2011・3111								
胎土 (混和材)					繊維	無	粒径	中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり	量	中~多量	備考		
外 面	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	内 面			
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (40%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部剥離					
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 (20%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部剥離					

表IV-26 UH-4 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-60	10	29	UH-4	キツノ 粘土	448	4	(9.5)	—	9.0	285	胴部下位 底部	甕	Ⅴ群			
接合破片 総点数			4			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	無		粒徑	中～粗粒		種類	岩石主体		量	中量		備考	非円錐状チャート	
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内 面			
	タテハケ (工具のアタリ) ヨコナデ 沈殿文状の 調整痕 ナデ・非調整?		黄褐色 (10YR6/6)	—	—	胴部下 ～底部 (30～50%)	ヨコハケ ヨコナデ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	—						
		沈殿文状の 調整痕 ナデ・非調整?	黄褐色 (10YR6/6)	—	—	底 面 (50%)	ナデ 指頭圧痕	褐色 (7.5YR7/6)	—	—						

表IV-27 UH-4 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-60	11	29	UH-4 P S-1	H層	—	70	(26.5)	19.8	—	1,520	口縁～底部	球胴甕	Ⅴ群	
接合破片 総点数			199			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-4・S P-1・H・(7)・UH-4・H・(129)					
胎土 (混和材)		繊維	無		粒徑	中粒		種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	中量		備考
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内 面	
	ヨコナデ 沈殿文状の 調整痕 ナデによる 沈殿文(幅広) ヨコナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	一部磨耗	口 唇 部 (50%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
		ナデによる 沈殿文(幅広) ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4) 褐色 (5YR7/6)	—	一部剥離	口 縁 部 (50%)	ナデ? イガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	磨耗				
		ヨコナデ ナデによる 沈殿文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部磨耗	頸 部 (60%)	ナデ? イガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
		ヨコナデ ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR7/4) ～黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	一部磨耗	胴部上半 (40%)	ナデ? イガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
		イガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部剥離	胴部下 ～底部 (30～10%)	ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—				

表IV-28 UH-4 出土復原土器観察表(6)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-60	12	30	UH-4	粘土 硬土	447	18	(17.2)	15.1	—	1,500	口縁～ 胴部下	球胴甕	Ⅴ群	
接合破片 総点数			24			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-4 硬土・粘土層・444(1)・444(1)・446(1), 23-00・H層・5(1)・6(1)・7(1)					
胎土 (混和材)		繊維	無		粒徑	細粒		種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	少量		備考
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		内 面	
	沈殿文状の 調整痕 ヨコナデ ヨコナデ		明黄褐色 (10YR6/6)	黒色化	—	口 唇 部 (90%)	ヨコナデ ヨコナデ 器状の調整痕	にぶい褐色 (7.5YR7/6) 灰褐色 7.5YR6(2)	黒色化	—				
		タテナデ → ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化?	—	口 縁 部 (100%)	ヨコナデ	にぶい褐色 (10YR7/4)	黒色化	粘土の つなぎ目				
		複数の平行する 沈殿文状の 調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化?	—	頸 部 (100%)	ヨコナデ	にぶい褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
		ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部上半 (70%)	ヨコナデ (工具のアタリ)	にぶい褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
		ヨコナデ → タテナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	赤褐色 (5YR7/6)	—	胴部下 ～底部 (30%)	ヨコナデ (工具のアタリ)	にぶい褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				

表IV-29 UH-4 出土復原土器観察表(7)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-60	13	30	UH-4	床面	403	3	6.1	17.5	13.2	360	口縁~底部	環	Ⅴ群 内黒
接合破片 総点数			16	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-4・床面・401(1)・407(1)・408(1)・417(1)・418(1)・432(1)・437(2) ・覆土2・174(1)・201(1)・覆土1・11(1)・327(1)・23-60・H・98(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中~粗粒	種類	岩石・鉱物 ともあり	量	中量	備考	垂円蹄状の岩片 最大粒径5mm		
外	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	部位 (残存率)	内						
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口唇部 (30%)							
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口縁部 (25%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離			
	ヨコミガキ ミガキによる 沈線文		明褐色 (7.5YR6/6) ~淡黄褐色 (10YR5/5)	黒色化	—	胴部~底部 (40%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—			
面	ミガキ		残黄褐色 (10YR8/4) ~灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	中央部分 ややくぼむ	底面 (90%)	放射状の ミガキ	(黒褐色)	黒色化	—	面		

表IV-30 UH-4 出土復原土器観察表(8)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-60	14	30	UH-4 PS-1	耳懸	—	1	5.65	(17.6)	12.4	260	口縁~底部	環	Ⅴ群 内黒
接合破片 総点数			7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			19-59・Ⅲ・(1)、19-60・Ⅲ・(2)・Ⅳ・(1)、20-62・Ⅲ・(1)、21-56・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	垂円蹄状のチャート		
外	文様・調整		色調	使用の重跡	その他	部位 (残存率)	内						
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口唇部 (5%)							
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	口縁部 (10%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—			
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部~底部 (10~20%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—			
面	ミガキ		橙色(7.5YR7/6) ~淡黄褐色 (10YR6/4)	—	一部剥離 磨耗	底面 (70%)	放射状の ミガキ	(黒褐色)	—	—	面		

表IV-31 UH-4 出土復原土器観察表(9)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)								
							器高	口径	底径												
IV-60	15	30	UH-4	床面	414	1	5.55	6.1	(丸底)	197.8	口縁~底部 持手部分	把手付土器	Ⅷ群 手づくね								
接合破片 総点数		1		接合・同一個体破片			破片化せずに、器の形状を保って出土														
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径		中~細粒		種類		岩石主体		量		少量		備考		円~歪円碟状 チャート・泥岩	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内		
	ナデ ミガキ?		にふい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		1/3破損		口 唇 部 (60%)												
	ケズリ風ミガキ ヨコミガキ ヨコナデ		にふい褐色 (7.5YR7/4) ~褐色 (7.5YR7/6)		破損		器部分との 粘土の つなぎ目		把 手 部 (?)												
	ヨコナデ タテハケ ヨコミガキ		にふい黄褐色 (10YR7/4) ~にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		把手の反対 側部分に 注ぎ口状 のへこみ		口 縁 部 (80%)		ヨコナデ ヨコミガキ		(黒褐色)		黒色化		—				
	ヨコミガキ		にふい褐色 (7.5YR6/4) ~にふい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		—		胴部上半 (100%)		ヨコミガキ		にふい黄褐色 (10YR6/4) ~ にふい黄褐色 (10YR5/4)		—		—				
	ヨコミガキ		にふい褐色 (7.5YR6/4) ~にふい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		—		胴部下半 ~底部 (100%)		ヨコミガキ ケズリ風ミガキ		(にふい褐色) ~ (にふい褐色)		—		—				
面	ヨコミガキ (把手方向)		にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		—		底 面 (100%)		ヨコミガキ ケズリ風ミガキ		にふい褐色 (10YR5/4) ~ 浅黄褐色 (10YR8/3)		—		—		面		

表IV-32 UH-5 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)								
							器高	口径	底径												
IV-61	16	30	UH-5	壺土 2層	236	88	—	7.4	580	頸部~底部	甕	Ⅷ群									
接合破片 総点数		88		接合・同一個体破片			—														
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径		粗粒		種類		岩石主体		量		中~多量		備考		歪円~歪角碟状の岩片	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内		
	ナデによる 沈痾(幅広)		にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		剝離 磨耗		頸 部 (25%)		ヨコハケ ナデ?		灰褐色 (7.5YR6/2) ~褐色 (5YR6/6)		黒色化		—				
	タテハケ タテミガキ		にふい黄褐色 (10YR6/3)		黒色化		剝離 磨耗		胴部上半 (60%)		ヨコハケ ミガキ		にふい褐色 (7.5YR7/4)		黒色化 炭化物付着		—				
	タテハケ タテミガキ ヨコナデ		にふい褐色 (7.5YR5/3) ~浅黄褐色 (7.5YR8/6)		黒色化 炭化物付着		—		胴部下半 ~底部 (100%)		タテミガキ		にふい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化 炭化物付着		—				
面	葉脈痕		にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		—		底 面 (100%)		指頭圧痕 ナデ		にふい褐色 (7.5YR7/4)		—		—		面		

表IV-33 UH-5 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	17	31	UH-5	覆土2層	223	28	—	(15.1)	—	766	胴部～胴部下位	球刺葉	Ⅴ群
接合破片総点数					29	接合・同一個体破片			UH-5・床面・209(1)				
接合破片総点数					出土地点・層位・遺物番号(点数)								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細～中粒	種類	岩石鉱物ともあり	量	少量	備考	長石 有色鉱物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテハケ → ナデによる沈線文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	一部剥離	胴部 (30%)	剥離部分に ナデ?	褐色 (7.5YR6/6)	—	大部分 剥離			
	ヨコミガキ ハケメ 沈線文状の 調整痕		褐色 (7.5YR7/6) ～ にふい・黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	一部剥離	胴部上半 (40%)	ヨコナデ	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
面	タテミガキ		褐色 (7.5YR7/6) ～ にふい・褐色 (10YR7/3) ～ にふい・褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	一部剥離	胴部下半 ～ 底部 (20%)	ヨコナデ	にふい・褐色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	面		

表IV-34 UH-5 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	18	30	UH-5	床面直上	195	4	6.2	16.6	11.7	285	口縁～底部	坏	Ⅴ群 内黒
接合破片総点数					19	接合・同一個体破片			UH-5 ・床面・215(3) ・床面直上・189(1)・224(1)・227(1) ・覆土2・30(1)・51(1)・54(1)・55(1) ・覆土1・34(1)・35(1)				
接合破片総点数					出土地点・層位・遺物番号(点数)								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	垂円～垂円碗状		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	内黒	口唇部 (30%)							
	ヨコナデ ヨコミガキ		黄褐色(10YR6/6) ～ にふい・褐色 (7.5YR6/4) (黒褐色)	黒色化	—	口縁部 (80%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	内黒			
面	段 沈線文状の 調整痕		—	—	—	胴部～底部 (80～90%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	内黒	面		
ミガキ ナデ		褐色(9YR7/6) ～ 褐色(7.5YR7/6)	—	—	底面 (90%)	ミガキ	(黒褐色)	—	—				

表IV-35 UH-5 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	19	30	UH-5	床面直上	177	2	5.6	(17.8)	11.6	320	口縁~底部	環	Ⅴ群内景
接合破片総点数			3		接合・同一個体破片			UH-5・覆土2・154(1)					
接合破片総点数			3		接合・同一個体破片			出土地点・層位・遺物番号(点数)					
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石鉱物ともあり	量	少~中量	備考	海綿骨針		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口唇部 (30%)							
	ヨコミガキ		にぶい褐色 (7.5YR7/6)	黒色化	一部磨耗	口縁部~胴部 (30%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—			
	ミガキによる段		浅黄褐色 (7.5YR8/6)	黒色化	—	底部 (30%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—			
面	ミガキナデ?		褐色(6YR7/6) 明褐色(5YR5/6)	黒色化	一部磨耗?	底部 (100%)	放射状のミガキ	(黒褐色)	—	—	面		

表IV-36 UH-5 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	20	31	UH-5	床面直上	227	50	3.5	—	(14.4)	200	胴部下位~底部	環	Ⅴ群内景
接合破片総点数			50		接合・同一個体破片			—					
接合破片総点数			50		接合・同一個体破片			出土地点・層位・遺物番号(点数)					
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	中~細粒	種類	岩石鉱物ともあり	量	少~中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコミガキ ミガキによる段状の化粧文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	一部剥離	胴部下半~底部 (40%)	ヨコミガキ	明褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	—			
	ミガキ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	底部 (60%)	放射状のミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離			

表IV-37 UH-7 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	21	31	UH-7	ケマダ粘土	61	15	(18.8)	22.6	—	930	口縁~胴部下位	甕	Ⅴ群
接合破片総点数			66		接合・同一個体破片			UH-7・ケマダ粘土・21(2)・31(1)・32(1)・60(1)・62(1)・66(1)・67(1)・68(1)・69(1)・70(2)・71(1)・72(1)・73(1)・74(1)・75(1)・76(1)・77(1)・78(1)・79(1)・80(1)・81(1)・82(1)・83(1)・84(1)・85(1)・86(1)・87(1)・88(1)・89(1)・90(1)・91(1)・92(1)・93(1)・94(1)・95(1)・96(1)・97(1)・98(1)・99(1)・100(1)・101(1)・102(1)・103(1)・104(1)・105(1)・106(1)・107(1)・108(1)・109(1)・110(1)・111(1)・112(1)・113(1)・114(1)・115(1)・116(1)・117(1)・118(1)・119(1)・120(1)・121(1)・122(1)・123(1)・124(1)・125(1)・126(1)・127(1)・128(1)・129(1)・130(1)・131(1)・132(1)・133(1)・134(1)・135(1)・136(1)・137(1)・138(1)・139(1)・140(1)・141(1)・142(1)・143(1)・144(1)・145(1)・146(1)・147(1)・148(1)・149(1)・150(1)・151(1)・152(1)・153(1)・154(1)・155(1)・156(1)・157(1)・158(1)・159(1)・160(1)・161(1)・162(1)・163(1)・164(1)・165(1)・166(1)・167(1)・168(1)・169(1)・170(1)・171(1)・172(1)・173(1)・174(1)・175(1)・176(1)・177(1)・178(1)・179(1)・180(1)・181(1)・182(1)・183(1)・184(1)・185(1)・186(1)・187(1)・188(1)・189(1)・190(1)・191(1)・192(1)・193(1)・194(1)・195(1)・196(1)・197(1)・198(1)・199(1)・200(1)・201(1)・202(1)・203(1)・204(1)・205(1)・206(1)・207(1)・208(1)・209(1)・210(1)・211(1)・212(1)・213(1)・214(1)・215(1)・216(1)・217(1)・218(1)・219(1)・220(1)・221(1)・222(1)・223(1)・224(1)・225(1)・226(1)・227(1)・228(1)・229(1)・230(1)・231(1)・232(1)・233(1)・234(1)・235(1)・236(1)・237(1)・238(1)・239(1)・240(1)・241(1)・242(1)・243(1)・244(1)・245(1)・246(1)・247(1)・248(1)・249(1)・250(1)・251(1)・252(1)・253(1)・254(1)・255(1)・256(1)・257(1)・258(1)・259(1)・260(1)・261(1)・262(1)・263(1)・264(1)・265(1)・266(1)・267(1)・268(1)・269(1)・270(1)・271(1)・272(1)・273(1)・274(1)・275(1)・276(1)・277(1)・278(1)・279(1)・280(1)・281(1)・282(1)・283(1)・284(1)・285(1)・286(1)・287(1)・288(1)・289(1)・290(1)・291(1)・292(1)・293(1)・294(1)・295(1)・296(1)・297(1)・298(1)・299(1)・300(1)・301(1)・302(1)・303(1)・304(1)・305(1)・306(1)・307(1)・308(1)・309(1)・310(1)・311(1)・312(1)・313(1)・314(1)・315(1)・316(1)・317(1)・318(1)・319(1)・320(1)・321(1)・322(1)・323(1)・324(1)・325(1)・326(1)・327(1)・328(1)・329(1)・330(1)・331(1)・332(1)・333(1)・334(1)・335(1)・336(1)・337(1)・338(1)・339(1)・340(1)・341(1)・342(1)・343(1)・344(1)・345(1)・346(1)・347(1)・348(1)・349(1)・350(1)・351(1)・352(1)・353(1)・354(1)・355(1)・356(1)・357(1)・358(1)・359(1)・360(1)・361(1)・362(1)・363(1)・364(1)・365(1)・366(1)・367(1)・368(1)・369(1)・370(1)・371(1)・372(1)・373(1)・374(1)・375(1)・376(1)・377(1)・378(1)・379(1)・380(1)・381(1)・382(1)・383(1)・384(1)・385(1)・386(1)・387(1)・388(1)・389(1)・390(1)・391(1)・392(1)・393(1)・394(1)・395(1)・396(1)・397(1)・398(1)・399(1)・400(1)・401(1)・402(1)・403(1)・404(1)・405(1)・406(1)・407(1)・408(1)・409(1)・410(1)・411(1)・412(1)・413(1)・414(1)・415(1)・416(1)・417(1)・418(1)・419(1)・420(1)・421(1)・422(1)・423(1)・424(1)・425(1)・426(1)・427(1)・428(1)・429(1)・430(1)・431(1)・432(1)・433(1)・434(1)・435(1)・436(1)・437(1)・438(1)・439(1)・440(1)・441(1)・442(1)・443(1)・444(1)・445(1)・446(1)・447(1)・448(1)・449(1)・450(1)・451(1)・452(1)・453(1)・454(1)・455(1)・456(1)・457(1)・458(1)・459(1)・460(1)・461(1)・462(1)・463(1)・464(1)・465(1)・466(1)・467(1)・468(1)・469(1)・470(1)・471(1)・472(1)・473(1)・474(1)・475(1)・476(1)・477(1)・478(1)・479(1)・480(1)・481(1)・482(1)・483(1)・484(1)・485(1)・486(1)・487(1)・488(1)・489(1)・490(1)・491(1)・492(1)・493(1)・494(1)・495(1)・496(1)・497(1)・498(1)・499(1)・500(1)・501(1)・502(1)・503(1)・504(1)・505(1)・506(1)・507(1)・508(1)・509(1)・510(1)・511(1)・512(1)・513(1)・514(1)・515(1)・516(1)・517(1)・518(1)・519(1)・520(1)・521(1)・522(1)・523(1)・524(1)・525(1)・526(1)・527(1)・528(1)・529(1)・530(1)・531(1)・532(1)・533(1)・534(1)・535(1)・536(1)・537(1)・538(1)・539(1)・540(1)・541(1)・542(1)・543(1)・544(1)・545(1)・546(1)・547(1)・548(1)・549(1)・550(1)・551(1)・552(1)・553(1)・554(1)・555(1)・556(1)・557(1)・558(1)・559(1)・560(1)・561(1)・562(1)・563(1)・564(1)・565(1)・566(1)・567(1)・568(1)・569(1)・570(1)・571(1)・572(1)・573(1)・574(1)・575(1)・576(1)・577(1)・578(1)・579(1)・580(1)・581(1)・582(1)・583(1)・584(1)・585(1)・586(1)・587(1)・588(1)・589(1)・590(1)・591(1)・592(1)・593(1)・594(1)・595(1)・596(1)・597(1)・598(1)・599(1)・600(1)・601(1)・602(1)・603(1)・604(1)・605(1)・606(1)・607(1)・608(1)・609(1)・610(1)・611(1)・612(1)・613(1)・614(1)・615(1)・616(1)・617(1)・618(1)・619(1)・620(1)・621(1)・622(1)・623(1)・624(1)・625(1)・626(1)・627(1)・628(1)・629(1)・630(1)・631(1)・632(1)・633(1)・634(1)・635(1)・636(1)・637(1)・638(1)・639(1)・640(1)・641(1)・642(1)・643(1)・644(1)・645(1)・646(1)・647(1)・648(1)・649(1)・650(1)・651(1)・652(1)・653(1)・654(1)・655(1)・656(1)・657(1)・658(1)・659(1)・660(1)・661(1)・662(1)・663(1)・664(1)・665(1)・666(1)・667(1)・668(1)・669(1)・670(1)・671(1)・672(1)・673(1)・674(1)・675(1)・676(1)・677(1)・678(1)・679(1)・680(1)・681(1)・682(1)・683(1)・684(1)・685(1)・686(1)・687(1)・688(1)・689(1)・690(1)・691(1)・692(1)・693(1)・694(1)・695(1)・696(1)・697(1)・698(1)・699(1)・700(1)・701(1)・702(1)・703(1)・704(1)・705(1)・706(1)・707(1)・708(1)・709(1)・710(1)・711(1)・712(1)・713(1)・714(1)・715(1)・716(1)・717(1)・718(1)・719(1)・720(1)・721(1)・722(1)・723(1)・724(1)・725(1)・726(1)・727(1)・728(1)・729(1)・730(1)・731(1)・732(1)・733(1)・734(1)・735(1)・736(1)・737(1)・738(1)・739(1)・740(1)・741(1)・742(1)・743(1)・744(1)・745(1)・746(1)・747(1)・748(1)・749(1)・750(1)・751(1)・752(1)・753(1)・754(1)・755(1)・756(1)・757(1)・758(1)・759(1)・760(1)・761(1)・762(1)・763(1)・764(1)・765(1)・766(1)・767(1)・768(1)・769(1)・770(1)・771(1)・772(1)・773(1)・774(1)・775(1)・776(1)・777(1)・778(1)・779(1)・780(1)・781(1)・782(1)・783(1)・784(1)・785(1)・786(1)・787(1)・788(1)・789(1)・790(1)・791(1)・792(1)・793(1)・794(1)・795(1)・796(1)・797(1)・798(1)・799(1)・800(1)・801(1)・802(1)・803(1)・804(1)・805(1)・806(1)・807(1)・808(1)・809(1)・810(1)・811(1)・812(1)・813(1)・814(1)・815(1)・816(1)・817(1)・818(1)・819(1)・820(1)・821(1)・822(1)・823(1)・824(1)・825(1)・826(1)・827(1)・828(1)・829(1)・830(1)・831(1)・832(1)・833(1)・834(1)・835(1)・836(1)・837(1)・838(1)・839(1)・840(1)・841(1)・842(1)・843(1)・844(1)・845(1)・846(1)・847(1)・848(1)・849(1)・850(1)・851(1)・852(1)・853(1)・854(1)・855(1)・856(1)・857(1)・858(1)・859(1)・860(1)・861(1)・862(1)・863(1)・864(1)・865(1)・866(1)・867(1)・868(1)・869(1)・870(1)・871(1)・872(1)・873(1)・874(1)・875(1)・876(1)・877(1)・878(1)・879(1)・880(1)・881(1)・882(1)・883(1)・884(1)・885(1)・886(1)・887(1)・888(1)・889(1)・890(1)・891(1)・892(1)・893(1)・894(1)・895(1)・896(1)・897(1)・898(1)・899(1)・900(1)・901(1)・902(1)・903(1)・904(1)・905(1)・906(1)・907(1)・908(1)・909(1)・910(1)・911(1)・912(1)・913(1)・914(1)・915(1)・916(1)・917(1)・918(1)・919(1)・920(1)・921(1)・922(1)・923(1)・924(1)・925(1)・926(1)・927(1)・928(1)・929(1)・930(1)・931(1)・932(1)・933(1)・934(1)・935(1)・936(1)・937(1)・938(1)・939(1)・940(1)・941(1)・942(1)・943(1)・944(1)・945(1)・946(1)・947(1)・948(1)・949(1)・950(1)・951(1)・952(1)・953(1)・954(1)・955(1)・956(1)・957(1)・958(1)・959(1)・960(1)・961(1)・962(1)・963(1)・964(1)・965(1)・966(1)・967(1)・968(1)・969(1)・970(1)・971(1)・972(1)・973(1)・974(1)・975(1)・976(1)・977(1)・978(1)・979(1)・980(1)・981(1)・982(1)・983(1)・984(1)・985(1)・986(1)・987(1)・988(1)・989(1)・990(1)・991(1)・992(1)・993(1)・994(1)・995(1)・996(1)・997(1)・998(1)・999(1)・1000(1)					
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部磨耗	口唇部 (80%)							
	ナデによる段状の化粧文 タテミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (70%)	ヨコハケ ヨコナデ ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化? 炭化物付着	—			
	沈線文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部 (100%)	ヨコハケ ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化? 炭化物付着	—			
面	ヨコハケ タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (100%)	ヨコハケ	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	面		
	タテミガキ		灰白色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半~底部 (80~80%)	ヨコハケ タテミガキ (工具のアタリ)	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	—	面		

表IV-38 UH-7 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	22	31	UH-7	カマド 粘土	63	2	(9.15)	*	7.7	260	胴部下半 底部	甕	Ⅴ群
接合破片 総点数			16	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-7・カマド粘土・56(1)・64(1)・67(1)・ 68(1)・69(4)・(1)・床直・46(2)・47(2)・ 覆土2・8(1)・27・40・8(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細～中粒	種類	岩石鉱物 ともあり	量	中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテハケ ナデメハケ → タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4～7/3)	黒色化 炭化物付着	一部磨耗	胴部下半 ～ 底部 (10～100%)	ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—			
面	ナデ? 非調整		灰白色 (10YR8/2) ～ 浅黄褐色 (10YR8/3)	—	磨耗?	底面 (100%)	ナデ 非調整	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	面		

表IV-39 UH-7 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	23	31	UH-7	床面	50	14	(11.8)	14.8	*	625	口縁～ 胴部下位	球胴甕	Ⅴ群
接合破片 総点数			18	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-7・床面・50(1)・ 床面直上・39(1)・52(1)・53(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		灰白色 (10YR8/2)	黒色化?	—	口唇部 (40%)	ヨコナデ ヨコミガキ						
	ヨコナデ ナデによる段		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化?	一部剥離	口縁部 (40～90%)							
	タテハケ ヨコナデ ナデによる沈線文		灰白色 (10YR8/2)	黒色化?	—	頸部 (100%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	一部剥離			
	ハケメ ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕		灰白色 (10YR8/2)	黒色化?	—	胴部上半 (100%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—			
面	ミガキ 沈線文状の 調整痕		灰白色 (10YR8/2)	—	—	胴部下半 ～ 底部 (10%)	ヨコハケ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	面		

表IV-40 UH-7 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	24	31	UH-7	覆土3層	48	12	5.85	12.4	5.4	210	口縁~底部 鉢 (小型)	Ⅴ群	
接合破片総点数			15	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数) UH-7・床面直上・(1)・覆土3・(1)・覆土1・(1)									
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細~中粒	種類	鉱物主体?	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内						
	ヨコナデ		浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化	—	口唇部 (70%)							
	ヨコナデ ナデによる段		浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (70~80%)	ヨコナデ ヨコミガキ	灰白色 (10YR8/2) ~にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—			
	ヨコナデ タテミガキ ヨコミガキ		浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剝離	胴部~底部 (100%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—			
面	ナデ (Cl具のアタリ?)		灰白色(10YR8/2)	黒色化	中央部 ややくぼむ	底面 (100%)	ミガキ?	(黒褐色)	黒色化	—			

表IV-41 UH-7 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-61	25	31	UH-7	床面	22	1	(7.0)	(20.4)	*	280	口縁~底部	杯 Ⅴ群 内皿	
接合破片総点数			23	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数) UH-7・床面・(23)・(1)・覆土2・(1)(1)・(1)(1)・ 27-30・Ⅲ・(2)・(1)(1)、30-40・Ⅲ・(2)(2)、31-41・Ⅲ・(1)、32-40・Ⅲ・(3)、33-38・Ⅲ・(1)、33-30・Ⅲ・(5)、 34-38・Ⅲ・(4)									
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体?	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内						
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口唇部 (15%)							
	ヨコミガキ		浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化	磨耗	口縁部 (20%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剝離			
	ヨコミガキ? 段状の比喩文		浅黄褐色(10YR8/3)	—	磨耗	胴部~底部 (40%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—			
面	ミガキ?		浅黄褐色(10YR8/3) ~灰黄褐色(10YR5/3)	—	丸底 磨耗	底面 (15%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化	—			

表IV-42 UH-8 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)										
							器高	口径	底径														
IV-62	26	32	UH-8	床面	70	20	19.6	17.1	7.5	850	口縁~底部	甕 (小型)	Ⅴ群										
接合破片総点数			56			接合・同一個体破片			UH-8・床面・71(3)・81(1)・②・床面直上・73(7)・74(12)・75(1)														
胎土 (混和材)			無			粒徑			細~中粒			種類		岩石鉱物ともあり		量		少量		備考		垂円様状の罐	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他						
	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)		黒色化炭化物付着		-		口 唇 部 (80%)														
	ヨコナデハケメナデによる段沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化炭化物付着		剥離		口 縁 部 (100%)		ヨコミガネ沈線文状の調整痕		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化炭化物付着		-						
	ナデによる? 沈線文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化炭化物付着		剥離		頸 部 (100%)		ヨコミガネ沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR5/3)		黒色化炭化物付着		-						
	ヨコミガネ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化炭化物付着		剥離		胴部上半 (100%)		ヨコミガネ沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR5/3)		黒色化炭化物付着		-						
	タテハケ タテミガネ ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化炭化物付着		剥離		胴部下半~底部 (100%)		ヨコミガネ沈線文状の調整痕 ヨコナデ?		(黒褐色)~(褐灰色)		黒色化炭化物付着		-						
面	ナデ? ミガネ? 非調整?		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		大部分剥離		底 面 (100%)		指頭圧痕 非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-						

表IV-43 UH-8 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)								
							器高	口径	底径												
IV-62	27	32	UH-8	床面	69	37	16.45	15.5	6.9	540	口縁~底部	甕 (小型)	Ⅴ群								
接合破片総点数			108			接合・同一個体破片			UH-8・床面・64(1)・68(1)・78(1)・79(1)・83(1)・床面直上・75(7)・76(6)・77(1)・(1)												
胎土 (混和材)			無			粒徑			細粒			種類		鉱物主体		量		微量		備考	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他				
	ヨコナデ沈線文状の調整痕		灰白色 (10YR8/2)		黒色化		一部剥離		口 唇 部 (60%)												
	ナデによる沈線文 ヨコナデ タテハケ ナメハケ?		にぶい黄褐色 (10YR6/3)~灰黄褐色 (10YR5/2)		黒色化炭化物付着		一部剥離		口 縁 部 (60%)		ヨコナデ ヨコミガネ		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		黒色化炭化物付着		一部剥離				
	ヨコナデ ナデによる段		にぶい黄褐色 (10YR6/3)~灰黄褐色 (10YR5/2)		黒色化炭化物付着		一部剥離		頸 部 (80%)		ヨコハケ		灰黄褐色 (10YR6/3)		黒色化炭化物付着		一部剥離				
	タテハケ ヨコミガネ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化炭化物付着		一部剥離		胴部上半 (100%)		ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化炭化物付着		一部剥離				
	タテミガネ 沈線文状の調整痕 ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)		黒色化炭化物付着		一部剥離		胴部下半~底部 (100~60%)		ヨコハケ ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		-		一部剥離				
面	ナデ?		灰白色 (10YR8/2)		黒色化炭化物付着		一部剥離 磨耗		底 面 (90%)		ナデ 指頭圧痕		浅黄褐色 (10YR8/3)		-		一部剥離				

表IV-44 UH-8 出土復原土器観察表(3)

図 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
IV-62	28	32	UH-8	床面	66	20	10.3	10.4	4.9	275	口縁~底部	鉢	Ⅴ群
接合破片 総点数		23	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-8・床面・69(2)・77(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	内						
	ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化?	-	口 唇 部 (90%)							
	ヨコハケ タテミガキ 北端文状の 調整痕		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	-	口 縁 部 (90~100%)	ヨコハケ → ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR8/4)	-	-			
	タテミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴 部 上 半 (100%)	ヨコミガキ タテミガキ	浅黄褐色 (10YR8/3)	-	-			
	タテハケ ミガキ ヨコナデ? ケズリ?		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化?	-	胴 部 下 半 ~ 底 部 (100%)	ミガキ? ナデ? ハケ?	浅黄褐色 (10YR8/3)	-	-			
面	ミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化?	-	底 面 (100%)	ナデ? 指頭圧痕	浅黄褐色 (10YR8/3)	-	-	面		

表IV-45 UH-8 出土復原土器観察表(4)

図 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						器高	口径	底径					
IV-62	29	32	UH-8	床面	64	20	6.15	13.8	7.4	225	口縁~底部	杯 (小型)	Ⅴ群 内黒
接合破片 総点数		23	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-8・床面・60(1)、覆土1・34(1) UH-8・HP-17・覆土・83(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考 石英目立つ			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	内						
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	-	口 唇 部 (60%)							
	ヨコナデ ヨコミガキ 北端文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	一部剥離	口 縁 部 (100%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離			
	ミガキによる段		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	一部剥離	胴 部 上 半 (90~100%)	ヨコミガキ タテミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離			
	ヨコミガキ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化	一部剥離	胴 部 下 半 ~ 底 部 (90~100%)	タテミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離			
面	ミガキ		(黒褐色)	黒色化	一部剥離	底 面 (90%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離	面		

表IV-46 UH-8 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-62	30	32	UH-8	床面直上	60	13	8.6	15.3	8.6	270	口縁~底部	高坏	Ⅴ群
接合破片総点数			29	接合・同一個体破片			UH-8 ・床面直上・57(1)・58(1)・72(9)・覆土・12(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ		(黒褐色)	黒色化	剥離 内黒	口 器 部 (80%)							
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	剥離	口 縁 部 (80%)	ヨコナデ	(黒褐色)	-		内黒		
	段 ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	剥離	胴 部 (80~90%)	段	(黒褐色)	-		内黒		
	沈線文状の調整痕による段 ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-	剥離	器 台 部 (90~100%)							
面	ハケメミガキナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	剥離 上げ底	底 面 (100%)					面		

表IV-47 UH-8 出土復原土器観察表(6)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-62	31	33	UH-8	覆土1層	10	10	21.0	11.1	10.8	960	口縁~底部	瓶	Ⅴ群 乳間5cm
接合破片総点数			56	接合・同一個体破片			UH-8・床面直上・54(1)・床面下・84(1)・覆土2・56(1)・覆土1・3(1)・82・23(1)・29(1)・30(1)・33(1)・35(1)・36(1)・39(1)・40(3)・41(2)・44(1)・45(4)・46(4)・49(6)・50(1)・52(1)・4・14・29・36・41(2)。(注記不明1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-	-	口 器 部 (70%)							
	ヨコナデ ヨコハケ タテハケ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剥離	口 縁 部 (60%)	ヨコハケ → タテミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-		-		
	タテハケ ミガキ? 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	一部剥離	胴 部 上 半 (70%)	ヨコハケ → タテミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	-		一部剥離		
	タテハケ ミガキ? 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	一部剥離 穿孔一対	胴 部 下 半 ~ 底 部 (60%)	ヨコハケ → ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	-		一部剥離 物成後に 穿孔		
面	ナデ 非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ~ 灰白色 (10YR8/2)	黒色化?	-	底 面 (70%)					面		

表IV-48 UH-9 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-62	32	33	UH-9	床面	8	203	32.5	24.3	8.4	1,690	口縁~底部	甕	Ⅴ群
接合破片総点数			220	接合・同一個体破片			UH-9・覆土2・7(1)・覆土1(1)・2(2)・3(3)・4(5)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化炭化物付着	—	口 唇 部 (70%)							
	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化炭化物付着	補修孔一對	口 縁 部 (80%)	ヨコナデ ヨコハケ	黄褐色 (10YR7/6) ~ 灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	—	一部剥離		
	ナデによる沈殿文(幅広)段		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化炭化物付着	—	頸 部 (100%)	ヨコハケ	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	一部剥離		
	タテハケ → ヨコハケ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (100%)	ヨコハケ	灰白色 (10YR8/2) ~ 灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	—	一部剥離		
	タテハケ → ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/2~7/3)	黒色化炭化物付着 赤色化にぶい褐色 (5YR7/4)	一部剥離	胴部下半~底部 (100%)	ヨコハケ	灰白色 (10YR8/2) ~ 灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	—	一部剥離		
面	非調整?		灰白色 (10YR8/2~7/1)	—	一部剥離	底 面 (100%)	ハケ 指挿痕	灰白色 (10YR8/2) ~ 灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	面		

表IV-49 UH-10 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-62	33	33	UH-10	床面直上	6	2	17.7	(16.0)	(7.8)	240	口縁~底部	环	Ⅴ群 内黒
接合破片総点数			10	接合・同一個体破片			UH-10・床面直上・2(1)・3(1)・4(1)・5(1)・7(1)・H・9(1)・覆土1(1)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	—	口 唇 部 (40%)							
	ヨコハケ → ヨコミガキ ナデによる段		灰黄褐色 (10YR5/4) ~ 灰白色 (10YR7/1)	黒色化	—	口 縁 部 (40%)	ヨコミガキ 沈殿文状の調整痕	(黒褐色)	—	—	一部剥離		
面	ヨコナデ ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3) ~ 灰黄褐色 (10YR4/3)	黒色化?	—	胴部~底部 (30~10%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—	面		
	ミガキ?		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化?	—	底 面 (10%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	—	面		

表IV-50 U P-16出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-53	34	33	U P-16	埋土層1	221	7	12.8	23.2	—	660	口縁～胴部上位	甕	Ⅴ群			
接合破片総点数		51	接合・同一個体破片		U P-16・層1・77(1)・78(1)・81(1)・99(1)・101(1)・110(1)・121(1)・122(1)・130(1)・132(1)・151(1)・172(1)・173(1)・174(1)・176(1)・181(1)・182(1)・183(1)・184(1)・186(1)・200(1)・211(1)・223(1)・221(3)・Ⅱ・223(4)											
出土(混和材)		繊維	無	粒径	中～細粒			種類	岩石鉱物ともあり		量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他				
	ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～にぶい褐色 (5YR6/3)	—	—	口唇部 (60%)	内										
	タテハケ ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～にぶい褐色 (5YR6/3)	黒色化?	—	口縁部 (70%)								ヨコミガキ 沈積文様の調整痕	赤褐色 (5YR5/4) ～にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	一部剥離
	タテハケ 工具のトメ? (アタリ)	にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～にぶい褐色 (5YR6/3)	—	—	頸部 (40%)								ヨコミガキ	赤褐色 (5YR5/4)	—	一部剥離
面	タテミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/2) ～褐色 (7.5YR4/4)	—	一部剥離	胴部上半 (40%)	ヨコナデ ヨコミガキ	赤褐色 (5YR5/4)	—	大部分剥離	面						

表IV-51 U P-16出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-53	35	34	U P-16	埋土層2	13	3	(4.7)	9.2	—	100	口縁～胴部下位	鉢 (小型)	Ⅴ群			
接合破片総点数		22	接合・同一個体破片		U P-16・層1・121(1)・141(1)・181(1)・201(1)・211(1)・232(1)・231(1)・251(1)・261(1)・271(1)・31(1)・34(1)・84(1)・93(1)・60(Ⅱ)・128(1)・131											
出土(混和材)		繊維	22	粒径	細～中粒			種類	岩石鉱物ともあり		量	中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他				
	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—	口唇部 (60%)	内										
	ヨコナデ ヨコミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化	一部剥離	口縁部 (80%)								ヨコミガキ 沈積文様の調整痕	(黒褐色)	黒色化	一部剥離
	タテハケ ヨコミガキ タテミガキ	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	一部剥離	胴部 (80～30%)								ヨコミガキ タテミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離
面	タテミガキ	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	一部剥離	胴部 (80～30%)	ヨコミガキ タテミガキ	(黒褐色)	黒色化	一部剥離	面						

表IV-52 UH-2・3出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-63	36	33	UH-2	GY 2層	10	10	(30.3)	30.0	8.6	1,575	口縁~底部	甕	Ⅴ群 推定復原
			UH-3	B1 層	74	1							
接合破片 総点数			45		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-2 ・(米9・971)・GY2層・127(1)・(1)・FY層・13(1)・49(1)・83(1)・85(1)・112(1)・122(1)・124(2)・132(1)・134(1)・137(1)・ ・FY層・149(5)・Y7層・47(1)・B1層・15(1)・(2)・Y1層・(1)・19・58・重・(1)					
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体		量	少量	備考	垂円鐘状のチャート 最大長径9mm	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—	口 唇 部 (50%)							
	ヨコナデ ナデによる沈線文 (2段) ナメハケ ヨコミガキ		褐色 (7.5YR6/6) ～ 6YR7(6)	黒色化	—	口 縁 部 (50%)	ヨコナデ → ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	—	—		
	ヨコナデ 法線文 ヨコミガキ		褐色(5YR6/6) ～ 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	—	一部磨耗	頸 部 (10%)	ヨコハケ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	—	—		
	ヨコナデ 法線文 ヨコミガキ		褐色(5YR6/6) ～ 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	—	一部磨耗	胴部上半 (5%)	ヨコハケ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	—	—		
	タテハケ タテミガキ		灰白色(10YR8/1) ～ 褐色(5YR7/6)	炭化物付着 赤褐色 褐色 (2.5YR7/6)	磨耗	胴部下半 ～ 底部 (30～100%)	ヨコハケ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	一部剥離	—		
面	葉脈痕 非調整部分		浅黄褐色 (10YR8/6)	—	—	底 面 (100%)	ヨコハケや ヨコナデや 非調整部分	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	一部剥離	面		

表IV-53 UH-4・UP-16出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-63	37	34	UH-4	床面	372	1	(25.3)	—	8.4	950	頸~底部	甕	Ⅴ群
			UP-16	習土 1層	43	2							
接合破片 総点数			27		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UH-4・習土・299(1)・299(1)・(1)・習土・315(1)・UP-16・習土1・9(1)・8(1)・5(1)・ ・22・60・重・39(1)・H・45(2)・108(1)・23・60・重(7)・H・10(1)・108(1)・108(1)・H(1)・28・37・重・(2)					
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	中～多量	備考	垂円鐘状のチャート 最大長径5mm	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	タテハケ → ヨコミガキ		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	—	—	頸 部 (5%)	ヨコナデ	褐色 (7.5YR5/6)	—	—	—		
	タテハケ → ヨコミガキ		にぶい褐色 (7.5YR7/4) ～ にぶい褐色 (7.5YR5/3)	炭化物付着	—	胴部上半 (10%)	ヨコナデ タテナデ	褐色 (7.5YR5/6)	—	—	—		
	タテミガキ ヨコナデ 指頭痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—	胴部下半 ～ 底部 (40%)	ヨコミガキ ヨコハケ ヨコナデ	黄褐色 (7.5YR7/8)	黒色化 炭化物付着	磨耗	—		
面	葉脈痕		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	—	一部剥離	底 面 (35%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	—	磨耗	面		

表IV-54 UH-4・UP-16出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)				
							器高	口径	底径								
IV-53	38	34	UH-4 UP-16	床面 埋土層	368 8	1 1	(2.2)	—	11.4	150	底部	坏	Ⅴ群 内黒				
接合破片総点数			8			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(産数)			UH-4・床面(上・380K1)・覆土2・20(1)、 UP-16・覆土1・18(1) 23-60・H・1(1)・4(1)、Ⅲ・(1)								
胎土(混和材)			纖維			無			粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ミガキによる沈線文		褐色 (7.5YR7/6)		—		—		底部 (30%)	ミガキ		(黒褐色)		黒色化		—	
面	ミガキ?		褐色 (7.5YR7/6) ～にぶい褐色 (7.5YR5/4) ～にぶい黄褐色 (10YR7/2)		黒色化		中央部分 ややくぼむ 磨耗		底面 (75%)	放射状 ミガキ		(黒褐色)		黒色化		—	

表IV-55 UPS-1出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)				
							器高	口径	底径								
IV-54	39	34	UPS-1	Ⅲ層	4	19	(32.6)	25.9	—	1,400	口縁～ 胴部下位	甕	Ⅴ群				
接合破片総点数			120			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(産数)			UPS-1・Ⅲ・2(1)・3(18) 21-53・Ⅲ・(2)、21-54・Ⅲ・(71)・H・(8)、21-55・Ⅲ・(2)								
胎土(混和材)			纖維			無			粒径	中粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	重円筒状チャートほか	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ヨコミガキ		褐色 (5YR6/6) ～にぶい褐色 (7.5YR7/4)		—		全体的に 磨耗		口唇部 (70%)								
	タテハケ ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		赤色化 褐色 (5YR7/8)		一部剥離		口縁部 (70%)	ヨコナデ ヨコハケ		褐色 (5YR6/6) ～にぶい黄褐色 (10YR7/4)		—		一部剥離	
	ナデによる沈線文 ヨコナデ		褐色 (7.5YR7/6) ～にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化 炭化物付着		—		頸部 (50%)	ヨコハケ		明赤褐色 (7.5YR5/4)		—		一部剥離	
	ヨコハケ タテハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～灰黄褐色 (10YR6/2)		黒色化?		一部剥離		胴部上半 (40%)	ヨコハケ		明赤褐色 (7.5YR5/4) ～灰白色 (7.5YR8/1)		—		一部剥離	
面	タテハケ		灰黄褐色 (10YR6/2) ～にぶい黄褐色 (10YR6/3)		赤色化 褐色 (5YR7/8)		—		胴部下半 ～底部 (90%)	ヨコハケ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		一部剥離	

表IV-56 UPS-1 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-64	40	34	UPS-1	Ⅲ層	6	104	(26.6)	26.4	—	1,110	口径～胴部下位	Ⅴ群	
接合破片総点数			118	接合・同一個体破片			UPS-1・Ⅲ・5(4)・7(7)、22-55・Ⅲ・(2)・V2・(1)						
胎土(混和材)			繊維	無	粒徑	中量	種類	岩石主体	量	中量	備考	垂円蹄状チャートほか	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ沈線文様の調整痕		にぶい橙色(7.5YR6/4)	—	—	口器部(20%)							
	タテハケ→ヨコナデナデによる段状の花線文		にぶい黄褐色(7.5YR7/4)～にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部剥離	口縁部(40%)	ヨコナデヨコミガキ	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化	一部剥離			
	ナデによる段状の花線文		にぶい黄褐色(7.5YR7/4)	黒色化炭化物付着	一部剥離	胴部(30%)	ヨコナデヨコミガキ	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化	—			
	タテハケ→タテミガキ		にぶい黄褐色(7.5YR7/4)～にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部剥離一部磨耗	胴部上半(70%)	ヨコハケ→タテミガキ	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部剥離			
	タテハケ→タテミガキ		にぶい黄褐色(7.5YR7/4)	黒色化炭化物付着 赤色化褐色(5YR5/6)	一部磨耗	胴部下半～底部(90%)	ヨコハケタテミガキ	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	—			
胎土(混和材)			繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	中～多量	備考	垂円～垂角蹄状チャート他	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	タテミガキヨコミガキ沈線文様の調整痕		褐色(5YR7/6)～にぶい赤褐色(5YR4/3)	黒色化	—	胴部上位(70%)	ヨコナデヨコハケ	褐色(5YR6/6)	—	—			
面	タテミガキヨコミガキヨコハケ沈線文様の調整痕		にぶい黄褐色(10YR7/3)～にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化	—	胴部下位～底部(50～70%)	ヨコハケヨコナデ	褐色(7.5YR7/6)	—	—			

表IV-57 UPS-2 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-64	41	35	UPS-2	Ⅲ層	2	72	(19.7)	—	—	1,080	胴部上位～下位	球胴壺	Ⅴ群
接合破片総点数			152	接合・同一個体破片			UPS-2・Ⅲ・1(35)・Ⅲ・(41)						
胎土(混和材)			繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	中～多量	備考	垂円～垂角蹄状チャート他	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	タテミガキヨコミガキ沈線文様の調整痕		褐色(5YR7/6)～にぶい赤褐色(5YR4/3)	黒色化	—	胴部上位(70%)	ヨコナデヨコハケ	褐色(5YR6/6)	—	—			
面	タテミガキヨコミガキヨコハケ沈線文様の調整痕		にぶい黄褐色(10YR7/3)～にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色化	—	胴部下位～底部(50～70%)	ヨコハケヨコナデ	褐色(7.5YR7/6)	—	—			

表IV-58 UPS-4 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-54	42	36	UPS-4	Ⅲ層	I	7	(10.7)	7.6	—	140	口縁~底部	鉢 (小型)	Ⅴ群
接合破片総点数			20	接合・同一個体破片			UPS-4・Ⅲ・240 出土地点・層位・遺物番号(点数)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石鉱物ともあり	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		
	ヨコミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—		口 器 部 (80%)						
	ヨコナデ タテハケ → ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	一部剥離		口 縁 部 (80%)						
	タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—		胴部~底部 (40~10%)	ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部剥離		
面		—	—	—	剥離		底 面 (10%)	—	—	—	剥離		
												内	

表IV-59 UPS-5 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-54	43	36	UPS-5	Ⅲ層	—	6	(5.6)	—	(7.6)	115.6	胴部下位~底部	甕	Ⅴ群
接合破片総点数			13	接合・同一個体破片			24-61・Ⅲ・(7)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	細~中粒	種類	鉱物主体	量	中~多量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他		
	タテミガキ ヨコナデ		灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—		胴部下位~底部 (40%)	タテミガキ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離		
面		葉脈痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	炭化物付着	一部剥離		底 面 (70%)	(剥離)	黄褐色 (7.5YR6/6)	—	剥離 後 磨耗		
												内	

表IV-60 UPS-6 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-65	44	35	UPS-6	Ⅷ層	13	6	33.1	25.1	10.4	1,720	口縁~底部	甕	Ⅴ群 推定復原			
接合破片 総点数			61			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(表)			UPS-6・Ⅷ・32②・32④・41・311・911・1011・11③・141③・15②・16②・18③、 33-38・Ⅷ・③、33-39・Ⅷ・1⑧、33-40・Ⅷ・⑤、34-40・Ⅷ・④、34-40・Ⅷ・①、34-41・Ⅷ・③⑨							
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	細粒	種類	鉱物主体		量	少量		備考			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		
	ナデ 沈線文状の 調整痕		灰黄褐色 (10YR7/2)		黒色化 炭化物付着	—		口 唇 部 (60%)								
	ナメハケ → ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化 炭化物付着	—		口 縁 部 (60%)	ヨコハケ → ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR7/4)	炭化物付着	—		—		
	ナメハケ ナデによる 沈線文		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化 炭化物付着	—		頸 部 (60%)	ヨコハケ	にふい黄褐色 (10YR7/4)	—		—		—	
	ナメハケ タテハケ		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化 炭化物付着	—		胴部上半 (60%)	ヨコハケ → タテハケ	にふい黄褐色 (10YR7/3)	—		—		—	
	タテハケ ミガキ 沈線文状の 調整痕		にふい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着	一部剥離		胴部下半 ~底部 (50%)	ヨコハケ → ヨコハケ	にふい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—		—		—
面	ナデ?ミガキ? (非調整部分)		灰黄褐色 (10YR6/2)		—	—		底 面 (50%)	ナデ? 指頭痕	浅黄褐色 (10YR8/3)	—		—		面	

表IV-61 UPS-6 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-65	45	35	UPS-6	Ⅷ層	8	2	28.3	20.7	7.1	970	口縁~底部	甕	Ⅴ群			
接合破片 総点数			154			接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(表)			32-38・Ⅷ・①、33-38・Ⅷ・⑩⑥・①(11)、33-39②・Ⅷ・②(1)、34-38・Ⅷ・④、 試掘調査法No.20(9)							
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	細粒	種類	鉱物主体		量	少~中量		備考			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化	一部磨耗		口 唇 部 (40%)								
	ヨコナデ タテミガキ 沈線文状の 調整痕		にふい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化	—		口 縁 部 (40%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—		—		
	ヨコナデ ナによるくぼみ		明黄褐色 (10YR7/6)		—	—		頸 部 (20%)	ヨコナデ	褐色 (7.5YR6/6)	—		—		—	
	タテミガキ 沈線文状の 調整痕		にふい赤褐色 (5YR5/4)		黒色化 赤色化 褐色 (2.5YR5/6)	—		胴部上半 (60%)	ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕	にふい黄褐色 (10YR6/3) ~褐色 (7.5YR6/4)	黒色化	—		—		
	タテミガキ		にふい褐色 (7.5YR6/3) ~灰黄褐色 (10YR6/2)		黒色化 赤色化 褐色 (2.5YR5/6)	一部剥離		胴部下半 ~底部 (80~40%)	ミガキ 沈線文状の 調整痕	にふい黄褐色 (10YR6/3)	—		—		—	
面	非調整 沈線文状の 調整痕?		にふい褐色 (7.5YR6/3)		黒色化	—		底 面 (85%)	—	—		—		剥離		

表IV-62 UPS-6 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-65	46	35	UPS-6	Ⅲ層	13	8	(29.2)	—	7.4	1,110	胴部上位 ~底部	甕	Ⅴ群
接合破片総点数					50	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		UPS-6・Ⅲ・(2)・(5)・(6)・(11)・(14)・(17)・(31)・(40)・Ⅲ・(2)・(3)・(8)・(11)・(33)・(39)・(6)・(34)・(48)・Ⅲ・(22)・(34)・(39)・Ⅲ・(2)					
胎土 (混和材)			繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体	量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテマテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化炭化物付着	—	胴部上半 (20%)	ココハク	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部剥離			
	タテマテ 沈線文状の調整痕 (正副のツマミ)		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部磨耗	胴部下半 ~底部 (40~60%)	タテマテ 沈線文状の調整痕	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化炭化物付着	—			
面	非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—	底面 (75%)	非調整	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	面		

表IV-63 UPS-6 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-65	47	36	UPS-6	Ⅲ層	19	3	(23.0)	—	9.0	800	胴部上位 ~底部	甕	Ⅴ群
接合破片総点数					55	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		UPS-6・Ⅲ・(1)・(13)・(16)・(31)・(40)・Ⅲ・(2)・(3)・(7)・(13)・(32)・(40)・Ⅲ・(1)・(32)・(41)・Ⅲ・(9)・(33)・(38)・Ⅲ・(1)・(33)・(39)・Ⅲ・(9)・(33)・(40)・Ⅲ・(9)					
胎土 (混和材)			繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテマテ タテマテ タテマテ		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ~にぶい褐色 (10YR7/3)	黒色化?	一部剥離	胴部上半 (10~50%)	タテマテ 沈線文状の調整痕	赤褐色 (5YR5/4) ~にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	一部剥離			
	タテマテ 沈線文状の調整痕 ココナテ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)・(7)	黒色化炭化物付着	一部剥離	胴部下半 ~底部 (90%)	タテマテ	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	一部剥離			
面	葉割痕		浅黄褐色 (10YR7/3) ~にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部剥離	底面 (100%)	ココナテ タテマテ	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	大部分剥離	面		

表IV-64 UPS-7 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-65	48	36	UPS-7	Ⅲ層	2	40	15.55	(15.0)	6.8	410	口縁~底部	甕 (小型)	Ⅴ群
接合破片総点数					55	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		UPS-7・Ⅲ・3(3)・4(12)					
胎土 (混和材)			繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体?	量	微量	備考	海綿骨針	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ココナテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/3)	—	—	口器部 (5%)	ココナテ 沈線文状の調整痕	—	—	—			
	ココナテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	一部剥離	口縁部 (5~20%)	ココナテ 沈線文状の調整痕	浅黄褐色 (7.5YR6/3)	黒色化	—			
	ココナテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部剥離	頸部 (15%)	ココナテ 沈線文状の調整痕	にぶい褐色 (7.5YR6/4) ~にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—			
	ココナテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	—	胴部上半 (50%)	ココナテ 沈線文状の調整痕	にぶい褐色 (7.5YR6/4) ~にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—			
	ココナテ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化	—	胴部下半 ~底部 (80~100%)	ココナテ 沈線文状の調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—			
面	ナデ? ミガキ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	—	底面 (80%)	ナデ? ミガキ 沈線文状の調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	面		

表IV-65 U P S - 7 出土復原土器観察表 (2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)																
							器高	口径	底径																				
IV-65	49	36	U P S - 7	黒川	I	63	(28.8)	—	(7.8)	1,040	口縁~底部	甕	Ⅴ群																
接合破片総点数			97			接合・同一個体破片			U P S - 7・Ⅲ・2(12)・3(7)・4(16)																				
胎土 (混和材)			繊維			無			粒径			細粒			種類			鉱物主体			量			微量			備考		
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内										
	—		—		—		残存せず		口 唇 部 (0 %)																				
	タテハケ ヨコハケ		浅黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 炭化物付着		一部剥離		口 縁 部 (10 %)		ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR6/3)		—		—												
	沈線文 タテハケ → ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 炭化物付着		一部剥離		頸 部 (90 %)		ヨコナデ ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—		—												
	ヨコハケ タテハケ		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		黒色化?		一部剥離		胴部上半 (30~80 %)		ヨコハケ → タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		—												
面	タテハケ		浅黄褐色 (10YR6/3) ~ 灰黄褐色 (10YR4/2)		—		一部剥離 底面剥離		胴部下半 ~ 底部 (50~70 %)		ヨコハケ チナメハケ → ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		底面剥離		面										

表IV-66 U N - 1 出土復原土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)																
							器高	口径	底径																				
IV-66	50	37	U N - 1	粘土 上面	—	6	(30.6)	(23.6)	—	1,385	口縁~ 胴部下位	甕	Ⅴ群																
接合破片総点数			114			接合・同一個体破片			30-39・Ⅱ・①、30-40・Ⅱ・④、31-40・Ⅱ・⑨、31-41・Ⅱ・⑬、32-28・Ⅱ・①、32-39・Ⅱ・①・①、32-40・Ⅱ・⑩、32-41・Ⅱ・⑬、33-37・Ⅲ・①、33-39・Ⅲ・⑩、33-39・Ⅴ・2・①、33-39・Ⅴ・①、33-39・Ⅴ・①、33-39・Ⅴ・①、34-46・Ⅲ・⑬																				
胎土 (混和材)			繊維			無			粒径			細			種類			岩石・鉱物 ともにあり			量			微量			備考		
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内										
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		—		—		口 唇 部 (40 %)																				
	ヨコナデ タテハケ ナデによる沈線文		にぶい黄褐色 (10YR7/4~7/3)		炭化物付着		—		口 縁 部 (40 %)		ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		明黄褐色 (10YR7/6)		—		—												
	ナデによる沈線文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		—		頸 部 (15 %)		ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—		—												
	ヨコハケ タテハケ → ミガキ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ~ にぶい黄褐色 (10YR5/3)		黒色化		—		胴部上半 (70 %)		ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		—		—												
面	タテハケ → タテミガキ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化 炭化物付着		一部剥離 磨耗		胴部下半 (70 %)		タテハケ ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		磨耗		—		面										

表IV-67 U N-1 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-66	51	37	UN-1	粘土上面	—	11	(26.6)	—	—	900	口縁～胴部下位	甕	Ⅴ群
接合破片総点数			133	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			32-38・Ⅲ・(1)、32-39・Ⅲ・(4)、32-40・Ⅲ・(1)、33-38・Ⅲ・(27)、33-38・Ⅰ・(3)、33-39・Ⅲ・(79) 和国産確認古土器(230)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	微量	備考	龍門確状チャート		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコナデ ナデによる段		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	口縁部 (5%)	ヨコハケ ナデによる沈線文状の調整痕	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剥離			
	ナデによる沈線文 (幅式) ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部 (90%)	ヨコハケ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着	—			
	ナメハケ ヨコハケ ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (90%)	ヨコハケ ミガキ?	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着	—			
面	ナメハケ タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2~6/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部下半 ~ 底部 (70~90%)	ヨコハケ ミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	面		

表IV-68 U N-1 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-66	52	37	UN-1	粘土上面	—	1	(15.8)	—	(7.8)	350	胴部中位～底部	甕	Ⅴ群
接合破片総点数			45	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			33-39・Ⅲ・(1)、33-39・Ⅲ・(17)、33-40・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中～細粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコハケ ミガキ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	胴部中位 (30%)	ヨコナデ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—			
面	タテハケ タテミガキ (工具のアタリ)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下位 ~ 底部 (20%)	ナデ → タテミガキ ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—	面		

表IV-69 UN-1 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-66	53	37	UN-1	粘土上面	—	7	(26.1)	(19.0)	—	1,480	口縁~ 胴部下位	球胴製	V群
接合破片総点数			164	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			30-42・重・(1), 31-30・重・(1), 31-30・重・(1), 31-41・重・(1), 32-32・重・(1), 32-30・重・(6)+FV・(1), 32-40・重・(3), 33-37・重・(1), 33-38・重・(1), 33-39・重・(1), 33-39・重・(1), 33-39・重・(2), 34-39・重・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石鉱物 ともたあり	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ?		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	磨耗	口 器 部 (10 %)							
	ヨコナデ?		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にふい (7.5YR7/3)	—	磨耗	口 縁 部 (60 %)	ヨコミガネ 沈線文状の 調整痕	にふい (7.5YR6/4)	黒色化?	—			
	ナデによる 沈線文?		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にふい (7.5YR7/3)	—	磨耗	胴 部 (90 %)	ヨコミガネ	にふい (10YR7/4)	—	—			
	ミガネ?		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にふい (7.5YR7/3)	黒色化?	磨耗	胴部上半 (80 %)	ヨコハケ → ヨコミガネ	にふい (10YR7/4)	黒色化?	—			
面	タテハケ → タテミガネ		浅黄褐色 (10YR8/4) ~にふい (7.5YR6/3)	黒色化?	磨耗 一部剝離	胴部下半 ~底部 (80 %)	ナデ? ミガネ?	にふい (10YR7/4)	黒色化 灰化物付着	—	面		

表IV-70 UN-1 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-66	54	37	UN-1	粘土上面	—	5	23.9	17.8	7.4	1,010	口縁~底部	球胴製	V群 推定復原
接合破片総点数			85	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			30-39・重・(5), 30-39・重・(2), 31-30・重・(2), 31-40・重・(2), 31-41・重・(3), 31-41・重・(7), 32-39・重・(1)+FV・(1), 32-40・重・(6), 32-41・重・(1), 32-42・重・(1), 32-44・重・(2), 33-38・重・(1)+I・(1), 33-39・重・(3), 34-38・重・(16)+I・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		にふい黄褐色 (10YR7/3) → 灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口 器 部 (40 %)							
	ヨコナデ ヨコミガネ		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	口 縁 部 (40 %)	ヨコナデ ヨコミガネ	にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—			
	ヨコナデ ヨコミガネ 沈線文状の 調整痕		にふい黄褐色 (10YR7/3) → 浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	胴 部 (50 %)	ヨコハケ → ヨコナデ ヨコミガネ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化	—			
	ヨコミガネ タテミガネ ヨコハケ		にふい黄褐色 (10YR7/3) → 浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	胴部上半 (70 %)	ヨコハケ	にふい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—			
面	タテハケ → タテミガネ		にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	粘土の つなぎ目 指頭痕	胴部下半 ~底部 (70~40%)	ヨコハケ ナデ	にふい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	面		
葉脈痕		にふい黄褐色 (10YR7/3~6/3)	—	黒色 付着物	底 面 (70 %)	ナデ	(褐灰色)	黒色化	—				

表IV-71 遺構出土VII群破片土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(型式)
						小計	合計					
胎土(濃和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡	
編織		粒径	種類	外面		内面	(部位)	外面	内面	外面	内面	
IV-07	1	30	UH-1	遺土2層	26	1	胴部	7.6	甕	埴師	磨耗	
無	細粒	黏物主体	タテハケ ナメ1ガキ	ナメ?	ナメ?	ナメ?	ナメ?	褐色 (5YR7/6)	にぶい赤褐色 (5YR5/6)	赤褐色 (5YR7/6)	黒色化	褐色 (5YR7/6)
IV-07	2	30	UH-1	床面	—	1	胴部下段 ～底面	38.7	甕	埴師	磨耗	
無	細粒	黏物主体	タテハケ ナメ1ガキ	ヨコナデ	ヨコナデ	(口縁部) ナメ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 (10YR7/4)	にぶい赤褐色 (10YR7/4)	—	—	—
IV-07	3	30	UH-2	BY層	133	2	口縁部	10.1	甕	埴師	—	—
無	細粒	黏物主体	ヨコナデ 沈殿文状の 調整層	ヨコナデ	ヨコナデ	(口縁部) ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—	黒色化?
IV-07	4	30	UH-2	BY層 Y層	43 84	3	胴部	35.9	球型甕	埴師	—	—
無	中粒	岩石主体	ナメによる沈殿文 ナメナメ ナメナメ1ガキ	ヨコナデ	ヨコナデ	ナメ1ガキ	ナメ1ガキ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	褐色 (7.5YR6/6)	—	—	黒色化 灰化物付着
IV-07	5	30	UH-2	YB層	123	1	底面	44.6	甕	埴師	—	—
無	中粒	岩石主体	タテハケ ヨコナデ	ヨコハケ	(底外面) 調整層 (底内面) ナメ 工具のアナキ	ヨコハケ	底面	灰赤褐色 (10YR6/2)	灰赤褐色 (10YR5/3)	灰化物付着	—	内裏 内面: 剥離 灰 磨耗
IV-07	6	30	UH-2	BY層 Y層	78 83	3	底面	48.0	甕	埴師	—	—
無	細～中粒	岩石系物 ともにより (赤門礫状の チャート)	タテハケ ヨコナデ	ヨコハケ	底(外面) 調整層 底(内面) ナメ	ナメ	底面	灰赤褐色 (10YR6/3)	褐色 (7.5YR7/6)	—	—	灰化物付着
IV-07	7	30	UH-2	BY層 Y層	104 105 103 113	4	底面	47.6	甕	埴師	—	—
無	中粒	岩石主体 (赤門礫状)	ヨコナデ	(調整)	底(外面) 調整層 底(内面) ナメ	ナメ	底面	にぶい赤褐色 (10YR7/3)	—	—	—	—
IV-07	8	30	UH-2	床 BY層	98 68 130 140	4	口縁部	64.1	杯	埴師	—	内裏
無	細～中粒	岩石系物 ともにより	ヨコ1ガキ	ヨコ1ガキ	(口縁部) ヨコ1ガキ	ナメ	口縁部	にぶい赤褐色 (10YR5.5/7.6)	(黒褐色)	黒色化 灰化物付着	黒色化 灰化物付着	—
IV-07	9	30	UH-2	YB層	123	1	胴部	22.5	甕	埴師	—	内面 磨耗
無	中粒	岩石主体 (赤門礫状)	タテハケ ヨコナデ	ヨコハケ	ナメ1ガキ	ナメ1ガキ	ナメ1ガキ	にぶい赤褐色 (10YR6/3)	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 灰化物付着	—	—
IV-07	10	30	UH-2	BY層 Y層	78 93	6	胴部	79.5	甕	埴師	—	内外面 一部剥離
無	中～粗粒	岩石系物 ともにより (灰石・白色岩片)	タテハケ	ヨコハケ	—	ナメ	底面	灰赤褐色 (10YR6/2)	褐色 (5YR6/6)	黒色化	—	—
IV-07	11	30	UH-3	YB層	68	1	口縁部	15.3	甕	埴師	—	割れ口磨耗
無	中～粗粒	岩石主体 (赤門礫状の 調整層)	ナメによる沈殿文 ヨコナデ	ヨコナデ	(口縁部) ナメ	ナメ	口縁部	黄褐色 (10YR6/6)	明赤褐色 (5YR5/6)	—	—	—
IV-07	12	30	UH-3	BY層	87	1	底面	54.5	甕	埴師	—	—
無	中	岩石系物 ともにより (赤門礫状の チャート)	ヨコナデ	ヨコナデ	(底外面) 調整層 底(内面) ナメ	ナメ	底面	明赤褐色 (5YR5/6)	にぶい赤褐色 (10YR7/3)	—	—	黒色化 灰化物付着
IV-07	13	30	UH-3	床面	—	1	底面	34.3	甕	埴師	—	—
無	中～粗粒	岩石系物 ともにより	タテハケ ヨコナデ	—	(底外面) 調整層 底(内面) ナメ	ナメ	底面	にぶい赤褐色 (10YR7/4)	にぶい赤褐色 (10YR7/3)	—	—	黒色化 灰化物付着
IV-07	14	30	UH-3	BY層	29	1	底面	17.5	甕	埴師	—	底外面 剥離
無	細～中粒	岩石系物 ともにより	タテハケ ヨコナデ	ヨコナデ	(底外面) 調整層 底(内面) ナメ	ナメ	底面	にぶい赤褐色 (10YR7/2)	灰赤褐色 (10YR6/2)	灰化物付着	—	黒色化?
IV-07	15	30	UH-3	BY層 Y層	60	4	胴部～ 胴部中粒	82.2	甕	埴師	—	全体の磨耗
無	粗粒	岩石主体 最大長径 5mm(岩片)	ナメによる沈殿文 ヨコナデ ナメナメナメ	ヨコハケ	ナメ	ナメ	底面	褐色 (5YR6/6)	にぶい赤褐色 (10YR7/4)	赤褐色 (5YR7/6)	黒色化	褐色 (5YR7/6)

表IV-71 遺構出土VII群破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類		備考(型式)
						小計	合計				外面	内面	
胎土(濃和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡		
編織	粒徑	種類	外面		内面(部位)		外面	内面	外面	内面	外面	内面	
IV-07	16	38	UH-3	BV層	103	1	5	胴部中位 ~下位	32.3	杯	焼酎	内黒	
無	細粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	17	38	UH-4	覆土層	84	1	1	口縁部~ 胴部中位	29.5	杯	焼酎	内黒	内黒 胴部中位磨耗 18と同一個体?
無	細粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	18	38	UH-4	覆土層	11	1	2	口縁部~ 胴部中位	13.0	杯	焼酎	内黒	17と同一個体?
無	中~細粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	19	38	UH-4	覆土層	185	1	2	口縁部	23.1	杯?	焼酎	内黒	17と同一個体?
無	中~細粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ?	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	20	38	UH-4+PS-1	層	—	4	—	底部	121.4	壺	焼酎	—	—
無	細~中粒	岩石主体 ともあり	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(底外面) 不整石凸 (底内面) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	21	38	UH-4	床面	430	1	—	底部	68.6	壺	焼酎	底内面 磨耗	—
無	中粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(底外面) 不整石凸 (底内面) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	22	38	UH-4	覆土層	269	1	2	胴部上段 ~底面	73.7	杯?	焼酎	内外面一部磨耗	—
無	細粒	岩石主体 (磨片摩滅付片)	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(底外面) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	23	38	UH-4	カマド 壁出し 層上	450	1	1	底部	28.2	球磨機	焼酎	内面 輪軸凸磨削面 一部磨耗	—
無	細~中粒	岩石主体 ともあり	ヨコシガキ	ヨコシガキ	ヨコシガキ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	24	38	UH-5	覆土層	146	1	—	口縁部	34.4	壺	焼酎	口縁部~外面 磨削・磨耗	—
無	細粒	岩石主体 ともあり (白色付)	ナデハケ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ?	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	25	38	UH-5	床面	175	2	—	口縁部	18.0	壺?	球磨機?	焼酎	—
無	細粒	岩石主体 ともあり	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	26	38	UH-5	覆土層	114	1	2	口縁部 ~胴部中位	68.3	杯	焼酎	内黒	—
無	細粒	岩石主体 ともあり	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	27	38	UH-5	床面	208	1	8	胴部上段 ~底部	66.3	杯	焼酎	内黒 外面 一部磨耗	—
無	細粒	岩石主体	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	28	38	UH-5	床面	222	1	2	胴部下位	49.9	壺	焼酎	底面に穿たれた 孔1か所	—
無	細粒	鉱物主体?	ナデハケ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	29	38	UH-7	覆土層	43	1	7	口縁部	79.3	壺	焼酎	全体の磨耗	—
無	細粒	鉱物主体?	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
IV-08	30	38	UH-7	覆土層	49	1	3	口縁部	76.0	壺	焼酎	全体の磨耗	—
無	細粒	鉱物主体?	ヨコシガキ	ヨコシガキ	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—

表IV-71 遺構出土VII群破片土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位			重量(g)	器種	分類	備考(型式)	
						小計	合計	外面	内面	(部位)					外面
胎土(混和材)						文様・調整					色調		使用の痕跡		
編織	粒徑	種類	表面			内面			(部位)			外面	内面	外面	内面
IV-00	31	30	UH-8	覆土2層	13	1	1	1	1	1	23.0	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	32	30	UH-10	1層	15	1	1	1	1	1	25.7	杯	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	33	30	UH-10	1層	8	1	1	1	1	1	29.0	杯	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	34	30	UH-10	1層	17	1	1	1	1	1	15.3	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	35	30	UP-16	覆土1層	6	1	1	1	1	1	10.5	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	36	30	UP-16	覆土1層	53	1	1	1	1	1	40.8	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	37	30	UH-5	1層	4	1	1	1	1	1	25.7	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	38	30	UH-5	1層	1	1	1	1	1	1	40.1	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	39	30	UN-1	地上1層	—	3	1	1	1	1	10.7	壺	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ

表IV-72 遺構出土VII群土製品観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		計測値(cm)				器種	分類	備考	
						小計	合計	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)				表面
胎土(混和材)						文様・調整					色調		使用の痕跡		
編織	粒徑	種類	表面			裏面			(その他の面)			表面	裏面	表面	裏面
IV-00	40	30	UH-2	1層	125	1	2	4.65	4.90	1.50	32.38	碓鉢	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	41	30	UH-2	1層	136	1	1	5.20	5.30	1.35	33.98	碓鉢	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	42	30	UH-2	1層	55	1	1	4.65	4.70	1.60	33.83	碓鉢	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
IV-00	43	30	UH-8	1層	65	1	1	6.50	6.45	2.30	82.64	碓鉢	VII群	—	—
無	無	無	胎物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ

表IV-73 UPS-3 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-70	1	40	UPS-3	Ⅲ層	10	13	36.6	30.1	9.6	2,440	口縁~底部	深鉢	V群c類			
接合破片総点数			92	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UPS-3・Ⅲ・2(1)・3(2)・4(1)・5(1)・6(1)・7(1)・8(2)・9(1)・11(1)(2)・12(1)・12(4)・2(29)・23-66・Ⅲ・2(1)・V(1)、31-61・Ⅲ・13(1)・V(7)・I(1)									
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	石英					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内									
	R L 黒文 棒状工具研み		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	突起一カ所	口唇部 (60%)										
	L R 斜行黒文 沈線文・刺英文 蛇行沈線文		にぶい棕色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (60%)							ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—
	L R 斜行黒文 ~ 縦走黒文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (60%)							ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—
	L R 斜行黒文 ~ 縦走黒文		にぶい棕色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着 赤色化?	—	胴部下半 ~ 底部 (80%)							ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—
面	L R 黒文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	磨滅丸底	底面 (70%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	面					

表IV-74 UPS-3 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
IV-70	2	40	UPS-3	Ⅲ層	10	1	4.75	(9.6)	6.2	70.2	口縁~底部	鉢	V群c類			
接合破片総点数			14	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			UPS-3・Ⅲ・2(9)、28-67・V1・(4)									
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	非円錐状チャート					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内									
	L R 黒文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口唇部 (30%)										
	ヨコナデ 沈線文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (30%)							ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—
	工字文風の 沈線文 刺英文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	胴部~底部 (60%)							ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3) ~ 棕色 (7.5YR7/6)	黒色化	—
面	L R 黒文 縦線状の沈線文 刺英文 中央にくぼみ		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	丸底	底面 (90%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	面					

表IV-75 LPS-1 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-70	3	40	LPS-1	V層	—	55	23.7	22.5	8.5	1,300	口縁~底部	深鉢	V群c類	
接合破片総点数			98	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			LPS-1・V・1(2)・2(29)・3(4)・(5)、未注記(3)							
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	細粒	種類	岩石鉱物 ともにあり	量	少量	備考	歪円蹄状		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		
	R.L.縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—		口器部 (90%)							
	—		浅黄褐色 (7.5YR8/6)	—	突起部 一か所	突起部 (100%)	突起部 (90%)							R.L.縄文 (口器部にかけて) 1段し熟練刻み
	R.L.縄文 (縦位回転施文)		褐色 (5YR7/6~ 7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	一部磨耗 一部剝離 補修孔一對	口縁部 (90%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—				
	R.L.縄文 (縦位回転施文)		褐色 (5YR7/6~ 7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	一部剝離	胴部上半 (100%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—				
	R.L.縄文 (縦位回転施文)		褐色 (5YR7/6~ 7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	一部剝離	胴部下半 ~底部 (100%)	ヨコナデ	(褐灰色)	黒色化 炭化物付着	—				
不明な条 刺文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剝離 丸底 磨耗	底面 (100%)	ナデ	褐色 (7.5YR4/3)	黒色化 炭化物付着	—					
内		面												

表IV-76 LPS-1 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-70	4	40	LPS-1	V1層	—	10	9.0	17.5	8.9	520	口縁~底部	鉢	V群c類	
接合破片総点数			13	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			21-63・Ⅲ・(3)							
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	歪円蹄状チャート			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		
	棒状工具刻み L.R.縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	二対の突起		口器部 (80%)							
	L.R.縄文 穿孔		にぶい黄褐色 (10YR7/3~7/4)	黒色化 炭化物付着	補修孔 一對	口縁部 (80%)	ヨコナデ							(黒褐色)
	L.R.斜行~ 横走縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部~底部 (80~100%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—				
無文?		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	底面 (100%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—					
内		面												

表IV-77 LPS-2 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径				備考	型式
IV-71	5	40	LPS-2	V1層	2	17	17.3	16.6	8.2	650	口縁~底部	深鉢 (小型)	V群c類	
接合破片総点数			57	接合・同一個体破片			LPS-2・V1・2(17)・3(14)・1(10)					出土地点・層位・遺物番号(点数)		
胎土 (混和材)			繊維	少量	粒径	粗粒	種類	岩石主体	量	中~多量	備考	最大長径 3mmの白色岩片チャート他		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	RL縞線刻み	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	突起部 二か所	口 唇 部 (60 %)									
	—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	突 起 部 (100 %)	RL縞線刻み	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—					
	RL縞線刻み	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	口 縁 部 (60 %)	LR縞線刻み ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	炭化物付着	—					
	RL斜行縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—	胴 部 上 半 (80 %)	ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	—	—					
	RL斜行縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 赤色化 褐色 (5YR7/4)	—	胴 部 下 半 ~ 底 部 (80 %)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—					
面	RL縄文	にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	磨滅 丸底	底 面 (80 %)	ナデ	(褐灰色)	黒色化	—	面				

表IV-78 LPS-3 出土復原土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径				備考	型式
IV-71	6	41	LPS-3	V1層	1	101	33.7	29.1	8.0	2,360	口縁~底部	深鉢	V群c類	
接合破片総点数			139	接合・同一個体破片			LPS-3・V1・2(16)・3(12)・4(7)・3(3)					出土地点・層位・遺物番号(点数)		
胎土 (混和材)			繊維	少量	粒径	細粒	種類	岩石鉱物 ともあり	量	中~多量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	L R縄文	灰褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	—	口 唇 部 (90 %)									
	L R縄文 沈濁文 斜文	灰褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離 補修孔 穿孔途中のものあり	口 縁 部 (90 %)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—					
	L R斜行 ~横走縄文	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	補修孔	胴 部 上 半 (90 %)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—					
	L R斜行 ~横走縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化? 赤色化? 褐色 (5YR7/8)	補修孔	胴 部 下 半 ~ 底 部 (100 %)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 炭化物付着	—					
面	L R縄文	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	磨滅	底 面 (90 %)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	面				

表IV-79 LPS-3 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-71	7	41	LPS-3	V1層	1	58	23.7	23.8	10.3	1,150	口縁~底部	深鉢	V群c類	
接合破片総点数					68	接合・同一個体破片			LPS-3・V1・3(2)・京1・(1)、不明(1)					
胎土 (混和材)					繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	垂角碑状の岩片
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	L.R 隠線刻み	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化炭化物付着	—	口唇部 (50%)	—		—		—				
	L.R 斜行~横走縄文	褐色 (5YR6/6)	黒色化炭化物付着	補修孔	口縁部 (50%)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	—	—				
	L.R 横走縄文 (一部単位施文)	浅黄褐色 (10YR8/4 ~ 7.5YR8/6)	黒色化炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (50%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—	—				
	L.R 横走縄文	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	赤色化褐色 (2.5YR7/8)	一部剥離	胴部下半~底部 (60%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	一部剥離	—				
面	L.R 縄文	(褐灰色)	—	摩滅丸底	底面 (40%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—		面			

表IV-80 LPS-3 出土復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-71	8	41	LPS-3	V層	1	62	(14.35)	—	8.4	510	胴部中位~底部	深鉢	V群c類	
接合破片総点数					62	接合・同一個体破片			—					
胎土 (混和材)					繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	L.R 縄文	明赤褐色 (10YR7/6)	炭化物付着 赤色化? 褐色 (5YR7/6)	一部剥離	胴部中位~底部 (50%)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	一部剥離	—				
	縄文?	褐灰色 (10YR5/1)	黒色化炭化物付着?	磨滅	底面 (100%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	一部剥離	—				
面												面		

表IV-81 LPS-3 出土復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-72	9	41	LPS-3	V1層	1	10	(17.3)	—	7.0	420.8	胴部上位~底部	深鉢	V群c類	
接合破片総点数					29	接合・同一個体破片			LPS-3・V1・3(7)・(2)、25-63・目・(1)、25-64・目・(7)、25-64・V1・(2)					
胎土 (混和材)					繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	垂角碑状チャート・岩片
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	L.R 斜行~横走気味の縄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化炭化物付着	磨滅	胴部上半 (20%)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化炭化物付着	—	—				
	L.R 斜行縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~ 褐色 (7.5YR7/6)	黒色化炭化物付着	一部剥離 剝離面に炭化物付着	胴部下半~底部 (70%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—	—				
面	L.R? 縄文	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	—	底面 (80%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—	—		面		

表IV-82 LPS-3 出土復原土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-72	10	41	LPS-3	V1層	5	6	(4.5)	—	9.1	150	胴部下位～底部	鉢?	V群c類
接合破片総点数			12	接合・同一個体破片			LPS-3・V1・3(2)、4(4)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	中量	備考	白色岩片	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	L R斜行縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化? 赤色化? にぶい橙色 (5YR6/4)	—	磨耗	胴部下半～底部 (25%)	ナデ?	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
面	L R縄文		(陶灰色)	赤色化?	磨耗 丸底	底面 (100%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	面		

表IV-83 LPS-3 出土復原土器観察表(6)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-72	11	42	LPS-3	V1層	1	35	12.25	20.6	4.0	560	口縁～底部	鉢	V群c類
接合破片総点数			55	接合・同一個体破片			LPS-3・V1・3(2)・4(1)・5(10)・(5)、未注記(2)						
胎土 (混和材)			繊維	無	粒径	中～細粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	L R縄文 無文	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	突起 一か所	口唇部 (80%)								
	L R燃焼跡み 指頭圧痕	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	突起部 (90%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—				
	L R斜行縄文～指志縄文 ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口縁部 (80%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)～浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—				
	L R斜行縄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	胴部上半 (100%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—				
	L R斜行縄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	胴部下半～底部 (100%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—				
面	縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	—	磨耗 丸底	底面 (100%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	面		

表IV-84 LPS-3 出土復原土器観察表(7)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-73	12	42	LPS-3	V1層	3	26	11.45	38.7	4.5	1,170	口縁~底部	浅鉢	V群c類 上面観:五角形	
接合破片総点数					50	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			LPS-3・V1・1(5)・2(4)・4(5)・5(9)・1(1)					
胎土 (混和材)		組織	数量	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	最大粒径13mmの 断面線状のチャート			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		内	
	R L縄文 棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/4) ~にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (90%)	—		—	—	—			
	指による整形痕		にぶい黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	一か所 口唇部 ナデ	突起部 A (100%)	指による整形痕 刺交文 ナデ 1段Rによる 内影の圧痕文	灰白色 (10YR8/2)	黒色化	—	—			
	L R縄文 ヨコナデ		灰白色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	二か所 口唇部 棒状工具 刻み 刺交文	突起部 B (100%)	ナデ 刺交文 1段Rによる 内影の圧痕文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	—			
	L R縄文 ヨコナデ		灰黄褐色 (10YR6/2)	—	一か所 M字形 R L縄文 棒状工具 刻み	突起部 C (100%)	ヨコナデ	(褐灰色)	黒色化	—	—			
	L R斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	補修孔 一对	口縁部 (90%)	1段Rの縄文 ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4) ~灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—	—			
	L R斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (90%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4) ~灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化 炭化物付着	—	—			
面	L R斜行縄文		浅黄褐色 (10YR8/4) ~褐色 (7.5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 ~底部 (90%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4) ~灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—	—			
	L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	摩滅 丸底	底面 (90%)	ナデ?	(褐灰色)	黒色化	一部剥離	—			

表IV-85 LPS-4 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
IV-74	13	43	LPS-4	V1層	4	67	(34.2)	33.0	—	2,430	口縁~ 胴部下位	深鉢	V群c類	
接合破片総点数					145	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			LPS-4・V1・1(27)・2(2)・3(8)・5(10)・6(17)・1(2)、 2(5)・3(1)・V1(1)					
胎土 (混和材)		組織	数量	粒径	中~粗粒	種類	岩石主体	量	中量	備考	亜角礫状白色の火山岩片?			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		内	
	R L縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	口唇部 (70%)	—		—	—	—			
	R L斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (60%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	—			
	R L斜行縄文 ~縦走縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部剥離	胴部上半 (60%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	—			
面	R L縦走縄文 ~斜行縄文		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	赤色化	—	胴部下半 ~底部 (20%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/5)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	—			

表IV-86 LPS-4 出土復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-74	14	42	LPS-4	V1層	6	30	(27.2)	34.0	—	2,200	口縁～胴部下位	深鉢	V群c類
接合破片総点数			103	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(産地)			LPS-4・V1・(29)・2(1)・3(11)・4(7)・5(2)・(8) 26-54・V2(2)、25-56・Ⅲ(3)、26-57・Ⅲ(6)・V1(1)・V2(3)						
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	中粒	種類	岩石主体		量	少～中量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口 唇 部 (40%)							
	平截竹管状工具による刻文 花頭文 R.L.縦走縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剥離	口 縁 部 (40%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
面	R.L.縦走縄文		浅黄褐色 (10YR8/3～6/4)	黒色化 炭化物付着 赤色化? 褐色 (5YR7/6)	一部剥離 補修孔 一対	胴部上位 ～下位 (80～50%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	面		

表IV-87 LPS-5 出土復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
IV-75	15	42	LPS-5	V1層	6	65	(26.6)	28.6	4.0	1,990	口縁～胴部下位	深鉢	V群c類
接合破片総点数			102	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(産地)			LPS-5・V1・3(2)・4(1)・5(2)・7(1)・8(1)・9(6)・10(1) 24-60・Ⅲ・(14)、26-50・V2・(1)、27-50・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	微量	粒径	中粒	種類	岩石主体		量	少～中粒	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	R.L.縄文 棒状工具刻み		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	口 唇 部 (90%)							
	R.L.斜行縄文 平截竹管状工具 による刻文		にぶい黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離 補修孔一対	口 縁 部 (90%)	ヨコナデ	(褐灰色)	黒色化 炭化物付着	—			
面	R.L.斜行縄文 一部縦走文 により刻文		にぶい黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (90%)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR5/4)	—	—			
	R.L.斜行縄文 一部縦走文 により刻文		褐色 (7.5YR7/6)	赤色化 褐色 (7.5YR7/6)	一部剥離	胴部下半 ～底部 (20%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—			

表IV-88 LPS-5 出土復原土器観察表(2)

図 番 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)							
						器高	口径	底径											
IV-75	16	43	LPS-5	V1	2	1	(30.5)	26.4	—	2,130	口縁~ 胴部下位	深鉢 V群c類 糸・筋が不整、細長い形状							
接合破片 総点数		136		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			LPS-5・V1・(D)、27-50・Ⅲ・(134)												
胎土 (混和材)		織機		無量		粒徑		中~粗粒		種類		岩石主体		量		中~多量		備考	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部 位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		
	ヨコナデ R.L.無紋列み		にぶい黄褐色 (7.5YR6/4)		黒色化 炭化物付着		—		口 唇 部 (60%)										
	R.L.斜行縄文 ~横走縄文 ヨコナデ		褐色(5YR5/4) ~褐色(10YR5/1)		黒色化? 赤色化?		補修孔 一対・ 一か所 一部剝離 剥離後、 磨耗		口 縁 部 (60%)		ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化 炭化物付着		—		
	R.L.斜行縄文 ~横走縄文 ヨコナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		炭化物付着		大部分剝離 補修孔 一か所		胴部上半 (80%)		ヨコナデ		灰黄褐色 (10YR6/2)		黒色化 炭化物付着		一部剝離		
面	R.L.斜行縄文 ~横走縄文 ヨコナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		炭化物付着		大部分剝離 補修孔 一対		胴部下半 (100%)		ヨコナデ		にぶい黄褐色 (7.5YR6/4)		黒色化 炭化物付着		一部剝離		

表IV-89 LF-15出土復原土器観察表

図 番 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)							
						器高	口径	底径											
IV-75	17	42	LF-15	V1層	2	14	9.7	(20.7)	10.2	465	口縁~底部	浅鉢 V群c類							
接合破片 総点数		17		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			20-60・Ⅲ・(3)												
胎土 (混和材)		織機		無		粒徑		中~粗粒		種類		岩石鉱物 ともにあり		量		多量		備考	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部 位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		
	L.R.縄文 棒状工具跡み		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着		—		口 唇 部 (20%)										
	L.R.縄文 洗線文		灰褐色 (10YR6/1)		黒色化 炭化物付着		磨耗		口 縁 部~ 胴部上半 (20%)		ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 炭化物付着		—		
面	L.R・R.L.縄文 R.L.斜行縄文		浅黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 炭化物付着		磨耗 一部剝離		胴部下半 ~底部 (40%)		ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 炭化物付着		—		
	糸(磨耗)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着		磨耗		底 面 (80%)		ナデ		灰褐色)		黒色化 炭化物付着		—		

表IV-90 遺構出土掲載石器等観察表

図	番号	図版	遺構	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	残存形態	備考
							長さ	幅	厚さ				
IV-76	1	43	UH-2 26-63区	BY層 Ⅲ層	26 —	砥石	8.6	9.6	5.8	685	半形	接合 被熱 分割腫	
IV-76	2	43	UH-4	覆土 2層	79	スクレイパー	3.7	4.2	1.2	15.3	完形		
IV-76	3	43	UH-4 UH-2 UH-3	床面 直上 BY層 B2層	377 24 16	すり石	12.0	9.0	4.1	556	半形	接合 分割腫	
IV-76	4	43	UH-4	床面	374	腫	9.5	6.6	3.3	290	完形	被熱	
IV-76	5	43	UH-5	覆土 1層	133	石核	1.5	4.0	1.9	8.8	*		
IV-76	6	43	UH-5	覆土 2層	87	すり石	5.6	7.5	2.7	140	半形	分割腫	
IV-76	7	43	UH-5	覆土 2層	147	すり石	9.6	8.8	3.3	405	半形	分割腫	
IV-76	8	43	UH-7	覆土 3層	42	すり石	8.4	5.0	1.8	121	半形	分割腫	
IV-76	9	43	UH-7	覆土 3層	37	石製品	12.0	8.0	5.3	96.2	完形		

表IV-91 皿階遺構フロアネーション選別物一覧

調査年度	調査区画	遺構名称	調査地点	面積 (㎡)	積層 (層)	用途 (種)	アノマリ (点)	アノマリ		アノマリ		アノマリ		アノマリ 点数(点)	アノマリ 面積(㎡)	焼化材 点数(点)	焼化材 面積(㎡)			
								数	率	数	率	数	率							
平成19年度	1000	26	3J14-1	カヤド土層	110	2	45	*					5	0.70						
		36	3J14-1	カヤド焼土土層	560	1	20	*												
		38	3J14-1	カヤド焼土土層	3,020	11	200	*												
		40	3J14-1	カヤド焼土土層	2,500	4	200	*												
		24	3J14-1	カヤド焼土	4,100	5	270	*						10	2.42					
		37	3J14-1	カヤド焼土層	4,220	0	300	*												
		40	3J14-1	カヤド焼土層	6,000	0	240	*												
		33	3J14-2	カヤド焼土(赤土層)	6,500	0	200	*												
		27	3J14-3	カヤド焼土(赤土層)	13,000	19	1,240	*												
		60	3J14-4	カヤド焼土(赤土層)	4,000	6	500	*												
		53	3J14-4	カヤド焼土(赤土層)	800	2	100	*												
		57	3J14-4	カヤド焼土(赤土層)	1,140	2	140	*												
		54	3J14-4	カヤド焼土(赤土層)	2,100	2	180	*												
		55	3J14-4	カヤド焼土(赤土層)	13,000	18	800	*	1											
		58	3J14-4	カヤド焼土	3,840	0	140	*												
59	3J14-4	カヤド焼土	740	1	70	*														
60	3J14-4	カヤド焼土	1,940	3	200	*														
52	3J14-4	カヤド焼土	20	0	0	*														
51	3J14-4	カヤド焼土	390	1	120	*														
42	3J14-4	カヤド焼土	12,200	22	800	*	58	1	4	1										
46	3J14-5	カヤド焼土	8,800	15	540	*	50													
56	3J14-5	カヤド焼土	3,100	13	3,000	*														
平成20年度	1000	9	3J14-2	カヤド焼土	1,000	2	200	33												
		9	3J14-7	カヤド焼土	900	2	200	38												
		12	3J14-7	カヤド焼土	4,100	11	1,100	27												
		13	3J14-2	カヤド焼土	300	1	80	0												
		1	3J14-8	カヤド焼土	1,700	3	200	11	4											
		2	3J14-8	カヤド焼土	16	0	2	6												
		3	3J14-9	カヤド焼土	3,400	0	340	217												
		4	3J14-9	カヤド焼土	2,000	4	242	29												
		2	3J14-9	カヤド焼土	200	3	21	2												
		5	3J14-9	カヤド焼土	2,500	4	501	18												
		6	3J14-4	カヤド焼土	400	1	4	1												
		1	3J14-11	カヤド焼土	1,700	3	208	108												
				合計	121,848	187	12,072	330	112	1	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0

V章 包含層出土の遺物(Ⅲ層)

1. 概要

平成15(2003)・平成16(2004)年度と平成18(2006)～平成21(2009)年度にわたり行われた、本事業によるキウス5遺跡の調査で出土した遺物点数は20万点を数える(表I-2)。

本報告では、Ⅲ層出土のⅦ群・Ⅵ群土器、Ⅲ・Ⅴ層から出土したⅤ群土器、Ⅲ層出土の石器等を報告する。包含層の遺物について出土のあり方を示すため、一次整理の情報(遺物登録台帳)から出土点数表・出土分布図を作成した。

出土点数表(表V-1・2)

*土器(表V-1)

時期の内訳は、Ⅴ群が21,931点とⅦ群が21,729点と両群とも2万点を超え、Ⅵ群は9点である。未分類・不明土器は各層からの出土点数をすべて示した。

Ⅶ群の層位ごとの点数は、Ⅲ層出土が約19,716点と90%をしめ、住居跡の掘り上げ土(H層)からの出土が1,648点である。Ⅴ・Ⅵ層からの出土が約130点あるが、これはⅣ層が存在しない部分では、Ⅲ層とⅤ層の判別が困難なため、Ⅴ層として取り上げてしまったもので、本来は本群はすべてⅢ層の遺物である。部位や残存状態は、胴部の小破片が8,496点と最も多く、ついで胴部の良好が6,243点、同剥離が3,564点である。

Ⅵ群土器は、Ⅲ層でまとまり(複数部位)でみられたものが接合し復原できた。

Ⅴ群の層位ごとの点数は、Ⅲ層出土が16,008点と約73%をしめ、Ⅴ層出土は5,533点で約25%である。しかし、Ⅴ層で本群の土器集中LPS-1～6が確認されており、Ⅳ層(Ta-c)の上下で出土したこれらは同じ型式(いわゆるタンネットウL式 大洞A・A'並行)と判断するが、主体はⅢ層で後葉のものとする。また、掘り上げ土(H層)からの出土は88点と少ない。部位や残存状態は、胴部の良好が5,808点で最も多く、ついで胴部の小破片が4,810点、同剥離が2,878点、口縁部の良好が約1,333点である。

これらのことから、Ⅶ群はⅢ層から胴部の小破片の出土が最も多く、土器集中UPS-1・2・4～7も復原個体は得られたが、小破片が多い特徴があり(図IV-52～54 表IV-13)、人為的に割られた可能性も考えられる。また、Ⅴ群に比して、掘り上げ土からの出土も多いが、掘り上げ土は、住居の構築に伴い生じるものであり、長期間にわたり集落が営まれたと推測する。

Ⅵ群は1個体が破片化し復原されたもので点数は9点であるが、1個体である。

Ⅴ群は同型式のものが、Ta-cをはさんだ上下の黒色土層から出土し、胴部の良好の破片が最も多い、また、口縁部破片が多いのは個体の多さを示唆するものかもしれない。後述する分布図で明らかのように、Ⅶ群とⅤ群土器の出土地点は東西に分かれ、Ⅴ群は東側部分、縄文時代中期の集落跡の上位から、この地点は同時期の住居跡が密集しこれらの構築に伴い多数の掘り上げ土が生じているが、この層からのⅤ群の出土が少ないのは、中期の住居群がある程度埋没し土層が安定した状況となった後、晩期には竪穴等の遺構が構築されなかったためと推測する。

*石器等(表V-2)

石器等はⅢ層出土のもののみ報告する。総点数は4,145点で、剥片石器群約3,718点(約90%)・礫

石器群111点(約3%)・礫(加工・使用痕のある礫を含む)約306点(約7%)・石製品1点である。定型的な石器で多いものは、剥片石器群は石鏃91点、スクレイパー67点、礫石器では磨製石斧62点、砥石24点である。

これらの多くは縄文時代晩期と考えるが、一部、続縄文文化期・擦文文化期のものもある。

出土分布図(図V-1~42)

*土器(図V-1~24)

「土器総点数」(図V-1)では、概ね調査区全体にみられ、調査区の中央付近から東側は1,000点を越えるグリッドも多くみられる。調査区の南東側の斜面部はⅦ層上面まで削平されているため、点数が少ない。東西方向の30ラインより北側、南北方向の65ラインより東側は、縄文時代中期の竪穴住居跡が密集する場所で、点数が少ないグリッドもあるが、これは遺構が多く包含層が少ないためである。調査区西側部分へと土器は少なくなるが、集中するグリッドもみられる。

群総点数

「V~Ⅶ群土器総点数」(図V-2)は、大きく三つの分布に分けられる。すなわち、調査区の中央付近から東側、南北方向40ライン付近、南北方向27ライン付近である。「Ⅶ群土器総点数」(図V-3)は、調査区中央付近と、南北方向40ラインとその西側の二つの分布に分かれる。「Ⅵ群土器総点数」(図V-10)は中央の三つ、東側の一つのグリッド(32-9区)からの出土で後者は復原できた。「Ⅴ群土器総点数」(図V-5)は調査区の中央付近と東側からの出土である。

また、Ⅶ・Ⅴ群について残存状態ごとの分布図を作成した(図V-6~14)

紡錘車・Ⅴ群土製品

「Ⅶ群紡錘車」(図V-15)は、UH-2・3とUH-11・UN-1が位置する付近から出土している。「Ⅴ群土製品」(図V-16)は散在的にみられ、出土のみられるグリッドは点数も多い。

層位ごと

「Ⅲ層」(図V-17)は概ね調査区全体に出土がみられる。「Ⅴ1層」(図V-18)は調査区の中央付近から西側に多く、「Ⅴ層」(図V-19)は調査区南西部の低位部にかけて多く、「Ⅴ2層」(図V-20)は調査区全体にみられるが、調査区の西側部分と南東側斜面部ではみられない。「Ⅵ層」(図V-21)は概して点数が少ない。「Ⅷ層」(図V-22)は掘り上げ土層で、調査区中央付近より西側部分は、擦文文化期の竪穴住居の掘り上げ土、北東側部分は縄文時代中期の竪穴住居の掘り上げ土で、時期が異なる。「Ⅰ層・Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層・Ⅵ層」(図V-23)は風倒木痕出土のものである。「Ⅰ層(攪乱層)・その他(Ⅳ層)」(図V-24)は、土層が削平されていた調査区の東側部分に多い。

*石器等(図V-25~42)

「石器等総点数」(図V-25)は、調査区の中央付近より東側に多く、比して西側は少ない。また、出土がまったくないグリッドも多数みられる。点数が100を超えるグリッドは19-58区、25-60区、23-61区、18-65区、19-66区、36-66区である。

剥片石器群・石製品

「石鏃」(図V-26)は、調査区中央付近から東側と西側に散在的な出土である。「石槍・ナイフ」(図V-27)は、調査区中央付近から東側で出土した。「両面調整石器」(図V-28)・「石錐」(図V-29)は、調査区中央付近から東側、低位部近くの出土である。「つまみ付きナイフ」(図V-30)は調査区中央付近で3点、西側で1点である。「スクレイパー」(図V-31)は調査区中央付近に多く、一部は斜面部に集中する。「U・Rフレイク」(図V-32)は調査区中央付近から東側部分の出土が多い。「石核」(図V-33)は調査区中央付近からの出土である。「棒状原石・石製品」(図V-34)は調査区

表V-2 包含層(Ⅲ層)出土石器等点数表

遺物種別 / 層位		数量	
群	器種	残存状態等	数量
削片石器群	旧石器	完形	51
		準完形	25
		半形	4
		片	21
	石槌	完形	1
		準完形	1
		半形	1
	石槌・ナイフ	片	2
		完形	4
		準完形	1
	両面調整石器	半形	1
		片	1
		完形	5
	石皿	完形	3
		準完形	1
		半形	1
	つまみ付きナイフ	片	1
		完形	2
		準完形	2
		半形	2
スクレイパー	片	24	
	完形	6	
	準完形	23	
	半形	14	
U・Rフレイク		78	
石核		12	
フレイク		3,445	
碎状原石		5	
削片石器群合計		3,718	
礫石器群	磨製石斧	完形	3
		準完形	2
		半形	7
		片	30
	たたき石	完形	1
		準完形	1
		半形	4
		片	4
	すり石	完形	1
		準完形	1
		半形	4
		片	30
	砥石	完形	5
		準完形	1
		半形	1
		片	17
台石・石皿	完形	1	
	準完形	1	
	半形	1	
礫石器群合計		111	
礫	加工・使用痕のある礫	完形	1
		片	6
	礫	完形	184
		片	115
礫合計		306	
石製品	玉	完形	1
		準完形	1
		半形	1
	石製品	完形	1
		準完形	1
		半形	0
石製品合計		1	
合計		4,145	

中央付近で散在的で、31-40区の1点は石製品である。「フレイク」(図V-35)は概ね「石器等総点数」と同様である。

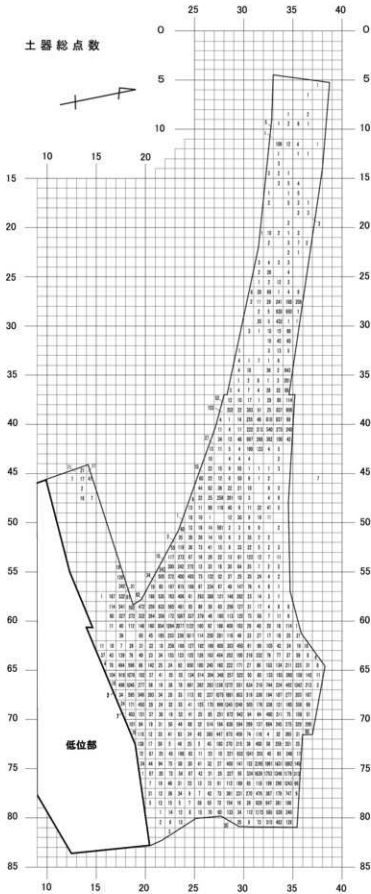
礫石器群

「磨製石斧」(図V-36)・「たたき石」(図V-37)は調査区中央付近から東側部分に多い。「すり石」(図V-38)は33-39区に集中してみられる。「砥石」(図V-39)は調査区中央付近と東側に散在的である。「台石・石皿」(図V-40)は3つのグリッドからの出土である。

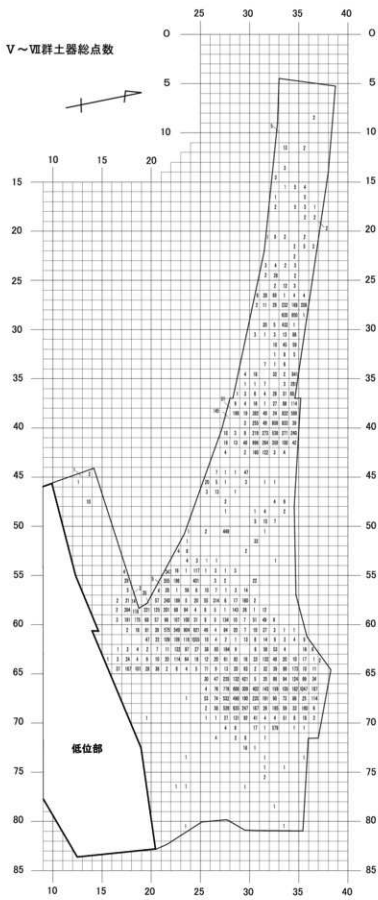
礫

「使用・加工痕のある礫」(図V-41)は調査区東側部分に多い。「礫」(図V-42)は概ね「石器等総点数」と同様である。

(末光 正卓)



図V-1 土器総点数出土分布図



図V-2 V~VII群土器総点数出土分布図

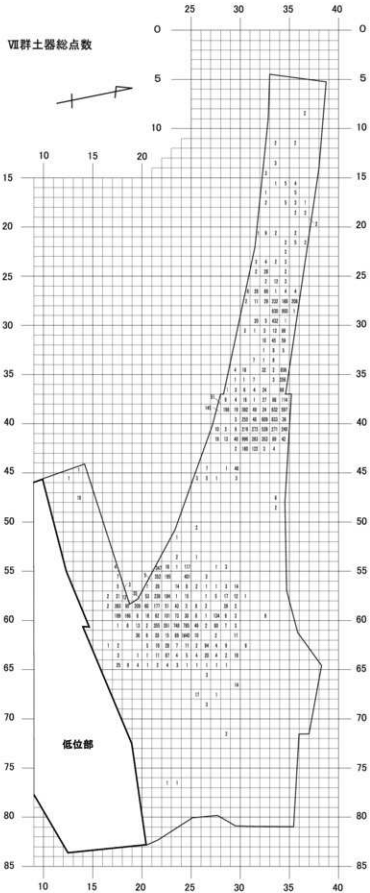


図 V-3 VII群土器総点数出土分布図

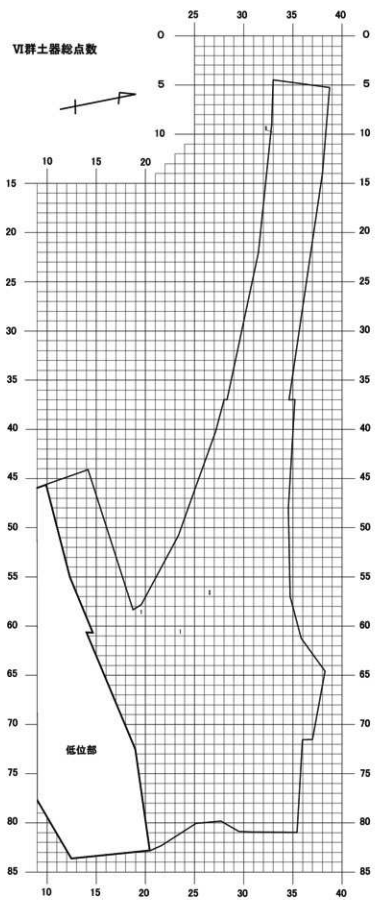
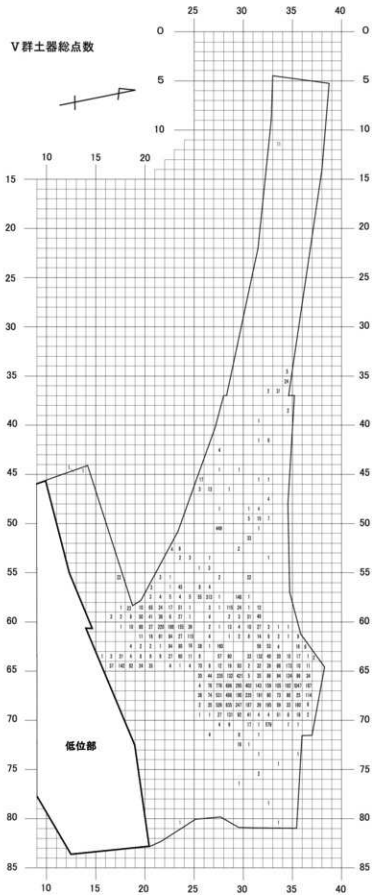
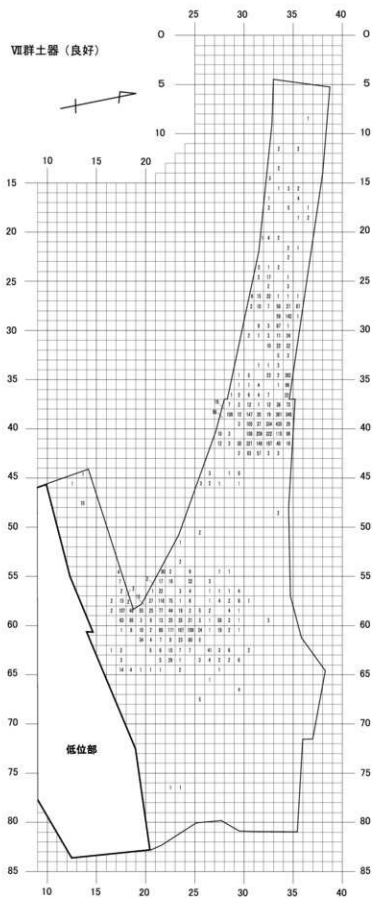


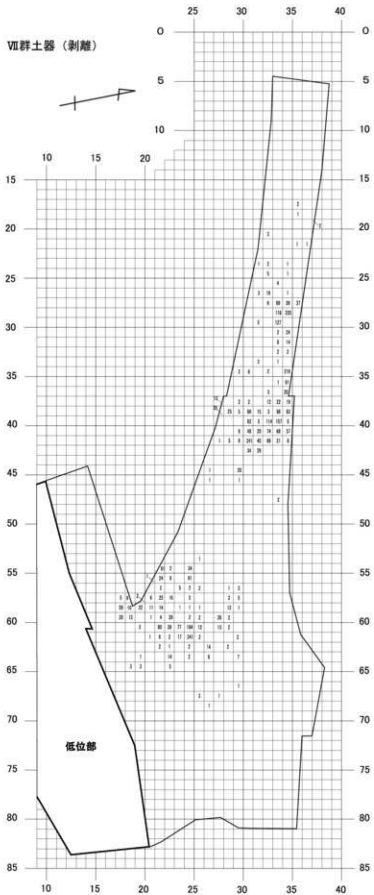
図 V - 4 VI群土器総点数出土分布図



図V-5 V群土器総点数出土分布図



图V-6 VII群土器 (良好) 出土分布图



図V-7 Ⅶ群土器（剥離）出土分布図

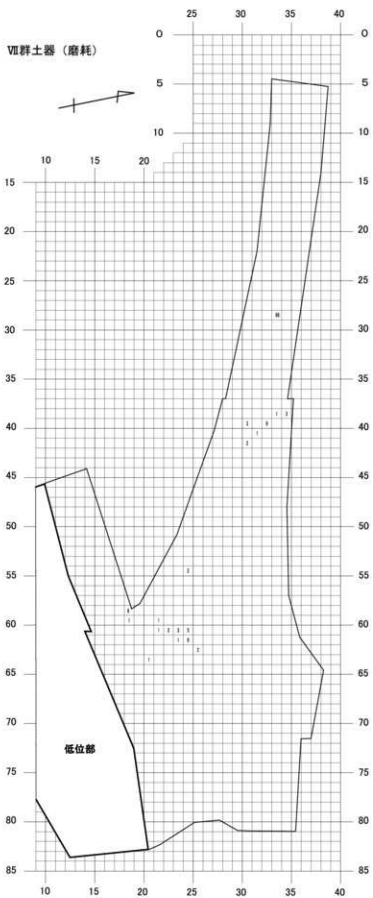
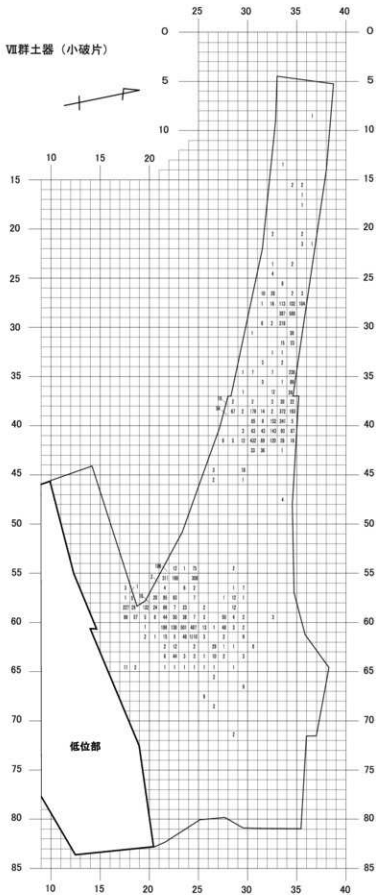
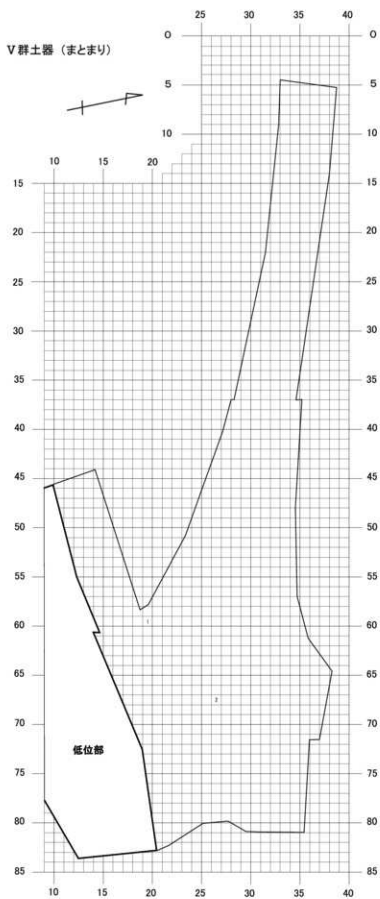


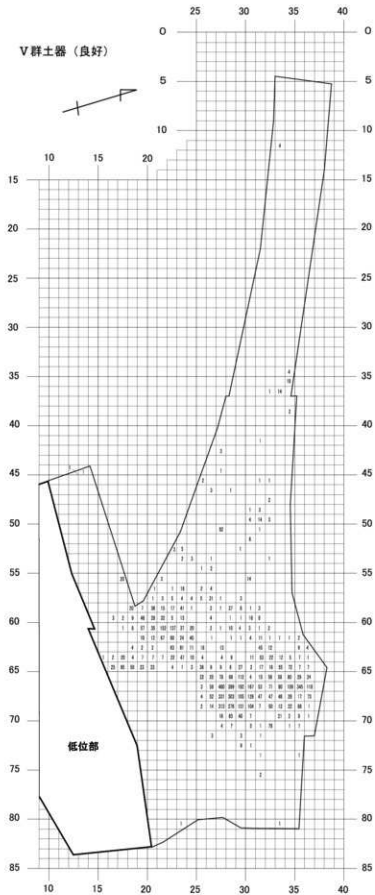
图 V-9 Ⅶ群土器 (磨耗) 出土分布图



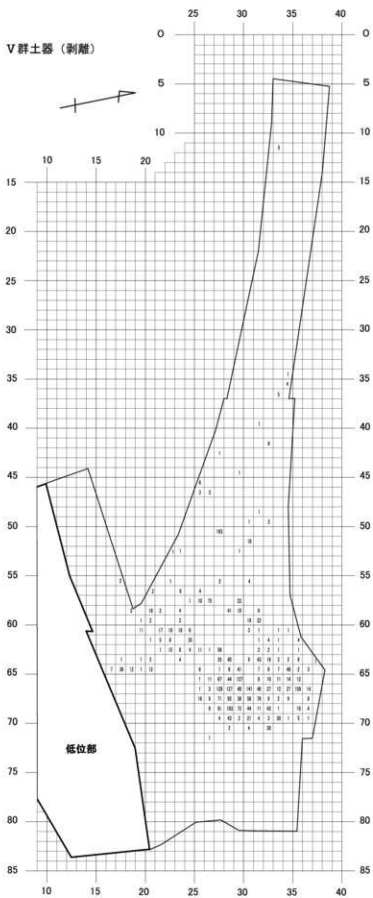
図V-9 Ⅶ群土器 (小破片) 出土分布図



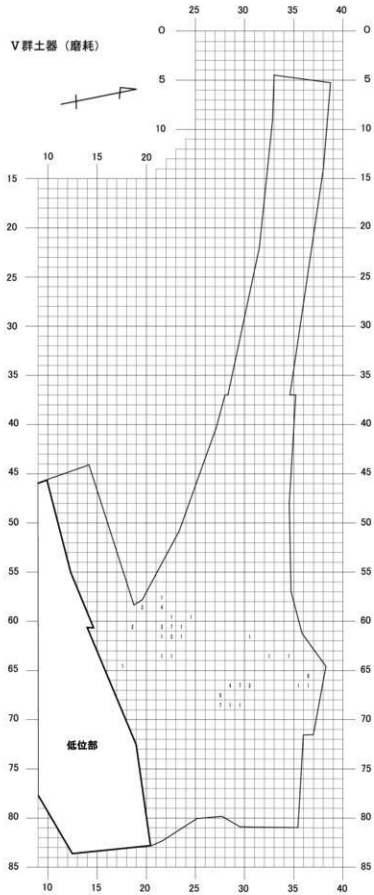
図V-10 V群土器 (まとめり) 出土分布図



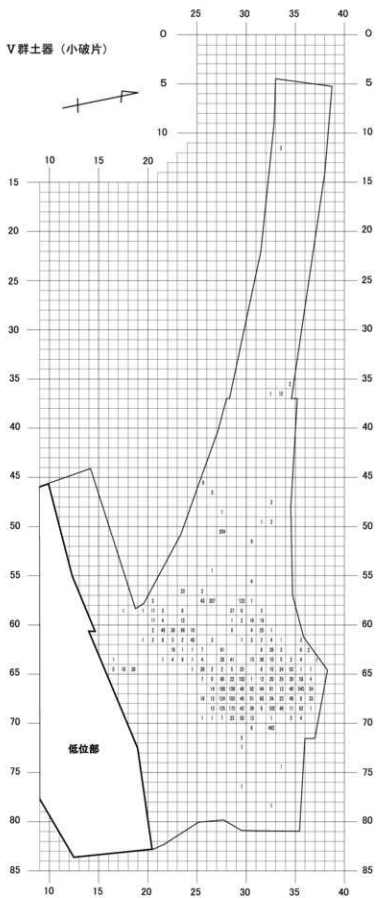
図V-11 V群土器 (良好) 出土分布図



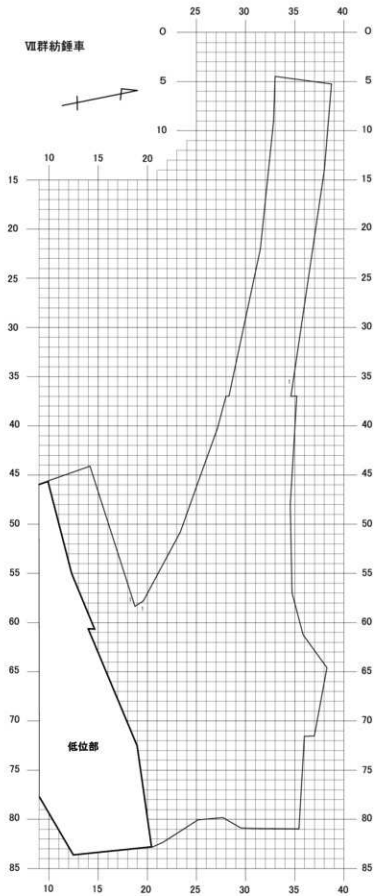
図V-12 V群土器（剥離）出土分布図



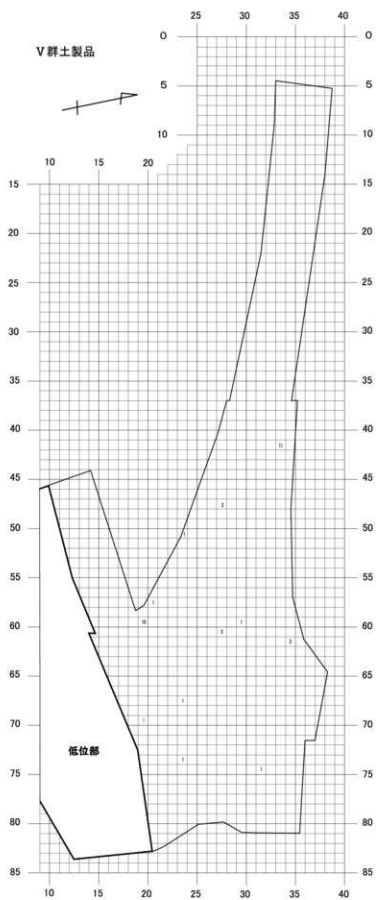
図V-13 V群土器 (磨耗) 出土分布図



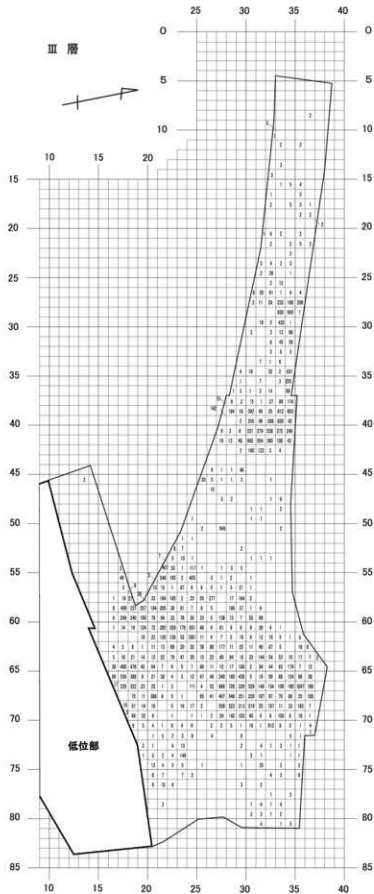
图V-14 V群土器 (小破片) 出土分布图



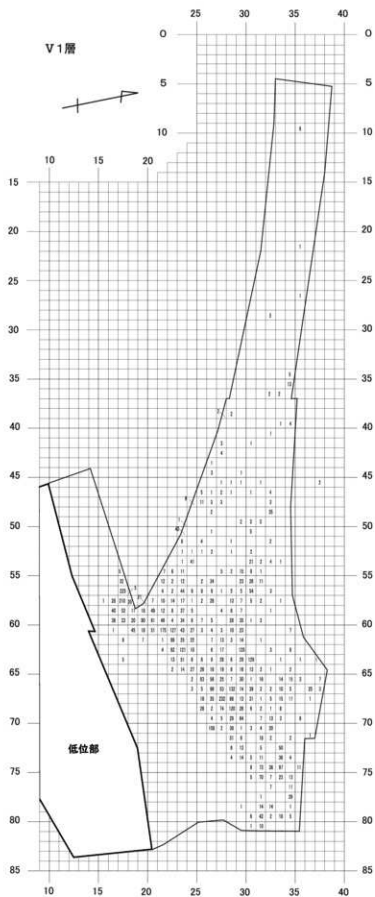
図V-15 Ⅶ群紡錘車出土分布図



图V-16 V群土製品出土分布图



図V-17 III層土器出土分布図



图V-18 V1層土器出土分布图

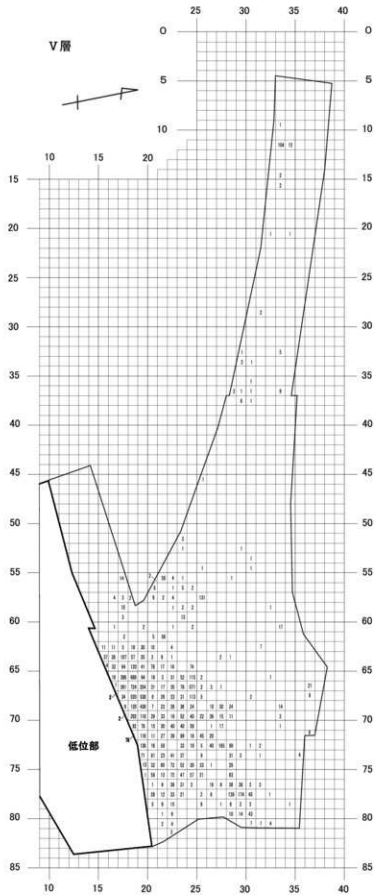
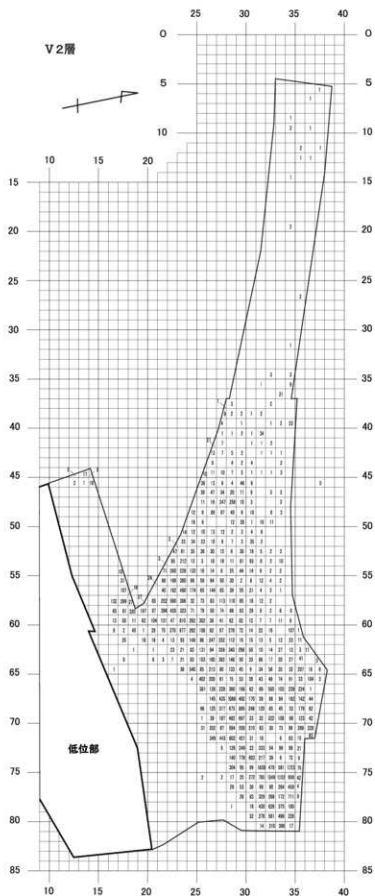
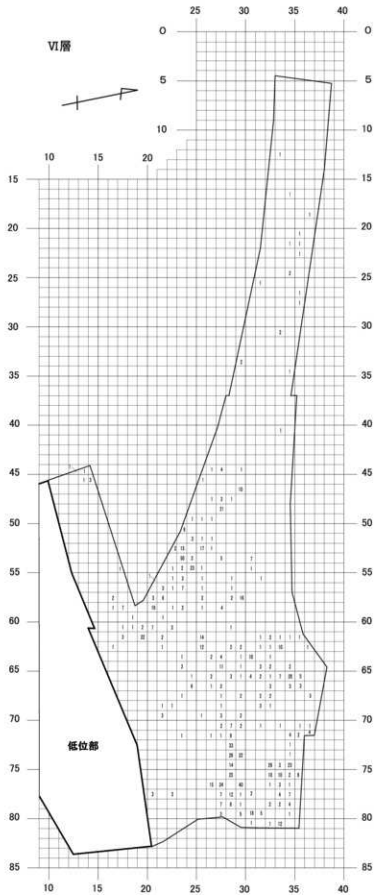


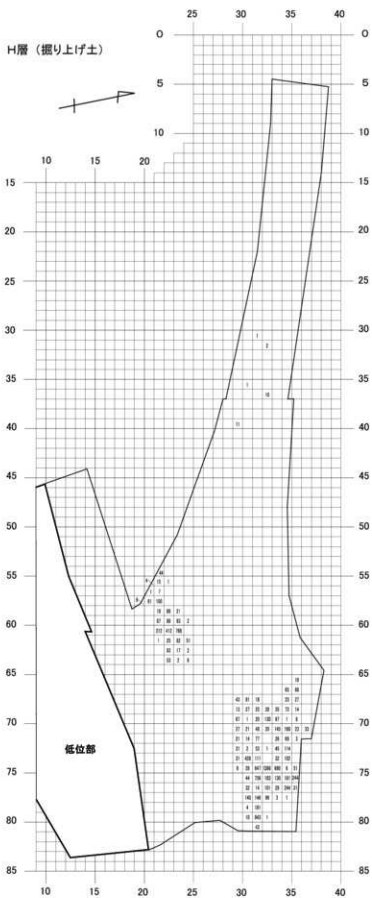
図 V-19 V層土器出土分布図



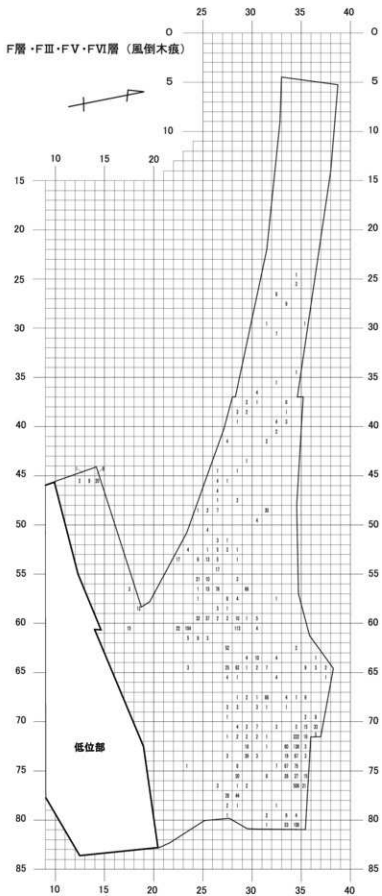
図V-20 V2層土器出土分布図



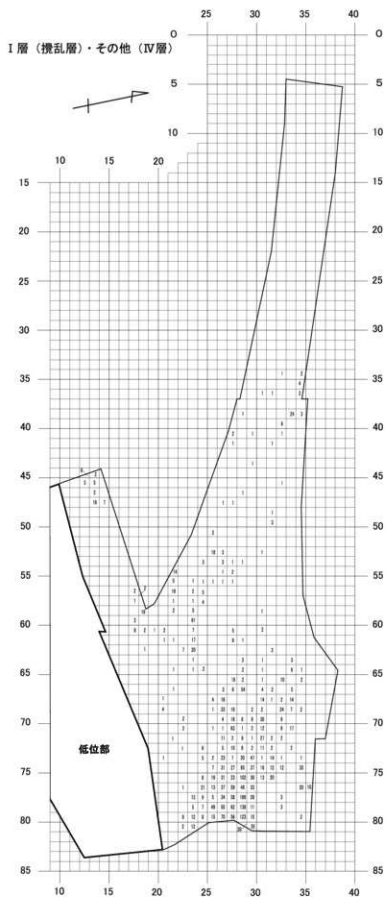
図V-21 VI層土器出土分布図



図V-22 H層（掘り上げ土）土器出土分布図



図V-23 F層・FⅢ・FⅤ・FⅥ層(風倒木痕)土器出土分布図



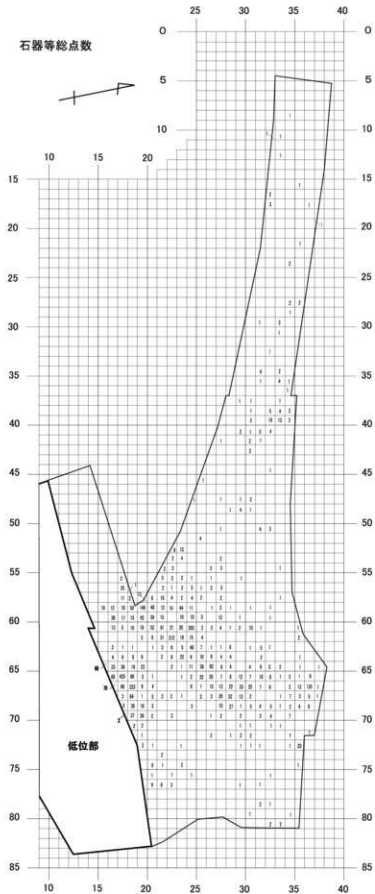


図 V-25 石器等総点数出土分布図

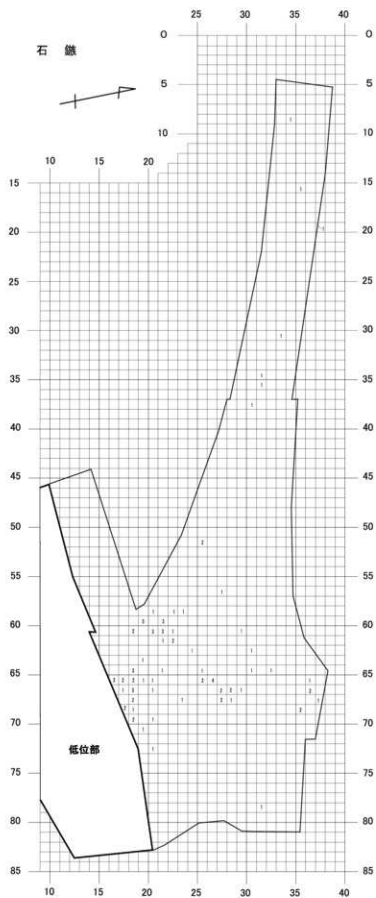
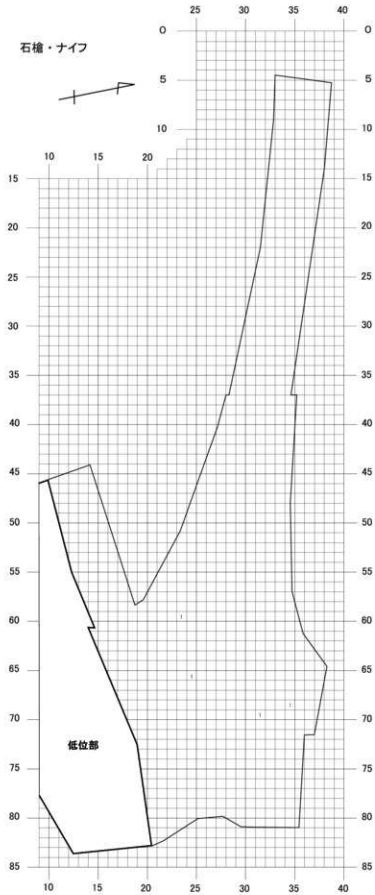


图 V-26 石鐵出土分布图



図V-27 石槍・ナイフ出土分布図

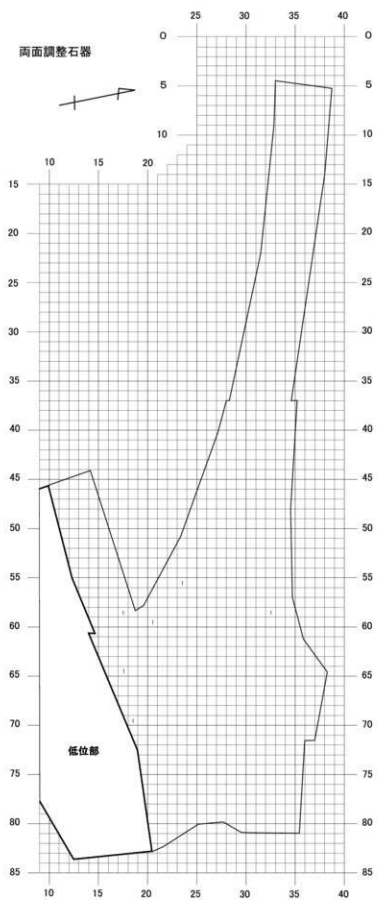
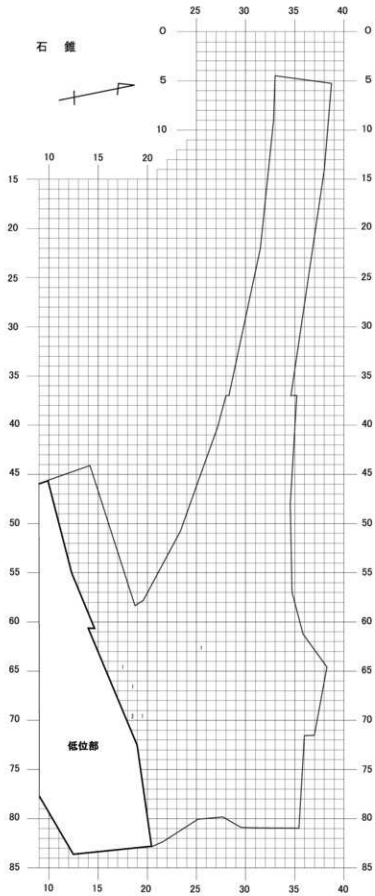
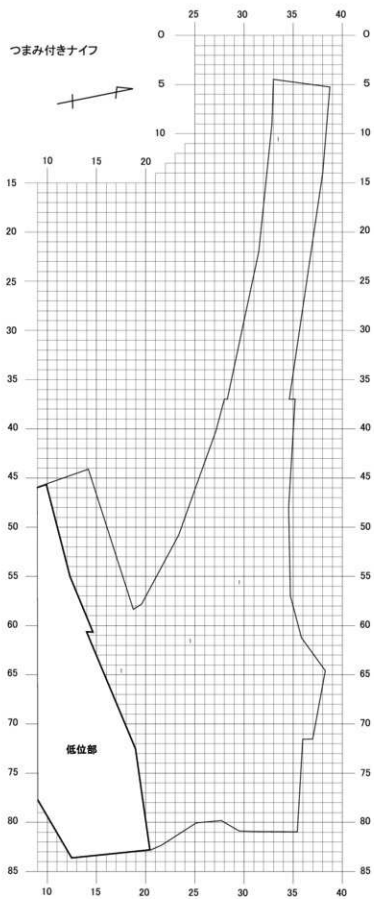


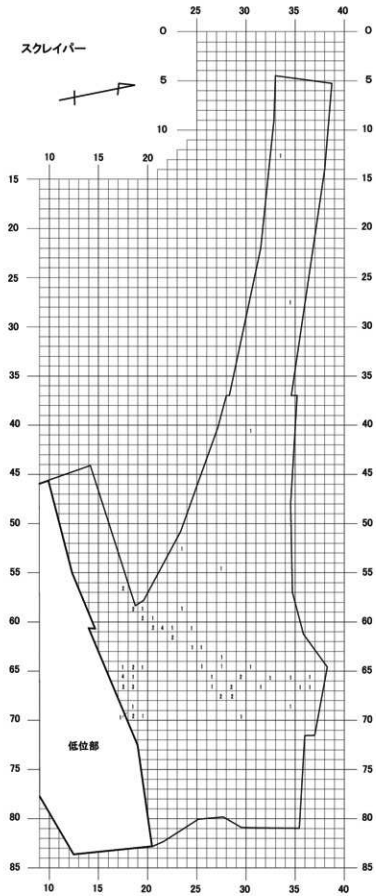
图 V-28 两面调整石器出土分布图



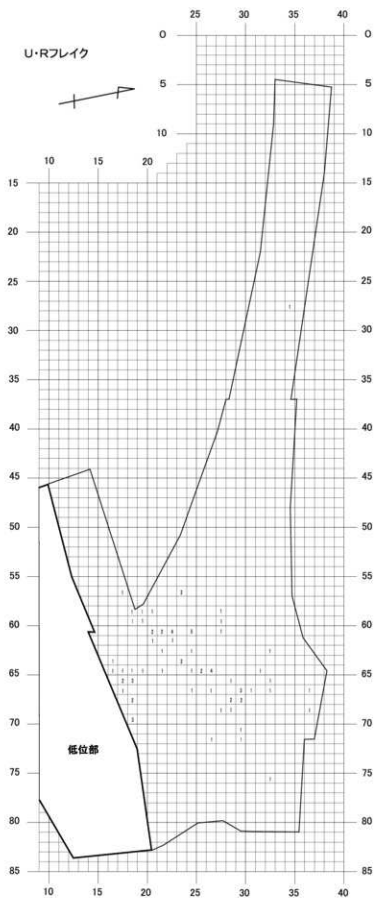
図V-29 石錐出土分布図



図V-30 つまみ付きナイフ出土分布図



図V-31 スクレイパー出土分布図



図V-32 U・Rフレイク出土分布図

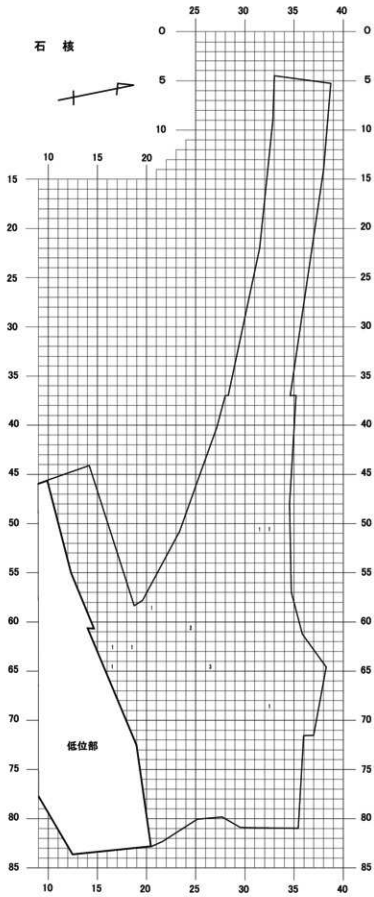


図 V-33 石核出土分布図

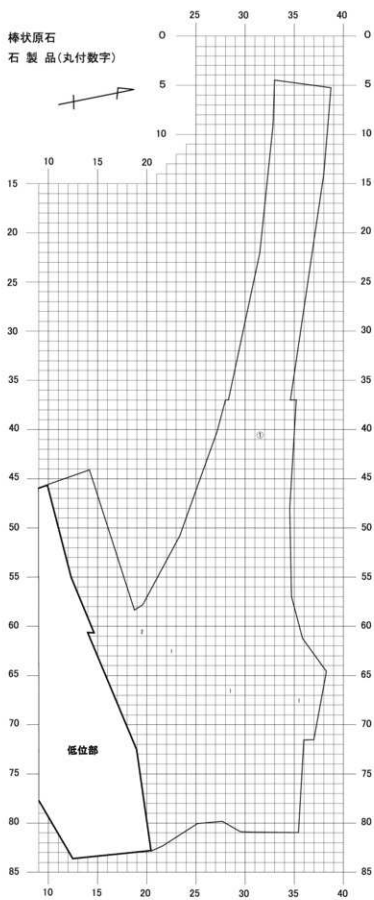
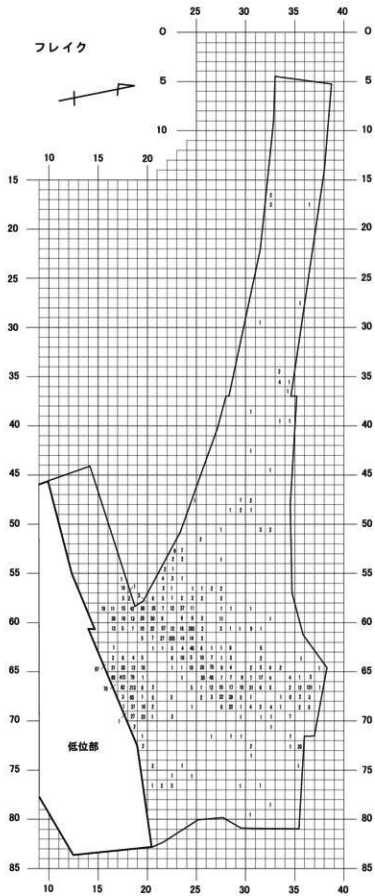


図 V-34 棒状原石・石製品出土分布図



図V-35 フレイク出土分布図

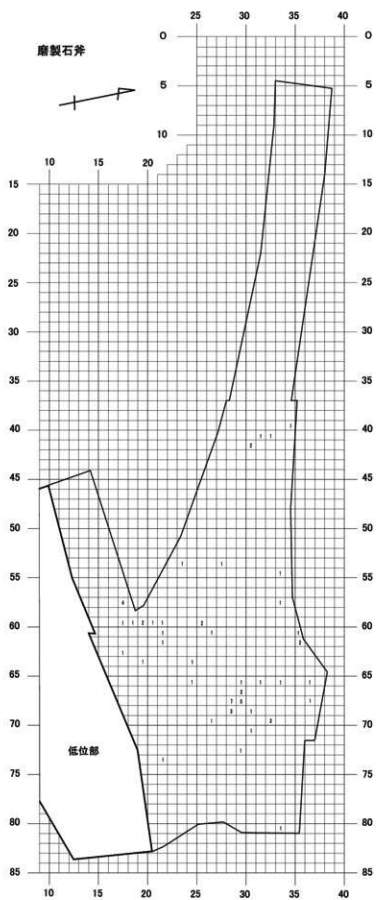
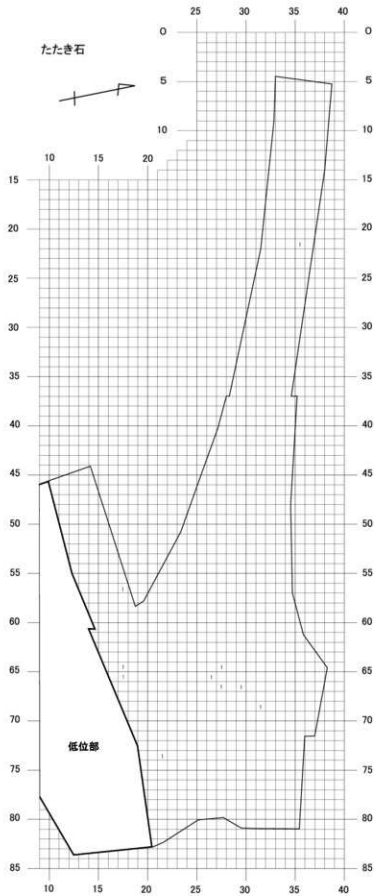
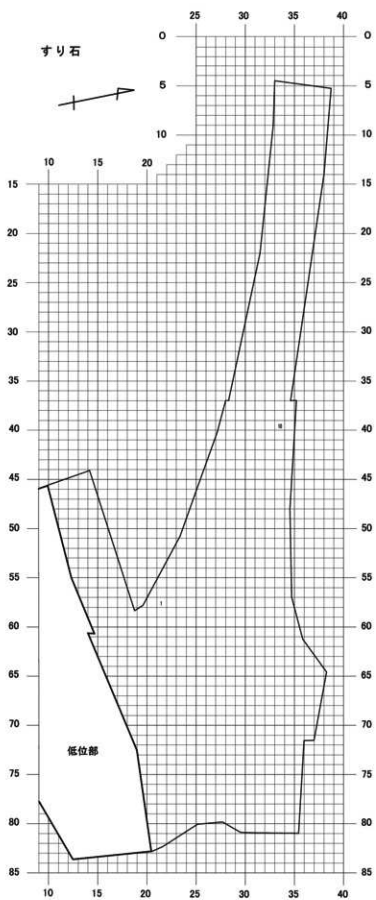


图 V-36 磨製石斧出土分布图



図V-37 たたき石出土分布図



図V-38 すり石出土分布図

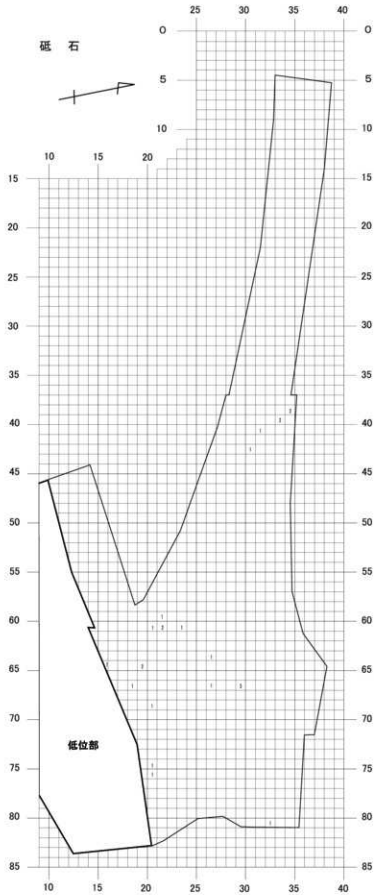
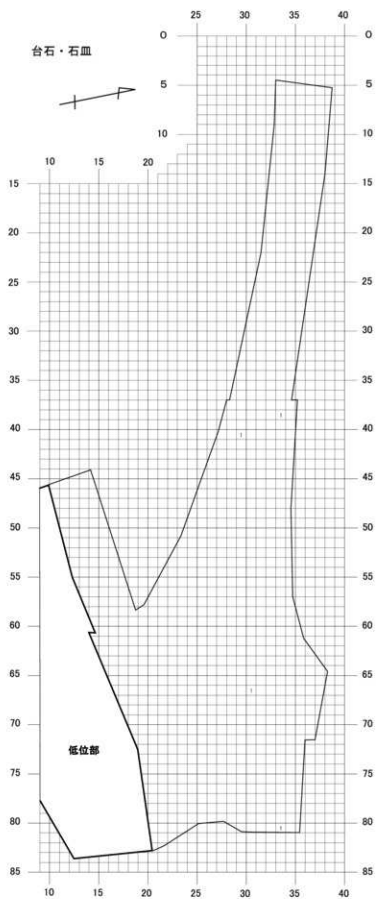


図 V-39 砥石出土分布図



图V-40 台石・石皿出土分布图

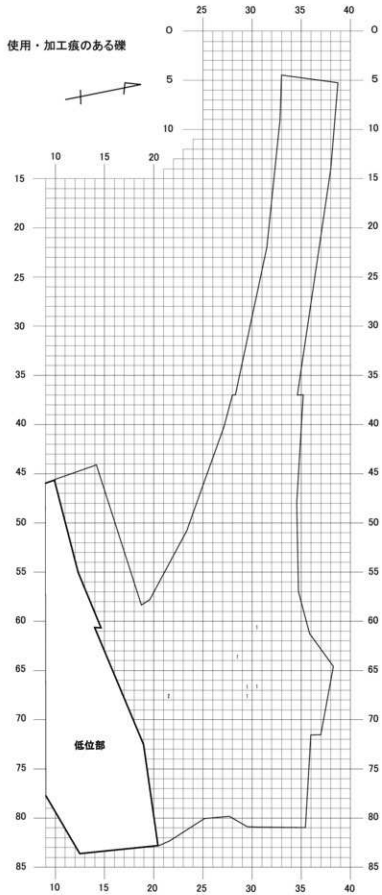


図 V-41 使用・加工痕のある礫出土分布図

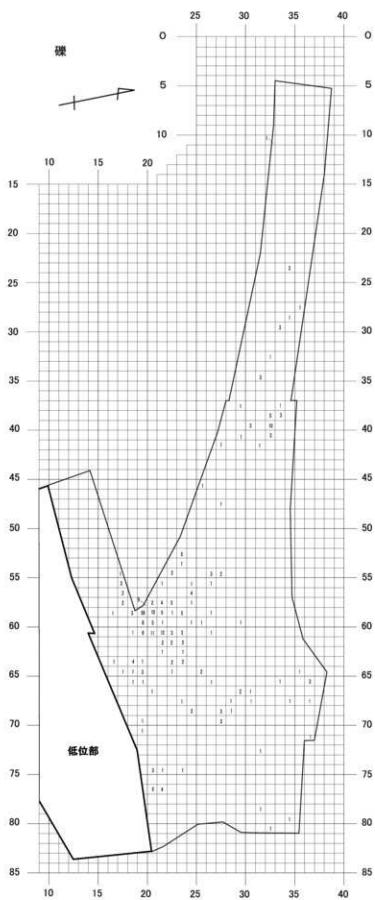


图 V-42 礫出土分布图

2. 土器・土製品

(1) VII群復原土器(図版44~49)

包含層出土のVII群土器は、1,538点が接合し31個体を復原した。

壺：1~15(図V-43・44 表V-3~17)

1は外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部が膨らまず底部へ至る器形で、口縁部と頸部に沈線文が施される。2は外反する口縁部で、口唇部直下の部分は若干直立気味である。胴部は曲線的に底部へつながる。口縁部と頸部にはナデ調整による幅広い沈線文がみられる。3は曲線的に外反する口縁部から頸部ですぼまり胴部も膨らまず底部へ至る。口縁部と頸部には段状の沈線文がみられる。4は直線的に外反する口縁部で、胴部は膨らまずに底部へ至る器形を呈する。口縁部と頸部は沈線文が施され、胴部はミガキで、これによる沈線文状の調整痕が横方向に多数認められる。5は若干広く外反する口縁部、胴部は膨らまない器形で、頸部は沈線文がみられる。6は外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部中位がゆるやかに膨らむ器形で、口縁部と頸部に沈線文が施される。7はゆるやかに外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部が曲線的に膨らむ器形である。頸部には段と沈線文がみられる。8は強く外反する口縁部で、胴部は膨らまない器形である。口縁部から頸部にかけてタテハケがみられ、これを切って頸部に沈線文が施される。9は外反する口縁部と直立気味の胴部の器形で、口縁部はナデによる沈線文、頸部には沈線文が認められる。10は小型で頸部には明瞭な段がみられる。11は小型で外反の弱い口縁部から頸部ですぼまり、胴部が曲線的に膨らむ器形である。口縁部から頸部はヨコナデ、胴部はミガキである。12・13は底部へと直線的にすぼまる器形で、12はハケメとミガキが、13はタテハケが観察される。14は若干直立気味の胴部で、外面の調整はタテハケである。15は底部でタテミガキが観察される。

球胴壺：16~19(図V-45 表V-18~21)

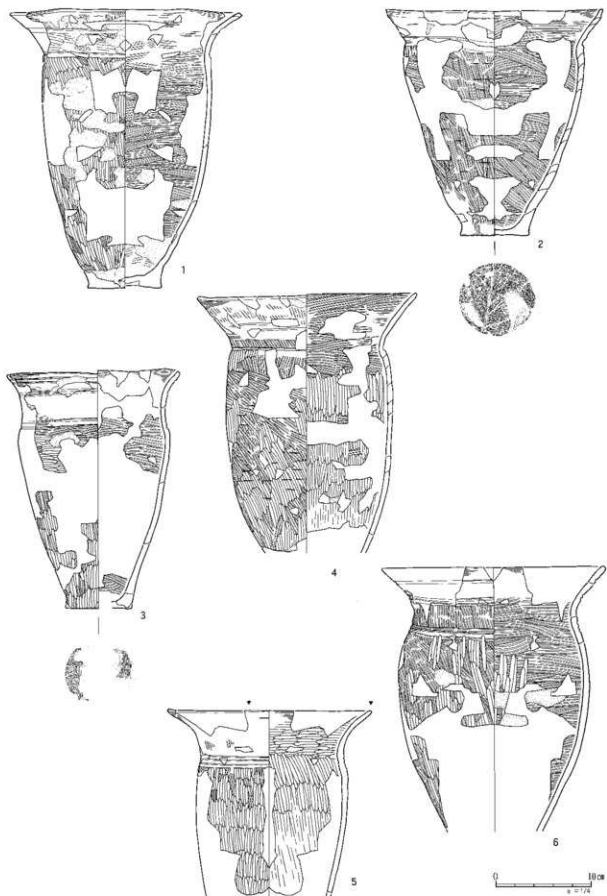
16は弱く外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部が曲線的に大きく膨らむ器形で、頸部には沈線文が施される。17は曲線的に外反する口縁部から頸部ですぼまり、胴部中位付近で最大に膨らむ器形を呈する。口縁部はナデ調整による段と沈線文がみられる。18は大きく外反する口縁部で、頸部がやや直立気味で、胴部上位で最大に膨らむ器形を呈し、口唇部断面は中央がくぼみ、口縁部には段と沈線文、そして指頭圧痕が横位に連続して施される。19は頸部から胴部中位付近で最大に膨らむ器形で、頸部には段と沈線文が観察される。

鉢：20~23(図V-45 表V-22~25)

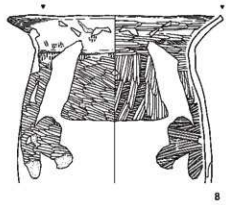
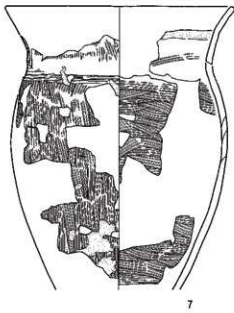
20は直立気味の口縁部で、若干内湾する口縁部から曲線的に底部へ至る器形で、外面はミガキである。21は直立気味の口縁部から概ね垂直に底部へと至る器形で、口唇部は尖り気味である。22は大きく開く口縁部から直線的に底部へとすぼまる器形で、調整はタテミガキである。23はゆるく外反する口縁部から底部へとすぼまる器形を呈し、胴部にはケズリのような広い平坦面を生じる調整がみられる。

杯：24~31(図V-45 表V-26~33)

24は直線的に開口する器形でナデによる沈線文が施され、25の器形は開口する口縁部から段の部分から曲線的に変化する。24・25は他のものに比して器高があり、杯蓋であるかもしれない。

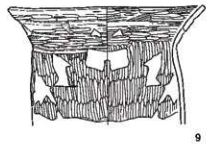


图V-43 包含层出土VII群复原土器(1)



7

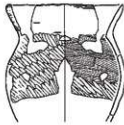
8



9



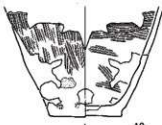
10



11



14



12



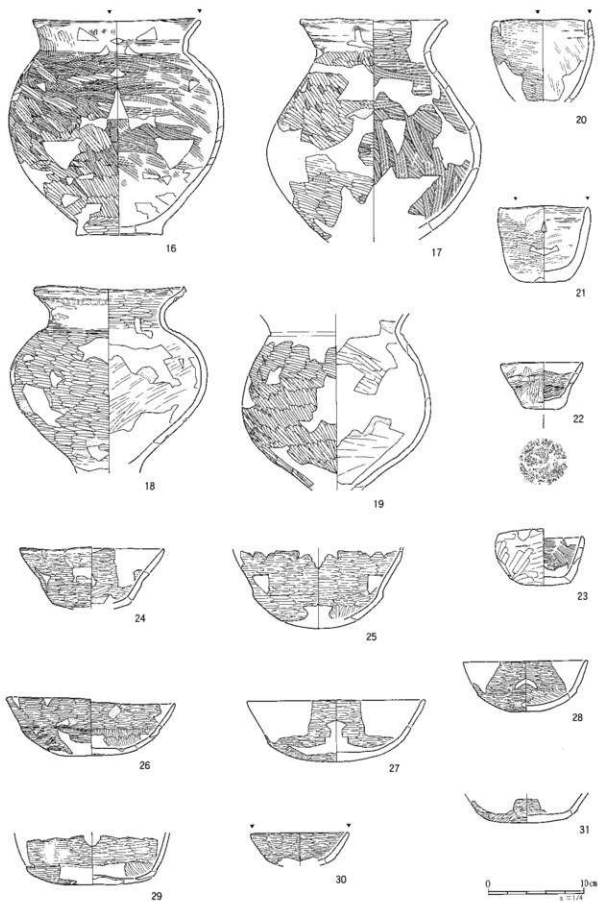
13



15



図V-44 包含層出土Ⅶ群復原土器 (2)



图V-45 包含层出土VII群復原土器(3)

26~31は内黒の坏で、外面はヨコミガキで段あるいは沈線文がみられ、内面の調整は、口縁部付近はヨコミガキ、底部は放射状のミガキである。

1~31はすべて擦文文化期前期のものと判断する。

(2) VII群破片土器・土製品 (図版50・51)

口縁部破片 (図V-46・47 表V-34)

甕：1~16

1は口唇部が尖り気味で、外面にかけて口縁部に段状の沈線文が施される。2は曲線的に外反し、ナデによる段状沈線文がみられる。3は外反する口縁部で、口唇部直下は直立気味のもので、ナデによる幅広い沈線文が観察される。4は口唇部の中央がくぼみ、口縁部に沈線文が施される。5は外反が強い口縁部で、ナデによる段が複数みられる。6はタテハケと沈線文が観察される。7はナデによる沈線文がみられる。8は沈線文状にくぼみ、口唇部から外面にかけて刻みが施される。9は口唇部直下の器面が隆帯により肥厚し、矢羽状の刻みがみられる。10は横方向の調整と沈線文が認められる。11の口縁部はヨコミガキで、沈線文状の調整痕が多数みられ、頸部にはナデによる段がある。12は口縁部から胴部中位で、ヨコナデ、ハケメ、沈線文状の調整痕が観察される。13の外面はヨコナデとヨコミガキである。14の器面調整はタテハケとヨコナデである。15は沈線文状の調整痕が多数認められる。16は口縁部の外反が強く、頸部には明瞭な段がみられる。

球胴甕：17

17の口縁部はハケメで頸部に沈線文が施される。

坏：18~25

18は尖り気味の口唇部と直立気味の口縁部で、ミガキによる段が観察される。19はタテミガキもみられ、小型の甕であるかもしれない。20の調整は内外面ともヨコミガキである。21は開口する口縁部からゆるやかに底部へ至る器形で、ヨコミガキがみられる。22は大きく外反する口縁部で、明瞭な段が観察される。23は大きく外反する口縁部で口唇部は尖り気味、ヨコミガキが施される。24は口唇部断面が尖り、沈線文状にくぼみ部分が認められる。25は内湾する口縁部で、沈線文状の調整痕が多数みられる。

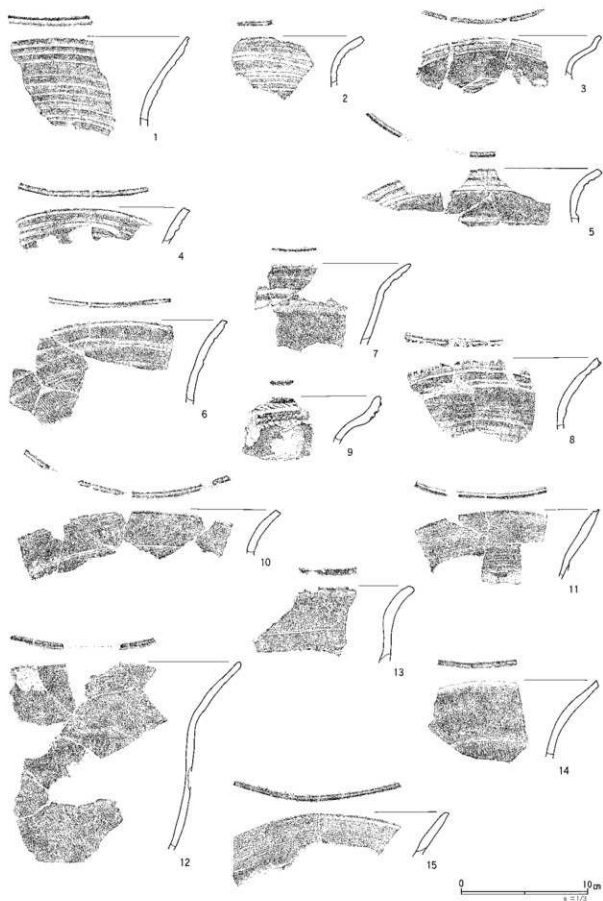
底部破片 (図V-48 表V-34)

甕・球胴甕：26~33

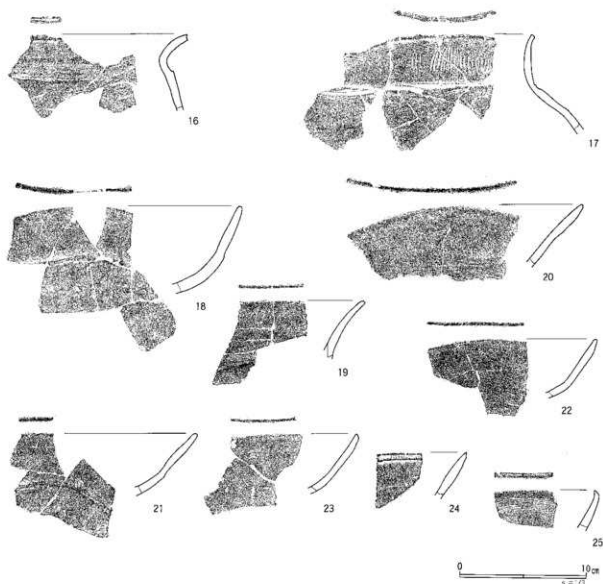
26は直立気味に胴部へ至る器形で、内面には調整に用いた工具のアタリが観察される。27はやや開き気味に胴部へつながる器形で、底外面は磨耗する。28も開き気味に胴部へ至る器形で、底外面には葉脈痕らしき痕跡が観察される。29は底部の外面の張り出しが比較的顕著で、外面はタテミガキである。30は底外面に葉脈痕がみられる。31は、直立気味に胴部へつながる器形で、内面が剥離する。32の外面は縦方向に沈線文状の調整痕が観察される。33は小型のものと判断する。

坏：34~36

いずれも丸底である。34はミガキ調整で内面が剥離する。35の底外面にはハケメとミガキが観察される。36は内外面ともにミガキが施される。



图V-46 包含层出土VII群破片土器(1)



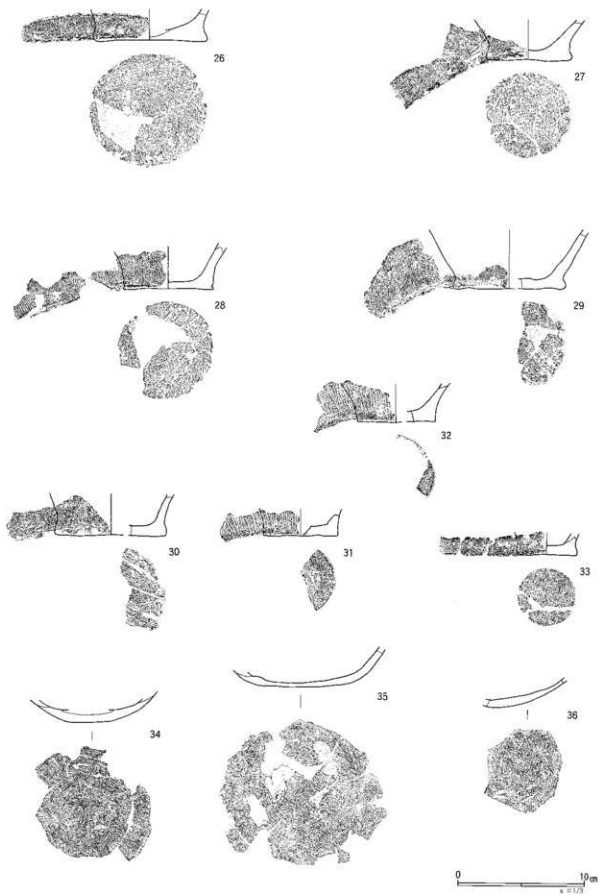
図V-47 包含層出土Ⅶ群破片土器(2)

頭部・胴部破片(図V-49 表V-34)

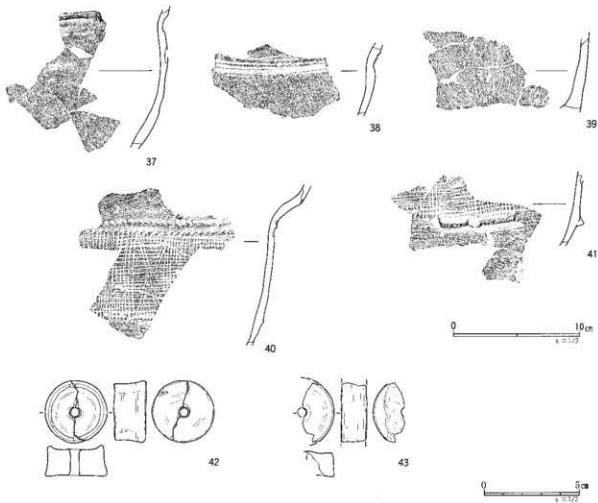
壺・球胴壺: 37~41

37は頭部から胴部下位で、ナデによる沈線文がみられる。38は頭部で、沈線文が複数みられ段状を呈する。39は胴部下位で、ケズリのような広い平坦面が生じる調整がみられる。40は頭部に矢羽状刻み、胴部は縦横斜め方向の沈線文により構成される刻文が施される。41は胴部で、部分的な貼付帯がみられ、指頭圧痕が施される。これより上位部分は、縦横方向の沈線文による刻文、下位部分は、ヨコナデ、ミガキである。

以上の破片土器のうち、8・9・40・41は捺文文化期中期と判断され、それ以外はすべて捺文文化期前期と判断する。



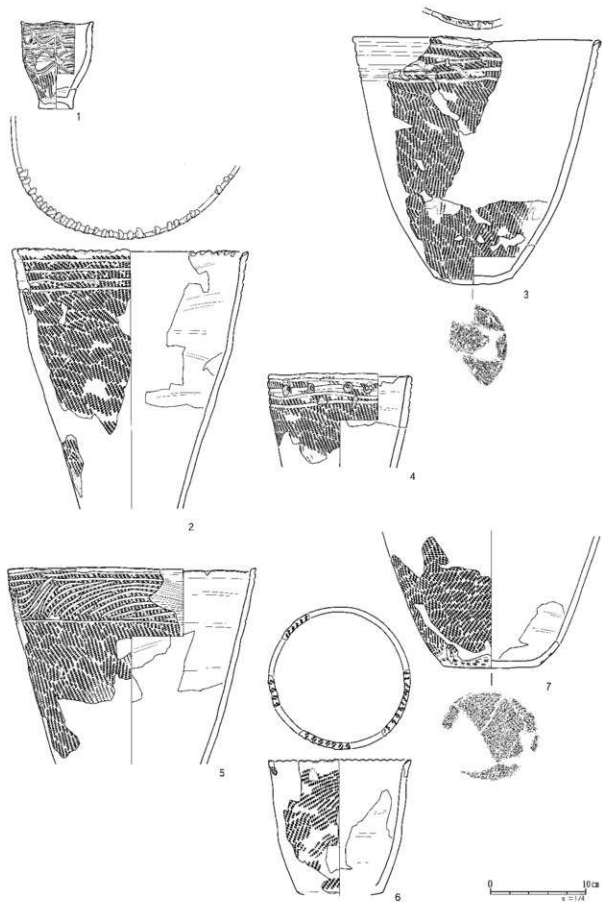
图V-48 包含层出土VII群破片土器(3)



図V-49 包含層出土VII群破片土器(4)・紡錘車

土製品(図V-49 表V-68 図版27・51)

42・43は紡錘車である。42は接合したもので、側面観は中央がくぼむ台形を呈し、43は約1/2が残存する。



图V-50 包含层出土VI群·V群復原土器(1)

(3) VI群復原土器 (図V-50 表V-35 図版52)

1は破片がまとまって出土し復原できた小型の深鉢で、口唇部はゆるやかな小波状で、微隆起線文が、口縁部は横環、胴部は縦横方向と半円状に施される。胴部下位はRLの縦走する縄文がみられる。後北C₁式に相当する。

(4) V群復原土器 (図版52~57)

包含層出土のV群土器は、718点が接合し31個体を復原した。

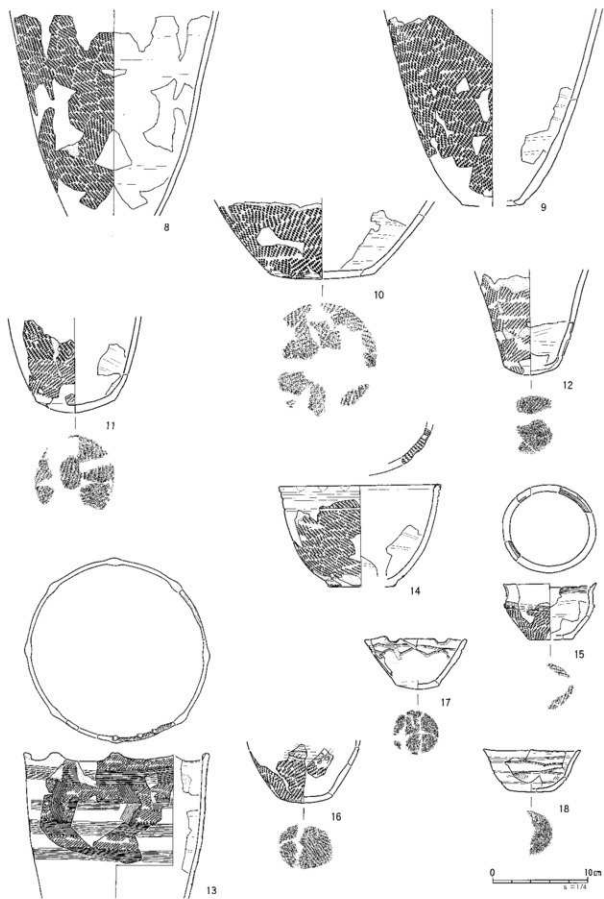
深鉢：2~13 (図V-50・51 表V-36~47)

2は直立気味の口縁部から直線的に底部へすぼまる器形で、口唇部は刻み、外面はRL縄文地に平行沈線文が施される。3はゆるく開口する口縁部から直線的にすぼまる器形で、口唇部は縄文と刻み、外面はRL縄文と平行沈線文がみられる。4は口縁部が直立気味に開口するもので、縄文と平行沈線文、補修孔が二対観察される。5はRL縄文地に横環する沈線文の間に曲線的な沈線文が複数施される。6は口縁部がゆるく開口し、ゆるやかに底部へと至る器形で、LR原体により口唇部に撚紐刻み、外面は斜行縄文が施される。7は胴部と底外面にLR縄文、これらの境に、撚紐による刺突文がみられる。8は胴部から底部へと直線的な器形を呈し、外面にRL縄文が観察される。9は胴部から直線的に底部へすぼまる器形で、LR縄文が施される。10は底部から胴部へとやや広く開口する器形で他のものに比して底部の丸みが弱いものである。11は曲線的な胴部と丸底の器形で、別原体による羽状縄文が観察される。12は直線的に底部へすぼまる器形の小型のもので、LR縄文が観察される。13は八つの小突起を有すると推測され、口縁部から胴部中位付近まで直立気味の器形を呈する。口唇部は刻みと縄文で、口縁部から胴部にかけては、複数組の平行沈線文とこれらを上下方向につなぐ複数の沈線文がみられ、この文様に沿って刺突文が施される。地文はLR縄文の縦位回転と判断する。

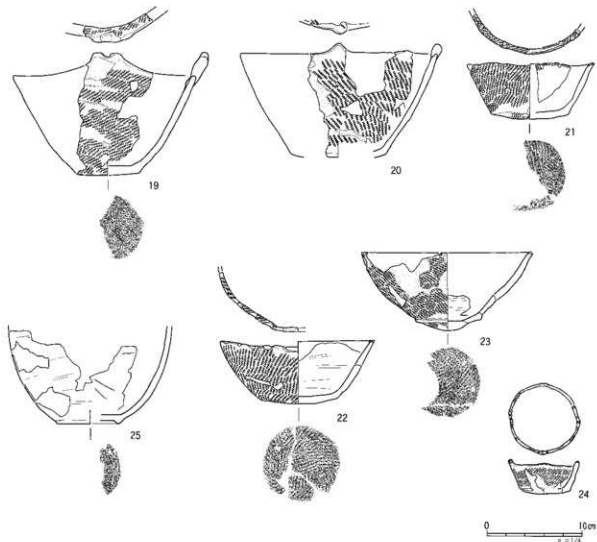
鉢・浅鉢：14~27 (図V-51~53 表V-48~61)

14は直立する口縁部から曲線的に底部へ至る器形で、口唇部は撚紐刻み、外面にかけては棒状工具による刻みが施され、平行沈線文とRL縄文がみられる。15は直立する口縁部の先端が外反し、頸部から底部へすぼまる器形で、口唇部と口縁部は無文である。頸部は隆帯があり、この上に刺突文、上下位置に沈線文が施される。胴部はLR縄文である。16は胴部が曲線的に底部へつながる器形で、LR縄文地に沈線文と、半截竹管状工具による刺突文が施される。17は大きく開口する口縁部から底部へ直線的にすぼまり、無文地に横環する沈線文と山形沈線文がみられる。18は大きく開口する口縁部で、複数の沈線文と部分的にLR原体縦位回転による縄文が観察される。19・20は、大きく開口する口縁部から直線的に底部へすぼまる器形で、19は指頭によるくぼみがみられる突起部を有し、20は突起部が2か所残存し、外面はRL縄文である。

口唇部と外面はRL斜行縄文である。21・22は開口する口縁部から直線的に底部へ至る器形で、他のものに比して底部の丸みが弱い。21は口唇部から内面にかけて刻みが施される。22は口唇部から外面にかけて刻みがある。23は開口する口縁部から底部へ直線的につながり器形を呈し、底部は粘土を貼付、丸底を強調しているように思える。24は小型で、4か所の突起部を有する。外面にはLR縄文が施される。25は、曲線的に膨らむ胴部で、底部は上げ底である。無文で内外面はナデ調整である。26は開口する口縁部からやや曲線的に底部へ至る器形で、粘土が貼り付けられた大きな突起部を1か所有する。口唇部、外面、底外面はRL縄文で、突起部下位の器面には穿孔が2か所認められる。



图V-51 包含层出土V群復原土器(2)

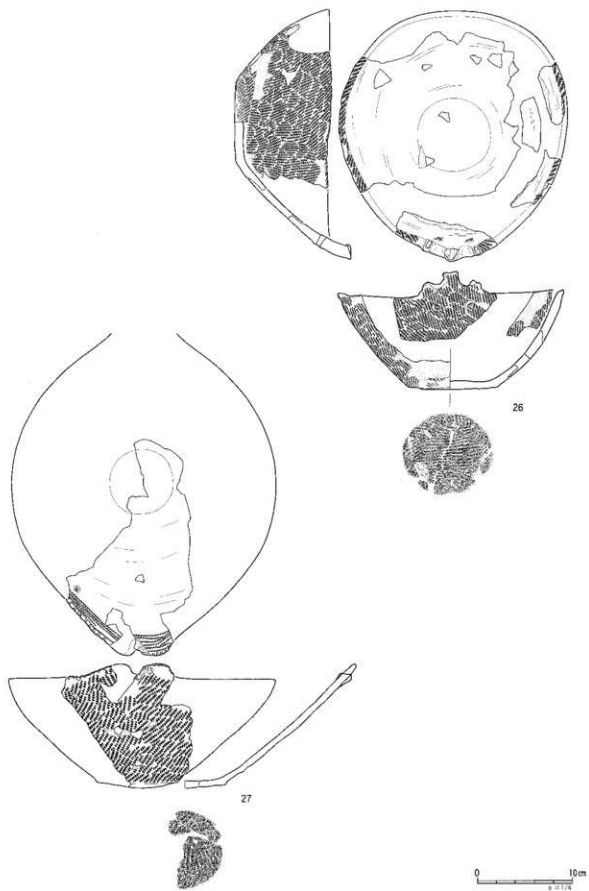


図V-52 包含層出土V群復原土器(3)

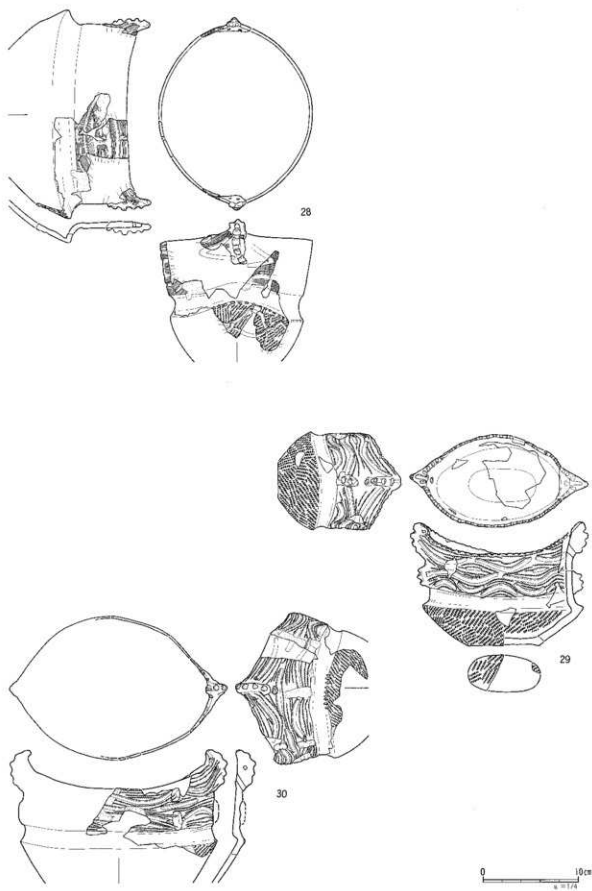
27は上面観が楕円形で、広く開口する口縁部から直線的に底部へ至る器形である。突起部はくぼみを有し二又の形状を呈す。口唇部直下の内面には1段Rの縄線文が複数施される。

舟形：28～30 (図V-54 表V-62～64)

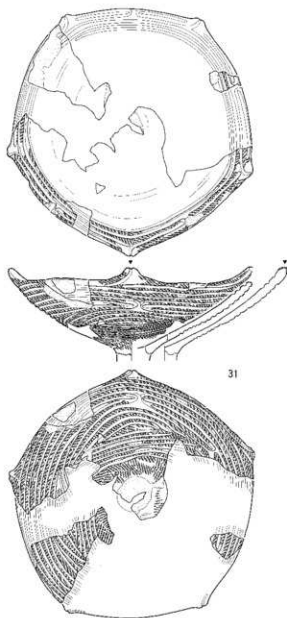
28は長軸側に突起部を有し、これに刻みが施された粘土の貼付がある。口縁部は櫛齒状工具による施文で、無文帯を挟み、胴部はLR縄文、沈線文、刺突文がみられる。29は長軸側の突起部直下の外面とその下位に、刻みが施された粘土の貼付が2か所みられる。口縁部は曲線的な沈線文と縄線文がみられ、無文帯を挟み、胴部と底外面はLR縄文である。30は刻みのある突起部に穿孔がみられ、口縁部は沈線文と縄線文が曲線的に施される。無文帯を挟み、胴部は部分的に刺突文とLR縄文が観察される。



图V-53 包含层出土V群復原土器(4)



図V-54 包含層出土V群復原土器 (5)



図V-55 包含層出土V群復原土器(6)

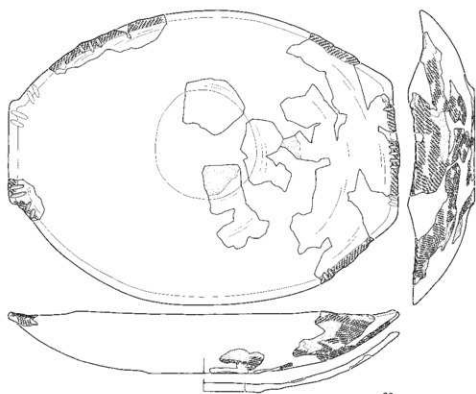
台付浅鉢：31(図V-55 表V-65)

31は上面観が五角形を呈し、大きく開口する口縁部から直線的に底部へ至る器形である。突起部は5か所みられ、口唇部から内外面にかけてRL縄文と沈線文が施される。外面は地文と平行沈線文と曲線的な沈線文により工字文風で、台の部分はない。

皿形：32(図V-56 表V-66)

32は上面観が楕円形様、短軸方向は直線的で、大きく開く口縁部から曲線的に底部へ至る器形である。外面はLR縄文、口唇部は沈線文と縄文が施される。底部は円形に作られている。

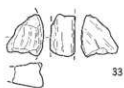
以上2～32はV群c類土器で、縄文時代晩期後半と判断する。



32



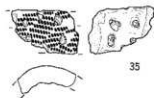
0 10cm
φ = 17.4



33



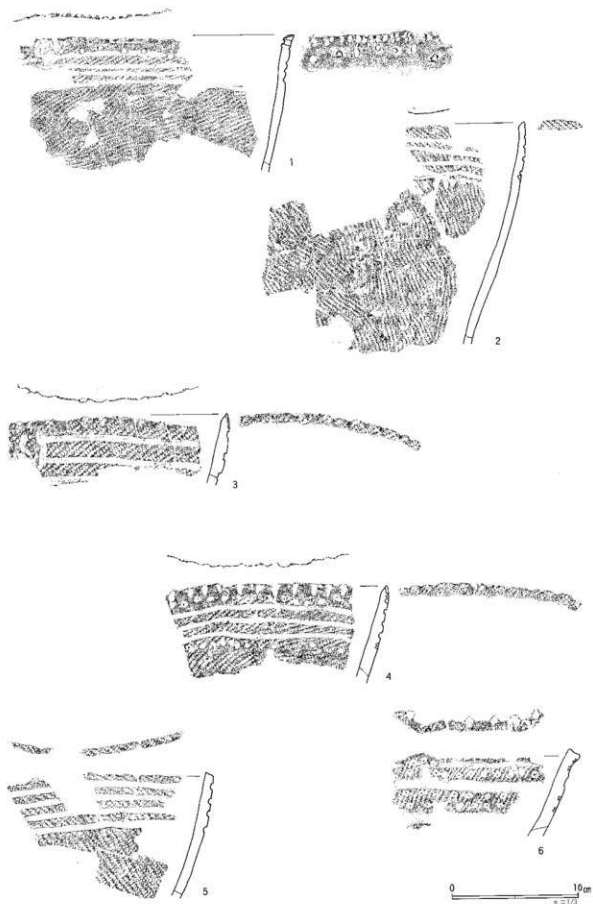
34



35

0 5cm
φ = 17.4

図V-56 包含層出土V群復原土器(7)・V群土製品



图V-57 包含层出土V群破片土器(1)

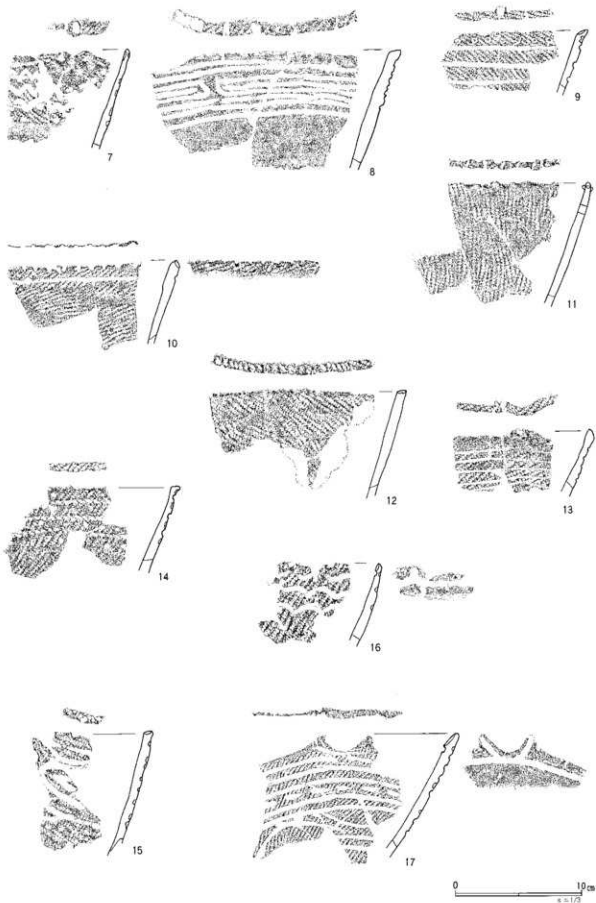
(5) V群破片土器・土製品(図版58~61)

深鉢 口縁部・胴部破片：1~16(図V-57・58 表V-67)

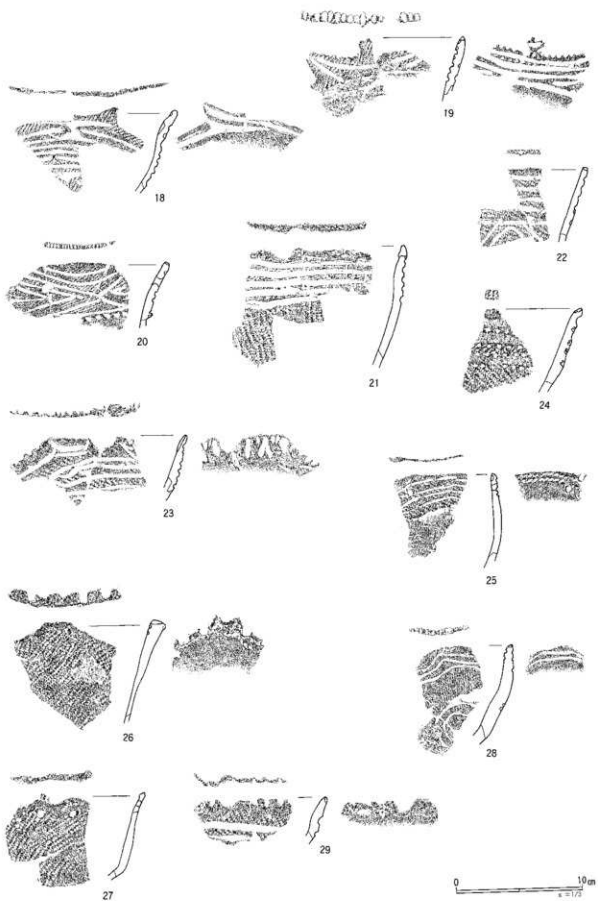
1は内面にかけて撚紐刻みがみられ、外面はLR縄文地に平行沈線文、口唇部直下の器面に、円形の穿孔が連続してみられる。2は口唇部から内面にかけて縄文がみられ、外面は平行沈線文、刺突文、RL縄文が観察される。3は口唇部が尖り、口唇部から外面にかけて撚紐刻みが施される。外面は平行沈線文と垂下する蛇行沈線文がみられる。4の口唇部は内面にかけて縄文、外面にかけて刻みが施され、平行沈線文、円形刺突文、LR縄文がみられる。5は口唇部に縄文、外面はRL縄文地に平行沈線文がみられる。6は口唇部の幅が広く、内面にかけて刻みが施される。外面は、沈線文、ナデによる幅広い沈線文、円形刺突文が観察される。7は小波状の口縁で、RL縄文地に刺突文と山形沈線文が施される。8は口唇部に刻みと縄文がみられ、外面は無文地に工字文風の文様が観察される。9は口唇部に刻みと縄文、外面は地文と平行沈線文、刺突文が施される。10の口唇部は内面にかけて縄文、外面にかけては刻みが施され、地文は横走気味で沈線文が観察される。11は口唇部の刻みにより、口縁部が小波状を呈し、外面の条は縦走する。12は口唇部に縄文と撚紐刻みがみられ、外面はRL縄文である。13は小突起部を有し、外面はLR斜行縄文と沈線文が施される。14は口唇部に縄文、外面はLR縄文地に縄線文と縄端尻痕文が観察される。15は口唇部に刻みと縄文、外面はRL縄文と曲線的な沈線文がみられる。16は口唇部から内面にかけて沈線文がみられ、外面は山形沈線文が複数みられる。

鉢・浅鉢 口縁部破片：17~49(図V-58~62 表V-67)

17の内面に突起部と連続する沈線文がみられ、外面はLR縄文地に沈線文が施される。18は内面から突起部に沈線文がみられ、外面は工字文風の沈線文が施される。19は口唇部に刻み、内面に沈線文と刺突文が施され、外面はLR縄文地に曲線的な沈線文がみられる。20は口唇部に刻み、外面は沈線文と刺突文、LR縄文が施される。21は外面にRL縦走縄文と平行沈線文が観察される。22は口唇部に縄文と刻み、外面はRL縄文地に沈線文が施される。23の口唇部から内面にかけて刻みがみられ、外面は地文と沈線文がみられる。24は口唇部には撚紐刻み、外面はヨコナデと刺突文列が交互に施され、その下部はRL縄文である。25は内面に縄線文、外面は平行沈線文、穿孔、地文が観察される。26は口唇部から内面にかけて刻みで、外面はLR縄文である。27は口縁部から底部の破片で、LR縄文と穿孔がみられる。28は口唇部に刻み、内面には沈線文、外面は地文と沈線文が観察される。29の口唇部は内面にかけて縄文、外面にかけて撚紐刻みが施され、RL縄文地に沈線文がみられる。30はLR縄文地に平行沈線文が施される。31は穿孔がある突起部で、外面に刺突文と沈線文、内面は刺突文がみられる。32は突起部で内面に沈線文、外面はRL縄文地に沈線文がみられる。33の口唇部は無文で、外面はLR縄文である。34の口唇部は指頭尻痕により小波状を呈し、LR縦走縄文が施される。35は口唇部に刻みと縄文、外面はRL縄文が観察される。36は口唇部に刻みが施され、小波状を呈し、外面はLR縦走縄文である。37は口唇部から内面にかけてと外面に、RL縄文が施される。38は口唇部に刻み、外面にLR縄文がみられる。39は二又の突起部で、口唇部から内面にかけて撚紐刻み、外面はLR縄文である。40は口唇部に深くびれがみられ、刻みと縄文が施される。内面には縄線文、外面には地文があり、穿孔は内面から施される。41は穿孔を有する一対の突起部で、外面はLR縄文、口唇部から内面は、刻み、縄線文、円形刺突文が施される。42・44は同一個体で、外面はLR縄文で、内面は刻み、円形刺突文、撚紐刻みがみられる。43の外面はLR縄文で、口唇部は刻み、内面は縄線文が観察される。45は突起部で、外面はLR縄文、内面は刻みと縄線文が施される。46の外面にはR



图V-58 包含层出土V群破片土器(2)



図V-59 包含層出土V群破片土器 (3)

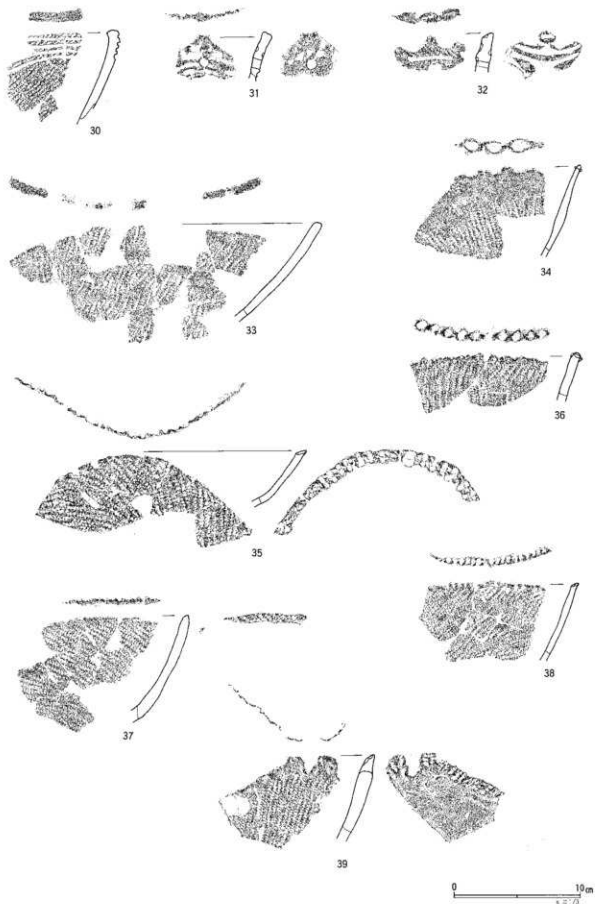
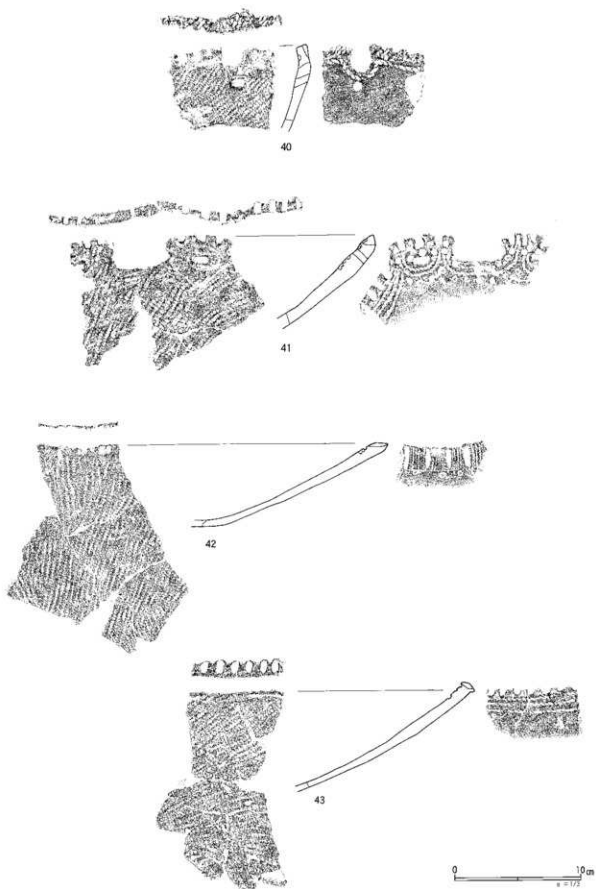
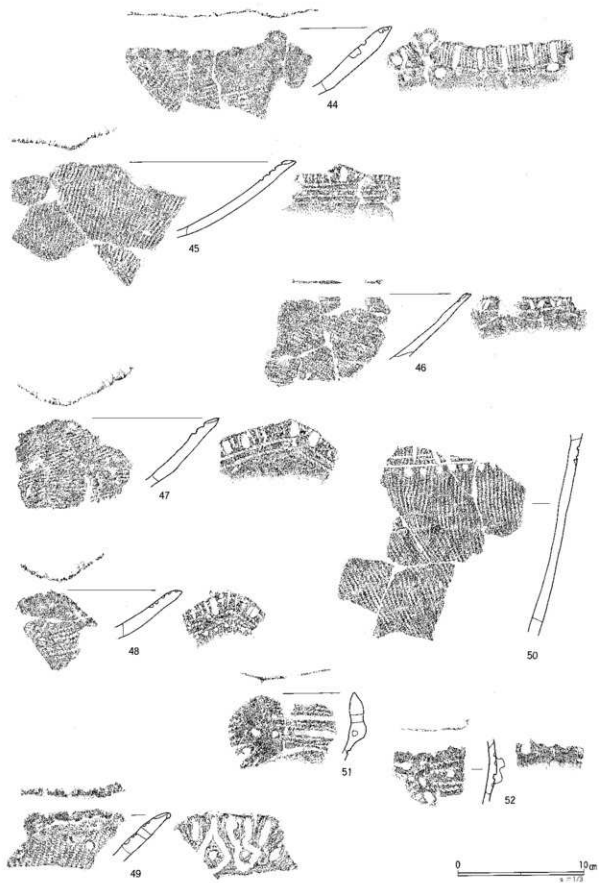


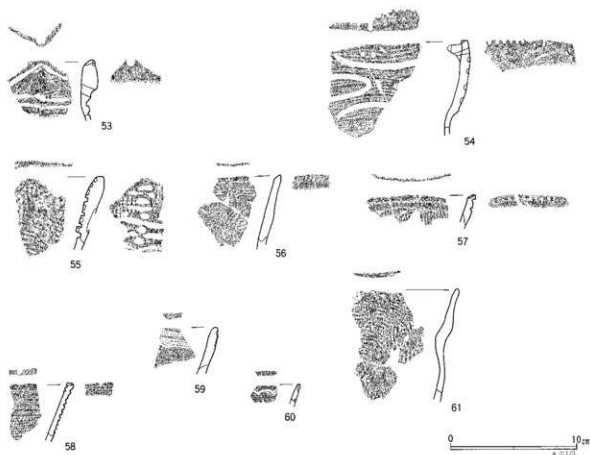
图 V-60 包含层出土 V 群破片土器 (4)



図V-61 包含層出土V群破片土器 (5)



图V-62 包含层出土V群破片土器(6)



図V-63 包含層出土V群破片土器(7)

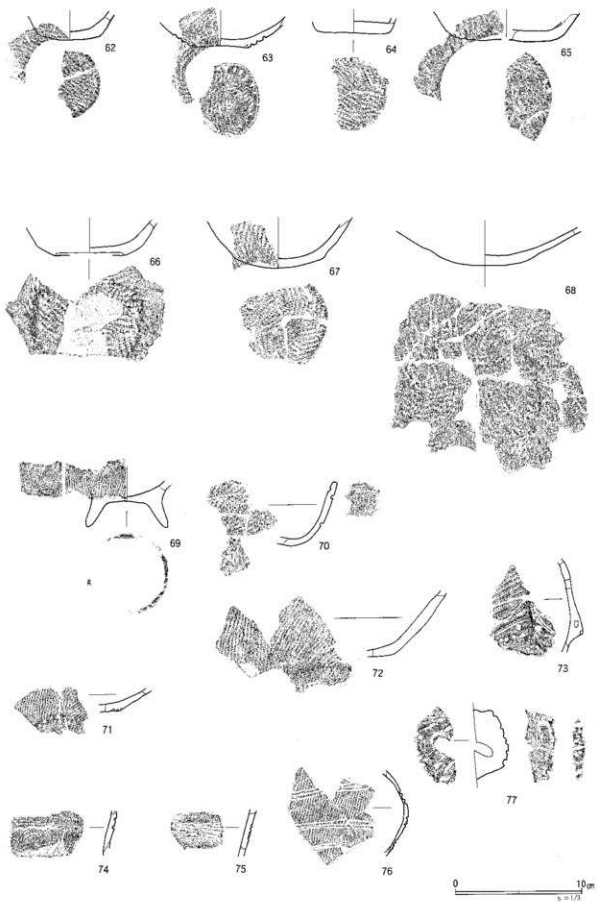
L縄文、内面には刻みと縄線文がみられる。47の外表面は横走気味のRL縄文で、内面は刻み、撚紐刻み、縄線文が施される。48の外表面は縄文であるが、施文されない部分もある。内面は刻み、撚紐刻み、縄線文、刺突文がみられる。49の外表面はLR縄文で、口唇部付近は粘土を貼り付けたようにみえる。内面の沈線文内には赤色顔料が付着する。

舟形 口縁部破片：51～53 (図V-62・63 表V-67)

51は貼付部分に穿孔があり、器面には横方向に沈線文と縄線文が施される。52は貼付部分に刻みがあり、器面には縄線文が観察される。53は突起部で貼付により肥厚し、穿孔、沈線文、LR縄文が観察される。

特殊器形 口縁部破片：54～61 (図V-63 表V-67)

54は口唇部の内面に粘土の貼付がみられ、刻みが施される。外表面は縄線文と曲線的な沈線文である。55は突起部で外表面はRL縄文、内表面は沈線文と刺突文が深く施される。56は口唇部から内面にかけて縄文で、外表面は櫛歯状工具による施文である。57は口唇部から内面にかけて撚紐刻み、外表面はRL縦走縄文とLR縄線文が施される。58の口唇部は縄文で、外表面はR二本組の縄線文が観察される。59は外表面に櫛歯状工具による沈線文がみられる。60は小型と推測され、外表面には櫛歯状工具による施文、沈線文がみられ、赤色顔料が付着する。61は筒形を呈し、外表面は撚りの異なる原体の縄文がみられ、内表面は指頭圧痕による凹凸が著しい。土製品であるかもしれない。



图V-64 包含层出土V群破片土器(8)

深鉢 底部破片；62～67・70・72 (図V-64 表V-67)

62・63は胴部へと大きく開く器形で、62はR L縄文がみられ、63はL R縄文と胴部と底部の境にR縄文が施される。64は直立気味に胴部へ至る器形と推測され、底外面はR L縄文、内面は凹凸がある。65は胴部へと大きく開く器形で、不整な条が観察され原体は不明である。66はR L斜行縄文が施され、底外面が剥離する。67は曲線的に胴部へ開く器形を呈し、R L縄文がみられる。70は小型の鉢で、外面はL R縄文で、内外面に1段の撚紐による縄線文が施される。72は直線的に大きく開いて胴部へ至る器形で、L R縄文が施される。

鉢・浅鉢 底部破片；68・71 (図V-64 表V-67)

68はL R縄文が施され、71は胴部と底部の境に刺突文が施される。

特殊器形 底部破片；69 (図V-64 表V-67)

69は、台付の底部で、胴部下位に縦方向に沈線文状の調整痕が複数みられ、一次整理ではⅦ群に分類したが、拓影図で縄文(R L縦走)が認められたのでV群と判断した。

舟形 胴部破片；73 (図V-64 表V-67)

73は突起部下の部分と考えるもので、穿孔、刺突文、二本組の縄線文が施される。

特殊器形 胴部・貼付部分；74～77 (図V-64 表V-67)

74は外面に波状の沈線文とR縄線文が施される。75は不整で波状の沈線文が重複してみられる。76は小型の壺等と推測するもので、L Rの縦位回転施文と三本組の沈線文が観察される。77は橋状の形態を呈し、貼付部分と判断するもので、刻み・撚紐刻み・沈線文が施される。

以上1～77はV群c類土器で、縄文時代晩期と判断する。

土製品 (図V-56 表V-68 図版58)

33は盤状を呈し、裏面に条がみられる。34は耳栓で、両側縁中央付近がゆるやかにくぼみ、下端部には刺突文が施される。35は環状あるいは筒状を呈すると推測するもので、R L縄文地に穿孔がみられる。

(末光 正卓)

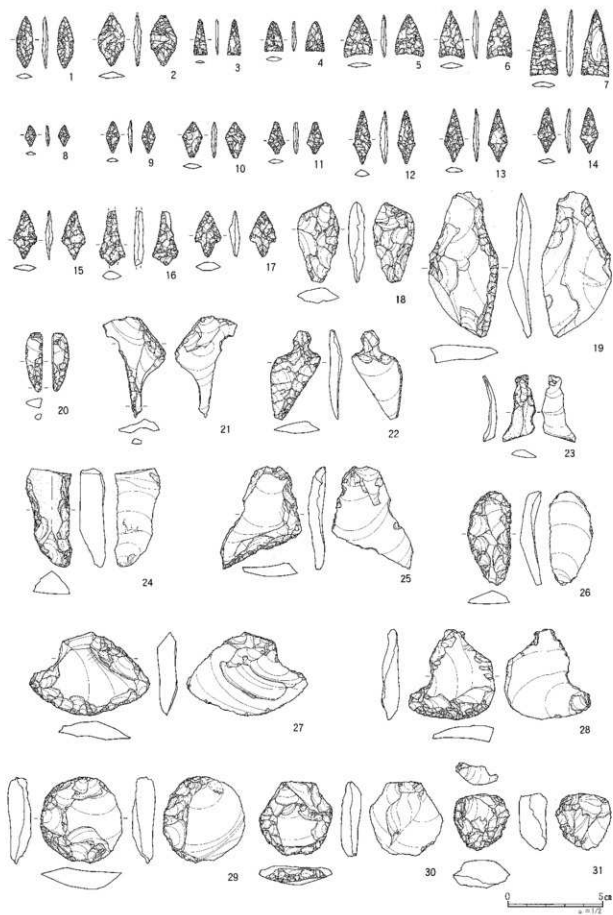


图 V-65 包含层出土石器等 (1)

3. 石器等

(1) 剥片石器 (図V-65・66 表V-69 図版62)

石鏃 (1~17)

石鏃は91点出土した。1点が頁岩製で他はすべて黒曜石製である。残存状態が半形以上の80点の形態の内訳は、柳葉形・木葉形5点(6.3%)、三角形24点(30%)、菱形11点(13.8%)、有茎32点(40%)、未製品と考えたものが9点(11.3%)で、三角形と有茎のものが7割を占める。

1~17点は黒曜石製で、1~2は柳葉形・木葉形で、1は細身に薄く2は幅広である。3~7は三角形で、3は細長い二等辺三角形で、4は先端部側の側縁が若干曲線的である。5・6は基部が明瞭に内湾し、7は腹面に大きな剥離面がみられる。8~10は菱形で、8・9は小型、10は背面の左側縁に原礫面を残す。11~17は有茎で、11は菱形に近い形態で12・13は長身、14・15は背面の左側縁が曲線的である。16は先端と茎部を破損する。17は明瞭な茎部を有する。

石槍・ナイフ (18・19)

4点出土し2点を図示した。掲載していないもの2点は基部の破片である。

18は黒曜石製で、スクレイパーであるかもしれない。19は頁岩製で背面の右側縁に刃部、左側縁は原礫面を残す。

石錐 (20・21)

6点出土し2点を掲載した。他の4点は1点が珪質頁岩製、それ以外は黒曜石製ですべて残存状態が片である。

20はメノウで、断面は三角柱状の形態を呈し、先端部は磨滅する。21は黒曜石製で、長く作出された機能部は先端を破損する。

両面調整石器

5点出土したが、図示したものはない。すべて黒曜石製で、これらは石鏃や石槍・ナイフなどの未製品と推測するものや形態が不明のもの等がある。

つまみ付きナイフ (22・23)

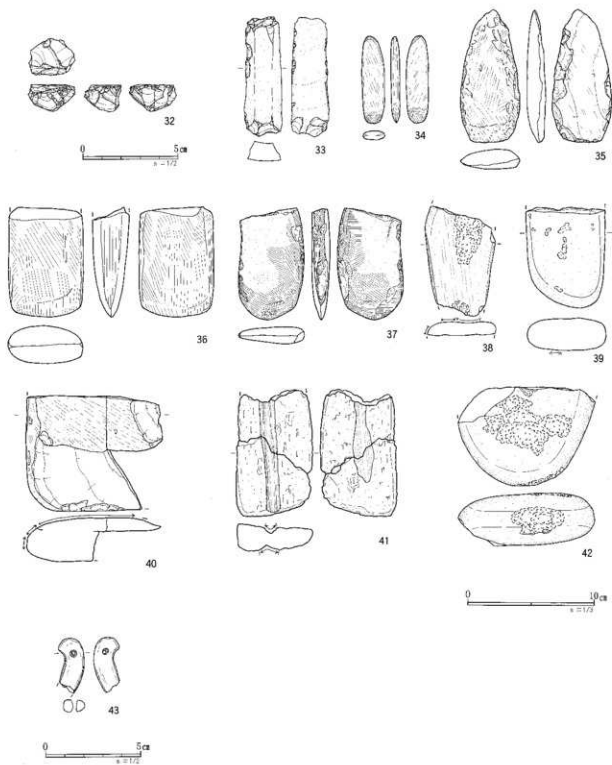
4点出土し2点図示した。珪質頁岩製2点、黒曜石製2点で、掲載していないものは残存状態が片である。

22は頁岩製で、背面は全体的に剥離が施される。23は黒曜石製で、背面両側縁に微細な剥離痕がみられ、右側には原礫面を一部残す。

スクレイパー (24~31)

67点出土し完形のうち、9点図示した。掲載していないものは残存状態が片のもの等である。

24・25は縦長剥片を素材とし、26は背面の全体に調整が施される。27~31はラウンドスクレイパーで、27は背面の上端部とその右側以外に刃部を有し、28は背面下端部に刃部がみられ、使用により不整な形態を呈すると推測する。29は概ね円形を呈し、背腹両面に大きく剥離痕を残す。30は背面全縁に刃部を有するが刃部が直線的な部分もみられる。31は厚みがある。



图V-66 包含层出土石器等(2)

石核 (32)

12点出土し1点図示した。チャート製1点以外はすべて黒曜石製である。2～4cm程度の小型のものが多い。

32は上端が平坦で、側面には複数の剥離痕が観察される。

黒曜石棒状原石 (33)

5点出土し、角柱状素材の側縁に微細剥離がみられる。

33は微細な剥離痕がみられ、上下両端部に調整がみられる。

(2) 礫石器 (図V-66 表V-69)**磨製石斧 (34～37)**

62点出土し多くが残存状態が片で、半形以上は12点、うち完形は2点のみで、4点を図示した。

34は石のみと呼称されるもので、小型の泥岩を素材とするもので刃部のみ加工される。35は緑色泥岩で、剥離痕と研磨痕がみられる。36は刃部で厚みがあり大きな形態のものと推測する。37は素材の形状に手を加えず、下端部に刃部が設けられる。

すり石 (38)

すり石は11点出土し、うち9点はUN-1周辺、33-39区出土の破片である。1点図示した。

38は図示した平坦面に不明瞭なすり痕とたたき痕がみられる。

たたき石 (39)

10点出土し、砂岩や安山岩の扁平礫や円礫等が用いられる。1点図示した。

39は砂岩製で、平坦面にたたき痕がみられる。

砥石 (40・41)

砥石は24点出土し、矢柄研磨器の片4点と他は砂岩製で1～2面の砥面をもつものである。2点図示した。

40は砂岩製で、図示した平坦面と側面一部に平滑な面があり、被熱する。41は矢柄研磨器で素材は軽石である。

台石・石皿 (42)

4点出土し1点図示した。

42は楕円形を呈する礫の表裏両面と下端部にたたき痕がみられる。

(3) 石製品 (図V-66 表V-69)**玉 (43)**

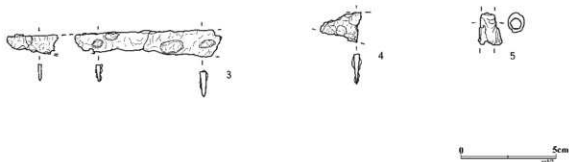
1点出土し図示した。軟質な石材を素材とし、下端部を破損するが勾玉の形状と推測する。石材について岩石学的分析を行い凝灰質珪化岩製との結果を得た(次報告書掲載予定)。

(愛場 和人)

UH-7出土



包含層出土



図V-67 UH-7・包含層出土鉄製品

4. 鉄製品

(1) 遺構出土の鉄製品 (図V-67 表V-70 図版62)

擦文文化期前期の住居跡UH-7から鉄製品が出土した。

刀子

1は区部から茎にかけての刀子破片。なだらかな刃区から細い茎に移行する。柄の材が棟側に銹着して残存しており、それを巻いて固定した痕跡がみられる。

棒状品

2は断面楕円形の細い棒状品の小破片。銹瘤が大きく膨れて、この見かけとなっている。

(2) 包含層出土の鉄製品 (図V-67 表V-71 図版27・62)

刀子

3は、同じグリッドから出土した三片の刀子片で、二片が接合。切先は接合しなかったが、茎部を失った同一個体である。使い減りが著しいが、刃幅から見てやや大振りの刀子である。4は切先近くの小破片。

棒状品

5は断面円形の棒状品の小破片。銹で芯が失われており、外形が筒状に残存している。

これら遺構出土、包含層出土のものすべてが擦文文化期前期と考える。

(三浦 正人)

表V-3 30-42区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-43	1	44	30-42区	Ⅲ層	—	46	31.7	26.3	8.4	1,040	口縁~底部	甕	Ⅶ群			
接合破片総点数			116	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			25-41・Ⅲ・(1)、29-41・Ⅲ・(16)、30-41・Ⅲ・(40)、31-42・Ⅲ・(9)									
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石・鉱物ともあり		量	少量	備考					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内									
	ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/2)	—	—	口唇部(20%)										
	タテハケ ミガネ 沈線文		浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化	一部割離	口縁部(20%)							ヨコナデ ヨコハケ ヨコミガネ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	—	—
	タテハケ 沈線文		浅黄褐色(10YR8/3)	—	—	頸部(35%)							ヨコハケ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	—	—
	タテハケ タテ1ガネ		浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部割離	胴部上半(40%)							ヨコハケ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	—	一部割離
	タテハケ タテ1ガネ		にぶい黄褐色(10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離	胴部下半~底部(70%)							ヨコハケ	浅黄褐色(10YR8/3~8/4)	炭化物付着	一部割離
	非調整		浅黄褐色(10YR8/3)	—	大部分割離	底面(60%)							ヨコハケ 指跡1痕	浅黄褐色(10YR8/3)	—	—

表V-4 33-27区出土Ⅶ群復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-43	2	44	33-27区	Ⅲ層	—	47	25.8	14.6	7.8	965	口縁~胴部上位 胴部下位 底部	甕	Ⅶ群 推定復原			
接合破片総点数			96	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			34-27・Ⅲ・(17)、34-28・Ⅲ・(32)									
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細~中粒	種類	鉱物主体		量	少量	備考	有色鉱物				
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	内									
	ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/3) ~にぶい褐色(7.5YR6/4)	黒色化	—	口唇部(40%)										
	ナデによる 沈線文(幅広) ヨコナデ		にぶい褐色(7.5YR7/4) ~浅黄褐色(7.5YR8/4)	黒色化	一部割離	口縁部(40%)							ヨコハケ ヨコナデ	褐色(7.5YR7/6)	—	一部割離 磨耗
	ナデによる 沈線文(幅広)		浅黄褐色(7.5YR8/4) ~褐色(7.5YR7/6) ~灰黄褐色(10YR4/2)	—	—	頸部(30%)							ヨコハケ	褐色(7.5YR7/6)	—	—
	ヨコハケ タテハケ ナメハケ ミガネ?		浅黄褐色(7.5YR8/4) ~褐色(7.5YR7/6) ~灰黄褐色(10YR4/2)	—	一部割離	胴部上位(30%)							ヨコハケ	褐色(7.5YR7/6)	—	—
	タテハケ タテ1ガネ?		にぶい褐色(7.5YR6/4) ~にぶい黄褐色(10YR7/4)	黒色化	—	胴部下位~底部(20~100%)							ヨコハケ ナメハケ	浅黄褐色(7.5YR7/6)	—	一部割離
	葉形痕		にぶい黄褐色(7.5YR6/4) ~浅黄褐色(10YR8/3)	—	—	底面(80%)							ヨコハケ 指跡1痕	にぶい褐色(7.5YR7/4)	—	一部割離

表V-5 30-38区出土VII群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-43	3	44	30-38K	Ⅲ層	—	105	25.3	18.3	7.0	660	口縁～底部	甕	VII群
接合破片総点数			110	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			29-38・Ⅲ・(3)、30-37・Ⅲ・(1)、31-37・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	微量	備考	密閉片状の障	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ~ 明黄褐色 (10YR7/6)	黒色化	一部割壊	口唇部 (60%)							
	ヨコナデ ヨコミガキ 沈線文 段状沈線文		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ~ にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	一部割壊	口縁部 (60%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	—			
	タテハケ → ヨコミガキ ナテによる 段状沈線文		にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部割壊	頸部 (30%)	ヨコハケ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—			
	ヨコミガキ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	一部割壊	胴部上半 (40%)	ヨコハケ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—			
	タテハケ ヨコミガキ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (80～40%)	ヨコナデ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—			
底	ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4) ~ にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	80%割壊	底面 (60%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	底		

表V-6 33-27区出土VII群復原土器観察表 (2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-43	4	44	30-41K	Ⅲ層	—	348	(29.3)	24.8	—	1,300	口縁～ 胴部下半	甕	VII群
接合破片総点数			189	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			29-41・Ⅲ・(6)、30-42・Ⅲ・(35)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体		量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	口唇部 (90%)							
	ヨコナデ タテハケ 沈線文		灰白色 (10YR8/2) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	一部割壊	口縁部 (90～80%)	ヨコハケ ヨコナデ ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部割壊			
	タテハケ 沈線文		灰白色 (10YR8/2) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	頸部 (80%)	ヨコハケ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—			
	タテハケ ナテハケ ミガキ 沈線文状の調整痕		灰白色 (10YR8/2) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	一部割壊	胴部上半 (90～80%)	ヨコハケ タテミガキ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部割壊			
底	ハケケ タテミガキ 沈線文状の調整痕		灰白色 (10YR8/2) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (90～80%)	ヨコハケ タテミガキ	浅黄褐色 (10YR8/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	底		

表V-7 23-60区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-43	5	45	23-60区	H層	22	7	(21.0)	(23.2)	—	720	口縁~底面	甕	Ⅶ群			
接合破片総点数			22	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			22-60・H・(1) 23-60・H・36 (1)・27 (1)・30 (2)・33 (2)・33 (1)・34 (1)・36 (4)・43 (1)・83 (1)・116 (1)									
胎土 (原料材)		織織	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体		量	少~中量	備考	垂門碑状のチャート地				
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
	ヨコナデ 沈線文状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化	磨耗	口唇部 (30%)										
	ヨコナデ		褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	磨耗	口縁部 (40%)							ヨコナデ	浅黄褐色 (7.5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	一部割離 磨耗
	ヨコナデ 沈線文		褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	磨耗	頸部 (30%)							ヨコナデ? ヨコミガキ?	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化 炭化物付着	一部割離 磨耗
	タテハケ タテミガキ		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化 炭化物付着	磨耗	胴部上半 (20%)							タテミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化 炭化物付着	一部割離
裏	タテミガキ		にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化 炭化物付着	磨耗	胴部下半~底部 (10%)	タテミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化 炭化物付着	—						

表V-8 33-40区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-43	6	45	33-40区	Ⅲ層	—	21	(22.6)	23.6	—	910	口縁~胴部下位	甕	Ⅶ群			
接合破片総点数			63	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			30-40・Ⅲ・(1)・31-38・Ⅲ・(9)・33-38・Ⅲ・(12)・33-39・Ⅲ・(4)・34-38・Ⅲ・(3)・34-40・Ⅲ・(3)									
胎土 (原料材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石・底物ともあり		量	微量	備考					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
	ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR6/6)	—	—	口唇部 (15%)										
	ヨコナデ 沈線文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	口縁部 (15%)							ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—
	タテハケ ナデ 沈線文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	頸部 (65%)							ヨコハケ ヨコミガキ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—
	ナメハケ → タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (30%)							ヨコハケ ヨコミガキ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—
裏	タテハケ タテミガキ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半~底部 (15%)	ヨコハケ ヨコミガキ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—						

表V-9 18-64区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-44	7	45	18-64区	裏面	—	44	(29.4)	(24.2)	—	1,250	口縁～胴部下位	甕	Ⅶ群			
接合破片結点数			82	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-65・Ⅲ・(15)、20-64・Ⅲ・(23)									
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	少～中量	備考	肩～垂門脚状チャート					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内					
	ヨコナデ沈線文状の調整痕		浅黄褐色 (7.5YR8/4)	—	一部磨耗	口唇部 (10%)	内									
	タテハケ→ヨコナデ		浅黄褐色 (7.5YR8/6)	—	一部磨耗	口縁部 (30%)				ヨコハケヨコナデ				浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—
	ナデによる沈線文 段		にぶい黄褐色 (10YR7/4)～にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	—	頸部 (25%)				ヨコハケ				にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	—
	タテハケ→ヨコハケタテミガキ沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)～にぶい赤褐色 (5YR5/4)	黒色化	—	胴部上半 (20%)				ヨコハケ				にぶい赤褐色 (5YR5/3)	—	—
タテハケタテミガキ沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)～にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部下半～底部 (60%)	ヨコハケ				にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—				

表V-10 33-38区出土Ⅶ群復原土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-44	8	45	33-38区	裏面	—	13	(18.5)	(24.4)	—	870	口縁～胴部中位	甕	Ⅶ群			
接合破片結点数			36	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			31-41・Ⅲ・(3)、33-37・Ⅲ・(3)、33-39・Ⅲ・(11)、34-37・Ⅲ・(5)、34-41・Ⅲ・(1)									
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	細～中粒	種類	鉱物主体	量	少～中量	備考						
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内					
	ヨコナデ沈線文状の調整痕		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	口唇部 (80%)	内									
	ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3～8/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (80%)				ヨコナデヨコミガキ				浅黄褐色 (10YR8/6)～にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—
	ナデによる沈線文 (幅広)ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR8/4)～浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	頸部 (50%)				ヨコハケヨコミガキ				浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—
	タテハケ→ヨコミガキタテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR8/4)～にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上位～中位 (10～30%)				ヨコハケ				浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—

表V-11 32-40区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	9	46	32-40区	Ⅶ群	—	44	(13.1)	22.4	—	80	口縁～胴部上位	甕	Ⅶ群
接合破片総点数			65	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			32-39・Ⅲ・(14)、33-38・Ⅲ・(1)、33-39・Ⅲ・(1)						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	胎物主体?		量	少量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ ヨコミガキ 沈線文状の調整痕		灰白色 (10YR8/2) ～にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (90%)							
	ヨコナデ ナデよる沈線文 沈線文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	口縁部 (80%)	ヨコハケ 沈線文状の調整痕 (幅立) ヨコナデ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—			
	沈線文		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	胴部 (40%)	ヨコハケ タナミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—			
裏	タテハケ タナミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3) ～灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	胴部上半 (40%)	ヨコハケ タナミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	裏		

表V-12 34-34区出土Ⅶ群復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	10	46	34-34区	Ⅶ群	—	7	(9.05)	—	(6.0)	160	頸部～底部	甕 (小型)	Ⅶ群
接合破片総点数			7	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	胎物主体?		量	微量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコナデ 段		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	胴部 (20%)	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—		
	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	一部剥離	胴部上半 (70%)	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—		
裏	タテハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部剥離	胴部下半 ～底部 (70～20%)	ヨコハケ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	裏	
	不明		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	一部剥離	底面 (1～5%)	非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—		

表V-13 31-40区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	11	46	31-40区	Ⅶ群	—	6	(11.8)	12.4	—	250	口縁～胴部下半	甕 (小型)	Ⅶ群
接合破片総点数	18		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				30-40・Ⅲ・(3)、31-41・Ⅲ・(2)、32-29・Ⅲ・(1)、32-40・Ⅲ・(2)、32-41・Ⅲ・(3)、32-38・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)	繊維	無	粒径	中	種類	鉱物主体		量	微量	備考	長石 有色鉱物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ココナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	—	—	口唇部 (30%)								
	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口唇部 (30%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—				
	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部 (40%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—				
	ナデ ミガキ	浅黄褐色 (10YR8/4) ～にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (70%)	ココナデ ココミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—				
タテミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 (40%)	ココナデ ココミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—					

表V-14 31-42区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	12	46	31-42区	Ⅶ群	—	21	(11.1)	—	7.6	340	胴部下半～底部	甕	Ⅶ群
接合破片総点数	25		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				33-36・Ⅲ・(1)、33-39・Ⅲ・(3)						
胎土 (混和材)	繊維	無	粒径	中～細粒	種類	岩石主体		量	微量	備考	長石 有色鉱物		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテハケ ミガキ 沈線文状の 調整痕	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半～底部 (20%)	ココハケ ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—				
裏	ナデ? ミガキ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	底面 (90%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	裏			

表V-15 34-34区出土Ⅶ群復原土器観察表 (2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	13	46	34-34区	Ⅶ群	—	14	(10.4)	—	7.4	290	胴部下半～底部	甕	Ⅶ群
接合破片総点数	14		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)				—						
胎土 (混和材)	繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体		量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	胴部下半～底部 (20～50%)	ココハケ ナナメハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—				
裏	ナデ 非調整	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	底面 (50%)	ナデ 指押調整	褐色 (10YR4/4)	—	一部肉離	裏			

表V-16 34-34区出土Ⅶ群復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	14	46	34-34区	Ⅶ層	—	32	(9.3)	—	(6.0)	220	胴部下位 ～底部	甕	Ⅶ群
接合破片総点数		32	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		—								
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	紀物主体?		量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテハケ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (20～60%)	ヨコハケ タテハケ	浅黄褐色 (10YR8/4) ～にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部剥離			
裏	非調整?		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	底面 (75%)	ハケメ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	一部剥離	裏		

表V-17 30-41区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-44	15	47	30-41区	Ⅶ層	—	14	(4.4)	—	7.5	150	胴部下半 ～底部	甕	Ⅶ群
接合破片総点数		14	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		—								
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	紀物主体?		量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	タテミガキ ヨコナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	炭化物付着	—	胴部下半 ～底部 (60%)	ナデ?	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	炭化物付着	剥離			
裏	ナデ 筋状の痕跡		にぶい黄褐色 (10YR7/3) ～にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	底面 (100%)	—	—	—	剥離	裏		

表V-18 32-29区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	16	47	32-30区	Ⅶ層	—	72	24.5	(19.0)	9.8	1,290	口縁～底部	球脚甕	Ⅶ群
接合破片総点数		120	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		32-40・Ⅲ・(44)、33-38・Ⅲ・(3)、33-39・Ⅲ・(10)								
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石・紀物 ともにあり		量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコミガキ タテミガキ		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口唇部 (60%)	—	—	—	—			
裏	ヨコミガキ		灰白色 (10YR8/1)	黒色化	—	口縁部 (60%)	ヨコナデ ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	裏		
	ナデによる 花線文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	胴部 (60%)	ヨコハケ	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—			
	ヨコハケ → ミガキ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剥離	胴部上半 (70%)	ヨコハケ ナデ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—			
	タテハケ → タテミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (80%)	ヨコハケ ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—			
	非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	上げ底	底面 (35%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	黒色化	—			

表V-19 32-41区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	17	47	32-41区	Ⅶ群	—	98	(23.4)	15.6	—	1,190	口縁～底部	球胴甕	Ⅶ群
接合破片総点数			95	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			32-39・Ⅲ・(9)、39-40・Ⅲ・(2)、39-40・Ⅲ・(5)、31-41・Ⅲ・(1)、32-41・Ⅲ・(1)、33-39・Ⅲ・(1)、33-41・Ⅲ・(18)						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒径	細～中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整						
	ナデ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	磨耗	口唇部 (40%)	文様・調整						
	ヨコナデ ナデによる 沈線文 段		にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	—	—	口縁部 (40%)	ヨコナデ ヨコミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	内		
	ヨコナデ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (7.5YR7/3)	—	—	頸部 (30%)	ヨコナデ ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	内		
	ナメハケ → ヨコナデ ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) ～ 橙色 (7.5YR6/6)	黒色化	—	胴部上半 (40%)	ヨコハケ ナメハケ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	内		
裏	ハケメ → ヨコナデ ミガキ		浅黄褐色 (7.5YR6/6) ～ にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 ～底部 (70%)	ヨコハケ ナメハケ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	炭化物付着	裏		

表V-20 28-38区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	18	47	28-38区	Ⅶ群	—	83	(21.05)	17.3	—	1,120	口縁～底部	球胴甕	Ⅶ群
接合破片総点数			140	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			27-38・Ⅲ・(56)、27-38・Ⅴ2・(1)						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒径	中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	多量	備考	有色鉱物	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整						
	ヨコナデ 内面へ粘土 張り出し		浅黄褐色 (10YR6/3)	—	幅広 一部剥離	口唇部 (80%)	文様・調整						
	ヨコナデ ヨコミガキ 段 沈線文 指線付痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～浅黄褐色 (10YR6/3)	—	一部剥離	口縁部 (80%)	ヨコナデ ヨコミガキ	浅黄褐色 (10YR6/3)	—	口唇部から 粘土 張り出す	内		
	段 沈線文 ヨコナデ?		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	頸部 (80%)	ヨコナデ ヨコハケ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	内		
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化?	一部剥離	胴部上半 (100～80%)	ヨコミガキ? ヨコナデ?	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	一部剥離	内		
裏	ヨコナデ ヨコミガキ		灰黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	一部剥離	胴部下半 ～底部 (80～20%)	ヨコナデ?	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	裏		

表V-21 34-34区出土Ⅶ群復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	19	47	34-34区	Ⅶ層	—	63	(18.9)	—	—	775	胴部～胴部下位	埴輪覆	Ⅶ群
接合破片総点数		63		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土(混和材)		織	無	粒徑	細～中粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	微～少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコナデ ナデによる 沈線文字段字		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	頸部 (20%)	—	—	—	酒罎			
	ヨコミガキ ナメミガキ 沈線文状の 調整痕		灰黄褐色 (10YR6/2) ～にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部酒罎	胴部上半 (30～40%)	ナズリ風のミガキ 沈線文状の 調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—			
	ナメミガキ ナメミガキ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部酒罎	胴部下半 ～底部 (70%)	ナズリ風のミガキ 沈線文状の 調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部酒罎			

表V-22 34-38区出土Ⅶ群復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	20	48	34-38区	Ⅶ層	—	6	(9.3)	(10.8)	—	200	口縁～胴部下位	鉢 (小型)	Ⅶ群
接合破片総点数		13		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			33-37・Ⅱ・(3)、33-38・Ⅱ・(1)、34-37・Ⅱ・(3)						
胎土(混和材)		織	無	粒徑	細～中粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	少量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	一部 器面欠れ	口唇部 (30%)	—	—	—	—			
	ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	口縁部 (30%)	ヨコミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	酒罎 (器面欠れ)			
	ヨコミガキ タテミガキ		灰黄褐色 (10YR4/3)	—	—	胴部 (—%)	ミガキ?	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	—	酒罎 (器面欠れ)			

表V-23 32-39区出土Ⅶ群復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	21	48	32-39区	Ⅶ層	—	24	8.1	9.8	6.0	205	口縁～底部	鉢 (小型)	Ⅶ群
接合破片総点数		24		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土(混和材)		織	無	粒徑	細粒	種類	岩石・鉱物ともあり	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ヨコナデ		灰黄褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	磨耗	口唇部 (25%)	—	—	—	—			
	ヨコナデ? ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4 ～6/4)	—	一部磨耗	口縁部 ～上部 (25～50%)	ヨコナデ (筋状の痕跡) ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4) ～ 灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—			
	ヨコナデ (非調整部分)		にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部下半 ～底部 (80%)	ヨコナデ ヨコミガキ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—			
ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	底面 (80%)	ミガキ (非調整部分)	褐灰色 (10YR6/1)	黒色化	—				

表V-24 22-60区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	22	48	22-60区	付帯	110	11	5.35	9.3	5.0	110	口縁~底部	鉢 (小型)	Ⅶ群
接合破片総点数			11	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	紅物主体		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他
	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		口唇部 (50%)						
	ヨコナデ ケズリ風ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		口縁部 (50%)		ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀	
	ヨコナデ ケズリ風ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		胴部~底部 (80%)		ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀	
裏	非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		底面 (90%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀	

表V-25 32-34区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-45	23	48	32-34区	直掘	—	22	6.4	(9.5)	5.8	150	口縁~底部	鉢 (小型)	Ⅶ群 (V群?)	
接合破片総点数			22	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒徑	細~中粒		種類	岩石・紅物ともあり		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	
	ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		口唇部 (40%)							
	ヨコナデ ケズリ風ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		口縁部 (40%)		ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀		
	ヨコナデ ケズリ風ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		胴部~底部 (80%)		ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀		
裏	非調整		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		底面 (90%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	一部肉堀		

表V-26 31-40区出土Ⅶ群復原土器観察表（2）

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-45	24	48	31-40区	Ⅶ層	—	15	(6.45)	15.2	丸底	300	口縁~底部	杯	Ⅶ群 環蓋?	
接合破片 総点数		31	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				30-40・Ⅲ・(1)、31-39・Ⅲ・(2)、31-41・Ⅲ・(2)、32-40・Ⅰ・(1)、33-39・Ⅲ・(1)、 34-37・Ⅲ・(8)、34-38・Ⅲ・(1)							
胎土 (泥和材)		繊維	無		粒径	細~中粒		種類	黏物主体		量	少~微量		備考
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化?	—	口唇部 (50%)								
	ヨコナデ ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口縁部 (60%)		ヨコナデ ヨコミガキ	灰黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	—		
	ナデによる沈線文 ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	頸部 (60%)		ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—	—		
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	胴部 (70%)		ヨコミガキ	(灰黄褐色)	—	—	—		
裏	ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	底面 (5%)		ナデ? ミガキ	(陶灰色)	黒色化?	—	裏		

表V-27 30-40区出土Ⅶ群復原土器観察表（1）

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-45	25	48	30-40区	Ⅶ層	—	10	(7.5)	—	丸底	220	口縁~底部	杯	Ⅶ群 環蓋?	
接合破片 総点数		12	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				32-40・Ⅲ・(1)、32-41・Ⅲ・(1)							
胎土 (泥和材)		繊維	無		粒径	細粒		種類	黏物主体		量	微量		備考
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
			残存部分 無し				口唇部 (0%)							
	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	口縁部 (30%)		ヨコミガキ	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	一部剥離	—		
	ヨコミガキ 段 沈線文状の 調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	頸部 (30%)		ヨコミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	—		
裏	ヨコミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	丸底	胴部~底部 (10~30%)		ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—	裏		

表V-28 32-39区出土Ⅶ群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	26	47	32-39区	Ⅶ群	—	39	6.85	19.2	5.5	240	口縁~底部	杯	Ⅶ群 内黒
接合破片 総点数			48	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			31-40・Ⅲ・(7)、32-40・Ⅲ・(1)、7(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体		量	微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコシガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	口唇部 (80%)							
	ヨコシガキ		黄褐色 (10YR8/6)	黒色化	一部剥離	口縁部 (80%)	ヨコシガキ 沈線文状の 調整痕	浅黄色 (2.5Y7/4)	黒色化	一部剥離			
	ヨコシガキ 段(沈線文状) 沈線文		にぶい黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	胴部~底部 (60%)	ヨコシガキ 沈線文状の 調整痕	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	一部剥離			
裏	シガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	丸底	底面 (70%)	シガキ	明黄褐色 (10YR8/6)	—	一部剥離			

表V-29 33-38区出土Ⅶ群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	27	47	33-38区	Ⅶ群	—	7	6.5	(18.8)	丸底	250	口縁~底部	杯	Ⅶ群 内黒
接合破片 総点数			24	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			30-40・Ⅲ・(1)、31-40・Ⅲ・(5)、31-41・Ⅲ・(1)、32-38・Ⅲ・(2)、32-39・Ⅲ・(1)、 34-38・Ⅲ・(6)、34-40・Ⅲ・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	細~中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	微~少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ヨコシガキ		(黒褐色)	—	内黒	口唇部 (5%)							
	ヨコナデ → ヨコシガキ		黄褐色 (10YR5/6)	黒色化	—	口縁部 (5%)	ヨコシガキ ヨコナデ	(黒褐色)	—	内黒			
	ナデによる沈線文 ヨコナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	頸部 (10%)	ヨコシガキ	(黒褐色)	—	内黒			
裏	ナデ シガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4) → にぶい褐色 (7.5YR8/4)	—	丸底	胴部~底面 (100~60%)	シガキ	(黒褐色)	—	内黒			

表V-30 31-41区出土Ⅶ群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-45	28	47	31-41区	Ⅶ層	—	7	5.35	(13.2)	丸底	130	口縁~底部	杯	Ⅶ群 内黒			
接合破片総点数			13	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			31-37・Ⅲ・(1)、31-40・Ⅲ・(1)、32-40・Ⅲ・(2)、32-41・Ⅲ・(1)、34-37・Ⅲ・(1)									
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石・鉱物 ともあり		量	微量	備考					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
	ヨコミガキ		(黒褐色)	黒色化	内黒	口唇部 (10%)										
	ヨコミガキ		褐色 (7.5YR4/4)	黒色化	—	口縁部 (10%)							ヨコナデ → ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕	(黒褐色)	—	内黒
	ナデによる沈線文 段		褐色(7.5YR4/4) ～ 浅黄褐色 (10YR6/4)	—	—	頸部 (30%)							ヨコミガキ 沈線文状の 調整痕	(黒褐色)	—	内黒
裏	ナデ? ミガキ	浅黄褐色 (10YR6/4) ～ にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	一部河漕	胴部~底部 (100~30%)	ヨコミガキ	(黒褐色)	—	内黒 一部河漕							

表V-31 30-40区出土Ⅶ群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-45	29	47	30-40区	Ⅶ層	—	10	(5.2)	—	丸底	220	口縁~底部	杯	Ⅶ群 内黒			
接合破片総点数			20	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			29-40・Ⅲ・(4)、31-40・Ⅲ・(5)、31-41・Ⅲ・(1)									
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体		量	微量	備考					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
			残存部分 無し	—	—	口唇部 (0%)										
	ヨコミガキ		灰黄褐色 (10YR5/2) ～ にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口縁部 (20%)							ヨコミガキ	(黒褐色)	—	内黒
	沈線文状の 調整痕 段		灰黄褐色 (10YR5/2) ～ にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	頸部 (60%)							ヨコミガキ	(黒褐色)	—	内黒
裏	ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	丸底	胴部~底部 (80~60%)	ミガキ	(黒褐色)	—	内黒 一部河漕							

表V-32 34-38区出土Ⅶ群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	30	47	34-38区	Ⅶ群	—	4	(3.3)	(10.4)	—	65	口縁～胴部上位	環	Ⅶ群内黒
接合破片総点数			7	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			31-37・Ⅲ・(3)						
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	器物主体?		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位(残存率)						
	ヨコイガキ		(黒褐色)	黒色化	—		口唇部(30%)						
面	ヨコナデ ヨコイガキ		(黒褐色)	黒色化	—		口縁部(30%)	ヨコナデ ヨコイガキ	(黒褐色)	—	内黒		
	ナデによる洗滌文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化	—		胴部(30%)	ヨコナデ ヨコイガキ	(黒褐色)	—	内黒		
	イガキ		にぶい黄褐色(10YR6/4)	黒色化	—		胴部上位(30%)	イガキ	(黒褐色)	—	内黒		

表V-33 30-40区出土Ⅶ群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-45	31	47	30-40区	Ⅶ群	—	6	(3.5)	—	丸底	190	胴部上位～底部	環	Ⅶ群内黒
接合破片総点数			6	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	細～中粒	種類	岩石・泥物ともあり		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位(残存率)						
	ヨコイガキ		褐色(10YR4/1)	黒色化	—		胴部下半～底部(15%)						
面	ナデ イガキ		褐色(7.5YR6/6) ～ にぶい黄褐色(10YR7/2)	黒色化	一部磨耗		底面(85%)	イガキ	(黒褐色)	—	内黒 一部磨耗		

表V-34 包含層出土VII群破片土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(型式)	
						小計	合計						
粘土(黒粘土)						文様・調整		色調		使用の痕跡			
						外側		(部位)		外側		内側	
V-46	1	50	16-25区	V1層	—	—	1	口縁部	44.9	甕	V群	—	
施設	竈跡~中柱	灰物主体(有包埋物)	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガによる段状の沈殿文	褐色(10YR6/4)	褐色(7.5YR6/4)	灰化物付着	黒色化灰化物付着	
V-46	2	50	33-32区	裏層	—	—	1	口縁部	31.9	甕	V群	口縁部 磨耗	
加	竈跡	灰物主体等	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	褐色(5YR6/4)	赤い・褐色(10YR6/4)	—	灰化物付着	
V-46	3	50	23-6B区	裏層	11	1	4	口縁部(調整?)	34.1	甕?	V群	全体の磨耗 外面 調整痕はぼけて	
			15	1									
			25-6B区	—	2								
加	竈跡	石石1体(釜・陶器の破片)	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	褐色(5YR7/4)~浅黄褐色(10YR6/4)	赤い・褐色(7.5YR6/3)	—	—	
V-46	4	50	33-32区	裏層	—	1	2	口縁部	28.0	甕	V群	外面一部割断	
加	竈跡	灰物主体等	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・黄褐色(10YR7/4)	赤い・黄褐色(10YR7/4)	—	—	
V-46	5	50	32-4B区	裏層	—	2	4	口縁部	45.8	甕?	V群	—	
			34-37区	裏層	—	1							
			34-38区	裏層	—	1							
加	竈跡	灰物主体(有包埋物・目立つ)	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	褐色(5YR7/4)~赤い・褐色(7.5YR6/3)	赤い・褐色(7.5YR6/3)	—	—	
V-46	6	50	33-32区	裏層	—	—	3	口縁部	62.0	甕	V群	全体の磨耗	
加	竈跡	灰物主体	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	浅黄褐色(10YR6/4)	浅黄褐色(10YR6/4)	灰化物付着	—	
V-46	7	50	33-32区	裏層	—	1	3	口縁部	30.6	甕	V群	—	
			34-32区	裏層	—	2							
加	竈跡	灰物主体	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	ナガナゲナガナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	浅黄褐色(7.5YR6/3)	赤い・褐色(7.5YR7/4)~灰白色(10YR8/1)	—	—	
V-46	8	50	27-5B区	裏層	—	7	8	口縁部	31.6	甕	V群	内側・口縁部一部割断	
			27-6B区	裏層	—	1							
加	竈跡	灰物主体(有包埋物・目立つ)	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・黄褐色(10YR7/4)	浅黄褐色(10YR6/4)	黒色化	黒色化	
V-46	9	50	33-27区	裏層	—	—	1	口縁部	21.8	甕?	V群	内側面一部割断	
加	竈跡	石石1体(やや多量)	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・褐色(7.5YR7/4)	赤い・褐色(10YR7/4)	—	—	
V-46	10	50	31-4B区	裏層	—	1	3	口縁部	59.4	甕?	V群	—	
			32-4B区	裏層	—	4							
加	竈跡	灰物主体	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・黄褐色(10YR6/3)	浅黄褐色(10YR6/4)~赤い・黄褐色(10YR6/4)	—	—	
V-46	11	50	33-32区	裏層	—	—	4	口縁部	40.3	甕	V群	—	
施設	竈跡	灰物主体	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・黄褐色(10YR7/4)	浅黄褐色(10YR6/4)	灰化物付着?	黒色化	
V-46	12	50	34-32区	裏層	—	—	13	口縁部~胴部中央	119.0	甕	V群	外面・胴部・磨耗	
加	中柱	石石1体(重角縁状(2片))	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・褐色(7.5YR7/4)~赤い・黄褐色(10YR6/3)	浅黄褐色(10YR6/4)~赤い・黄褐色(7.5YR6/4)	黒色化灰化物付着	黒色化	
V-46	13	50	34-17区	裏層	—	—	1	口縁部	40.7	甕	V群	—	
少量	竈跡	灰物主体	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	赤い・黄褐色(10YR7/2~6/4)	浅黄褐色(10YR6/4)	黒色化	黒色化	
V-46	14	50	21-6B区	V層	—	—	1	口縁部	42.4	甕	V群	—	
加	中柱	石石1体(重角縁状(重角))	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	ヨコナゲナガによる段状の沈殿文	(口縁部)ナガナガによる段状の沈殿文	浅黄褐色(7.5YR6/4)	赤い・褐色(7.5YR7/4)~浅黄褐色(10YR6/4)	—	黒色化	

表V-34 包含層出土VII群破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(型式)
						小計	合計					
粘土(黒粘土)												
						文様・調整			色澤		使用の痕跡	
						外面	内面	(部位)	外面	内面	外面	内面
V-46	15	50	33-28区	裏層	—	2	2	口縁部	43.4	甕	Ⅱ群	—
	少量	中粒	岩石系物 ともにあり		※コシギキ ココナテ 沈殿文状の調整層 ナテによる段		※コシギキ ココナテ	(口縁部) コシギキ ナテによる 沈殿文状の調整層	浅黄褐色 (10Y78/4) ～ (7.5Y78/4)	にぶい黄褐色 (10Y77/4) ～ 灰白色 (10Y78a/2)	黒色化 炭化物付着	黒色化
V-47	16	50	34-4区	裏層	—	3	3	口縁～胴部	40.0	甕	Ⅱ群	—
	無	中粒	岩石系物 ともにあり		※コシギキ ナテ+コ ナテ+コシギキ 段		※コシギキ ナテによる ナテによる 沈殿文状の調整層	(口縁部) ナテ ナテによる 沈殿文状の調整層	褐色 (7.5Y77/4)	褐色 (7.5Y78/4) ～ にぶい黄褐色 (7.5Y78/4)	黒色化	—
V-47	17	50	27-27区 28-28区	裏層 裏層	— —	5 3	8	口縁部～ 胴部上段	108.2	埴輪類	Ⅱ群	口縁部 磨耗
	無	細～中粒	岩石主体		ナテ+コシギキ ナテ+コシギキ 沈殿文状の調整層		※コシギキ ココナテ	(口縁部) ナテ	にぶい黄褐色 (7.5Y77/4)	にぶい黄褐色 (10Y78/4)	黒色化	炭化物付着
V-47	18	50	33-27区 34-28区	裏層 裏層	— —	2 2	7	口縁～底部	96.6	埴	Ⅱ群	内黒
	少量	細粒	岩石系物 ともにあり		※コシギキ ナテ+コシギキ コシギキによる段		※コシギキ	(口縁部) ナテ	明黄褐色 (10Y77/6) ～ にぶい黄褐色 (10Y78/4)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	黒色化 炭化物付着
V-47	19	50	34-28区	裏層	—	4	4	口縁～胴部	37.7	埴	Ⅱ群	内黒
	微量	細粒	炭物主体		※コシギキ ココナテ		※コシギキ	(口縁部) ナテ	にぶい黄褐色 (10Y78/4)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
V-47	20	50	31-27区 31-27区	裏層 裏層	— —	1 2	3	口縁部	64.7	埴	Ⅱ群	内黒
	無	細～中粒	岩石系物 ともにあり		※コシギキ		※コシギキ	(口縁部) コシギキ	浅黄褐色 (7.5Y78/4)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
V-47	21	51	33-28区 34-28区	裏層 裏層	— —	1 2	5	口縁～胴部	40.1	埴	Ⅱ群	内黒
	中量	細～中粒	炭物主体		※コシギキ コシギキによる段		※コシギキ	(口縁部) コシギキ	明黄褐色 (10Y78/4) ～ 浅黄褐色 (10Y78/4)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
V-47	22	51	19-4区 22-4区	裏層 持層	— —	1 2	3	口縁～胴部	28.0	埴	Ⅱ群	内黒
	少量	中粒	岩石主体 (金ノ浦式 オケート)		※コシギキ		※コシギキ ナテ+コシギキ コシギキ	(口縁部) ナテ コシギキ	褐色 (7.5Y77/4) ～ 灰黄褐色 (10Y78/2)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
V-47	23	51	20-4区	裏層	150 —	1 1	2	口縁部	10.6	埴	Ⅱ群	内黒 外面 若干磨耗
	中量	中粒	岩石系物 ともにあり (金ノ浦式 オケート)		※コシギキ 沈殿文状の調整層		※コシギキ	(口縁部) コシギキ	浅黄褐色 (7.5Y78/4) ～ (7.5Y77/4)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
V-47	24	51	33-28区	裏層	—	1	1	口縁部	11.5	埴?	Ⅱ群	口縁部磨耗 切り出し
	微量	細粒	炭物主体 (有包炭)		※コシギキ ココナテ 沈殿文状の調整層		※コシギキ ココナテ 沈殿文状の調整層 ナテによる段	(口縁部) ナテ ナテによる段	にぶい黄褐色 (10Y77/4)	にぶい黄褐色 (10Y77/4)	黒色化?	—
V-47	25	51	32-27区	裏層	—	1	1	口縁部	11.2	埴?	Ⅱ群	内黒?
	中量	細粒	岩石系物 ともにあり		※コシギキ コシギキ 沈殿文状の調整層		※コシギキ ココナテ ココナテによる段	(口縁部) ナテ ナテによる段	浅黄褐色 (10Y78/3)	褐色 (10Y78/4)	黒色化	黒色化
V-48	26	51	27-4区	裏層	—	1	3	底面	141.0	甕	Ⅱ群	底内面 一部割断
	無	中粒	岩石系物 ともにあり		(底外面) ナテ コシギキによる段		(底内面) ナテ 沈殿文状の調整層 土質のアタリ	(外面) ナテ+コシギキ ココナテ	(底外面) にぶい黄褐色 (10Y77/4)～(7/2)	(底内面) 浅黄褐色 (10Y78/4) ～ にぶい黄褐色 (10Y77/4)	—	—
V-48	27	51	28-4区	裏層	—	3	3	底面	103.3	甕	Ⅱ群	底内面 磨耗
	少量	細粒	岩石系物 ともにあり		(底外面) 磨耗		(底内面) 沈殿文状の調整層	(外面) ココナテ ココナテ	浅黄褐色 (10Y78/2)	浅黄褐色 (10Y78/2)	黒色化?	—
V-48	28	51	33-27区 34-27区	裏層 裏層	— —	0 2	12	底面	98.9	甕	Ⅱ群	—
	微量	細粒	炭物主体		(底外面) 炭物付着?		(底内面) 沈殿文状の調整層	(外面) ナテ+コシギキ 沈殿文状の調整層 (内面) ココナテ	灰白色 (10Y78/1) ～ にぶい黄褐色 (7.5Y78/4)	にぶい黄褐色 (10Y78/4)	炭化物付着?	—

表V-34 包含層出土VII群破片土器観察表(3)

器	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種		分類	備考(型式)
						小計	合計			外面	内面		
粘土(黒粘材)													
編織	粒徑	種類	外面		内面(部位)		重量	器種	分類	使用の痕跡			
V-48	29	51	22-28区	層位	4	1	3	胴部下位 ~底部	85.6	甕	埴器		—
加	中~粗粒	石片主体 (多量) (産片層位の産片)	(底外面) ナメシガキ ヨコナダ	(底内面) ヨコナダ	(外面) 葉形部 (内面) ナメシ	褐色 (T.5YR7/6)	褐色 (5YR7/4)	黒色化	—				
V-48	30	51	21-28区	層位	3	1	底部	37.1	甕	埴器		—	
加	粗粒	石片主体 (多量) (産片層位の産片)	(底外面) 葉形部	ナメシ	(外面) ナメシ (内面) ?	にぶい褐色 (T.5YR5/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—				黒色化 炭化物付着
V-48	31	51	34-36区	層位	—	1	底部	18.8	甕	埴器		内面 剥離	
加	細~中粒	石片主体 ともにあり	ナメシ ナメシガキ 沈殿文状の調整痕	(封筒)	(底外面) ナメシ 葉形部	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—				
V-48	32	51	34-36区	層位	—	1	底部	22.0	甕	埴器		底外面 一部剥離	
黄緑?	細~中粒	石片主体 ともにあり	ナメシ ナメシガキ 沈殿文状の調整痕	ヨコナダ	(底外面) ?	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—				炭化物付着
V-48	33	51	20-28区	層位	—	3	底部	37.8	甕(小型)	埴器		—	
加	中粒	石片主体 ともにあり	(底外面) ナメシ	(底内面) ナメシ	(外面) ナメシ ナメシガキ ヨコナダ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	(底内面) 褐色 (5YR5/4)	黒色化	—				—
V-48	34	51	20-24区	層位	—	4	底部	59.1	杯	埴器		内面 大部分剥離	
少量	中~粗粒	石片主体 (産片・多量産片の産片)	(底外面) シガキ	ヨコシガキ	—	浅黄褐色 (10YR8/4)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—				炭色化 炭化物付着
V-48	35	51	34-36区	層位	—	11	底部	92.9	杯	埴器		内面 剥離目立つ	
黄緑(粘材)	中粒	石片主体 ともにあり	(底外面) ヨコシガキ	(底内面) シガキ	(外面) シガキ ハケメ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(底内面) 浅黄褐色 (黒褐色)	黒色化	—				—
V-48	36	51	34-36区	層位	—	1	底部	30.0	杯	埴器		内面	
加	細粒	黄物主体	(底外面) ナメシガキ	(底内面) シガキ	—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(底内面) 黒褐色	黒色化	—				炭色化 炭化物付着
V-48	37	51	19-28区	層位	—	1	胴部~ 胴部下位	45.1	甕(小型)	埴器		—	
加	細粒	黄物主体	ヨコナダ ナメシガキ ナメシガキ ナメシガキ ナメシガキ 沈殿文	ヨコシガキ ナメシガキ	—	浅黄褐色 (T.5YR6/3)	明褐色 (T.5YR5/6)	非色化? 褐色	—				—
V-48	38	51	19-28区	層位	—	1	胴部	40.5	甕	埴器		—	
加	中粒	黄物主体	ヨコナダ ヨコシガキ 沈殿文状の調整痕 沈殿文	ナメシガキ ヨコナダ ヨコナダ	—	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—				—
V-48	39	51	31-36区	層位	—	1	胴部下位	37.9	甕	埴器		—	
			31-41区	層位	—	2							
			32-36区	層位	—	1							
			32-41区	層位	—	1							
			34-36区	層位	—	1							
加	細粒	黄物主体	ナメシ ナメシガキ	ナメシガキ ナメシガキ	—	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	—				黒色化
V-48	40	51	25-27区	層位	—	8	胴部~ 胴部中央	54.3	甕	埴器		—	
加	細粒	黄物主体	ヨコナダ ナメシガキ 文状調整痕 沈殿文	ヨコシガキ ナメシガキ	粘付部が剥離した 表面 ナメシガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい褐色 (T.5YR7/4)	炭化物付着	—				—
V-48	41	51	25-27区	層位	—	6	胴部中央	49.0	甕	埴器		—	
加	細粒	黄物主体	粘付部 沈殿文 ヨコナダ ナメシガキ	ナメシガキ	(底外面上) 指痕面	浅黄褐色 (10YR8/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—				—

表V-35 32-09区出土VI群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-50	1	52	32-09区	重層	—	5	9.95	(8.2)	4.0	150	口縁～底部	深鉢 (小型)	VI群 後北C式
接合破片総点数			5	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石・鉱物ともあり		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	ナデ イガキ?		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	小突起 一部剥離	口唇部 (40%)							
	微隆起線文 (水平線間) ヨコナデ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (40%)	イガキ? ナデ?	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	微隆起線文 (曲線内溝文) R Lの条 ナデによる浅線文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (50%)	ナデ イガキ?	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	微隆起線文(垂下) R Lの縦走する条		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部下半 ～底部 (50～100%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
裏	ナデ		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離 上げ底状の高台	底面 (40%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—				

表V-36 20-67区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-50	2	52	20-67区	重層	—	59	26.3	25.0	—	1,100	口縁～胴部下位	深鉢	V群c類
接合破片総点数			63	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			19-68・V1 (1)、20-68・V1 (1)、未注記 (2)						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体		量	中量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口唇部 (60%)							
	沈線文 [H, 斜行] ～縦走線文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (60%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	一部剥離			
裏	RL縦走線文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部 (60～30%)	ヨコナデ	褐色 (7.5YR7/6)	黒色化	一部剥離			

表V-37 36-67区出土V群復原土器観察表

図 番 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部 位	器 種	備 考 (分類・型式)			
						器高	口径	底径							
V-50	3	52	36-67区	重器	—	26	16.2	(26.2)	8.2	825	口縁~底部	深鉢	V群c類		
接合破片 総点数		26		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—								
胎 土 (泥和材)		繊維		無		粒径	細~中粒		種類	底物主体		量	中量	備考	有色底物(細粒) 瓦石(最大粒径5mm)
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内			
	神杖工具刻み LR?縄文 ヨコナデ		にふい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化?	—	口 唇 部 (10%)									
	沈線文 RL斜行縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部割離	口 縁 部 (15%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化?	—					
	RL縦走縄文		にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (20%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—					
	RL縦走縄文		にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	一部割離 割離面に 委みられる	胴部下半 ~底部 (30%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	一部割離					
裏	縄文		にふい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	割離 丸底	底 面 (60%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	裏				

表V-38 18-65区出土V群復原土器観察表(1)

図 番 号	図 版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部 位	器 種	備 考 (分類・型式)			
						器高	口径	底径							
V-50	4	53	18-65区	V1 層	—	27	(9.9)	15.2	—	320	口縁~ 胴部上位	深鉢	V群c類		
接合破片 総点数		29		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-65・Ⅲ・(1)、18-66・V1(1)								
胎 土 (泥和材)		繊維		無		粒径	細粒		種類	底物主体		量	少量	備考	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内			
	ナデ?		にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	磨耗	口 唇 部 (85%)									
	穿孔 沈線文 RL縦走縄文		にふい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	補修孔二対 磨耗	口 縁 部 (80%)	ヨコナデ?	にふい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	割離 後 磨耗					
裏	RL縦走縄文		にふい黄褐色 (10YR6/3)	—	磨耗	胴部上位 (70%)	ヨコナデ?	灰白色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	割離 後 磨耗	裏				

表V-39 18-65区出土V群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-50	5	53	18-65区	V1層	—	23	(20.1)	26.2	—	980	口縁～胴部上位	深鉢	V群c類
接合破片総点数			60	接合・同一個体破片出土地点・厚位・遺物番号(点数)			17-65・Ⅱ・(20)、17-66・Ⅱ・(5)、V1(1)、18-65・Ⅱ・(8)、18-66・Ⅱ・(1)、未注記(2)						
胎土(混和材)		繊維	少量	粒径	粗粒	種類	珪石結物ともあり		量	中～多量		備考	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)							
	ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/4)	黒色化	—	口唇部(60%)							
	RL縦走織文 反寫文 曲線的な沈線文		にぶい黄褐色(10YR7/2)	黒色化	一部剥離	口縁部(60%)	ヨコナデ	にぶい褐色(7.5YR6/3)～にぶい褐色(7.5YR6/3)	黒色化	一部剥離			
	RL縦走織文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半(40～20%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	黒色化?	—			
内													

表V-40 32-63区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-50	6	53	32-63区	Ⅱ層	—	13	(14.2)	15.0	(9.1)	380	口縁～底部	深鉢(小型)	V群c類
接合破片総点数			25	接合・同一個体破片出土地点・厚位・遺物番号(点数)			32-62・Ⅱ・(12)						
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	鉱物主体		量	少量		備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)							
	LR顔起刻み		浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	—	口唇部(40%)							
	LR斜行織文 ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部(30%)	ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
	LR斜行織文		にぶい黄褐色(10YR7/4)	炭化物付着	—	胴部上半(20%)	ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
	LR斜行織文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	赤色化 褐色(5YR7/6)	一部剥離	胴部下半～底部(20%)	ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			
内													
底面													
LR織文		にぶい黄褐色(10YR7/4)	黒色化	丸底	底面(10%)								

表V-41 34-65区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-50	7	53	34-65区	Ⅲ層	—	24	(13.9)	—	10.05	540	胴部下位 ~底部	深鉢?	V群c類
接合破片 総点数			32	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			35-66・Ⅲ(7)、V1(1)						
胎土 (混和材)		織織	無	粒径	細粒	種類	紅物主体		量	少量	備考	有色紅物	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR斜行縄文 照組による斜交文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部下半 ~底部 (20~40%)	ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化?	—			
裏	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	底面 (80%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化?	—	裏		

表V-42 19-68区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	8	53	19-68区	V1層	—	32	(20.5)	—	—	560	胴部上位 ~下位	深鉢	V群c類
接合破片 総点数			32	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (混和材)		織織	少量	粒径	細~中粒	種類	若石紅物 ともあり		量	中~多量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	RL斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (30%)	ヨコナデ	灰白色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離			
裏	RL斜行縄文		褐灰色 (10YR6/1)	黒色化 炭化物付着	一部割離	胴部下半 (20%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	一部割離	裏		

表V-43 18-66区出土V群復原土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	9	53	18-66区	V1層	—	17	(20.1)	—	(6.5)	800	胴部上位 ~底部	深鉢	V群c類
接合破片 総点数			28	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-65・Ⅲ(1)、V1(10)						
胎土 (混和材)		織織	無	粒径	細粒	種類	紅物主体		量	少~中量	備考	有色紅物	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR斜行縄文		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部上半 (20%)	ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR8/4)	—	—			
裏	LR斜行縄文		にぶい褐色 (5YR6/4)	黒色化 炭化物付着 赤色化 褐色 (5YR6/6)	一部割離	胴部下半 ~底部 (60%)	ヨコナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	一部割離	裏		

表V-44 18-65区出土V群復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	10	53	18-65K	V1層	—	27	(8.2)	—	11.2	80	胴部下位 ~底部	深鉢?	V群c類
接合破片総点数			52	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			17-65・Ⅱ・(10)・V1(5)、18-65・Ⅲ・(6)、19-65・Ⅱ・(1)、未注記(1)						
胎土(混和材)		繊維	無	粒径	中粒	種類	岩石系物ともあり		量	中量	備考	垂門礫状の岩片	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR斜行縄文	にぶい褐色(7.5YR6/3)	黒色化	一部割離	胴部下半~底部(70%)	ヨコナデ	にぶい褐色(7.5YR7/4)	炭化物付着	—				
裏	LR縄文	灰黄褐色(10YR6/2)	黒色化	—	底面(50%)	ナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	—	—	裏			

表V-45 35-60区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	11	54	35-60K	Ⅱ層	—	21	9.8	—	8.2	190	胴部下位	深鉢	V群c類
接合破片総点数			21	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土(混和材)		繊維	少量	粒径	中~粗粒	種類	岩石主体		量	少~中量	備考	白色岩片	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR斜行縄文 IR縄文	灰黄褐色(10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下位~底部(30%)	ヨコナデ	褐(7.5YR4/3)~ にぶい黄褐色(10YR6/3)	—	—				
裏	IR縄文	灰黄褐色(10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	丸底	底面(60%)	ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	—	—	裏			

表V-46 18-67区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	12	54	18-67K	V1層	—	23	(10.7)	—	5.5	168.4	胴部上位 ~底部	深鉢(小型)	V群c類
接合破片総点数			24	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-67・Ⅱ(1)						
胎土(混和材)		繊維	少量	粒径	細粒	種類	鉱物主体		量	少量	備考	有色鉱物垂門礫状	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR斜行縄文	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	割離 後磨耗	胴部上半(50%)	ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	割離 後磨耗				
裏	LR斜行縄文	浅黄褐色(10YR8/3)	炭化物付着	割離 後磨耗	胴部下半~底部(50~70%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	—	—				
	LR縄文	浅黄褐色(10YR8/3)	—	磨耗 帯減 丸底	底面(50%)	—	—	—	割離	裏			

表V-47 28-65区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	13	54	28-65区	Ⅲ層	—	17	(12.6)	(19.6)	—	360	口縁～胴部中位	深鉢	V群c類 大筒式系
接合破片総点数			29	接合・同一個体破片出土地点・厚位・遺物番号(点数)			28-65・Ⅰ(1)、28-67・Ⅲ(11)						
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	粗粒	種類	鉱物主体		量	少～微量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	神杖工具刻み L点縄文 ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	突起 二か所以上	口 唇 部 (30%)							
	刺突文 沈線文 LR斜行縄文 (縦位施文字)		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	一部割離	口 唇 部 (30%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR7/2~7/4)	黒色化	一部割離			
	刺突文 沈線文 LR斜行縄文 (縦位施文字)		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	補修孔 一か所	胴部上位 ～中位 (30%)	ヨコナデ	にふい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—			

表V-48 19-66区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	厚位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	14	54	19-66区	VⅠ層	—	10	(10.7)	(17.1)	7.0	290	口縁～底部	鉢	V群c類
接合破片総点数			14	接合・同一個体破片出土地点・厚位・遺物番号(点数)			19-66・Ⅲ・(Ⅰ)・VⅠ・(3)						
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	粗粒	種類	岩石主体		量	多量	備考	白色岩片	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	RL捺経刻み		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口 唇 部 (10%)							
	神杖工具刻み RL斜行縄文 沈線文		灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離	口 唇 部 (10%)	ヨコナデ ナメナデ	褐灰色)	黒色化 炭化物付着	一部割離			
	RL斜行縄文		灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離	胴部上半 (30%)	ヨコナデ	褐灰色 (10YR5/1)	黒色化 炭化物付着	—			
	RL斜行縄文 帯による幅広い 沈線文		灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	一部割離	胴部下半 ～底部 (30%)	ヨコナデ	灰白色 (10YR7/1)	黒色化 炭化物付着	—			
内	神杖工具刻み LR?縄文		灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化	一部割離	底 面 (5%)	ナデ	灰白色 (10YR7/1)	黒色化 炭化物付着	—			

表V-49 19-69区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	15	54	19-69区	Ⅲ層	—	6	5.9	(9.6)	4.6	80	口縁~底部	鉢	V群c類
接合破片総点数			13	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-69・V1 (2)、18-70・Ⅲ (2)、19-70・Ⅲ (2)・V1 (1)						
胎土 (原料)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石系物 ともあり		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ?		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	口唇部 (20%)							
	ヨコナデ?		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (20%)	沈線文 ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—			
	沈線文 疎帯 刺突文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部 (40%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—			
	LR斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	胴部上半 (50%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—			
	LR斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	胴部下半 ~底部 (50%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—			
底	LR斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	底面 (20%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	底		

表V-50 31-62区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	16	54	31-62区	Ⅲ層	—	26	(6.25)	—	5.4	98.0	胴部~底部	鉢?	V群c類
接合破片総点数			—	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (原料)		織織	無	粒徑	中~細粒	種類	岩石系物 ともあり		量	—	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	反線文 半截竹管状工具 による刺突文 LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	胴部~底部 (30%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—			
底	LR縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	—	丸底	底面 (50~100%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—	底		

表V-51 18-66区出土V群復原土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	17	55	18-66区	V1層	—	15	5.55	18.0	4.6	110.7	口縁~底部	鉢(小型)	V群c類
接合破片総点数			21	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			17-66・V1(1)、18-65・V1(3)、18-66・Ⅲ(2)						
胎土(混和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	鉱物主体		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	棒状工具による凹み ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化	—	口唇部(50%)							
	注線文 山形注線文 ヨコナデ		灰黄褐色(10YR6/2)~にぶい褐色(7.5YR7/4)	黒色化	—	口縁部(50%)	ヨコナデ(注線文状の調整痕)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化	—			
	ナデ 指環状痕		灰黄褐色(10YR6/2)~にぶい褐色(7.5YR7/4)	黒色化	—	胴部~底部(50~80%)	ヨコナデ	褐色(7.5YR7/6)	黒色化	—			
裏	ナデ		褐灰色(10YR4/1)	黒色化	丸底	底面(90%)	ナデ	浅黄褐色(10YR6/4)	黒色化	—	裏		

表V-52 26-67区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-51	18	55	26-67区	V1層	—	2	4.5	(10.3)	(4.8)	60	口縁~底部	鉢(小型)	V群c類
接合破片総点数			7	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			36-67・I(3)、38-67・Ⅲ(2)						
胎土(混和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体		量	少量	備考		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ?		(灰褐色)	黒色化 炭化物付着	突起?	口唇部(40%)							
	ヨコナデ 注線文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部(40%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
	ヨコナデ 注線文 (LR 砥粒地文?)		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部~底部(50~40%)	ヨコナデ(筋状の痕跡)	(黒褐色)	黒色化	—			
裏	ナデ		褐灰色(10YR6/1)	黒色化	—	底面(40%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	裏		

表V-53 18-66区出土V群復原土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-52	19	55	18-66区	V1層	—	9	13.0	19.3	(6.6)	290	口縁~底部	浅鉢	V群c類
接合破片総点数			9	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (原料材)		繊維	少量	粒径	中~粗粒	種類	岩石系物ともあり		量	中量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	ナデ? 指頭圧痕		(赭灰色)	黒色化	突起 一対	口唇部 (10%)							
	LR斜行縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	一部剥離	口縁部 (10%)	沈線文 指による沈線文 LR縄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—			
	LR斜行縄文 ナデ?		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (10%)	ヨコナデ (沈線文系の調整痕)	浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—			
	LR斜行縄文 ナデ?		灰黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 ~底部 (10%)	ヨコナデ (沈線文系の調整痕)	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化?	—			
裏	不整な装		灰黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	底面 (10%)	ナデ	にふい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化?	—	裏		

表V-54 16-65区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-52	20	55	16-65区	重層	—	10	(12.0)	(20.8)	(10.0)	360	口縁~底部	鉢	V群c類
接合破片総点数			12	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-65・V1②						
胎土 (原料材)		繊維	無?	粒径	中~粗粒	種類	岩石主体		量	中~多量	備考	白色岩片	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	ヨコナデ		灰黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	突起 二か所 残存	口唇部 (15%)							
	RL斜行縄文		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (15%)	RL縄文 ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—			
	RL斜行縄文		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	胴部上半 (20%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	RL斜行縄文		灰黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部下半 ~底部 (20%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
裏	RL縄文		灰黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	—	底面 (5%)	ヨコナデ	灰黄褐色 (10YR4/2)	—	—	裏		

表V-55 18-66区出土V群復原土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-52	21	55	18-66区	V1層	—	5	5.9	(13.5)	(8.2)	160	口縁~底部	鉢	V群c類	
接合破片総点数			6	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			19-65・V(1)							
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	岩石系物ともあり		量	少~中量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	神杖工具刻みLR?縄文		にぶい黄褐色(10YR7/2)	黒色化炭化物付着	一部剥離	口唇部(40%)								
	LR斜行縄文ヨコナデ		灰黄褐色(10YR8/2)	黒色化炭化物付着	一部剥離	口縁部(40%)		ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化炭化物付着	—			
	LR斜行縄文		灰黄褐色(10YR8/2)	—	一部剥離	胴部~底部(40~20%)		ヨコナデ	灰白色(10YR1.1/1)	黒色化炭化物付着	—			
底	LR縄文		にぶい黄褐色(10YR7/4)	—	一部剥離丸底	底面(40%)		ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—	面		

表V-56 17-64区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-52	22	55	17-64区	Ⅲ層	—	13	6.7	(16.4)	8.0	290	口縁~底部	鉢	V群c類	
接合破片総点数			14	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			17-65・V1・(1)							
胎土(泥和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体		量	多量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	縄文? 透指刻み? 神杖工具による刻み		(褐灰色)	黒色化	磨耗	口唇部(50%)								
	LR斜行縄文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—	口縁部(60%)		ヨコナデ	灰白色(10YR8/2)	黒色化	—			
	LR斜行縄文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—	胴部~底部(60%)		ヨコナデ	灰白色(10YR8/2)	黒色化炭化物付着	—			
底	LR斜行縄文		(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—	底面(100%)		ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化	—	面		

表V-57 19-64区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-52	23	56	19-64区	Ⅲ層	—	5	8.3	(18.0)	6.9	290	口縁~底面	浅鉢	V群c類			
接合破片総点数			9	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			18-64・Ⅲ・(3)、19-64・V・(1)									
胎土 (産和材)		繊維	少量	粒径	細粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	垂門形状のチャート					
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
	縄文? 棒状工具刻み		灰黄褐色 (10YR6/2)	炭化物付着	一部剥離	口唇部 (5%)										
	RL斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化炭化物付着	一部剥離	口縁部 (20%)							ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化炭化物付着	—
	RL斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化炭化物付着	一部剥離	胴部~底部 (40~60%)							ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR6/3)	黒色化炭化物付着	—
底面	RL縄文	(褐色)	黒色化炭化物付着	一部剥離丸底	底面 (90%)	ナデ 指掘土痕	(褐色)	炭化物付着	—							

表V-58 34-64区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
V-52	24	56	34-64区	Ⅲ層	—	4	3.6	7.6	5.4	50	口縁~底面	鉢 (手づくね)	V群c類			
接合破片総点数			6	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			33-64・Ⅲ (2)									
胎土 (産和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	動物主体	量	少量	備考						
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内									
	棒状工具刻み ナデ		褐色 (5YR6/6)	—	突起 四ヶ所	口唇部 (60%)										
	LR斜行縄文		褐色 (7.5YR6/6)	炭化物付着	—	口縁部 (60%)							ヨコナデ	褐色 (5YR6/6)	炭化物付着	—
	LR斜行縄文		褐色 (7.5YR6/6)	炭化物付着	一部剥離	胴部~底部 (60%)							ヨコナデ	明赤褐色 (5YR5/6)	—	—
底面	LR縄文	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	—	—	底面 (5%)	ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	—	—							

表V-59 34-35区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)	
							器高	口径	底径					
V-52	25	48	34-35区	V1層	—	13	(9.9)	—	(7.0)	240	胴部上位 ~底部	鉢	V群c類	
接合破片総点数			18	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			31-35・V2(4)・1(1)							
胎土(混和材)		織様	胎量	粒径	中~粗粒	種類	岩石系物ともあり		量	少量	備考	垂門礫状のチャート		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/4)	—	—	胴部上半(20%)	ヨコナデ	褐色(7.5YR6/6)	—	—		面		
	ヨコナデ		にぶい黄褐色(10YR7/4)	—	—	胴部下半~底部(30%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR6/4)	黒色化炭化物付着	—			面	
ナデ		にぶい褐色(7.5YR6/4)	—	高台	底面(10%)	ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—					

表V-60 30-66区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値(cm)			重量(g)	部位	器種	備考(分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-53	28	56	30-66区	Ⅱ層	—	28	12.4	26.5	9.5	740	口縁~底部	浅鉢	V群c類
接合破片総点数			28	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土(混和材)		織様	胎量	粒径	中~粗粒	種類	岩石主体		量	少量	備考	垂門礫状の火山岩片等	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位(残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	RL織文		灰白色(10YR8/2)	黒色化	一部割離	口唇部(40%)							
	棒状工具刻みナデ指頭庄痕		褐色(10YR4/1)	黒色化炭化物付着	—	突起部(100%)							ナデ
	RL縦走織文穿孔		浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化炭化物付着	一部割離	口縁部(40%)	ヨコナデ	浅黄褐色(10YR8/4)	黒色化炭化物付着	一部割離			
	RL縦走織文		にぶい黄褐色(10YR7/4)	黒色化炭化物付着	一部割離	胴部~底部(40~100%)	ヨコナデ	灰黄褐色(10YR5/3)~浅黄褐色(10YR8/3)	黒色化炭化物付着	一部割離			
RL織文		にぶい黄褐色(10YR7/3)	黒色化炭化物付着	一部割離	底面(100%)	ナデ	褐色(7.5YR6/4)	黒色化炭化物付着	一部割離				

表V-61 19-65区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-53	27	56	19-65区	V1層	—	13	13.1	(34.0)	(6.5)	670	口縁~底部	浅鉢	V群c類
接合破片総点数		13	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		—								
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体	量	中~多量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	棒状工具刻み		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	突起あり	口唇部 (15%)							
	突起部: 棒状工具刻み LR斜行縄文		灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化	補修孔	口縁部 (15%)							
	LR斜行縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—	胴部~底部 (15%)							
裏	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	丸底帯減	底面 (50%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 炭化物付着	—			

表V-62 29-68区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-54	28	56	29-68区	重層	—	7	13.9	(20.3)	(16.3)	420	口縁~胴部	角形	V群c類
接合破片総点数		9	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		29-67・Ⅲ・(1)・V2(1)								
胎土 (泥和材)		繊維	微量	粒徑	細粒	種類	紀物主体?	量	微量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	内						
	棒状工具刻み 指頭2個 指頭によるつまみ ナデ R.L縄文		にぶい黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	突起二か所	口唇部 (10%)							
	粘土貼付 棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	突起部 (100%)							
	粘土貼付 棒状工具刻み 穿孔 丸線文 指頭状工具による丸線文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	貼付一部 剥離 赤色顔料	口縁部 (20%)							
	ヨコナデ 刺突文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	赤色顔料	胴部 (30%)							
裏	LR斜行縄文 丸線文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	赤色顔料?	胴部 (15%)	ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—			

表V-63 30-68区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-54	29	57	30-68区	Ⅲ層	—	41	13.0	(18.8) 9.8	7.6 3.9	390	口縁~底部	舟形	V群c類
接合破片総点数			42	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			29-68・Ⅲ・(1)						
粘土 (原料)		織織	無	粒径	細粒	種類	植物主体		量	微~少量		備考	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	
	棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/4) ~にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—		口唇部 (90%)	/					
	粘土貼付 棒状工具刻み 穿孔		にぶい黄褐色 (10YR7/3~6/3)	—	—		突起部 (50%)						
	粘土貼付 棒状工具刻み 花線文 1段Rの端線文		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—		口縁部 (90%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		
	ココナデ		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	一部割離		頸部 (90%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		
	LR斜行縄文		浅黄褐色 (10YR8/3) ~にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	一部割離		胴部~底部 (80~90%)	ナデ 指確土痕	灰黄褐色 (10YR6/2)	炭化物付着	—		
LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	—	—		底面 (40%)	ナデ 指確土痕	灰黄褐色 (10YR6/2)	炭化物付着	—			

表V-64 29-67区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-54	30	57	29-67区	Ⅲ層	—	9	(13.95)	(23.5) (15.1)	—	365	口縁~ 胴部上位	舟形	V群c類
接合破片総点数			25	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			29-66・V1・(1)、28-67・Ⅲ・(5)、28-68・Ⅲ・(16)、29-68・Ⅲ・(2)、29-67・Ⅲ・(2)						
粘土 (原料)		織織	少量	粒径	細粒	種類	植物主体		量	少~中量		備考	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	
	棒状工具刻み ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	割離		口唇部 (45%)	/					
	粘土貼付 棒状工具刻み ナデ 穿孔		にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~灰黄色 (10YR5/1)	黒色化	(口唇部) 刻み		突起部 (50%)						
	貼付 穿孔 花線文 1段L端線文		浅黄褐色 (10YR8/3) ~ (灰黄色)	黒色化?	貼付割離		口縁部 (45%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	一部割離		
	ココナデ 突起貼付 棒状工具刻み		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—		頸部 (30%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化?	—		
	LR縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—		胴部上位 (50%)	ココナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—		

表V-65 19-68区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-55	31	57	19-68区	V1層	—	7	(9.1)	26.0	—	860	口縁~底部	浅鉢 (台付?)	V群c類 台部分残存せず 上皿腹 五角形
接合破片総点数			18	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			19-69・Ⅲ・(2)・V1(2)、20-68・Ⅲ・(3)・IV・(1)、20-69・Ⅲ・(2)・V1(1)						
胎土 (原料材)		織織	少量	粒徑	粗粒	種類	鉱物主体		量	中量	備考	長石	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内
	R1. 縄文		浅黄褐色 (10YR8/4) ~ 黄褐色 (10YR8/6)	黒色化	突起五か所	口唇部 (50%)		/					
	R1. 縄文 ナデ 外面にかけての浅縄文		浅黄褐色 (10YR8/4) ~ 黄褐色 (10YR8/6)	—	—	突起部 (60%)							
	R1. 縄文 突起からの浅縄文 工字文風の浅縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~ 浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口縁部 (50%)		R1. 縄文 浅縄文	浅黄褐色 (10YR8/4) ~ 黄褐色 (10YR8/6)	—	—	一部剥離	
	R1. 縄文 工字文風の浅縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~ 浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	胴部上半 (40~30%)		ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4) ~ 黄褐色 (10YR8/6)	—	—	—	
R1. 斜行縄文 ~ 縦走縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/2) ~ 浅黄褐色 (10YR8/4)	—	台の部分欠損	胴部下半 ~ 底部 (30~60%)		ナデ	黄褐色 (10YR8/6)	—	—	一部剥離		

表V-66 25-62区出土V群復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-56	32	57	25-62区	Ⅲ層	—	22	7.0	41.4 31.0	11.9	860	口縁~底部	皿形	V群c類
接合破片総点数			28	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			34-64・Ⅲ(6)						
胎土 (原料材)		織織	少量	粒徑	中~粗粒	種類	岩石主体		量	中量	備考	垂門障状ナット他	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内
	浅縄文 L.R? 縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	突起二か所	口唇部 (30%)		/					
	L.R 縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	一部剥離	口縁部 (30%)							
	L.R 縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	—	一部剥離	胴部~底部 (50%)		ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	一部剥離		
ナデ?		にぶい黄褐色 (10YR8/4)	—	一部剥離	底面 (40%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	一部剥離			

表V-67 包含層出土V群破片土器観察表(1)

図	番号	図例	出土地点	層位	遺物番号		破片数 合計	破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考(型式)
					支片	外片						
出土(埋蔵)材		粒径	種類	形状	文様	内面	(部位)	外面	内面	磨損の外観		
V-57	1	58	30-60区 30-60区	磨盤	—	1 13	14	口縁～ 胴部上段	149.0	深鉢	V群e類	外面一部割断
加	粗粒	—	石灰石 (重厚層状石片)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) L1, 磨盤跡のみ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	黒化 灰化物付着
V-57	2	58	36-60区 36-60区	磨盤	—	6 6	12	口縁～ 胴部上段	211.2	深鉢	V群e類	内外面一部割断
加	粗粒	—	灰物主体 (灰石)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 灰, 縄文	浅黄褐色 (7.5YR8/6) ～ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	黒化
V-57	3	58	29-60区	磨盤	—	—	3	口唇部	90.0	深鉢	V群e類	外面一部割断
加	中～粗粒	—	石灰石 ともにもあり (重厚層状)	—	—	—	ココナデ	(口唇部～外面) L1, 磨盤跡のみ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	黒化 灰化物付着
V-57	4	58	18-60区 19-60区	少量	—	—	3	口唇部	121.8	深鉢	V群e類	—
加	細粒	—	灰物主体	—	—	—	ココナデ	(口唇部～外面) 神杖上段のみ (口唇部～内面) L1, 縄文	浅黄褐色 (10YR8/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	黒化 灰化物付着
V-57	5	58	19-60区	V1層	—	—	7	口縁～ 胴部上段	97.4	深鉢	V群e類	—
加	中粒	—	石灰石 ともにもあり	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 灰, 縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	黒化 灰化物付着
V-57	6	58	19-60区 21-60区	V層	—	—	4	口唇部	69.8	深鉢	V群e類	突起部分 内面一部割断
加	中粒	—	石灰石 ともにもあり	—	—	—	ココナデ	(口唇部) ナデ L1, 縄文 (口唇部～内面) L1, 縄文	にぶい黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	黒化
V-58	7	58	35-60区	磨盤	—	—	8	口縁～ 胴部上段	41.5	深鉢	V群e類	突起あり
加	細粒	—	灰物主体 (有色灰物)	—	—	—	ココナデ	(口唇部～内面) 浅黄文 灰, 縄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—
V-58	8	58	28-60区	磨盤 V1層	—	—	5	口縁～ 胴部上段	153.8	深鉢	V群e類	—
小～中粒	粗粒	—	石灰石 (白色中～粗粒?)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 神杖上段のみ L1, 縄文	浅黄褐色 (10YR8/4) ～灰褐色 (10YR4/2)	にぶい黄褐色 (10YR7/4) ～灰褐色 (10YR6/2)	—	黒化 灰化
V-58	9	58	18-60区	V1層	—	—	3	口唇部	43.6	深鉢	V群e類	—
加	細粒	—	灰物主体	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 神杖上段のみ 灰, 縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	(口唇部) 黒化
V-58	10	58	18-60区	磨盤	—	—	3	口唇部	51.9	深鉢	V群e類	内面 穿孔部中の輪郭のみ一部劣
加	中～粗粒	—	石灰石 ともにもあり	—	—	—	ココナデ	(口唇部～外面) 神杖上段のみ (口唇部～内面) L1, 縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/4) ～にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	黒化
V-58	11	58	17-60区	磨盤	—	—	5	口縁～ 胴部上段	75.8	深鉢	V群e類	輪郭のみ一部 全体の割断
加	細粒	—	灰物主体	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 新黄文 (小突起のみ劣す)	浅黄褐色 (10YR8/3)	(黄褐色)	—	黒化 灰化物付着
V-58	12	58	30-60区 31-60区	磨盤	—	—	3	口唇部	66.5	深鉢	V群e類	外面割断
加	細粒	—	灰物主体	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 灰, 磨盤跡のみ 灰, 縄文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/4) ～灰白色 (10YR8/2)	—	黒化
V-58	13	58	28-60区 29-60区 29-60区	磨盤 V1層	—	—	4	口唇部	39.5	深鉢	V群e類	突起あり
加	細粒	—	灰物主体	—	—	—	ココナデ	(口唇部) 浅黄文状の磨盤跡	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	黒化 灰化
V-58	14	58	27-60区	磨盤	—	—	4	口唇部	50.7	深鉢	V群e類	—
加	中～粗粒	—	石灰石 ともにもあり (重厚層状)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) L1, 縄文	浅黄褐色 (7.5YR8/4 ～10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	黒化
V-58	15	58	18-60区	磨盤	—	—	3	口縁～ 胴部上段	36.5	深鉢	V群e類	—
少～中粒	細粒	—	石灰石 ともにもあり (少量)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) (穿孔による 数10の穿孔?)	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—
V-58	16	58	34-60区 34-60区	磨盤 V1層	—	—	5	口唇部	32.9	深鉢	V群e類	—
加	中粒	—	石灰石 ともにもあり (中粒)	—	—	—	ココナデ	(口唇部～内面) 浅黄文	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—
V-58	17	58	34-60区	磨盤	—	—	13	口縁～ 胴部上段	86.6	浅鉢	V群e類	穿孔二か所 一部割断 大型車
加	細粒	—	灰物主体 (有彩色目立つ?)	—	—	—	ココナデ	(口唇部) L1, 縄文 ナデナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	黒化 灰化

表V-67 包含層出土V群破片土器観察表(2)

図	番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(型式)	
						文書・具	合計						
出土(埋蔵材)		粒径	種類	層位	文書・具	外周	内周	(部位)	外周	内周	使用の内外	内外	
V-59	18	59	28-60区	最層	—	—	5	口縁～ 胴部上段	23.4	浅鉢	V群c型	突起部・ 丸底式系	
別		細粒粒	灰物土器主片	—	上文字 突起 1点破文	—	—	沈濁文 L点破文	(口縁部) 1文字 (口縁部～内面) 沈濁文	にぶい黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	
V-59	19	59	34-60区 34-60区	最層 V層	—	—	3 1	4	口縁部	32.0	浅鉢	V群c型	突起部・ 丸底式系
別		細粒	灰物土器	—	沈濁文 L点破文	—	—	刺突文 L点破文 ヨコナデ	(口縁部) 神杖・工具柄杓	褐色 (10YR8/4)	褐色 (10YR4/7)	黒色化 灰化物付着	
V-59	20	59	29-60区	最層	—	—	4	口縁部	40.9	浅鉢	V群c型	突起部・ 丸底式系	
別		細粒	灰物土器 (石灰目立つ)	—	刺突文 L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	(口縁部) 神杖・工具柄杓	にぶい褐色 (7.5YR6/2)	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	
V-59	21	59	28-60区	最層	—	—	5	口縁～ 胴部上段	58.0	深鉢	V群c型	突起部・ 内面一段割離	
別		中粒	石灰灰物 ともにもあり	—	L点破文 L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	(口縁部) L点破文 ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	
V-59	22	59	29-60区	最層	—	—	4	口縁部	35.1	浅鉢	V群c型	外周一段割離	
別		細～中粒	石灰灰物 ともにもあり	—	沈濁文 L点破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部) 神杖・工具柄杓 L点破文	(褐色) (褐色)	(褐色)	黒色化 灰化物付着	
V-59	23	59	28-60区 29-60区	最層 V層	—	—	3	口縁部	46.3	浅鉢	V群c型	突起部	
別		細粒	灰物土器 (有色彩目立つ)	—	沈濁文 L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	神杖・工具柄杓 L点破文 ヨコナデ	(口縁部～内面) 神杖・工具柄杓 L点破文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	灰黄褐色 (7.5YR6/4)	—	
V-59	24	59	18-60区	最層	—	—	3	口縁部	35.6	浅鉢?	V群c型	—	
別		細粒	灰物土器	—	刺突文 L点破文 ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	(口縁部) L点破文 ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	灰化物付着	
V-59	25	59	27-60区	最層 V層	—	—	1 1	2	口縁～胴部	26.4	浅鉢	V群c型	突起部・ 丸底式系
別		少量	灰物土器	—	穿孔・沈濁文 斜行・棒状破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部～内面) 神杖・工具柄杓 L点破文	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 灰化物付着	
V-59	26	59	30-60区	最層	—	—	2	口縁部	45.3	浅鉢?浅?	V群c型	突起部・ 外周一段割離	
別		少量	灰物土器	—	L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	(口縁部～内面) 神杖・工具柄杓 L点破文 ヨコナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	灰黄褐色 (10YR8/2)	黒色化 灰化物付着	
V-59	27	59	19-60区	最層	—	—	3	口縁～底部	36.3	浅鉢?浅?	V群c型	突起部	
別		細粒	灰物土器 (有色彩目立つ)	—	穿孔 L点破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部) L点破文 (底面) L点破文	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	
V-59	28	59	30-60区	最層 V層	—	—	2 1	3	口縁～底部	37.1	浅鉢	V群c型	外周一段割離
別		細粒	灰物土器 (有色彩目立つ)	—	沈濁文 L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	沈濁文 ヨコナデ	(口縁部) 神杖・工具柄杓 1文字 (底面)	にぶい黄褐色 (7.5YR7/3)	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化 灰化物付着	
V-59	29	59	31-60区	最層	—	—	2	口縁部	24.7	浅鉢	V群c型	突起部・ 丸底式系	
別		細粒	灰物土器	—	沈濁文 L点破文 L点破文 ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	(口縁部～外周) L点破文 ヨコナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 灰化物付着	
V-60	30	59	31-60区	F最層 F中層	—	—	1 3	3	口縁部	36.1	浅鉢	V群c型	外周一段割離
別		中粒	石灰灰物 ともにもあり	—	沈濁文 L点破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部) 1文字	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	
V-60	31	59	33-60区	最層	—	—	2	口縁部	11.7	浅鉢	V群c型	突起部 全体の割離	
別		細粒	灰物土器 (有色彩物)	—	穿孔・刺突文 L点破文 右1か所の凸	—	—	刺突文 ヨコナデ	(口縁部) ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	
V-60	32	59	28-60区	最層	—	—	1	口縁部	15.3	浅鉢	V群c型	突起部	
別		細～少量	灰物土器 (有色彩物)	—	穿孔・沈濁文 L点破文	—	—	沈濁文	(口縁部) 沈濁文・ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	
V-60	33	59	19-60区 19-60区	V層 V層	—	—	2 11	13	口縁～ 胴部中粒	141.8	鉢	V群c型	内面 凹面欠れ
別		細	中粒	—	L点破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部) ヨコナデ	灰白色 (10YR8/2)	浅黄褐色 ～にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 灰化物付着?	
V-60	34	59	18-60区	最層	—	—	2	口縁部	32.5	浅鉢?浅?	V群c型	—	
別		細	石灰灰物 ともにもあり	—	L点破文 L点破文	—	—	ヨコナデ	(口縁部) 凹面欠れ (小底面を写す点)	にぶい黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	
V-60	35	59	29-60区	V層	—	—	6	口縁～胴部	62.0	浅鉢	V群c型	灰化物付着	
別		細	中～細粒	—	石灰灰物 (白色印付)	—	—	ヨコナデ	(口縁部) 神杖・工具柄杓 L点破文	灰白色 (10YR8/2)	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	

表V-67 包含層出土V群破片土器観察表(3)

図	番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(型式)
						文書・漆器	小計					
		種類	種類	種類	文書	外書	内面	外面	内面	外面	内面	備考
■	V-00	36	60	18-06区	V層	—	2	口縁部	0.0	浅鉢?片?	V群c類	—
■	加	細~中粒	灰褐色	底物主体 ともにもあり	LJ群行~ 尾志織文	ヨコナテ	(口縁部) 神杖工具付片 (片断取らず)	灰黄褐色 (10YR8/3)	0.0	浅鉢?片?	V群c類	黒色化
■	V-00	37	60	34-66区	V層	—	9	口縁部 胴部~中粒	78.0	鉢	V群c類	内面一部割断
■	加	細~中粒	灰褐色 (有彩色物付?)	底物主体	LJ群行織文	ヨコナテ	(口縁部) LJ織文	灰黄褐色 (10YR7/3)	78.0	鉢	V群c類	黒色化?
■	V-00	38	60	29-06区	V層	—	0	口縁部	44.3	鉢	V群c類	—
■	加	細~中粒	灰褐色 ともにもあり	底物主体	LJ群行織文	ヨコナテ	(口縁部) LJ群縁部	灰黄褐色 (7.5YR7/4)	44.3	鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着
■	V-00	39	60	22-66区	V層	—	3	口縁部	55.7	浅鉢	V群c類	実測部分 外面一部割断
■	加	細~中粒	灰褐色 ともにもあり (多量)	底物主体	LJ群行織文	ヨコナテ	(口縁部) 短・壁縁部	灰黄褐色 (10YR7/3)	55.7	浅鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着
■	V-01	40	60	23-56区	V層	—	1	口縁部	61.2	浅鉢?片?	V群c類	—
■	中量	短粒	灰褐色 (底物主体 底物主体付着)	穿孔 LJ群行織文	LJ群行織文 ヨコナテ	(口縁部) LJ織文 (口縁部~内面) 神杖工具付片	灰黄褐色 (7.5YR7/3)	61.2	浅鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着	
■	V-01	41	60	25-66区	V層	—	8	口縁部	140.6	浅鉢	V群c類	実測一部分 内面一部割断
■	加	短粒	灰褐色 (底物主体 底物主体付着)	穿孔 LJ群行織文	円形刺突文 LJ織文 ヨコナテ	(口縁部) 神杖工具付片 ヨコナテ	灰黄褐色 (7.5YR7/3)	140.6	浅鉢	V群c類	—	
■	V-01	42	60	17-66区	V層	—	6	口縁部~底面	204.0	浅鉢	V群c類	外面一部割断・磨耗 4と同一様
■	加	短粒	底物主体 (石灰目立つ?)	LJ群織文	ヨコナテ	(口縁部~内面) 円形刺突文 神杖工具付片 長縄織文 長縄縁部	灰黄褐色 (10YR7/3)	204.0	浅鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着	
■	V-01	43	60	25-06区	V層	—	7	口縁部 胴部~中粒	141.2	浅鉢	V群c類	内外面一部割断
■	加	短粒	灰褐色 ともにもあり (石灰・火山灰等)	LJ群織文	LJ群織文 ヨコナテ	(口縁部) 神杖工具付片 ヨコナテ	灰黄褐色 (10YR7/3)	141.2	浅鉢	V群c類	黒色化 (口縁部) 着色 (7.5YR4/5)	
■	V-02	44	60	17-66区	V層	—	4	口縁部	101.0	浅鉢	V群c類	実測一部分 外面一部割断
■	加	細~中粒	底物主体 (石灰目立つ?)	LJ群織文	円形刺突文 神杖工具付片 長縄縁部 ヨコナテ	(口縁部~内面) 神杖工具付片 長縄縁部 ヨコナテ	灰黄褐色 (10YR7/4)	101.0	浅鉢	V群c類	—	
■	V-02	45	60	32-66区	V層	—	4	口縁部~胴部	113.5	浅鉢	V群c類	実測一部分 外面 磨耗 内面一部割断
■	加	短粒	底物主体 (石灰目立つ?)	LJ群織文	LJ群織文 ヨコナテ	(口縁部) 神杖工具付片 LJ群縁部	灰黄褐色 (7.5YR7/4)	113.5	浅鉢	V群c類	灰化物付着?	
■	V-02	46	60	27-06区	V層	—	9	口縁部~胴部	68.2	浅鉢	V群c類	外面 磨耗・割断
■	加	中粒	灰褐色	底物主体	短・織文 ヨコナテ	神杖工具付片 LJ群織文	灰黄褐色 (10YR7/3)	68.2	浅鉢	V群c類	—	
■	V-02	47	60	28-06区	V層	—	2	口縁部	61.7	浅鉢	V群c類	実測部分 底物 石灰目立つ
■	細~少量	短粒	灰褐色 (底物主体 底物主体付着)	短・織文	LJ群織文 ヨコナテ	(口縁部) 神杖工具付片 LJ群縁部	灰黄褐色 (10YR6/1)	61.7	浅鉢	V群c類	黒色化	
■	V-02	48	60	18-06区	V層 V層	—	2	口縁部	33.1	浅鉢	V群c類	実測部分
■	少量?	短粒	底物主体 (石灰目立つ?)	LJ群織文	刺突文 長縄織文 ヨコナテ	(口縁部~内面) 神杖工具付片 長縄縁文	灰黄褐色 (10YR6/4)	33.1	浅鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着	
■	V-02	49	60	18-06区	V層	—	1	口縁部	61.7	浅鉢	V群c類	実測部分
■	加	中粒	底物主体 (石灰目立つ?)	穿孔 LJ群織文	沈濁文 LJ群織文	(口縁部~内面) 神杖工具付片 七二五~帯内 縁部	灰黄褐色 (10YR6/4)	61.7	浅鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着 (沈濁文内) 着色(石灰目立つ)	
■	V-02	50	60	17-66区	V層	—	0	胴部~中粒	359.6	深鉢	V群c類	外面一部割断
■	加	短粒	底物主体	底物主体 刺突文 短・織文~ 刺突文	ヨコナテ	—	—	—	359.6	深鉢	V群c類	黒色化 灰化物付着
■	V-02	51	60	27-06区	V層	—	2	口縁部	26.1	浅鉢	V群c類	実測部分 外面一部割断
■	加	短粒	底物主体 (有彩色物)	粘土付付 穿孔 沈濁文 短・織文	ヨコナテ	(口縁部) ナテ L字ナ	灰黄褐色 (10YR6/3)	26.1	浅鉢	V群c類	黒色化	
■	V-02	52	60	28-06区	V層 V層	—	2	口縁部	14.5	浅鉢?片?	V群c類	実測部分 内面一部割断
■	微量	細~中粒	灰褐色 (底物主体 底物主体付着)	粘土付付 刺突文 LJ群織文	ヨコナテ	(口縁部) ナテ 神杖工具付片	灰黄褐色 (7.5YR7/4)	14.5	浅鉢?片?	V群c類	—	

表V-67 包含層出土V群破片土器観察表(4)

図	番号	図層	出土地点	層位	遺物番号		破片数 合計	破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考(型式)
					文書・書契	小計						
出土(埋没)材		形状	種類	用途	文書・書契	小計	内面	外面	内面	外面	内面	内面
V-03	53	60	17-08区	黒層	—	1	口縁部	—	15.0	舟形	V群c型	突起部分
加		細粒	岩石系物 とももあり	粘土層付 穿孔 瓦片文 ココナテ	—	—	(口縁部) 神杖工具片 ナテ	—	—	—	—	—
V-03	54	60	19-06区	V1層	—	2	口縁部	—	48.1	浅鉢 (特殊形)	V群c型	—
微量		細粒	灰物主体	穿孔、瓦片文 瓦片綴文 ココナテ	—	—	(口縁部) 神杖工具片 ココナテ	—	—	—	—	—
V-03	55	60	17-08区	V1層	—	1	口縁部	—	26.7	浅鉢	V群c型	突起部分 外底一枚割
少量		細~中粒	岩石系物 とももあり	瓦片綴文	—	—	瓦片文 和文文 瓦片綴文	(口縁部) ナテ	—	—	—	—
V-03	56	60	25-08区	黒層	—	2	口縁部	—	16.8	鉢	V群c型	—
少量		細粒	灰物主体 (少量)	—	ナテ	—	ココナテ	(口縁部) 瓦片綴文	—	—	—	—
V-03	57	60	30-04区	黒層	—	3	口縁部	—	10.1	鉢(小型)	V群c型	内外面一枚割
微量?		細粒	灰物主体 (有色灰物)	瓦片綴文 瓦片綴文	—	—	ココナテ	(口縁部~内面) 瓦片綴文	—	—	—	—
V-03	58	60	30-08区	黒層	—	1	口縁部	—	7.3	鉢	V群c型	—
加		細粒	岩石系物 とももあり	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(口縁部) 神杖工具片 瓦片綴文	—	—	—	—
V-03	59	60	18-08区	V1層	—	1	口縁部	—	7.5	鉢	V群c型	—
加		細粒	岩石系物 とももあり	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(口縁部) 神杖工具片 瓦片綴文	—	—	—	—
V-03	60	60	28-08区	V2層	—	1	口縁部	—	1.8	鉢 (小型特殊)	V群c型	—
加		細粒	灰物主体 (有色灰物)	神杖工具片による 灰物綴文 瓦片文	—	—	ココナテ	(口縁部) 鉢身	—	—	—	—
V-03	61	60	19-08区	黒層	—	3	口縁部	—	33.5	鉢(リッ 子製型?)	V群c型	—
加		中粒	岩石系物 (白色石灰)	瓦片綴文 瓦片綴文	—	—	ココナテ ナテナテ 御形瓦	(口縁部) ナテ 御形瓦	—	—	—	—
V-04	62	61	27-08区	黒層	—	2	底面	—	20.9	鉢形	V群c型	—
微量?		細粒	灰物主体 (有色灰物)	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	63	61	29-78区	黒層	—	1	底面	—	40.1	鉢形	V群c型	内外面一枚割
加		中粒	岩石系物 とももあり (最大径7mm 白色石灰)	瓦片綴文 瓦片綴文	—	—	ナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	64	61	28-08区	黒層	—	2	底面	—	52.2	鉢形	V群c型	—
少量		細粒	灰物主体	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	65	61	18-08区	V1層	—	2	底面	—	34.6	鉢	V群c型	内面一枚割
加		細~中粒	岩石系物 とももあり	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	66	61	18-06区	黒層	—	2	底面	—	63.4	鉢	V群c型	外底一枚割
加		細~中粒	岩石系物 とももあり	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	67	61	18-04区	黒層	—	4	製型下位 ~底面	—	51.3	鉢	V群c型	—
少量?		細粒	岩石系物 (少量)	瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片綴文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	68	61	28-08区	V1層	—	14	底面	—	390.0	鉢形	V群c型	—
少量?		粗粒	岩石系物	瓦片綴文	—	—	ナテ	—	—	—	—	—
V-04	69	61	17-06区	黒層	—	1	底面 (高台)	—	69.6	舟形の 特殊形	V群c型	—
加		中粒	岩石系物	瓦片綴文の 突起部 瓦片綴文 ナテ	—	—	ナテ	(高台内面) ナテ	—	—	—	—
V-04	70	61	30-08区	V層	—	4	口縁部~底面	—	15.5	鉢(小型)	V群c型	内外面一枚割
加		細粒	灰物主体 (有色灰物含む?)	瓦片綴文 瓦片綴文	—	—	ココナテ	(口縁部) 瓦片文 (底面) 瓦片文 (底面) ナテ	—	—	—	—
V-04	71	61	18-08区	V1層	—	2	製型~底面	—	13.9	鉢 (小型)	V群c型	内面1/3割
微量		細~中粒	岩石系物 (白色石灰)	瓦片綴文 瓦片綴文	—	—	ココナテ	(底面) 瓦片文 (底面) ナテ	—	—	—	—

表V-67 包含層出土V群破片土器観察表(5)

図	番号	図取	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(加工)	
						小計	合計						
土器(注和材)													
輪郭		径径	種類	文様・装束	文様	外装	内面	(部位)	外装	内面	使用の痕跡		
V-64		72	61	29-30区	裏面	—	1	3	製法→底面	80.3	鉢	V群+類	—
加		細粒	底物主体	石片配物 とももあり	L.R.行線文	—	—	ココナデ	(底外面)L.R.線文 (底内面)ナデ	褐色色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒化 炭化物付着	黒化 炭化物付着
V-64		73	61	26-28区	裏面	—	3	3	製法	19.9	角皿	V群+類	—
加		細粒	底物主体	—	穿孔 孔二ホ一組線文 ナデ	—	—	ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒化 炭化物付着 黄色染料? にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—
V-64		74	61	27-28区	裏面	—	2	2	製法	11.8	鉢?	V群+類	内面→底面
少量		細粒	底物主体 (有色配物付)	—	赤褐色線文 五稜線文 ココナデ	—	—	ココナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	赤黄褐色 (10YR6/2)	黒化	—
V-64		75	61	27-28区	V上層	—	1	1	製法	9.8	鉢	V群+類	—
加		中粒	底物主体 とももあり (多量 有色配物 塗布確認済)	—	L.R.線文 ココナデ 沈濁文状の 凹線	—	—	ココナデ	—	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—
V-64		76	61	27-28区	V上層	—	1	6	製法	22.9	碗? (小型)	V群+類	—
加		細粒	底物主体 (有色配物付)	—	沈濁文? L.R.線文?	—	—	ナデ 凹線付	—	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒化 炭化物付着 赤色染料? 褐色 (10YR7/6)	黒化
V-64		77	61	27-28区	V上層	—	1	2	貼付部分	17.3	特殊形器?	V群+類	—
少量		細→中粒	底物主体 (有色配物付)	—	(表面) 穿孔 L.R.線文 ナデ	—	—	(表面) ナデ 凹線付	(表面) L.R.凹線付	(表面) 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	(表面) 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	(表面) 黒化	(表面) 黒化

表V-68 包含層出土土製品観察表

図	番号	図取	出土地点	層位	遺物番号	破片数		計測値(mm)			重量(g)	器種	分類	備考
						小計	合計	最大長	最大幅	最大厚				
土器(注和材)														
輪郭		径径	種類	文様・装束	表面	裏面	その他の部			色調	使用の痕跡			
V-49		42	52	18-27区	裏面	—	1	4.90	4.90	2.60	57.43	磁罏	V群	表面:中央部凸 側面:台形
加		細粒	底物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR7/3)	—	十文字の跡
V-49		43	52	34-35区	裏面	—	1	(4.20)	(2.3)	2.00	(16.99)	磁罏	V群	側面:浅凸(凸) 表面:中央部凸
加		細粒	底物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	黒化
V-56		33	52	22-40区	裏面	—	1	(2.30)	(2.90)	1.90	14.16	土製品? 器の底座?	V群?類?	表面:磨耗
加		細粒	底物主体	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黄褐色 (10YR6/4)	—	—
V-56		34	52	33-41区	裏面	—	4	(2.00)	1.50	1.50	3.5	耳栓	V群	平形(約9%残存) 配合できない小片あり
加		中粒	底物主体 とももあり (塗布確認済)	(表面) 紅文	(表面) ナデ	(表面) ナデ	—	(表面) ナデ	(表面) ナデ	(表面) ナデ	(表面) 褐色 (5YR7/6)	(表面) 黄褐色 (10YR6/4)	—	—
V-56		35	52	19-41区	V上層	—	1	(2.40)	(2.90)	1.50	6.5	土製品	V群+類	黒化 炭化物付着
加		細粒	底物主体 (塗布確認済)	—	穿孔 L.R.線文	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 L.R.線付	灰褐色 (10YR6/1)	灰褐色 (10YR6/1)	黒化 炭化物付着

表V-69 包含層(Ⅲ層)出土掲載石器等観察表

図	番号	図版	グリッド	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	残存形態	備考
						長さ	幅	厚さ				
V-65	1	62	28-66区	Ⅲ層	石鏃	2.7	0.9	0.3	0.56	黒曜石	完形	
V-65	2	62	29-66区	Ⅲ層	石鏃	2.7	1.4	0.4	0.96	黒曜石	完形	
V-65	3	62	37-19区	Ⅲ層	石鏃	1.9	0.7	0.2	0.17	黒曜石	完形	
V-65	4	62	31-78区	Ⅲ層	石鏃	1.6	1.0	0.3	0.28	黒曜石	完形	
V-65	5	62	36-66区	Ⅲ層	石鏃	2.3	1.5	0.3	0.68	黒曜石	完形	
V-65	6	62	19-70区	Ⅲ層	石鏃	2.6	1.3	0.3	0.83	黒曜石	完形	
V-65	7	62	27-66区	Ⅲ層	石鏃	3.6	1.5	0.4	1.47	黒曜石	完形	
V-65	8	62	20-60区	Ⅲ層	石鏃	1.1	0.6	0.2	0.10	黒曜石	完形	
V-65	9	62	25-65区	Ⅲ層	石鏃	1.7	0.7	0.3	0.22	黒曜石	完形	
V-65	10	62	25-65区	Ⅲ層	石鏃	1.9	1.1	0.3	0.38	黒曜石	完形	
V-65	11	62	31-35区	Ⅲ層	石鏃	1.7	0.9	0.3	0.28	黒曜石	完形	
V-65	12	62	22-61区	Ⅲ層	石鏃	2.8	1.0	0.4	0.76	黒曜石	完形	
V-65	13	62	18-64区	Ⅲ層	石鏃	2.8	1.1	0.2	0.62	黒曜石	完形	
V-65	14	62	19-59区	Ⅲ層	石鏃	2.4	1.0	0.3	0.41	黒曜石	完形	
V-65	15	62	27-67区	Ⅲ層	石鏃	2.6	1.2	0.4	0.71	黒曜石	完形	
V-65	16	62	33-30区	Ⅲ層	石鏃	(2.9)	1.4	0.5	(1.3)	黒曜石	準完形	
V-65	17	62	36-66区	Ⅲ層	石鏃	2.4	1.4	0.6	0.97	黒曜石	完形	
V-65	18	62	34-68区	Ⅲ層	石槍・ナイフ	4.2	2.2	0.9	6.54	黒曜石	半形	
V-65	19	62	23-59区	Ⅲ層	石槍・ナイフ	7.7	3.7	1.2	26.5	頁岩	完形	
V-65	20	62	18-66区	Ⅲ層	石鏃	3.1	0.9	0.6	2.00	メノウ	完形	
V-65	21	62	17-64区	Ⅲ層	石鏃	5.4	3.3	0.9	6.15	黒曜石	完形	
V-65	22	62	29-55区	Ⅲ層	つまみ付ナイフ	4.2	2.7	0.7	5.01	頁岩	完形	
V-65	23	62	24-61区	Ⅲ層	つまみ付ナイフ	3.6	1.7	0.7	5.00	黒曜石	完形	
V-65	24	62	21-60区	Ⅲ層	スクレイパー	(0.52)	2.4	1.4	(14.8)	黒曜石	完形	
V-65	25	62	29-65区	Ⅲ層	スクレイパー	5.4	4.3	1.0	13.9	黒曜石	完形	
V-65	26	62	34-65区	Ⅲ層	スクレイパー	5.0	2.3	1.1	8.70	黒曜石	完形	
V-65	27	62	17-64区	Ⅲ層	スクレイパー	4.4	6.4	1.1	23.6	黒曜石	完形	
V-65	28	62	26-65区	Ⅲ層	スクレイパー	4.8	5.0	0.9	15.0	黒曜石	完形	
V-65	29	62	29-65区	Ⅲ層	スクレイパー	4.6	4.3	1.2	22.6	黒曜石	完形	
V-65	30	62	27-67区	Ⅲ層	スクレイパー	3.9	3.9	1.0	15.2	黒曜石	完形	
V-65	31	62	26-66区	Ⅲ層	スクレイパー	3.0	3.0	1.5	13.2	黒曜石	完形	
V-66	32	62	16-64区	Ⅲ層	石核	1.4	2.5	2.0	6.35	黒曜石	*	
V-66	33	62	19-60区	Ⅲ層	棒状原石	6.3	2.0	1.0	17.4	黒曜石	完形	
V-66	34	62	20-59区	Ⅲ層	磨製石斧	4.6	1.2	0.5	5.40	凝岩	完形	
V-66	35	62	27-53区	Ⅲ層	磨製石斧	10.4	4.8	1.5	96.3	緑色泥岩	完形	
V-66	36	62	24-65区	Ⅲ層	磨製石斧	8.5	5.9	2.9	240	緑色泥岩	半形	
V-66	37	62	36-67区	Ⅲ層	磨製石斧	8.8	5.2	1.4	104	緑色泥岩	半形	
V-66	38	62	32-80区	Ⅲ層	すり石	(8.75)	5.5	1.1	(74.1)	砂岩	片	
V-66	39	62	29-66区	Ⅲ層	たたき石	8.0	6.3	2.5	220	砂岩	半形	
V-66	40	62	30-42区 34-38区	Ⅲ層	砥石	9.2	10.8	3.5	362	砂岩	片	
V-66	41	62	29-66区	Ⅲ層	砥石 (矢柄研磨器)	10.0	6.1	2.5	100	軽石	片	
V-66	42	62	33-80区	Ⅲ層	台石	(7.8)	10.8	4.2	(504)	安山岩	準完形	
V-66	43	62	31-40区	Ⅲ層	玉	3.0	1.4	0.7	2.44	凝灰岩	片	

表V-70 遺構出土鉄製品一覽

図	番号	図版	分類	遺構	層位	大きさ(現存 cm)			重量 (g)	遺物番号	備考
						長さ	幅	厚さ			
V-67	1	62	刀子	UH-7	床面	4.1	1.1	0.3	2.50	58	
V-67	2	62	棒状品	UH-7	覆土	1.6	0.5	0.3	0.62	14	

表V-71 包含層出土鉄製品一覽

図	番号	図版	分類	グリッド	層位	大きさ(現存 cm)			重量 (g)	備考	
						長さ	幅	厚さ			
V-67	3	62	刀子	31-41区	Ⅲ層	2.7	0.9	0.2	1.46	接合	同一個体
						7.7	0.9	0.25	7.03		
							1.3	0.3			
V-67	4	62	刀子	35-20区	Ⅲ層	2.0	1.5	0.3	1.94		
V-67	5	62	棒状品	33-38区	Ⅲ層	1.7	0.9	0.6	1.57		

VI章 成果と問題点

1. 遺構について (図VI-1)

本事業でのキウス5遺跡の調査は平成15・16・18～21 (2003・2004・2006～2009)年度の6か年を費やし、旧石器時代からアイヌ文化期の遺構・遺物を確認した。本書は縄文時代晩期・続縄文文化期・擦文文化期の報告で、縄文時代後期・中期・旧石器時代については、次に刊行予定の『千歳市キウス5遺跡(10)』で報告する予定である。

ここではキウス5遺跡の台地及び低位部で確認した、縄文時代晩期・擦文文化期・アイヌ文化期(近世)の遺構についてまとめる。それぞれの遺構の詳細は、台地部は本書第IV章を、低位部は『千歳市キウス5遺跡(8)』(北埋調報251)を参照願いたい。

キウス5遺跡のⅢ層の遺構は、住居跡11軒・土坑18基・柱穴状ピット(杭穴群含む)42か所・溝状遺構2条・畑跡6面・焼土6か所・土器集中7か所・礫集中1か所・フレイク集中1か所・粘土集中1か所を調査した。

縄文時代晩期

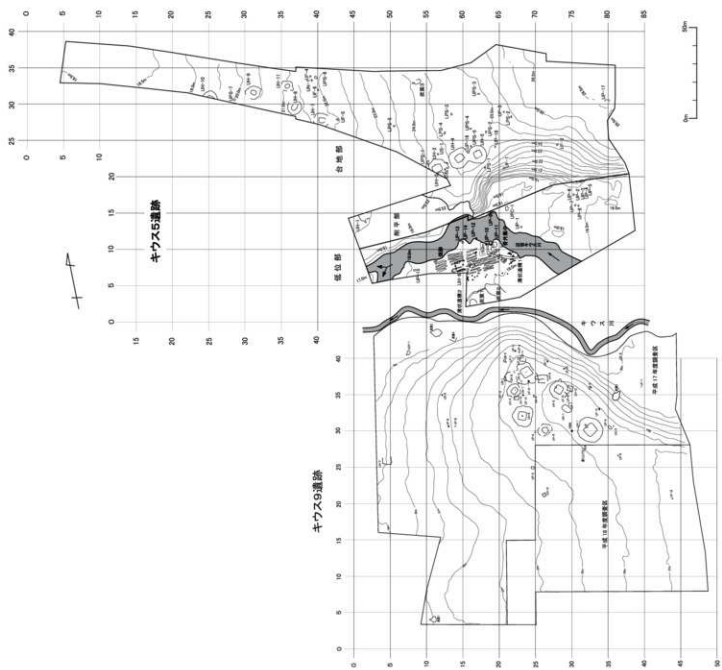
Ⅳ層(Ta-c)の上下のⅢ層・Ⅴ層で確認した。調査区の中央から東側付近にかけて分布し、低位部で土坑UP-1～15・フレイク集中UFC-1・集石LS-2、台地部では土器集中UPS-3・LPS-1～5を調査した。規模からUP-1～9・12～15とUP-10・11に分けられる。前者は平面が円形を呈し、大型の自然礫が出土したもの(UP-1・12・14・15)があり、後者は楕円形のものである。これら土坑は墓である可能性も考えられる。土器集中UPS-3はⅢ層・LPS-1～5はⅤ層で確認したもので、UPS-3・LPS-2は深鉢が1個体、LPS-1・3・4・5は複数個体出土した。特にLPS-3は、上部と下部にまとまりが認められ、合計6個体復原できた。また、低位部では深鉢が1個体まとまって出土した(一個体土器(北埋調報251 図IV-15 図V-15-9))。これら土器集中は土器破片も大きめで残りが良く、出土状態から土器の器形が想像できた。

UFC-1はⅢ層のフレイク集中で、LS-2はⅤ層中で確認した礫集中である。

擦文文化期

堅穴住居跡を複数軒確認し、これらはすべて出土土器から擦文文化期前期と判断する。覆土の黒色土層中でB-Tmが堆積していた(本章4節参照)。認められなかった住居跡はUH-1・UH-8の2軒であるが、これらも出土遺物から擦文文化期前期である。前者は削平されていること、後者は火山灰の堆積が薄く確認できなかったためと推測し、本文化期の堅穴住居跡はすべてB-Tm降下時期(10世紀前半)より古く、同文化期前期の集落跡と考える。

住居跡はカマドを有するもの(UH-1・2・4・7)と有さないもの(UH-5・8・9・11)、調査区外等確認できなかったもの(UH-3・10)があり、カマドを有さないものは比較的小型である。これらは分布から大きく二つの群に分けられる。一群は、UH-4・5とUH-2・3と調査区外をささむや離れた位置のUH-1で、もう一群はUH-7・8・11・9・10である。これらはそれぞれキウス川沿いに立地するもので、UH-3・10のように調査区外にも住居跡が存在する可能性



図VI-1 キウス5・キウス9遺跡遺構分布図（I黒層（Ⅲ層））

が高い。また、すべて住居跡の周囲には構築時に生じた掘り上げ土がみられた。これらのうち、UH-2・3とUH-4・5は近接し上屋構造が同時に存在したと思われず、時期差があるとの想定のもと、調査では土層断面を観察したが、掘り上げ土・覆土は複雑な様相を呈し判断できなかった(IV章1節参照)。そこで、これら住居跡から出土した炭化材を採取し放射性炭素年代測定により新旧関係を調べ、結果から、それぞれUH-3とUH-4が古いと判断した(本章3節)。

また、キウス川対岸のキウス9遺跡では同時期の集落跡と鍛冶遺構を確認し(北埋調報252)、本遺跡との関連が強く、両遺跡の放射性炭素年代測定・炭化材樹種同定の結果を比較し考察した(本章3節参照)。

土坑UP-16はUH-4・5の掘り上げ土の境界付近に位置し、Ⅳ群土器が多数出土した。USP-40~42はUH-2・3とUH-4の間に位置し、これら住居に関連する外部施設の柱穴・杭穴であろう。

白色粘土がみられた遺構は、UP-18・UN-1、UH-9の掘り上げ土中の粘土集中がある。この白色粘土はⅨ層の還元層とみられ、住居のカマド構築用の粘土と考える。

土器集中はUPS-1・2・4~7を確認した。縄文時代晩期(V群)のものに比べて小破片が多く、剥離したもの、割れ口が磨耗したものがみられ、破片どうしが密着しその間にある土が少ない出土状況であった。人為的に土器を細かく破壊し土中にまとめた可能性がある。また、US-1は小礫が人為的に集められたものであろう。

また、同文化期中・後期の遺構は、低位部でキウス川の旧河道に接して構築された溝状遺構1・2があり、出土土器は貼付団帯や刻文がみられる(北埋調報251)。

アイヌ文化期(近世)

低位部の工事着手前の現キウス川と調査で明らかになった近世キウス川(旧河道)にはさまれた場所、水成堆積により生じた低位の段丘で、建物跡UH-6・畑跡1~6・杭穴群USP-1~39を確認した。UH-6は屋内外に炉を有する平地住居跡(建物跡)、ピツ(鍾石)とみられる礫も出土した。土層観察等から畑跡よりも古い。畑跡は畝のまともまりから六面認識(畑跡1~6)され、これの南と東側を囲むように杭穴群(USP-1~39)も検出した。畑に関連する構築物(鹿垣等)であろう。時期はⅡ層 T a a (1739年降下)の直下であることから18世紀前葉と判断する。また、旧河道からは同文化期の農具や生活道具等の木製品や鉄鍋も出土した。また、対岸のキウス9遺跡の調査でも15世紀頃のアイヌ文化期のコタンが確認されており(北埋調報252)、両遺跡の調査事例から、アイヌ文化期における畑とコタンの関係について、文献記録や民族事例を取り上げた論考で問題提起されている(三浦 2008)。(広田 良成)

2. 遺物について

(1) 土器

土器は縄文文化期・縄文時代晩期のものが出土した。

撥文土器の多くは前期で、甕・球胴甕・鉢・坏の一般的な器種が多いが、住居跡からは把手付土器・甕・高坏も出土した。

甕は直線的に開口し、頸部にはナデ調整や棒状工具による沈線文が施される。最大幅が胴部上位のものが多く概してゆるやかで曲線的な器形である。調整はハケメ・ミガキ・ナデがみられ、ハケメを施した後ミガキがなされているものが多い。口唇部や底部付近はナデ調整で、底部の外面に葉脈痕が

みられるものもある。器高は30cm程度のもが多いが、15cm以下の小型のものもある。球胴甕は口縁部が強く外反し、胴部は強い曲線で底部へ至る。文様・調整は甕と同様である。鉢は口縁部が直立するもの、内湾するもの、開口するものがみられ、器形や調整も様々である。これらのうち、UH-7出土のケズリ風のミガキ（ミガキ調整を器面に幅広く施したと推測するもの）が施された鉢（図IV-61-24）が特徴的である。坏はすべて内黒で、外面はヨコミガキと段あるいは沈線文がみられ、内面は胴部がヨコミガキで底部の内面は放射状のミガキである。器高が高いものは「坏蓋」の可能性があるのである（図V-45-24・25）。

把手付土器（UH-4 図IV-60-15）は、把手部分を破損するが、本体は器の形状を保って出土した。全体にミガキ調整が施される。甕（UH-8 図IV-62-31）は内外面ともに上位部分がナデ調整で、中位～下位部分はタテミガキである。高坏（UH-8 図IV-62-30）は器部分がミガキ調整で、器台部分は複数の段がみられる。これらは対岸のキウス9遺跡と型式の特徴が共通し、同時期と考える（広田 2008）。

紡錘車は表裏両面が概ね平坦なもの（図IV-69-40・41）と、側面観が台形を呈し表面がくぼみ調整が比較的丹念なもの（図IV-69-42・43 V-49-42）に分けられる。

捺文文化期中期のものはすべて破片で、矢羽状の刻みや刻文が施されるものである（図V-46-9 V-49-40・41）。

VI群土器は、まとまって出土した後北C式が小型の深鉢がある（図V-50-1）。

V群土器は、IV層T a-cをはさむ上下位の黒色土層から出土したが、上位のIII層出土が7割を占める。すべて後葉のc類と考える。器種は一般的な器形の深鉢・鉢・浅鉢があり、特殊な器形では舟形・台付浅鉢・皿形がある。

深鉢は、直線的に開口する口縁部から直線的に底部へとすばまる器形で丸底のものも多く、口唇部は尖り気味で、内外面にかけて刻み・撚紐刻み・縄文が施される。口縁部の文様は平行沈線文が多く、他に垂下する蛇行沈線文（図IV-70-1）や横方向の山形沈線文（図V-58-7・16）、刺突文や撚紐疋痕文が横走する沈線文と平行に複数施されるもの（図IV-75-15）、工字文風（図V-58-8）のもの等がある。鉢の器形は直立気味の口縁部からゆるやかにふくらみ底部へ至るものと、開口する口縁部から直線的に底部へ至るものがある。文様は、無文地に沈線文が施されるもの（図IV-70-2）縄文地に沈線文が施されるもの（V-58-17・59-18等）、縄文のみもの（図IV-72-11等）、口縁部に無文帯をもつもの（図V-59-24）等がある。また、深鉢・鉢には器壁が薄く胎土に砂礫を含まないものがあり、これらの縄文は、条が細く、節が細長い特徴があり、赤色顔料が付着するものもある（図V-59-20 V-63-54）。浅鉢は、外面はすべて縄文のみで、形状の異なる突起部を複数有し、口唇部から内面にかけて沈線文・刻み・撚紐疋痕文・縄線文・穿孔等が組み合わさって施される。上面観が五角形のもの（図IV-73-12）、楕円形のもの（図V-53-27）がある。

舟形土器（図V-54-28～30）は上面観が楕円形様で、長軸方向部分の外面から口唇部にかけて粘土を貼り付けて突起部分を作出し、穿孔や刻みが施される。胴部中位付近にナデによる無文帯を有し、上位は沈線文や縄線文、櫛歯状工具による施文で工字文風を呈し、下位は縄文であるが、沈線文や刺突文が施されるものもある。台付浅鉢は1個体（図V-55-31）で、上面観が五角形を呈し、突起部から内外面に沈線文が連続して施され、外面は工字文風を呈する。台の部分は欠損する。皿形土器（図V-56-32）は上面観が楕円形様を呈し、文様は縄文と刻みで、浅鉢と比べ文様の種類も少なく口縁部がより大きく開口する。土製品は耳栓や筒状を呈するものがある（図V-56-34・35）

（末光 正卓）

(2) 石器等

多くは縄文時代晩期後半と考える。石鏃は有茎のもの、三角形のものが多く、石錐は棒状のもの、つまみ部分を有するものがある。つまみ付きナイフは縦長剥片を素材とし小型のものである。

また、図V-65-19の石槍・ナイフは、形態から純縄文文化期の可能性があり、ラウンドスクレイパー(図V-65-27~31)や被熱する分割礫(図V-66-38・39・42)は、これまでの調査事例から縄文文化期前期と考える。玉(図V-66-43)も周辺の出土遺物から同文化期と推測する。(愛場 和人)

3. 分析の目的と結果の評価

本遺跡から出土した遺物について、自然科学的手法による分析「黒曜石製遺物原産地分析」・「放射性炭素年代測定」・「炭化樹種同定」を行った。分析の詳細は付篇を参照していただきたい。本節では分析の目的を述べ、結果を既存の調査事例との比較等により評価する。

(1) 黒曜石製遺物原産地分析(付篇1)

*目的

低位部出土の遺物についての分析で、先の報告書(北埋調報251)に掲載できなかったもので、ここで報告する。

平成15(2003)年度の低位部の調査で、調査区の南東側部分、旧河道の左岸にあたるV層相当層のうち、V-2 b層では縄文時代早期の炭化物集中LC-1・2・3と同時期の遺物が多くみられた。これらのうち黒曜石のフレイク10点(表1)が同一の原産地であると推測し原産地分析を行った。

表VI-1 平成15(2003)年度 低位部出土黒曜石原産地分析試料一覧

分析番号	試料名	遺物番号	出土位置	層位	遺物名	時期	表面状態
92308	キウス5	1	4	6-67区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92309	キウス5	2	4	6-67区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉 ガラス状光沢
92310	キウス5	3	1	6-67区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92311	キウス5	4	4	6-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92312	キウス5	5	1	5-65区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92313	キウス5	6	3	6-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92314	キウス5	7	3	6-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92315	キウス5	8	1	5-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92316	キウス5	9	1	5-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉
92317	キウス5	10	1	5-66区	V-2 b層	フレイク	縄文時代早期後葉

*結果の評価

多いものから、5点が白滝地区「赤石山産」・3点が「赤井川産」・1点が白滝地区「あじさい滝産」との結果を得た。白滝地区の原産地のものが6点で過半数である。様々な原産地から黒曜石を得ていただけでなく、大原産地である白滝地区と道央地域の遺跡で数多くみられる赤井川地区の大きく二か所であるといえる。

これまで黒曜石原産地は過去の人間の石材獲得等の活動を調べることを主な目的とし、多くの遺跡で行われ、ある程度分析結果の蓄積がある。この情報に加え、黒曜石の肉眼観察で得られた特徴か

ら、その原産地を概ね判断することがある程度可能である。

本遺跡のような多時期にわたる遺跡の調査で、フレイク等の定型的な石器ではなく時期判断が困難なものも、各時代で黒曜石原産地が異なると仮定できれば、肉眼観察で黒曜石を分類しその原産地を推定し、これらの遺物の時期の特定がある程度可能である。

(2) 放射性炭素年代測定結果 (AMS) (付篇2)

放射性炭素年代測定は平成19(2007)年度に過年度出土分もまとめて行った。本報告ではⅢ層の遺構について述べ、Ⅴ層の遺構は次報告書に記載する。

* 目的

本遺跡では11軒の縄文文化期の住居跡を確認した。出土土器からすべて縄文文化期前期と判断する。

UH-2・3やUH-4・5のように近接するものは、上層構造を考えると同時期に存在したと思われる、本章1節で述べたように土層断面の観察等から新旧関係を明確に判断できなかったため、これらの絶対年代から旧関係を判断することを目的とした(①)。

包含層出土の土器のうち図V-49掲載の40・41は縄文文化期中期で、低位部には縄文文化期後期の溝状遺構1・2(北埋調報251 52~59頁 出土土器 図IV-16の7~12)がある。出土土器から本集落跡の主たる時期は同前期であるが、このことの傍証を得る(②)。

これまでの調査事例と新旧関係を判断するのに絶対年代は有効で、遺跡群内でのこの時期における人間の活動をより明確に把握する(③)。

* 結果の評価

① 近接する住居跡の新旧関係

UH-2・3:

* 暦年校正年代2標準偏差での値

UH-2: 660-830 A.D. (91.9%) UH-3: 650-780 A.D. (95.4%)

→UH-3が古いと判断する。

UH-4・5:

* 暦年校正年代2標準偏差での値

UH-4: 650-780 A.D. (95.4%)・600-675 A.D. (95.4%)

UH-5: 650-780 A.D. (95.4%)

* 暦年校正年代1標準偏差での値

UH-4: 620-665 A.D. (68.2%)

UH-5: 660-710 A.D. (48.1%)

→2標準偏差の値では決めがたいが、1標準偏差ではUH-4が古いと判断できる。

* 結果数値のひらきは、UH-2・3では最小:10年、最大:50年、UH-4・5では最小:40年、最大:45と小さいため、UH-2はUH-3を、UH-5はUH-4を建て替えたもので、これら近接する竪穴住居の居住利用はUH-3→UH-2、UH-4→UH-5へと連続していたと推測する。

② 集落跡の主たる時期

* 暦年校正年代2標準偏差での値

最古値:UH-7:570-660 A.D. (95.4%)

最新値:UH-4:770-900 A.D. (90.3%)

* 暦年校正年代1標準偏差での値

最古値:UH-7:605-650 A.D. (68.2%)

最新値：UH-4：800-890 A.D. (62.1%)

→両標準偏差ともすべて擦文文化期前期（概ね6～9世紀頃）に該当する。発掘調査では覆土中にB-Tmがみられ、これの下位であることにも矛盾がなく、本集落の主たる時期は擦文文化期前期と断言できる。また、同後期の遺構出土や同中期の包含層出土の土器は断片的であり、本集落との関連は少ないと判断する。

③周辺の遺跡との比較

平成18（2006）年度、キウス川の対岸のキウス9遺跡でも擦文文化期前期の集落跡と鍛冶遺構を確認した（北埋調報252）。これらの測定結果を表2に示し、本遺跡との比較を行う。

表VI-2 キウス9遺跡 放射性炭素年代測定試料（北埋調報252）

出土地点	層位	暦年校正年代1標準偏差	暦年校正年代2標準偏差
1号住居跡（UH-1）	カマド 焼土	650A.D.-710A.D. (51.5%)	650A.D.-780A.D. (95.4%)
		740A.D.-770A.D. (16.7%)	
UH-2	カマド 焼土	595A.D.-655A.D. (68.2%)	550A.D.-670A.D. (95.4%)
1号住居跡（UH-1）	カマド 焼土	690A.D.-750A.D. (39.9%)	680A.D.-880A.D. (95.4%)
		760A.D.-810A.D. (24.9%)	
		840A.D.-860A.D. (3.4%)	
5号住居跡（UH-5）	床面	780A.D.-790A.D. (6.3%)	770A.D.-900A.D. (82.3%)
		800A.D.-900A.D. (61.9%)	910A.D.-970A.D. (13.1%)
鍛冶遺構（UK-1）	Ⅲ層	545A.D.-605A.D. (68.2%)	460A.D.-480A.D. (1.1%) 530A.D.-650A.D. (94.3%)
鍛冶遺構（UK-1）	Ⅲ層	590A.D.-645A.D. (68.2%)	560A.D.-650A.D. (95.4%)

キウス9遺跡の竪穴住居跡の測定結果は、

*暦年校正年代2標準偏差での値

最古値：UH-2：550-670 A.D. (95.4%)

最新値：UH-5：770-900 A.D. (82.3%)

*暦年校正年代1標準偏差での値

最古値：UH-2：595-655 A.D. (68.2%)

最新値：UH-1：690-750 A.D. (39.9%)

であり、概ね7～9世紀頃に該当しキウス5遺跡と同時期である。また、鍛冶遺構は暦年校正年代2標準偏差が530A.D.-650A.D. (94.3%)、同1標準偏差では545A.D.-605A.D. (68.2%)で、住居跡よりも古い値である。

以上のことから、6世紀前半キウス9遺跡で鉄製品の加工が始まり、UH-2が造られた。6世紀後半～7世紀初頭には両岸に住居が造られ、集落を形成したと推測する。また、UH-7からは刀子等の鉄製品が出土し、年代測定結果等から、本住居跡はキウス5遺跡で調査した擦文文化期のもので最も古いと判断する。

（3）炭化材樹種同定（付篇3）

炭化材樹種同定は平成19（2007）年度に過年度出土分をまとめて行った。本報告では、Ⅲ層の遺構に関連する部分について述べ、Ⅴ層の遺構については次報告書に記載する。

*** 目的**

本遺跡の擦文文化期前期の住居にもちいられた構造材の樹種を知り、他の調査事例や周辺の遺跡の調査成果と比較し、本集落の特徴を把握する。また、この種の分析結果の蓄積することは、学術研究や発掘調査の成果を評価するのに、有効な基礎情報となりうる。

本集落の住居跡の多くは覆土から床面にかけて住居の構造材と考える炭化材が出土した。

これらのうち、遺存状態が良好なものをサンプリングし樹種同定を行った。対象とした住居跡は、UH-1～5・7の6軒の炭化材95点で、内訳はUH-1：50点、UH-2：3点、UH-3：1点、UH-4：27点、UH-5：11点、UH-7：3点である。出土状況はIV章掲載図を参照願いたい。

*** 結果の評価**

分析試料94点中、試料番号2・6・24・30・37・38・82～86・89～91の14点以外はすべてコナラ属コナラ亜属コナラ節との結果であった。これら14点はニシキギ属・ハンノキ属・カバノキ属・トネリコ属・広葉樹で、すべて本遺跡周辺の現植生にみられる。また、対岸のキウス9遺跡（北埋調報252）の樹種同定結果を表3にまとめたが、コナラ属が多く、本遺跡と概ね同様な結果である。

キウス5遺跡・9遺跡にみられる当該時期の集落は、住居を構築材については、特定の樹種に選択せず、集落周囲の自然環境で入手しやすいものを利用したと推測する。（末光 正卓）

表VI-3 キウス9遺跡 炭化材樹種同定結果（北埋調報252）

出土遺構	時期	樹種名称（属）	科名	点数
UH-1	擦文文化期 前期	コナラ属	ぶな科	71
		クリ	ぶな科	4
		イネ科草本	*	4
		トネリコ属	もくせい科	3
		ニシキギ属	にしきぎ科	2
		クマシダ属	かばのき科	1
		アジサイ属	ゆきのした科	1
UH-2	擦文文化期 前期	コナラ属	ぶな科	6
		ニシキギ属？	にしきぎ科	2
		イネ科草本	*	1
UH-4	擦文文化期 前期	コナラ属	ぶな科	32
		トネリコ属	もくせい科	2
		ブナ属	ぶな科	2
		ニシキギ属？	にしきぎ科	1
		イネ科草本	*	1
UH-5	擦文文化期 前期	コナラ属	ぶな科	19
		トネリコ属	もくせい科	5
		ニレ属	にれ科	1
		ハリギリ	うこぎ科	1
UH-6	擦文文化期 前期	コナラ属	ぶな科	1
		広葉樹環孔材	*	1

4. 擦文文化期竪穴住居跡UH-10覆土中の火山灰の対比

擦文文化期前期の竪穴住居跡の覆土中に降下火山灰が認められた。これらのうちUH-10（図IV-43 図版20）について観察した。

火山灰は断続的ながら層状に産出し、灰黄褐色で、層厚は0.5～2 cmである。粒度は極細粒砂～シルトサイズである。

火山灰試料は以下の手順で処理し検鏡した。試料を水道水に浸して上澄み液が澄むまで超音波洗浄を繰り返す→水洗残渣をスライドグラスにのせ、水道水を封入剤としてカバーガラスをかけて簡易プレパラートとする→偏光顕微鏡で構成物を観察。処理後の乾燥色は銀灰色となった。

検鏡結果：ほとんどすべて火山ガラスから成り、ごく少量のアルカリ長石を含む。火山ガラスの形態は、バブルウォール型と繊維状発泡の軽石型である（写真1）。

火山灰の対比：上記の特徴を有する火山灰は白頭山苦小牧火山灰(B-Tm, 町田・新井 2003)である。
(花岡正光・愛場和人)

引用文献

町田 洋・新井房夫 (2003) : 「新編火山灰アトラスー日本列島とその周辺」・東京大学出版会, 336pp.

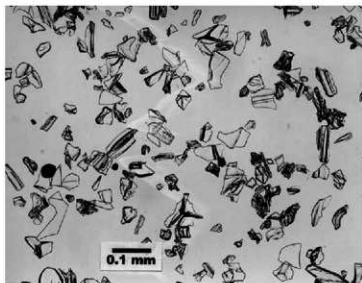


写真1 火山灰の顕微鏡写真（2008年11月 検鏡）

5. キウス5遺跡グリッド基線について(図VI-2 表VI-4)

キウス5遺跡は北海道横断自動車道建設工事に伴い、平成6(1994)から発掘調査が行われてきた。本自動車道の路線上の遺跡は、西側に千歳東インターチェンジも含む範囲がキウス4遺跡で、周堤墓や盛土遺構等の大規模な遺構を特色とする。現国道337号の東側がキウス5遺跡で旧石器時代～アイヌ文化期の複数の時代の遺構・遺物が出土し、その範囲は低位部(旧河道)も含みキウス遺跡群で最大の面積である。その東側はキウス川の対岸、キウスパーキング付近はキウス7遺跡で、縄文時代後期・晩期を主たる時期とする遺跡である。

また、キウス5遺跡は北海道開発局により進められている「道央圏連絡道路(一般国道337号)」の本線と中央ランプにあたり、本線は横断自動車道と立体交差し長沼町方面に向かう計画で、現在は新千歳空港～中央ランプが供用されている。

本連絡道路は横断自動車道の計画・建設時にはすでに計画されており、両道路が交差する部分の横断自動車道は橋脚で、道央圏連絡道路が横断道の下をくぐる構造となっている。調査におけるグリッド設定は道路センターを基線とし、当センター調査範囲は4mメッシュで全域を網羅するよう設定した。しかし、調査年度で基線の基準点が異なっている。横断自動車道建設に伴う発掘調査報告書は当センターで7冊(北埋調報92・104・115・116・125・126・136)、千歳市教育委員会で1冊あるが、なお、千歳市教育委員会では5mで設定している。

道央圏連絡道路事業では、この道路センターで本事業の調査範囲を網羅してグリッドを設定し、横断道のものとは異なる。

平成8(1996)年度横断道C地区(北埋調報116)と平成21(2009)年度連絡道路B地区は調査区が接し、ここでは縄文時代中期の竪穴住居跡が多数確認されている(次報告予定)。両年度の調査成果を統一するためには、調査区を正確に接合する必要があり、その前段の作業として横断自動車道調査のグリッド設定について、過年度の報告書記載の情報を時系列に記述し整理する(表VI-4)。基線間の方向角・距離の計算は、国土地理院がインターネット上で提供する下記のサイトで行った。

「測量計算」(<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html>) プログラムTKY2JGD

本報告は世界測地系に基づくものであるが、日本測地系からの変換計算による累積誤差を少なくするため、本節では日本測地系の値を用いた。

『千歳市 キウス5遺跡 キウス7遺跡(2) ケネフチ8遺跡』1995 北埋調報92

横断自動車道の発掘調査では、グリッド割付を道路センター杭(STA)で行い、基本設定は「STA.135+00から138+00付近まで道路のセンターは完全な直線」で、「これとこれに直交しSTA.137+00を通る直線とを基線として4m間隔の方格を設定した。」とある。文脈から「これ」とは『STA.135+00から138+00』までの直線と理解されるが、報告書にはSTA.135+00でなくSTA.137+00の座標値が示されている。STA.137+00をM-200とし、南北方向がアルファベットで南へ昇順、東西方向が数字で東へ昇順する。

東西方向の基線の方向角は「109°03'23.23"」との記述があり、南北方向の方向角は「19°03'23"」(小数点以下四捨五入 表VI-3及び本文 同)である。

しかし、当該年度の調査区は道路センター杭でSTA.139+60からSTA.140+20付近の範囲で、基線を設定したSTA.138+00から東へ160～220mの場所で、「遺跡の東部では道路のセンターラインと方格の基線とが僅かにずれており(中略)STA.137+00付近の基線を延長することも困難であった」の

で、「座標計算し方格杭M270 (STA.139+80) とM275 (STA.140) を設置し、これを基準としてグリッドを割り付けた」との記載がある。この範囲(数字ライン265~280)は誤差が生じ、南北基線の方向角を計算すると「18°59'32"」で、基本設定と「13'51"」の誤差が生じている。

- 基本設定の方向角と、座標計算により求めた東側の調査区のグリッドに「13'51"」の誤差があり、誤差は4mグリッド内の長さで約16mmである。
- STA.138+00付近とあるが、これはSTA.138+00の西側(STA.137+A A)と判断できるものの、どの点であるか定かたでなく、基線設定の前提事項である「STA.135~STA.138付近が完全な直線」があいまいである。

『千歳市 キウス5遺跡(2)』1996 北埋調報104

「センター杭のSTA.138とSTA.139を基準とし(中略)東西を画する基準はSTA.139」とし、東西方向と南北方向の基線を変更しているが、グリッドは踏襲しているとの記載がある。計算では南北基線の方向角は「19°03'26"」である。

- 基線を変更したことにより、方向角が「03°」、4mグリッド内の長さで1mm未満の誤差である。

『千歳市 キウス5遺跡(3)』1997 北埋調報115

STA.135+00から138+00付近まで道路のセンターは完全な直線で、「これとこれに直交しSTA.137+00を通る直線とを基線として4m間隔の方格を設定した。」とある。この範囲内のSTA.137+00とSTA.138+00の座標と方向角が記載され、南北方向の方向角は「19°03'23"」である。「図I-3 調査区の設定」図上で、STA.137とSTA.138を直線で結ぶと、STA.139からSTA.140までは概ね同一直線上で図示されている。

- 調査区は、北埋調報92で設定した「基本設定と誤差(13'51")がある東側の調査区」に接するが、この「誤差」を調整・修整したこと等の記述がない。

『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』1997 北埋調報116

「北海道横断自動車道工事予定図1,000分の1を使用した。(中略)工事予定中央線のSTA.138、STA.139をそれぞれM-225、M-250とする」との記述があり、「図III-1 グリッドの設定、呼称」ではSTA.135~STA.139は同一直線上の表記である。STA.138とSTA.139を基線とし、南北軸の方向角は「19°03'26"」である。

『千歳市 キウス5遺跡(5) A-2地区』1998 北埋調報125

「日本道路公団北海道横断自動車道(千歳-夕張)工事予定図1,000分の1図を使用した。平成6年度は工事予定中央線のSTA.137とSTA.138を基準にしているが、平成7年度と8年度はSTA.138とSTA.139を基準とした(中略)。東西を画する基準はSTA.139を用い」とある。座標計算では南北軸の方向角はSTA.137とSTA.138を基準にした場合は「19°03'23"」で、STA.138とSTA.139の場合は「19°03'26"」となる。「図I-4 年度別発掘調査範囲と調査区設定」ではSTA.135~STA.140までが同一直線の表記である。

- これまでの調査で、年度により異なる基線について記載しているが、「方向角に03°」の誤差の取り扱い等についての説明はない。
- 調査区は北埋調報92で設定した「基本設定と誤差(13'51")がある東側の調査区」に接するが、こ

の「誤差」を調整・修整したこと等の記述がない。

『千歳市 キウス5遺跡(6) B地区・C地区』1998 北埋調報126

「日本道路公団北海道横断自動車道(千歳～夕張)工事予定図1000分の1図を使用した。平成9年度はSTA.134とSTA.135を基準とした(中略)。東西を画する基準はSTA.134を用い」とある。座標計算では南北軸の方向角は「 $19^{\circ}23'13''$ 」で、これまでみられた二つの値「 $19^{\circ}03'23''$ 」(STA.137～STA.138)とは「 $19^{\circ}50''$ 」、「 $19^{\circ}03'26''$ 」(STA.138～STA.139)とは「 $19^{\circ}47''$ 」(STA.138～STA.139)の誤差が生じている。「図Ⅱ-2-2 遺跡の地形(2)」ではSTA.132～STA.135までが直線でSTA.136から南へずれ、「図Ⅲ-1-1 調査範囲・調査区の設定」ではSTA.132～STA.138までが同一直線の図である。

- ・さらに別の基線でグリッド設定したため、新たな誤差が生じている。その最大値は「 $19^{\circ}50''$ 」で、4mグリッド上では約23mmの誤差である。
- ・調査区は北埋調報92で設定した「基本設定と誤差($13'51''$)がある東側の調査区」に接するこれを考慮すると角度の誤差は「 $33'41''$ 」で、4mグリッド上では約39mmである。

『キウス5遺跡における考古学的調査』1998 千歳市文化財調査報告書XXV

平成8(1996)・平成9(1997)年度調査分の報告である。「設定基準はB・C地区から直線として延長される本線センターラインと、ライン上で調査範囲の東の境界に位置するセンター杭STA.131である。本線のセンターラインを南北方向の区画基準線、これと直交しSTA.131を通るラインを東西方向の区画基準線」とし、5mのグリッドを設定している。M-18がSTA.131で「B・C地区の調査での基準点STA.138(略)から、センターライン上で700m西に位置する。」とある。この平面直角座標値は記載が無いので、座標値が示されているM-10とM-14から方向角を計算し、これとM-10からの距離からSTA.131の座標を算出した。

- ・M-10とM-14から算出した南北方向の基線の方向角は「 $19^{\circ}01'35''$ 」である。
- ・記述からSTA.131とSTA.138とを直接結んだセンターラインを東西方向の基線としたと判断され、上記の方向角からSTA.131の座標値を算出し、これとSTA.138への方向角を計算したところ、「 $46''$ 」のずれが生じ、5mで約1mmの誤差である。
- ・本調査区は当センターのグリッドと接しないで、独自のグリッドを設定しており、この範囲(D地区)内で整合し、当センターの調査範囲とは基線をもとに位置関係を示せる。

『千歳市 キウス5遺跡(7) キウス7遺跡(6)』1999 北埋調報136

「日本道路公団北海道横断自動車道(千歳～夕張)工事予定図1,000分の1図を使用した(中略)STA.132とSTA.133を基準とした」とある。この場合の南北軸の方向角は「 $19^{\circ}23'13''$ 」で、調査当初に設定した遺跡の東側部分とは「 $19^{\circ}50''$ 」誤差が生じている。「図4 調査区設定」ではSTA.132～STA.135までが同一直線で図示されている。

- ・さらに別の基線でグリッド設定したが、方向角は前年度と同じ値である。

『千歳市 キウス5遺跡(8)』2008 北埋調報251『千歳市 キウス5遺跡(9)』2011 北埋調報284
北埋調報251(16～18頁)と本書Ⅲ章1節参照。「 $11^{\circ}19'40''$ 」である。

キウス5遺跡の横断自動車道の南北方向の基線の値は、

- ①：19°03'23"；STA.137・138・139
- ②：19°03'26"；STA.138・139
- ③：19°23'13"；STA.132・133・134・135
- ④：19°01'35"；STA.131（STA.138）

の四つがある。④は千歳市教育委員会が調査した西側部分で、当センターのグリッドと接しないので、独自のグリッドを組んでいる。①～③は当センターが調査区を網羅する同一のグリッドを設定したのと同じ値にならない。

①～③の計算から求めた方向角は値が一致せず、このことは、STA132～139が座標計算上は同一直線上に位置しないことを示す。しかし、計算誤差も要因として考えられ、これらの誤差をグリッドの一辺である4mに対する長さに換算すると、最大約4mmで無視できる範囲である。

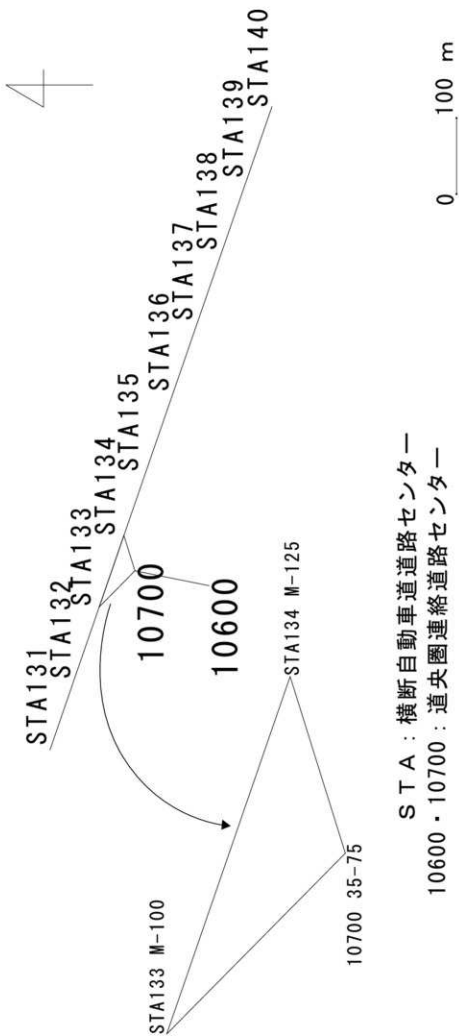
一方、座標数値データから作成した図VI-2（1：5,000）では、道路センターは同一直線上に位置し、さらに「北海道横断自動車道（千歳～夕張）空中写真測量平面図No.15・No.16」（日本道路公団札幌建設局（当時）昭和62年作成 1：1,000）を確認したところ、計画道路のセンターは概ね同一直線上であり、埋蔵文化財調査のグリッド設定上は問題ないと判断する。

しかし、平成6（1994）年度の東側部分の調査でグリッド杭打設時に生じた誤差等、原因が不明なものもあり（北埋調報92）、調査年度ごとに誤差を調整し、座標値と図面上の位置の整合性を確保する必要があった。

以上、横断自動車道のグリッド設定について整理し、本事業との調査区の接合のための前準備ができた。

これらの基準点のうち、横断道のSTA.133（M-100杭）・STA.134（M-125杭）と道央圏連絡道路10700（35-75杭）の平面直角座標値（日本測地系）で三角形（調査区接合のための三角形）を作り計算したところ、閉合差は0で、精確に両調査区を接合することができる（次報告書『千歳市 キウス5遺跡（10）』予定）。

（末光 正卓）



S T A : 横断自動車道道路センター
 10600・10700 : 道央圏連絡道路センター

図VI-2 キウス5 道跡グリッド基礎線図

表VI-4 キウス5 遺跡調査区設定基準統一覧 (日本測地系)

年 度	報告書名	調査機関	地区等	指定した基 礎	工事用地 基跡 既の番号 種類	調査区 既の番号 種類	日本測地系 (基準線・方向角はTKYJ200による計算)			備 考
							X (m)	Y (m)	基準線長 (m)	
平成6 (1994) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(2) キウス7遺跡(2) ケネフチ8遺跡(2)』 北陸道線102	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 A地区	STA137+00 → STA138+00	方格机 (M-200) → 方格机 (M-225)	124,638.282 → 124,638.032	-42,806.801 → -42,712.281	100	19° 03' 23"	「1号調査区(遺跡)」 ・調査区1号(方格机225)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区1号を設定した。 ・調査区2号(ITA139+80)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区2号を設定した。 ・調査区3号(ITA140+00)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区3号を設定した。 ・調査区4号(ITA139+40)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区4号を設定した。 ・調査区5号(ITA139+40)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区5号を設定した。 ・調査区6号(ITA139+40)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区6号を設定した。
				M270 → M275	方格机 M-270 → 方格机 M-275	124,637.732 → 124,637.242	-42,542.140 → -42,531.242	30	19° 03' 23"	
				→	方格机 M-265 → 方格机 M-240?	124,638.140 → 124,637.140	-42,561.038 → -42,551.038	30	19° 03' 23"	
				→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.282 → 124,638.032	-42,712.281 → -42,806.801	100	19° 03' 23"	
				→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.032 → 124,638.282	-42,712.281 → -42,806.801	100	19° 03' 23"	
				→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.032 → 124,638.282	-42,712.281 → -42,806.801	100	19° 03' 23"	
平成7 (1995) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(2) 自然地区』 北陸道線104	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 自然地区	STA-138 → SAT-139	グリッド机 (M-225) → グリッド机 (M-250)	124,637.584 → 124,638.032	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	既記7号調査区(遺跡)内
				→	グリッド机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	
平成8 (1996) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(3)』 北陸道線115	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 A地区	STA137+00 → STA138+00	方格机 (M-200) → 方格机 (M-225)	124,638.282 → 124,638.032	-42,806.801 → -42,712.281	100	19° 03' 23"	「1号調査区(遺跡)」 ・調査区1号(方格机225)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区1号を設定した。 ・調査区2号(ITA139+80)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区2号を設定した。 ・調査区3号(ITA139+40)は、 「ITA138+00M+00」を基礎とし、 「ITA137+00M+00」を基準線とし、 調査区3号を設定した。
				→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	
	→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"				
	→	方格机 M-225 → 方格机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"				
平成8・9 (1996・1997) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(4) 自然地区・C地区』 北陸道線116	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 B・C地区	STA138 → STA139	グリッド机 M-225 → 方格机 M-250	124,637.584 → 124,638.032	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	「1号調査区(遺跡)」 ・調査区1号(方格机250)は、 「ITA139+80M+00」を基礎とし、 「ITA138+00M+00」を基準線とし、 調査区1号を設定した。
				→	方格机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	
平成8・9 (1996・1997) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(5) A-2地区』 北陸道線125	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 A-2地区	STA138 → STA139	グリッド机 M-225 → 方格机 M-250	124,637.584 → 124,638.032	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	「1号調査区(遺跡)」 ・調査区1号(方格机250)は、 「ITA139+80M+00」を基礎とし、 「ITA138+00M+00」を基準線とし、 調査区1号を設定した。
				→	方格机 M-250	124,638.032 → 124,637.584	-42,617.763 → -42,607.763	100	19° 03' 26"	
平成9 (1997) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(6)』 北陸道線126	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 B・C地区	STA134 → STA135	グリッド机 M-100 → 方格机 M-150	124,638.332 → 124,637.582	-42,806.360 → -42,806.840	100	19° 23' 13"	M-125・M-100・M-150は、 「ITA135+80M+00」を基礎とし、 「ITA134+00M+00」を基準線とし、 調査区を設定した。
				→	方格机 M-150	124,637.582 → 124,638.332	-42,806.840 → -42,806.360	100	19° 23' 13"	
平成10 (1998) 年度	『キウス5遺跡 における 考古学的調査』 千代田市文化財 調査報告書X V	千代田市 教育 委員会	福井道 D地区	M-10 → M-14	グリッド机 M-10 → 方格机 M-14	124,637.547 → 124,637.067	-42,617.792 → -42,607.885	30	19° 01' 30"	M-125の方向角(基準線)は 19°02'30" S 30° 7' E M-100は 19°02'30" S 30° 7' E M-100は
				→	方格机 M-14	124,637.067 → 124,637.547	-42,607.885 → -42,617.792	30	19° 01' 30"	
				→	方格机 M-18	124,637.547 → 124,637.067	-42,617.792 → -42,607.885	30	19° 01' 30"	
				→	方格机 M-225	124,638.032 → 124,637.547	-42,712.282 → 124,637.977	30	19° 02' 21"	
平成10 (1998) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(7) キウス7遺跡(8)』 北陸道線136	福井県志 野郡文化財 センター	福井道 D地区	STA132 → STA133	グリッド机 M-70 → 方格机 M-100	124,643.032 → 124,637.582	-42,729.400 → -42,806.840	100	19° 23' 13"	
				→	方格机 M-100	124,637.582 → 124,643.032	-42,806.840 → -42,729.400	100	19° 23' 13"	
平成11～平成21 (2003～2009) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(8)』 北陸道線201 『千代田市 キウス5遺跡(9)』 北陸道線204	福井県志 野郡文化財 センター	307号 遺跡調査 連絡道路	19000 → 19700	グリッド机 19-75 → 方格机 35-75	124,638.384 → 124,632.932	-43,136.723 → -43,137.081	100	11° 19' 46"	調査区1・調査区2
				→	方格机 35-75	124,632.932 → 124,638.384	-43,137.081 → -43,136.723	100	11° 19' 46"	
平成22 (2011) 年度	『千代田市 キウス5遺跡(9)』 北陸道線204	福井県志 野郡文化財 センター	307号地区の 調査区を 統合する ための 改正した 三角点	STA133 → STA134	グリッド机 M-100 → 方格机 M-125	124,637.582 → 124,638.332	-43,184.880 → -43,090.369	100	09° 03' 23"	「1号調査区(遺跡)」 ・調査区1号(方格机125)は、 「ITA134+00M+00」を基礎とし、 「ITA133+00M+00」を基準線とし、 調査区1号を設定した。
				→	方格机 M-125	124,638.332 → 124,637.582	-43,090.369 → -43,184.880	100	09° 03' 23"	
				→	方格机 M-125	124,638.332 → 124,638.332	-43,090.369 → -43,090.369	100	09° 03' 23"	
				→	方格机 35-75	124,632.932 → 124,638.332	-43,137.081 → -43,137.081	252	38° 47'	
				→	方格机 35-75	124,632.932 → 124,638.332	-43,137.081 → -43,137.081	252	38° 47'	
				→	方格机 M-100	124,637.582 → 124,638.332	-43,184.880 → -43,090.369	100	09° 03' 23"	

・方向角は計算結果から、基準としているセンターライン(中線)に、STA131(東)→STA139(西)の方位は、すべて一直線に設定している。
 ・方向角に記載の「真北」は、すべて「磁北」の誤りである。

付 篇

自然科学的手法による分析結果

1. 黒曜石製遺物原産地分析

薬科哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサマサイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1),2),3)}。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『遺物とある産地の原石組成が一致する必要はあるが、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、その産地のものと言い切れない。従って、他の産地に一致しない証明も同時に必要である。一致しなかった産地との交流がなかったと証明され、考古学資料として非常に有用と思われる』。

考古学では、人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルート自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（A、B、C、D…）の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。

黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産

出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物素材と同じ成分組成の原石はA産地では十個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では…一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は千歳市に位置するキウス5遺跡出土の黒曜石製剥片10個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。

黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr、Al/K、Si/Kの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布している。調査を終えた原産地を図1に示す。この図1の黒曜石原産地のほとんどすべてを分析している。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると233個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村（現在 遠軽町）に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大量産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町（現在 北見市）のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第一および第二群に分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の組成分類結果を表2に示し、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した37個の円礫の中には、独特の組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表3に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上土幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならな

い。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、上川郡清水町、新得町、河東郡鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から美瑛原石群（第一・二群）が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群にそれぞれ分類され、台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒・灰色系円礫も見られ、台場第一・二群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二・三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、雨竜郡北竜町恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原料として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第一・二群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第一・二群の2群に区別され、豊泉第二群の原石は斑品が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の齊藤岳氏提供の奥尻島梶内川産黒曜石の原石群が確立されている。

出来島群は青森県西津軽郡木造町（現在 津軽市）七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村（現在 津軽市）鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町（青森市に合併）県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第一・二群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森山群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計233個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量に

ついても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽい表面が風化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。今回分析したキウス5遺跡出土黒曜石製の遺物の分析結果を表4に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表4の試料番号92308番の遺物ではRb/Zrの値は1.056で、赤井川第一群の[平均値]±[標準偏差]は、 0.969 ± 0.060 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 1.45σ 離れている。ところで赤井川第一群原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 1.45\sigma$ のずれより大きいものが14個ある。すなわち、この遺物が、赤井川第一群の原石から作られていたと仮定しても、 1.45σ 以上離れる確率は14%であるといえる。だから、赤井川第一群の平均値から 1.45σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川第一群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山と比較すると、赤石山の平均値からの隔たりは、約 5σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 5σ 以上離れている確率は、十万分の一であると言える。このように、十万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うとう、「この遺物は赤井川第一群に14%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川第一群産原石が使用されていると同定され、さらに赤石山に0.0001%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから赤石山の原石でないと同定される」。遺物が1ヶ所の産地(赤井川第一群産地)と一致したからと言って、例え赤井川第一群と赤石山の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(赤井川第一群産地)に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の233個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて赤井川第一群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変量だけでなく、前述した八つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば、A原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しかつずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁽⁴³⁾。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では233個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち赤井川第一群産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考慮する必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみを結果を表5に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に

多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラッキの範囲を超えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D 2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD 2乗の値が原石群の中で最も小さなD 2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。今回分析したキウス5遺跡出土の黒曜石製剥片10個の中で、厚さ補正した遺物も含めて信頼限界の0.1%に達した遺物は9個だった。産地が同定できなかった分析番号92313番のSi/K比値（表4）が他の遺物の結果に比べて小さい、相対的にKの濃度が大きく観測され、風化の影響も推測され、また、分析部分に1mm厚さ以下の部分が含まれるため、Mn/Zr、Fe/Zr比が実測した表4の値より小さい可能性が考えられ、軽元素を抜いて、また厚さ補正しても、高確率で同定される産地は見つからなかった。従って、未発見の産地の原石を使用した遺物の可能性も推測される。ここで、遺物の分析場所を変えて複数回測定し、遺物群を作り、他の遺跡で同じ組成の遺物が使用された可能性を推測できるが、分析場所を変えると、分析部分に1mm厚さ以下の部分が含まれる割合が分析する毎に異なり、厚さ補正値の決定ができない。遺物群を作るために、40回以上測定したが、厚さ補正、風化補正が正確に考慮できないと思い、今回は遺物群の作成を断念し、同質の産地未発見の同質の黒曜石製遺物が出土したときに遺物群を作ることにした。

今回分析した剥片10個について各原産地別原石使用頻度を求めると、最も多く使用された原石は、赤石山産で50%（5個）、赤井川産で30%（3個）、次いであじさい滝産で10%（1個）であった。白滝・赤石山、あじさい滝産黒曜石は湧別川でも採取され、湧別川で採取される同産黒曜石の頻度と遺物の頻度を比較した結果、湧別川では八号沢（なし肌）がもっと多く、次に赤石山産で一致しなかった。従って、

キウス5遺跡には、白滝地区赤石山、あじさい滝からの黒曜石が伝播していると推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

- 1) 薬科哲男・東村武信（1975）、蛍光X線分析法によるササカイト石器の原産地推定（Ⅱ）、考古学と自然科学、8：61-69
- 2) 薬科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977）、（1978）、蛍光X線分析法によるササカイト石器の原産地推定（Ⅲ）、（Ⅳ）、考古学と自然科学、10、11：53-81：33-47
- 3) 薬科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析、考古学と自然科学、16：59-89
- 4) 東村武信（1976）、産地推定における統計的手法、考古学と自然科学、9：77-90
- 5) 東村武信（1980）、考古学と物理化学、学生社

表1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

分析 細数	原産地/原石名	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	A/K	S/K
114	名寄第一群	0.618±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.083	0.614±0.032	0.917±0.022	0.130±0.017	0.023±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
35	名寄第二群	0.619±0.010	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.083	0.614±0.032	0.917±0.022	0.130±0.017	0.023±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
132	白土第一群	0.974±0.043	0.181±0.009	0.075±0.013	3.711±0.143	1.096±0.044	1.696±0.041	0.241±0.050	0.075±0.029	0.028±0.001	0.574±0.010
37	白土第二群	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.040±0.111	1.855±0.086	0.107±0.016	0.492±0.049	0.107±0.019	0.027±0.002	0.568±0.006
30	白土第三群	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.040±0.111	1.855±0.086	0.107±0.016	0.492±0.049	0.107±0.019	0.027±0.002	0.568±0.006
50	八戸第一群	0.622±0.002	0.105±0.017	0.099±0.008	3.103±0.127	1.853±0.132	1.039±0.041	0.480±0.042	0.104±0.044	0.027±0.001	0.561±0.006
60	八戸第二群	0.622±0.002	0.105±0.017	0.099±0.008	3.103±0.127	1.853±0.132	1.039±0.041	0.480±0.042	0.104±0.044	0.027±0.001	0.561±0.006
34	めじろ第一群	0.139±0.003	0.023±0.003	0.099±0.007	2.970±0.179	1.792±0.103	1.024±0.036	0.472±0.028	0.098±0.046	0.027±0.001	0.561±0.006
30	めじろ第二群	0.139±0.003	0.023±0.003	0.099±0.007	2.970±0.179	1.792±0.103	1.024±0.036	0.472±0.028	0.098±0.046	0.027±0.001	0.561±0.006
107	近文台第一群	0.817±0.013	0.165±0.006	0.061±0.010	3.366±0.131	0.604±0.031	0.941±0.039	0.165±0.029	0.039±0.016	0.039±0.016	0.462±0.008
47	近文台第二群	0.817±0.013	0.165±0.006	0.061±0.010	3.366±0.131	0.604±0.031	0.941±0.039	0.165±0.029	0.039±0.016	0.039±0.016	0.462±0.008
47	近文台第三群	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.008	2.770±0.097	0.818±0.034	0.187±0.024	0.941±0.039	0.035±0.002	0.035±0.002	0.462±0.008
59	近文台第四群	0.676±0.052	0.142±0.005	0.072±0.011	2.912±0.111	0.891±0.041	0.796±0.081	0.220±0.043	0.036±0.004	0.036±0.004	0.413±0.014
42	秋又第一群	0.076±0.009	0.136±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.709±0.044	0.489±0.025	0.304±0.052	0.035±0.018	0.028±0.004	0.414±0.019
51	秋又第二群	0.076±0.009	0.136±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.709±0.044	0.489±0.025	0.304±0.052	0.035±0.018	0.028±0.004	0.414±0.019
48	秋又第三群	0.076±0.009	0.136±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.709±0.044	0.489±0.025	0.304±0.052	0.035±0.018	0.028±0.004	0.414±0.019
31	奥平第一群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
40	奥平第二群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
45	奥平第三群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
65	奥平第四群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第五群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第六群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第七群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第八群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第九群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
58	奥平第十群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.065±0.016	3.403±0.136	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.028	0.039±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
48	北見・奥出川群2群	0.548±0.025	0.145±0.007	0.057±0.007	1.691±0.059	0.380±0.024	0.609±0.020	0.120±0.015	0.031±0.012	0.032±0.004	0.677±0.019
48	北見・奥出川群3群	0.548±0.025	0.145±0.007	0.057±0.007	1.691±0.059	0.380±0.024	0.609±0.020	0.120±0.015	0.031±0.012	0.032±0.004	0.677±0.019
50	北見・奥出川群4群	0.291±0.017	0.109±0.008	0.046±0.012	1.812±0.068	0.677±0.041	0.445±0.029	0.192±0.033	0.034±0.015	0.031±0.003	0.362±0.023
68	ケシワケ第一群	0.270±0.056	0.110±0.011	0.061±0.011	2.555±0.086	0.805±0.056	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.006	0.397±0.013
65	ケシワケ第二群	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.906±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.030±0.013	0.030±0.003	0.392±0.010
60	十勝三股	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.396±0.013
41	美瑛第一群	0.499±0.029	0.134±0.007	0.052±0.010	2.630±0.101	0.822±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.022	0.034±0.002	0.442±0.015
28	美瑛第二群	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.029±0.151	0.765±0.040	0.764±0.045	0.197±0.028	0.038±0.022	0.025±0.002	0.449±0.009
59	美瑛第三群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
39	美瑛第四群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
39	美瑛第五群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
40	美瑛第六群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
58	美瑛第七群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
35	美瑛第八群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
37	美瑛第九群	0.253±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.381±0.087	1.077±0.055	0.634±0.025	0.334±0.029	0.039±0.023	0.029±0.002	0.442±0.015
36	八戸第一群	0.801±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.022±0.002	0.954±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.699±0.013
41	八戸第二群	0.801±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.022±0.002	0.954±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.699±0.013
28	戸部第一群	0.250±0.024	0.069±0.004	0.068±0.004	2.358±0.257	1.168±0.062	0.821±0.063	0.277±0.065	0.078±0.025	0.029±0.002	0.384±0.009
28	戸部第二群	0.801±0.008	0.104±0.004	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.022±0.002	0.954±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.699±0.013
33	戸部第三群	0.344±0.017	0.132±0.007	0.282±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.069	0.300±0.049	0.186±0.037	0.037±0.002	0.369±0.007
45	戸部第四群	0.250±0.009	0.066±0.003	0.074±0.009	2.547±0.131	1.155±0.066	0.931±0.031	0.284±0.031	0.049±0.037	0.028±0.005	0.481±0.018
36	下川	9.670±0.479	2.105±0.149	3.267±0.217	21.648±1.306	0.069±0.021	1.708±0.102	0.135±0.015	0.169±0.031	0.033±0.012	0.858±0.086
64	下川第一群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
64	下川第二群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
43	下川第三群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
43	下川第四群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
45	下川第五群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
44	下川第六群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
44	下川第七群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第八群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第九群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第十群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第十一群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第十二群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第十三群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0.481±0.018
48	下川第十四群	0.250±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.535±0.138	1.149±0.063	0.948±0.035	0.284±0.035	0.041±0.035	0.028±0.002	0

表1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

分析 分類	原産地/原石名	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Au/K	Sr/K	Sr/K
岩手県	平石	0.659±0.033	0.187±0.012	0.032±0.007	1.761±0.081	0.335±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.011±0.003	0.044±0.014	
	所内黒曜石	0.582±0.020	0.149±0.008	0.018±0.001	1.610±0.038	0.437±0.017	0.378±0.016	0.287±0.016	0.037±0.001	0.027±0.001	0.034±0.016	
	所外黒曜石	0.582±0.020	0.149±0.008	0.018±0.001	1.610±0.038	0.437±0.017	0.378±0.016	0.287±0.016	0.037±0.001	0.027±0.001	0.034±0.016	
	在来	0.692±0.044	0.175±0.015	0.033±0.010	1.761±0.029	0.333±0.020	0.415±0.027	0.134±0.013	0.046±0.016	0.040±0.002	0.036±0.017	
	混合	0.627±0.035	0.167±0.005	0.029±0.002	2.544±0.149	0.185±0.009	0.638±0.033	0.138±0.010	0.020±0.003	0.075±0.005	0.056±0.040	
宮城県	高塩山	0.748±0.365	0.630±0.104	0.178±0.017	1.362±0.110	0.168±0.018	1.508±0.102	0.165±0.016	0.073±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032	
	新本郷	0.626±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.057	0.381±0.025	0.262±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.541±0.012	
	神野品石群	0.381±0.014	0.136±0.007	0.102±0.001	1.729±0.079	0.471±0.027	0.656±0.047	0.303±0.029	0.090±0.026	0.033±0.003	0.674±0.012	
	東交野	0.321±0.021	0.114±0.005	0.134±0.005	1.833±0.089	0.615±0.044	0.806±0.064	0.303±0.029	0.107±0.027	0.033±0.001	0.471±0.022	
	長町	0.438±0.020	0.139±0.005	0.118±0.014	1.605±0.062	0.618±0.036	0.774±0.045	0.391±0.029	0.090±0.039	0.041±0.006	0.476±0.014	
神奈川県	相模	0.675±0.254	0.234±0.057	0.228±0.019	9.382±0.179	0.648±0.017	1.653±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.154±0.006	1.508±0.046	
	相模第一群	0.669±0.019	0.076±0.007	0.076±0.007	2.912±0.104	0.602±0.097	0.629±0.025	0.354±0.029	0.011±0.010	0.069±0.005	1.136±0.051	
	相模第二群	0.056±0.013	0.042±0.009	0.239±0.049	2.229±0.194	0.063±0.008	0.737±0.019	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033	
	高野原	0.225±0.018	0.056±0.008	0.041±0.009	1.659±0.068	0.081±0.009	0.851±0.025	0.136±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033	
	長多良	0.224±0.018	0.056±0.008	0.041±0.009	1.659±0.068	0.081±0.009	0.851±0.025	0.136±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033	
静岡県	小豆峠	0.110±0.008	0.022±0.004	0.297±0.058	3.211±0.329	0.839±0.089	0.154±0.010	0.547±0.054	0.087±0.027	0.025±0.014	0.529±0.016	
	魚野	0.279±0.012	0.065±0.001	0.664±0.033	3.033±0.119	0.676±0.052	0.099±0.009	0.191±0.029	0.077±0.020	0.031±0.004	0.533±0.032	
	三上山第一群	0.113±0.006	0.022±0.006	0.040±0.008	1.729±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.021	0.015±0.014	0.592±0.018	
	三上山第二群	0.101±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.026	0.840±0.060	0.118±0.025	0.051±0.011	0.020±0.020	0.399±0.024	
	三上山第三群	0.079±0.021	0.068±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.100	0.127±0.041	0.067±0.033	0.015±0.014	0.312±0.025	
長野県	薄ヶ峰	0.156±0.010	0.098±0.003	0.101±0.018	1.331±0.070	1.632±0.051	0.360±0.009	0.375±0.029	0.090±0.035	0.029±0.003	0.346±0.011	
	飯谷台	0.139±0.010	0.069±0.002	0.109±0.019	1.324±0.084	1.033±0.057	0.368±0.033	0.379±0.052	0.066±0.033	0.030±0.003	0.245±0.010	
	相模峠第一群	0.069±0.008	0.017±0.001	0.147±0.011	1.348±0.085	1.833±0.124	0.112±0.056	0.499±0.048	0.139±0.026	0.005±0.002	0.555±0.016	
	相模峠第二群	0.147±0.004	0.052±0.003	0.183±0.011	1.481±0.084	2.467±0.149	0.027±0.024	0.372±0.046	0.145±0.023	0.029±0.001	0.363±0.010	
	相模峠第三群	0.144±0.017	0.063±0.004	0.084±0.009	1.373±0.086	1.311±0.037	0.236±0.030	0.283±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019	
長野県	相模峠第四群	0.145±0.017	0.072±0.003	0.084±0.009	1.373±0.086	1.033±0.036	0.174±0.058	0.194±0.025	0.021±0.002	0.021±0.002	0.339±0.013	
	相模峠第五群	0.145±0.017	0.072±0.003	0.084±0.009	1.373±0.086	1.033±0.036	0.174±0.058	0.194±0.025	0.021±0.002	0.021±0.002	0.339±0.013	
	相模峠第六群	0.145±0.017	0.072±0.003	0.084±0.009	1.373±0.086	1.033±0.036	0.174±0.058	0.194±0.025	0.021±0.002	0.021±0.002	0.339±0.013	
	相模峠第七群	0.145±0.017	0.072±0.003	0.084±0.009	1.373±0.086	1.033±0.036	0.174±0.058	0.194±0.025	0.021±0.002	0.021±0.002	0.339±0.013	
	相模峠第八群	0.145±0.017	0.072±0.003	0.084±0.009	1.373±0.086	1.033±0.036	0.174±0.058	0.194±0.025	0.021±0.002	0.021±0.002	0.339±0.013	
長野県	別荘台	0.188±0.024	0.042±0.002	0.121±0.010	1.252±0.041	1.078±0.052	0.049±0.004	0.412±0.039	0.132±0.022	0.096±0.002	0.361±0.013	
	別荘台第一群	0.103±0.009	0.060±0.008	0.040±0.008	1.644±0.078	0.608±0.101	0.049±0.046	0.126±0.022	0.032±0.017	0.029±0.002	0.534±0.048	
	ウツギ台	0.222±0.017	0.090±0.005	0.064±0.008	1.257±0.029	0.856±0.072	0.537±0.044	0.419±0.022	0.056±0.017	0.022±0.002	0.340±0.048	
	ウツギ台第二群	0.166±0.006	0.069±0.006	0.058±0.006	1.189±0.060	0.746±0.075	0.392±0.031	0.410±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.430±0.009	
	立峰	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.329±0.071	1.033±0.063	0.262±0.030	0.295±0.035	0.104±0.040	0.036±0.011	0.586±0.013	
新潟県	双斗峠	0.271±0.017	0.136±0.012	0.397±0.019	1.397±0.099	0.442±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013	
	双斗峠第一群	0.252±0.027	0.129±0.017	0.059±0.010	1.630±0.179	0.609±0.052	0.892±0.058	0.111±0.024	0.037±0.022	0.027±0.007	0.481±0.011	
	赤山	0.367±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.646±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.401±0.011	
	大塚台	0.481±0.117	0.095±0.021	0.042±0.006	2.005±0.131	0.052±0.011	0.841±0.044	0.186±0.010	0.099±0.048	0.033±0.005	0.659±0.012	
	横川	0.047±0.006	1.071±0.058	0.115±0.015	7.360±0.336	0.158±0.016	0.933±0.012	0.196±0.015	0.029±0.012	0.035±0.006	0.439±0.012	
新潟県	佐渡第一群	0.020±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.019	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013	
	佐渡第二群	0.097±0.018	0.039±0.008	0.039±0.008	1.401±0.106	0.711±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.029±0.002	0.338±0.013	
	佐渡第三群	0.097±0.018	0.039±0.008	0.039±0.008	1.401±0.106	0.711±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.029±0.002	0.338±0.013	
	佐渡第四群	0.097±0.018	0.039±0.008	0.039±0.008	1.401±0.106	0.711±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.029±0.002	0.338±0.013	
	佐渡第五群	0.097±0.018	0.039±0.008	0.039±0.008	1.401±0.106	0.711±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.029±0.002	0.338±0.013	
新潟県	船山	0.668±0.011	0.068±0.011	0.169±0.010	2.178±0.110	1.775±0.069	0.772±0.046	0.174±0.047	0.154±0.034	0.076±0.002	0.569±0.040	
	船山第一群	0.033±0.001	0.033±0.001	1.698±0.034	3.201±0.069	0.533±0.009	0.161±0.008	0.374±0.048	0.033±0.000	0.030±0.001	0.569±0.040	
	金津	0.331±0.011	0.097±0.007	0.030±0.007	1.711±0.067	0.283±0.027	0.983±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012	
	川柳川	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.884±0.012	0.369±0.036	0.100±0.028	0.023±0.002	0.440±0.030	
	比叡	0.270±0.009	0.087±0.005	0.060±0.003	2.699±0.088	0.839±0.021	0.534±0.029	0.172±0.011	0.052±0.025	0.032±0.002	0.396±0.016	

表 1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値 (3)

原産地	原産地原石群名	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	A/K	S/K	
原産地	安岳	0.497±0.006	0.125±0.006	0.038±0.002	1.629±0.048	0.645±0.026	0.675±0.023	0.115±0.008	0.061±0.022	0.022±0.001	0.650±0.010	
	山形	0.497±0.009	0.141±0.006	0.047±0.002	1.411±0.056	0.697±0.019	0.713±0.012	0.119±0.012	0.074±0.012	0.021±0.001	0.651±0.010	
	香川県	0.497±0.007	0.045±0.002	0.045±0.002	1.411±0.056	0.697±0.019	0.713±0.012	0.119±0.012	0.074±0.012	0.021±0.001	0.651±0.010	
	長峰	0.497±0.009	0.100±0.004	0.048±0.002	1.564±0.049	0.831±0.045	0.897±0.023	0.112±0.006	0.136±0.024	0.096±0.012	0.646±0.012	
長峰	赤石第一群	0.525±0.012	0.066±0.002	0.063±0.002	1.967±0.061	1.171±0.040	1.157±0.023	0.185±0.026	0.291±0.021	0.026±0.005	0.649±0.016	
	赤石第二群	0.525±0.012	0.066±0.002	0.063±0.002	1.967±0.061	1.171±0.040	1.157±0.023	0.185±0.026	0.291±0.021	0.026±0.005	0.649±0.016	
	赤石第三群	0.525±0.012	0.066±0.002	0.063±0.002	1.967±0.061	1.171±0.040	1.157±0.023	0.185±0.026	0.291±0.021	0.026±0.005	0.649±0.016	
	赤石第四群	0.525±0.012	0.066±0.002	0.063±0.002	1.967±0.061	1.171±0.040	1.157±0.023	0.185±0.026	0.291±0.021	0.026±0.005	0.649±0.016	
長峰	加茂	0.501±0.006	0.083±0.008	0.014±0.003	0.849±0.031	0.276±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.649±0.016	
	神井	0.501±0.006	0.132±0.012	0.015±0.003	0.949±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.649±0.016	
	大見	0.501±0.006	0.061±0.004	0.080±0.023	0.886±0.011	0.067±0.010	0.067±0.010	0.109±0.013	0.208±0.011	0.021±0.001	0.649±0.016	
	津	0.501±0.006	0.078±0.003	0.077±0.018	1.827±0.130	1.721±0.113	0.868±0.060	0.244±0.051	0.085±0.036	0.031±0.004	0.667±0.009	
岡山	英南第一群	0.512±0.012	0.141±0.010	0.032±0.010	3.139±0.130	0.696±0.065	1.004±0.047	0.026±0.026	0.066±0.019	0.041±0.004	0.637±0.011	
	英南第二群	0.512±0.012	0.141±0.010	0.032±0.010	3.139±0.130	0.696±0.065	1.004±0.047	0.026±0.026	0.066±0.019	0.041±0.004	0.637±0.011	
	英南第三群	0.512±0.012	0.141±0.010	0.032±0.010	3.139±0.130	0.696±0.065	1.004±0.047	0.026±0.026	0.066±0.019	0.041±0.004	0.637±0.011	
	英南第四群	0.512±0.012	0.141±0.010	0.032±0.010	3.139±0.130	0.696±0.065	1.004±0.047	0.026±0.026	0.066±0.019	0.041±0.004	0.637±0.011	
香川	神山	0.529±0.011	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.131	0.699±0.076	1.335±0.091	0.025±0.025	0.091±0.020	0.041±0.005	0.630±0.012	
	神谷・神山	0.529±0.011	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.131	0.699±0.076	1.335±0.091	0.025±0.025	0.091±0.020	0.041±0.005	0.630±0.012	
	大和山第一群	0.529±0.011	0.033±0.023	0.042±0.009	3.125±0.119	0.843±0.046	1.010±0.073	0.036±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.630±0.012	
	大和山第二群	0.529±0.011	0.033±0.023	0.042±0.009	3.125±0.119	0.843±0.046	1.010±0.073	0.036±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.630±0.012	
福岡	八幡山第一群	0.529±0.011	0.119±0.012	0.045±0.013	3.098±0.113	0.889±0.052	0.889±0.052	0.029±0.029	0.074±0.018	0.029±0.002	0.630±0.012	
	八幡山第二群	0.529±0.011	0.119±0.012	0.045±0.013	3.098±0.113	0.889±0.052	0.889±0.052	0.029±0.029	0.074±0.018	0.029±0.002	0.630±0.012	
	中野第一群	0.529±0.011	0.027±0.005	0.027±0.005	1.533±0.059	0.658±0.028	0.348±0.014	0.103±0.018	0.075±0.018	0.029±0.002	0.630±0.012	
	中野第二群	0.529±0.011	0.104±0.001	0.027±0.005	1.533±0.059	0.658±0.028	0.348±0.014	0.103±0.018	0.075±0.018	0.029±0.002	0.630±0.012	
佐賀	鍋野	0.657±0.014	0.302±0.006	0.071±0.013	4.239±0.206	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.022	0.380±0.047	0.082±0.005	0.545±0.009	
	相模川	0.657±0.014	0.302±0.006	0.071±0.013	4.239±0.206	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.022	0.380±0.047	0.082±0.005	0.545±0.009	
	相模川	0.657±0.014	0.302±0.006	0.071±0.013	4.239±0.206	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.022	0.380±0.047	0.082±0.005	0.545±0.009	
	相模川	0.657±0.014	0.302±0.006	0.071±0.013	4.239±0.206	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.022	0.380±0.047	0.082±0.005	0.545±0.009	
大分	赤石第一群	0.400±0.007	0.138±0.029	0.125±0.018	4.692±0.189	1.179±0.114	2.025±0.122	0.171±0.052	0.255±0.040	0.032±0.003	0.576±0.008	
	赤石第二群	0.400±0.007	0.138±0.029	0.125±0.018	4.692±0.189	1.179±0.114	2.025±0.122	0.171±0.052	0.255±0.040	0.032±0.003	0.576±0.008	
	赤石第三群	0.400±0.007	0.138±0.029	0.125±0.018	4.692±0.189	1.179±0.114	2.025±0.122	0.171±0.052	0.255±0.040	0.032±0.003	0.576±0.008	
	赤石第四群	0.400±0.007	0.138±0.029	0.125±0.018	4.692±0.189	1.179±0.114	2.025±0.122	0.171±0.052	0.255±0.040	0.032±0.003	0.576±0.008	
大分	観音峰	0.253±0.012	0.095±0.005	0.009±0.006	4.691±0.678	1.835±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.601±0.012	
	阿蘇第一群	0.253±0.012	0.095±0.005	0.009±0.006	4.691±0.678	1.835±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.601±0.012	
	阿蘇第二群	0.253±0.012	0.095±0.005	0.009±0.006	4.691±0.678	1.835±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.601±0.012	
	阿蘇第三群	0.253±0.012	0.095±0.005	0.009±0.006	4.691±0.678	1.835±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.601±0.012	
大分	阿蘇第一群	0.491±0.014	0.141±0.010	0.186±0.016	4.352±0.066	0.619±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.036	0.041±0.004	0.621±0.012	
	阿蘇第二群	0.491±0.014	0.141±0.010	0.186±0.016	4.352±0.066	0.619±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.036	0.041±0.004	0.621±0.012	
	阿蘇第三群	0.491±0.014	0.141±0.010	0.186±0.016	4.352±0.066	0.619±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.036	0.041±0.004	0.621±0.012	
	阿蘇第四群	0.491±0.014	0.141±0.010	0.186±0.016	4.352±0.066	0.619±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.036	0.041±0.004	0.621±0.012	
大分	阿蘇第一群	0.501±0.013	0.139±0.013	0.139±0.013	3.068±0.105	0.331±0.058	3.766±0.668	0.105±0.040	0.084±0.037	0.042±0.007	0.622±0.021	
	阿蘇第二群	0.501±0.013	0.139±0.013	0.139±0.013	3.068±0.105	0.331±0.058	3.766±0.668	0.105±0.040	0.084±0.037	0.042±0.007	0.622±0.021	
	阿蘇第三群	0.501±0.013	0.139±0.013	0.139±0.013	3.068±0.105	0.331±0.058	3.766±0.668	0.105±0.040	0.084±0.037	0.042±0.007	0.622±0.021	
	阿蘇第四群	0.501±0.013	0.139±0.013	0.139±0.013	3.068±0.105	0.331±0.058	3.766±0.668	0.105±0.040	0.084±0.037	0.042±0.007	0.622±0.021	
大分	阿蘇第一群	0.311±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.609±0.052	0.688±0.043	0.175±0.018	0.102±0.020	0.038±0.002	0.571±0.009	
	阿蘇第二群	0.311±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.609±0.052	0.688±0.043	0.175±0.018	0.102±0.020	0.038±0.002	0.571±0.009	
	阿蘇第三群	0.311±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.609±0.052	0.688±0.043	0.175±0.018	0.102±0.020	0.038±0.002	0.571±0.009	
	阿蘇第四群	0.311±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.609±0.052	0.688±0.043	0.175±0.018	0.102±0.020	0.038±0.002	0.571±0.009	
大分	久喜ノ止	0.482±0.026	0.066±0.002	0.039±0.005	1.561±0.045	0.303±0.044	0.712±0.043	0.069±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.588±0.016	
	久喜ノ止	0.482±0.026	0.066±0.002	0.039±0.005	1.561±0.045	0.303±0.044	0.712±0.043	0.069±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.588±0.016	
	久喜ノ止	0.482±0.026	0.066±0.002	0.039±0.005	1.561±0.045	0.303±0.044	0.712±0.043	0.069±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.588±0.016	
	久喜ノ止	0.482±0.026	0.066±0.002	0.039±0.005	1.561±0.045	0.303±0.044	0.712±0.043	0.069±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.588±0.016	
大分	南川	0.146±0.009	0.065±0.002	0.059±0.009	1.691±0.130	1.795±0.065	0.055±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.025±0.002	0.578±0.008	
	南川	0.146±0.009	0.065±0.002	0.059±0.009	1.691±0.130	1.795±0.065	0.055±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.025±0.002	0.578±0.008	
	南川	0.146±0.009	0.065±0.002	0.059±0.009	1.691±0.130	1.795±0.065	0.055±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.025±0.002	0.578±0.008	
	南川	0.146±0.009	0.065±0.002	0.059±0.009	1.691±0.130	1.795±0.065	0.055±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.025±0.002	0.578±0.008	
長峰	日峰	0.315±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.548±0.174	1.679±0.079	0.029±0.034	0.292±0.045	0.358±0.057	0.027±0.003	0.581±0.015	
	日峰	0.315±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.548±0.174	1.679±0.079	0.029±0.034	0.292±0.045	0.358±0.057	0.027±0.003	0.581±0.015	
	日峰	0.315±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.548±0.174	1.679±0.079	0.029±0.034	0.292±0.045	0.358±0.057	0.027±0.003	0.581±0.015	
	日峰	0.315±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.548±0.174	1.679±0.079	0.029±0.034	0.292±0.045	0.358±0.057	0.027±0.003	0.581±0.015	
長峰	阿蘇第一群	0.501±0.016	0.065±0.010	0.068±0.011	1.869±0.330	0.859±0.151	0.308±0.068	0.145±0.049	0.177±0.030	0.059±0.003	0.529±0.020	
	阿蘇第二群	0.501±0.016	0.065±0.010	0.068±0.011	1.869±0.330	0.859±0.151	0.308±0.068	0.145±0.049	0.177±0.030	0.059±0.003	0.529±0.020	
	阿蘇第三群	0.501±0.016	0.065±0.010	0.068±0.011	1.869±0.330	0.859±0.151	0.308±0.068	0.145±0.049	0.177±0.030	0.059±0.003	0.529±0.020	
	阿蘇第四群	0.501±0.016	0.065±0.010	0.068±0.011	1.869±0.330	0.859±0.151	0.308±0.068	0.145±0.049	0.177±0.030	0.059±0.003	0.529±0.020	

表 2 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個 数	百分率	備 考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢群・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群・鞆加沢群	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケショマップ第二群	5個	2%	
KS 3 遺物群	1個	0.04%	

注：八号沢群・白土沢群と、あじさい滝群・鞆加沢群の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表 3 常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した37個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個 数	百分率	備 考
所山群	21個	57%	
置戸山群	8個	22%	HS 2 遺物群に似る
ケショマップ第二群	1個	3%	FR 1・FR 2 遺物群に似る
八号沢群	1個	3%	割れ面梨肌
常呂川第 1 群	1個	3%	
常呂川第 2 群	2個	5%	
常呂川第 3 群	1個	5%	
常呂川第 4 群	2個	5%	KS 1 遺物群、所山群に似る

注：常呂川第 1・2 群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

表 4 キウス5 遺跡出土黒曜石製剥片の元素比分析結果

遺物 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
92308	0.256	0.074	0.087	2.330	1.056	0.441	0.286	0.022	0.025	0.351
92309	0.125	0.018	0.098	2.727	1.759	0.116	0.467	0.133	0.022	0.305
92310	0.153	0.060	0.096	3.304	1.578	0.220	0.391	0.106	0.025	0.357
92311	0.255	0.070	0.091	2.216	1.031	0.452	0.246	0.036	0.025	0.357
92312	0.176	0.062	0.098	3.335	1.533	0.364	0.396	0.053	0.026	0.360
92313	0.216	0.058	0.087	2.159	0.901	0.389	0.240	0.050	0.018	0.266
92314	0.252	0.075	0.104	2.505	1.037	0.446	0.241	0.031	0.025	0.359
JG-1	0.788	0.215	0.065	3.435	0.855	1.152	0.250	0.085	0.028	0.319

JG-1 : 標準試料

Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974

Compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表 5 平成15年度キウス5遺跡出土黒曜石製遺物の原材産地分析結果

分析番号	番号	試料名	遺物番号	出土位置	層位	原石産地(確率)	判定結果	器種名	時期	表面状態
92308	21	キウス5-1	4	6-67区	V-2b層	赤井川第一群(33%) 赤井川第二群(16%)	赤井川	フレイク	縄文時代早期後葉	
92309	22	キウス5-2	4	6-67区	V-2b層	白土沢(4%) あじさい滝(0.7%)	あじさい滝	フレイク	縄文時代早期後葉	ガラス欠沢
92310	23	キウス5-3	1	6-67区	V-2b層	《赤石山(1%) 鞍加沢(0.6%)》	赤石山	フレイク	縄文時代早期後葉	
92311	24	キウス5-4	4	6-66区	V-2b層	赤井川第一群(63%) 赤井川第二群(24%)	赤井川	フレイク	縄文時代早期後葉	
92312	25	キウス5-5	1	5-65区	V-2b層	赤石山(2%)	赤石山	フレイク	縄文時代早期後葉	
92313	26	キウス5-6	3	6-66区	V-2b層	札幌K19遺物群(D2重-64) 赤井川第一群(D2重-68)	不明	フレイク	縄文時代早期後葉	
92314	27	キウス5-7	3	6-66区	V-2b層	《赤井川第一群(88%) 赤井川第二群(81%)》	赤井川	フレイク	縄文時代早期後葉	
92315	28	キウス5-8	1	5-66区	V-2b層	赤石山(58%)	赤石山	フレイク	縄文時代早期後葉	
92316	29	キウス5-9	1	5-66区	V-2b層	赤石山(67%) 鞍加沢(0.1%) 上白滝 S T 139(0.1%)	赤石山	フレイク	縄文時代早期後葉	
92317	30	キウス5-10	1	5-66区	V-2b層	赤石山(55%) 鞍加沢(0.5%)	赤石山	フレイク	縄文時代早期後葉	

分析番号 92310

(赤石山(1%) 鞍加沢(0.6%))の形跡

《赤石山(1%) 鞍加沢(0.6%)》の形跡は、分析遺物の平均厚さを0.75mmのときの補正値 $Mn/Zr=0.845$ 、 $Pb/Zr=0.87%$ 、 $Rb/Zr=0.0%$ 、 $Sr/Zr=0.0%$ 、 $Y/Zr=0.99$ 、 $Nb/Zr=1.00$ 》を用いて元素比値を補正後、表1の2%圏原石群の中で最も高い確率で判定された原石産地を記し、低い確率の原石産地は紙面の都合上省略した。

2. 放射性炭素年代測定結果 (AMS測定)

機加速器分析研究所

1. 遺跡の位置

キウス5遺跡は、北海道千歳市中央1287-7ほか(北緯42°52'48.8"、東経141°43'05.5")に所在する。

2. 測定の意義

遺跡内に位置する竪穴住居跡や土坑などの遺構と旧石器時代石器群の年代を明らかにする。

3. 測定対象試料

測定対象試料は、キウス5遺跡から出土した木炭60点である。

4. 化学処理工程

1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。

酸処理—アルカリ処理—酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。

4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。

5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。

6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

5. 測定方法

測定機器は、機加速器分析研究所の¹⁴C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

6. 算出方法

年代値の算出には、Libbyの半減期(5,568年)を使用する。¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表される。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C/¹²C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを計算する。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により¹³C/¹²Cを測定した場合には表中に(加速器)と注記する。また、

$\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるときの ^{14}C 濃度に換算した上で計算した値である。pMC (percent Modern Carbon) は、 ^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合を示す。

年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値を暦年校正年代という。暦年校正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年校正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入していない ^{14}C 年代値である。

7. 測定結果

^{14}C 年代は、UH-1では、カマド燃焼部の木炭が $1,280 \pm 30\text{yrBP}$ (1 : IAAA-72073)、カマド燃焼部上部の木炭が $1,200 \pm 30\text{yrBP}$ (2 : IAAA-72074)、床面直上の木炭が $1,270 \pm 30\text{yrBP}$ (3 : IAAA-72075) である。

UH-2では、カマド燃焼部の木炭が $1,330 \pm 30\text{yrBP}$ (4 : IAAA-72076)、覆土の木炭が $1,180 \pm 30\text{yrBP}$ (5 : IAAA-72077) と $1,260 \pm 30\text{yrBP}$ (6 : IAAA-2078) である。

UH-3では、炉跡の木炭が $1,300 \pm 30\text{yrBP}$ (7 : IAAA-72079)、覆土の木炭が $1,280 \pm 30\text{yrBP}$ (8 : IAAA-72080) である。

UH-4では、炉跡上面の木炭が $1,310 \pm 30\text{yrBP}$ (9 : IAAA-72081)、カマド燃焼部上部の木炭が $1,390 \pm 30\text{yrBP}$ (10 : IAAA-72082)、覆土の木炭が $1,180 \pm 30\text{yrBP}$ (11 : IAAA-72083) である。

UH-5では、炉跡上面の木炭が $1,290 \pm 30\text{yrBP}$ (12 : IAAA-72084)、炉跡の木炭が $1,310 \pm 30\text{yrBP}$ (13 : IAAA-72085)、覆土の木炭が $1,280 \pm 30\text{yrBP}$ (14 : IAAA-72086) である。

UH-7では、炉跡上面の木炭が $1,270 \pm 30\text{yrBP}$ (15 : IAAA-72087)、カマド焼土の木炭が $1,430 \pm 30\text{yrBP}$ (16 : IAAA-72088)、カマド粘土の木炭が $1,230 \pm 30\text{yrBP}$ (17 : IAAA-72089) である。

LH-2では、床面の木炭が $4,090 \pm 40\text{yrBP}$ (18 : IAAA-72090)、 $4,200 \pm 40\text{yrBP}$ (19 : IAAA-72091)、 $4,070 \pm 40\text{yrBP}$ (20 : IAAA-72092) である。

LH-4では、覆土の木炭が $4,100 \pm 30\text{yrBP}$ (21 : IAAA-72093)、床面の木炭が $4,100 \pm 40\text{yrBP}$ (22 : IAAA-72094) と $4,090 \pm 30\text{yrBP}$ (23 : IAAA-72095) である。

LH-5では、炉跡の木炭が $4,080 \pm 30\text{yrBP}$ (24 : IAAA-72096) と $3,970 \pm 40\text{yrBP}$ (25 : IAAA-72097) である。

LH-6では、床面直上の木炭が $3,050 \pm 30\text{yrBP}$ (26 : IAAA-72098) である。

LH-12では、炉跡上面の木炭が $4,070 \pm 30\text{yrBP}$ (27 : IAAA-72099)、炉跡の木炭が $4,090 \pm 40\text{yrBP}$ (28 : IAAA-72100)、炉跡上面の木炭が $4,100 \pm 30\text{yrBP}$ (29 : IAAA-72101) である。

LH-14では、覆土の木炭が $4,380 \pm 30\text{yrBP}$ (30 : IAAA-72102)、 $4,420 \pm 30\text{yrBP}$ (31 : IAAA-72103)、 $4,390 \pm 40\text{yrBP}$ (32 : IAAA-72104) である。

LH-15では、ビット (HP-2) の木炭が $4,030 \pm 40\text{yrBP}$ (33 : IAAA-72105) と $4,130 \pm 40\text{yrBP}$ (34 : IAAA-72106) である。

LH-16では、炉跡 (HF-2) の木炭が $4,250 \pm 40\text{yrBP}$ (35 : IAAA-72107) である。

LH-18では、炉跡 (HF-1) の木炭が $4,030 \pm 30\text{yrBP}$ (36 : IAAA-72108) と $4,160 \pm 30\text{yrBP}$ (37 : IAAA-72109)、炉跡 (HF-2) の木炭が $4,130 \pm 30\text{yrBP}$ (38 : IAAA-72110) である。

LH-19では、炉跡(HF-2)の木炭が $4,190 \pm 40$ yrBP (39 : IAAA-72111) である。

LH-21では、床面直上の木炭が $4,110 \pm 40$ yrBP、 $4,090 \pm 30$ yrBP、 $4,100 \pm 40$ yrBP (40~42 : IAAA-72112~72114) である。

LH-22では、床面直上の木炭が $4,070 \pm 40$ yrBP (43 : IAAA-72115)、 $4,150 \pm 30$ yrBP (44 : IAAA-72116)、炉跡(HF-1)上面の木炭が $4,100 \pm 30$ yrBP (45 : IAAA-72117) である。

LH-25Aでは、床面直上の木炭が $3,720 \pm 40$ yrBP、 $3,880 \pm 30$ yrBP、 $3,920 \pm 30$ yrBP (46~48 : IAAA-72118~72120) である。

LH-25Bでは、炉跡(HF-1)の木炭が $4,620 \pm 40$ yrBP、 $4,460 \pm 40$ yrBP、 $4,530 \pm 40$ yrBP (49~51 : IAAA-72121~72123) である。

LP-3では、ビット(P-2)の木炭が $4,450 \pm 40$ yrBP、 $4,400 \pm 40$ yrBP、 $4,500 \pm 30$ yrBP (52~54 : IAAA-72124~72126) である。

LP-16では、覆土の木炭が $4,300 \pm 40$ yrBP (55 : IAAA-72127) である。

LP-30では、焼土の木炭が $4,160 \pm 40$ yrBP (56 : IAAA-72128) である。

Ⅶ層SB-1出土の木炭が $4,580 \pm 40$ yrBP (57 : IAAA-72129)、

Ⅶ層SB-2出土の木炭が $18,570 \pm 80$ yrBP、 $18,500 \pm 70$ yrBP、 $18,350 \pm 70$ yrBP (58~60 : IAAA-72130~72132) である。

同一遺構内でも出土位置に応じて僅かな時間差が認められるものがあり、機能時期や埋没時期について検討できる遺構も存在する。また、試料が木炭であることから、出土位置が同一でありながら相対的に古い年代となる試料の場合には、樹木の年輪による「古木効果」を考慮する必要がある。年輪の内側の部分は、年輪の外側の部分よりも古い年代を示すことから、試料の由来について確認することが重要となる。

暦年校正年代(1σ)では、10・16が605~665AD、1・3・4・6~9・12~15が650~775AD、17が710~870AD、2・5・11が775~890AD、26が1,390~1,260BC、46が2,200~2,030BC、47・48が2,470~2,340BC、25・33・36が2,580~2,460BC、18~24・27~29・34・35・37~45・56が2,910~2,490BC、30~32・53・55が3,270~2,880BC、49~52・54・57が3,500~3,020BC、58~60が20,310~19,650BCに含まれる。暦年校正年代では、幾つかのまとまりがある時期が認められ、集落の主要な機能時期と推定される。

試料の炭素含有率は十分であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

表 1-(1)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72073	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-1 カマド燃焼部	Libby Age(yrBP) : 1,280 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.17 ± 0.69
	試料形態：木炭 試料名(番号)：1	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.7 ± 3.4 pMC(%) = 85.23 ± 0.34
#2038-1	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.5 ± 3.2 pMC(%) = 85.55 ± 0.32 Age(yrBP) : 1,250 ± 30
IAAA-72074	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-1 カマド燃焼部上部	Libby Age(yrBP) : 1,200 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.76 ± 0.7
	試料形態：木炭 試料名(番号)：2	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -139.2 ± 3.5 pMC(%) = 86.08 ± 0.35
#2038-2	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.1 ± 3.3 pMC(%) = 85.59 ± 0.33 Age(yrBP) : 1,250 ± 30
IAAA-72075	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-1 床面直上	Libby Age(yrBP) : 1,270 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.43 ± 0.6
	試料形態：木炭 試料名(番号)：3	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -146.6 ± 3.4 pMC(%) = 85.34 ± 0.34
#2038-3	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.4 ± 3.2 pMC(%) = 85.26 ± 0.32 Age(yrBP) : 1,280 ± 30
IAAA-72076	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-2 カマド燃焼部	Libby Age(yrBP) : 1,330 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.93 ± 0.75
	試料形態：木炭 試料名(番号)：4	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -152.7 ± 3.1 pMC(%) = 84.73 ± 0.31
#2038-4	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -157.8 ± 2.8 pMC(%) = 84.22 ± 0.28 Age(yrBP) : 1,380 ± 30
IAAA-72077	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-2 覆土	Libby Age(yrBP) : 1,180 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.67 ± 0.85
	試料形態：木炭 試料名(番号)：5	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -136.5 ± 3.4 pMC(%) = 86.35 ± 0.34
#2038-5	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -137.7 ± 3 pMC(%) = 86.23 ± 0.3 Age(yrBP) : 1,190 ± 30

表1-(2)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72078 #2038-6	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-2 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：6	Libby Age(yrBP) : 1,260 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.8 ± 0.61 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -145.1 ± 3.2 pMC(%) = 85.49 ± 0.32
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -148.2 ± 3 pMC(%) = 85.18 ± 0.3 Age(yrBP) : 1,290 ± 30
IAAA-72079 #2038-7	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-3 伊跡 試料形態：木炭 試料名(番号)：7	Libby Age(yrBP) : 1,300 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.75 ± 0.76 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -149.9 ± 3.1 pMC(%) = 85.01 ± 0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -151.2 ± 2.8 pMC(%) = 84.88 ± 0.28 Age(yrBP) : 1,320 ± 30
IAAA-72080 #2038-8	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-3 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：8	Libby Age(yrBP) : 1,280 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.79 ± 0.61 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.6 ± 3.2 pMC(%) = 85.24 ± 0.32
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -145.4 ± 3 pMC(%) = 85.46 ± 0.3 Age(yrBP) : 1,260 ± 30
IAAA-72081 #2038-9	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-4 伊跡上面 (HF-1) 試料形態：木炭 試料名(番号)：9	Libby Age(yrBP) : 1,310 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.35 ± 0.63 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -150.8 ± 3.3 pMC(%) = 84.92 ± 0.33
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -153.2 ± 3.1 pMC(%) = 84.68 ± 0.31 Age(yrBP) : 1,340 ± 30
IAAA-72082 #2038-10	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-4 カマド燃焼部上部 試料形態：木炭 試料名(番号)：10	Libby Age(yrBP) : 1,390 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.33 ± 0.86 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -158.9 ± 3.3 pMC(%) = 84.11 ± 0.33
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -156 ± 2.9 pMC(%) = 84.4 ± 0.29 Age(yrBP) : 1,360 ± 30

表 1-(3)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72083	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-4 覆土	Libby Age(yrBP) : 1,180 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.72 ± 0.35
	試料形態：木炭 試料名(番号)：11	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -137.1 ± 3.1 pMC(%) = 86.29 ± 0.31
#2038-11追加	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -134.8 ± 3 pMC(%) = 86.52 ± 0.3 Age(yrBP) : 1,160 ± 30
IAAA-72084	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-5 伊跡上面 (HF-1)	Libby Age(yrBP) : 1,290 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.15 ± 0.66
	試料形態：木炭 試料名(番号)：12	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.9 ± 3.4 pMC(%) = 85.21 ± 0.34
#2038-12	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -149.9 ± 3.2 pMC(%) = 85.01 ± 0.32 Age(yrBP) : 1,300 ± 30
IAAA-72085	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-5 伊跡 (HF-1)	Libby Age(yrBP) : 1,310 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.1 ± 0.63
	試料形態：木炭 試料名(番号)：13	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -150.1 ± 3.3 pMC(%) = 84.99 ± 0.33
#2038-13	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -150.3 ± 3.2 pMC(%) = 84.97 ± 0.32 Age(yrBP) : 1,310 ± 30
IAAA-72086	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-5 覆土	Libby Age(yrBP) : 1,280 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.58 ± 0.88
	試料形態：木炭 試料名(番号)：14	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -147.8 ± 3.3 pMC(%) = 85.22 ± 0.33
#2038-14	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -154.1 ± 2.9 pMC(%) = 84.59 ± 0.29 Age(yrBP) : 1,340 ± 30
IAAA-72087	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-7 伊跡上面 (HF-1)	Libby Age(yrBP) : 1,270 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.1 ± 0.72
	試料形態：木炭 試料名(番号)：15	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -146.1 ± 3.4 pMC(%) = 85.39 ± 0.34
#2038-15	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -144.5 ± 3.2 pMC(%) = 85.55 ± 0.32 Age(yrBP) : 1,250 ± 30

表1-(4)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72088	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-7 カマド焼土	Libby Age(yrBP) : 1,430 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.2 ± 0.77
	試料形態：木炭 試料名(番号)：16	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -163.1 ± 3.2 pMC(%) = 83.69 ± 0.32
#2038-16	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -170.3 ± 2.9 pMC(%) = 82.97 ± 0.29 Age(yrBP) : 1,500 ± 30
IAAA-72089	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 UH-7 カマド粘土	Libby Age(yrBP) : 1,230 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.03 ± 0.47
	試料形態：木炭 試料名(番号)：17	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -141.6 ± 3.4 pMC(%) = 85.84 ± 0.34
#2038-17	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -145.2 ± 3.3 pMC(%) = 85.48 ± 0.33 Age(yrBP) : 1,260 ± 30
IAAA-72090	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-2 床面	Libby Age(yrBP) : 4,090 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.94 ± 0.62
	試料形態：木炭 試料名(番号)：18	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399 ± 2.7 pMC(%) = 60.1 ± 0.27
#2038-18	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.9 ± 2.5 pMC(%) = 59.61 ± 0.25 Age(yrBP) : 4,160 ± 30
IAAA-72091	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-2 床面	Libby Age(yrBP) : 4,200 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.01 ± 0.77
	試料形態：木炭 試料名(番号)：19	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -407 ± 2.8 pMC(%) = 59.3 ± 0.28
#2038-19	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -410.7 ± 2.6 pMC(%) = 58.93 ± 0.26 Age(yrBP) : 4,250 ± 40
IAAA-72092	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-2 床面	Libby Age(yrBP) : 4,070 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.93 ± 0.75
	試料形態：木炭 試料名(番号)：20	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -397.9 ± 2.6 pMC(%) = 60.21 ± 0.26
#2038-20	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399 ± 2.4 pMC(%) = 60.1 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,090 ± 30

表 1-(5)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72093	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-4 覆土	Libby Age(yrBP) : 4,100 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.32 ± 0.68
	試料形態：木炭 試料名(番号)：21	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.5 ± 2.6 pMC(%) = 60.05 ± 0.26
# 2038-21	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -402.4 ± 2.4 pMC(%) = 59.76 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,140 ± 30
IAAA-72094	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-4 床面	Libby Age(yrBP) : 4,100 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.86 ± 0.7
	試料形態：木炭 試料名(番号)：22	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.7 ± 2.6 pMC(%) = 60.03 ± 0.26
# 2038-22	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.2 ± 2.4 pMC(%) = 59.68 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,150 ± 30
IAAA-72095	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-4 床面	Libby Age(yrBP) : 4,090 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.14 ± 0.78
	試料形態：木炭 試料名(番号)：23	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399 ± 2.6 pMC(%) = 60.1 ± 0.26
# 2038-23	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.7 ± 2.4 pMC(%) = 59.83 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,130 ± 30
IAAA-72096	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-5 伊跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,080 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.22 ± 0.6
	試料形態：木炭 試料名(番号)：24	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -398.6 ± 2.5 pMC(%) = 60.14 ± 0.25
# 2038-24	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.3 ± 2.4 pMC(%) = 59.87 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,120 ± 30
IAAA-72097	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-5 伊跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 3,970 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.76 ± 0.63
	試料形態：木炭 試料名(番号)：25	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -389.7 ± 2.7 pMC(%) = 61.03 ± 0.27
# 2038-25	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -395.6 ± 2.6 pMC(%) = 60.44 ± 0.26 Age(yrBP) : 4,040 ± 30

表1-(6)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72098	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-6 床面直上	Libby Age(yrBP) : 3,050 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.4 ± 0.79
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 26	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -315.7 ± 2.9 pMC(%) = 68.43 ± 0.29
# 2038-26	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -320.5 ± 2.6 pMC(%) = 67.95 ± 0.26 Age(yrBP) : 3,100 ± 30
IAAA-72099	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-12 炉跡上面(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,070 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.42 ± 0.64
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 27	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -397.2 ± 2.5 pMC(%) = 60.28 ± 0.25
# 2038-27	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -402.7 ± 2.4 pMC(%) = 59.73 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,140 ± 30
IAAA-72100	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-12 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,090 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.22 ± 0.94
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 28	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.3 ± 2.7 pMC(%) = 60.07 ± 0.27
# 2038-28	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.3 ± 2.4 pMC(%) = 59.67 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,150 ± 30
IAAA-72101	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-12 炉跡上面(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,100 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.6 ± 0.77
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 29	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.8 ± 2.4 pMC(%) = 60.02 ± 0.24
# 2038-29	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -405.4 ± 2.2 pMC(%) = 59.46 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,180 ± 30
IAAA-72102	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-14 覆土	Libby Age(yrBP) : 4,380 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.18 ± 0.78
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 30	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -420.1 ± 2.5 pMC(%) = 57.99 ± 0.25
# 2038-30	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -425.1 ± 2.3 pMC(%) = 57.49 ± 0.23 Age(yrBP) : 4,450 ± 30

表 1-(7)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72103	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-14 覆土	Libby Age(yrBP) : 4,420 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.74 ± 0.62
	試料形態：木炭 試料名(番号)：31	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -423.2 ± 2.4 pMC(%) = 57.68 ± 0.24
# 2038-31	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -428.8 ± 2.2 pMC(%) = 57.12 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,500 ± 30
IAAA-72104	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-14 覆土	Libby Age(yrBP) : 4,390 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.13 ± 0.76
	試料形態：木炭 試料名(番号)：32	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -420.7 ± 2.5 pMC(%) = 57.93 ± 0.25
# 2038-32	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -419.7 ± 2.3 pMC(%) = 58.03 ± 0.23 Age(yrBP) : 4,370 ± 30
IAAA-72105	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-15 ビット(HP-2)	Libby Age(yrBP) : 4,030 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.33 ± 0.82
	試料形態：木炭 試料名(番号)：33	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -394.4 ± 2.8 pMC(%) = 60.56 ± 0.28
# 2038-33	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -397.3 ± 2.6 pMC(%) = 60.27 ± 0.26 Age(yrBP) : 4,070 ± 40
IAAA-72106	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-15 ビット(HP-2)	Libby Age(yrBP) : 4,130 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.4 ± 0.79
	試料形態：木炭 試料名(番号)：34	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.9 ± 2.6 pMC(%) = 59.81 ± 0.26
# 2038-34	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.7 ± 2.4 pMC(%) = 59.63 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,150 ± 30
IAAA-72107	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-16 炉跡(HF-2)	Libby Age(yrBP) : 4,250 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.27 ± 0.71
	試料形態：木炭 試料名(番号)：35	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -410.5 ± 2.7 pMC(%) = 58.95 ± 0.27
# 2038-35	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -409.6 ± 2.5 pMC(%) = 59.04 ± 0.25 Age(yrBP) : 4,230 ± 40

表1-(8)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72108	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-18 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4.030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.75 ± 0.68
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 36	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -394.7 ± 2.5 pMC(%) = 60.53 ± 0.25
#2038-36	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -395.6 ± 2.4 pMC(%) = 60.44 ± 0.24 Age(yrBP) : 4.050 ± 30
IAAA-72109	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-18 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4.160 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.5 ± 0.77
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 37	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -404 ± 2.5 pMC(%) = 59.6 ± 0.25
#2038-37	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -405.8 ± 2.3 pMC(%) = 59.42 ± 0.23 Age(yrBP) : 4.180 ± 30
IAAA-72110	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-18 炉跡(HF-2)	Libby Age(yrBP) : 4.130 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.07 ± 0.69
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 38	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.6 ± 2.3 pMC(%) = 59.84 ± 0.23
#2038-38	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -400.5 ± 2.2 pMC(%) = 59.95 ± 0.22 Age(yrBP) : 4.110 ± 30
IAAA-72111	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-19 炉跡(HF-2)	Libby Age(yrBP) : 4.190 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.39 ± 0.61
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 39	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -406.1 ± 2.6 pMC(%) = 59.39 ± 0.26
#2038-39	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -410.2 ± 2.5 pMC(%) = 58.98 ± 0.25 Age(yrBP) : 4.240 ± 30
IAAA-72112	試料採取場所: 北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-21 床面直上	Libby Age(yrBP) : 4.110 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -30.67 ± 0.57
	試料形態: 木炭 試料名(番号): 40	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -400.7 ± 2.7 pMC(%) = 59.93 ± 0.27
#2038-40	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -407.7 ± 2.6 pMC(%) = 59.23 ± 0.26 Age(yrBP) : 4.210 ± 40

表 1-(9)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72113	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-21 床面直上	Libby Age(yrBP) : 4,090 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.4 ± 0.56
	試料形態：木炭 試料名(番号)：41	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.4 ± 2.3 pMC(%) = 60.06 ± 0.23
#2038-41	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -404.8 ± 2.2 pMC(%) = 59.52 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,170 ± 30
	IAAA-72114	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-21 床面直上
#2038-42	試料形態：木炭 試料名(番号)：42	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.8 ± 2.8 pMC(%) = 60.02 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.8 ± 2.6 pMC(%) = 59.82 ± 0.26 Age(yrBP) : 4,130 ± 40
IAAA-72115	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-22 床面直上	Libby Age(yrBP) : 4,070 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.72 ± 0.79
	試料形態：木炭 試料名(番号)：43	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -397.5 ± 2.6 pMC(%) = 60.25 ± 0.26
#2038-43	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.3 ± 2.4 pMC(%) = 59.67 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,150 ± 30
	IAAA-72116	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-22 床面直上
#2038-44	試料形態：木炭 試料名(番号)：44	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -403.4 ± 2.4 pMC(%) = 59.66 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -406.1 ± 2.3 pMC(%) = 59.39 ± 0.23 Age(yrBP) : 4,190 ± 30
IAAA-72117	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-22 伊勢(HF-1)上面	Libby Age(yrBP) : 4,100 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.46 ± 0.86
	試料形態：木炭 試料名(番号)：45	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -399.8 ± 2.4 pMC(%) = 60.02 ± 0.24
#2038-45	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -401.6 ± 2.2 pMC(%) = 59.84 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,130 ± 30

表1-(10)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72118	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25A 床面直上	Libby Age(yrBP) : 3,720 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.94 ± 0.81
	試料形態：木炭 試料名(番号)：46	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -370.7 ± 2.7 pMC(%) = 62.93 ± 0.27
#2038-46追加	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -373.1 ± 2.5 pMC(%) = 62.69 ± 0.25 Age(yrBP) : 3,750 ± 30
IAAA-72119	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25A 床面直上	Libby Age(yrBP) : 3,880 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.82 ± 0.58
	試料形態：木炭 試料名(番号)：47	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -383.5 ± 2.6 pMC(%) = 61.65 ± 0.26
#2038-47	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -385.8 ± 2.5 pMC(%) = 61.42 ± 0.25 Age(yrBP) : 3,910 ± 30
IAAA-72120	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25A 床面直上	Libby Age(yrBP) : 3,920 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -29.6 ± 0.73
	試料形態：木炭 試料名(番号)：48	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -386.1 ± 2.5 pMC(%) = 61.39 ± 0.25
#2038-48	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -391.9 ± 2.3 pMC(%) = 60.81 ± 0.23 Age(yrBP) : 4,000 ± 30
IAAA-72121	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25B 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,620 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.68 ± 0.47
	試料形態：木炭 試料名(番号)：49	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -437.4 ± 2.5 pMC(%) = 56.26 ± 0.25
#2038-49	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -439.3 ± 2.4 pMC(%) = 56.07 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,650 ± 40
IAAA-72122	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25B 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,460 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.03 ± 0.75
	試料形態：木炭 試料名(番号)：50	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -425.9 ± 2.7 pMC(%) = 57.41 ± 0.27
#2038-50	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -428.3 ± 2.5 pMC(%) = 57.17 ± 0.25 Age(yrBP) : 4,490 ± 40

表 1 - (11)

IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72123	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LH-25B 炉跡(HF-1)	Libby Age(yrBP) : 4,530 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.96 ± 0.47
	試料形態：木炭 試料名(番号)：51	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -431.3 ± 2.5 pMC(%) = 56.87 ± 0.25
# 2038-51	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -433.6 ± 2.4 pMC(%) = 56.64 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,570 ± 30
IAAA-72124	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LP-3 ビット(P-2)	Libby Age(yrBP) : 4,450 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.92 ± 0.93
	試料形態：木炭 試料名(番号)：52	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -425.4 ± 2.5 pMC(%) = 57.46 ± 0.25
# 2038-52	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -427.6 ± 2.2 pMC(%) = 57.24 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,480 ± 30
IAAA-72125	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LP-3 ビット(P-2)	Libby Age(yrBP) : 4,400 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.21 ± 0.51
	試料形態：木炭 試料名(番号)：53	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -421.4 ± 2.6 pMC(%) = 57.86 ± 0.26
# 2038-53	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -424.1 ± 2.5 pMC(%) = 57.59 ± 0.25 Age(yrBP) : 4,430 ± 40
IAAA-72126	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LP-3 ビット(P-2)	Libby Age(yrBP) : 4,500 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.94 ± 0.62
	試料形態：木炭 試料名(番号)：54	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -428.8 ± 2.3 pMC(%) = 57.12 ± 0.23
# 2038-54	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -432.2 ± 2.2 pMC(%) = 56.78 ± 0.22 Age(yrBP) : 4,550 ± 30
IAAA-72127	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LP-16 覆土	Libby Age(yrBP) : 4,300 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.19 ± 0.84
	試料形態：木炭 試料名(番号)：55	$\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -414.5 ± 2.7 pMC(%) = 58.55 ± 0.27
# 2038-55	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -418.4 ± 2.5 pMC(%) = 58.16 ± 0.25 Age(yrBP) : 4,350 ± 40

表1-(12)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72128	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 LP-30 焼土 試料形態：木炭 試料名(番号)：56	Libby Age(yrBP) : 4.160 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.49 ± 0.54 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -404.6 ± 2.7 pMC(%) = 59.54 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -408.8 ± 2.6 pMC(%) = 59.12 ± 0.26 Age(yrBP) : 4.220 ± 40
IAAA-72129	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 SB-1 VII層 試料形態：木炭 試料名(番号)：57	Libby Age(yrBP) : 4.580 ± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.3 ± 0.68 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -434.9 ± 2.6 pMC(%) = 56.51 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -436.4 ± 2.5 pMC(%) = 56.36 ± 0.25 Age(yrBP) : 4.610 ± 40
IAAA-72130	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 SB-2 VII層 試料形態：木炭 試料名(番号)：58	Libby Age(yrBP) : 18,570 ± 80 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.35 ± 0.82 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -900.8 ± 1 pMC(%) = 9.92 ± 0.1
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -900.9 ± 1 pMC(%) = 9.91 ± 0.1 Age(yrBP) : 18,570 ± 80
IAAA-72131	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 SB-2 VII層 試料形態：木炭 試料名(番号)：59	Libby Age(yrBP) : 18,500 ± 70 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.53 ± 0.74 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -900 ± 0.9 pMC(%) = 10 ± 0.09
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -900.2 ± 0.9 pMC(%) = 9.98 ± 0.09 Age(yrBP) : 18,510 ± 70
IAAA-72132	試料採取場所：北海道千歳市中央1287-7 キウス5道跡 SB-2 VII層 試料形態：木炭 試料名(番号)：60	Libby Age(yrBP) : 18,350 ± 70 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.22 ± 0.77 $\Delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -898.1 ± 0.9 pMC(%) = 10.19 ± 0.09
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -898.8 ± 0.9 pMC(%) = 10.12 ± 0.09 Age(yrBP) : 18,400 ± 70

参考

IAAA-72083, 72118に関しましては、追加試料を処理し測定した結果になります。

表 2 参考資料：暦年校正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)	IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-72073	1	1,283 ± 32	IAAA-72103	31	4,420 ± 33
IAAA-72074	2	1,204 ± 32	IAAA-72104	32	4,386 ± 34
IAAA-72075	3	1,273 ± 31	IAAA-72105	33	4,028 ± 37
IAAA-72076	4	1,331 ± 29	IAAA-72106	34	4,129 ± 34
IAAA-72077	5	1,178 ± 31	IAAA-72107	35	4,245 ± 36
IAAA-72078	6	1,259 ± 29	IAAA-72108	36	4,032 ± 33
IAAA-72079	7	1,304 ± 29	IAAA-72109	37	4,157 ± 33
IAAA-72080	8	1,282 ± 29	IAAA-72110	38	4,125 ± 31
IAAA-72081	9	1,313 ± 31	IAAA-72111	39	4,185 ± 35
IAAA-72082	10	1,390 ± 31	IAAA-72112	40	4,113 ± 36
IAAA-72083	11	1,184 ± 28	IAAA-72113	41	4,094 ± 30
IAAA-72084	12	1,285 ± 31	IAAA-72114	42	4,100 ± 36
IAAA-72085	13	1,306 ± 31	IAAA-72115	43	4,069 ± 34
IAAA-72086	14	1,284 ± 30	IAAA-72116	44	4,149 ± 32
IAAA-72087	15	1,268 ± 32	IAAA-72117	45	4,101 ± 32
IAAA-72088	16	1,430 ± 30	IAAA-72118	46	3,719 ± 34
IAAA-72089	17	1,226 ± 32	IAAA-72119	47	3,885 ± 33
IAAA-72090	18	4,090 ± 35	IAAA-72120	48	3,919 ± 33
IAAA-72091	19	4,198 ± 37	IAAA-72121	49	4,620 ± 35
IAAA-72092	20	4,074 ± 34	IAAA-72122	50	4,457 ± 37
IAAA-72093	21	4,097 ± 34	IAAA-72123	51	4,534 ± 35
IAAA-72094	22	4,089 ± 34	IAAA-72124	52	4,450 ± 34
IAAA-72095	23	4,090 ± 34	IAAA-72125	53	4,395 ± 36
IAAA-72096	24	4,084 ± 33	IAAA-72126	54	4,498 ± 32
IAAA-72097	25	3,966 ± 35	IAAA-72127	55	4,300 ± 37
IAAA-72098	26	3,047 ± 33	IAAA-72128	56	4,164 ± 35
IAAA-72099	27	4,066 ± 33	IAAA-72129	57	4,584 ± 37
IAAA-72100	28	4,094 ± 36	IAAA-72130	58	18,565 ± 80
IAAA-72101	29	4,100 ± 32	IAAA-72131	59	18,500 ± 72
IAAA-72102	30	4,377 ± 34	IAAA-72132	60	18,347 ± 71

ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下 1 桁を丸めない値です。

表3 暦年校正年代(1)

試料 番号	試料	出土 地点	層位	Code No.	前 処理	暦年校正用 (yrBP・丸め込みなし)	暦年校正1σ (yrcalBP)	暦年校正2σ (yrcalBP)
1	木炭	UH-1	カマド焼土	IAAA-72073	AAA	1,283±32	675-725AD (40.6%) 740-770AD (27.6%)	650-780AD (93.8%) 790-810AD (1.6%)
2	木炭	UH-1	カマド焼土 直上	IAAA-72074	AAA	1,204±32	775-875AD (68.2%)	690-750AD (10.6%) 790-900AD (84.8%)
3	木炭	UH-1	床面直上	IAAA-72075	AAA	1,273±31	685-730AD (37.9%) 735-775AD (30.3%)	660-820AD (95.4%)
4	木炭	UH-2	カマド焼土	IAAA-72076	AAA	1,331±29	650-690AD (61.4%) 750-760AD (6.8%)	640-730AD (78.4%) 740-770AD (17.0%)
5	木炭	UH-2	覆土	IAAA-72077	AAA	1,178±31	780-890AD (68.2%)	770-900AD (84.3%) 910-970AD (11.1%)
6	木炭	UH-2	覆土	IAAA-72078	AAA	1,259±29	685-755AD (56.0%) 760-775AD (12.2%)	660-830AD (91.9%) 840-870AD (3.5%)
7	木炭	UH-3	伊勢(焼土)	IAAA-72079	AAA	1,304±29	660-710AD (47.8%) 740-770AD (20.4%)	650-780AD (95.4%)
8	木炭	UH-3	覆土	IAAA-72080	AAA	1,282±29	675-725AD (39.9%) 740-770AD (28.3%)	660-780AD (95.4%)
9	木炭	UH-4	伊勢(焼土) HF-1上面	IAAA-72081	AAA	1,313±31	660-710AD (50.4%) 740-770AD (17.8%)	650-780AD (95.4%)
10	木炭	UH-4	カマド焼土 上部	IAAA-72082	AAA	1,390±31	620-665AD (68.2%)	600-675AD (95.4%)
11	木炭	UH-4	覆土	IAAA-72083	AAA	1,184±28	780-790AD (6.1%) 800-890AD (62.1%)	770-900AD (90.3%) 910-950AD (5.1%)
12	木炭	UH-5	伊勢(焼土) HF-1上面	IAAA-72084	AAA	1,285±31	670-720AD (41.4%) 740-770AD (26.8%)	650-780AD (95.4%)
13	木炭	UH-5	伊勢(焼土) HF-1	IAAA-72085	AAA	1,306±31	660-710AD (48.1%) 740-770AD (20.1%)	650-780AD (95.4%)
14	木炭	UH-5	覆土	IAAA-72086	AAA	1,284±30	675-725AD (40.9%) 740-770AD (27.3%)	660-780AD (95.4%)
15	木炭	UH-7	伊勢(焼土) HF-1上面	IAAA-72087	AAA	1,268±32	685-775AD (68.2%)	660-830AD (93.1%) 840-860AD (2.3%)
16	木炭	UH-7	カマド焼土	IAAA-72088	AAA	1,430±30	605-650AD (68.2%)	570-660AD (95.4%)
17	木炭	UH-7	カマド 粘土	IAAA-72089	AAA	1,236±32	710-750AD (13.7%) 760-870AD (54.5%)	680-890AD (95.4%)
18	木炭	LH-2	床面	IAAA-72090	AAA	4,090±35	2,850-2,810BC (13.4%) 2,680-2,570BC (54.8%)	2,870-2,800BC (19.3%) 2,760-2,560BC (70.4%) 2,540-2,490BC (5.7%)
19	木炭	LH-2	床面	IAAA-72091	AAA	4,198±37	2,890-2,850BC (18.6%) 2,810-2,750BC (38.5%) 2,730-2,700BC (11.3%)	2,900-2,830BC (35.8%) 2,830-2,660BC (68.0%)
20	木炭	LH-2	床面	IAAA-72092	AAA	4,074±34	2,840-2,810BC (9.0%) 2,670-2,560BC (52.2%) 2,520-2,490BC (7.9%)	2,860-2,810BC (14.4%) 2,750-2,730BC (3.9%) 2,700-2,490BC (77.1%)
21	木炭	LH-4	覆土	IAAA-72093	AAA	4,097±34	2,850-2,810BC (14.8%) 2,740-2,730BC (0.8%) 2,700-2,570BC (52.5%)	2,870-2,800BC (21.0%) 2,760-2,560BC (71.4%) 2,530-2,490BC (3.0%)
22	木炭	LH-4	床面	IAAA-72094	AAA	4,099±34	2,850-2,810BC (15.1%) 2,740-2,730BC (1.9%) 2,700-2,570BC (51.3%)	2,870-2,800BC (21.5%) 2,760-2,560BC (71.4%) 2,520-2,490BC (2.4%)
23	木炭	LH-4	床面	IAAA-72095	AAA	4,090±34	2,850-2,810BC (13.4%) 2,680-2,570BC (54.8%)	2,870-2,800BC (19.4%) 2,760-2,560BC (71.0%) 2,540-2,490BC (5.0%)
24	木炭	LH-5	HF-1	IAAA-72096	AAA	4,084±33	2,840-2,810BC (11.3%) 2,680-2,570BC (56.9%)	2,860-2,800BC (17.6%) 2,760-2,720BC (6.1%) 2,710-2,560BC (64.3%) 2,540-2,490BC (7.4%)
25	木炭	LH-5	HF-1	IAAA-72097	AAA	3,966±35	2,570-2,520BC (34.2%) 2,500-2,460BC (34.0%)	2,580-2,340BC (95.4%)
26	木炭	LH-6	床面直上	IAAA-72098	AAA	3,047±33	1,390-1,260BC (68.2%)	1,420-1,250BC (89.9%) 1,240-1,210BC (5.5%)
27	木炭	LH-12	HF-1 上面	IAAA-72099	AAA	4,066±33	2,840-2,810BC (6.9%) 2,660-2,560BC (48.7%) 2,530-2,490BC (12.7%)	2,860-2,810BC (11.2%) 2,750-2,720BC (2.1%) 2,700-2,490BC (82.1%)
28	木炭	LH-12	HF-1	IAAA-72100	AAA	4,094±36	2,850-2,810BC (14.6%) 2,700-2,570BC (53.6%)	2,870-2,800BC (20.4%) 2,760-2,560BC (70.7%) 2,530-2,490BC (4.3%)
29	木炭	LH-12	HF-1 上面	IAAA-72101	AAA	4,100±32	2,850-2,810BC (14.7%) 2,700-2,570BC (53.5%)	2,870-2,800BC (21.8%) 2,760-2,560BC (71.8%) 2,520-2,500BC (1.8%)
30	木炭	LH-14	覆土	IAAA-72102	AAA	4,377±34	3,025-2,920BC (68.2%)	3,090-2,900BC (95.4%)
31	木炭	LH-14	覆土	IAAA-72103	AAA	4,420±33	3,270-3,250BC (3.2%) 3,100-3,000BC (50.0%) 2,990-2,930BC (15.0%)	3,330-3,230BC (14.2%) 3,180-3,160BC (1.1%) 3,120-2,910BC (80.1%)
32	木炭	LH-14	覆土	IAAA-72104	AAA	4,386±34	3,080-3,070BC (4.2%) 3,030-2,920BC (64.0%)	3,100-2,900BC (95.4%)

表3 暦年校正年代(2)

試料 番号	試料 出土地 地点	層位	Code No.	前 処理	暦年校正用 (γ BP・丸め込みなし)	暦年校正1 σ (yrcaBP)	暦年校正2 σ (yrcaBP)
33	木炭 LH-15	HP-2	IAAA-72105	AAA	4,028 \pm 37	2,580-2,485BC (68.2%) 2,860-2,800BC (19.5%) 2,760-2,620BC (48.7%)	2,840-2,810BC (2.1%) 2,640-2,460BC (93.3%)
34	木炭 LH-15	HP-2	IAAA-72106	AAA	4,129 \pm 34	2,910-2,870BC (54.7%) 2,810-2,770BC (13.5%)	2,920-2,850BC (62.9%) 2,820-2,740BC (26.7%) 2,730-2,690BC (5.8%)
35	木炭 LH-16	H F-2	IAAA-72107	AAA	4,245 \pm 36	2,580-2,485BC (68.2%)	2,840-2,810BC (2.1%) 2,630-2,470BC (93.7%)
36	木炭 LH-18	H F-1	IAAA-72108	AAA	4,032 \pm 33	2,880-2,830BC (14.2%) 2,820-2,670BC (54.0%)	2,880-2,620BC (95.4%)
37	木炭 LH-18	H F-1	IAAA-72109	AAA	4,157 \pm 33	2,860-2,800BC (20.1%) 2,760-2,720BC (13.0%) 2,700-2,620BC (35.1%)	2,870-2,800BC (25.6%) 2,780-2,570BC (69.8%)
38	木炭 LH-18	H F-2	IAAA-72110	AAA	4,125 \pm 31	2,890-2,850BC (14.4%) 2,820-2,740BC (39.5%) 2,730-2,690BC (14.4%)	2,890-2,830BC (22.9%) 2,820-2,660BC (70.7%) 2,650-2,630BC (1.8%)
39	木炭 LH-19	H F-2	IAAA-72111	AAA	4,185 \pm 35	2,860-2,810BC (18.8%) 2,750-2,720BC (8.6%) 2,700-2,580BC (40.9%)	2,880-2,570BC (95.4%)
40	木炭 LH-21	床面直上	IAAA-72112	AAA	4,113 \pm 36	2,840-2,810BC (13.2%) 2,680-2,570BC (55.0%)	2,860-2,800BC (20.4%) 2,760-2,560BC (72.5%) 2,520-2,490BC (2.5%)
41	木炭 LH-21	床面直上	IAAA-72113	AAA	4,094 \pm 30	2,850-2,810BC (15.6%) 2,740-2,720BC (3.7%) 2,700-2,570BC (48.9%)	2,870-2,800BC (21.6%) 2,780-2,560BC (71.3%) 2,520-2,490BC (2.5%)
42	木炭 LH-21	床面直上	IAAA-72114	AAA	4,100 \pm 36	2,840-2,810BC (8.0%) 2,670-2,560BC (49.5%) 2,520-2,490BC (10.7%)	2,860-2,810BC (12.6%) 2,750-2,720BC (2.8%) 2,700-2,480BC (80.0%)
43	木炭 LH-22	床面直上	IAAA-72115	AAA	4,069 \pm 34	2,870-2,830BC (14.5%) 2,820-2,800BC (5.6%) 2,780-2,660BC (48.2%)	2,880-2,620BC (95.4%)
44	木炭 LH-22	床面直上	IAAA-72116	AAA	4,149 \pm 32	2,850-2,810BC (15.2%) 2,700-2,570BC (53.0%)	2,870-2,800BC (22.0%) 2,760-2,560BC (71.8%) 2,520-2,500BC (1.6%)
45	木炭 LH-22	H F-1 上面	IAAA-72117	AAA	4,101 \pm 32	2,290-2,170BC (12.4%) 2,150-2,110BC (16.8%) 2,100-2,030BC (39.0%)	2,210-2,020BC (95.4%)
46	木炭 LH-25A	床面直上	IAAA-72118	AAA	3,719 \pm 34	2,460-2,340BC (68.2%)	2,470-2,280BC (93.7%) 2,250-2,230BC (1.7%)
47	木炭 LH-25A	床面直上	IAAA-72119	AAA	3,885 \pm 33	2,470-2,340BC (68.2%)	2,490-2,290BC (95.4%)
48	木炭 LH-25A	床面直上	IAAA-72120	AAA	3,919 \pm 33	3,500-3,440BC (46.9%) 3,380-3,350BC (21.3%)	3,520-3,340BC (95.4%)
49	木炭 LH-25B	H F-1	IAAA-72121	AAA	4,620 \pm 35	3,330-3,210BC (36.6%) 3,180-3,150BC (4.3%) 3,120-3,080BC (13.1%) 3,070-3,020BC (14.2%)	3,340-3,010BC (94.4%) 2,980-2,960BC (1.0%)
50	木炭 LH-25B	H F-1	IAAA-72122	AAA	4,457 \pm 37	3,360-3,320BC (17.7%) 3,240-3,110BC (50.5%)	3,370-3,260BC (34.4%) 3,250-3,100BC (61.0%)
51	木炭 LH-25B	H F-1	IAAA-72123	AAA	4,534 \pm 35	3,330-3,230BC (31.1%) 3,180-3,160BC (2.7%) 3,120-3,020BC (31.4%)	3,340-3,000BC (92.2%) 2,980-2,930BC (3.2%)
52	木炭 LP-3	P-2	IAAA-72124	AAA	4,450 \pm 34	3,090-3,050BC (12.5%) 3,000-2,920BC (55.7%)	3,270-3,240BC (2.9%) 3,110-2,900BC (92.5%)
53	木炭 LP-3	P-2	IAAA-72125	AAA	4,395 \pm 36	3,340-3,260BC (27.0%) 3,250-3,210BC (13.0%) 3,190-3,150BC (15.3%) 3,140-3,100BC (12.9%)	3,360-3,090BC (95.4%)
54	木炭 LP-3	P-2	IAAA-72126	AAA	4,498 \pm 32	3,010-2,990BC (5.2%) 2,900-2,880BC (63.0%)	3,020-2,870BC (95.4%)
55	木炭 LP-16	覆土	IAAA-72127	AAA	4,300 \pm 37	2,880-2,840BC (12.1%) 2,820-2,740BC (34.6%) 2,730-2,670BC (21.6%)	2,880-2,620BC (95.4%)
56	木炭 LP-30	焼土	IAAA-72128	AAA	4,164 \pm 35	3,500-3,460BC (15.7%) 3,380-3,330BC (36.3%) 3,210-3,190BC (9.4%) 3,160-3,130BC (6.8%)	3,500-3,430BC (22.7%) 3,380-3,310BC (40.6%) 3,300-3,260BC (1.0%) 3,240-3,100BC (31.1%)
57	木炭 SB-1	VII層	IAAA-72129	AAA	4,584 \pm 37	20,310-20,130BC (68.2%) 20,260-20,080BC (68.2%) 20,160-19,790BC (65.9%) 19,690-19,650BC (2.3%)	20,410-20,040BC (95.4%) 20,380-19,900BC (95.4%)
58	木炭 SB-2	VII層	IAAA-72130	AAA	18,565 \pm 80		
59	木炭 SB-2	VII層	IAAA-72131	AAA	18,500 \pm 72		
60	木炭 SB-2	VII層	IAAA-72132	AAA	18,347 \pm 71		

3. 炭化材樹種同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

千歳市キウス5遺跡は、キウス川右岸の丘陵裾部に立地する。今回の発掘調査により、後期旧石器時代の石器集中、縄文時代中期後半の竪穴住居跡、土坑、焼土、縄文時代晩期の土器集中、擦文文化期の竪穴住居跡、土坑、粘土集中などが検出されている。

今回の分析調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡および土坑、擦文文化期前期の竪穴住居跡から出土した炭化材を対象として、木材利用を明らかにするために樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、縄文時代中期の竪穴住居跡および土坑から出土した炭化材39点と、擦文文化期前期の竪穴住居跡から出土した炭化材95点の合計134点である。

2. 分析方法

湿っている試料については、自然乾燥させる。木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）およびWheeler他（1998）を参考にする。また、木材組織の配列については、林（1991）および伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）も参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹6分類群（ハンノキ属ハンノキ亜属・カバノキ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・キハダ・ニシキギ属・トネリコ属）に同定された。なお、道管が認められることから広葉樹であるが、組織の保存状態が悪く種類の同定に至らない試料が4点（試料番号89・109・118・123）、樹皮のみで同定可能な炭化材が認められなかった試料が1点（試料番号2）、組織を持たない炭化物が固結したもので、由来等が不明の試料が2点（試料番号131・132）あった。同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のもの集合放射組織とがある。

・カバノキ属 (*Betula*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～3個が主として放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高であり目立たない。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圍部は1～2列、孔圍外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のもの複合

放射組織とがある。

・キハダ (*Phellodendron amurense Ruprecht*) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は3～5列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

・ニシキギ属 (*Euonymus*) ニシキギ科

散孔材で、道管は小径、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

4. 考察

(1) 縄文時代中期

炭化材は、6軒の竪穴住居跡から出土した38点と、土坑から出土した1点がある。遺構別の種類構成を表2に示す。

竪穴住居跡の炭化材には、3種類の木材(コナラ節・キハダ・トネリコ属)が認められた。コナラ節とトネリコ属は、比較的硬で強度が高い材質を有する。一方、キハダは、強度は低いが耐朽性が高い材質を有する。竪穴住居の構築部材には、強度の高い木材を中心に利用されていたことが推定される。土坑の炭化材は、比較的強度が高い材質を有するハンノキ亜属であった。コナラ節には、本地域の落葉広葉樹林を構成するミズナラが含まれ、キハダもミズナラ等と共に生育する。一方、トネリコ属とハンノキ亜属には、湿地林を構成する種類が含まれる。この結果から、本遺跡周辺にはミズナラ(コナラ節)やキハダの生育する落葉広葉樹林が見られ、低地にはヤチダモ(トネリコ属)やハンノキ(ハンノキ亜属)からなる湿地林が見られたと考えられ、このような森林から構築部材を得ていたことが推定される。

竪穴住居跡の同定結果を住居別にみると、LH-2ではトネリコ属が多いが、同じ点数について同定を実施したLH-22は全点がコナラ節でトネリコ属は認められない。また、同定点数が最も多いLH-21では、コナラ節とトネリコ属が混在する結果となっている。同定点数の少ない住居跡では、LH-4で3点全てがコナラ節に同定され、LH-22の結果に似ている。一方、同じく3点の同定を実施したLH-14ではコナラ節、キハダ、トネリコ属が各1点であり、利用樹種が多様な傾向がみられる。

各住居跡の炭化材出土状況を見ると、炭化材の遺存状況や出土数等は大きく異なるが、壁際付近から出土している資料が多い。この状況から、出土している部位などに大きな違いは無いと考えられ、種類構成の違いは、各住居における木材利用の違いを示している可能性がある。

なお、本遺跡周辺では、キウス4遺跡でコナラ亜属を中心にトネリコ属、カバノキ属、ハンノキ亜属等の強度の高い木材が利用されている(三野,1997)。コナラ亜属にはクスギ節とコナラ節とがあるが、北海道にはクスギ節が分布していないことから、コナラ亜属はコナラ節と考えられ、本遺跡と同様の木材利用が推定される。一方、中島松5遺跡、西島松5遺跡、西島松9遺跡(恵庭市)では、オ

ニグルミやトネリコ属等の低地に生育する種類が多い一方で、コナラ節の利用は少なく、本遺跡や周辺遺跡とは木材利用が異なる（三野, 1990 a, 2006; バリノ・サーヴェイ株式会社, 2002）。こうした違いは、それぞれの遺跡の立地環境による植生の違い等を反映している可能性がある。

(2) 撥文文化期前期

炭化材は、全て竪穴住居跡から出土したものである。全体ではコナラ節が多く見られ、他にハンノキ亜属、カバノキ属、ニシキギ属、トネリコ属が利用される。カバノキ属やニシキギ属も強度が高い材質の木材であり、住居の構築部材としてコナラ節を中心に強度の高い木材を選択していたことが推定される。

カバノキ属やニシキギ属には、現在の本地域でもコナラ節（ミズナラ）と共に生育する種類が含まれている。本遺跡周辺では、縄文時代に引き続きコナラ節（ミズナラ）を主体とする落葉広葉樹林が見られ、低地にはヤチダモとハンノキの湿地林も存在していたことが推定される。

同定結果を住居跡別にみると、同定点数の多いUH-1・4ではいずれもコナラ節を主体とする結果となった。一方、この2軒に次いで同定点数の多いUH-5では、11点の炭化材がトネリコ属4点、コナラ節3点、カバノキ属2点、ハンノキ亜属1点、不明広葉樹1点に同定され、他の住居跡とは異なり種類構成が多様である傾向がみられる。各住居跡における出土状況を見ると、UH-1では壁に対して直交する方向の部材と平行になる部材とがあるが、利用樹種に大きな違いは見られない。一方、UH-4では壁に対して直交する方向の部材が多く、壁に対して平行になる部材はほとんどない。樹種が多様なUH-5では、壁際付近から出土している小片の試料が多く、部材の形状などは不明である。出土状況の違いが樹種構成の違いに影響している可能性があるが、詳細は不明である。

本地域では、中島松5遺跡や柏木川11遺跡（恵庭市）で、共にトネリコ属を主とする結果が報告されている（三野, 1990 a, 1990 b）。トネリコ属と共に利用されている樹種もオニグルミ、ハンノキ亜属など低地に分布する樹木が多く、コナラ節の利用は少ない。本遺跡とは木材利用が異なるが、これは遺跡の立地による周辺植生の違い等を反映していると考えられる。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
- 三野 紀雄, 1990 a, 恵庭市中島松5遺跡出土の炭化木片について。
『北海道恵庭市中島松5遺跡B地点・中島松7遺跡C地点発掘調査報告書』, 恵庭市教育委員会, 38-40。
- 三野 紀雄, 1990 b, 恵庭市柏木川11遺跡出土の炭化木片について。
『北海道恵庭市柏木川11遺跡発掘調査報告書』, 恵庭市教育委員会, 116-121。
- 三野 紀雄, 1997, 竪穴住居跡ⅡH-1, 2出土の炭化木材, 竪穴住居跡ⅢH-1出土の木製品の分析。
『キウス4遺跡における考古学的調査』, 千歳市文化財調査報告書XXⅢ, 千歳市教育委員会, 22-23。
- 三野 紀雄, 2006, 西島松5遺跡の竪穴住居の建築材
『恵庭市西島松5遺跡(4)』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第224集, 北海道埋蔵文化財センター, 147-150。

パリン・サーヴェイ株式会社, 2002, 西島松 9 遺跡から出土した木材の年代と樹種.

「恵庭市西島松 9 遺跡」, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第179集, 北海道埋蔵文化財センター, 69-74.
Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(編), 2006, 針葉樹材の識別

I A W Aによる光学顕微鏡的特徴リスト.

伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p.

[Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004)

I A W A List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p. Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998,
広葉樹材の識別

I A W Aによる光学顕微鏡的特徴リスト.

伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p.

[Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989)

I A W A List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

表1 キウス5遺跡の樹種同定結果(1)

番号	遺構名	取り上げ№	採取位置	時期	樹種
1	UH-1	1	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
2	UH-1	2	床面直上	縄文文化期前期	樹皮
3	UH-1	3	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
4	UH-1	4	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
5	UH-1	5	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
6	UH-1	6	覆土	縄文文化期前期	ニシキギ属
7	UH-1	7	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
8	UH-1	8	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
9	UH-1	9	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
10	UH-1	10	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
11	UH-1	11	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
12	UH-1	12	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
13	UH-1	13	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	UH-1	14	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
15	UH-1	15	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
16	UH-1	16	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
17	UH-1	17	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
18	UH-1	18	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
19	UH-1	19	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
20	UH-1	20	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
21	UH-1	21	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
22	UH-1	22	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
23	UH-1	23	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
24	UH-1	24	床面直上	縄文文化期前期	ハンノキ属ハンノキ亜属
25	UH-1	25	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
26	UH-1	26	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
27	UH-1	27	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
28	UH-1	28	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
29	UH-1	29	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
30	UH-1	30	床面直上	縄文文化期前期	カバノキ属
31	UH-1	31	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
32	UH-1	32	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
33	UH-1	33	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
34	UH-1	34	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
35	UH-1	35	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
36	UH-1	36	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
37	UH-1	37	床面直上	縄文文化期前期	カバノキ属
38	UH-1	38	床面直上	縄文文化期前期	カバノキ属
39	UH-1	39	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
40	UH-1	40	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
41	UH-1	41	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
42	UH-1	42	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
43	UH-1	43	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
44	UH-1	44	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
45	UH-1	45	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
46	UH-1	46	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
47	UH-1	47	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
48	UH-1	48	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
49	UH-1	49	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
50	UH-1	50	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節

表1 キウス5遺跡の樹種同定結果(2)

番号	遺構名	取り上げNo.	採取位置	時期	樹種
51	UH-2	CA-1	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
52	UH-2	CA-2	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
53	UH-2	CA-3	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
54	UH-3	CA-1	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
55	UH-4	1	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
56	UH-4	2	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
57	UH-4	3	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
58	UH-4	4	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
59	UH-4	5	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
60	UH-4	6	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
61	UH-4	7	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
62	UH-4	8	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
63	UH-4	9	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
64	UH-4	10	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
65	UH-4	11	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
66	UH-4	12	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
67	UH-4	13	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
68	UH-4	14	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
69	UH-4	15	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
70	UH-4	16	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
71	UH-4	17	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
72	UH-4	18	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
73	UH-4	19	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
74	UH-4	20	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
75	UH-4	21	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
76	UH-4	22	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
77	UH-4	23	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
78	UH-4	24	カマド上面	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
79	UH-4	25	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
80	UH-4	26	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
81	UH-4	27	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
82	UH-5	1	覆土	縄文文化期前期	トネリコ属
83	UH-5	2	覆土	縄文文化期前期	トネリコ属
84	UH-5	3	覆土	縄文文化期前期	トネリコ属
85	UH-5	4	覆土	縄文文化期前期	ハンノキ属ハンノキ亜属
86	UH-5	5	覆土	縄文文化期前期	カバノキ属
87	UH-5	6	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
88	UH-5	7	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
89	UH-5	8	覆土	縄文文化期前期	広葉樹
90	UH-5	9	覆土	縄文文化期前期	トネリコ属
91	UH-5	10	覆土	縄文文化期前期	カバノキ属
92	UH-5	11	覆土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
93	UH-7	1	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
94	UH-7	2	床面直上	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
95	UH-7	3	カマド粘土	縄文文化期前期	コナラ属コナラ亜属コナラ節

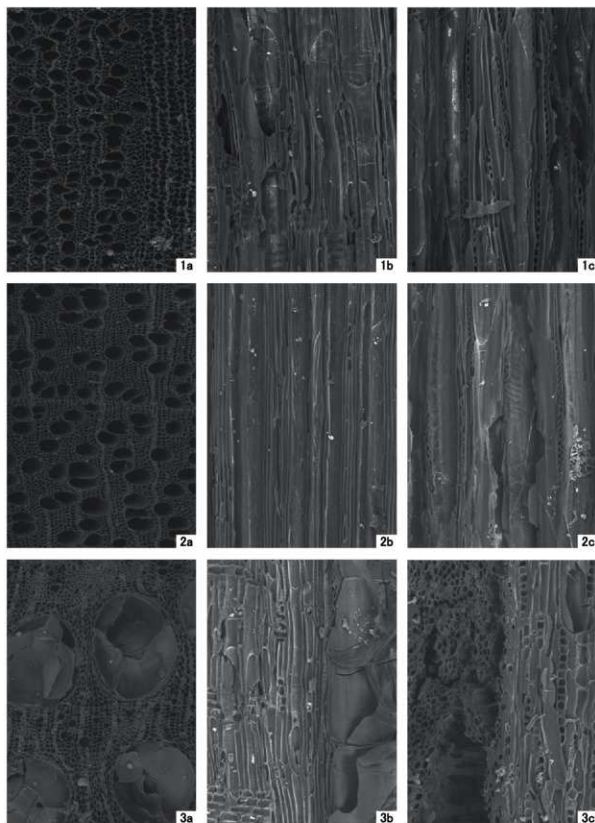
表1 キウス5遺跡の樹種同定結果(3)

番号	遺構名	取り上げNo.	採取位置	時期	樹種
96	LH-2	CA-5	床面	縄文時代中期	トネリコ属
97	LH-2	CA-15	床面	縄文時代中期	トネリコ属
98	LH-2	CA-18	床面	縄文時代中期	トネリコ属
99	LH-2	CA-19	床面	縄文時代中期	トネリコ属
100	LH-2	CA-20	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
101	LH-2	CA-21	床面	縄文時代中期	トネリコ属
102	LH-4	CA-1	覆土	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
103	LH-4	CA-13	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
104	LH-4	CA-23	床面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
105	LH-14	CA-1	覆土	縄文時代中期	キハダ
106	LH-14	CA-5	覆土	縄文時代中期	トネリコ属
107	LH-14	CA-8	覆土	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
108	LH-21	1	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
109	LH-21	2	床面直上	縄文時代中期	広葉樹
110	LH-21	3	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
111	LH-21	4	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
112	LH-21	5	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
113	LH-21	6	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
114	LH-21	7	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
115	LH-21	8	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
116	LH-21	9	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
117	LH-21	10	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
118	LH-21	11	床面直上	縄文時代中期	広葉樹
119	LH-21	12	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
120	LH-21	13	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
121	LH-21	14	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
122	LH-21	15	床面直上	縄文時代中期	トネリコ属
123	LH-21	16	床面直上	縄文時代中期	広葉樹(散孔材)
124	LH-21	17	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
125	LH-22	1	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
126	LH-22	2	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
127	LH-22	3	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
128	LH-22	4	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
129	LH-22	5	HF-1上面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
130	LH-22	6	HF-1上面	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
131	LH-25A	1	床面直上	縄文時代中期	不明
132	LH-25A	2	床面直上	縄文時代中期	不明
133	LH-25A	3	床面直上	縄文時代中期	コナラ属コナラ亜属コナラ節
134	LP-16	51	覆土	縄文時代中期	ハンノキ属ハンノキ亜属

表 2 遺構別種類構成

分類群\遺構	縄文時代中期											縄文文化前期							合計
	縄文時代中期											縄文文化前期							
	壱穴住居跡											壱穴住居跡							
	LH-2	LH-4	LH-14	LH-21	LH-22	LH-25A	土坑	LP-16	UH-1	UH-2	UH-3	UH-4	UH-5	UH-7					
ハンノキ亜属							1		1						3				
カバノキ属									3				2		5				
コナラ節	1	3	1	8	6	1			44	3	1	27	3	3	101				
キハダ			1												1				
ニシキギ属									1						1				
トネリコ属	5		1	6									4		16				
広葉樹				3									1		4				
樹皮									1						1				
不明						2									2				
合計	6	3	3	17	6	3	1		50	3	1	27	11	3	134				

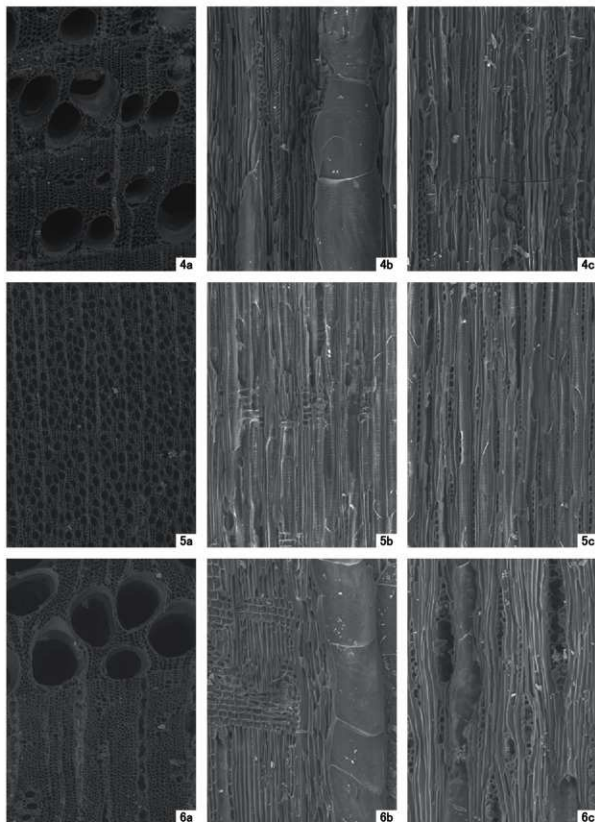
図版1 キウス5遺跡の炭化材(1)



1. ハンノキ属/ハンノキ亜属(試料番号134)
 2. カバノキ属(試料番号30)
 3. コナラ属/コナラ亜属/コナラ節(試料番号11)
- a: 木口, b: 柱目, c: 板目

200 μ m
200 μ m b,c

図版2 キウス5 遺跡の炭化材 (2)



4. キハダ(試料番号105)
 5. ニシキ属(試料番号6)
 6. トネリコ属(試料番号82)
 a: 木口, b: 柱目, c: 板目

200 μ m:a
 200 μ m:b,c

写 真 图 版



平成18年度 III層上面調査状況（北東から）



平成18年度 弥文文化期竪穴住居跡調査状況（北東から）

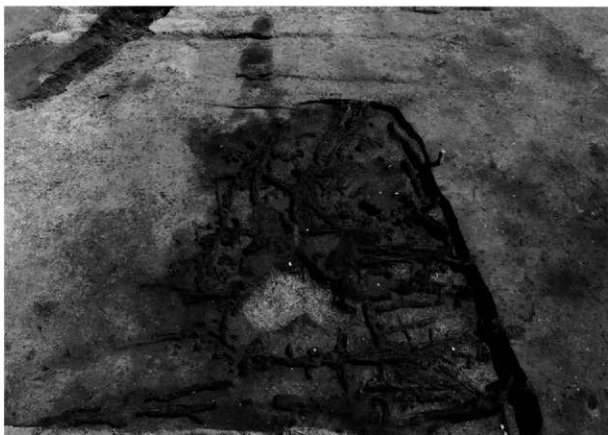
図版 2



平成19年度 III層上面検出状況（東から）



平成21年度 西側III層調査状況（西から）



UH-1 炭化材確認状況1 (北から)



UH-1 炭化材確認状況2 (南から)



UH-1 カマド確認状況 (北から)

図版 4



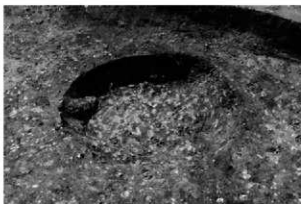
UH-1 カマド焼土 土層断面（北西から）



UH-1 HP-1 土層断面（南から）



UH-1 HP-2 土層断面（東から）



UH-1 HP-1 完掘状況（北東から）



UH-1 完掘状況（北から）



UH-2・3 掘り上げ土確認状況（北東から）



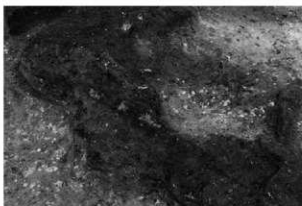
UH-2 炭化材確認状況（南東から）



UH-2 土層断面 (南東から)



UH-2 カマド確認状況 (南東から)



UH-2 炭化材確認状況 (南から)



UH-2 カマド土層断面 (北東から)



UH-2 HP-2 土層断面 (南から)



UH-2 SP-5・6 土層断面 (北東から)



UH-3 土層断面 (北から)



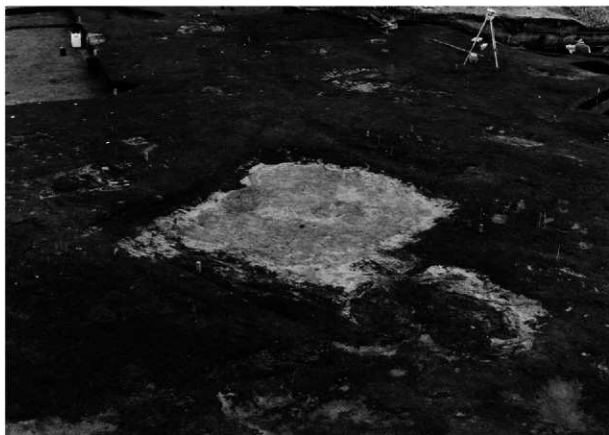
UH-3 土器出土状況 (南西から)



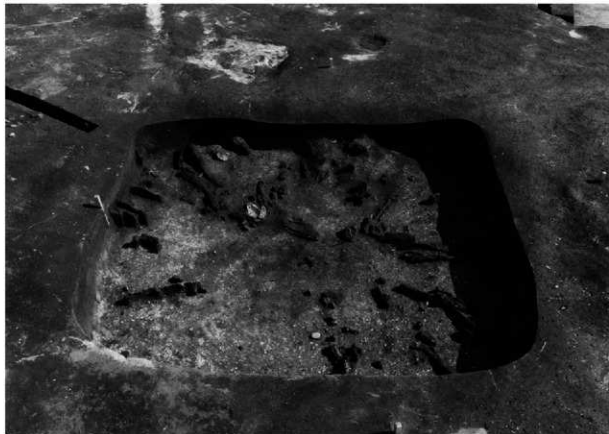
UH-3 完掘状況 (北東から)



UH-3 HF-1 土層断面 (北東から)



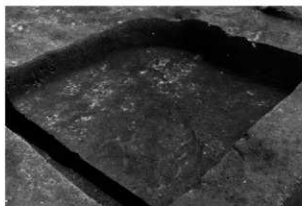
UH-4 確認状況（北東から）



UH-4 炭化材確認状況（北西から）



UH-4 土層断面 (南西から)



UH-4 B-Tm 確認状況 (西から)



UH-4 把手付土器出土状況 (北東から)



UH-4 遺物出土状況 (北西から)



UH-4 カマド土層断面（北西から）



UH-4 カマド煙道部完掘状況（西から）



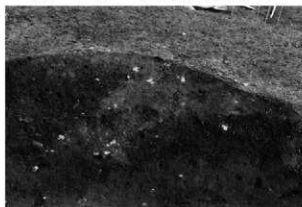
UH-4 カマド球胴壺出土状況（北西から）



UH-4 HP-1 土層断面（西から）



UH-4 HP-2 完掘状況（東から）



UH-4 HP-4 土層断面（西から）



UH-4 PS-1 確認状況（北から）



UH-5 確認状況（北から）



UH-5 土層断面（南から）



UH-5 炭化材確認状況（北西から）



UH-5 HF-1 土層断面（南西から）



UH-5 遺物出土状況1 (北から)



UH-5 遺物出土状況2 (北から)



UH-5 遺物出土状況3 (東から)



UH-7 遺物出土状況（南西から）



UH-7 土層断面（東から）



UH-7 カマド土層断面1（西から）



UH-7 カマド土層断面2（北西から）



UH-7 カマド遺物出土状況（西から）



UH-7 北側部分掘り上げ土層断面（南西から）



UH-7 HP-1 土層断面（西から）



UH-7 完掘状況（西から）



UH-8 確認状況（西から）



UH-8 土層断面（東から）



UH-8 覆土甌出土状況（北から）



UH-8 HF-1・2 土層断面（南から）



UH-8 床面遺物出土状況（東から）



UH-8 甕・紡錘車出土状況（南西から）



UH-8 針出土状況（南東から）



UH-8 高坏出土状況（南東から）



UH-8 炭化材確認状況（東から）



UH-8 HP-1 土層断面（東から）



UH-8 掘り上げ土確認状況（北から）



UH-8 南西側部分掘り上げ土土層断面（南東から）



UH-9 掘り上げ土確認状況（南西から）



UH-9 土層断面（北東から）



UH-9 HF-1 確認状況（北から）



UH-9 掘り上げ土下位 粘土確認状況（北から）



UH-9 炭化材確認状況（北西から）



UH-9 裏出土状況（南から）



UH-9 粘土集中土層断面（北東から）



UH-9 HP-2 土層断面（南西から）



UH-10 掘り上げ土確認状況（南東から）



UH-10 土層断面1（北から）



UH-10 土層断面2（北東から）



UH-10 遺物出土状況（東から）



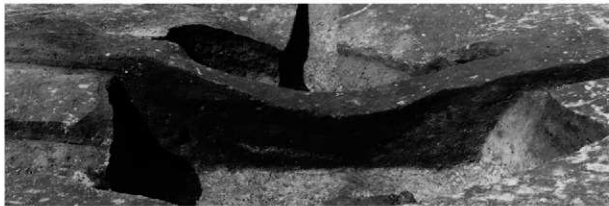
UH-11 掘り上げ土確認状況（北から）



UH-11 完掘状況（北から）



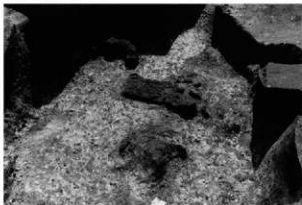
UH-11 調査状況（北から）



UH-11 土層断面（東から）



UH-11 HF-1 土層断面（東から）



UH-11 炭化材確認状況（東から）



UP-16 確認状況（北から）



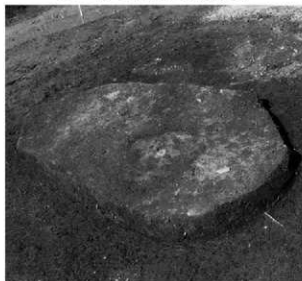
UP-16 完掘状況（北から）



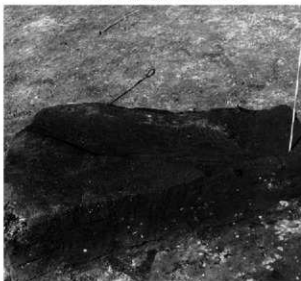
UP-18 土層断面（南西から）



UP-18 完掘状況（北西から）



UF-1 確認状況（南東から）



UF-2 土層断面（南東から）



UF-4 土層断面 (南西から)



UF-5 確認状況 (西から)



UF-6 確認状況 (北西から)



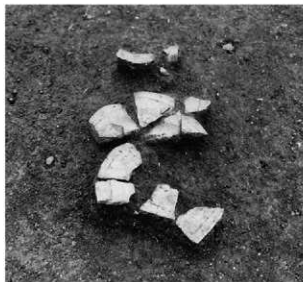
UPS-1 確認状況 (北東から)



UPS-2 確認状況 (南西から)



UPS-3 確認状況 (東から)



UPS-4 確認状況（南西から）



UPS-5 確認状況（南から）



UPS-6 確認状況（北から）



UPS-7 確認状況（東から）



LPS-1 確認状況（南から）



LPS-2 確認状況（南から）



LPS-3 確認状況（南西から）



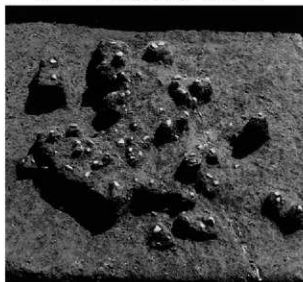
LPS-5 確認状況（北から）



LPS-4 上部確認状況（北東から）



LPS-4 下部確認状況（北東から）



US-1 確認状況（北から）



UN-1 確認状況（西から）



炭窯跡3完掘状況（東から）



鉄製品出土状況（東から）



紡錘車出土状況（南東から）



耳栓出土状況（東から）



UH-2 出土VII群復原土器 (图IV-59-1)



UH-3 出土VII群復原土器 (图IV-59-2)



UH-3 出土VII群復原土器 (图IV-59-3)



UH-3 出土VII群復原土器 (图IV-59-5)



UH-3 出土VII群復原土器 (图IV-59-4)



UH-3 出土VII群復原土器 (图IV-59-6)



UH-4 出土VII群復原土器 (図IV-60-7)



UH-4 出土VII群復原土器 (図IV-60-9)



UH-4 出土VII群復原土器 (図IV-60-8 口縁部・胴部~底部)



UH-4 出土VII群復原土器 (図IV-60-10)



UH-4 出土VII群復原土器 (図IV-60-11)



UH-4 出土VII群復原土器 (图IV-60-12)



UH-4 出土VII群復原土器 (图IV-60-13)



UH-4 出土VII群復原土器 (图IV-60-15)



UH-4 出土VII群復原土器 (图IV-60-14)



UH-5 出土VII群復原土器 (图IV-61-16)



UH-5 出土VII群復原土器 (图IV-61-18)



UH-5 出土VII群復原土器 (图IV-61-19)



UH-5 出土VII群復原土器 (圖IV-61-17)



UH-5 出土VII群復原土器 (圖IV-61-20)



UH-7 出土VII群復原土器 (圖IV-61-21)



UH-7 出土VII群復原土器 (圖IV-61-22)



UH-7 出土VII群復原土器 (圖IV-61-23)



UH-7 出土VII群復原土器 (圖IV-61-24)



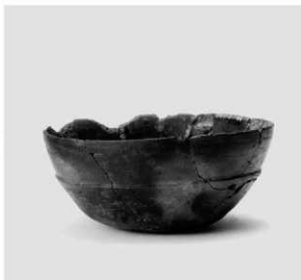
UH-7 出土VII群復原土器 (圖IV-61-25)



UH-8 出土VII群復原土器 (图IV-62-26)



UH-8 出土VII群復原土器 (图IV-62-28)



UH-8 出土VII群復原土器 (图IV-62-29)



UH-8 出土VII群復原土器 (图IV-62-27)



UH-8 出土VII群復原土器 (图IV-62-30)



UH-8 出土VII群復原土器 (圖IV-62-31)



UH-8 出土VII群復原土器 (圖IV-62-33)



UP-16 出土VII群復原土器 (圖IV-63-34)



UH-8 出土VII群復原土器 (圖IV-62-32)



UP-16 出土VII群復原土器 (圖IV-63-36)



UP-16出土VII群復原土器 (图IV-63-35)



UH-4・UP-16出土VII群復原土器 (图IV-63-37)



UH-4・UP-16出土VII群復原土器 (图IV-63-38)



UPS-1出土VII群復原土器 (图IV-64-40)



UPS-1出土VII群復原土器 (图IV-64-39)



U P S - 2 出土VII群復原土器 (圖IV-64-41)



U P S - 6 出土VII群復原土器 (圖IV-65-44)



U P S - 6 出土VII群復原土器 (圖IV-65-45)



U P S - 6 出土VII群復原土器 (圖IV-65-46)



U P S - 4 出土VII群復原土器 (圖IV-64-42)



U P S - 5 出土VII群復原土器 (圖IV-65-43)



U P S - 7 出土VII群復原土器 (圖IV-65-48)



U P S - 6 出土VII群復原土器 (圖IV-65-47)



U P S - 7 出土VII群復原土器 (圖IV-64-49)



UN-1 出土VII群復原土器 (圖IV-66-50)



UN-1 出土VII群復原土器 (圖IV-66-52)



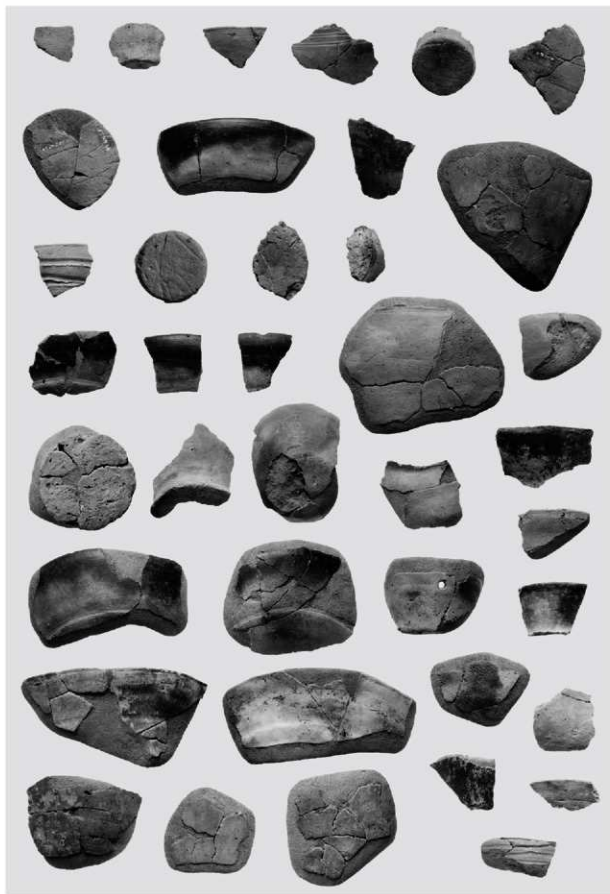
UN-1 出土VII群復原土器 (圖IV-66-53)



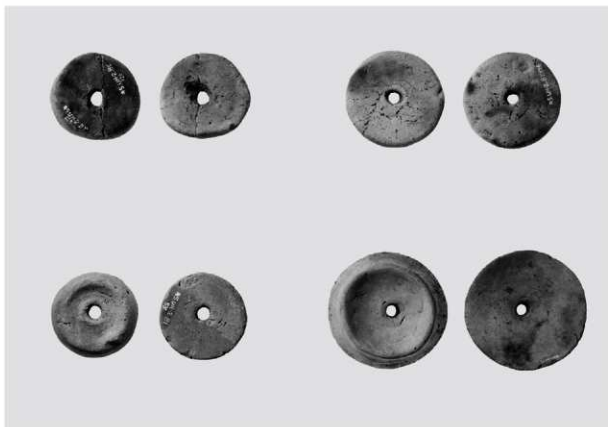
UN-1 出土VII群復原土器 (圖IV-66-51)



UN-1 出土VII群復原土器 (圖IV-66-54)



遺構出土VII群破片土器 (図IV-67-1~69-39)



遺構出土VII群土製品 (図IV-67-40~43)



U P S - 3 出土 V 群復原土器 (图 IV - 70 - 1)



U P S - 3 出土 V 群復原土器 (图 IV - 70 - 2)



L P S - 2 出土 V 群復原土器 (图 IV - 70 - 4)



L P S - 1 出土 V 群復原土器 (图 IV - 70 - 3)



L P S - 2 出土 V 群復原土器 (图 IV - 71 - 5)



L P S - 3 出土V群復原土器 (图IV-71-6)



L P S - 3 出土V群復原土器 (图IV-71-7)



L P S - 3 出土V群復原土器 (图IV-71-8)



L P S - 3 出土V群復原土器 (图IV-72-9)



L P S - 3 出土V群復原土器 (图IV-72-10)



L P S - 3 出土V群復原土器 (圖IV-72-11)



L P S - 4 出土V群復原土器 (圖IV-74-14)



L P S - 3 出土V群復原土器 (圖IV-73-12)



L P S - 5 出土V群復原土器 (圖IV-75-15)



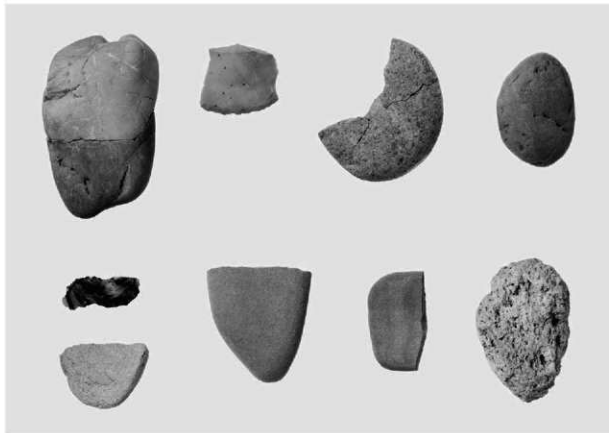
L F - 15 出土V群復原土器 (圖IV-75-17)



LPS-4 出土V群復原土器 (図IV-74-13)



LPS-5 出土V群復原土器 (図IV-74-16)



UH出土の石器 (図IV-76-1~9)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-1)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-2)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-3)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-4)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-5)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-43-6)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-44-7)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-44-8)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-44-9)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-44-10)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-44-11)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-44-12)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-44-13)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-14)



包含層出土VII群復原土器 (圖V-44-15)



包含層出土VII群復原土器 (圖V-45-16)



包含層出土VII群復原土器 (圖V-45-18)



包含層出土VII群復原土器 (圖V-45-17)



包含層出土VII群復原土器 (圖V-45-19)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-20)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-21)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-22)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-23)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-24)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (図V-45-25)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-26)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-27)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-28)



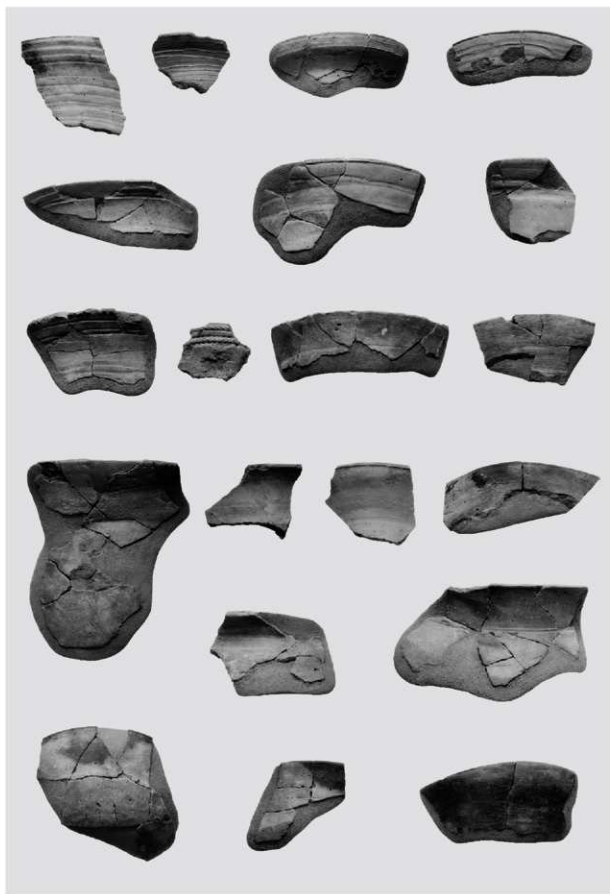
包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-29)



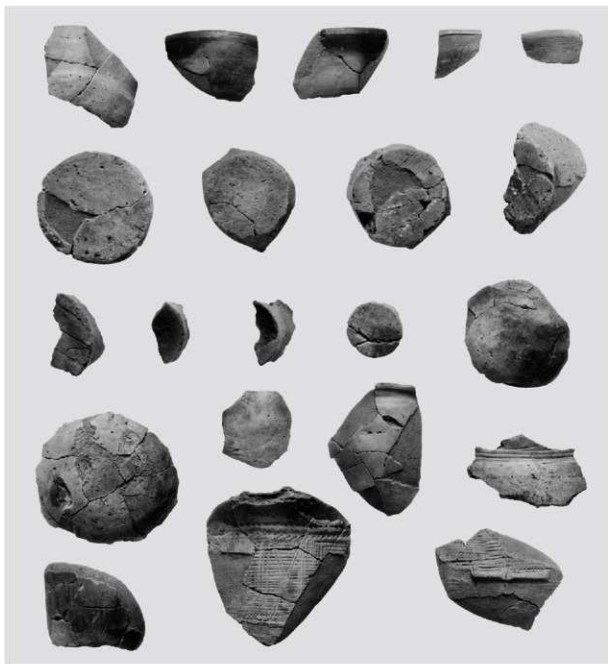
包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-30)



包含層出土Ⅶ群復原土器 (圖V-45-31)



包含層出土VII群破片土器 (圖V-46-1~47-20)



包含層出土VII群破片土器 (图V-47-21~49-41)



包含層出土VII群土製品 (图V-49-42・43)



包含層出土VI群復原土器 (図V-50-1)



包含層出土V群復原土器 (図V-50-2)



包含層出土V群復原土器 (図V-50-3)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-8)



包含層出土V群復原土器 (圖V-50-4)



包含層出土V群復原土器 (圖V-50-5)



包含層出土V群復原土器 (圖V-50-6)



包含層出土V群復原土器 (圖V-50-7)



包含層出土V群復原土器 (圖V-51-9)



包含層出土V群復原土器 (圖V-51-10)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-11)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-12)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-13)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-14)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-15)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-16)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-17)



包含層出土V群復原土器 (図V-51-18)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-19)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-20)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-21)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-22)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-23)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-24)



包含層出土V群復原土器 (図V-52-25)



包含層出土V群復原土器 (図V-53-26)



包含層出土V群復原土器 (図V-53-27)



包含層出土V群復原土器 (図V-54-28)



包含層出土V群復原土器 (圖V-54-29)



包含層出土V群復原土器 (圖V-54-30)



包含層出土V群復原土器 (圖V-55-31)



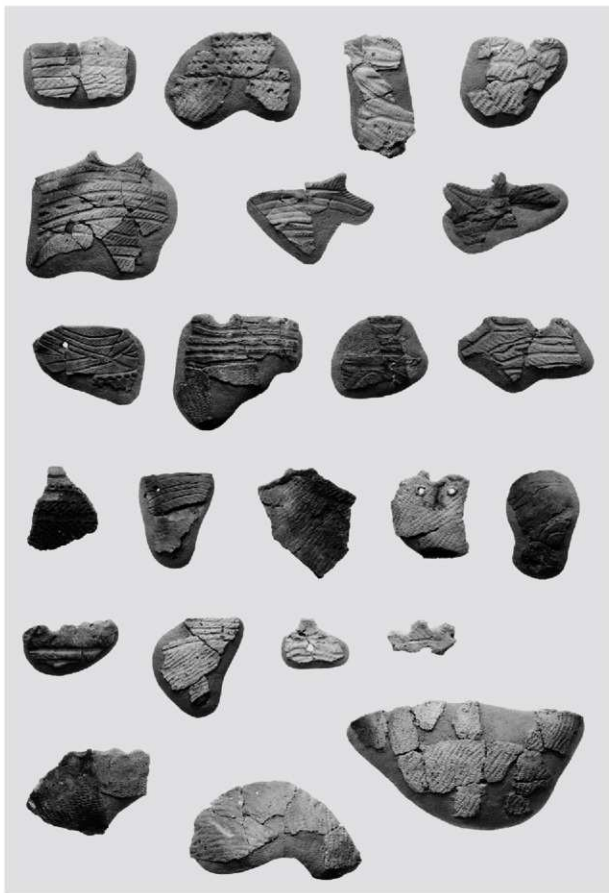
包含層出土V群復原土器 (圖V-56-32)



包含層出土V群土製品 (圖V-56-33~35)



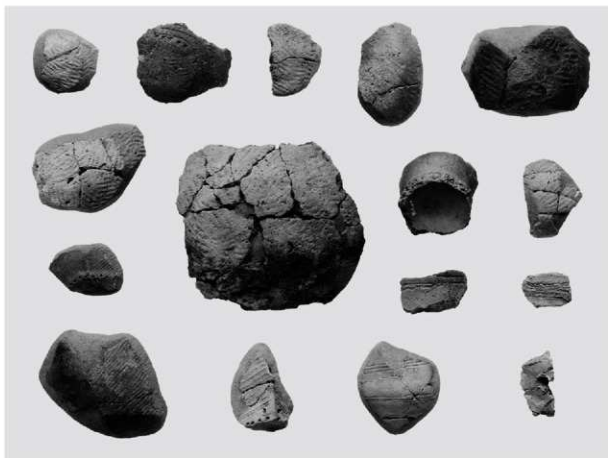
包含層出土V群破片土器 (圖V-57-1~58-12)



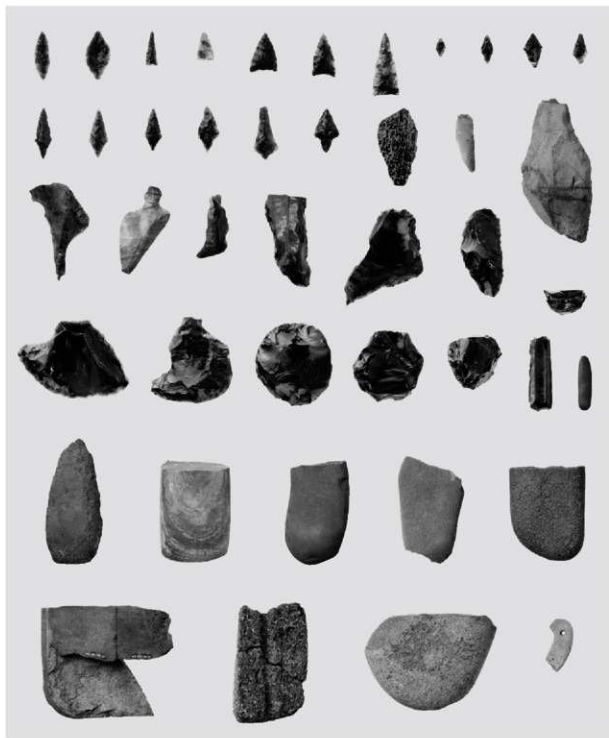
包含層出土V群破片土器 (圖V-58-13~60-35)



包含層出土V群破片土器 (圖V-60-63~73-61)



包含層出土V群破片土器 (圖V-64-62~77)



包含層出土の石器 (図V-65-1~66-42)



UH-7・包含層出土鉄製品 (図V-67-1~5)

引用参考文献

*はⅡ章4節キウス遺跡群に関する文献

論文・書籍等

- 阿部明義 2000 「3. キウス4遺跡における縄文時代後期後半の土器」『千歳市 キウス4遺跡(10)』北理調報187
- *石川 徹 1969 「北海道千歳市キウス環状土籾外縁部墳墓について」『北海道考古学』第5輯
- 大久保雅弘・藤田至則 1984 『地学ハンドブック・新改訂版』築地書館
- *大谷敏三 1975 「北海道縄文晩期における墓制について(1)」『先史』9
- *大谷敏三 1978 「環状土籾」について『考古学ジャーナル』156
- *大谷敏三 2010 『北の縄文人の祭儀場 キウス周堤墓群』シリーズ「遺跡を学ぶ」074 新泉社
- 菅野三郎・奥村 清 1978 『地学の調べ方』地学のガイドシリーズ1 コロナ社
- 木下竜城・小川留太郎 1967 『標準原色図鑑全集6 岩石鉱物』保育社
- *木村尚俊 1984 「周堤墓」『北海道の研究1 考古篇1』清文堂
- *河野常吉 1918 「キウスの遺跡」『北海道史附録地図』北海道庁
- *河野常吉 1924 「キウスのチャシ」『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』北海道庁(1974復刻)
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 曾屋龍典・佐藤博之 1980 『千歳地域の地質』地質調査所
- 永田方正 1891 『北海道蝦夷地語地名解』(1984復刻) 草風館
- 長見義三 1976 『千歳地名散歩』北海道新聞社
- 広田良成 2008 「②縄文土器について」『千歳市 キウス9遺跡』北理調報252
- *藤原秀樹 2000 「1. キウス周堤墓群周辺の研究史と周堤墓の数」『千歳市 キウス4遺跡(5)』北理調報144
- 古堅千絵ほか 2006 「樽前火山における9000年間のマグマ系の変化」『月間地球』28-6
- 町田 洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会
- 松浦武四郎 1857 『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』(高倉新一郎校訂 秋葉実解説 1982 北海道出版企画センター)
- 松浦武四郎 『東西蝦夷山川取調図』(1985『アイヌ地名資料集』別冊 草風館)
- *三浦正人 2008 「2. アイヌ文化期の畑-コタンからのアプローチ」『千歳市 キウス5遺跡(8)』北理調報251
- 宮本 毅ほか 2002 「白頭山10世紀噴火の噴火推移」『月間地球号外』No.39 活動的火山

団体組織刊行物

- 泉郷郷土史編纂委員会 1992 『郷土史ケヌフチ物語』
- *千歳市 1969 『千歳市史』史料源蔵編
- *千歳市 1983 『増補 千歳市史』千歳市史編さん委員会編
- *千歳市 2009 『新千歳市史』千歳市史編さん委員会編
- *千歳市教育委員会 1994 『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図』
- *千歳市教育委員会 2007 (遺跡範囲調整)『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図』(遺跡範囲のみ表示)
- 千歳市農業協同組合 1984 『千歳市農業協同組合史』
- *文化庁 1979 『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』文化庁文化財保護部
- ペドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社
- *北海道教育委員会 1977 『埋蔵文化財包蔵地一覧表(付 指定文化財)(全道編)』

埋蔵文化財発掘調査報告書

- *千歳市教育委員会 1967 『千歳遺跡』大場利夫・石川徹 調査
- *千歳市教育委員会 1979 『千歳市における埋蔵文化財調査(上)』千歳市文化財調査報告書V
- *千歳市教育委員会 1980 『千歳市における埋蔵文化財調査(下)』千歳市文化財調査報告書VI
- *千歳市教育委員会 1997 『キウス4遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XⅢ
- *千歳市教育委員会 1998 『キウス5遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XⅣ

跡北海道埋蔵文化財センター刊行物

- ◎北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』財団法人北海道埋蔵文化財センター15周年記念誌
◎北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』財団法人北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌
◎北海道埋蔵文化財センター 2004 『調査年報告16 平成15年度』
*◎北海道埋蔵文化財センター 2004 『千歳市キウス4 遺跡R地区出土の木製品について』『テマ12号』
◎北海道埋蔵文化財センター 2005 『調査年報告17 平成16年度』
◎北海道埋蔵文化財センター 2007 『調査年報告19 平成18年度』
◎北海道埋蔵文化財センター 2008 『調査年報告20 平成19年度』
◎北海道埋蔵文化財センター 2009 『調査年報告21 平成20年度』
◎北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報告22 平成21年度』

跡北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）

「北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査」関連

- *◎北海道埋蔵文化財センター 1994 『千歳市 オサットー1 遺跡 キウス7 遺跡』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報90
*◎北海道埋蔵文化財センター 1994 『千歳市 キウス4 遺跡』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財事前発掘調査概報
*◎北海道埋蔵文化財センター 1995 『千歳市 キウス5 遺跡 キウス7 遺跡(2) ケネフチ8 遺跡』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報92
*◎北海道埋蔵文化財センター 1996 『千歳市 キウス5 遺跡(2) B地区』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報104
*◎北海道埋蔵文化財センター 1996 『千歳市 キウス7 遺跡(3)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報105
*◎北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5 遺跡(3)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報115
*◎北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5 遺跡(4) B地区・C地区』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報116
*◎北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス7 遺跡(4)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報117
*◎北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス4 遺跡』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財事前発掘調査報告書 北埋調報119
*◎北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス4 遺跡(2)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財事前発掘調査報告書 北埋調報124
*◎北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス5 遺跡(5) A-2地区』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報125
*◎北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス5 遺跡(6) B地区・C地区』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報126
*◎北海道埋蔵文化財センター 1998 『千歳市 キウス7 遺跡(5)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報127
*◎北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市 キウス4 遺跡(3)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報134
*◎北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市 キウス4 遺跡(4) A2地区』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報135
*◎北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市 キウス5 遺跡(7) キウス7 遺跡(6)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報136
*◎北海道埋蔵文化財センター 2000 『千歳市 キウス4 遺跡(5)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報144
*◎北海道埋蔵文化財センター 2000 『千歳市 キウス4 遺跡(6)』
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報148

- * 001北海道埋蔵文化財センター 2001 「千歳市 キウス4 遺跡 (7) Q地区」
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報152
- * 001北海道埋蔵文化財センター 2001 「千歳市 キウス4 遺跡 (8) F・G地区」
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報157
- * 001北海道埋蔵文化財センター 2003 「千歳市 キウス4 遺跡 (9)」
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報180
- * 001北海道埋蔵文化財センター 2003 「千歳市 キウス4 遺跡 (10)」
北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報187

「一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査」関連

- 001北海道埋蔵文化財センター 1999 「千歳市 柏台1 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報138
- 001北海道埋蔵文化財センター 2002 「千歳市 チブニー1 遺跡・チブニー2 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報173
- 001北海道埋蔵文化財センター 2003 「千歳市 オルイカ1 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報188
- 001北海道埋蔵文化財センター 2003 「千歳市 オルイカ2 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報189
- 001北海道埋蔵文化財センター 2004 「千歳市 オルイカ1 遺跡 (2)」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報206
- 001北海道埋蔵文化財センター 2004 「千歳市 チブニー2 遺跡 (2)」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報207
- 001北海道埋蔵文化財センター 2005 「千歳市 オルイカ2 遺跡 (2)」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報221
- 001北海道埋蔵文化財センター 2006 「千歳市 チブニー2 遺跡 (3)」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報225
- 001北海道埋蔵文化財センター 2007 「千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報238
- * 001北海道埋蔵文化財センター 2008 「千歳市 キウス5 遺跡 (8)」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報251
- * 001北海道埋蔵文化財センター 2008 「千歳市 キウス9 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報252
- 001北海道埋蔵文化財センター 2008 「千歳市 梅川4 遺跡 (1)」
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報353
- 001北海道埋蔵文化財センター 2010 「千歳市 オルイカ2 遺跡 (3)」
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報267
- 001北海道埋蔵文化財センター 2010 「千歳市 アンカリトー7 遺跡・アンカリトー9 遺跡」
一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報268

報告書抄録

ふりがな	ちとせし きうす5いせき(9)							
書名	千歳市 キウス5遺跡(9)							
副書名	道央圏連絡道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	道北北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北理調報)							
シリーズ番号	第284集							
編著者名	三浦正人・菊池慈人・愛場和人・末光正卓・広田良成							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 Ⅷ(011)386-3231							
発行年月日	西暦2011年12月15日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
キウス5遺跡	北海道 千歳市 中央 1287-7,-12, -13,-14,1286-6 1286,1287,1319 1287-7,1319-8 1319ほか	01224	A-03 -093	10600 (10-75杭)		20030624～ 20031030	5,000 ㎡	道央圏連絡道路 工事に伴う 事前調査
				42° 52'	141° 43'	20040906～ 20041031	1,056 ㎡	
				45.6°	04.7°	20060508～ 20061031	3,200 ㎡	
				10700 (35-75杭)		20070507～ 20071030	6,100 ㎡	
				42° 52'	141° 43'	20080901～ 20081016	721 ㎡	
				48.8°	05.5°	20090507～ 20090827	3,068 ㎡	
				調査面積 低地部5,480㎡除く13,665㎡				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
キウス5 遺跡	集落跡	縄文文化期	竪穴住居跡	10	擦文土器	2 縄文土器(後北式) 縄文土器(晩期)		
			土坑	2				
	柱穴状ビット	3						
			焼土	6				
			土器集中	6	石鏃 石槍・ナイフ			
			礫集中	1	両面調整石器 石鏃			
			粘土集中	1	つまみ付きナイフ スクレイパー			
	散布地	縄文時代晩期	土器集中	6	磨製石斧 たたき石 すり石 砥石			
				土坑	1	台石・石皿 礫 玉 石製品		
				炭窯	1	鉄製品(刀子他)		
要約	<p>キウス5遺跡は石狩低地帯東部の馬追(まおい)丘陵から西流するキウス川右岸の丘陵下端部とキウス川旧河道の谷底平野に立地する。当報告はこのうちの台地部分のⅢ層出土と、一部Ⅴ層出土の縄文時代晩期の遺構・遺物を対象とするものである。なお、旧河道を含む低地部については平成19(2007)年度に刊行した『キウス5遺跡(8)』で報告を行っている。</p> <p>台地部Ⅲ層では、主に擦文文化期の竪穴住居跡・土坑・焼土などからなる遺構の調査を行った。竪穴住居跡などの遺構は近接して検出される例が多く、当該期の集落跡と考えられる。遺構に伴って擦文土器等の遺物が出土した。</p> <p>他の時期では縄文土器1個体と、縄文時代晩期の遺物も多数出土している。遺物は土器が多く石器は少量である。</p>							

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第284集

千歳市 キウス5遺跡(9)

—道央圏連絡道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23(2011)年12月15日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domaibun.or.jp

印刷 柏楊印刷株式会社

〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号
TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376
[URL] <http://hakuyo-print.jp/>
[E-mail] info@hakuyo-print.jp

